



KOBE CITY HOSPITAL BULLETIN

Vol. 57, 2018

Kobe City Hospital Organization

神戸市立病院紀要

平成30年 第57巻

神戸市立医療センター中央市民病院
神戸市立医療センター西市民病院
神戸市立西神戸医療センター
神戸市立神戸アイセンター病院
神戸医療産業都市推進機構

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

KOBE CITY HOSPITAL BULLETIN

An Annual Review of
Medical Science and Practice

Kobe City Hospital Organization

EDITORIAL BOARD

Yasushi Naito, M.D., Chairman

Mutsushi Kawakita, M.D.

Takayuki Ishikawa, M.D.

Yutaka Furukawa, M.D.

Ichiro Nakamura, M.D.

Hiromi Tomioka, M.D.

Kousaku Matsubara, M.D.

Mitsugu Omasa, M.D.

Noriko Miyamoto, M.D.

Hisako Hashimoto, M.D.

巻頭の辞

ここに平成 30 年の神戸市立病院紀要を刊行いたしました。神戸市民病院はいうまでもなく診療、看護を実践する臨床の場であり、高度で安全な医療を展開することが私どもの大切な使命です。そのためには絶え間なく進歩する医学や医療技術を臨床現場に適切に導入することが求められます。さらに神戸市民病院はその進歩に自ら貢献することも期待されています。したがって、神戸市民病院はアカデミアの場でもなければなりません。

私たち医療者は日々の臨床で得た知見や創意、工夫などを論文や学会、研究会での発表を通して、発信する責務を有しています。若き医療者には現場における研鑽と同時に臨床研究能力を高めていただきたいと思います。このような学術活動は私ども市民病院の真の臨床レベルの向上をもたらすものでしょう。

本紀要はまさにこのような観点から編纂され、すでに半世紀以上の歴史を有しております。

職員の皆様には本誌から市民病院の学術活動の 1 年間の軌跡を読み取られて、明日からの診療、看護の糧にされますことを祈念いたします。

神戸市立医療センター西市民病院

院長 有井 滋 樹

目 次

I. 総 説

- I. 1 網膜の再生医療
……………神戸市立神戸アイセンター病院 院長 栗 本 康 夫…………… 1

II. 症例報告

- II. 1 受診後早期に診断に至った発作性運動誘発性ジスキネジアの1例
……………神戸市立医療センター西市民病院 小児科 江 口 純 治 他 ……7

III. CPC 報告

- III. 1 CPC 報告 (2017 年 4 月～2018 年 3 月) (中央市民病院) ……13
III. 2 CPC 報告 (2017 年 4 月～2018 年 3 月) (西市民病院) ……34
III. 3 CPC 報告 (2017 年 4 月～2018 年 3 月) (西神戸医療センター) ……38

IV. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(1) 笠原ガン治療研究事業

- IV. 1 脾腫が骨髄悪性腫瘍患者に対する同種造血幹細胞移植の予後に与える影響に関する検討
……………中央市民病院 血液内科 下 村 良 充 ……57
- IV. 2 DLBCL 患者における BIOMED-2 法 PCR 反応様式が予後に与える影響
……………中央市民病院 血液内科 藪 下 知 宏 ……58
- IV. 3 高度分葉不全を呈した間質性肺炎合併肺癌症例に対する完全鏡視下左肺下葉切除術
……………中央市民病院 呼吸器内科 坂 之 上 一 朗 他……………60
- IV. 4 Sleeve Lobectomy for Lung Adenocarcinoma Treated with Neoadjuvant Afatinib
……………中央市民病院 呼吸器内科 坂 之 上 一 朗……………60
- IV. 5 婦人科悪性腫瘍，特に早期子宮頸癌と外陰癌に対する腹腔鏡下手術の導入と
その施行症例の検討
……………中央市民病院 産婦人科 吉 岡 信 也……………60
- IV. 6 ひとたび寛解したものの9年後に肺転移巣で死の転帰をたどった甲状腺未分化癌症例
……………中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 林 一 樹……………61
- IV. 7 当院における原発不明癌頸部リンパ節転移症例の検討
……………中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 林 一 樹……………62
- IV. 8 甲状腺乳頭癌に伴う腫瘍随伴関節炎にリウマチ性多発筋痛症を合併した症例
……………中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 山 本 亮 介……………62
- IV. 9 p16 陽性 /p53 陰性中咽頭癌の特徴、予後、化学療法の効果、二次癌発生率について
……………中央市民病院 頭頸部外科 篠 原 尚 吾……………64

IV. 10	頭頸部腺様嚢胞癌の検討	中央市民病院 頭頸部外科 竹林 慎治	65
IV. 11	日本人進行再発乳癌患者におけるエベロリムス薬物動態と副作用の関連	中央市民病院 薬剤部 平 昌 正 樹	65
IV. 12	SPECT/CT 画像による去勢抵抗性前立腺がんにおける骨転移の治療効果判定	中央市民病院 放射線技術部 清 水 敬 二	67

(2) 松本アレルギー疾患研究事業

IV. 13	小児における環境アレルゲン / 経口免疫療法	中央市民病院 小児科 田 中 裕 也	68
IV. 14	ケロイド・肥厚性瘢痕組織における神経局在	中央市民病院 形成外科 池 田 実 香	68
IV. 15	Trauma panscan における造影剤の必要性と有害事象についての検討	中央市民病院 救急科 大久保 祐 希	72
IV. 16	マムシ咬傷 14 例の検討ーアドレナリン予防投与の提案ー	中央市民病院 救急科 桑 原 佑 典	72
IV. 17	急速破壊型股関節症様の関節破壊を呈した生物学的製剤使用中の関節リウマチ症例	中央市民病院 総合内科 志 水 隼 人	72
IV. 18	プラジカンテルによる急性汎発性発疹性膿疱症の検討	中央市民病院 総合内科 進 藤 達 哉	73
IV. 19	喘息および COPD 治療の充実と地域連携 ー薬剤師に対する吸入指導研修と吸入評価表の活用ー	中央市民病院 薬剤部 藤 井 尚 子	74

V. 病院別診療科別論文発表及び学会報告数

VI. 論文発表

VI. 1	中央市民病院	79
VI. 2	西市民病院	104
VI. 3	西神戸医療センター	107
VI. 4	神戸アイセンター病院	112

VII. 学会報告

VII. 1	中央市民病院	115
VII. 2	西市民病院	187
VII. 3	西神戸医療センター	197
VII. 4	神戸アイセンター病院	213

I. 総

説

I. 総説

I. 1 網膜の再生医療

栗本 康夫

神戸市立神戸アイセンター病院

要旨

近年の幹細胞研究の進歩により従来は不可能と見なされていた網膜の再生医療が実現しつつある。網膜再生医療の最初のターゲットは網膜色素上皮 (RPE) であり、これに成功すればより内層の神経網膜再生へと治療開発が進む。加齢黄斑変性 (AMD) は RPE の加齢劣化に起因する疾患であり、RPE を治療できれば根治治療になり得る。我々は AMD の RPE 再生治療を目指して自家 iPS 細胞由来 RPE 移植治療を行った。世界初の iPS 細胞治療となった移植手術は成功、主要評価項目である安全性を達成し、形態と自覚症状において治療効果を認めた。自家 iPS 細胞治療は医学的に成功を収めたが、膨大な時間や費用の問題も露わとなった。我々は実臨床で普及可能な治療を目指し、HLA マッチした他家 iPS 細胞由来 RPE 移植の臨床研究を進行中である。また、RPE の次の網膜再生医療のターゲットである視細胞移植でも動物実験で一定の成果を収めつつある。

キーワード：網膜、再生医療、iPS 細胞、加齢黄斑変性

(神戸市立病院紀要 57 : 1 - 6, 2018)

Regenerative medicine for the retina

Yasuo Kurimoto, MD., PhD.

Kobe City Eye Hospital

Abstract

Recent advances in stem cell research are leading to realization of regenerative medicine for the retina, which was previously considered impossible. The retinal pigment epithelium (RPE) is the primary target of regenerative medicine for the retina, followed by neuronal cells in the inner retina. RPE senescence is a key contributor to age-related macular degeneration (AMD), and the replacement of impaired RPE can be a causal therapy for AMD. We successfully carried out a transplantation of a sheet of RPE differentiated from autologous induced pluripotent stem (iPS) cells in a patient with neovascular AMD. This was the first successful instance of in-human iPS cell-based therapy. The primary purpose of this pilot clinical trial, confirmation of the safety of iPS cell-based therapy, was achieved and morphological and subjective effects of the treatment were observed. Although the autologous iPS cell-based transplantation succeeded medically, it is likely that autologous iPS cell therapy is too costly and time-consuming for wide-spread clinical use. Currently, we are carrying out clinical research into HLA-matched allograft iPS cell-based transplantation, a method that considerably reduces the time and cost necessary for the procedure. In addition, we recently achieved progress in iPS cell-derived photoreceptor transplantation in an animal study.

Key words : retina, regenerative medicine, iPS cell, age-related macular degeneration

(Kobe City Hosp Bull 57 : 1 - 6, 2018)

はじめに

ヒトを含む大型霊長類は五感のうち視覚を高度に発達させており、外界より得る情報の多くを視覚に頼っている。視覚とは可視光の知覚であるが、ヒトが光情報を認識する視覚経路は光が外界から眼内に入射してから網膜に達するまでの光路と網膜から視覚中枢に至る視路に二別される。

眼科領域における再生医療の現状は光路と視路との間で大きな相違がある。光路を構成する角膜と水晶体では他の臓器と較べても再生医療の実用が早くから進んでいる。角膜については、献眼による角膜移植が20世紀前半に海外で開始され、我が国でも1958年に「角膜移植に関する法律」が公布し、その後の法律改定を経て、標準医療として定着して既に久しい。さらに、他家移植に伴う免疫拒絶などのリスクやドナー不足を克服するために自家組織幹細胞や代替細胞による細胞治療も開発され既に臨床実施されている¹⁾。近年ではiPS細胞等の多能性幹細胞を用いた再生医療の研究も進んでおり²⁾、慢性的な角膜ドナーの不足に悩む我が国においては、その実用化が特に期待される。水晶体に関しては、白内障で混濁した水晶体の摘出は紀元前にまで遡り、摘出された水晶体に代わって眼鏡やコンタクトレンズ等による屈折の補正が行われてきた。水晶体を代替する眼内レンズの移植は20世紀の半ばに初めて臨床で実施され³⁾、人工臓器による水晶体再生医療が確立した。その後、術式はめざましい進歩を遂げ、今日、眼内レンズを利用した水晶体再建術はあらゆる外科手術の中でも最も成功している治療と言って過言では無いほどの普及を見ている。

これに対し、視路を構成する網膜および視神経については、成熟した哺乳類の中樞神経は再生することは無いと言う定説に基づき⁴⁾、長年にわたって再生医療は不可能とされてきた。しかしながら、近年、幹細胞研究が長足の進歩を遂げ、神経幹細胞あるいは多能性幹細胞を用いた再生医療が網膜において実現しようとしている。

I 網膜と再生医療

ヒトの体では、皮膚や粘膜、あるいは血球をはじめ多くの組織において、外傷や疾病によって脱落した細胞は再生によって補われる。細胞の再生能力は組織の種類によって大きく異なり、神経細胞であっても末梢神経は条件が良ければ再生することは知られている。しかし、ひとたび成熟した哺乳類の中樞神経系は神経細胞が傷害を受けて脱落・変性しても再生するこ

とはない⁴⁾と長きにわたって信じられており、医療の現場においても、中枢神経は再生しないというのが常識であった。眼科領域でも、中枢神経系に属する網膜疾患の治療は神経細胞の変性をどう防ぐかに尽きていたと言える。しかし、近年の幹細胞研究の進歩により哺乳類成体でも中枢神経組織幹細胞や神経新生があることが明らかとなり、この常識は覆されつつある。さらには多分化能と自己複製能を有する胚性幹(embryonic stem: ES)細胞や人工多能性幹(induced pluripotent stem: iPS)細胞などの多能性幹細胞が樹立され、未分化な幹細胞から網膜細胞を人工的に誘導することも可能となった。眼科領域においても、かつては夢の治療として現実味に乏しかった網膜の再生医療が現実のものになろうとしている。

II 幹細胞を用いた網膜再生医療のストラテジー

幹細胞による再生医療は、大きく分けて、内在性幹細胞の賦活、組織幹細胞もしくは前駆細胞の移植、幹細胞より最終分化させた体細胞の移植の3つのストラテジーが想定されている。ただし、前者二つについては生体内での神経系細胞の分化や脱分化、あるいは増殖制御への理解が不十分で技術も確立していないので現時点での臨床応用は難しい。臨床での実用に最も近いのは、幹細胞から治療に必要な体細胞を分化させて移植するストラテジーである。

幹細胞には、ほぼあらゆる細胞に分化できる多能性幹細胞と、分化する細胞の種類が限定されている組織幹細胞とがある。網膜の組織幹細胞である網膜幹細胞は成熟した哺乳類でも確認されているが、網膜幹細胞は採取も培養増殖も難しく、治療に必要な量の網膜細胞を確保するのは難しい。一方、近年、ES細胞などの多能性幹細胞は比較的簡単に大量培養できるようになり、かつ、網膜細胞に分化させる方法も確立された。臨床応用では、多能性幹細胞から必要な網膜細胞を培養して治療を行うことになる。

III 網膜再生医療のターゲット

網膜は眼球の内側に位置する神経網膜とその外側を裏打ちする網膜色素上皮(retinal pigment epithelium: RPE)に大別される。どちらも神経上皮に由来するがRPEは神経細胞では無く、隣接する視細胞の外節の貪食処理、視物質のリサイクルなどにより視細胞の生理的活動を支えると同時に血流の豊富な脈絡膜と神経網膜の間を隔て、血液・網膜柵を構成している。細胞移植による網膜の再生を考える場合、神経網膜においては移植細胞がホスト網膜の神経ネットワークと

有機的な結合をする事が機能再建には必須である。神経ネットワークがより複雑化する中枢側、すなわち網膜内層にいくほど宿主神経ネットワークとの有機的な結合を得る事が難しく、末梢側の網膜外層の方が容易と考えられる。従って、網膜再生治療は外層から着手されるのが自然な流れである。特に、網膜最外層に位置するRPEはホストの神経回路網に組み込まれる必要が無く、移植されたRPEが宿主組織と生理的に接着してRPE固有の機能を発揮すれば治療の効果が得られる。網膜再生医療のターゲットとしてRPEが最初に選ばれるのは必然であり、疾患の原因がRPEの加齢劣化に根ざす加齢黄斑変性(age-related macular degeneration : AMD)が最初の対象疾患になるのは合理的な選択である。RPEの再生医療が成功すれば、同様の方法論をもってRPEよりも内層の神経網膜の再生へと治療開発が進んでいくであろう。

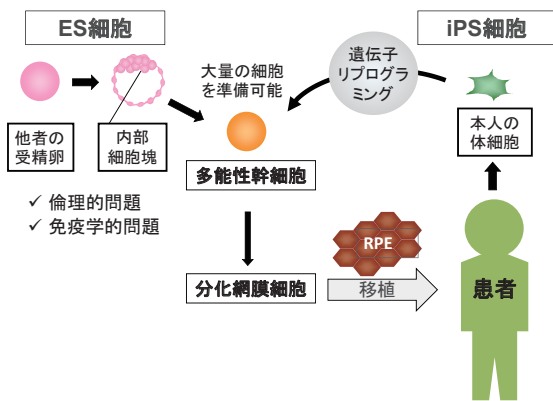
IV 加齢黄斑変性診療の現在

AMDは、生理的な再生能に乏しいRPEが加齢により疲弊・劣化することが発症の背景にあり、加齢に加えて喫煙などの環境因子や遺伝的背景も発症リスクであると知られている。AMDは脈絡膜新生血管(choroidal neovascularization :CNV)が関与する滲出型とCNVの関与無くRPEが萎縮し引き続いて視細胞も変性していく萎縮型の二型に分けられ、我が国では滲出型の頻度が高く⁵⁾、視機能の障害は萎縮型よりも滲出型の方が急速かつ深刻である。萎縮型のAMDには今のところ有効な治療が無いが、滲出型AMDに対しては、近年、光線力学療法や抗vascular endothelial growth factor (VEGF)治療等のCNVを選択的に抑制する治療が導入され、現在では抗VEGF療法が滲出型AMDに対する第一選択治療となっている⁶⁾。抗VEGF治療の導入により、滲出型AMDの予後は大きく改善したが、AMD発症の背景にあるRPEの劣化を治療しているわけではなく、多くの症例ではCNVを持続的に抑制するために延々と抗VEGF薬の硝子体内注射を行い続けなければならない、人口の高齢化と患者数の増大に伴い、その医療費負担は膨大なものに膨れあがりつつある。さらに、抗VEGF薬への反応には個体差があり、治療への反応不良例も稀では無い。現行の標準治療は対症療法ゆえの限界を有しているが、一方で、AMD発症の背景にある加齢劣化したRPEを治療することができれば根治的治療となる可能性がある。

V 加齢黄斑変性に対する網膜色素上皮移植とiPS細胞

AMDにおいて加齢劣化したRPEを健常なRPEをもって換えるという治療法の着想は以前から存在した。実際に健常なRPEをAMD患者の黄斑下に移植する試みとして、胎児組織⁷⁾、自家RPE⁸⁾などを用いた移植治療が既に報告されている。しかし、胎児組織移植は倫理的な問題をはらんでいる上に他家移植であるがゆえの免疫学的拒絶の問題があり、自家RPE移植については有効性は認められるものの、ドナー組織として患者本人のRPEを周辺部網膜下から切り出す操作の手術侵襲が大きく、合併症リスクの問題等により、標準治療とはなり得なかった。

このようにAMDに対するRPE移植はドナーの供給が大きなネックとなっていたが、最近の幹細胞研究の飛躍的進歩により、ES細胞よりRPEを分化させることができるようになり⁹⁾、多能性幹細胞をドナー源とするRPE移植への見通しが開けたのである。しかし、ES細胞には、他家移植ゆえの拒絶のリスクとヒト胚を使用する倫理的な問題がつきまとう。そうした中に登場したのがiPS細胞である¹⁰⁾。iPS細胞の発見は、分化を完了した体細胞が比較的単純な遺伝子導入によって多分化能と自己複製能を有する多能性幹細胞に脱分化できるという生命科学におけるセンセーショナルな大発見であったが、同時に、臨床応用に大きな可能性を予見させるものでもあった。iPS細胞は分化を終えた成体の体細胞を起源としながらもES細胞と同等の能力と性質を有する多能性幹細胞である。iPS細胞を用いた移植治療では患者本人の体細胞をドナー源とするので、拒絶の問題と倫理的問題を一挙にクリアできる(図1)。また、ドナー源とする体組織は小さな皮膚片や血液細胞でよく、わずかな侵襲で容易に採取できるので、従来の自家RPE移植で最大の問題であったドナー採取時の過大な手術侵襲も無い。



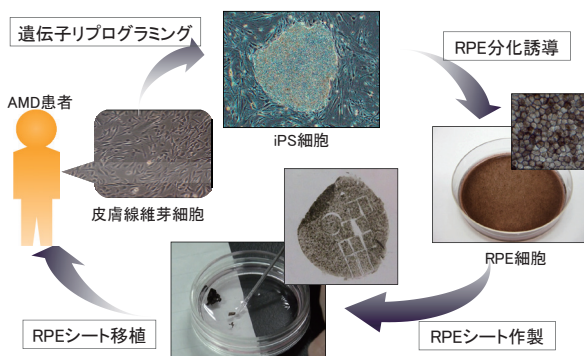
多分化能と自己複製能を有する ES 細胞を用いると細胞治療に必要な大量のドナー細胞を比較的容易に得る事ができる。ただし、ES 細胞には受精卵を破壊するという倫理的問題と他家移植ゆえの免疫学的問題を有する (図左側)。これに対し、iPS 細胞 (図右側) は ES 細胞と同等の能力を有しながら、患者の体細胞から得られるので、倫理的問題と免疫学的問題をクリアできる。

図1: 多能性幹細胞による細胞治療

VI 加齢黄斑変性に対する iPS 細胞治療

1. 加齢黄斑変性に対する自家 iPS 細胞由来 RPE 移植

我々は、世界初の iPS 細胞治療となる「滲出型 AMD に対する自家 iPS 細胞由来 RPE 移植の臨床研究」を 2013 年に開始した。本臨床研究のプロトコルの概略を図 2 に示す。現行の標準治療が無効な滲出型 AMD の患者本人の皮膚を採取し iPS 細胞を樹立、RPE に分化誘導し RPE 細胞シートを作製。対象患者に硝子体手術を行い、黄斑部網膜下の CNV を抜去した上で CNV と同時に除去された病的 RPE の跡に生じた宿主 RPE の欠損部に iPS 細胞由来 RPE シートを移植した。



患者より直径 4 mm の皮膚を採取し皮膚線維芽細胞を培養。線維芽細胞より iPS 細胞を樹立し、RPE への分化を誘導。RPE を細胞シート状に培養し、患者の黄斑部網膜下に移植する。

図2: 自家iPS細胞由来RPEシート移植の流れ

本臨床研究は iPS 細胞を用いた世界初の細胞治療であり、安全性の確認が今回の臨床研究の主たる目的であった。したがって、プライマリー エンドポイントは本プロトコル治療の安全性の検討とし、セカンダリーエンドポイントとして、その他のあらゆる有害事象を検証し、治療による効果についても検討を行った。今回の対象は現行の標準治療を行っても病状が進行して既に黄斑部の視細胞が変性してしまった症例に限定しているため、視機能の大幅な回復は望めない。それでも、本治療によりエンドレスに続く抗 VEGF 治療から離脱して視機能の低下が食い止められれば、患者にとってのメリットは大きい。

移植症例は既に術後 3 年以上を経過しているが重篤な合併症を認めず、本臨床研究のプライマリーエンドポイントである安全性の確認は達成された。また、CNV の再発は認めず、黄斑部網膜の浮腫は減少、矯正視力は術前の値から悪化することなく維持され、視機能に関する健康関連 QOL を評価する VFQ-25 (National Eye Institute Visual Function Questionnaire -25 日本語版) のスコアは改善した。さらに、網膜断層撮影所見にて、移植された iPS 細胞由来 RPE に接する視細胞の保全が認められ、宿主環境において RPE の生理的機能を果たしていることが推定される。滲出型 AMD に対する自家 iPS 細胞由来 RPE シート移植臨床研究第一例目は安全性に関するエンドポイントを達成し、形態学的評価と自覚症状において有効性を認め、治療は成功したと言える¹¹⁾。

今後、iPS 細胞由来 RPE 移植治療の安全性が十分に確認できれば、より良好な治療効果が期待できる早期の症例へと対象を拡大していくことになろう。視機能の維持あるいは改善効果が十分に確認出来れば、当面は抗 VEGF 治療への反応が不良な症例のセカンドライン治療となると思われる。さらに、視細胞がほとんど障害を受ける前の病初期の段階で劣化した RPE の細胞治療を行えるようになれば、AMD の根治的治療となり得るかもしれない。

2. 加齢黄斑変性に対する他家 iPS 細胞由来 RPE 移植

今回の自家 iPS 細胞由来 RPE 移植の臨床研究を通じて本治療が標準治療となる上での問題も浮かび上がってきた。自家移植では患者本人の細胞から iPS 細胞を樹立し RPE を得るまでに約 10 ヶ月の月日と作製した iPS 細胞由来 RPE の安全性確認を含め多額の費用を要する。今後、より高い治療効果を目指す上で、長い準備期間のために最適な治療タイミングを逸しか

ねないし、高額な費用は広く行われる治療となるためには障害となる。こうした問題を解決するために、健常ボランティアより様々なタイプのHLA (Human Leukocyte Antigen) のiPS細胞株を樹立しバンク化する構想が京大iPS研究所で進んでいる。iPS細胞バンクが整備され、患者と適合するHLAタイプのiPS細胞由来のRPEが即座に手に入るようになれば、拒絶の問題を回避しつつ、治療までの期間を短縮し費用も低く抑えることが可能となる。今後、我が国の保険診療による標準治療に向けてはこの他家移植の方向で進んでいくと予想され、自家移植は一部の患者を対象に限定的に施行される医療となるかもしれない。我々は、HLA-A、C、B、DP、DQ、DRの6座が日本人で最も頻度が高い型のホモ接合体の細胞から樹立したiPS細胞由来のRPEをHLA6座すべてが適合している滲出型加齢黄斑変性の患者に移植する臨床研究を昨年より開始した。本臨床研究によりHLA6座適合の他家移植によるiPS細胞由来RPE移植の安全性が確認されれば、この方法による標準治療の開発が進むと考えている。

VII RPE移植の次に来る網膜の再生医療

RPEの次に来る網膜再生医療のターゲットは前述の様に神経網膜の最外層に位置し、視路の末梢端に当たる視細胞であろう。視細胞の移植も古くより動物実験が試みられてきたが、必要量のドナー細胞の確保や移植細胞の生着効率等の問題により臨床応用への道は遠いと思われていた。しかし、最近、ES細胞から立体的な層構造をもった網膜を作製する方法が報告され¹²⁾、この方法を用いれば網膜本来の立体的構造を有する大量の視細胞を細胞シート状態で作製することができるため、移植における生着率が大幅に改善することが期待される。この方法を用いて、我々の研究グループは動物実験でiPS細胞から作成した視細胞3次元シート移植を行い、宿主網膜下に生着して形態学的に宿主網膜双極細胞とシナプスを形成し失われた視機能が回復することを報告した^{13,14)}。我々の研究グループはRPE移植の次に来る網膜再生医療として視細胞移植の臨床実施を視野に入れている。今後、視細胞移植が実用化されれば、網膜色素変性など全く治療法が存在しなかった多くの視細胞変性疾患が治療対象となることが期待される。

文 献

- 1) Nishida K, Yamato M, Hayashida Y, et al: Corneal reconstruction with tissue-engineered cell sheets composed of autologous oral mucosal epithelium. *N Engl J Med* 351: 1187-1196, 2004
- 2) Hayashi R, Ishikawa Y, Sasamoto Y, et al: Co-ordinated ocular development from human iPS cells and recovery of corneal function. *Nature* 531: 376-380, 2016
- 3) Ridley H: Intra-ocular acrylic lenses after cataract extraction. *Lancet* 1: 118-121, 1952
- 4) Ramón y Cajal, SR (1913-14) : Estudios sobre la degeneración del sistema nervioso. Moya. [translated by May RM, Cajal's Degeneration and Regeneration of the Nervous System. DeFelipe J, Jones EG (eds) , Oxford University Press, New York, 1991]
- 5) Yasuda M, Kiyohara Y, Hata Y, et al: Nine-year incidence and risk factors for age-related macular degeneration in a defined Japanese population the Hisayama study. *Ophthalmology* 116: 2135-2140, 2009
- 6) 高橋寛二, 小椋祐一郎, 石橋達朗, 他 : 加齢黄斑変性の治療指針. *日眼会誌* 116: 1150-1156, 2012
- 7) Algvare PV, Gouras P, Dafgård Kopp E: Long-term outcome of RPE allografts in non-immunosuppressed patients with AMD. *Eur J Ophthalmol* 9 : 217-230, 1999
- 8) van Zeeburg EJ, Maaijwee KJ, Missotten TO, et al: A free retinal pigment epithelium-choroid graft in patients with exudative age-related macular degeneration: results up to 7 years. *Am J Ophthalmol* 153: 120-127, 2012
- 9) Kawasaki H, Suemori H, Mizuseki K, et al: Generation of dopaminergic neurons and pigmented epithelial from primate ES cells by stromal cell-derived inducing activity. *Proc Natl Acad Sci USA* 99: 1580-1585, 2002
- 10) Takahashi K, Yamanaka S: Induction of pluripotent stem cells from mouse embryonic and adult fibroblast cultures by defined factors. *Cell* 126: 663-676, 2006
- 11) Mandai M, Watanabe A, Kurimoto Y, et al: Autologous induced stem-cell-derived retinal cells for macular degeneration. *N Eng J Med* 376:1038-1046, 2017
- 12) Eiraku M, Takata N, Ishibashi H, et al: Self-organizing optic-cup morphogenesis in three-dimensional culture. *Nature* 472: 51-56, 2011
- 13) Shirai H, Mandai M, Matsushita K, et al: Transplantation of human embryonic stem cell-

derived retinal tissue in two primate models of retinal degeneration. Proc Natl Acad Sci USA 113: E81-90, 2016

- 14) Mandai M, Fujii M, Hashiguchi T, et al: iPSC-Derived Retina Transplants Improve Vision in rd 1 End-Stage Retinal-Degeneration Mice. Stem Cell Reports 8 : 69-83, 2017

II. 症 例 報 告

II. 症例報告

II. 1 受診後早期に診断に至った発作性運動誘発性ジスキネジアの1例

江口純治¹⁾ 松本和徳¹⁾ 光田好寛¹⁾ 安島英裕¹⁾ 田中由起子¹⁾ 西山将広²⁾

¹⁾神戸市立医療センター西市民病院 小児科

²⁾神戸大学大学院医学研究科 小児科

要 旨

発作性運動誘発性ジスキネジアは、短時間の不随意運動が急な運動によって誘発される稀な疾患である。この症例は12歳男児で、主に運動開始時に、舞踏・アテトーゼ・ジストニアの何れか一つ、あるいは複数が連続・混在して認められた。発作は左上肢優位で、意識障害は伴わず、持続時間は1分以内であった。発作間歇期の身体所見や検査には異常は認められず、カルバマゼピンの内服開始後は不随意運動が消失した。本症は、治療に対する反応性は良好であるが、心因反応やチックなどと間違われ、適切な治療が行われていない場合もあるため、疾患概念の理解が重要である。

キーワード：発作性運動誘発性ジスキネジア、舞踏、アテトーゼ、ジストニア、カルバマゼピン

(神戸市立病院紀要 57:7-11, 2018)

A case of paroxysmal kinesigenic dyskinesia diagnosed early after initial visit

Junji Eguchi¹⁾, Kazunori Matumoto¹⁾, Yoshihiro Mitsuda¹⁾,
Hidehiro Yasujima¹⁾, Yukiko Tanaka¹⁾, Masahiro Nishiyama²⁾

¹⁾Department of Pediatrics, Kobe City Medical Center West Hospital

²⁾Department of Pediatrics, Kobe University Graduate School of Medicine

Abstract

Paroxysmal kinesigenic dyskinesia is a rare disorder, characterized by recurrent and brief attacks of involuntary movements such as choreoathetosis and dystonia, triggered by sudden movements. A 12-year-old boy presented with paroxysmal episodes, which occurred mainly on the left upper limb. His involuntary movements consisted of chorea, athetosis, and dystonia, but were not accompanied by impaired consciousness, and spontaneously disappeared within 1 minute. In the intermittent phase of the attack, we observed no physical abnormalities and altered laboratory findings. Symptoms disappeared promptly after starting carbamazepine therapy. This disease responds well to medication. Therefore, it is important to have a good understanding of this disease, to avoid misdiagnosing it as a psychogenic reaction or tic.

Key words : paroxysmal kinesigenic dyskinesia, chorea, athetosis, dystonia, carbamazepine

(Kobe City Hosp Bull 57:7-11, 2018)

はじめに

発作性運動誘発性ジスキネジア (paroxysmal kinesigenic dyskinesia: PKD) は、急激な随意運動などによって誘発される舞踏アテトーゼ、ジストニアなどの不随意運動や筋緊張を呈し、治療に対する反応が良好な疾患である¹⁻³⁾。本症は稀な疾患と考えられるが、正確な疫学データは不明である。他の疾患と誤認されることもあるため、本症の疾患概念を理解しておくことが重要である。今回、発症後3年経過して受診し、早期に診断に至って治療が奏効した12歳男児例を経験したので、報告する。

I. 症 例

患 者：12歳男児

主 訴：不随意運動「体が自分の意思ではなく動く」

家族歴：妹に良性乳児痙攣（多い時は1日5～6回、1歳までに計数十回。抗痙攣薬を1歳まで内服し、その後痙攣なし）の既往があったが、妹以外には、両親、祖父祖母、叔父叔母、従兄弟（父方3人、母方2人）に痙攣や不随意運動は認められていない。母親に片頭痛がある。

既往歴：在胎41週3400g、仮死なく出生し、乳幼児期の成長・発達に関して異常は指摘されていない。生後8か月、10か月の時に無熱性痙攣、11か月時に熱性痙攣があった。痙攣の持続はいずれも3分以内であった。頭部CT（8か月）、頭部MRI（11か月）、脳波検査（9か月、1歳0か月）では異常を認めず、正確な診断や投薬は行われていない。

現病歴：9歳頃から、体を動かそうとした時に、主に左半身が勝手に不規則に動くようになった。本人はこれを「発動する」と表現していた。

これらの不随意運動は、リレーの時に転倒するなど、急な動作の時に多く認められたが、食事中や授業中にも発現していた。一方、柔道の練習中は、不随意運動は認められなかった。歩行を開始する前に、内反位にした左足を床や地面に強く押し付ける奇異な行動を取り、左靴の外側が他の部分と比較して損傷が著しかった。

不随意運動は、片側性で左上肢が多く、半身性のこともあるが、全身性に発現することはなかった。四肢をくねらせたり、固まったり、腕を屈曲・伸展させる運動が、単独で、あるいは連続・混在して認められた。発作中の上肢を対側の上肢で抑制しようとすることもあったが、この動作を行わなくても数秒から1分以内で自然に消失していた。発作中でも

会話はできるが、発する言葉は他者から聞き取りにくい様子であった。

発作中と発作後に意識障害や痛みは伴わず、睡眠中の発作は認められていなかった。また、体調不良や疲労、ストレス、驚愕等は、これら単独では発作の誘因になっていなかった。前兆として、明確に表現できるものはなかったが、何となく発作が起こりそうな気がするがあった。

このような不随意運動の頻度が徐々に増加し、1日数十回認められるようになったため、両親がチックではないかと心配して、12歳の本児を連れて当科を受診した。

初診時現症：

身長159.1 cm (+0.70 SD)、体重54.0 kg (肥満度+11%)。顔、頸部、肘窩等に粧糠様落屑、角化・鱗屑あるいは落屑を伴う紅斑を認めた以外、一般身体所見には異常は認められなかった。診察中に1回、左上肢をゆっくりくねらせるアテトーゼが発現し、数秒間で消失した。非発作時の神経学的異常所見は認められなかった。

検査所見：

表1に示すように、血液一般検査、血清銅、セルロプラスミン、甲状腺機能、抗核抗体、抗DNA抗体等には異常は認められなかった。間歇期の脳波検査と頭部MRI検査でも異常は認められなかった。

2回目の来院時に本人及び母の許可を得て撮影していたところ、左上肢の不随意運動が認められた(図)。歩行中に左上肢全体をゆっくりくねらせるようなアテトーゼから始まり、続いてジストニアが起こった。発作開始10秒頃からは約5秒間の舞踏となり、左前腕が体幹の背側に移動した姿勢でジストニアとなって、開始から約19秒で不随意運動は消失した。

表1 血液検査所見

WBC	5250 / μ L	血糖	87 mg/dL
RBC	458×10^4 / μ L	HbA1c(NGSP値)	5.7 %
Hb	12.5 g/dL	ASO	182 IU/mL
AST	16 U/L	Cu	113 μ g/dL
ALT	10 U/L	セルロプラスミン	20 mg/dL
CK	113 U/L	TSH	2.221 μ IU/mL
Na	144 mEq/L	FT4	1.18 ng/dL
K	4.2 mEq/L	抗核抗体	<40 倍
Cl	108 mEq/L	抗DNA抗体	≤ 2.0 IU/mL
Ca	8.9 mg/dL		
P	5.4 mg/dL		

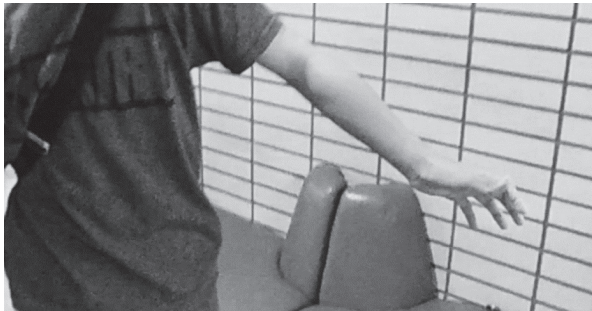
① 左上肢のアテトーゼが始まる



② 3秒後



③ 5秒後



④ 7秒後：アテトーゼに続きジストニアとなり約4秒間続く



⑤ 10秒後：舞踏へ移行して約5秒間続く



⑥ 12秒後



⑦ 14秒後



⑧ 19秒後：発作終了



図 発作時動画供覧

診断：PKDの診断基準²⁾を表2に示す。本症例の場合、発症年齢は9歳で、主に運動開始時に、ジストニア、アテトーゼ、舞踏の3種類の不随意運動の何れか一つ、あるいは複数が連続・混在して認められていた。不随意運動は1分以内で自然に頓挫し、発作中や発作後の意識障害や痛みは認められなかった。間歇期の神経学的所見や血液一般検査、頭部MRI、及び脳波検査で異常は認められなかった。PKDを疑い、carbamazepine 100mgの内服を開始したところ、翌日から不随意運動は消失した。以上からBruno MKらのPKDの診断基準²⁾に合致した。

経過：carbamazepineの血中濃度は3.3 μ g/mL以下と低値で推移しているが、内服を忘れない限り発作は出現していないことから、carbamazepine 100mgの内服を継続して経過観察中である。

表2 Bruno MKら²⁾のParoxysmal kinesigenic dyskinesia (PKD)の診断基準

以下の全項目を満たすことが典型例の診断に必要である

- 突然の運動により誘発される発作
- 発作時間が短時間であること(<1分間)
- 発作中における意識消失や疼痛などが認められない
- 他の基礎疾患の除外と神経学的所見が正常であること
- phenytoinやcarbamazepineにより発作のコントロールが可能であること
- 家族歴がない場合、発症年齢が1歳から20歳であること

II. 考 察

PKDは、急激な随意運動などによって誘発される舞踏アテトーゼ、ジストニアなどの不随意運動や筋緊張を呈し、治療に対する反応が良好な疾患¹⁻³⁾で、発作性運動誘発性舞踏アテトーゼ(Paroxysmal Kinesigenic Choreoathetosis: PKC)とも呼ばれ、有病率は15万人に1人と推測されている⁴⁾。しかし、軽症で医療機関を受診しなかったり、他の疾患として見過ごされたりして、診断に至っていない症例の他、後述するように他の疾患と誤認されている場合もあって、正確な発症頻度は不明である。

この症例は、9歳頃発症した後に徐々に発作回数が増加し、約3年経過後に当科を受診した。本症として典型的な症状や経過であったことから、初診後は検査や治療効果判定を含め1か月未満で診断に至り、以後の経過も良好である。

本症例の場合、柔道の練習中に発作が発現しなかつ

た。これは、常時四肢あるいは体幹の強い随意運動をしていたためと考えられる。歩行前に左足を床や地面に押し付ける奇異な行動は、これを行うことで突然の随意運動を回避し、発作発現を抑制する目的であったと思われる。また、本児は、診察室内で着座した診察椅子を左右振り子様に動かしたり、診察机の上にあるものを絶えず触ったりしていた。診察室でのこのような行動は、治療を開始して発作が消失した後、徐々に減少した。一見多動症のように見えた診察室内でのこれらの行動も、随意運動を行っていることで発作発現を無意識に抑制していた可能性がある。発作中も意識障害がなく、会話は可能であったが、本児の発作中の会話が周囲の人に聞き取りにくかったのは、顔面の不随意運動を伴うことで構音障害をきたしていたのではないかと推察された。

本症の病因や病態に関してはまだ詳しく解明されていないが、責任遺伝子としてproline-rich transmembrane protein 2をコードするPRRT2が同定され⁴⁾、Huang XJら⁵⁾は本症の発症時期や家族内発症などにこの遺伝子異常が強く関与していると報告している。一方、1997年にSzepietowski Pら⁶⁾がPKCと良性家族性乳児痙攣の家族内発症に関して報告し、この2疾患の遺伝性を指摘していたが、乳児期に認められる良性痙攣でも、この遺伝子の異常が報告された^{7,8)}。また、片頭痛や片麻痺性片頭痛の患者でもPRRT2異常が高頻度に認められる⁹⁾ことから、この遺伝子異常は神経系疾患に強く関与していると言える。遺伝子型と表現型にはオーバーラップが認められ、今後詳細な解析により更なる解明が期待される。

本児を含め、この家族には遺伝子検査を行っていないが、母に片頭痛があること、本児と妹に乳児期の痙攣があったことから、この遺伝子を保有している可能性はある。また、妹が今後PKDを発症しないか、注意して経過を見る必要がある。

本症に関して、診断が確定するまで時間を要した症例や他の疾患と誤認されていた症例の報告が散見される。武井ら¹⁰⁾は21症例の臨床的検討を行い、発症から診断までの期間は、平均56か月、中央値8.5か月と長く、本症の認知度が小児科医の間でも低いことがその原因の一つと述べている。友人や周囲が病気のことを理解できず、心因反応として経過を見られていて、不登校や自発性の低下、自己評価低下が認められた中学生男児¹¹⁾、ヒステリー¹²⁾やチック¹³⁾と認識されていた例、「ふざけている」と周囲に思われていた例¹⁴⁾、その他、兄弟の診断を契機に本症と診断された自

閉症の報告もある¹⁵⁾。本症例は、発症から当院受診まで3年間無治療であったが、明らかなQOLの低下などが認められなかったのは幸いであった。

本症は、疾患概念の理解があれば診断は比較的容易である。遺伝子解析も診断に有用な手段の一つとなったが、疾患の病因・病態はまだ明確には判明しておらず、現時点では一般の臨床現場での診断に特異的な検査はない。そのため、他の疾患と誤認されたりして適切な治療が行われず、二次性精神障害の発症や、QOLの低下を招く可能性がある。

不随意運動を主訴に受診した患者を診察する場合には、不随意運動の特徴を詳細な問診によって把握したり、乳児期の痙攣の既往や家族歴を確認したりすることが重要である。発作を動画で記録して家族に持参してもらうことも診断に有用である。また、本症は心因反応やチックなどと間違われやすいため、診療者に疾患概念の理解を周知する必要があると思われた。

文 献

- 1) Demirkiran M, Jankovic J : Paroxysmal dyskinesias: clinical features and classification. *Ann Neurol* 38 : 571-579,1995
- 2) Bruno MK, Hallett M, Gwinn-Hardy K, et al : Clinical evaluation of idiopathic paroxysmal kinesigenic dyskinesia: new diagnostic criteria. *Neurology* 63 : 2280-2287,2004
- 3) 加藤竹雄, 栗屋智就 : 発作性運動誘発性舞踏アテトーゼ. *Epilepsy* 9 : 29-33,2015
- 4) Chen WJ, Lin Y, Xiong ZQ, et al : Exome sequencing identifies truncating mutations in PRRT 2 that cause paroxysmal kinesigenic dyskinesia. *Nat Genet* 43 : 1252-1255,2011
- 5) Huang XJ, Wang T, Wang JL, et al : Paroxysmal kinesigenic dyskinesia : Clinical and genetic analyses of 110 patients. *Neurology* 85 : 1546-1553,2015
- 6) Szepietowski P, Rochette J, Berquin P, et al : Familial infantile convulsions and paroxysmal choreoathetosis: a new neurological syndrome linked to the pericentromeric region of human chromosome 16. *Am J Hum Genet* 61 : 889-898,1997
- 7) Ono S, Yoshiura K, Kinoshita A, et al : Mutations in PRRT 2 responsible for paroxysmal kinesigenic dyskinesias also cause benign familial infantile convulsions. *J Hum Genet*. 57 : 338-341,2012
- 8) Okumura A, Shimojima K, Kubota T, et al : PRRT 2 mutation in Japanese children with benign infantile epilepsy. *Brain Dev* 35 : 641-646,2013
- 9) Gardiner AR, Jaffer F, Dale RC, et al : The clinical and genetic heterogeneity of paroxysmal dyskinesias. *Brain* 138 : 3567-3580,2015
- 10) 武井悠, 藤井克則, 津留智彦, 他 : 発作性動作誘発性ジスキネジア 21 症例の臨床的検討. *小児臨* 79 : 845-848,2016
- 11) 秋谷進, 田端泰之, 瀬川昌也 : 心因反応として経過をみていた発作性運動誘発性舞踏アテトーゼの1例. *小児臨* 62 : 2035-2039,2009
- 12) 西河美希, 平野玲史, 橋本邦夫, 他 : ヒステリーとして2年間経過をみられていた発作性運動誘発性舞踏アテトーゼの1例. *日児誌* 110 : 1323,2006
- 13) 南憲明, 瀬島斉, 木村正彦, 他 : チックと誤認されていた発作性運動誘発性舞踏アテトーゼの1例. *島根医* 23 : 254,2003
- 14) 田島大輔, 佐藤忠司, 岩永晃, 他 : 「ふざけている」と周囲に思われていた発作性運動誘発性ジスキネジアの3例. *日児誌* 120 : 388,2006
- 15) 井手口博, 井原由紀子, 友納優子, 他 : 弟の診断を契機に発作性運動誘発性舞踏アテトーゼ (PKC) と診断した自閉症の1例. *脳と発達* 46Suppl. : S328,2014

(受付 2018年3月16日, 採択 2018年12月10日)

Ⅲ. C P C 報 告

Ⅲ. CPC 報告

Ⅲ. 1 CPC 報告 (2017年4月～2018年3月) (中央市民病院)

第1回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症例テーマ：自己治療を繰り返し、呼吸不全を呈し来院した76歳男性の一例
2. 診療科、主治医・受持医：呼吸器内科 横出晃能、平林亮介、大塚浩二郎

3. CPC開催日：2017年4月19日

4. 発表者：臨床側（横出晃能、平林亮介）
病理側（前田紘奈）

5. 患者：76歳、男性

6. 臨床診断：呼吸不全、肺胞出血

7. 剖検診断：びまん性肺胞障害

8. 臨床情報：

1) 現病歴

医師。来院2ヶ月前よりウォーキングの最中に倦怠感あり、自分では熱中症と解釈していた。同じ頃に一過性の下痢を認め食思不振が出現し、おかゆなどを少量食べる生活になっていた。来院1ヶ月前には血液検査でAlb低値であり、自己にアルブミン製剤を処方し投与していた。来院2週間前ごろから咳嗽、血痰が出現していた。来院3日前頃より呼吸苦を自覚していた。症状増悪し、救急要請した。

2) 既往歴・家族歴など

2003年より慢性心房細動を指摘されている。また2011年脳梗塞、脳動脈瘤を指摘されている。ワルファリン3mg/dayを内服しているが、他の内服歴は自己処方でも記録の記載が肉筆で判読困難であり、判然としない。

3) 診察所見

バイタルサイン：

BP 80/50mmHg, PR 160回/min, RR 48回/min,
BT 36.2°C, SpO2 80%(O2リザーバー 10L) E3V4M6

身体所見：

るいそう著明、努力様呼吸有り、下腿浮腫無し

4) 主な検査データ

[血算] WBC $17.1 \times 10^3 / \mu\text{L}$, RBC $371 \times 10^4 / \mu\text{L}$,
Hb 11.6 g/dL Ht 36.1%,
MCV 97 fL, MCH 31.3 pg, PLT $23.5 \times 10^4 / \mu\text{L}$

[生化学] TP 5.9 g/dL, ALB 2.8 g/dL, T-Bil 1.0 mg/dL, AST 368 IU/L, ALT 290 IU/L, LDH 980 IU/L, CK 115 IU/L, アミラーゼ 31 IU/L, BUN 42.5mg/dL, Cre 1.38 mg/dL, Na 144 mEq/L, K 3.1 mEq/L, Ca 8.1 mEq/L, Glu 185 mg/dL, CRP 12.30 mg/dL

[V B G] PH 7.183, pCO 41.3 Torr, pO2 25.0 Torr, HCO 14.9 mmol/L, AnionGap 25.2, cLac 14.4 mmol/L

5) 画像診断所見

[胸部レントゲン] 右全肺野の浸潤影、左中肺野の浸潤影、両側胸水貯留

[12誘導心電図] 洞性頻脈

[経胸壁心エコー] 右心系拡大、壁運動低下なし

6) 経過・治療

午前5時14分の診察開始時より血圧低下と酸素化低下を認めていた。MEPM 1gを投与し、乳酸加リンゲル液 1500ml、ビタミンKを20mg投与された。血痰と全身倦怠感の病歴から肺胞出血、感染、心不全等による呼吸不全に至っていると考えられ、気道確保・呼吸管理の観点から挿管・人工呼吸管理が必要と考えられた。

午前9時18分挿管準備時に血圧が急激に低下し、ノルアドレナリンを適宜投与するも反応に乏しく、徐々に意識レベルも低下した。血圧低下を避けるため、無鎮静下でマックグラスを用いて気管挿管を行ったが、挿管時には声門から血性の分泌物があふれ出ている状態であった。

挿管後の午前9時27分、脈拍を触知できずPEAとなり、CPRが開始された。右鼠径部より大腿動脈に動脈圧波形を確認しながら、ノルアドレナリン、アドレナリンの持続投与を開始し、左気管支に挿管チューブを進め健側片肺換気として一時的に自己心肺再開を得ることができた。

しかし、その後もPEAとROSCを繰り返し、40-50分蘇生処置を継続したが、蘇生に反応無く、妻に病状説明し、午前10時9分に胸骨圧迫終了。その後息子氏の到着を待って、午前11時55分死亡確認した。

7) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

(1) 臨床的に感染・ARDSにとまなう全身状態の

悪化、PT-INR 延長に伴う肺胞出血が疑われるが、そこに至る原因としての感染や肺の基礎疾患がないか、IP の合併などないか。

- (2) また、死因として肺胞出血・呼吸不全と考
えているが、他の病因の合併がないか。

9. 剖 検 情 報：

1) 剖検診断と病理所見

【主診断】

慢性腎不全（臨床的）

- (1) 肺器質化病変（右肺優位、右肺1189g、左肺965g）

1-A. びまん性肺胞障害

- (2) 出血傾向（凝固異常）

2-A. 両側肺胞出血（異時多発）

2-B. 消化管出血

2-C. 膀胱点状出血

- (3) 胸水（右 1000ml、左 400ml、血性）

【副所見】

- (1) ショック肝・肝細胞壊死（1252g、遠門脈領
域の壊死）

(2) 肺気腫

(3) 肺内石灰化

(4) 左肺ブラ

(5) 陳旧性心筋梗塞

(6) 粥状硬化（軽度）

(7) 胆嚢腺筋症、胆石

(8) 脳梗塞後

(9) 脳動脈瘤（コイル塞栓術後）

[主な病理学的所見]

栄養状態良好な 76 歳男性。右胸腔にはフィブリン塊を認め、血性胸水を 1000mL 認めた。左胸水は血性で 400mL 認めた。肺はそれぞれ右肺 1189g、左肺 965g で重量増加、右肺優位に含気不良を認めた。両側肺動脈基幹部に血栓は認めなかった。組織学的には、右肺中葉下葉、左肺上葉を主体に広範囲に気腔を埋めるような線維化を伴う器質化病変と、気腔内に硝子膜形成を伴う滲出期から増殖期のびまん性肺胞障害を認めた。肺胞腔には組織球の集簇を認め、気道内に好中球の集簇も認められた。右肺優位に肺胞出血も認められた。器質化部では血流うっ滞によると考えられる血栓形成が認められた。肺尖部にはブラ、肺気腫を認め、肺内骨化巣が散見された。

胃、小腸、大腸に粘膜出血と消化管内の黒色便、膀胱点状出血を認め、出血傾向を反映したものと考えられた。肝臓には遠門脈領域の壊死を認め、ショッ

ク肝の所見であった。腎臓にはうっ血を認めた。

他、左室壁に陳旧性心筋梗塞、大動脈に軽度の粥状硬化を認めた。

[総括]

感染、抗菌薬等の薬剤性の要因、他、下痢、脱水や腎機能異常によりワルファリンの作用が増強し PT-INR が延長、出血傾向を来し、肺胞出血を生じたと推測する。気道感染が先行した可能性もある。肺胞出血が数週間の経過の中で器質化病変を形成し、最終的に右肺中葉下葉、左肺上葉を主体に広範囲に器質化と、ショックに伴うびまん性肺胞障害を生じた。呼吸不全により死亡された。

- 2) 担当病理医：前田紘奈、今井幸弘

- 3) 病理医からのコメント

肺胞出血による呼吸不全として矛盾しないが、肺は広く器質化しており経過に関しては少なくとも数週単位と考えられた。

10. 考 察

肺炎に対し自己治療を繰り返し、肺胞出血・ARDS を来した一例と考える。

肺胞出血の原因として、感染症の占める割合は必ずしも多くない¹⁾ が重要である。細菌性肺炎は ARDS を惹起する事もあり、また ARDS そのものも肺胞出血の原因とも結果ともなり得るため、詳細な病歴の聴取が重要である。一方本例は自己治療歴などから病歴の聴取は困難であり、いずれの病因が引き金となったかは判然としないが、病理学的には肺炎・肺胞出血の進展にともない ARDS を惹起し死亡に至ったものと思われる。

11. 参 考 文 献

- 1) de Prost N, et al. Eur Respir J 2010; 35: 1303 - 11

【症例 2】

1. 症 例 テ ー マ：急速な循環不全をきたした収縮性心膜炎の 1 例
2. 診療科、主治医・受持医：
心臓血管外科 城田祥吾、
吉田一史
3. CPC 開催日：2017 年 4 月 19 日
4. 発 表 者：臨床側（吉田一史）
病理側（藤倉航平）
5. 患 者：77 歳、男性
6. 臨 床 診 断：急性心不全
7. 剖 検 診 断：収縮性心膜炎

8. 臨床情報:

1) 現病歴

2016年6月から長距離歩行での倦怠感を自覚し、近医での経胸壁心エコーで心嚢液貯留指摘され当院受診。少量のため穿刺困難であり、透析で心嚢液量が減少したため、経過観察となっていた。その後、結核性心膜炎(胸部Xpなどからの臨床診断、喀痰培養陰性、T-SPOT陰性)が疑われ同年7月2日よりINH/REP/EB3剤併用療法開始となった。同年9月より呼吸苦が増悪し、血圧低下も出現した。経胸壁心エコーで心嚢水は減少傾向だったがCTでは心膜肥厚が進行しており、収縮性心膜炎が疑われ、当院循環器内科に10月4日入院となった。

2) 既往歴・家族歴など

2型糖尿病、糖尿病性末期腎不全(2009年より血液透析)、虫垂炎(1978年手術)

3) 診療所見

意識清明、血圧74/44mm(透析直後)、心拍数84回/分、整、呼吸数28回/分、SpO₂100%(室内気)体温36.7℃、頸静脈怒張あり、心膜ノック音あり、呼吸音に明らかな副雑音なし、下腿浮腫あり

4) 主な検査データ

<血算> WBC 7800/ μ L, Hb 12.5g/dL, PLT 15.3万/mm³

<生化学> TP 6.4g/dL, Alb 2.4g/dL, AST 34IU/L, ALT 4IU/L, LDH 302IU/LCK 21IU/L, BUN 48.0mg/dL, Cre 5.19mg/dL, Na 134mEq/L, K 4.8mEq/L, Ca 7.9mg/dL, CRP 8.08mg/dL, proBNP 9856pg/mL, D-dimer 12.9 μ g/m,

<静脈血液ガス>

pH 7.396, PCO₂ 41.7Torr, HCO₃ 25.0mmol/L, AG 12.6, Lac 3.2mmol/L

5) 画像診断所見

<胸部Xp>

両側CPA dull、左上肺野と下肺野の透過性低下、気管の左側偏位、大動脈石灰化

<ECG> HR58回/分、洞調律、低電位、I, II, V₂ ~ V₆でT波陰転化

<経胸壁心臓超音波>

LVDd/s 38/25mm, EF 56.8%, LVOT TVI 11.3cm, 後側壁が低収縮

TMF:E/A 1.19 DcT163ms, Valsalva 負荷を試みるもE>A, DcTも短縮し拘束性パターン

MR trivial, AR trivial, TR trivial, 心嚢液は減少傾向(LV後壁側:6mm, RV側18mm)

右室側に1.5mm×1.4mmの塊状エコー(+)
フィブリン疑い

<右心カテーテル検査>

sys/dia/ (mean) mmHg: RA 13/12 (10), RV 30/4 (12), PA 25/11 (15), PAWP 11/11 (9), AO 66/41 (48), LV 67/0 (17)
CO2.09L/min, CI 1.41L/min/m²

LVEDP/RVEDP等圧化、dip and plateau 波形。RA波形は深いy谷を認める。

同時圧測定ではRV呼吸性変動は不明瞭も、LV圧は吸気で10mmHg以上低下あり。

<冠動脈造影検査>

#1 50%, #2 50%, #7 50%, #10 90%

6) 経過・治療

【術前経過】

第1病日に薬物加療抵抗性循環不全に対しPCPS/IABPを挿入した。挿入時に総腸骨動脈解離を認め、右大腿動脈から左大腿動脈へ送血を変更した。IABPは右上腕動脈に挿入。心原性以外のショックの原因検索も行い、各種培養提出の上、抗菌薬開始(MEPM+VCM)した。また甲状腺・副腎ホルモンはいずれも正常値であった。薬剤抵抗性循環不全が遷延するため第3病日に心臓血管外科にコンサルトあり、緊急心膜剥離術を行った。

7) 手術所見

手術: 緊急心膜剥離術、

手術時間: 3時間48分、

麻酔時間: 4時間57分

輸血: RCC 2単位 FFP 4単位、PC10単位

胸骨正中切開。心膜(壁側心膜)は著明に肥厚しているも明らかな石灰化は認めなかった。心嚢水は暗赤色で心嚢内は全周性に癒着組織を認めた。心外膜(臓側心膜)も石灰化ないが全周性に肥厚し硬化していた。右房、右室、左室の全周に渡って心外膜を切除した。心膜も可能な限り切除し閉胸した。心膜切除後に肉眼的に心室壁運動は良好となった。

【術後経過】

2016/10/06 :

緊急心膜切除術後 IABP/PCPS サポート継続した。帰室後4時間でドレーンからの出血が持続するため、再開胸止血術をおこなった。帰室後はCVP20程度で推移していた

POD 2 : PCPS flow2.0, DOB3ml/hr, NAD5ml/hr, ピトレシン 0.5ml/hr で循環動態は安定し、除水 80 - 150ml/hr 施行、CVP は 13 - 14 まで低下した。

POD 3 : PCPS 抜去し NAD8ml/hr, DOB8ml/hr, アドレナリン 0.5ml/h, ピトレシン 1.0ml/hr 使用。sBP80 - 100、オーグメンテーション圧で 90 - 100mmHg 程度で推移していたが PCPS 離脱後、徐々に BP 低下した。

POD 4 : 右心負荷所見 (PA39/25, CVP20) あり、カテコラミンサポート下に除水再開した。抗菌薬は MEMP + VCM に加え MCFG 開始した。

POD 6 (10/12) :

アドレナリン持続投与終了できたため、IABP 抜去に至った。しかし徐々に除水困難となり血圧低下傾向。DOB 増量し除水試みるも血圧保てなくなり、T-Bil 上昇など臓器不全の徴候が出現した。同日の TTE で左室収縮能は問題なく、拡張能は評価困難だった。Volume も過不足なし。

POD 8 : 除水困難となるが TTE で著変なし。

POD10 : 徐脈傾向で昇圧薬への反応低下

POD11 : 死亡

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

(1) 急激な循環不全をきたした収縮性心膜炎の etiology は何か。

(2) 死因として収縮性心膜炎以外の原因 (アミロイドーシス、感染合併など) はあるか。

9. 剖検情報 :

(1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

(1) 収縮性心膜炎 (心膜剥離術後) (壁側心膜肥厚 6mm) (448g)

アミロイド沈着、感染、IgG4 関連疾患を示唆する所見なし。

(2) 左腎乳頭癌 (6mm)

【副病変】

(1) 動脈硬化症

1-1 大動脈解離 (総腸骨動脈分岐部)

1-2 大動脈粥状硬化症 (高度)

(2) 慢性腎不全 (右 : 71g, 左 : 74g)

(3) ヘルペス食道炎 (HSV-1 陽性)

(4) 急性膵炎 (局所的) (151g)

(5) 2型糖尿病 (膵ラ氏島β細胞脱落)

(6) 膵上皮内腫瘍性病変 (PanIN 1-2 相当)

(7) 肝臓胆汁うっ滞 (770g)

(8) 甲状腺腺腫様甲状腺腫 (40.3g)

(9) 大腸メラノーシス

(10) 腹水 (淡血性 550ml)

2) 担当病理医 : 藤倉航平、今井幸弘

3) 病理医からのコメント

病理所見からは収縮性心膜炎を直接の死因と考える。組織学的には、心外膜の著明な線維性肥厚が見られ、軽度の炎症細胞浸潤が見られた。アミロイド沈着、感染、IgG4 関連疾患等を疑い、特殊染色や免疫染色を試行したが、明らかな原因は指摘できなかった。

10. 考 察

収縮性心膜炎には原因が特定されない症例が多く存在することが報告されているが、本症例も明らかな原因は認めない。心筋の痩せが目立ち、収縮性心膜炎による駆出率低下が心筋の疲弊につながり、最終的に血液の駆出が困難となったと考えられる。その他に、総腸骨動脈分岐部の大動脈解離、左腎乳頭癌、慢性腎不全、ヘルペス食道炎、急性膵炎等が指摘されたが、死因につながる所見は得られなかった。

第2回中央市民病院CPC報告

1. 症例テーマ : MPA による腎機能障害に対し血液透析中に心停止をきたした1例

2. 診療科、主治医・受持医 : 呼吸器内科 平林亮介、伊藤宗洋

3. CPC 開催日 : 2017年6月19日

4. 発表者 : 臨床側 (岡山裕介、平林亮介) 病理側 (梶浦晋司、前田紘奈)

5. 患者 : 77歳、女性

6. 臨床診断 : 顕微鏡的多発血管炎、肺胞出血、急性膵炎

7. 剖検診断 :

(1) 顕微鏡的多発血管炎

- 1-1 両側肺胞出血（左：715g、右：730g）
1-2 半月体形成性糸球体腎炎、腎硬化症（左：
98g、右：90g）
1-3 全身臓器血管慢性変化（壁破壊及び再疎通
像）（肺、肝臓、心臓、腸間膜、腎臓、子宮）

(2) 膵炎（慢性膵炎+急性炎症）

8. 臨床情報：

1) 現病歴

[主訴] 血痰

[現病歴]

半年前に脳梗塞の既往有る女性。来院6日前より血痰が出現したため、アスピリンによる易出血性が疑われ内服が中止された。

来院4日前に四肢の点状出血、腎機能障害・炎症反応高値・貧血および両側肺野に異常陰影を認めた。肺炎の診断でミノマイシンによる治療が開始されたが改善なく、当院へ搬送された。

2) 既往歴・家族歴など

[既往歴]

くも膜下出血、脳幹梗塞、左硬膜下血腫、慢性心不全、2型糖尿病

[アレルギー歴] 特記事項なし

[内服薬] センノサイド 12mg、ファモチジン 20mg

3) 診療所見

バイタルサイン：

体温 36.5℃、脈拍 98回/分、血圧 129/80 mmHg、SpO2 96% (RA)、呼吸数 22回/分

GCS：E4V5M6

身体所見：

心音：汎収縮期雑音あり、

呼吸音：喀痰貯留音あり

四肢：点状出血あり、軽度浮腫あり

4) 主な検査データ

[血液検査]

WBC： $9.9 \times 10^3 / \mu\text{L}$, RBC： $294 \times 10^4 / \mu\text{L}$, Hb：
8.6 g/dL, Ht：26.6%, MCV：90 fL, MCH：29.3
pg, PLT： $37.1 \times 10^4 / \mu\text{L}$, TP：7.7 g/dL, ALB：
1.9 g/dL, T-Bil：0.6 mg/dL, AST (GOT)：10 IU/
L, ALT (GPT)：4 IU/L, LD：144 IU/L, CK：34
IU/L, アミラーゼ：62 IU/L, 尿素窒素：77.4 mg/
dL, クレアチニン：5.93 mg/dL, Na：131 mEq/L,
K：3.6 mEq/L, Ca：8.1 mg/dL, Glu：144 mg/dL,
CRP：30.53 mg/dL, PT-INR：1.06, APTT-sec：
34.0sec, D-dimer：11.28 $\mu\text{g/dL}$, Tro-I：0.169 ng/
mL, PROBNP 144173 pg/mL

[動脈血液ガス]

pH：7.323, PCO₂：33.1 Torr, HCO₃⁻：16.7 mmol/
L, Anion Gap：3.3 mmol/L, cLac：2.2 mmol/L

5) 画像診断所見

[胸部 X 線写真]

右上葉・左下葉に浸潤影、両側 C-P angle dull

[体幹部 CT]

両側胸水と心拡大あり。両側肺野にすりガラス影（肺胞出血・肺水腫疑い）、右上葉・左下葉の浸潤影あり（感染疑い）、右腎結石・うっ血肝あり

6) 経過・治療

感染のほか血管炎や Goodpasture 症候群が原因として考えられた。第5病日に P-ANCA 高値の疑いあり、症状増悪傾向であったことから、検査結果が確定していないが MPA 疑いとしてステロイドパルス (mPSL 500 mg/day) を開始した。

第7病日に急性膵炎を発症し、ICU 入室の上加療した。同日に MPA の診断が確定し、IV-CY 500mg/body および血漿交換を開始した。また腎機能障害・アシデミアが進行したため CHDF を開始した。

病勢は徐々に改善し、第13病日には ICU を退室した。しかし第16病日に酸素化悪化、肺野の透過性低下を再度認め、MPA の増悪による肺胞出血の影響と判断され再度ステロイドパルス、後療法が施行された。第19病日以降、血痰排泄に伴う喀痰トラブルが出現し、酸素化低下をきたし、頻回な喀痰吸引が必要となった。

第21病日に定期的透析が終了後、喀痰排泄が著明となり吸引を繰り返していたが、その後より眼球上転・頸動脈触知不能となった。DNAR の方針となっていたため、蘇生処置は行わず永眠された。

7) 症例の問題点（剖検で解明したかった事項）

- (1) 死因として肺胞出血の増悪を疑っているが病理所見の確認。
- (2) 肺胞出血以外に肺炎や心不全を疑うような所見の有無。
- (3) 急性膵炎が ANCA 関連血管炎に起因するものかどうか。

9. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

- (1) 顕微鏡的多発血管炎

- 1-1 両側肺胞出血 (左:715g, 右:730g)
1-2 半月体形成性糸球体腎炎、腎硬化症
(左:98g, 右:90g)

(2) 脾炎 (慢性脾炎+急性炎症)

【病理所見】

肺は両側ともに重量増加を認め、剖面で肺全体に強い出血像を認め、組織学的にも新鮮な赤血球がみられる広範な肺胞出血、ヘモジデリン貪食マクロファージが認められた。遷延する肺出血を考える組織像であった。肺胞隔壁の毛細血管に高度な好中球浸潤を伴う血管炎が認められた。腎臓は大部分の糸球体に細胞性半月体、線維細胞性半月体を認め、ANCA 関連による半月体形成性糸球体腎炎の所見であった。

心臓に心不全の増悪や死因となりうる病変は認めなかった。脾臓には背景には脾管の拡張および脾管周囲の線維化、脾管上皮の扁平上皮化生、蛋白栓が散見され、慢性脾炎が認められた。壊死に近接した血管に好中球浸潤が一部で認められたが、二次的な血管炎症像の範疇と考えられた。

【総括】

両側肺の肺胞隔壁毛細血管の血管炎、肺胞出血、半月体形成性糸球体腎炎を認め、顕微鏡的多発血管炎の活動性炎症像であった。

2) 担当病理医: 前田紘奈、今井幸弘

3) 病理医からのコメント

顕微鏡的多発血管炎による肺胞出血にて死亡した1例と考えられる。

10. 考 察

MPA の治療経過中に急性脾炎を発症した一例を経験した。本例の死因に関しては、組織所見から厚生省 MPA 診断基準上の基準はみたしており、重症 MPA に伴う肺胞出血、呼吸不全の診断で矛盾しない。本例においては、経過は非典型的だが、血管炎に伴う急性脾炎が疑われた。MPA に伴う急性脾炎は少数だが報告が散見され、いずれも予後は不良である (2, 3)。本例においては、剖検にて血管炎と脾炎の関連は指摘し得ず、双方が独立して発症しているものと判断された。ステロイド投与は急性脾炎のリスクとされており (3)、急性脾炎の原因となった可能性がある。

11. 参 考 文 献

(1) Iida et al. World J Gastroenterol. 2016 Feb 21 ; 22 (7) : 2383 - 2390

(2) Chawla et al. JOP 2011 Mar 9 ; 12 (2) : 167 - 9

(3) Badalov et al. Clin Gastroenterol Hepatol. 2007 Jun ; 5 (6) : 648 - 61

第3回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症 例 テ ー マ : 原因不明のStaphylococcus epidermidis 菌血症が持続し、剖検にて初めて感染性心内膜炎と診断がつけられた一例

2. 診療科、主治医・受持医: 腎臓内科 中村和史

3. CPC 開催日: 2017年8月16日

4. 発 表 者 : 臨床側 (戸部陽太)
病理側 (長尾宗一郎)

5. 患 者 : 81歳、男性

6. 臨 床 診 断 : 持続菌血症

7. 剖 検 診 断 : 感染性心内膜炎

8. 臨 床 情 報 :

1) 現病歴

末期腎不全で当院かかりつけであり、内服薬の調整を受けていた。X-2月から徐々に呼吸困難感を感じるようになり、X-1月頃から尿量が低下したため当院救急外来を受診した。精査の結果、末期腎不全からの溢水と考えられ、腎臓内科に入院となった。入院中は大腿静脈単回穿刺で血液透析を施行し、除水を行うことで呼吸苦は消失した。今後も透析の継続が必要と考えられたためY-2日に退院し、他院で内シャントを作成した。内シャント発達までの透析施行と維持透析導入目的にてY日に再入院となった。

2) 既往歴・家族歴など

感染性心内膜炎 (1997年人工弁置換術、2013年感染人工弁抜去+人工弁再置換術)、収縮性心膜炎、発作性心房細動、末期腎不全、2型糖尿病

3) 診療所見

体温 36.4℃。呼吸数 20回/分。脈拍 64回/分。

血圧 100/64mmHg。SpO₂95% (Room Air)。

GCS E4V5M6。

心音整。両側下肺野で coarse crackle を聴取。

腹部平坦・軟、圧痛無し。両下腿浮腫無し

4) 主な検査データ

WBC 8700 / μL, RBC 280 万 / μL, Hb 9.2 g/dL, PLT 9.2 万 / μL, ALB 2.5 g/dL, AST 13 U/L, ALT 4 U/L, LD 285 U/L, BUN 62.5 mg/dL, Cre 4.50 mg/dL, Na 123 mEq/L, K 3.5 mEq/L, Ca 8.5 mEq/L, LDL - Cho

39 mg/dL, CRP 3.58 mg/dL, eGFR 11

血液培養結果 Staphylococcus epidermidis が 4/4 本で陽性。

心電図 64 回 / 分。正常洞調律。

5) 画像診断所見

胸腹部造影 CT 両側に胸水を認める。少量の腹水を認める。このほかに明らかな感染巣を認めない。

経食道心エコー X + 8, X + 15 日にそれぞれ施行し、いずれも弁に疣贅の付着、弁機能異常を認めない。

6) 経過・治療

入院当日に右内頸動脈に FDL を留置し、以降定期透析を施行した。Y + 2 日頃から慢性的な発熱があり、Y + 4 日に血液培養検査 4 / 4 本から Staphylococcus epidermidis が検出され続けた。Y + 8, 15 日に経食道心エコー (TEE) を施行したが、2 回とも心臓弁に疣贅等の IE を疑う所見はなく、続いて撮像した胸腹部造影 CT でも明らかな膿瘍形成は認めなかった。菌血症が持続する原因は不明であったが、IE が否定しきれなかったため、IE に対する治療に準じて VCM + ゲンタマイシン (GM) で治療を継続した。全身状態は横ばいであったが、Y + 21 日に突然 pulseless VT となり、CPA となった。約 30 分間 CPR を施行し、心肺蘇生を得ることができ、緊急心臓カテーテル検査にて冠動脈疾患がないことを確認後に PCPS を確立し、集中治療室に入室となった。入室後は、全身支持療法と共に、CPA 施行時に生じた外傷性血胸に対して血腫除去術を施行し、PCPS は離脱できた。しかし Staphylococcus epidermidis 菌血症は持続し、感染のコントロールはつかなかった。敗血症性ショックによると考えられる血圧低下、酸素化の悪化が進行し、Y + 26 日に死亡確認となった。

7) 手術所見

胸腔内を観察すると、血性胸水と血腫を大量に認めた。肺の虚脱は不良であり、肺水腫や肺挫傷の影響が考えられた。可及的に胸腔内の血腫を除去し、出血点の確認を行ったところ、前胸部の肋骨骨折部に一致した頭尾側方向に走る胸膜の亀裂を認め、出血部と考えられた。血腫除去したが、再出血は認めなかった。胸腔内を大量の生理食塩水で洗浄し、止血確認したが明らかな出血点や血性胸水の増量は認めなかった。28fr single lumen chest tube を肺尖部背側、20fr double lumen chest

tube を前胸部骨折部頭側に挿入し、型通り閉胸して手術終了した。

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

(1) 血液培養で Staphylococcus epidermidis 陽性が持続した原因は何か。

(2) X + 21 日に突然 pulseless VT となった原因は何か。

9. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

感染性心内膜炎・急性尿細管壊死・血球貪食像・肺小血栓塞栓

【その他病変】

外傷性血胸・ショック肝・虚血性腸炎・右内頸静脈器質化血栓

2) 担当病理医：藤倉航平

3) 病理医からのコメント

死因は感染性心内膜炎に起因する敗血症性ショックと考えられる。大動脈弁に疣贅を認め感染性心内膜炎の所見であった。グラム染色では陽性球菌が確認され、生前に提出されていた血液培養で検出された MRSE と矛盾しない所見と考えられる。表皮ブドウ球菌による敗血症性ショックが死因であったと考える。敗血症に付随する所見として、急性尿細管壊死、肺小血栓塞栓症、血球貪食症候群を認めたが、大動脈弁以外に感染フォーカスを指摘できなかった。右内頸静脈に FDL カテーテルを留置しており、同部には明らかな感染所見は指摘されなかった。因果関係は不明だが、感染性心内膜炎とそれに伴う敗血症性ショックにより pulselessVT が引き起こされ、その際に行った CPR による外傷性血胸が死の転帰を助長した可能性もある。

10. 考察

死に至った直接の原因は人工弁置換術後の大動脈弁における感染性心内膜炎による敗血症性ショックと考えられる。感染経路について、FDL 留置部の右内頸静脈には明らかな感染所見を認めないものの、大動脈弁以外の感染フォーカスもなく、臨床経過との関連からも FDL 感染をエンタリーとしたものとして矛盾しない。しかし、実際の治療経過中では経食道心エコーを繰り返し行うも弁膜疣贅や弁膜症などの感染性心内膜炎を疑う所見を認めず、唯一右内頸静脈の血栓の存在が熱源の可能性を示唆する所見であったため、両者の鑑別に苦慮した。

感染性心内膜炎の診断には Duke 診断基準が主に

用いられる。本症例では治療抵抗性の菌血症が右内頸静脈起源の可能性が否定できなかったことと、経食道心エコーでも疣贅の存在はおろか弁逆流の増悪すらも認めなかったことから、2つの大基準をともに満たすことができず、IE可能性ありにとどまった。経食道心エコーの人工弁での感染性心内膜炎における感度は86～92%であり、有用ではあるものの偽陰性も少なからず存在する。人工弁での感染性心内膜炎診断のためのツールとして、FDG-PET/CTAが有用かもしれない。Duke診断基準でIE可能性と診断された人工弁および心腔内人工物挿入患者92人において、心腔内でのFDGの有意な取り込みを認めた患者45人のうち、22人で感染性心内膜炎が確認された(残りの23人は否定された)。ただし、本症例では治療抵抗性を確認した時点で人工弁感染性心内膜炎に準じた抗菌薬加療が行われていること、また手術適応についても年齢、腎機能障害や心機能低下を考慮すると施行は困難であったと考えられ、感染性心内膜炎診断が本患者の予後に寄与したかは疑問である。

11. 参考文献

Pizzi MN, Roque A et al. Improving the Diagnosis of Infective Endocarditis in Prosthetic Valves and Intracardiac Devices With 18F - fluorodeoxyglucose uptake as a novel major criterion. J Am Coll Cardiol 2013 ; 61 : 2374

【症例2】

1. 症例テーマ：膿胸治療中に血小板減少と水疱性天疱瘡を発症し原因不明の呼吸不全で死亡した一例
2. 診療科、主治医・受持医：総合診療科 井本寛東
3. CPC開催日：2017年8月16日
4. 発表者：臨床側(林 克磨)
病理側(山本 覚)
5. 患者：84歳、男性
6. 臨床診断：ウイルス性肺炎
7. 剖検診断：肺炎
8. 臨床情報：
 - 1) 現病歴
X-10週 呼吸困難があり近医受診し、S.anginosusによる右肺膿胸としてドレーン留置、ABPC/SBTで加療していた。X-9週 PCGに変更した。X-8週全身の水疱が出現し当院転院。水疱性類天疱瘡と診断し PLS45mg/日+IVIgで治療、薬疹も考慮され

CEZに変更。X-8週 誤嚥のため PIPC/TAZに変更。X-6週 ABPC/SBTに変更、PCP予防のためのST合剤開始。X-5週 血小板低下のためST合剤中止。X-4週 ST合剤再開。X-2週 当院から前医へ転院。X-4日 血小板減少のためST合剤中止。X日 尿道内で膀胱内バルン拡張ありバルン抜去。その際に血尿・血圧低下・意識レベル低下あり、当院転送

2) 既往歴・家族歴など

77歳：両側眼瞼下垂手術、81歳：上葉肺癌切除術、腹部大動脈瘤 人工血管置換術、ポリープ状脈絡膜血管症、狭心症 左前下行枝ステント留置、発作性心房細動、IPMN

3) 診療所見

身長163cm、体重66.9kg
GCS E4V5M6、T 36.6℃、RR 12/min、SpO2 98% (RA)、HR 78bpm (整)、BP 105/72mmHg
頭部：眼瞼結膜蒼白・眼球結膜黄染・点状出血・
口腔内出血点なし
頸部：リンパ節腫脹なし
胸部：心音 副雑音・過剰心音なし呼吸音 清
腹部：平坦、軟、腸蠕動音正常、圧痛なし
四肢：両下腿に浮腫あり

4) 主な検査データ

血液検査：
[血算] WBC $16.6 \times 10^3/\mu\text{L}$ (Blast 0%, Promyelo 0.0%, Myelo 0.5%, Meta 0%, Band 4.0%, Seg 88.5%, Lymph 3.0%, Mono 4.0%, Eos 0.0%, Baso 0.0%), Hb 9.4 g/dL, MCV 96 fL, Plt $2.0 \times 10^4/\mu\text{L}$
[生化学] Na 137 mEq/L, K 3.0 mEq/L, Ca 8.3 mg/dL, P 4.9 mg/dL, TP 4.9 g/dL, Alb 2.2 g/dL, T-Bil 0.8 mg/dL, AST 21 U/L, ALT 19 U/L, LDH 284 U/L, UN 73.1 mg/dL, Cre 2.56 mg/dL, Glu 231 mg/dL, CRP 6.78 mg/dL

5) 画像診断所見

座位胸部X線：浸潤影無し
頭部CT：急性期病変無し
胸部CT：右少量胸水、左肺上葉に陰影あり。胃壁の浮腫状肥厚

6) 経過・治療・手術所見

入院当日に意識障害と低血圧は来院時には改善されており、血尿も止まっていた。血小板減少は破碎赤血球・腎障害・LDH上昇・ハプトグロビ

ン低下しており血栓性微小血管障害症を疑った (ST 合剤, プロトンポンプ阻害薬が被疑薬)。CT で肺萎縮認め膿胸の治療は継続が必要と判断し ABPC/SBT 開始となった。膿胸は縮小から 6 週間の治療期間を予定し、入院 17 日目で治療終了となった。第 5 病日に貧血と血小板減少が進行し、薬剤性を疑い ABPC/SBT を CLDM に変更。第 7 病日に血小板減少が進行し、プロトンポンプ阻害薬も中止。第 10 病日に左肺野 consolidation、低酸素血症認めた。PCP の関与を考え β D グルカンの陰性が確認されるまでペンタミジンを投与した。血小板減少に対し自己免疫性溶血性貧血も考え 20mg に漸減されていた PSL25mg に増量した。第 11 病日に呼吸状態悪化し NIV (CPAP5 / FiO2 0.4 SO2 90% 程度) 装着。CMV 肺炎をみきりで治療 (ガンシクロビル) 開始した。その後診断目的で挿管管理下で BAL 施行した。第 13 病日 BAL 検体 PCR から SHV-1、CMV が検出された。第 14 病日呼吸状態悪く再挿管第 16 病日 VAP として MEPM/VCM で治療開始 心房細動持続し、プロプラノロール、K / Mg 補充で洞調律にもどった。第 17 病日心房細動続き DOAC 開始した。第 19 病日酸素必要量増大し血圧低下も認めた。敗血症性ショックに対しハイドロコトンを使用した。第 21 病日 AM 5 時：心房細動頻発しプロプラノロール使用したが、低血圧進行し NA 増量した。PM 1 時：初期波形脈無し VT に対しアドレナリン 1 A と除細動で sinus に復帰した。ROSC 後心臓超音波は hypovolemia で虚血や肺塞栓を疑う所見は無かったがその後ガスフォローで経時的に Lac 上昇。第 21 病日 PM19 時：徐脈進行し 19:43 死亡確認。

7) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

- (1) 肺にウイルス感染はあったのか。呼吸不全の原因は何か
- (2) 心房細動を引き起こす器質的疾患があったか
- (3) 血小板減少は薬剤性か。微小血栓の有無は

9. 剖 検 情 報

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

- (1) 肺炎 (CMV、HSV によるウイルス性肺炎の疑い・治療後) (右肺:430g (右下葉切除後)、左肺:512g)
 - 1-1 びまん性肺胞障害 (増殖期)
 - 1-2 喫煙による肺気腫・線維化病変

1-3 左胸水 (黄色透明、1400ml)

1-4 右胸腔癒着、右肺膿胸 (ドレーン留置、治療後)

(2) 右下葉肺癌 (右肺下葉切除後)

【副所見】

- (1) 膵 IPMN
- (2) 冠動脈前下行枝ステント留置後 (460g、不安定狭心症)
- (3) 水疱性類天疱瘡治療後
- (4) 脾石灰化病変 (70g)
- (5) 胃びらん
- (6) 肝うっ血
- (7) 小腸うっ血
- (8) 大腸点状出血
- (9) 動脈硬化 (高度)
- (10) 腹部大動脈瘤 (人工血管置換術後)

2) 担当病理医：前田紘奈

3) 病理医からのコメント

死亡 11 日前から急激に酸素化の低下が出現、死亡 10 日前の BAL にて CMV/HSV-1 検出されており、この時点でウイルス性肺炎が成立していた。酸素化低下の同日より GCV 開始され感染自体は治療されたが、感染による DAD が浸出期～増殖期に至っており酸素化が改善しなかったと考えられる。膿胸、腎機能低下あり、上記によって更に全身状態悪化し VT、心停止に繋がった。肺には肺気腫があり、浸潤影を認めた部位には浸出期～増殖期 DAD もみられた。CMV 感染細胞は認められなかったが、ウイルス性肺炎の経過として矛盾しない。心臓には不整脈の原因となるような組織学的変化は認めなかった。微小血栓は認めず、骨髄からも血小板減少の原因は不明である。

10. 考 察

膿胸治療中に血小板減少、呼吸不全の増悪を呈し死に至った症例を経験した。PCR の結果および臨床経過からは CMV の関与が疑われた。CVM 肺炎は診断が難しく、BALF を用いた PCR では感度 100%、特異度は 50%とされている [1]。抗ウイルス剤治療後であり病理結果から確定診断は得られなかった。CMV 肺炎は移植患者における報告は多いが、ステロイド単剤で他疾患を治療中の患者に対しての報告は少ない。敗血症で ICU 入室した患者の 32.4% に血清から CMV 抗原陽性多核白血球が検出されており、それは腎移植後患者における割合に匹敵するという報告がある [2]。当麻急性呼

吸不全を呈し ICU 入室した患者の 17.1%が CMV を併発しており、ICU 入室時の septic shock に対するステロイド投与が Odds 比として 90 とリスクになっていた。Ganciclovir に加え CMV 抗体高力価含有免疫グロブリン製剤の併用も推奨されているが、骨髄抑制などの副作用もあり、有効性の面からも症例を選ぶ必要があるとされている。ICU 入室患者で CMV 肺炎を発症すると、非発症患者に比べて死亡率が 2.3 倍増加する [4]。本症例は CMV 肺炎として適切な治療は行われていたが、肺の損傷は大きく全身状態の悪化からも呼吸不全を改善させることは困難と推察された。

11. 参考文献

- [1] Blood.1993; 81: 1909-14
- [2] Clin infect Dis.1998; 26: 1076-82
- [3] JJAAM.2012; 23: 183-91
- [4] Crit Care Med.2008; 36: 3261-3

第4回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症例テーマ：路上で転倒して搬送となり、低体温・低血糖・乳酸アシドーシスで入院となった 81 歳男性
2. 診療科、主治医・受持医：
3. CPC 開催日：2017 年 10 月 18 日
4. 発表者：臨床側（梶浦晋司、金森真紀）
病理側（前田紘奈）
5. 患者：81 歳、男性
6. 臨床診断：非閉塞性腸管虚血
7. 剖検診断：非閉塞性腸管虚血
8. 臨床情報：
 - 1) 現病歴
入院当日の 16 時頃、新開地にポートルースを見に行こうと外出して、路上で転倒した。明らかな前駆症状はなく、前のめりに手をつけて転倒した。腹部打撲なし。通行人が目撃し救急要請されるが、歩行可能であり、患者本人の搬送拒否の意思もあったため、救急隊は反転する。その 2 時間後、帰宅しようとして再度路上で転倒し、前のめりに手をつき、その勢いで前額部を打撲した。倒れているところを通行人が目撃し、歩行困難であったため、当院救急外来へ搬送となる。
 - 2) 既往歴・家族歴など
なし
 - 3) 診療所見

GCS:E4V4M6, Vital sign: 体温:30.5°C (腋窩音)
脈拍: 81 回/分 血圧: 170/90mmHg 呼吸数: 16 回/分 SpO2: 99% (RA) 頭頸部: 眼球結膜黄染なし、眼瞼結膜貧血なし、点状出血なし。前額部に数 mm の擦過傷あり。口腔内乾燥なし。頸静脈怒張なし。

胸部: 心音 I → II → III (-) → IV (-)、肺野聴診
no wheezes, no crackles.

腹部: 平坦・軟。腸蠕動音は正常範囲内。圧痛なし。

四肢: 左手関節腫脹・圧痛あり。右手背に腫脹・皮下出血あり。

4) 主な検査データ

〈血液検査〉

WBC: $23.9 \times 10^3 / \mu\text{L}$, RBC: $470 \times 10^4 / \mu\text{L}$, Hb: 14.5g/dL, Ht: 43.4%, PLT: $21.2 \times 10^4 / \mu\text{L}$, TP: 7.6 g/dL, ALB: 4.4 g/dL, T-Bil: 1.0 mg/dL, AST (GOT): 193 IU/L, ALT (GPT): 44 IU/L, LD: 548 IU/L, CK: 10536 IU/L, アミラーゼ: 77 IU/L, 尿素窒素: 75.9 mg/dL, クレアチニン: 2.40 mg/dL, Na: 141 mEq/L, K: 5.6 mEq/L, Ca: 8.7 mg/dL, Glu: 47 mg/dL, CRP: 2.23 mg/dL, PT-INR: 1.13, CK-MB 259.0 IU/L, Tro-I 0.199 ng/mL, PROBNP 4343.0 pg/mL, エタノール < 3.0 mg/dL, ACTH 274.3 pg/mL, コルチゾール 101.2 $\mu\text{g/dL}$, TSH 0.91 $\mu\text{U/mL}$, FT4 1.70 ng/dL, インスリン 0.6 $\mu\text{U/mL}$, CPR 0.69 ng/mL, ビタミン B1 5.0 $\mu\text{g/dL}$

5) 画像診断所見

〈胸部 X 線〉

心拡大なし、肺野に浸潤影は認めない、両側 C-P angle sharp

〈頭部～腹部単純 CT〉

頭部: 頭蓋内出血なし。胸腹部: 肺尖部に陳旧性炎症性変化あり。気腫性変化あり。右下葉に結節を認める。膵石と主膵管軽度拡張を認める。左鼠径ヘルニアあり。腸管拡張や周囲の脂肪織濃度上昇なし。四肢: 左橈骨遠位端骨折を認める。

〈心電図〉

洞調律 (HR78bpm)、多発性心室性期外収縮

6) 経過・治療

転倒による筋挫滅が起き、横紋筋融解症と偶発性低体温症を来したと考えられた。転倒の原因については、痙攣や低血糖、感染などが鑑別に残り、各種培養提出された。50% ブドウ糖とビタミン投与され、上記加療目的に総合内科入院となっ

た。上肢の骨折に関しては、整形外科コンサルトの上、保存的加療の方針となった。

入院2日目の午前中も、乳酸高値が持続しており、腹部全体の圧痛を認めていたため、腸管虚血の鑑別は挙げた。自発痛はなく、腎機能障害も認めていたため、造影CTの閾値は超えないと判断し、血液ガスのフォローを見て経過観察の方針となった。救急外来で提出された血液検査で *Streptococcus agalactiae* が陽性となり、CEZでの治療を開始した。午後に入り、呼吸回数増加、腹膜刺激症状が出現し、造影CTを撮影したところ、腸間膜動脈に明らかな閉塞や狭窄はないが、遠位空腸～回腸末端に造影不良および腸管気腫を認めた。腹腔内に free air を認める腹膜の造影効果が強く、脂肪織濃度が上昇しており、NOMI と穿孔性腹膜炎の診断となり、対応について外科にコンサルトを行った。手術による救命が困難であり、術後の短腸症候群などの合併症や人工肛門造設後の介護者がいない点を考慮して、また患者本人と話し合い手術は行わない方針となった。経時的に呼吸循環動態が不安定になり NAD を開始し、抗生剤は腹膜炎に対応するために、PIPC/TAZ に変更したが、同日夕方に永眠された。

7) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

- (1) 腸管栄養血管に閉塞起点はないか。
- (2) NOMI の原因となるような心疾患や腎疾患はあるか。
- (3) *Streptococcus agalactiae*/*Peptostreptococcus* sp. の侵入門戸は腸管か？

9. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

- (1) 非閉塞性腸管虚血 (小腸主体)
 - 1-A. 非閉塞性腸管虚血
- (2) ガス壊疽 (グラム陽性桿菌)
 - 2-A. 多臓器壊死・気腫像 (胃、小腸、結腸、直腸、肝臓、脾臓、腸腰筋)

【副所見】

- (1) 陳旧性心筋梗塞
- (2) 動脈硬化
- (3) 肺うっ血

【主な病理学的所見】

死後14時間で解剖。頸部・上肢・背部・両側下肢の皮膚は暗赤色に変色し、腐敗臭が強い。頸部・両側上肢に握雪感を認めた。

剖検時、腹部固く膨隆していた。開腹時に腹腔内からの便臭はなく、腹腔内にも腸管内容物の漏れはなかった。腸管は全体的に腫大し、腸管壁は菲薄化や暗黒色のうっ血、壊死を認め、特に空腸～回腸に所見が強かった。腹腔動脈3枝分岐部、上腸間膜動脈、下腸間膜動脈に血栓や狭窄はなかった。腸管には粘膜から筋層にかけて壊死していたが血栓はなく、非閉塞性腸管虚血として矛盾しない。空腸～回腸、結腸～直腸の腸管漿膜面、腸間膜に気腫があり、腸管壊死にガス産性菌による感染が合併したと考えられた。空腸から直腸に穿孔は認められなかった。

肝表面には気泡を認め、肝臓は表面、実質がびまん性暗緑色であった。肝臓はスポンジ状で脆弱であった。組織では肝細胞は広範に壊死し、ラム陽性桿菌の細菌塊が無数に認められ、ガス壊疽の原因菌と考えられた。腎臓の凝固壊死部にもグラム陽性桿菌を認めた。副腎、脾臓に凝固壊死が認められた。胃壁、脾臓にも気腫を認めた。諸臓器の小血管には動脈硬化が認められた。

2) 担当病理医：前田紘奈

3) 病理医からのコメント

小腸壊死は非閉塞性腸管虚血として矛盾しない。小腸を主体に、胃、結腸、直腸、肝臓、脾臓、腸腰筋等全身臓器に気腫が観察された。肝臓・腎臓には無数のグラム陽性桿菌の集塊が認められ、生前の血液培養結果 (*Streptococcus agalactiae*, *Peptostreptococcus* sp.) と併せ、*Clostridium perfringens* 等の *Clostridium* 属によるガス壊疽と考えられた。感染経路は非閉塞性腸管虚血による腸管壊死部から侵入し全身に浸食したと考えられた。

10. 考察

非外傷性ガス壊疽は外傷と無関係に発生することがあり、結腸癌、炎症性腸疾患、憩室炎、壊死性腸炎、消化管手術後などをきっかけとして、消化管から血行性に播種して発症するとされている。多量の組織内ガス産生を伴う組織破壊が急激に進行し、多臓器不全に至る。本症例ではNOMIにより壊死した腸管を門戸として *Clostridium* 属が増殖した可能性や、侵入門戸不明なガス壊疽により腸管壊死および多臓器の凝固壊死をきたした可能性が考えられた。

11. 参考文献

- 1) Gorbach SL. et al. Clostridium perfringens and other clostridia. Infectious Diseases, 1992
- 2) Lorber B. et al. Gas gangrene and other Clostridium - associated diseases. Principles and Infectious Diseases, 2005

【症例2】

1. 症例テーマ：皮膚筋炎による急速進行性間質性肺炎により死亡したと考えられる一例
2. 診療科、主治医・受持医：呼吸器内科 河内勇人
3. CPC開催日：2017年10月18日
4. 発表者：臨床側（鷲見季彦、河内勇人）
病歴側（高橋駿太、藤倉航平、山下大祐）
5. 患者：69歳、男性
6. 臨床診断：皮膚筋炎による急速進行性間質性肺炎
7. 剖検診断：急速進行性間質性肺炎、皮膚筋炎
8. 臨床情報：
 - 1) 現病歴

当院入院の21日前（以下、当院入院は省略）頃から咳嗽が出現し、14日前頃からは発熱が出現、7日前頃から呼吸困難感が出現した。4日前、呼吸困難感の増悪を認めたため前医を初診で受診した。その際にリザーバーマスク10L/minでSpO₂：94%の低酸素血症を認めた。胸部CTで両背側にすりガラス陰影と浸潤影を認め、急性呼吸窮迫症候群の診断で前医に緊急入院となり、同日より人工呼吸器開始された。ピペラシリン/タゾバクタム（PIP/TAZ）とシプロフロキサシン（CPFX）の投与、ステロイドパルス（3日間）で加療開始された。血液検査ではANCA抗体陰性、抗CCP抗体陰性、SP-D基準値以内であった。1日前にはステロイドは1mg/kgに減量された。上記加療にも関わらず、呼吸状態は悪化傾向であったため、気管挿管を施行された後、当院転院となった。

2) 既往歴・家族歴など

木造家屋の築15年に居住、元自衛隊の音楽団（トロンボーン）

3) 診療所見

身長171cm、体重59.6kg

Vital signs (来院時)：GCS E2VtM6（プロポフォル持続静注下）、BP 163/84mmHg、HR 80/分、RR 24/min、SpO₂ 94%（mode：CPAP、FiO₂：80%、

PEEP：10cmH₂O）、BT 37.0℃

身体所見：

顔面 皮疹は認めない

四肢 右肘関節角化性局面、左手掌に外傷性水疱、右母指と示指指尖に角化性皮疹を認める

4) 主な検査データ

<血液検査>（当院入院時）

[血算]

WBC 11.6×10³/μL, RBC 408×10⁴/μL, Hb 12.5 g/dL, Ht 38.6%, MCV 95 fL, Plt 18.1×10⁴/μL

[凝固]

PT-INR 1.12

[生化学]

Na 142 mEq/L, K 3.8 mEq/L, Ca 7.3 mg/dL, TP 4.9 g/dL, Alb 1.9 g/dL, T-Bil 0.6 mg/dL, AST 73 U/L, ALT 48 U/L, LDH 491 U/L, BUN 23.6 mg/dL, Cre 1.20 mg/dL, CK 142 U/L, Glu 156 mg/dL, CRP 1.20 mg/dL, PROBNP 1446.0pg/ml, KL-6 857 U/ml, B-D グルカン <6.0 pg/ml SP-D 327.0 ng/ml, 抗核抗体陰性, 抗RNP抗体陰性, 抗SSA抗体陰性, 抗SSB抗体陰性, 抗Scl170抗体陰性, 抗ARS抗体陰性, 抗CCP抗体, 抗Jo1抗体陰性, 抗セントロメア抗体, P-ANCA陰性, C-ANCA陰性

[動脈血ガス]

pH 7.426, pO₂ 61.3 Torr, pCO₂ 41.8 Torr, HCO₃⁻ 27.0 mmol/L, AG 8.0 mmol/L, Lac 1.3 mmol/L

[気管支肺胞洗浄所見 (BAL)]

左肺舌区より採取 細胞数 39.0 × 10⁴/ml, 顆粒球 22%, リンパ球 15%, マクロファージ 63%, 好酸球 0%, 好塩基球 0%, その他 0%, CD 4/CD 8 1.9 (回収率不明)

5) 画像診断所見

[胸部単純X線]

両側下肺野に浸潤影、C-P angle は dull

[胸部造影CT]

両肺に非区域性の広範囲のすりガラス影・浸潤影、両側胸水を認めるが明らかな蜂巣肺は認めない

6) 経過・治療

両側肺すりガラス陰影と急性1型呼吸不全を認めたため、同日ICU入室し人工呼吸器管理とした。膠原病関連間質性肺炎やANCA関連血管炎、ARDSが鑑別に挙がり、四肢皮膚所見と抗菌薬加療、ステロイドパルス療法に対して反応性が乏しいことから、筋症状を伴わない皮膚筋炎（CADM、

clinically amyopathic dermatomyositis) による間質性肺炎が鑑別上位に上がった。呼吸状態が悪化傾向であることから、プレドニゾロン60mg/day とシクロホファミド大量静注療法、シクロスポリン150mg/day を開始した。画像所見では肺炎に特徴的な浸潤影はなく、抗菌薬加療でも改善の傾向がないため、PIPC/TAZ と CFX は中止した。皮疹が膠原病関連の皮膚所見か判然とせず、コンサルテーションでは Gottron 徴候、逆 Gottron やヘリオトロープ疹、mechanic hand は否定的であった。当院入院6日目には血清K上昇と急性腎障害を認め、腎機能も悪化した。この頃より血球減少を認め、シクロスポリンによる骨髄抑制が疑われたため漸減、中止とした。当院入院時にはプロポフォール持続静注下で意識はE2VtM6と比較的保たれていたが、低酸素血症の進行に伴い悪化傾向で、当院入院7日目にはE1VtM1まで悪化し以降は改善を認めなかった。当院入院後に提出した抗CADM-140抗体検査で陽性を認め、CADMによる間質性肺炎として加療継続したが、治療反応性は乏しかった。入院10日頃から血圧が80/50台mmHgまで低下を認め、以降はノルアドレナリンを持続静注開始して血圧を維持した。またこの頃にHbは12g/dLから6g/dlに低下し、黒色便を認めたことから上部消化管出血が疑われた。酸素化の改善も期待してRCC-LR6単位、PC-LR10単位輸血した。免疫抑制剤使用中で有ることから敗血症性の血圧低下の可能性を考慮してメロペネム1000mg/day + バンコマイシン600mg/day + ミカファンギン/100mgの投与を開始した。しかし呼吸状態は悪化し、救命は困難であると判断した。患者の家族と蘇生のCodeを確認し、昇圧薬、抗菌薬などの薬剤は中止もしくは最小限のとして、蘇生しない方針とし、当院入院14日目に死亡した。

7) 手術所見：

なし

8) 症例の問題点（剖検で解明したかった事項）

- (1) 低酸素血症、呼吸不全の原因は皮膚筋炎による間質性肺炎か
- (2) 肺以外の臓器で皮膚筋炎を示唆する所見はあったか
- (3) 直接死因はなにか

9. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

(1) 皮膚筋炎疑い (MDA-5抗体陽性)

- 1-1) 落屑様皮疹(両側手指先端)(逆 Gottron 徴候)
- 1-2) 紅斑(肘部背側)
- 1-3) 急速進行性間質性肺炎
 - 1-3-1) 肺出血
 - 1-3-2) 胸水貯留
 - 1-3-3) 肺気腫
 - 1-3-4) 間質線維化
 - 1-3-5) 硝子膜形成

(2) 膀胱癌 (Invasive urothelial carcinoma, G3/high, 4.3cm大, 偶発癌)

【副病変】

- (1) ショック肝
- (2) 急性尿細管壊死
- (3) 肝臓海綿状血管腫
- (4) 胃消化管間質腫瘍 (GIST)
- (5) 右腎嚢胞

2) 病理医：高橋駿太、藤倉航平、山下大祐、今井幸弘

3) 病理医からのコメント

肉眼では両側手指先端の落屑様皮疹、肘部背側の紅斑、間質性肺炎が見られ、皮膚筋炎に矛盾しない所見である。組織では広範な急性間質性肺炎の所見でありDAD patternである。腸腰筋、後頸筋、食道周囲筋、その他各臓器に、炎症所見は指摘できなかった。膀胱腫瘍は尿路上皮癌であった。

10. 考察

皮膚筋炎に伴う急性進行性間質性肺炎が直接死因である。組織では広範な急性間質性肺炎の所見が観察され、DAD patternに相当する。MDA-5抗体陽性と併せて、皮膚筋炎による間質性肺炎として矛盾しない¹⁾。MDA-5抗体陽性皮膚筋炎では、臨床的に筋症状を呈さないことが知られており、本症例でも筋肉の炎症所見はみられなかった。肉眼的に紫斑や逆 Gottron 徴候が観察されたが、これも高率に合併することが報告されている²⁾。ショック肝、ショック腎は呼吸状態の悪化に伴うものと考え、死の流れを助長した可能性があった。臨床的に疑われていた消化管出血は確認されなかった。

11. 参考文献

- 1) Sato S, et al. RNA helicase encoded by melanoma differentiation - associated gene 5 is a major

autoantigen in patients with clinically amyopathic dermatomyositis : Association with rapidly progressive interstitial lung disease. Arthritis Rheum 2009

- 2) Fiorentino D, et al. The mucocutaneous and systemic phenotype of dermatomyositis patients with antibodies to MDA5 (CADM-140) : a retrospective study. J Am Acad Dermatol 2011

第5回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症 例 テ ー マ : 突然発症の顔面神経麻痺を呈し診断されたリステリア脳幹脳炎の1例
2. 診療科、主治医・受持医 : 総合内科 井本寛東
3. CPC 開催日 : 2017年12月20日
4. 発 表 者 : 臨床側 (岡山裕介、井本寛東)
病理側 (米ヶ田真之介、高橋祐一)
5. 患 者 : 79歳、女性
6. 臨 床 診 断 : リステリア脳幹脳炎
7. 剖 検 診 断 : リステリア脳幹脳炎
8. 臨 床 情 報 :

1) 現病歴

入院7ヵ月前に不明熱・倦怠感で近医を受診し、炎症反応上昇のため当院を紹介された。5ヵ月前より右大腿部痛が出現し血管炎を疑い4ヵ月前にPET-CTを撮像した。両側上腕と大腿動脈に集積亢進を認め、中～大血管炎としてPSLとMTXによる治療を行っていた。入院2週間前に夫が他界し、以後倦怠感と食事摂取量が半分に減少していた。入院2日前に鼻汁と咳嗽が出現し、入院前日には転倒し背部を打撲した。入院当日は当院の定期外来受診日で来院した。

2) 既往歴・家族歴など

高血圧、糖尿病、脂質異常症、脳動脈瘤、血管炎

3) 診療所見

身長160cm、体重64.3kg

Vital signs : 意識清明、体温36.8℃、脈拍86回/分、
血圧132/86 mmHg、SpO₂96% (室内気)、呼吸数20回/分

頭部 : 瞳孔3mm/3mm、対光反射+/+、口腔内
白苔あり

頸部 : リンパ節腫脹なし、項部硬直なし

胸部 : 心音 整、雑音なし、呼吸音 清

腹部 : 平坦、軟、圧痛なし

四肢 : 下腿に非圧痕性浮腫あり

関節 : 両側胸鎖関節・胸肋関節に圧痛あり

4) 主な検査データ

〈血液検査〉

WBC 11300 / μ L, Hb 13.3 g/dL, PLT 32.1×10^4 / μ L, TP 5.8 g/dL, ALB 3.0 g/dL, T-Bil 0.6 mg/dL, AST 18 IU/L, ALT 23 IU/L, LD 290 IU/L, ALP 212 U/L, γ -GT 90 U/L, 尿素窒素 14.2 mg/dL, クレアチニン 0.55 mg/dL, Na 120 mEq/L, K 4.8 mEq/L, Ca 8.7 mg/dL, Glu 436 mg/dL, HbA1c 7.3%, CRP 3.94 mg/dL, 血清 Osm 270mOsm/kg, TSH 1.8 μ IU/mL, FT 4 1.30 ng/mL, ESR 83mm/1h

〈尿検査〉

白血球 (-), 亜硝酸塩 (-), Na 21mEq/L, K 40.4mEq/L, Osm 596mOsm/kg

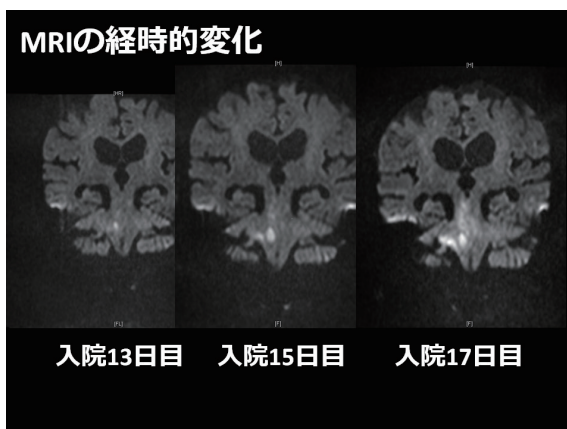
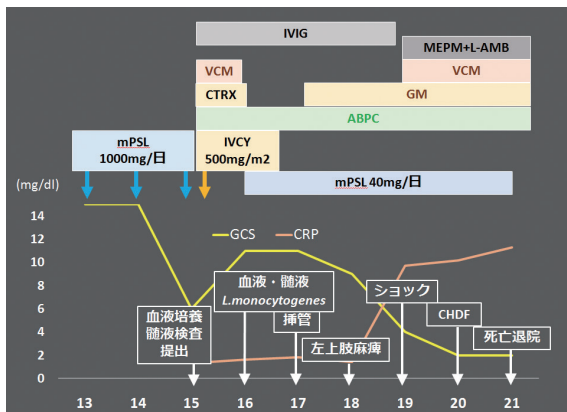
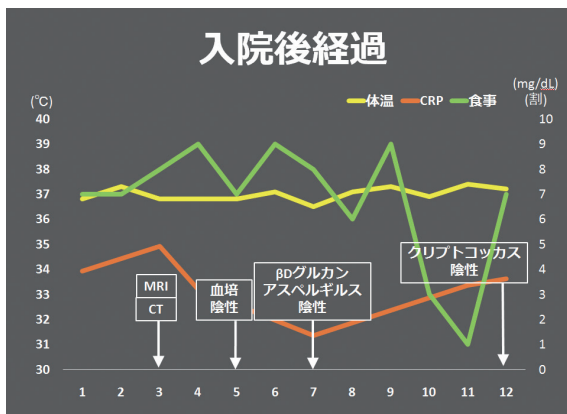
5) 画像診断所見

〈胸部単純CT〉

両肺野にすりガラス影～小結節影、既知の索状影あり

6) 経過・治療

原因は不明だったが、入院後に食欲不振は自然軽快した。入院10日目に退院を予定したが、再度食欲不振を認めたため延期した。入院13日目朝に突然右顔面神経麻痺を発症した。頭部MRIで両側脳幹梗塞を認め、左椎骨動脈に狭窄を認めたことから血管炎増悪に伴う脳梗塞と考え、ステロイドパルスとDAPTを開始した。入院15日目朝に意識障害と痙攣様運動、発熱を認めたため、頭部MRI再検と髄液検査、脳波を撮像した。MRIでは右橋背側～上小脳脚に高信号域の拡大を認め、両側椎骨動脈～脳底動脈壁に造影効果を認めた。脳波ではてんかん波は認めなかった。髄液検査では細胞数上昇 (多形核優位) と蛋白上昇・糖低下を認めたが、髄液Gram染色は陰性であった。血管炎治療不十分の可能性や細菌性髄膜炎を考慮し、IVCY500mg/m² と CTRX2g q12h + VCM1g q12h + ABPC2g q6h で治療を開始した。入院16日目に血液培養よりGPRを検出し、17日目に血液・髄液培養よりListeria monocytogenes と培養結果が判明した。リステリア脳幹脳炎と考え、ABPC2g q4h + GM100mg q8h に治療を変更したが、同日に呼吸状態が悪化し挿管管理となった。入院18日目に左上肢麻痺が出現し、頭部MRIで脳幹病変の進展を認めた。入院19日目にショックとなりICUに入室し、21日目に死亡退院となった。



7) 症例の問題点 (剖検で解明したかった事項)

脳幹培養は陰性だったが、脊髄膿瘍は培養陽性であった。膿瘍は脳幹から進展したものか、新規に出現したものなのか

9. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

- (1) *Listeria* 脳幹脳炎 (抗生剤加療後状態) (1128g)
 - a) 右中脳から橋の変性・壊死
 - b) 延髄から頸髄の白質壊死・膿瘍
 - c) 髄膜炎

【副病変】

- (1) ショック肝 (1015g)
- (2) ショック腎 (左: 138g, 右: 151g)

(3) 腸管虚血 (大腸・小腸)

(4) 出血傾向

- a. 全身皮膚の紫斑・内出血・浮腫
- b. 口唇浮腫・出血
- c. 腸腰筋出血
- d. 淡血性腹水 (550ml)

(5) 陳旧性心筋梗塞 (519g)

(6) 大動脈粥状硬化症 (中等度, 一部高度)

(7) 胸水 (淡褐色 左: 300ml, 右: 600ml)

2) 担当病理医: 高橋祐一

3) 病理医からのコメント

病理所見から直接死因は *Listeria* 脳幹脳炎と考える。組織学的には中脳、橋、延髄、頸髄に変性や壊死あるいは膿瘍の像を認め、生前にMRIで指摘された領域にほぼ一致していたが、グラム染色では細菌を認めなかった。頸髄膿瘍の塗抹標本及び膿瘍の培養ではグラム陽性桿菌が検出され、リステリアが存在していたものと考えられる。16S rRNAのPCRでもリステリアが検出されていない部位も存在し、抗生剤加療により残存している菌体量はわずかであったと考えられ、他臓器のグラム染色では菌体を認めなかった。またGrocott, PAS, ギムザ染色も陰性も他の起病菌を認めなかった。脳幹脳炎は広範にわたり、直接死因になりうると考えられた。

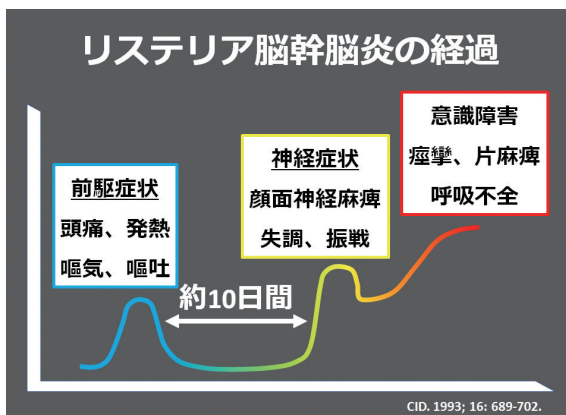
臨床的には血管炎の可能性が指摘されていたが、作成した標本の範囲内では全身の大型から小型までの動脈に明らかな炎症や壊死は見られず、血管炎を積極的に考える所見は指摘できなかった。大腿動脈にも癒痕を含め明らかな病変は指摘できなかった。しかし血管炎は時間的・空間的に病変が移動する可能性があり、半年以上の加療が加わっているため血管炎が過去にあったことを完全に否定する所見ではないと考える。

中脳から延髄のレベルでは、顔面神経核、外転神経核、舌下神経核、その他の神経核、神経路のある領域にまたがって変性や壊死が観察された。病変の範囲からは神経に沿って上行性に *Listeria* が感染した可能性も考えられるが、神経核から感染が波及したと断定するには至らなかった。感染経路の特定には *Listeria* が標本中に観察されることが必須な所見と考える。

10. 考察

突然発症の顔面神経麻痺から診断されたリステリア脳幹脳炎の一例を経験した。リステリアによる脳

幹脳炎は Rhombencephalitis とされる。免疫正常者に多くみられ、性差はない。二相性の経過を辿り、片側性の脳神経障害がすべての患者で生じる (*1)。特に V VI VII IX X II が侵されやすい (*2)。リステリア脳幹脳炎の定型的な経過を下図に示す (*3)。本症例においても炎症反応上昇や食欲不振が出現し、その後 10 日程度で突然発症の右顔面神経麻痺を認めるという二峰性の経過が認められた。予後は総死亡率が 51%、神経学的後遺症を 61% に認める (*3)。本症例は血管炎増悪との鑑別に苦慮した一例であったが、血管炎の場合には頭蓋外脳血管に炎症をきたすことが鑑別になると考えられた (*4)。



11. 参考文献

- *1 : Curr Neurol Neurosci Rep 2011 ; 11 : 543 – 552.
- *2 : Virulence 2012 ; 3 : 213 – 221.
- *3 : CID. 1993 ; 16 : 689 – 702.
- *4 : Medicine (Baltimore). 2014 Dec ; 93 (28) : e265.

【症例 2】

1. 症 例 テ ー マ : 胸骨圧迫による外傷性肝損傷を伴った肺塞栓症の一例
2. 診療科、主治医・受持医 : 循環器内科 辻坂勇太、山根崇史、山田 翔
3. CPC 開催日 : 2017 年 12 月 20 日
4. 発 表 者 : 臨床側 (唐渡修一郎、辻坂勇太) 病理側 (嶋田有里、前田絢奈)
5. 患 者 : 83 歳、女性
6. 臨 床 診 断 : 肺血栓塞栓症
7. 剖 検 診 断 : 肺血栓塞栓症
8. 臨 床 情 報 :
 - 1) 主訴 胸痛
 - 2) 現病歴 某日朝に下肢痛を主訴に本人が救急要請をし

た。救急隊接触時は意識清明であったが、救急車内で心窩部痛の訴えがあり、その後心肺停止状態となった。初期波形は無脈性電気活動 (PEA) であった。胸骨圧迫のみで自己心拍再開した状態で当院に到着となった。

3) 既往歴・家族歴など

甲状腺全摘術後 (乳頭癌)

4) 診療所見

血圧 100/80 mmHg, 脈拍 120/分, 整, 呼吸数 20/分, SpO₂ 96% (6L 酸素投与), 体温 36.8 度. 意識レベル : GCS 8 点 (E1 V2 M5). 心音, 肺音 : 異常なし. 四肢 : 下腿浮腫なし

5) 主な検査データ

<血液所見>

T-BIL 0.6 mg/dL, AST 318 IU/L, ALT 201 IU/L, LDH 789 U/L, CK 64 U/L, BUN 26.6 mg/dL, Cr 1.03 mg/dL, TropI 0.34 ng/mL, NT-pro-BNP 17,331 pg/mL, D - dimer 6.75 μg/mL, PT-INR 1.19, 白血球 12,600 / μL, Hb 12.8 g/dL, 血小板 16.7 万 / μL

<免疫血清学所見>

CRP 2.17 mg/dL

<動脈血ガス>

pH 7.029, PaO₂ 26.5 mmHg, PaCO₂ 54.8 mmHg, HCO₃⁻ 13.8 mmol/L, lac 11.0 mmol/L

6) 画像診断所見

<心電図>

121 回 / 分, 洞調律, 完全右脚ブロック, I 誘導で深い S 波・III 誘導で陰性 T 波を認める。

<心エコー検査>

左室収縮能は良好。右室の著明な拡大を認め、左室を圧排。TR 高度。TR - PG = 80mmHg。その他の弁膜症無し

<肺動脈造影検査>

両側肺動脈主幹部で血栓性塞栓を疑う透亮像を認め、末梢は造影されず。

<胸腹部造影 CT 検査>

肝周囲に著明な腹水と造影剤の血管外漏出像。両側肺動脈主幹部に塞栓像を認める。

7) 経過・治療

当院到着時、意識レベルは混濁しており、気管挿管を行った。経胸壁心エコーでは著明な右室負荷所見を認めた。診察中に再度心肺停止状態 (PEA) となったため、胸骨圧迫を実施しながら経皮的な心肺補助装置 (PCPS) を確立し自己心

拍再開を得た。肺動脈造影を施行し両側肺動脈主幹部に塞栓像を認め、肺塞栓症の診断となった。冠動脈造影では病変を認めなかった。検査中も PCPS の脱血不良が続くため、採血検査を行うと Hb 3.2 g/dL まで低下していた。速やかに濃厚赤血球輸血を開始し、造影 CT を撮像すると肝周囲に造影剤血管外漏出像を認め腹腔内出血の診断に至った。胸骨圧迫による外傷性肝損傷が疑われ、外科的止血術が必要であったが、当時手術室が全て稼働していたため、対症療法として血管内治療 (IVR) での止血を試みた。腹腔動脈選択的造影では肝皮膜動脈からの造影剤血管外漏出像を認めたが、肝動脈塞栓術 (TAE) によって止血が確認できた。同日午後に関腹止血術を施行した。血行動態の破綻した肺塞栓症であり、抗凝固療法並びに血栓溶解療法や外科的血栓除去術の施行が望まれたが、致死的な出血を合併し手術もハイリスクであるため、初期治療開始は不可能であった。腹腔ドレーン排液の色調が改善し、貧血の経時的進行がないことを確認できた入院3日目にヘパリン持続投与で治療を開始した。翌日に再度肺動脈造影を施行すると、塞栓像は退縮し左肺動脈は末梢まで造影効果を認めたため、ヘパリン投与継続で更なる改善が期待できると予測し、経皮的血栓摘除・吸引術は施行せず、ヘパリン持続投与を強化し加療を継続した。しかし、徐々に血圧が低下し、胸水、心嚢水の経時的な増加、貧血の進行を認めた。心嚢水、胸水ドレナージを施行したがいずれも血性であり、ヘパリンは中断せざるを得なくなった。その後も肺塞栓症に加え、出血と血管透過性亢進など複合的要因から成ると思われる血圧低下が進行し、MEPM+VCM での敗血症としての対応、ノルアドレナリン、バソプレシン、ドパミン、ドブタミンを高容量で使用せざるを得ない状況に陥った。入院 18 日目に PCPS のクランプテストを施行しても血圧が維持できる状態となったため、長期間の PCPS 留置による血管透過性亢進や感染の進行懸念もあり PCPS を抜去したが翌日には血圧維持が不可能となり、落命された。

8) 手術所見

開腹止血術：腹膜は内圧で膨隆が著明であり、腹膜下に血腫を確認できた。腹膜を開くと、大量の血液が流出した。肝臓表面は肝右葉に広範囲に肝被膜下血腫を認めたが、明らかな裂創や挫滅創

はなかった。肋骨骨折に伴う右横隔膜の弛緩が認められた。明らかな肝裂創はなく被膜下出血が出血源と考えられた。右葉の広範囲にわたり被膜は肝表面から剥離していた。

- 9) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)
胸骨圧迫による外傷の広がり

9. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

【剖検診断】

肺動脈血栓 (両肺各肺葉、いずれも中枢側に血栓を認める)(肺:右 370g, 左 430g)、右室負荷・右室拡大 (290g)、肝うっ血、甲状腺全摘後

胸骨圧迫に伴う外傷:心膜出血、血性心嚢水(約 50ml)、胸腔内出血、肝出血(肝表面・肝実質内、外科的肝止血術後)、肝損傷、肋骨骨折

【病理所見】

死後 1.5 時間後に剖検施行。全身に強い浮腫を認めた。腹部正中に 15cm 長の手術痕あり。肝周囲に術後及び出血後の変化を疑う癒着をあり。右第 2,3,4,5,8 肋骨、左第 2,3,4,5,6,7,10 肋骨に骨折、左縦隔・左肺間に 7 cm 大の凝血塊を認め、胸骨圧迫に伴うものと考えられた。両肺各葉の肺動脈中枢側に肉眼で血栓塞栓を認め、組織では肺末梢微小血管内にも血栓が認められた。虚血に伴い、肺全体に肺胞壁は炎症細胞浸潤を認め、一部は壊死であった。心嚢には 50ml の血性心嚢水を認め、凝血塊が付着し癒着していた。右室は拡張し、組織では心膜表面に出血と組織球などの炎症細胞浸潤を認めた。心血流路に血栓はなく、4 弁に奇形、疣贅等はなかった。肝臓被膜表面に出血を認め、肝実質内にも出血・肝損傷を認めた。肝重量は増加し、ニクヅク肝で、組織では肝うっ血であった。

- 2) 担当病理医：前田紘奈、高橋祐一

3) 病理医からのコメント

両肺各葉中枢側に血栓塞栓を認め、肺動脈塞栓に伴う右室拡大、諸臓器のうっ血を伴っており、死因は肺動脈血栓塞栓による循環障害と考える。下腿には血栓生成はなかった。胸骨圧迫に伴う出血が心膜表面、左胸腔内、肝に認められた。

10. 考察

両側肺動脈中枢から末梢微小血管まで血栓像を認め肺塞栓症の所見であった。最下位で第 10 肋骨まで多数の肋骨骨折と、左縦隔、肺葉間、心嚢内に凝血塊を認め、胸骨圧迫による外傷性変化と考えら

れた。胸骨圧迫に伴う合併症は肋骨骨折が最も多く 97% で合併するとの報告¹⁾もあるほど頻度は高いが、肝損傷は 0.6～2.1% と稀²⁾である。本症例では、肺塞栓症による急激な右心負荷から鬱血肝を呈していたと予想され易出血性であったと考えられる。しかし、比較的下位肋骨まで骨折が及んでおり、小柄な高齢女性への胸骨圧迫であり、通常より心窩部側まで胸骨圧迫の影響があったことも想像される。合併症を恐れるあまり不十分となつては本末転倒だが、位置が適切でない胸骨圧迫は致命的な合併症を来しうることを十分認識すべきである。

11. 参考文献

- 1) Buschmann CT. Intensive Care Med. 2009 ; 35 : 397-404
- 2) 鈴木浩之 . 日救急医学会誌 . 2011 ; 22 : 297-302

第 6 回中央市民病院 CPC 報告

【症例 1】

1. 症例テーマ：腎腫瘤性病変
2. 診療科、主治医・受持医：泌尿器科 鈴木良輔、山田 翔
3. CPC 開催日：2018 年 2 月 21 日
4. 発表者：臨床側（鈴木良輔、山田 翔）
病理側（片山宜郎、山下大祐）
5. 患者：70 歳、男性
6. 臨床診断：腎細胞癌
7. 剖検診断：腎細胞癌
8. 臨床情報：

1) 現病歴

受診 2 年前より腹部膨満を自覚した。1 年前より食事摂取後の嘔吐が時折みられ外出しなくなった。数ヶ月前より柔らかいものしか摂れなくなった。2 週間前に転倒し独歩困難、発語が乏しくなった。介護認定調査の役員が自宅訪問し病院受診を勧められ救急車で当院を受診した。救急外来では、CT 所見より腎細胞癌による圧排症状を来したものと考えられ同日泌尿器科入院となった。

2) 既往歴・家族歴など

高血圧

3) 診療所見

身体所見：BT 39.1 °C , BP 142/83mmHg, HR 110/min, RR 20/min, SpO2 98% (RA, GCS : E 4 V 4 M 6 HT 162cm, BW 60.3kg るいそう、ツルゴール低下、腹部膨満、背部 / 左側腹部に 2 cm 大の褥瘡あり

4) 主な検査データ

[血液検査]

WBC : 15200 / μ l, Hb : 12.8 g/dL, MCV : 75 fL, MCH 22.9 pg, MCHC : 30.5%, PLT : 29.6 万 / μ L, TP : 8.6 g/dL, ALB : 2.5g/dL, T-Bil : 0.9 mg/dL, AST : 17 IU/L, ALT : 5 IU/L, LDH : 166 U/L, ALP : U/L, CK : 10 IU/L, AMY : 55 IU/L, BUN : 18.8 mg/dL, Cr : 0.68 mg/dL, eGFR : 87 mL/min/1.73m², Na : 135 mEq/L, K : 3.6 mEq/L, Ca : 11.5 mg/dL, Glu : mg/dL, CRP : 27.64 mg/dL

[尿 / 血液培養]

no growth

5) 画像診断所見

[来院時体幹部造影 CT]

左腎原発と思われる 36cm 大の腫瘍を認める。腫瘍の辺縁部には石灰化を散見し、大動脈は圧排を受けている。第 2 腰椎に転移と考えられる腫瘤性病変を認め、脊柱管内外への進展を認める。左胸水あり。左肺下葉に一部受動性無気肺が見られる。

6) 経過・治療

入院後第 1 病日より補液、発熱に対して抗菌薬加療開始した。腎機能改善傾向であったため、第 4 病日に造影 CT 施行しやはり腎細胞癌と考えられる造影効果を伴う腫瘤影を認めた。過去のカルテを参照したところ約 10 年前に当院泌尿器科で腎腫瘤の精査目的に外来通院を行っていたことがわかった。当時画像診断にて多房性腫瘤を認め、Multilocular cystic nephroma あるいは Multilocular cystic renal cell carcinoma が鑑別にあがり、当院での加療を奨められていたが、加療を自己中断していた歴があった。そのため、今回の腫瘍性病変についても組織診断が必要と考えられたため、第 11 病日に経皮的腫瘍、転移巣生検を行った。迅速細胞診では転移巣のみから悪性所見が得られた。第 13 病日に下肢エコー検査にて近位 DVT の所見があり抗凝固薬の内服を開始した。腎細胞癌の加療に関しては、ADL 低下や本人の希望もあり緩和的な加療の方針となった。その後、貧血の進行、尿量低下、傾眠傾向となり第 36 病日、永眠した。

7) 手術所見

なし。

8) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

- (1) 直接死因
- (2) 原発巣の評価

(3) 発熱、貧血の原因について

9. 剖 検 情 報

1) 剖検診断と病理所見

肉眼的に腫瘍は他臓器を圧排していた。具体的には左肺容積は減少し、左正常腎も萎縮していた。

左腎腫瘍の大部分は新鮮血を混じた陳旧性血腫からなり、辺縁に淡明細胞癌（G2 相当）の成分を認めた。腰椎転移を認めたが、その他臓器に転移は認めなかった。両側肺には多発微小血栓を認めた。

大腸では粘膜下層を主体に静脈拡張を散見し、虚血があったものと考えたが、固有筋層の壊死所見は認めなかった。肝臓、腎臓のグラム染色 / ギムザ染色で明らかな菌体は視認できず感染の所見は指摘できなかった。その他、脾うっ血や高度の大動脈粥状硬化症が観察された。

2) 担当病理医：山下大祐

3) 病理医からのコメント

左下肢 DVT による両側肺多発微小血栓および左腎癌の増大による左肺容積減少、腫瘍内出血と腸管虚血の結果、呼吸循環不全に至り、死亡したと考えた。組織学的には左腎癌は淡明細胞癌であった。貧血の原因は主に腫瘍内出血によると考えた。

10. 考 察

今回、長年放置していた巨大腫瘍性病変のために死亡したと考えられる一例である。10 年前に、外来にて Multilocular cystic nephroma あるいは Multilocular cystic renal cell carcinoma が鑑別にあたり、片側腎摘出術・穿刺生検・画像フォローを提示されながら、外来での加療継続が途絶えていたために腫瘍性病変の拡大を来したと考えられる。

Multilocular cystic nephroma は実質および上皮の混在した腎良性腫瘍であり、10 歳前後の男児や成人女性に見られやすい。Multilocular cystic nephroma の評価方法としては、CT が主流となっているが Multilocular cystic nephroma をほかの複雑性嚢胞性腎病変と区別すること、とくに嚢胞性の腎細胞癌と鑑別することは困難であると考えられている。

11. 参 考 文 献

- 1) Manuel F. Granja, Anthony T. O' Brien, Stephanie Trujillo, Julian Mancera, and Diego A. Aguirre. Multilocular Cystic Nephroma: A Systematic Literature Review of the Radiologic and Clinical Findings. American Journal of Roentgenology. 2015 205:6, 1188 - 1193.

【症例 2】

1. 症例テーマ：TAFRO 症候群
2. 診療科、主治医・受持医：総合内科 吉崎亜衣沙
3. CPC 開催日：2018 年 2 月 21 日
4. 発表者：臨床側（平井聡一郎）
病理側（片上隆史）
5. 患者：69 歳、女性
6. 臨床診断：TAFRO 症候群
7. 剖検診断：TAFRO 症候群
8. 臨床情報：

1) 現病歴

- X-12 日 全身倦怠感および水様性下痢が出現。
全身性の浮腫も同時期に出現。
- X-5 日 全身倦怠感および下痢の遷延で近医受診。
- X-1 日 下痢は自然軽快したが、発熱あり倦怠感も増悪したため近医受診し、血小板低下や腎機能障害を認め緊急入院。
- X 日 当院へ転送され精査加療目的に総合内科入院。

2) 既往歴、家族歴など

高血圧、高脂血症、糖尿病（糖尿病性腎症）

3) 診療所見

身長 154cm、体重 53kg
Vital signs：E4V5M6（総合内科初診時）
BP 157/80mmHg HR 89/分、RR 20/分、SpO2 96%
[room air]、BT 36.3°C
眼瞼結膜溢血点なし、充血なし、眼球結膜黄染なし、充血なし、
全身のリンパ節に明らかな腫大・圧痛なし
L/S：bilateral clear, no rale or wheeze
H/S：no murmur, S1 →、S2 →
腹部：平坦・軟、臍部の高さの下腹部に圧痛あり、
tapping pain あり、反跳痛あり、左右季肋部叩打痛あり
Osler 結節なし、Janeway 斑なし
腹部および下腿に fast pitting edema
両上下肢関節の圧痛 / 熱感 / 腫脹 / 発赤なし

4) 主な検査データ

[CBC（入院当日）]
WBC 5.7千/ μ L、Hb 10.3 g/dL、MCV 80 fL、PLT 6.1万/ μ L、Band. 1.0%、Seg. 87.0%、Lymph. 7.0%、Mono. 5.0%、Eos. 0.0%、Baso. 0.0%、
[生化（入院当日）]
TP 5.1 g/dL、ALB 2.1 g/dL、GLOB 3.0 g/dL、T -

BIL 1.1 mg/dL, D - BIL 0.7 mg/dL, AST 23 U/L, ALT 14 U/L, LD 188 U/L, ALP 446 U/L, γ -GTP 59 U/L, CK 42 U/L, アミラーゼ 30 U/L, BUN 35.6 mg/dL, Cre 1.60 mg/dL, Na 124 mEq/L, K 4.9 mEq/L, Ca 7.3 mg/dL, GLU 148 mg/dL, CRP 15.50 mg/dL, ACTH 23.1 pg/mL, コルチゾール 10.1 mcg/dL, TSH 6.20 μ U/mL, FT3 0.88 ng/dL, FT4 0.64 ng/dL [各種抗体]

ANA 40 倍 (Nucleolar +), 抗 RNP 抗体 <2.0U/ml, 抗 SM 抗体 <1.0U/ml, 抗 SSA<1.0U/ml, 抗 SSB<1.0U/ml, MPO-ANCA-, PR3-ANCA-, EBV 160 倍, EBNA 40 倍, CMV IgG +, CMV IgM -, パルボ IgM -, CL - β 2GP<0.7U/ml, IgG 992 mg/dl, IgG4 60.1 mg/dl, クリオグロブリン-

[その他]

IL-6 47.5 pg/ml, VEGF 1250 pg/ml

5) 画像診断所見

<胸部 Xp. (入院当日)>

両側 CP angle dull, 下肺野の透過性低下あり

<頸胸腹部単純 CT(入院当日)>

両側胸水著明、無気肺あり。上葉優位の小葉間隔壁の肥厚およびすりガラス様陰影あり。腹水あり、脾腫あり。両側腋窩・縦隔・傍大動脈にリンパ節腫脹あり。

<骨髄生検>

- ・評価可能な部分では C/F 比 = 1/1, M/E 比 = 3/1, 巨核球が骨梁付近に存在。
- ・リンパ腫示唆する所見はなし。
- ・Gitter 染色では線維化に乏しい像。

<左腋窩リンパ節生検>

- ・胚中心はやや萎縮しており、流入出する血管がやや目立つ。
- ・medullary cord を中心とする高内皮血管 (HEV) の増生が目立つ。
- ・Lymphoma および抗酸菌感染とする組織所見なし

6) 経過・治療

血小板減少、胸腹水と四肢の著明な浮腫、発熱や炎症反応上昇、肝脾腫や全身性リンパ節腫脹や骨髄生検、リンパ節生検の結果から TAFRO 症候群と診断した。第 5 病日より mPSL500mg/日 \times 3 日施行し、その後 PSL60mg/日内服で治療を開始した。臨床所見の改善なく第 9 病日からトシリズマブ (TCZ) 8 mg/kg を 2 週間毎に投与を開始した。TCZ 開始後、浮腫の軽減と腎障害の改善を認めたものの血小板は減少傾向で、左視床出血

も発症し血小板輸血を繰り返した。TCZ の 2 回目の使用前 (第 28 病日) より胸水の減少や体重の減少、腎障害改善を認めたが、第 27 病日から 38 度以上の発熱を認め、体重が増加傾向になり尿量減少、四肢浮腫の悪化、腹水増加を認めたことから、TAFRO 症候群の病勢の悪化と判断した。第 39 病日よりシクロスポリン 2 mg/kg の治療を開始した。第 44 病日から血圧低下、低酸素血症、意識障害が出現し、左大腿部の発赤、腫脹の出現と右肺浸潤影の出現があり、ICU に入室し抗菌薬治療を開始した。血液培養で大腸菌陽性となり敗血症性ショックと判断した。第 45 病日に代謝性アシドーシスの進行から死亡した。

7) 手術所見

施行せず

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

- (1) 肝胆道系酵素の上昇の原因は?
- (2) 生前の骨髄生検では TAFRO 症候群に典型的な線維化がみられなかったが、剖検ではどうだったのか?

9. 剖検情報

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

(1) TAFRO 症候群 (ステロイド、免疫抑制剤治療下)

- 1-1 血小板減少に伴う皮下出血・多臓器粘膜出血 (胃、子宮、膀胱、腸管)
- 1-2 浮腫・腹水 (3550ml)
- 1-3 骨髄線維化 (軽度の reticulin fibrosis)
- 1-4 腎病変 (糸球体病変、浮腫、196; 200g)
- 1-5 肝腫大 (胆管障害・門脈域線維性拡大、架橋形成、1398g)

(2) 敗血症性ショック (大腸菌)

- 2-1 びまん性肺胞障害 (滲出期、705; 1005g)

【副所見】

(1) 肺末梢血管内骨髄塞栓 (胸骨圧迫後)

(2) 横紋筋融解

【病理所見】

全身に pitting edema が強く認められ、右下腹部、左下腿、大腿に紫斑を認めた。腹水は淡黄色混濁で 3550mL であった。

生前に生検で採取された左腋窩リンパ節には、胚中心の萎縮、濾胞間領域の血管増生を認め、TAFRO 症候群としても矛盾しないと考えられた。骨髄は C/F 比 = 2/1 程度の hypercellular marrow で、

巨核球の増加を認めた。N/C比が高く、小型の異型巨核球が多数観察された。鍍銀染色では reticulin fibrosis を軽度認めた。腎臓は重量増加・尿細管腔の拡大を認めた。糸球体は内皮腫大、メサンギウム領域の泡沫状の拡大を認め、TAFRO 症候群として矛盾しない所見であった。肝臓は腫大し、門脈域に軽度の線維性拡大、胆管炎、動脈血管の増生を認めた。小葉は高サイトカイン状態に伴う変化が疑われた。肺は両側肺ともに重量増加を認め、組織学的には肺うっ血、びまん性肺胞障害（滲出期）を認めた。肺血管腔内に骨髓塞栓が多数観察された。心臓は4弁に疣贅は認めなかった。

横紋筋（腸腰筋）に横紋筋融解、壊死を認めた。

2) 担当病理医：前田絢奈

3) 病理医からのコメント

臨床経過や病理学的所見から TAFRO 症候群と矛盾しない結果であった

10. 考 察

TAFRO 症候群は Thrombocytopenia（血小板減少）、Anasarca（全身浮腫）、reticulin Fibrosis（骨髓線維症）、Renal dysfunction（腎機能障害）、Renal dysfunction（腎機能障害）、Organomegaly（肝脾腫）を特徴とする全身性炎症性疾患で 2010 年に Takai らによって報告された。当症例ではリンパ節、骨髓、腎臓に TAFRO 症候群の病理組織所見として報告された所見と同様な組織像を認めた。

11. 参 考 文 献

- 1) Iwaki Noriko, et al, American Journal of Hematology, Nov 2015.
- 2) Mari Tanaka, et al, Medicine, Sep 2017.
- 3) Hiroshi Kawabata, et al, J Clin Exp Hematop, Jan 2013.
- 4) Kazue Takai, et al, 臨床血液, Jan 2010.
- 5) 森 茂郎, 他. リンパ腫アトラス, 第 4 版

Ⅲ. CPC 報告

Ⅲ. 2 CPC 報告(2017年4月～2018年3月) (西市民病院)

第1回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科 池田
2. CPC 開催日：2017年5月30日
3. 発表者：臨床側（池田）
病理側（勝山）
4. 患者：年齢：80才台、男性
5. 臨床診断：S状結腸癌再発の疑い
6. 剖検診断：三重複癌
7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 三重複癌

A. 胆嚢癌（低分化型腺癌）

1. 同転移

a) 両側尿管周囲後腹膜

(1)水腎症

b) 十二指腸

c) 胆管周囲

d) 胃

e) 肺

B. 大腸癌術後（S状結腸癌、再発なし）

C. 十二指腸カルチノイド

II. 胃潰瘍術後状態（Bill-II法再建）

A. 腸管癒着

III. 陳旧性肺結核（両上葉、左：480、右：450g）

A. 両陳旧性胸膜炎

IV. 腔水症

A. 腹水（3200ml、黄色やや濁）

B. 心嚢水（100ml、黄色）

*胆嚢内には白色の腫瘤が充満します。その組織では一部に腺管形成を示しますが、大部分は低分化な腺癌をみます。CK7 (+), CK20 (+) であり、胆嚢原発の腺癌の所見です。*尿管周囲の後腹膜には、低分化型腺癌の浸潤増生をみます。*胆管周囲に一部で肥厚をみ、胆管外壁に同様の低分化型腺癌をみしました。*残胃の壁肥厚をみ、同様の腺癌の浸潤をみます。その他の臓器にも顕微鏡的な転移をみます。*多量の腹水をみましたが、癌の播種は認められません。*十二指腸に小さなカルチノイドを認めました。*左肺尖部には膿形成をみ、その細菌培養にて、Klebsiella pneumoniae (1+) をみましたが、抗酸菌は陰性です。

担当病理医：勝山

第2回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科 山添
2. CPC 開催日：2017年6月27日
3. 発表者：臨床側（山添）
病理側（勝山）
4. 患者：年齢：60才台、男性
5. 臨床診断：間質性肺炎、心筋炎
6. 剖検診断：慢性心外膜炎
7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 慢性心外膜炎（心外膜肥厚、白色化、粗造）

A. 心嚢水（血性60ml）

II. 肺泡出血・肺炎・肺うっ血・肺水腫（左肺：750g、右：1050g）

A. 胸水（左：300ml、右：300ml、いずれも黄色透明）

B. 右上壁側胸膜プラーク

III. 慢性肝炎（850g）

A. 脾腫（230g）

B. 黄疸

IV. 大動脈粥状硬化症（中等度）

*心外膜は白色調となり肥厚し、表面が粗造で癒着がみられた。脆い糸くず様物が表面に付着していた。血性心嚢水の貯留を認めた。*剖面では臓側心膜、壁側心膜の肥厚を認めた。組織学的には、心膜肥厚、線維化を認め、慢性心外膜炎と考えられた。肉芽腫や細菌、真菌などは認めなかった。心筋は炎症細胞浸潤に乏しく、心筋炎は認めなかった。*心嚢水の細菌培養では coagulase-negative staphylococcus、gram positive rod を少数認めたが、有意な所見とは考えにくい。*両側肺は重量増加を認め、剖面では平滑で、肺の縮みや硬化は目立たず、慢性間質性肺炎を疑う所見は認めなかった。組織学的には肺泡出血が広範に認められ、器質化を伴っていた。好中球浸潤、肺うっ血、肺水腫も認められた。肺泡隔壁の肥厚に乏しく、間質性変化に乏しかった。*左肺上葉からの細菌培養で citrobacter koseri, E. coli, MSSA 等が少数検出された。*肝臓は辺縁が鈍で、硬く、慢性肝炎が疑われた。組織では、小葉構造の構築の乱れ、軽度の線維化が観察された。*軽度の脾腫が見られた。*壁側胸膜にプラークを認めた。

担当病理医：勝山

第3回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科 富岡・金谷
2. CPC 開催日：2017年7月25日
3. 発表者：臨床側（金谷）
病理側（勝山）
4. 患者：年齢：80才台、男性
5. 臨床診断：特発性肺線維症
6. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 特発性肺線維症（左：500g、右：680g）

- A. 気管支肺炎
- B. 肺高血圧症
- C. うっ血性肺水腫
- D. 左胸水（100ml、黄色透明）

II. 心右室肥大・右室拡張（軽度、310g、手拳の1倍大）

III. 良性腎硬化症（左腎：150g、右腎：100g）

IV. 肝うっ血・褐色変性（900g）

V. 腎嚢胞

VI. るいそう（高度）

*高度なるるいそうを認め、皮下脂肪、腹腔内脂肪は非常に乏しかった。胸腔には胸膜の癒着は認めず、左胸水を少量認めた。*プラークは認めなかった。
*肺は両側肺ともに色調は灰色で、上葉から下葉にかけて全体に大小の嚢胞状を呈していた。触診では肺は柔らかかったが、肉眼的に肺実質の収縮も認めた。剖面では上葉から下葉にかけて嚢胞状と化した終末期蜂巣肺様の所見で、嚢胞内には白色物の貯留を認めた。組織学的には、肺胞構造は大部分で破壊され、拡張した気腔に置換されていた。蜂巣肺と隣接して正常肺胞構造が認められる点では、通常型間質性肺炎（UIP）パターンと考えられた。気腔内には多量の好中球・組織球貯留がみられ、膿瘍を伴っていた。うっ血、肺水腫も認められた。アスベスト小体は認められなかった。過敏性肺臓炎を考慮する気道中心性の炎症や肉芽腫は認めなかった。肺血管には内膜肥厚を認めた。心臓は手拳大の1倍程度で脂肪織に乏しく、軽度の右室肥大、右室拡大を認めた。冠動脈3枝に閉塞は認めず、4弁に著変認めなかった。*腎臓には両側ともに一部の皮質の軽度菲薄化を認めた。動脈硬化、糸球体硬化、腎嚢胞を認めた。
*腹腔概観は腹水、癒着ともなくきれいであった。

担当病理医：勝山

第4回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科 王・田島
2. CPC 開催日：2017年9月26日
3. 発表者：臨床側（田島）
病理側（勝山）
4. 患者：年齢：80才台、女性
5. 臨床診断：回腸癌、甲状腺癌
6. 剖検診断：結腸癌
7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 結腸癌（上行結腸、未分化癌）

A. 同転移

1. リンパ節（両鎖骨上窩、縦隔、傍大動脈、腸間膜）
2. 甲状腺左葉（110g、腺腫様甲状腺腫を伴う）

II. 穿孔性腹膜炎（上行結腸、膿性腹水：600ml）

- A. 腔水症（左胸水：300、右胸水：30ml、黄色透明）

III. 気管支肺炎（左：510、右：460g）

IV. 脂肪肝（1010g）

V. 大動脈粥状硬化症（石灰化あり）

*回盲部が一塊となり、バウヒン弁やや肛門側に腫瘍を認めた。*その部分に穿孔があり、穿孔性腹膜炎を合併していた。*結腸腫瘍はわずかに腺管形成を認めるが、大部分は特有の構造をみない、未分化癌であった。Synaptophysin (+) であり、neuroendocrine への分化を認めた。*甲状腺の石灰化、大部分の腫大は腺腫様甲状腺腫によるものであったが、一部に腺管形成をみる甲状腺以外の臓器でみられる、通常型の腺癌をみた。その部分はCK7 (-), CK20 (+), TTF-1 (-) であり、結腸癌の転移所見に矛盾しなかった。

担当病理医：勝山

第5回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科 丸尾、木田
相江
2. CPC 開催日：2017年10月31日
3. 発表者：臨床側（相江）
病理側（勝山）
4. 患者：年齢：60才台、男性
5. 臨床診断：後縦隔腫瘍
6. 剖検診断：腺癌
7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 腭癌 (腭頭部、Anaplastic carcinoma)

A. 同転移

1. 後縦隔、左胸郭
2. 横隔膜腹腔側 (直径 5 mm 以下複数)
3. 空腸漿膜 (直径 10mm 以下 2 個)
4. 副腎

B. 両側血性胸水 (左: 500、右: 1200ml)]

1. 両側無気肺
2. 腔水症
 - a) 心嚢水 (50ml、淡血性)
 - b) 腹水 (600ml、淡血性)

II. 胃出血性びらん

A. 「出血性ショック」

III. 肝褐色変性 (600g)

IV. 冠動脈粥状硬化症 (心: 300 g、手拳の 1 倍大、左前下行枝に約 50% 狭窄)

* 腭頭部には腫瘍性病変ははっきりとしなかったが、組織では変性壊死所見が目立つ中、紡錘形の異型細胞増生を認めた。* 両側胸腔にほぼ血性の胸水が多量に認められた。左側ではもろもろとした内容物を有する嚢胞状病変を認めた。そのもろもろとした内容物の組織所見では、同様に変性壊死が目立つ中紡錘形の異型細胞を認め、一部では多核巨細胞が多数みられた。* 腭原発の Anaplastic carcinoma の所見に一致した。* 横隔膜腹腔側、空腸十二指腸側漿膜面に小さな白色小結節状の播種を認めた。* 胃は著明に拡張し、純血性内容物を多量 (1リットルほど?) に認めた。胃体上部小わん側の食道に近い部分にびらん性変化をみ、その部分からの出血と考えられた。腫瘍はなかった。* 下部消化管は内容も血性ではなく、著変はなかった。

担当病理医: 勝山

第 6 回西市民病院 CPC 報告

1. 診療科、主治医・受持医: 内科 和田・松本
2. CPC 開催日: 2017 年 11 月 28 日
3. 発表者: 臨床側 (松本)
病理側 (勝山)
4. 患者: 年齢: 80 才台、男性
5. 臨床診断: 悪性リンパ腫
6. 剖検診断: 悪性リンパ腫
7. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

- I. 悪性リンパ腫 (縦隔リンパ節原発、非ホジキンびまん型)
 - A. 同浸潤

1. 胸膜

2. 肺 (左: 550、右: 1100g)

II. 肺うつ血水腫

III. 肝褐色変性 (700g)

IV. 良性腎硬化症

V. 腔水症 (左胸水: 450ml)

VI. 死後変性高度 (死後 48 時間)

* 胸部大動脈周囲にリンパ節腫大が目立つ。その部分の組織所見では、軽度の核腫大、やや豊富な胞体を有する腫瘍細胞の密な増生をみる。上皮性結合はなく、また免疫染色で、LCA (+), CK AE 1/AE3 (-), L26 (-), CD3 (-) であり、非ホジキンびまん型悪性リンパ腫の所見であった。* 右壁側胸膜、左肺表面胸膜、横隔膜を中心に、直径 2 cm 以下のやや盛り上がった病変が多発し、その組織所見も同様であった。* 腹水はなく、また腹膜播種もみず、腹腔概観はきれいであった。* 消化管内容も血性ではなかった。

担当病理医: 勝山

第 7 回西市民病院 CPC 報告

1. 診療科、主治医・受持医: 内科 星・川崎
2. CPC 開催日: 2018 年 1 月 30 日
3. 発表者: 臨床側 (川崎)
病理側 (勝山)
4. 患者: 年齢: 70 才台、男性
5. 臨床診断: 急性肝不全
6. 剖検診断: 激症肝炎
7. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

I. 劇症肝炎 (470g)

A. 出血傾向

1. 皮膚 (多数の皮下出血斑)
2. 腸腰筋内出血
3. 後腹膜出血
 - a) 右腎周囲、左腎門血腫形成
 - b) 腸間膜基部血腫形成
 - c) 下行結腸漿膜下血腫形成

B. 黄疸

C. 腔水症

1. 腹水 (500ml、血性)
2. 胸水 (左: 1000ml、右: 200ml いずれも血性)

II 肺うつ血水腫 (左: 700、右 580g)

A. 右陳旧性胸膜炎 (高度)

III. 副脾

Ⅲ. CPC報告

Ⅲ. 3 CPC報告(2017年4月～2018年3月)(西神戸医療センター)

第1回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ：肝障害で発症したホジキンリンパ腫の1例
2. 診療科、主治医・受持医：免疫血液内科 田中康博
免疫血液内科 上野由香里
3. CPC開催日：2017年6月19日
4. 発表者：臨床側（上野由香里）
病理側（橋本公夫）
5. 患者：80歳、女性
6. 臨床診断：ホジキンリンパ腫、肝不全
7. 剖検診断：ホジキンリンパ腫
8. 臨床情報：

1) 現病歴

【主訴】全身倦怠感

【現病歴】

X年9月2日に体重減少、慢性疲労感、皮膚黄染を主訴に前医を受診し、肝胆道系酵素の上昇と腹部CTで左鎖骨下・肝門部・傍大動脈から腸骨に至るリンパ節腫大を認めた。10月3日に施行した開腹下リンパ節生検でホジキンリンパ腫と診断され、加療目的に10月14日に当院免疫血液内科に紹介受診となった。10月24日に救急外来を受診した際に全身状態不良であったため、緊急入院となった。

2) 既往歴・家族歴など

【既往歴】高血圧 【家族歴】なし

3) 診療所見

身長143cm, 体重72kg, JCS 10-20
BT 37.5°C, HR 74 /min, BP 122/76 mmHg, SpO2 87% (RA) ->95% (2L)
眼瞼結膜蒼白なし、眼球結膜黄染著明。顔面浮腫あり、頸部リンパ節腫脹あり。
肺：両下肺で coarse crackles を聴取。
心音：整、雑音なし。
腹部膨隆、軟、右季肋部に圧痛あり、波動あり。
全身の黄染著明、両側上下肢 pitting edema 著明。

4) 主な検査データ

<血液検査 (10/25)>

WBC 16300/ μ l (STAB 14.0%, SEG 83.0%, LYMPH 1.0%, MONO 1.0%, MYELO 1.0%), RBC 330万/ μ l, Hb 10.8g/dl, Plt 14.5万/ μ l, Ret

31%, PT-INR 2.2, APTT- 秒 64.8 秒, D-dimer 13.16 μ g/ml, CRP 12.6 mg/dl, Alb 1.3 g/dl, T-Bil 8.7 mg/dl, ChE 20 IU/l, AST 139 IU/l, ALT 50 IU/l, γ -GTP 117 IU/l, ALP 918 IU/l, LDH 871 IU/l, AMY 14 IU/l, BUN 58 mg/dl, Cr 1.40 mg/dl, eGFR 28.2 ml/分/1.73, UA 8.6 mg/dl, Na 136 mEq/l, K 4.2 mEq/l, Cl 108 mEq/l, Ca 6.8 mg/dl, IP 3.6 mg/dl, NH₃-N 95 ng/dl, IgG 2483 mg/dl, IgA 1264 mg/dl, IgM 65 mg/dl, sIL-2R 9200 U/ml

<尿検査>

比重 1.018, pH 6.0, 糖 (-), タンパク (+), 潜血 (+-), ウロビリノーゲン (+-), ビリルビン (3+), ケトン (-), 赤血球 2-4 /HPF, 白血球 5-9 /HPF, 細菌 (+)

5) 画像診断所見

<腸間膜リンパ節生検 (10/3)>

CD30 (+), CD15 (-/+), CD20 (-/+), CD3 (-), CD68 (-), SI00p (-), EMA (-). 古典的ホジキンリンパ腫。

<胸骨骨髓穿刺 (10/25)>

軽度過形成性骨髄。少数のCD30陽性異型細胞の集簇を認め、ホジキン細胞の浸潤と考えられる。

6) 経過・治療

ホジキンリンパ腫 # 2 肝不全：

入院時から全身状態不良であったため、X年10月25日にステロイドパルス (mPSL 1000 mg/day x 3 days) を施行した。酸素5-9LでSpO2 97%と酸素需要はあったものの意識状態は改善傾向であったため、10月29日に減量したABV療法 (ビンブラスチン7mg、ドキシソルビシン30mg、ブレオマイシン10mg) を施行した。意識状態も改善していたが、11月1日15時頃突然SpO2が低下し、診察時には眼球が上転していた。頭部CTでは出血など明らかな病変は認められず、pH 6.9の乳酸アシドーシスと低血糖を認めたため、補正を試みたものの改善することなく、同日17時54分に死亡した。

3 菌血症

X年10月24日にレントゲン上明らかな肺炎は認めず、尿培養は陰性であったが、血液培養でE.coli

が検出されたため、同日から CTRX 2g/day で治療を開始した。翌日以降解熱したが、原疾患のコントロール不良状態であることから、酸素需要や炎症反応の高値が持続していた。

9. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

ホジキンリンパ腫（混合細胞型から結節硬化型への移行期）治療後遺残（頸部・縦隔・腹腔内リンパ節、肝臓、脾臓、肺）

〔リンパ節〕

肉眼的に頸部から腹腔内リンパ節が腫大。正常のリンパ節構造は消失し、大型の核小体を有する大型核細胞の散在性の増生あり。胞体は淡好酸性。背景に一部で結節状を示す微細な線維化や多彩な炎症細胞浸潤あり。免疫組織化学的には CD30(+), CD15(-/+), CD20(-/+), CD 3 (-), S100 (-), EMA (-)。

〔肝臓〕

肉眼的にはびまん性腫大、黄褐色調の 2-3 mm 大の微小結節によって全体が置換されており、尾状葉で腫瘍が露出している。右葉尾側の被膜直下に黒色領域を認めた。病理組織学的に小葉構造は破壊され、比較的太い血管周囲に炎症細胞浸潤、線維化、毛細血管増生、CD30 陽性の大型細胞が認められ、その周囲には不規則な島状に肝細胞が壊死していた。残存する肝細胞には大小不同、胞体の腫大を認め、胆汁うっ滞やヘモジデリンの沈着も見られた。肝門部以降の胆管には閉塞や胆汁うっ滞の所見を見られなかった。

〔肺〕

左気管支に血性物を認めたが、気道内の閉塞物や肺動脈、肺静脈内の血栓は認められなかった。両側下葉優位に強い鬱血が見られた。病理組織学的には、左肺下葉に広範囲の肺腔内に出血しており、右肺上葉に多彩な炎症細胞浸潤、線維化、CD30 陽性大型細胞の浸潤が認められた。両側いずれの肺葉にも核内封入体を有する大型核の細胞が多数見られ、免疫組織化学的に CMV 陽性であった。

【死因】

サイトメガロウイルス肺炎に伴う肺泡出血・肺うっ血による呼吸不全。

2) 担当病理医：橋本公夫

10. 考 察：

●ホジキンリンパ腫（HL）の分類

HL は大きく、結節性リンパ球優位型 HL と古典的 HL の 2 種類に分けられる。結節性リンパ球優位型 HL は CD19, 20 の B 細胞関連抗原が陽性、CD15, 30 が陰性の、予後良好なタイプである。古典的 HL は HL の 95% を占め、特徴的な RS 細胞は CD30, 15 が陽性、CD45 が陰性、CD20 は 20% で陽性となる。

古典的 HL も 4 種類のタイプに分類される。最も多いのが 40% を占める結節硬化型で、膠原線維による結節性病変や lacunarcell が特徴的な病変である。混合細胞型は多彩な炎症細胞の増生が見られる。リンパ球優位型は 5% と珍しいが、古典的 HL の中で最も予後良好である。小リンパ球の増生がリンパ節全体に見られ、RS 細胞は少ないのが特徴である。1% 以下と最も珍しいのがリンパ球減少型で、高齢者に多い。RS 細胞やその variant が多く、最も予後が悪い。

●HL と肝不全の相関

〔HL の肝浸潤〕

HL は頸部リンパ節が原発であることが多く、連続的に進展するのが典型的な経過である。悪性リンパ腫の中では多臓器浸潤を来しにくく肝浸潤の頻度は 5-30% と幅はあるが非ホジキンリンパ腫 (NHL) と比較しても高くない。HL の中ではリンパ球減少型が最も肝浸潤を来しやすい。また肝浸潤を来しても急性肝不全様の経過をたどることは非常に稀であり、肝不全を発症すると予後は非常に悪くなる。

〔肝浸潤を来した際の臨床的・病理学的特徴〕

悪性リンパ腫が肝浸潤を来した場合の臨床的特徴としては、圧痛を伴う肝腫大、胆道系酵素 (ALP) の著明な上昇、CRP の強陽性、白血球の減少、LDH の著明な上昇、致命的な乳酸アシドーシスがある。また病理学的特徴としては、RS 細胞の存在、門脈域優位の炎症細胞浸潤、広範囲の小葉間胆管の炎症 (胆管消失症候群) などがある。RS 細胞以外の特異的所見はなく、肝不全の原因が指摘しえない場合は早期に肝生検や骨髄生検を施行することが、治療開始や生命予後に大きく関わる。

〔肝不全の機序〕

HL による肝不全は様々な機序が考え得る。異型リンパ球の浸潤、腫瘍細胞の直接浸潤、腫

瘍細胞の脈管（門脈域や類洞）浸潤による虚血、エンドトキシン血症からの急性広範性肝細胞壊死（臓器 Schwarzman 反応）、腫瘍細胞が産生するサイトカインによる肝細胞障害、DIC といったものが推察されているが、明確な機序は指摘されていない。

本症例は上記の特徴を全て呈しており、また病理所見からは腫瘍細胞の門脈や類洞への浸潤による肝細胞虚血が肝不全の大きな要因と考えられる。

11. 参考文献

- 磯部泰司、佐々木純、塚田信弘：リンパ系腫瘍診療ハンドブック、中外医学社
- D. R. Thompson, et al : Clinical Lymphoma, 2 : 123-128, 2001
- P. Karmacharya, et al : Journal of Community Hospital Internal Medicine Perspective, 4 : 25821, 2014
- N. H. Dich, et al : Cancer, 64:2121-2126, 1989
- 結城暢一ら：肝臓、29 巻、1 号、92-97, 1998
- 大森里紗ら：肝臓、57 巻、3 号、125-131, 2016
- 安藤洋子ら：肝臓、34 巻、10 号、29-34, 1993
- 樋上義伸ら：肝臓、22 巻、5 号、1981

第2回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ：臨床診断が困難であった血管炎の1例
2. 診療科、主治医・受持医：
内分泌・糖尿内科 辻 和雄
内分泌・糖尿内科 寺本昇生
3. CPC 開催日：2017 年 6 月 26 日
4. 発表者：臨床側（寺本昇生）
病理側（橋本公夫）
5. 患者：88 歳、女性
6. 臨床診断：呼吸不全、肺炎または肺水腫の疑い
7. 剖検診断：肺胞出血、血管炎症候群
8. 臨床情報：

1) 現病歴

【主訴】

発熱、倦怠感、四肢浮腫、呼吸苦

【現病歴】

2016 年 3 月、左眼視力低下を自覚した。精査の結果、両側耳側半盲を認め、下垂体腫瘍が判明した。同年 4 月 5 日に下垂体腫瘍切除術施行した。術後発熱持続、四肢浮腫出現し、5 月に不明熱、尿崩症として内科紹介入院となった。

尿路感染症疑いとして当院で入院抗生剤治療されたが 37℃ 台の発熱は継続した。6 月中旬に 36℃ 台後半となったため退院したが、再度発熱と胸水貯留増悪見られ、入所中の施設で SpO2 低下を認めたために、7 月 31 日救急搬送となった。

2) 既往歴・家族歴など

【既往歴】 高血圧症、認知症、両側白内障（73 歳時）、右頰部皮膚がん（75 歳時頃 無治療）

【家族歴】 特記事項なし

3) 診療所見

身長 148cm, 体重 43kg, 意識清明, 体温 37.4℃, 脈拍 104 bpm, 血圧 122/53 mmHg, SpO2 94 % (O2 カメラ 1 L, 呼吸苦あり)

瞳孔 3 mm / 3 mm, 対光反射正常、眼瞼結膜貧血なし、黄染なし。咽頭発赤なし、扁桃腫大なし。頸部リンパ節腫脹なし。項部硬直なし。心音整、心雑音なし。呼吸音両下肺で coarse crackles 聴取。腹部平坦・軟、圧痛なし。四肢体幹明らかな外傷所見なし、両側上下肢に浮腫あり

4) 主な検査データ

<血液検査>

WBC 39700/ μ l, RBC 302 万/ μ l, Hb 7.9 g/dl, Plt 25.0 万/ μ l, 血糖 94 mg/dl, CRP 8.4 mg/dl, Alb 1.3 mg/dl, T-Bil 0.4 mg/dl, AST 14 IU/l, ALT 3 IU/l, LDH 157 IU/l, CK 6 IU/l, BUN 33 mg/dl, Cr 2.3 mg/dl, Na 134 mEq/l, K 4.2 mEq/l

<血液培養検査>

2 セット 4 度採取したがいずれも No Growth であった。

<免疫検査>

RF 52 IU/ml, 抗核抗体 Speckled 型陽性, 補体 (C3/C4) 低下なし, C-ANCA 陰性, P-ANCA 10.0 U/ml

<胸水検査>

比重 1.015, pH 7.71, 糖 110, 蛋白 1.6, LDH 51, ヒアルロン酸 5960, CEA 0.9, CYFRA 6.9, NSE 1.3, TPA 492

5) 画像診断所見

<胸部 Xp >

両側 CP angle は dull で、両側下肺に胸水の貯留を認めた。

<胸部単純 CT >

両側に大量の胸水貯留している。明らかな肺炎所見なし。体幹部皮下の浮腫も高度で、肺門・縦隔リンパ節の有意な腫大はなし。

<上部消化管内視鏡検査>

十二指腸に潰瘍認めた。生検病理では炎症所見のみ認めた。

<ガリウムシンチ>

悪性所見なし。

6) 経過・治療

1. 下垂体ラトケ嚢胞術後から原因不明の炎症と全身の浮腫を生じた。炎症は抗生剤投与に関わらず改善しなかった。

2. アルブミン製剤投与で四肢浮腫は改善するも、肺野で陰影改善は見られず、呼吸状態が悪化し、死亡に至った。

3. 臨床診断としては、肺炎または肺水腫による呼吸不全疑いであった。

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

剖検では肺、骨盤内臓器を主体に血管炎所見が見られた。また両側肺内には多量の胸水貯留を認め、肺胞出血を認めた。体内臓器に悪性腫瘍の転移は認めなく、体内臓器に感染症を示唆する所見は認めなかった。血管炎による肺胞出血が死因と判断された。

2) 担当病理医: 橋本公夫

10. 考察:

本邦における血管炎の相対頻度としては、結節性動脈炎はわずかに約2%に過ぎない。結節性多発動脈炎の認定は主要症候、組織所見、血管造影所見より行う。主要症候には、38℃以上、2週以上の発熱と6か月以内6kg以上の体重減少、高血圧、急速に進行する腎不全、脳出血/梗塞、虚血性心疾患・心不全、胸膜炎、消化管出血、多発性単神経炎、皮下結節/紫斑、筋炎がある。主要症候2項目以上と中小動脈のフィブリノイド壊死性血管炎の存在により診断確定となる。主要症候2項目以上と血管造影所見の存在、もしくは主要症候のうち、発熱体重減少を含む6項目以上の存在で疑いとなる。本症例では組織生検を施行しておらず、主要症候も4項目合致と、疑いにも当てはまらず、臨床的に結節性動脈炎と判断するのは困難であった。

本症例では臨床診断の主体となる皮膚病変や神経所見に乏しく、また組織生検、間質性肺炎の評価や神経速度検査等が十分に施行できなかった。さらに低栄養状態や感染症、腫瘍を合併していたため、血管炎の診断に至ることが困難であった。不明熱の鑑別に血管炎は上がるが、臨床診断にたどり着く例は

少なく今回の症例同様、病理解剖で発覚するケースも多いと考えられる。

11. 参考文献

上田剛士: ジェネラリストのための内科診断リファレンス, G10: 425-429, 2016

第3回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ: 原因性差に苦慮した呼吸不全の1例

2. 診療科、主治医・受持医: 循環器内科 吉開友羽子
循環器内科 森 彩

3. CPC開催日: 2017年7月10日

4. 発表者: 臨床側 (森 彩)
病理側 (橋本公夫)

5. 患者: 74歳、男性

6. 臨床診断: 呼吸不全、劇症型抗リン脂質抗体症候群の疑い

7. 剖検診断: 誤嚥性肺炎、サイトメガロウイルス肺炎、成人呼吸促迫症候群

8. 臨床情報:

1) 現病歴

【主訴】呼吸困難感、浮腫

【現病歴】

X年9月当院循環器内科でうっ血性心不全のため入院。経過中に、胸部レントゲンで右肺野すりガラス陰影と血液検査で炎症反応の上昇を認めた。精査するも、明らかな異常を認めず無治療にて軽快したため10月12日退院した。10月18日帯状疱疹後のペインクリニック受診の際に、下腿浮腫と右肺野の呼吸音減弱があり胸部CTで右肺野優位のすりガラス陰影を認めたため、当院呼吸器内科紹介された。酸素需要は無く、待機的に気管支鏡検査を行うこととなったが、10月19日下腿浮腫増悪のため受診。炎症反応が上昇していたため入院となった。

2) 既往歴・家族歴など

【既往歴】

脳梗塞、脊髄梗塞、心筋梗塞(冠動脈バイパス術施行後)、うっ血性心不全、慢性腎不全、心房細動、高血圧、帯状疱疹

3) 診療所見

心音: 不整、no murmur. 呼吸音: 右肺全体で fine crackle (+). 両下肢: 浮腫軽度 (+)

4) 主な検査データ

<血液検査>

WBC 10700/ μ l (NEUT 81.5%), RBC 408万/ μ l,

Hb 12.9 g/dl, Ht 36.7 %, Plt16.4 万 / μ l, PT-INR 1.3, APTT 秒 27.8 秒, D-dimer <0.50 μ g/dl, CRP 27.9 mg/dl, TP 6.1 g/dl, アルブミン 2.9 g/dl, LDH 364 IU/l, CK 67 IU/l, BUN 15 mg/dl, Cr 1.14 mg/dl, eGFR 48.9 ml/分 /1.73, Na 136 mEq/l, K 3.6 mEq/l, Cl 99 mEq/l, Ca 8.3 mg/dl, BNP 480.15

5) 画像診断所見

<胸部レントゲン検査>

右肺野全体に軽度のすりガラス陰影。

<胸部 CT >

右肺優位に見られたすりガラス影が部分的に濃度上昇し、すりガラス影の範囲がやや増大。左肺上葉優位に見られたすりガラス影は縮小し、肺尖近傍で小範囲に濃度が上昇。両側胸水が増加。

<気管支鏡検査>

気管支にびまん性の点状出血。気管支肺胞洗浄液は血性。

6) 経過・治療

CTRX1g q12h 投与で入院後、一旦炎症反応の改善を認めたが、呼吸困難感の増悪を認めたため、10月29日よりLVFX250mg/day 内服に変更。その後、炎症反応は横ばいとなったが、11月6日に再度上昇し呼吸困難感も著明に増悪し SpO₂ 91%まで低下。ABPC/SBT1.5g q12h に変更して投与したところ再度炎症反応は改善したが、11月9日の胸部レントゲンですりガラス陰影が増悪したため、肺胞出血と間質性肺炎の疑いでプレドニン 40mg 点滴を開始。11月13日の胸部レントゲンですりガラス陰影の増悪を認めたため、プレドニン 125mg 点滴に増量。β-D グルカン陽性を認めたため、ST 合剤 18mg 分 3 内服を開始。入院後、ワーファリン内服を続けていたが、PT-INR の値が安定せず肺胞出血を発症している可能性もあるためヘパリン投与に変更。その後、炎症反応は改善傾向であったが11月15日に嚥下機能評価を行ったところ、不顕性誤嚥が認められたため、中心静脈カテーテルを挿入して絶食管理とした。夜間に呼吸状態が増悪し、非侵襲的陽圧換気 (NPPV) を開始。11月17日の血液検査で炎症反応が著明に増悪したため11月19日より FLCZ の内服を開始し、抗菌薬も TAZ/PIPC6.75g q8h に変更。

既往歴と腎機能低下、抗カルジオリピン抗体が陽性、CL-β 2 GPI 高値であることから抗リン脂質抗体症候群を疑った。ヘパリン使用后 APTT 値は目標値で安定していた。その後、一度炎症反

応は改善したが、次第に増悪し、呼吸状態も増悪傾向であり、11月26日に永眠となった。

7) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

今回の症例では、既往歴に脳梗塞、心筋梗塞、脊髄梗塞を認めていること、腎機能障害の増悪を認め、抗カルジオリピン抗体も陽性であったことから抗リン脂質抗体症候群による肺胞出血により呼吸不全に陥ったとの臨床診断であった。呼吸不全の原因検索のため病理解剖となった。

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

両肺はボリュームがあり、いずれもうっ血が認められ、一部出血も認められた。下葉はやや硬く触知された。組織学的には、上葉を中心として、間質の肥厚と肺胞上皮の腫大が認められる。軽度のフィブリン析出を認められる。巣状の出血を伴っている。出血部を優位として肺胞上皮あるいは間質の細胞に大型化が認められ、胞体の好塩基性の増加や、核内封入体様構造が認められる。免疫組織学的にサイトメガロウイルス抗体で陽性所見が認められる。右肺中葉と両肺下葉は高度の好中球浸潤が見られており、好中球に混在して、角質と考えられる組織が確認できる。一部では膿瘍化が認められる。免疫組織化学的にはこの部位にも、サイトメガロウイルスが認められる。血栓症は認められない。肺梗塞巣も確認できない。劇症型後リン脂質抗体症候群に見られる3臓器以上にわたる深部血栓症は確認できなかった。

1. 診断: 肺すりガラス影、呼吸状態の原因: サイトメガロウイルス肺炎、誤嚥性肺炎
2. 劇症型高リン脂質抗体症候群の疑いが有り、3臓器以上に血栓症を認めるか?: 認められなかった。

3. 死因: 呼吸不全

2) 担当病理医: 橋本公夫

10. 考察:

抗リン脂質抗体症候群は生体の構成成分であるリン脂質あるいは蛋白質に対する抗体の存在により血液凝固が亢進する疾患群である。診断基準は下記のとおりである。

1. ループスアンチコアグラントが12週間以上の間隔をおいて2回以上検出される。
2. 中等度以上の力価の IgG 型又は IgM 型の抗カルジオリピン抗体が12週間以上の間隔をおいて2回以上検出される。

3. 中等度以上の力価の IgG 型又は IgM 型の抗 β 2-GPI 抗体が 12 週間以上の間隔をおいて 2 回以上検出される。

(本邦では抗 β 2-GPI 抗体の代わりに、抗カルジオリピン β 2-GPI 複合体抗体を用いる。)

抗リン脂質抗体症候群を疑い、上記検査を行うのは、

低リスク：高齢者の静脈・動脈血栓症、

中リスク：偶然見つかった aPTT 延長、頻回の早期流産、他に原因の考えられる若年者 (< 50 歳) の静脈血栓症、

高リスク：他に原因の無い若年者の血栓症、通常できない部位の血栓症、中後期の流産、自己免疫疾患 (SLE, RA, ITP, AIHA) の血栓症や流産の場合である。

治療としては、低用量アスピリン療法 60 ~ 100 mg/日の投与もしくは未分画ヘパリン 5,000 単位を 12 時間ごと (1 万単位/日) に注射する方法がある。血栓症の既往の無い抗リン脂質抗体陽性患者の治療に関してはエビデンスが無い。症例ごとに血栓症の危険因子などを考慮したうえでの判断が必要となる。抗リン脂質抗体症候群の血栓症は再発することが多く、予防が重要となる。

今回は、1 回目の抗カルジオリピン抗体は陽性であったが、2 回目の検査をする前に死亡し、確認できなかったため臨床的には診断できなかった。また、病理組織学的にも、2 臓器以上の血栓を認めず、診断には至らなかった。入院後の経過を振り返ると、ステロイドの投与を開始してから呼吸状態、炎症反応共に増悪していることから、サイトメガロウイルス感染症や誤嚥性細菌性肺炎の増悪を来し、死亡となったと考えられる。抗菌薬投与でも炎症反応の改善と増悪を繰り返していたのは、不顕性誤嚥があったため抗菌薬で一旦改善しても再度誤嚥し肺炎を起こしていたと考える。肺炎は市中病院でよく遭遇する疾患であるが、適切な抗菌薬の投与を行わないと死に至ることもあること、また抗菌薬が奏功しない場合は真菌、ウイルスも検討すべきであると考ええる。

第 4 回西神戸医療センター CPC 報告

1. 症例テーマ：多発肝転移を呈した膵腺扁平上皮癌の 1 例

2. 診療科、主治医・受持医：消化器内科 猪股典子
消化器内科 原田樹幸

3. CPC 開催日：2017 年 7 月 31 日

4. 発表者：臨床側 (原田樹幸)
病理側 (橋本公夫)

5. 患者：60 歳、男女性

6. 臨床診断：G-CSF 産生膵腺扁平上皮癌、多発肝転移

7. 剖検診断：膵腺扁平上皮癌、多臓器不全

8. 臨床情報：

1) 現病歴

【主訴】食欲不振、右側腹部痛

【現病歴】

2016 年 1 月頃より食欲不振と右側腹部痛を中心とした腹痛が出現したため、近医を受診した。施行した血液検査で炎症所見の上昇と軽度の肝機能障害を認めたため、同年 4 月 11 日に当院消化器内科を紹介受診。精査加療目的に 4 月 14 日に入院となった。

2) 既往歴・家族歴など

【既往歴】高血圧症

【家族歴】特記事項なし

3) 診療所見

意識：清、体温：37.4 度、血圧：92/55 mmHg、

脈拍数：75 回/分、SpO₂：99% (room air)

身長：155 cm、体重：62 kg、眼瞼結膜：蒼白なし、

眼球結膜：黄染なし。腹部：平坦、軟、圧痛なし、

明らかな腫瘍性病変の触知なし。

4) 主な検査データ

WBC 13800 / μ l, RBC 340 万 / μ l, Hb 10.0 g/dl, Ht 30.7%, Plt 28.0 万 / μ l, 血糖 139 mg/dl, CRP 19.1 mg/dl, TP 7.2 g/dl, アルブミン 2.5 g/dl, T-Bil 1.1 mg/dl, ChE 170 IU/l, AST 32 IU/l, ALT 45 IU/l, LDH 180 IU/l, ALP 563 IU/l, CK 52 IU/l, AMY 31 IU/l, BUN 14 mg/dl, Cr 0.87 mg/dl, eGFR 51.3 ml/分 /1.73, Na 133 mEq/l, K 3.9 mEq/l, Cl 98 mEq/l, Ca 8.7 mg/dl, CEA 15.7 ng/ml, AFP 1.8 ng/ml, CA19-9 4057.0 U/ml, エラスターゼ I 210 ng/ml, DUPAN-2 122 U/ml, PIVKA-II 6.0 mAU/ml

5) 画像診断所見

<腹部エコー検査 (2016/04/11)>

脂肪肝あり。両葉に halo を伴う高輝度エコー

腫瘍多発。傍大動脈リンパ節腫大なし。腹水なし。
＜胸腹部 CT 検査 (2016/04/11)＞

両肺に数 mm 大の粒状・小結節状陰影を散見する。dynamic study で腓体尾部移行部領域に早期相で相対的に低吸収、後期相で正常腓実質とはコントラストがやや不明瞭になる境界不明瞭な病変あり。腓周囲や肝門部、傍大動脈領域に多数のリンパ節腫大あり。胸水・腹水の貯留なし。

＜病理学的検査＞

・肝生検 (2016/04/14) :

poorly differentiated carcinoma, favor adenosquamous carcinoma consistent with metastatic from pancreas.

・骨髓生検 (2016/05/02) :

mildly hypocellular marrow without metastatic cancer.

6) 経過・治療

#1. G-CSF産生膵腺扁平上皮癌・多発肝転移・多発肺転移:

2016年4月27日より全身状態を考慮してGEM単剤により化学療法を開始した。GEMを合計8コース施行したが、腫瘍マーカーの上昇を認めており、腫瘍縮小傾向が乏しいと判断し、GEM+nab-PTXを1コース投与した。しかし、血液毒性のため、休薬している間に全身状態の増悪を認め、Best Supportive Careの方針となり、診断から123日後の8月23日に永眠となった。

7) 症例の問題点 (剖検で解明したかった事項)

本症例の剖検の目的は、原発巣の確定、転移巣の同定、発熱の原因精査である。

9. 剖 検 情 報 :

1) 剖検診断と病理所見

肉眼所見では、肝臓は著明に腫大しており、白色充実性の結節性病変を多数認めている。組織学的には、いずれの病変も核腫大・核型不整を伴う異型細胞の増生が見られている。また、多核や奇怪な核を含む細胞がやや多く見られ、角化を認める部分や腺管構造を認める部分も散見された。背景肝には肝硬変は見られてなかった。肝門部リンパ節に腫大は認められなかった。肝門部での門脈や胆管の閉塞も見られなかった。G-CSFの特殊染色でG-CSF陽性細胞が散見された。膵臓の肉眼所見では、膵頭部から9cmの膵体部において、膵表面の陥凹を伴う腫瘍が認められ、断面では1.0 x 1.5 cmの白色充実腫瘍が認められた。組織学的には、腺癌成分と扁平上皮成分が腫瘍の一部に認

められ、腺扁平上皮癌と矛盾しない所見であった。また、細胞は分化度の低い細胞が多くの割合を占めていた。免疫染色では、G-CSF染色陽性であり、G-CSF産生膵腺扁平上皮癌と考えられる所見となっていた。膵臓は、肉眼的には転移を疑わせる白色充実性の多発結節を認めており、組織学的にはいずれの病変も核腫大・核型不整を伴う異型細胞の増生が見られ膵癌の転移と考えられた。傍大動脈リンパ節の組織学的所見では腫瘍細胞の集簇を認め、リンパ節転移と考えられた。肺には明らかな転移巣は確認されなかった。

以上の所見から、本症例の剖検所見は膵体尾部癌、多発肝転移、脾転移、リンパ節転移であった。

2) 担当病理医：橋本公夫

10. 考 察 :

【G-CSF産生膵腺扁平上皮癌について】

膵腺扁平上皮癌は膵原発の悪性腫瘍の約2%と言われている。男女比は1.53:1とやや男性に多い。平均年齢は62歳であり、好発部位は膵頭部が44.6%、膵体部が29.2%、膵尾部が26.3%と膵頭部に最も多く発生している。発生機序としては円柱上皮と扁平上皮への分化能をもつ細胞から生じる説、異所性扁平上皮あるいは正常膵管上皮化生の癌化説、腺癌の直接扁平上皮癌化説などが挙げられているが、諸説あり確立した発生機序は不明である。

G-CSF産生腫瘍の診断は、①著明な白血球増多、②G-CSF活性化の上昇、③腫瘍切除による白血球減少、④腫瘍内G-CSF産生の証明を認めることとされている。また、G-CSF産生腫瘍ではIL-1やIL-6などのサイトカインの上昇を伴う例もあり、発熱などの炎症反応や悪液質の誘発を促している可能性も指摘されている。G-CSFはautocrine growth factorとして腫瘍の急速な増殖や転移に関与すると考えられており、G-CSF産生腫瘍の予後が一般の膵癌と比べて不良である原因であると考えられている。

治療に関しては、G-CSF産生膵腫瘍に対して確立された化学療法レジメンはないが、GEM投与が有効であったとする報告が散見されている。

【本症例について】

本症例ではG-CSF産生腫瘍の診断項目の内、①著明な白血球増多、②G-CSF活性化の上昇、④腫瘍内G-CSF産生の3項目を満たしていた。③腫瘍切除による白血球減少については切除する

ことができなかつたため4項目すべてを満たして
おらず、確定診断には至らなかつた。

11. 参考文献

- ・日本膵臓学会癌取り扱い規約第6版
- ・G-CSF 産生腫瘍：別冊日本臨床血液症候群 (1998)
- ・強い炎症反応を伴った G-CSF 産生食道癌肉腫の
1例：日臨床外会誌 (2003)
- ・Achieves of Surgery (1999)
- ・Eur J cancer (1971)

第5回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：呼吸不全をきたした急性リンパ性
白血病の1例

2. 診療科、主治医・受持医：

免疫血液内科 田中康博

免疫血液内科 金 甫妍

3. CPC 開催日：2017年9月11日

4. 発 表 者：臨床側(金 甫妍)
病理側(橋本公夫)

5. 患 者：80歳、女性

6. 臨 床 診 断：急性リンパ性白血病

7. 剖 検 診 断：急性リンパ性白血病

8. 臨 床 情 報：

1) 現病歴

【主訴】発熱、倦怠感

【病歴】

肺腺癌、リンパ節転移に対し左肺上葉切除術、術後化学放射線療法を施行し、PRの状態
で当院呼吸器内科で経過観察中であつた。2016
年8月9日の血液検査にて芽球の出現とLDH
上昇を認め、精査の結果急性リンパ性白血病
(pro-B ALL)と診断した。CHOP療法、6-MP
+ PSL + MTXによる治療を継続していたが、無
効となり、2017年3月15日朝より38°C台の発
熱が出現したため、同日緊急入院となつた。

2) 既往歴・家族歴など

【既往歴】高血圧

【家族歴】娘(9歳時AMLで永眠)

3) 診療所見

身長158cm、体重46kg、BT 37.0°C、HR 66bpm、
BP 114/56mmHg、SpO2 98% (room air)

結膜：貧血なし。頸部リンパ節腫大なし。心音：整、
雑音なし。呼吸音：清、ラ音なし。

腹部：平坦、軟、肝脾腫触れず。下肢：浮腫なし。

皮膚：皮疹なし。

4) 主な検査データ

<血液検査(2017/3/16)>

WBC 1000/ μ l (Blast 41.0%, Stab 3.0%, Seg 2.0
%, Lym 53.0%, Mono 1.0%, Ebl/100 WBC 4.0%),
RBC 269万/ μ l, Hb 8.3g/dl, Ht 23.8%, Ret 7.0%
Plt 2.5万/ μ l, MCV 89fl, MCH 30.9pg, PT-INR
1.0, APTT-秒 25.3秒, Fib 351mg/dl, D-ダイマ
ー13.56 μ g/ml, CRP 10.1mg/dl, TP 5.8g/dl, アル
ブミン3.0g/dl, T-Bil 0.8mg/dl, AST 31IU/l, ALT
242IU/l, ALP 242IU/l, LDH 3194IU/l, BUN 14
mg/dl, Cr 0.74mg/dl, eGFR 76.7ml/分/1.73, Na
138mEq/l, K 3.7mEq/l, Ca 8.3mg/dl, IP 2.5mg/dl

5) 経過・治療

2017年3月16日に免疫血液内科入院とし、補
液と抗生剤(CFPM)点滴にて治療開始したが、
入院時の血液培養検査でRaoultella ornithinolytic
が検出されsepsisと診断した。感受性は良好で
あつたため、CEPMを継続したところ3月20日
より解熱した。しかし、末梢血中の芽球は増加し
LDHも上昇向であつた。3月26日午後より呼
吸苦が出現し、3月27日朝より38°C台の発熱が
出現した。胸部Xpにて右肺野全体に浸潤影とB
lineを認め、肺浸潤と考えた。その後SpO2は低
下傾向となり、3月28日8時51分に永眠された。

9. 剖 検 情 報：

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

1. 急性リンパ性白血病(proB-ALL)

浸潤；両肺、肝臓、脾臓、両腎、脾臓、精
巣、骨髄、心外膜

2. 浸潤性肺癌術後；左肺上葉、腺癌

転移；気管分岐部リンパ節(再発、放射線
治療後)

【関連病変】

1. 両肺出血

2. 胸水貯留(右；40ml、左；300ml)

【副病変】

1. 結腸低異型度管状腺腫；

上行結腸、S状結腸、直腸

2. S状結腸憩室

3. 消化管うっ血性カタル

4. 左腎梗塞、肝右葉下面壊死性結節

5. 前立腺結節性過形成

6. 肝単純性嚢胞

2) 担当病理医：橋本公夫

10. 考 察 :

【急性白血病の肺浸潤】

肺合併症は急性白血病患者の 80 % に生じ、急速に進行し呼吸不全をきたし、死因となることが多い。白血病患者の剖検例での白血病肺浸潤の割合は 24-64% と報告されているが、白血病浸潤、出血、うっ血、細菌性肺炎等の肺合併症の確定診断を生前に行うことは困難である。白血病肺浸潤は、末梢血中芽球比率の高い (>40 %) 例、白血病コントロール不良例で多いことが報告されている。発熱、咳嗽等の感染性肺炎に似た症状を呈することもあり、剖検により白血病肺浸潤を認めた症例のうち、呼吸器症状を示した例は 10 % 未満、胸部 Xp で異常陰影を示した例は 8-22 % である。胸部 Xp では、白血病肺浸潤はびまん性陰影を呈することが多いが、これのみでは感染性肺炎や肺出血など他の肺病変との鑑別は難しい。確定診断としては経気管支肺生検などの検査が必要であるが、出血傾向をきたしているため現実的でない例も多い。経気管支肺生検により白血病肺浸潤と診断された症例に関する研究では、抗がん剤の投与にて改善が見られた例が多数報告されている。白血病肺浸潤の病理所見の特徴としては、間質、より細かい気管支・血管周囲に浸潤しやすく、胸膜下浸潤は特に多い。肺出血を合併していない限り、肺胞内に白血病細胞が見られることは稀である。また結節を形成する傾向がある。

本症例は、急性白血病の経過中に原因不明の呼吸不全をきたし、病理解剖によって白血病肺浸潤と判明した症例である。既出の研究で報告されている白血病肺浸潤の特徴と照らし合わせると、末梢血中芽球比率は 3 月 16 日時点で 41 % (>40%) と高く、抗がん剤無効の白血病コントロール不良例であり、胸部 Xp ではびまん性陰影を呈していた。発熱もあり、感染性肺炎の否定ができなかったが、病理結果では感染を示唆するような好中球浸潤は認めなかった。病理では、既出の研究で示されている他の白血病肺浸潤の例と同様に、胸膜や胸膜下から広がるように肺内に浸潤しており、また既出の研究では肺胞内に白血病細胞が見られることは稀とされているが、肺胞内にも白血病細胞の浸潤を認めた。限局性の結節や腫瘤形成は認めなかった。両肺全葉で出血が見られており、肺浸潤による出血が原因で呼吸不全をきたし、死因となったと考える。

11. 参 考 文 献

- Rosenow Eu, Wilson WR, Cockerill FR: Pulmonary disease in the immunocompromised host. Mayo Clin Proc 60: 473-87, 1985.
- Barcos, Maurice, et al.: An autopsy study of 1206 acute and chronic leukemias (1958 to 1982) . Cancer 60 (4) : 827-837, 1987.
- Kovalski, Raymond, et al.: Localized leukemic pulmonary infiltrates: diagnosis by bronchoscopy and resolution with therapy. Chest 97 (3) : 674-678, 1990.
- Bodey, Gerald P, et al.: Pulmonary complications of acute leukemia. Cancer 19 (6) : 781-793, 1966.
- Green, Robert A., and Norman J. Nichols: Pulmonary involvement in leukemia. American Review of Respiratory Disease 80 (6) : 833-844, 1959.
- Kovalski, Raymond, et al.: Localized leukemic pulmonary infiltrates: diagnosis by bronchoscopy and resolution with therapy. Chest 97 (3) : 674-678, 1990.

第 6 回西神戸医療センター CPC 報告

1. 症 例 テ ー マ : 呼吸困難と全身浮腫で発症した原発不明癌の 1 例
2. 診療科, 主治医・受持医: 免疫血液内科 田中 淳
免疫血液内科 東野真志
3. CPC 開催日: 2017 年 10 月 23 日
4. 発 表 者 : 臨床側 (東野真志)
病理側 (橋本公夫)
5. 患 者 : 84 歳、女性
6. 臨 床 診 断 : 原発不明癌
7. 剖 検 診 断 : 未分化型大細胞性リンパ腫
8. 臨 床 情 報 :

1) 現病歴

【主訴】呼吸困難

【現病歴】

X-1 年より左耳下腺部腫瘍、リンパ節腫大を自覚した。当院での耳下腺、リンパ節生検で上皮肉芽腫を認め、サルコイドーシスを疑われていたが、確定診断には至らなかった。その後は外来で間欠的にステロイドを投与し、経過観察されていた。X 年から全身浮腫により体動困難を生じ、A 病院に入院した。1 週間後に呼吸困難を呈し、CT 検査で縦隔・腹腔内のリンパ節腫大、肝内の多発腫瘍影、胸腹水貯留、sIL-

2 R 16000 U/mL と上昇を認めたため悪性リンパ腫を強く疑われ、当院の免疫血液内科に紹介となり緊急入院となった。

2) 既往歴・家族歴など

【既往歴】 高血圧、狭心症、白内障、外傷性小腸破裂 (30 年前に交通事故、手術)

【家族歴】 なし

3) 診療所見

体温 36.6°C、脈拍 97/min、血圧 83/51 mmHg、呼吸数 16/min、SpO₂ 97 % (酸素 3 L/min 投与下)。意識清明。身長 145 cm、体重 57 kg。結膜蒼白 (-)。頸部リンパ節腫脹多数触知。呼吸音清。心音 no gallop, no murmur。腹部平坦・軟、正中に手術創あり。下腿浮腫 (+)。

4) 主な検査データ

<血液検査>

WBC 16000/ μ L (Stab 32.0 %, Seg 64.0 %, Lymph 2.0 %, Mono 2.0 %), RBC 375 万/ μ L, Hb 11.4 g/dL, Ht 33.5 %, Ret 27 %, Plt 10.5 万/ μ L, CRP 11.2 mg/dL, TP 3.9 g/dL, Alb 1.8 g/dL, AST 15 IU/L, ALT 11 IU/L, T-Bil 1.3 mg/dL, ChE 22 IU/L, LDH 257 IU/L, CK 7 IU/L, BUN 69 mg/dL, Cr 2.19 mg/dL, eGFR 17.0 mL/分 /1.73m², sIL-2R 20400 U/mL, IgG 467 mg/dL, IgA 465 mg/dL, IgM 65 mg/dL, PT-INR 1.8, APTT 59.4 秒, D-dimer 5.95 μ g/mL, Fib 404 mg/dL, 可溶性フィブリン 9.9 μ g/mL, Na 134 mEq/L, K 3.5 mEq/L, Cl 97 mEq/L, Ca 7.0 mg/dL, P 4.7 mg/dL

<尿検査定量>

Cr 100 mg/dL, Na 11 mmol/L (FENa 0.18 %), NAG 163.7 U/L, β -2 MG 1952 μ g/L

5) 画像診断所見

<胸部レントゲン>

右横隔膜挙上と肺野の透過性低下、両側肋骨横隔膜角 dull

<単純 CT>

頸部～鎖骨上窩、縦隔、腹部傍大動脈リンパ節の腫大あり。両側胸水、腹水あり。肝両葉に低吸収域が多発。腎萎縮なし。明瞭な低吸収域を認め、腎嚢胞を疑う。水腎、膀胱拡張なし。

<腹部 MRI>

肝内に T2WI で淡い高信号が多発し、肝転移を疑う。T2WI 高信号、T1WI 低信号の両側腎嚢胞あり。T2WI で胸腰椎に高信号が多発し、骨

転移の可能性あり。

<腹部エコー>

硬変肝を背景に肝内多発腫瘍あり。胆石あり。腹水多量。両側腎嚢胞あり。

<胸水穿刺>

総量 300 mL、色調淡黄色、比重 1.020、pH 7.64、糖 111 mg/dL、蛋白 2.2 g/dL、LDH 104 IU/L、ヒアルロン酸 9670 ng/mL、CEA 1.1 ng/mL、CA19-9 0.9 U/mL、NSE 2.3 ng/mL、ADA 5.5 IU/L、細菌・結核培養陰性、細胞診陰性、(Light の基準 1/3 項目合致: 蛋白/血清蛋白 0.56>0.5. LDH/血清 LDH 0.4. LDH> 2/3 血清 LDH 上限 <160)

<腹水穿刺>

総量 50 mL、色調淡黄色、比重 1.014、pH 7.67、糖 77 mg/dL、蛋白 1.4 g/dL、LDH 92 IU/L、CEA 0.8 ng/mL、CA19-9 1.8 U/mL、ADA 5.5 IU/L、細菌培養陰性、細胞診疑陽性 (正常リンパ球、異型細胞が混在)、(Light の基準 0/3 項目合致: 蛋白/血清蛋白 0.35、LDH/血清 LDH 0.35、LDH> 2/3 血清 LDH 上限 <160)

<胸水細胞表面マーカー検査>

カップー鎖、ラムダ鎖の単クローン性の増殖は認めず、B cell 系腫瘍は同定できない。

<心電図>

脈拍 101/分、完全右脚ブロック、低電位、右軸偏位あり。

<心エコー>

EF 67 %。相対的壁肥厚あり。推定右室圧 25 mmHg、壁菲薄化や浮腫性肥厚なし。心嚢水貯留なし。

6) 経過・治療

何らかの悪性腫瘍に伴う血管内脱水による腎前性腎不全をきたしていると考え、サルコイドーシスや感染の関与も疑われたため、アルブミン補充および MEPM 0.5 g/隔日、mPSL 125 mg x 3 days → DEX 19 mg/body で治療をおこなった。しかし反応尿は全く得られず、徐々に酸素需要の上昇および徐脈化を認め、Day 9 に死亡を確認した。透析は希望されなかった。直接の死因としては急性腎不全であろうが、その背景には悪性腫瘍 (頸部、縦隔、傍大動脈リンパ節腫脹、耳下腺腫脹、多発肝結節、胸腰椎の結節、胸腹水貯留) による高度の血管透過性亢進による血管内脱水があったと考えられた。生前に確定診断を得ることができなかった。

7) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

#1. 悪性腫瘍の有無、原発巣の検索。#2. 腎不全の原因検索。#3. 感染合併の有無。

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

#1. 悪性腫瘍の有無

組織学的には縦隔・腹腔内リンパ節、肝多発結節、脾結節、腹膜播種 (ダグラス窩、大腸漿膜面、横隔膜)、骨髄に多形性の強い腫瘍細胞の浸潤を認めた。免疫組織学的には、腫瘍細胞は cytokeratin (-), CD 3 (-), CD 4 (weak +), CD 5 (-), CD 8 (-), CD15 (-), CD20 (-), CD45 (-), CD68 (-), CD30 (+), Granzyme B (+), TIA-1 (-), EMA (-), ALK (-) で、anaplastic large cell lymphoma, ALK negative と診断した。

#2. 腎不全の原因検索

腎糸球体には鬱血の他、特記すべき所見は認めなかった。尿細管、間質にも炎症所見や器質的疾患を認めなかった。腎前性の腎不全が考えられる。

#3. 感染合併の有無

全身臓器に明らかな感染所見を認めなかった。

2) 担当病理医: 橋本公夫

10. 考察:

未分化大細胞型リンパ腫 (ALCL: Anaplastic large cell lymphoma) は、非ホジキンリンパ腫のうち、末梢性 T 細胞リンパ腫に分類される¹⁾。ALK (未分化リンパ腫キナーゼ) 蛋白の発現過剰の有無で大別され、ALK 陽性全身性 ALCL は若年発症で予後良好 (5 年生存率約 70%)、ALK 陰性全身性 ALCL は高齢発症で、予後が不良とされる (5 年生存率約 30%)。免疫組織学的には末梢性 T 細胞リンパ腫のマーカーの他、CD30 (+), CD15 (-) が陽性である。一方、Hodgkin リンパ腫の腫瘍細胞も CD30 (+) を示すが、CD15 (+) が相違点である。形態学的には大型で豊富な細胞質、多型性でしばしば馬蹄形の核を持つリンパ腫細胞の増殖を認める。染色体異常としては t (2; 5) (p23;q35) が知られている。

治療方法は CHOP 療法や放射線療法であるが、近年、CD30 に対する分子標的薬 プレンツキシマブ-ベドチンが開発され、日本では 2014 年 1 月から、再発、難治性の CD30 陽性の Hodgkin リンパ腫、ALCL への使用が承認された²⁾。プレツキシマブ-ベドチンは抗 CD30 抗体と微小管阻害作用をもつ低分子薬剤の複合体で、腫瘍細胞表面の CD30 に結合した

後、インターナリゼーション (リガンド媒介性のエンドサイトーシス) により、腫瘍細胞内へ取り込まれる。細胞内でリソゾームへ輸送され、加水分解酵素によりリンカーが切断されると、モノメチルアウリスタチン E (MMAE) が細胞内に放出される。MMAE はチューブリンに結合し微小管形成を阻害し、抗腫瘍効果を発揮する。

本症例はリンパ節生検で確定診断を得られなかったために治療を行えず、救命できなかった。結果論ではあるが、生検可能な腫瘍は類部リンパ節しかなく、病勢が強くなる前に再検を行ってもよかつたかもしれない。

11. 参考文献

- 1) 血液内科学テキスト 長崎大学医学部原研内科平成 23 年 7 月 1 日
- 2) Younes A, Gopal AK, Smith SB, Ansell SM, Rosenblatt JD, Savage KJ, Ramchandren R, et al: Results of a pivotal phase II study of brentuximab vedotin for patients with relapsed or refractory Hodgkin's lymphoma. J Clin Oncol 30 (18) : 2183-9, 2012

第 7 回西神戸医療センター CPC 報告

1. 症例テーマ: 慢性骨髄単球性白血病浸潤による呼吸不全で死亡した一例
2. 診療科、主治医・受持医:
免疫血液内科 田中 淳
免疫血液内科 三好悠太郎
3. CPC 開催日: 2017 年 11 月 13 日
4. 発表者: 臨床側 (三好悠太郎)
病理側 (橋本公夫)
5. 患者: 73 歳、男性
6. 臨床診断: 慢性骨髄単球性白血病
7. 剖検診断: 慢性骨髄単球性白血病
8. 臨床情報:

1) 現病歴

【主訴】労作時呼吸苦

【現病歴】

2016 年 3 月に労作時呼吸苦を自覚し、かかりつけの B 病院を受診した。そこで白血球と Hb の低値を指摘され、骨髄穿刺により CMML と診断された。A 病院に紹介となり、5 月から Aza による治療が開始された。11 月に Aza 6 コース目を投与後に FN となり入院したが、20 日ごろから呼吸苦が出現した。CT では両側の

すりガラス影は見られたが原因は不明であり、抗菌薬やステロイドによる治療も奏功しなかった。治療および診断困難であることと、家族のセカンドオピニオン希望により、2017年1月16日に当院免血内科に転院となった。

2) 既往歴・家族歴など

【既往歴】DM (51歳)、HL、狭心症 (65歳時 PCI)

【家族歴】不明

3) 診療所見

身長 180.3 cm, 体重 71.20 kg, BMI 21.9

意識レベル JCS 0, BT 36.8 °C, PR 89/min, BP 126/58 mmHg, SpO2 96 % (room air)

4) 主な検査データ

WBC 1200/ μ l (Neut 1.0 %, Lymph 25.0%, Mono 63.0 %, Myelo 3.0 %), RBC 250 万/ μ l, Hb 7.2 g/dl, Plt 2.0 万/ μ l, CRP 2.4 mg/dl, 血糖 181 mg/dl, Fib 299 mg/dl, D-dimer 61.63 μ g/ml, PT-INR 1.1, APTT 31.4 sec, TP 7.1 g/dl, Alb 3.0 g/dl, T-Bil 1.0 mg/dl, AST 18 IU/l, ALT 16 IU/l, LDH 462 IU/l, BUN 27 mg/dl, Cr 1.85 mg/dl, Na 137 mEq/l, K 4.6 mEq/l, Ca 8.1 mg/dl, CMV (-), Asper (-), β -D グルカン 24 pg/ml

5) 画像診断所見

<胸部 Xp・胸部 CT (1/16) >

CTR 54 %, 両側 CPA dull, 右下肺野に結節影あり。両下肺野に浸潤影あり。

<腹部 CT (1/16) >

肝脾腫無し、有意なリンパ節腫大無し

<骨髄生検 (1/19) >

Blastic proliferation with myelodysplasia, suggestive of AML (RAEB-t)

6) 経過・治療

#1. 慢性骨髄単球性白血病 #2. 間質性肺疾患

上記 # 1 に関しては、Aza によりある程度の病勢のコントロールはついていると判断した。Aza による間質性肺疾患の疑いもあるため、いったん Aza を中止として様子を見て、貧血や DIC 傾向が顕在化すれば intensive chemotherapy を行う方針とした。

また、上記 # 2 に関しては、①原疾患の浸潤②薬剤性③感染④出血、の鑑別をあげて精査する方針とした。

β -D グルカンが高値であったことから侵襲性肺アスペルギルス症を否定できず、1月21

日から VRCZ を使用した (初日 600 mg, 2日目から 400 mg)。BAL から *S. maltophilia* が陽性となり、病的意義ははっきりしなかったものの免疫不全者でもあるため、ST 合剤と MINO による抗生剤治療を開始した。22日に発熱が見られ、Xpでも肺炎所見があったため CFPM も開始 (2 g/day) し、25日に薬疹疑いのため TAZ/PIPC に変更した。2月2日から数日間発熱があり、Xpでも軽度増悪傾向であったため、さらに広域の MEPM (1 g/day) に抗生剤を変更した。しかし2月7日には酸素需要が 12 L まで増悪し、同日からステロイドパルス (500 mg/day) を3日間行った。9日からは呼吸状態の改善を待たずにエトポシド (50 mg/day) を開始したが、治療反応に乏しく2月13日に永眠となった。死亡前日の胸部 X-P では、両肺の胸水貯留が著明であった。

7) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

呼吸不全の一因と考えられる、肺の間質性陰影・結節性陰影の原因は何か。

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

【主病変】

慢性骨髄単球性白血病 (浸潤; 骨髄、肝臓、脾臓、両肺、腎臓、腎盂)

【関連病変】

1. 胸水貯留 (右; 200 ml 穿刺後、左; 2000 ml 血性)
2. 両肺下葉優位で軽度の器質化肺炎
3. 両肺無気肺

【副病変】

1. 粥状動脈硬化症; 大動脈、冠動脈
2. 続発性ヘモジデリン沈着; 両肺、肝臓、脾臓、骨髄
3. 皮膚蒼白、上下肢末梢浮腫
4. 出血傾向; 皮膚
5. 前立腺結節性過形成

【マクロ像】

右 200 ml、左 2000 ml の胸水が見られたが、胸膜癒着はほとんど観察されなかった。また、肺には明らかな出血や感染を示唆する所見は無かった。心嚢液は 70 ml であり、心臓への浸潤所見は見られなかった。肝胆脾には明らかな浸潤所見は無かったが、脾臓および腎被膜・腎盂には白血病細胞の浸潤所見を認めた。

また、骨髄は赤色髄となっており、造血の亢進が疑われた。

【ミクロ像】

白血病細胞は多彩で、核胞体比の大きな芽球様細胞は認められるが、好酸性の胞体を持つ細胞や核に切れ込みのみられる細胞も認められた。肺組織でも同様の芽球様細胞と、核に切れ込みのみられる細胞が見られた。骨髄ではヘモジデリンを貪食する組織球の反応も比較的強く見られた。白血病細胞は免疫組織化学的にはMPO (+) 細胞が多く、一部CD68 (+), lysozyme (+) 細胞が見られたが、芽球がほとんどを占める部位はいずれの部位でも認められなかった。

2) 担当病理医：橋本公夫

10. 考 察：

【本症例での呼吸不全の原因およびCMMLに関する考察】

本症例では病理解剖の結果からは、呼吸不全の原因として原疾患（CMML）の浸潤が疑われた。

CMMLは古くは1983年のFAB分類において、MDSの一部として定義されたことから始まるが、2008年にはMDS/MPNの中の一疾患として定義されることになった。MDS/MPNとは、文字通りMDS（骨髄異形成症候群）とMPN（骨髄増殖性疾患）の中間に位置する疾患群であり、骨髄での造血は亢進しているが、末梢血での細胞数は増加することも減少することもあるとされる。CMMLはその中の一疾患であり、単球の増加と血球の異形成を特徴とし、以下のような診断基準が存在する¹⁾

- ① 持続する末梢血中の単球 > 1000/ μ l
- ② Ph染色体陰性
- ③ PDGFRA や PDGFRB の遺伝子再構成を認めない
- ④ 芽球 < 20%
- ⑤ 1つ以上の骨髄球系細胞に異形成が認められる。

また疫学としては、65-75歳の高齢男性に多く発症するとされ（男女比2:1）、年間発症率は0.3人/10万人である²⁾。原因は不明な点も多く、特異的な遺伝子変異も判明していない。

唯一根治的治療として認められているのが同種造血幹細胞移植であり、10生率を未治療の6%から39%に引き上げるとされている³⁾。しかし

これはデータも古く、また子供を対象にした研究でもあることから、エビデンスレベルには疑問が残る。また、同種造血幹細胞移植は様々なリスク要因や合併症などの制限をクリアしなければならず、一般的には本症例のようなアザシチジンやハイドロキシウレアでの対症療法がおこなわれることが多い。

最後にCMMLと胸水貯留の関連についてであるが、一般的にCMMLは髄外造血をきたしやすいとされており、本症例の胸水貯留も胸膜浸潤によるものが疑われた。またCMMLでは、白血球数の多い一部の症例において胸腹水を伴いやすいとされ、血球コントロールにより胸腹水もコントロール可能となるとされている⁴⁾。本症例でも入院後半にかけては白血球、特に単球および芽球数が増加しており、病勢に伴って胸水貯留が顕在化していったものと考えられた。

11. 参 考 文 献

- 1) WHO Classification of Tumours of Haematopoietic and Lymphoid Tissues. IARC Press; 2008
- 2) Epidemiology of myelodysplastic syndromes and chronic myeloproliferative disorders in the United States, 2001-2004, using data from the NAACCR and SEER programs. Blood 112 (1) : 45, 2008
- 3) Chronic myelomonocytic leukemia in childhood: a retrospective analysis of 110 cases. European Working Group on Myelodysplastic Syndromes in Childhood (EWOG-MDS) . Blood 89 (10) : 3534, 1997
- 4) Chronic myelomonocytic leukemia with myelofibrosis resulting in sudden massive pleural effusion during cytoreductive therapy with Hydroxycarbamide. Jpn J Cancer Chemother 43 (10) : 1223-1226, 2016

第8回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：胸水貯留による呼吸不全をきたしたIgG- κ 型骨髄腫の1例
2. 診療科、主治医・受持医：
免疫血液内科 田中康博
免疫血液内科 白畑 航
3. CPC開催日：2017年12月11日
4. 発 表 者：臨床側（白畑 航）
病理側（橋本公夫）
5. 患 者：77歳、男性
6. 臨 床 診 断：IgG- κ 骨髄腫

7. 剖 検 診 断：多発性骨髄腫

8. 臨 床 情 報：

1) 現病歴

【主訴】左股関節痛

【現病歴】

2013年10月左肋骨の形質細胞腫と高Ca血症で発症し、IgG-κ型骨髄腫と診断され、2014年1月よりVMP療法を施行し、VGPRとなった。2015年3月に再発しRd療法に変更するも改善に乏しく、2016年9月より腰痛が出現しXpにて病的骨折による圧迫骨折と診断。10月には左大腿骨にも病的骨折を併発した。11月17日より血球減少が進行し、PC輸血依存性となっていた。

2017年1月2日、自宅で転倒して同日ERを受診。人工関節脱臼のため1月12日に整復術を施行し、その際に行われた骨髄生検で増悪を認めたため、原疾患コントロール目的で1月27日免疫血液内科へ転科となった。

2) 既往歴・家族歴など

【既往歴】特記事項なし 【家族歴】不明

3) 診療所見

身長 155 cm, 体重 47 kg, BT 36.5°C, PR 88/min, BP 133/61 mmHg, SpO2 97% (room air)

結膜:蒼白 (-)。呼吸音:清。心音:整、雑音なし。

腹部:平坦・軟。肝脾腫触知せず。下肢:下腿浮腫 (-)。表在リンパ節触知せず。皮疹なし。

ADL:意思疎通可能。要介護4。介助にて車イス移乗

4) 主な検査データ

WBC 2800/ μ l (Neut 55.0%, Lymph 32.0%, Mono 10.0%, Eos 2.0%), RBC 240万/ μ l, Hb 7.6 g/dl, Plt 2.4万/ μ l, CRP 7.2 mg/dl, TP 8.2 g/dl, Alb 2.0 g/dl, T-Bil 0.5 mg/dl, AST 17 IU/l, ALT 20 IU/l, LDH 155 IU/l, BUN 12 mg/dl, Cr 0.63 mg/dl, Na 134 mEq/l, K 3.5 mEq/l, Ca 8.4 mg/dl, IgG 5051 mg/dl, IgA 61 mg/dl, IgM 40 mg/dl

5) 画像診断所見

<胸部 Xp>

左肺上部に胸壁より連続する腫瘍を認める。胸水少量貯留。

<PET-CT>

左大腿骨転子下に集積亢進が見られる。その他、L3やTh8椎体、上位頸椎をはじめとするその他の脊椎や両側の肋骨にも集積亢進を散

見し、骨髄腫に伴う骨病変と考えられる。

<骨髄生検>

核が偏位し、核周囲明庭のある形質細胞あり。染色ではCD138 (+), κ (+), λ (-), IgG (+), IgA (-), IgM (-)

<フローサイトメトリー>

CD56 (+), CD38 (+), CD138 (+), CyIgκ (+), CyIgλ (-)。

<染色体検査>

46, XX, add (17) (p11.2) [2]

/49, XX, +5, +7, +9, +9, -10, add (12) (p11, 2), -13, +15, -16, -17, +19, der (?) t (?;1) (?;q21) [2]

/47,50, XX, +7, +8, +9, add (12), -13, +15, -16, -17, +der (19) t (1;19) (q21;q13, 1), +der (?) t (?;1) [cp6]

/46, XX[10]

6) 経過・治療

骨髄腫の治療に関しては本人・家族の希望により、対症療法の方針とした。

2月8日よりDex 20 mg 隔週投与を開始。その後CRPは徐々に上昇していたが、発熱なく、3月6日頃より酸素需要が生じ、3月8日より意思疎通不能となり、3月13日に永眠された。IgGは常に高値だった。胸部Xpでは、入院時には胸水はほとんど見られなかったが、呼吸苦が出現した2月半ばには左肺の半分ほど、亡くなる1週間前には、左肺は完全に無気肺となっていた。3月2日に施行された胸部～骨盤部単純CT検査では左第4肋骨の腫瘍が著明に増大しており、左胸腔内に大量の胸水が貯留していた。明らかな肺炎像は認めなかった。

7) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

骨髄腫はどこまで進展していたのか。また、高値であったCRPは感染が原因なのか、骨髄腫の増悪なのか。

9. 剖 検 情 報：

1) 剖検診断と病理所見

[マクロ像]

左胸腔内には約2400mlの血性の胸水貯留が認められた。左4-5、7-8肋骨に最大10cm大の腫瘍が見られており、周囲胸壁に拡がりが見られた。左肺は無気肺状で肉眼的には腫瘍の浸潤は確認されなかった。右胸水貯留は見られず、右肺は腫大しており、剖面では水腫と

巣状の炎症が見られた。脊髄には構造的には異常は認められなかった。

【ミクロ像】

組織学的には左胸壁から周囲に骨髄腫の拡がりが見られており、左肺の一部にも腫瘍の浸潤が見られた。右肺は下葉、上葉優位で気管支肺炎が高度に見られた。気道内には閉塞物は見られなかった。リンパ節には腫瘍の浸潤は見られなかった。骨髄では圧迫骨折部を含めて異型細胞の浸潤が高度に見られた。やや偏在する核と核周囲明帯を認め、形質細胞腫の所見であった。

【骨髄腫の拡がり】

腫瘍性病変は、左胸壁肋骨周囲の軟部組織に拡がっており、一部左肺にも浸潤している。左胸水貯留を認め、左無気肺を起こしている。

【感染症の有無】

右肺に高度な気管支肺炎を起こしている。

【最終死因】

骨髄腫の左肺浸潤による胸水貯留と右気管支肺炎による呼吸不全

2) 担当病理医：橋本公夫

10. 考 察：

本症例では病理解剖の結果からは、呼吸不全の原因として原疾患（IgG- κ 型骨髄腫）の浸潤が疑われた。IgG- κ 型骨髄腫は多発性骨髄腫の一種である。多発性骨髄腫は骨髄中で形質細胞が腫瘍化し、不要なM蛋白を産生する疾患であり、そのうち、重鎖がIgG、軽鎖が κ 鎖で構成されているものがIgG- κ 型となる。多発性骨髄腫の中では、割合としては37%程度と最も多く、IgA型、BJ型、IgD型と続く。

骨髄腫の髄外病変としては、肝臓、腎臓、リンパ節に好発し、その他の部位に生じることはまれ¹⁾。特に胸腔内への進展は頻度が低く、肺に進展するのは4.5%、心臓は2.3%、胸膜は0.9%と報告されている²⁾。胸腔内腫瘍形成は胸骨、肋骨、胸椎に生じ、連続的に胸膜浸潤を認める例が多くなっている³⁾。そこで、いかにして胸水が貯留するかというと、骨髄腫の場合は胸壁腫瘍から臓側胸膜に直接浸潤し、胸膜の透過性亢進やリンパ液への吸収低下をきたし、胸水が貯留すると考えられている。型としてはIgD型に多く、肺、胸膜、肝、腎など髄外腫瘍形度が極めて高い、特に胸腔内腫瘍の頻度は一般骨髄腫の10倍にも上っている。

本症例の胸水貯留も胸膜浸潤によるものが疑われた。また、胸水を伴った多発性骨髄腫は予後不良で、

本邦の報告例では胸水貯留からの平均生存期間はわずか3.5か月である。本症例でも胸水貯留の増悪をきたしてからは状態が悪化し、それに気管支肺炎を合併したことによって急速に呼吸不全が進行したものと考えられた。

11. 参 考 文 献

- 1) Plasma cell myeloma and the myeloma proteins. *Semin Oncol* 13:259, 1986
- 2) Hayes DW, Bennett WA, Heck FJ: Extramedullary lesions in multiple myeloma - Review of literature and pathologic studies. *Arch Pathol* 53:262-272, 1952
- 3) 胸水中に骨髄腫細胞を認めたIgD- κ 型骨髄腫の1例. *肺癌* 26:421-426, 1986

第9回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：肺炎入院中に突然の呼吸不全となった低形成性白血病の1例
2. 診療科、主治医・受持医：
免疫血液内科 橋本朗子
免疫血液内科 益田隆広
3. CPC開催日：2018年1月29日
4. 発 表 者：臨床側（益田隆広）
病理側（橋本公夫）
5. 患 者：66歳、男性
6. 臨 床 診 断：呼吸不全、急性骨髄性白血病
7. 剖 検 診 断：低形成性急性骨髄性白血病
8. 臨 床 情 報：

1) 現病歴

【主訴】発熱

【現病歴】

201X-2年3月発症の急性骨髄性白血病。輸血依存であったが、骨髄低形成であったことと、本人の長期入院に対する理解が得られなかったため、通常の寛解導入療法は行わず。201X-1年11月よりアザシチジンでの治療を行ったところ、4コース目には輸血依存が完全にとれた。しかしその後13コース目を行う201X-1年11月に再度輸血依存出現し、201X-1年12月より入院でSPAC内服とした。再度血液学的な寛解を得られ、201X年2月に退院としたが、その後201X年3月再度輸血依存出現。201X年5月よりアザシチジン再投与を行ったが汎血球減少の増悪を認めた。201X年7月肺炎発症したが、入院加療は拒否され外来で抗菌薬加療を

継続した。201X年7月24日発熱にて救急外来受診し、入院加療をつよく勧められ、同日入院となった。

2) 既往歴・家族歴など

【既往歴】

胆石症（平成4年胆嚢摘出）、深在性真菌症、慢性閉塞性肺疾患、結核（201X-1年12月に化学療法目的で入院中に不明熱あり診断）

3) 診療所見

身長 175 cm, 体重 58 kg, BMI 18.9, JCS 0
BT 40.7°C, PR 131/min, BP 133/64 mmHg, SpO2 96 % (room air), RR 28-34/min

4) 主な検査データ

<血液検査 (7/24) >

WBC 100 / μ l (Neut -%, Lymph 98.0 %, Mono -%, Eos -%, Baso -%, Metamyelo -%), RBC 218 万 / μ l, Hb 6.6 g/dl, Ht 19.8 %, Plt 1.9 万 / μ l, MCV 91 fl, MCH 30.3 pg, PT-INR 1.2, APTT 秒 31.4 sec, APTT% 63.8 %, D-dimer 2.83 μ g/ml, BS 133 mg/dl, CRP 14.2 mg/dl, TP 6.9 g/dl, Alb 3.2 g/dl, T-Bil 0.4 mg/dl, AST 18 IU/l, ALT 15 IU/l, LDH 128 IU/l, Amy 32 IU/l, BUN 23 mg/dl, Cre 1.16 mg, Na 137 mEq/L, K 4.0 mEq/L, Cl 101 mEq/L, Ca 8.5 mg/dl

<血液培養 (7/23) >

ESBL 産生 Escherichia coli

<尿培養 (7/23) >

no growth.

<痰培養 (7/28) >

normal flora

5) 画像診断所見

<胸部レントゲン検査 (7/23) >

既知の左上肺野の浸潤影以外に著変なし

6) 経過・治療

入院時より MEPN 1g/day, mPSL 1 g/day にて治療開始した。入院同日より血圧低下を認め、NAも使用開始した。第3病日より右下肺野に新規の浸潤影を認め、徐々に呼吸不全が増悪し第4病日よりNPPV装着する。第7病日血圧安定したため昇圧剤中止できた。第8病日 18:00 肺炎が比較的改善していると判断し、呼吸状態も軽快してきていたため、NPPVを中止し、通常のマスク換気での管理をすることにした。第9病日 AM 1:00 発汗につじつまがあわなくなっていた。AM 3:00 呼吸状態が悪化し、通常のマスク換気では対

応できなくなったため再度NPPVの装着をすすめたが患者拒否される。AM 5:00 せん妄のような状態がさらに悪化してきていた。AM 9:00 主治医訪室時眼球上転し血圧測定できなくなっているところを発見。血液検査、昇圧剤使用などの指示をだしたが、AM 9:30 Asystole となり死亡確認。

7) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

呼吸不全、右下肺野の浸潤影は改善傾向にあったにも関わらず、突然呼吸不全が悪化し、急変したのはいかなる病態であったかに臨床的疑問が生じ、病理解剖を依頼した。

9. 剖 検 情 報 :

1) 剖検診断と病理所見

本例は骨髄で低形成性の芽球の増生が認められるものの、全身の臓器に芽球の浸潤は認められなかった。

右肺下葉に出血を伴ったびまん性肺胞傷害の所見がみられており、右優位で肺内の末梢気道内を閉塞する分泌物がみられており、解剖時に喉頭に粘稠な喀痰が認められたことから、右肺下葉のびまん性肺胞傷害とともに、分泌物の気道閉塞を起こし、分泌物の喀出ができず、窒息状態となったと考えられ、急激な呼吸不全の原因と考えられた。

2) 担当病理医：橋本公夫

10. 考 察 :

肺胞出血について

肺胞出血は様々な原因により肺胞毛細血管や肺動静脈などの小型血管に障害をきたし、そのために肺胞腔内に血液が充満する病態を呈する臨床的な症候群である。（呼吸器症候群第2版 日本臨床社）まれな病態であるが、一旦発症すると重篤な呼吸不全を呈することが多く、迅速な診断と治療が必要な病態である。死亡率は25-50%と報告されている。（Curr Opin Pulm Med 6 (5) :430, 2000）検査所見としては、炎症所見（赤沈亢進、CRP上昇、白血球数増加）や貧血を認める。胸部CTでは、すりガラス陰影、浸潤陰影を認める。画像上肺胞出血を疑う陰影のある肺葉で、気管支肺胞洗浄（BAL）を3回行い、気管支肺胞洗浄液（BALF）の色が、1回目から3回目にかけて、出血による赤色が濃くなることで、肺胞出血の診断となる。BALFの細胞診で、ヘモジデリン貪食マクロファージを認めることも、肺胞出血の特徴である。（Am J Respir Crit Care Med 151 (1) :157, 1995）ただし、BALは、肺胞出血の診断に有用

だが、原因の特定に役立つ事は少ない。原因としては膠原病（SLE、抗GBM抗体病、ANCA関連血管炎）、感染症（免疫不全者の日和見感染、ウイルス性肺炎）、薬剤（抗凝固薬、アミオダロン、プロピルチオウラシル）、ARDS、特発性肺ヘモジデロシス、僧帽弁狭窄症、肺静脈閉塞症などが鑑別に挙がる。治療としては原因が判明すれば、原因を治療する。つまり、薬剤の中止、抗凝固療法のリバース、感染症の治療など行う。膠原病や薬剤性のびまん性肺胞出血では、ステロイドなどによる免疫抑制療法を行う。

【今回の症例は救命可能であったか？】

本症例では、ESBL産生大腸菌による菌血症から肺炎を発症し、その後びまん性肺胞障害を背景に右肺下葉を中心に肺胞出血を生じたことが直接死因となったと考えられる。仮に感染症治療がうまくいったとしても出血は避けられなかった可能性が高い。また血液状態の回復が得られない場合には新規感染症（MRSA、MDRPなどのほかの多剤耐性菌の発生）の発生はおそらく避けられなかった。本症患者が高度の免疫不全状態が数か月の単位で継続していた点、また汎血球減少をきたし、容易に出血を起こしうる状況であった点を鑑みると、おそらくは救命はできなかったと考えられる。

第10回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ：骨髄異形成症候群に合併した多発化膿性筋炎の1例

2. 診療科、主治医・受持医：

免疫血液内科 田中康博

免疫血液内科 片山素子

3. CPC開催日：2018年2月5日

4. 発表者：臨床側（片山素子）

病理側（橋本公夫）

5. 患者：77歳、男性

6. 臨床診断：多発化膿性筋炎、骨髄異形成症候群

7. 剖検診断：急性骨髄性白血病

8. 臨床情報：

1) 現病歴

【主訴】発熱、左膝の腫脹・疼痛

【現病歴】

X-13年10月に近医より血小板減少で免疫血液内科紹介受診。10月28日に骨髄穿刺を施行しMDS（不応性貧血）と診断。以後無治療で

経過観察中であった。

X年7月5日朝より左鼠径部痛を自覚し、疼痛増悪、倦怠感を主訴に救急外来を受診した。感冒症状、外傷歴はなく、炎症反応の上昇を認めなかったため、LVFX内服の上、帰宅となった。7月11日、同部位の疼痛と、1週間持続する発熱でADL低下を認めたため、救急搬送となった。身体所見では左大腿内側に発赤・腫脹と、左膝にも腫脹を認め、血液検査でWBC 600/ μ l、CRP 21.4 mg/dlと炎症反応高値であり、造影CTで左大腿部にring enhancementを認めた。左大腿部膿瘍と診断し、同日整形外科に緊急入院となった。

2) 既往歴・家族歴など

【既往歴】72歳狭心症

3) 診療所見

眼球結膜：黄染(-)、蒼白(-)。体表面のリンパ節腫脹(-)。肺：呼吸音良好、crackle(-)。心音：no murmur。腹部：soft & flat、Liver/Spleen：not palpable。四肢：左膝近位側に腫脹、発赤、疼痛あり、edema(-)。

4) 主な検査データ

WBC 600/ μ l (NEUT 50%, LYMPH 38.0%, ATYLYMPH 2.0%, MYELO 1.0%, Other (芽球) 2.0%), RBC 296万/ μ l, Hb 8.9 g/dl, Ht 27.1%, Plt 9.8万/ μ l, 血糖 135 mg/dl, CRP 21.4 mg/dl, TP 6.1 g/dl, Alb 2.0 g/dl, T-Bil 2.3 mg/dl, AST 23 IU/l, ALT 44 IU/l, ALP 290 IU/l, LDH 142 IU/l, CK 116 IU/l, AMY 18 IU/l, BUN 17 mg/dl, Cr 0.65 mg/dl, eGFR 89.3 ml/分/1.73, Na 134 mEq/l, K 3.3 mEq/l, Cl 104 mEq/l, Ca 7.6 mg/dl

5) 画像診断所見

<造影CT (7/11)>

左大腿内側部の皮下脂肪組織の腫脹と濃度上昇を認め、蜂窩織炎の所見。左大腿骨前内側に接して内側広筋もしくは中間広筋内に約20cm大の膿瘍形成。左半膜様筋内にも径12mmの球形の膿瘍。

6) 経過・治療

入院第1日目、左大腿部膿瘍に対して切開排膿術を施行したところ、同部位の培養からMRSAが検出された。2日目よりDPT 300 mg/dayの点滴を開始した。発熱性好中球減少症を併発していたため、G-CSFの投与を8日目まで継続したが、好中球数の回復は見られず。間欠熱が持続す

るため、11日目からハイドロコートン 100 mg/day 点滴を開始したところ、平熱化した。14日目にはCRP 7.9 mg/dl まで改善したが、その後再増悪傾向。25日目頃より左背部痛が出現したため、造影CTを施行したところ、僧帽筋膿瘍と両側の胸水を認めた。また同時期より pancytopenia となり、以降輸血依存性となった。28日目より再度発熱が出現したため、翌29日に僧帽筋膿瘍の切開排膿術を施行した。同部位の膿汁からMRSAのDPT耐性が判明したため、35日目からLZD 600 mg/day に変更した。CTでは膿瘍は縮小傾向であったが全身状態は悪化し、経口摂取不良となった。発熱が続くためハイドロコートンからブレドニン 10 mg X 2/day に変更し、50 mg/day まで増量したが、解熱せず。41日目より全身の浮腫が目立ち、呼吸困難を自覚するようになり、胸部レントゲンでも両側胸水の増加を認めた。45日目以降は酸素需要の状態となり、59日目に血痰が出現。60日目に呼吸状態と循環状態の悪化を認め、死亡された。入院経過中に経時的に血液培養を採取したが、いずれも陰性であった。

7) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

両側胸水の原因検索

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

[肉眼的所見]

左大腿部膿瘍 10 x 6 cm、左肩甲骨部膿瘍 4 x 3 cm。左胸腔内に 1300 ml、右胸腔内に 1000 ml の淡紅色の胸水。肝うっ血および肝嚢胞 (1590 g、腹水 400 ml)、脾腫 (190 g)

◎骨髓: 過形成骨髓であり、巨核球はほとんど認められず、赤芽球も著明に減少。骨髓球系優位の増生が認められ、多数の芽球出現が認められた。骨髓異形成症候群を背景にして急性転化が生じ、白血病化したものと判断できる。正常の分葉核球はほとんど認められない。

◎肺: 肺の剖面では感染症や腫瘍浸潤を疑う所見はなかった。病理組織学的には両側全葉にうっ血水腫が認められ、右肺下葉には軽度出血も認められた。感染を示唆する明らかな所見は認められなかった (免疫組織化学的にCMV陰性)。

◎消化管: 食道下部から上行結腸にかけて出血を伴うびらんないし浅い潰瘍性病変が認

められ、潰瘍面にはカンジダと考えられる真菌塊が随所に認められた。

【主病変】

急性骨髓性白血病 (骨髓異形成症候群からの急性転化)、同浸潤転移 (骨髓のみ)

【副病変】

1. 肺うっ血水腫 (490 g : 690 g、胸水 1300 ml : 1000 ml)
2. 真菌感染 (食道胃接合部、胃、小腸、上行結腸)
3. 消化管潰瘍および粘膜出血 (下部食道から上行結腸まで)

【死因】肺うっ血水腫による循環不全

2) 担当病理医: 橋本公夫

10. 考察:

本症例では基礎疾患にMDSを有していたが、不応性貧血に分類され、遺伝子異常もdel(20)と予後良好な型であった。今回、おそらく何らかの新たな遺伝子異常が付加され、急性転化が起きたと考えられる。

本症例はMDSの急性転化に伴う貧血により心負荷増大をきたし、循環、呼吸不全で亡くなった症例である。入院時からの経過では多発筋膿瘍が主病態であったと思われたが、切開排膿とDPT、リネゾリドの抗菌薬投与によりCTでは膿瘍は改善傾向であった。一方、28日目前後より輸血依存性となり、その頃よりステロイド不応性の発熱がみられるようになった。おそらくMDS急性転化による正常造血抑制による血球減少と腫瘍熱であったと考察される。

化膿性筋炎は、熱帯地域において若年健常者に多く見られる感染症であるが、近年は非熱帯性の化膿性筋炎の報告例が増加している。非熱帯性での外傷の既往は25~50%に留まり、リスク因子として糖尿病、血液疾患、膠原病、HIV感染症が挙げられている^{1, 2)}。好発部位は大腿四頭筋、腸腰筋、殿筋、体幹筋など比較的大きな骨格筋で、通常は1つの筋のみが侵されることが多いが、15~43%の症例で多発性に生じる²⁾。

化膿性筋炎の臨床経過は3期に分類される。第1期 (浸潤期) には局所の疼痛、腫脹、微熱が見られる。発症10~20日後の第2期 (化膿期) に入って初めて筋に膿瘍を形成するため、漸く造影CTで診断できるようになる。第3期 (敗血症期) では高度の筋痛、局所、全身の炎症症状、昏睡、敗血症が起こる。化膿性筋炎の発症機序は、微小な菌血症が筋膜損傷や筋挫傷に波及するためと考えられているが、詳細

は不明である。膿瘍部から同定される起因菌は黄色ブドウ球菌が70%以上を占め、A群溶連菌、大腸菌、インフルエンザ桿菌、表皮ブドウ球菌が続く。

診断にはMRIが有効であり、第1期の早期の時点で筋の炎症を反映してT2強調像にて高信号の病変を示す。造影CTは前述したとおり、膿瘍形成期に入るまでは早期の炎症を捉えることは困難である。血液検査では筋融解が起きているにも関わらず、CKの上昇を認めないことが多い。

治療としては第1期では適切な抗菌薬投与で軽快することが多いが、第2、3期では抗菌薬投与とともに膿瘍切除、ドレナージが推奨される¹⁾。

本症例は、多発筋膿瘍はドレナージと抗菌薬投与である程度のコントロールはついていたと考えられ、病理解剖の結果MDSの急性転化が死因の主病態であったと考えられた。

11. 参考文献

- 1) Souid AK, et al : Obturator internus muscle abscess : a case report and review of the literature. Am J Dis Child 147 : 1278-1279, 1993
- 2) Pyogenic abscesses in the myelodysplastic syndrome. BMJ ; 299, 1989
- 3) Bickels J. et al : Primary Pyomyositis. J Bone Joint Surg Am 84-A : 2277-2286, 2002
- 4) Pyomyositis associated with hematological malignancy : case report and review of the literature. International Journal of Infectious Diseases 12 (2) : 120-5, 2008

IV. 医学振興事業等研究費 補助による事業報告

IV. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(1) 笠原ガン治療研究事業

IV. 1 脾腫が骨髄悪性腫瘍患者に対する同種造血幹細胞移植の予後に与える影響に関する検討

中央市民病院 血液内科 下村 良充

同種造血幹細胞移植は骨髄悪性腫瘍患者において治療を目指す治療のひとつであるが、多種の合併症を呈することが知られており治療関連死亡は2割程度と報告されている。移植後早期の合併症として生着不全、生着遅延があり、高度の好中球減少、血小板減少が持続し、感染症や出血などの致命的な経過をたどることがある。さらに生着不全に対する再移植の生存率は低く、移植成績向上のためには生着不全を避けることが必要である。生着不全の要因として、少ない細胞数、HLAの不一致、抗HLA抗体、脾腫の存在などいくつかの報告がなされているが、特に脾腫については、骨髄繊維症の同種造血幹細胞移植において生着率を悪化させ、生存も悪化される因子として報告され、巨大脾腫については移植前の放射線照射などが推奨されてきた。しかしながら、骨髄繊維症以外の骨髄悪性腫瘍（急性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群）でも同様に脾腫をきたす症例をしばしば経験するが、移植前に脾腫に対する治療を行うべきかどうかについては一定の報告がなく、意見が分かれるところ

である。そこで、今回我々は、骨髄悪性腫瘍の同種造血幹細胞移植において、脾腫の存在が移植治療予後に与える影響について後方視的に検討した。

<対象及び方法>

腫瘍評価項目は42日の累積好中球生着率とした。副次評価項目は100日血小板生着率、3年生存率、3年無再発生存率、3年非再発死亡率、3年再発率とした。Survival CART法により脾臓体積のcut-offを決定した（High risk群 vs Low risk群）。

<結果>

High risk群はLow群に比較し、好中球、血小板生着率、生存率、無再発生存率、非再発死亡率に関して統計学的有意に悪かった（下記図）。再発に関しては両群で差がなかった。

<考察、結論>

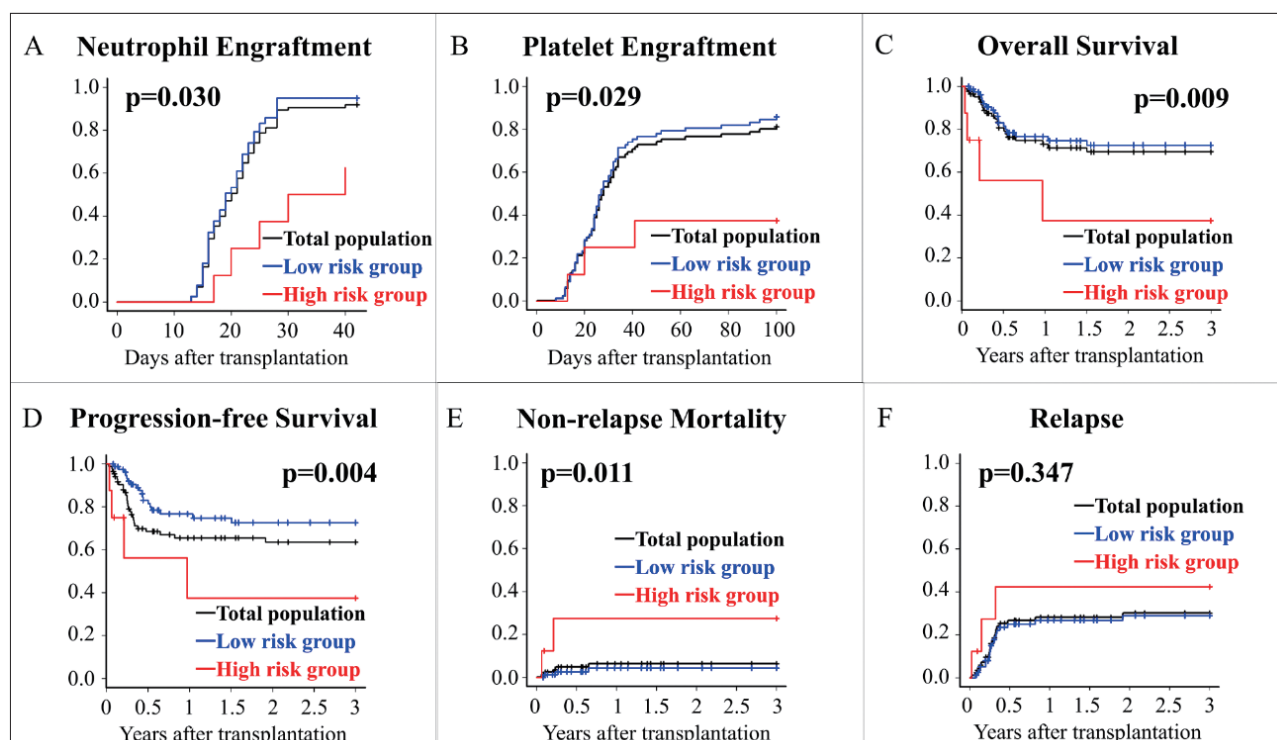
このような結果から同種移植前に脾腫を認めることが低い生着率及びその後の予後と関連することが示唆された。

以上内容は現在論文投稿中である。

<報告等>

2016 ASH annual meeting

現在 Ann Hematology in revision



IV. 2 DLBCL 患者における BIOMED- 2 法 PCR 反応様式が予後に与える影響

中央市民病院 血液内科 藪下 知宏

【背景】

一部の B 細胞性腫瘍では、免疫グロブリン重鎖 (IgH) 遺伝子可変領域 (V_H) の体細胞高頻度突然変異 (SHM) の頻度は臨床予後と相関すると報告されている。びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫 (DLBCL) においても V_H SHM の頻度は様々だが、予後との関連を検討した研究は少ない。IgH 遺伝子再構成検査は、まず D_H 領域と J_H 領域が再構成 (不完全型) し、その後 V_H 領域と DH - JH 領域が再構成する (完全型)。BIOMED- 2 プロトコールは、 V_H におけるフレームワーク領域 (FR) 1~3 と D_H 領域、 J_H 領域にそれぞれ結合するプライマーを用いて IgH 再構成を検出する PCR 法である (図1)。BIOMED- 2 法における IgH 完全型再構成の偽陰性は V_H SHM の影響によるプライマーのアニーリング不全が主な原因であることから、IgH 完全型再構成パターンは V_H SHM の頻度を反映していると考えられる。これらを背景に、DLBCL における完全型 IgH 再構成反応パターンと予後との関連を後方視的に検討した。

【方法】

当院で診断された初回治療適応の DLBCL 患者を対象とし、生存解析を行った。主要評価項目は5年生

存期間 (OS)、副次的評価項目として5年無病生存率 (PFS) とした。加えて、 V_H sequencing 解析も追加施行した。

【結果】

全患者 303 名のうち、完全型 IgH 再構成における PCR 反応陽性数は 0 回が 27.7%、1 回が 18.8%、2 回が 27.1%、3 回 (all-positive 群) が 26.4% であった (図 2)。5 年 OS と PFS は PCR 反応陽性数が多いほど短い傾向が認められた (図 3、4)。OS の多変量解析の結果、all-positive 群は独立した予後不良因子であった (ハザード比 : 1.89, 95% CI : 1.36-3.27, $p < 0.001$)。

V_H シークエンスの結果、生殖細胞系遺伝子との V_H 同一性は all-positive 群で 91.9% と、その他の群と比べ有意に高いことが確認された。(91.9% vs 83.7%, $p < 0.001$)。

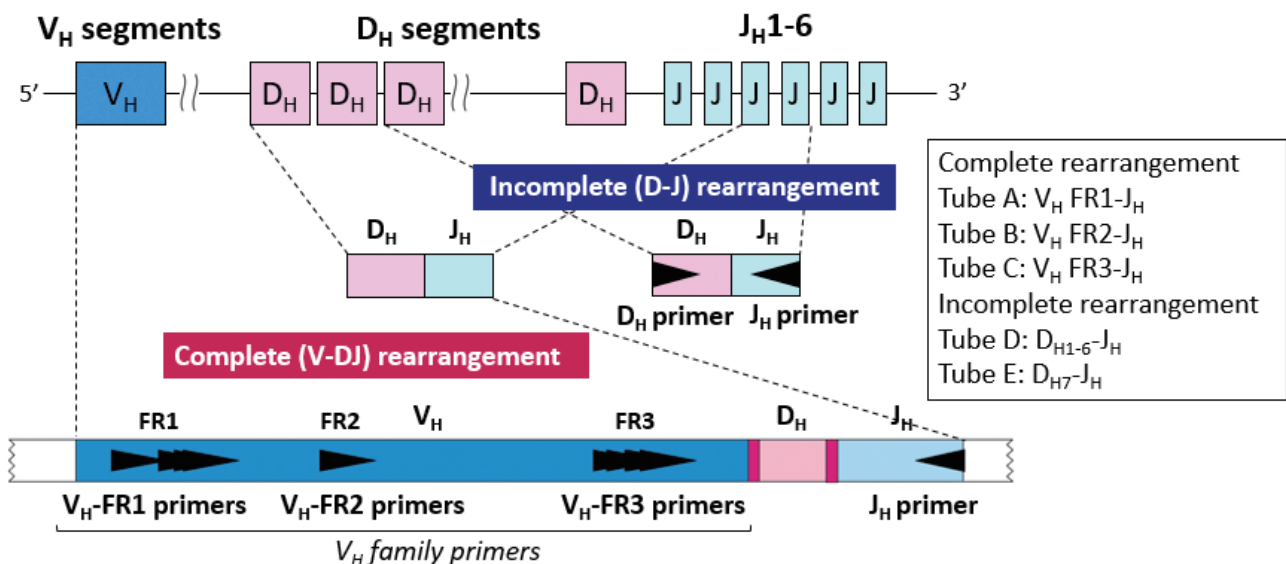
【結論】

DLBCL において、BIOMED- 2 プロトコール完全型 IgH 再構成にて 3 種類のプライマーのいずれでも検出される群は予後不良であり、 V_H SHM 低頻度は DLBCL における治療抵抗性と関連する可能性が示唆された。

【報告】

上記研究成果を 2017 年 American Society of Hematology Annual Meeting にて口頭発表した。(Tomohiro Yabushita et al. Blood 2017 ; 130 : 420)

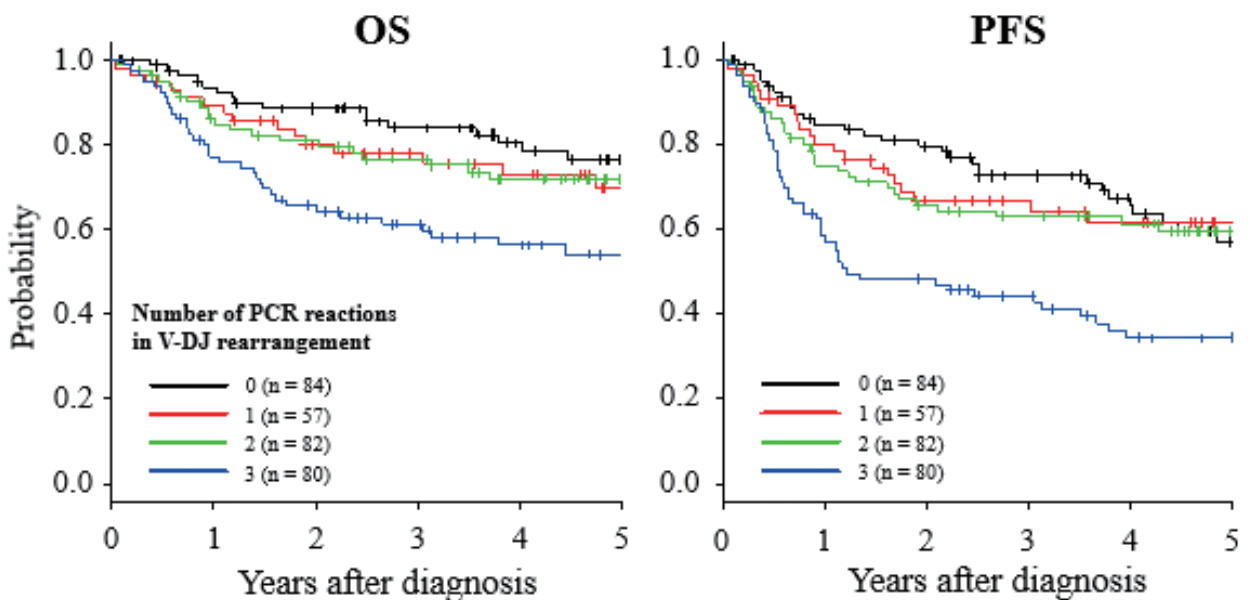
図 1



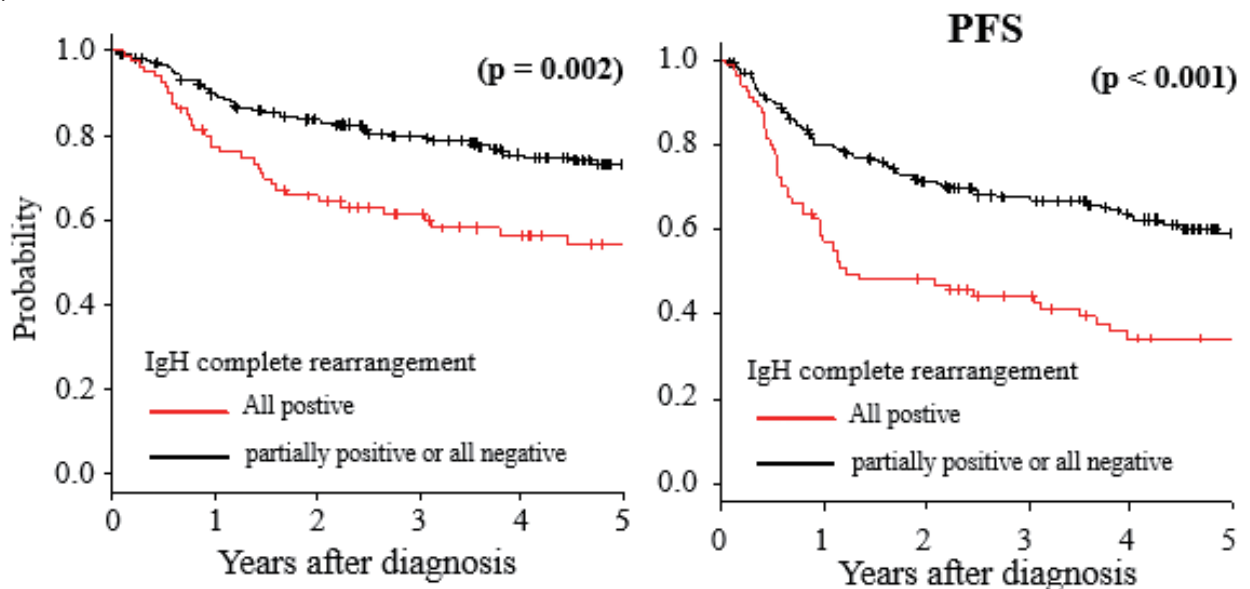
☒ 2

Patient Characteristic	Total (N=303)	IPI (International Prognostic Index)	Complete IgH rearrangement (VH-JH)
Median age (range), y	69 (22-93)	Low	90 (29.7%)
Male sex	167 (55.1%)	Low-intermediate	65 (21.5%)
ECOG performance status		High-intermediate	63 (20.8%)
≥2	95 (31.4%)	High	85 (28.1%)
Serum LDH		Bulky lesion	
Elevated	169 (56.0%)	Present	38 (12.5%)
Ann Arbor Stage		Bone marrow involvement	
I	39 (12.9%)	Present	46 (15.2%)
II	80 (26.4%)	Serum Albumin	
III	65 (21.5%)	< 3.5 g/dl	114 (37.7%)
IV	119 (39.3%)	Serum CRP	
Extranodal Sites		> 1.0 mg/dl	136 (45.2%)
≥2 sites	87 (28.7%)		
			Incomplete IgH rearrangement (DH-JH)
			D _H -J _H
			99 (32.7%)
			IgH VH-JH+ IgH DH-JH
			256 (84.5%)

☒ 3



☒ 4



IV. 3 高度分葉不全を呈した間質性肺炎合併肺癌症例に対する完全鏡視下左肺下葉切除術

坂之上一朗¹⁾、濱川 博司¹⁾、齋藤 伴樹¹⁾、伊達 直希¹⁾、高橋 豊¹⁾、富井 啓介²⁾、今井 幸弘³⁾

中央市民病院 ¹⁾ 呼吸器外科、²⁾ 呼吸器内科、³⁾ 病理診断科

【背景】

肺切除における鏡視下手術の技術進歩やさまざまなデバイスの開発などに伴い、従来は非適応とされた高度分葉不全を伴う肺癌症例に対する完全鏡視下手術が行われるようになってきている。また、間質性肺炎は肺癌発生の重大な危険因子とされており、間質性肺炎を合併した肺癌の手術に遭遇する頻度は少なくなく、周術期の合併症が比較的多いことが知られている。今回我々は高度分葉不全を呈した間質性肺炎合併肺癌に対して完全鏡視下に左肺下葉切除を施行した症例を経験したので、ビデオで供覧する。

【症例】

78歳、男性。他院で間質性肺炎フォロー中、CTで左肺下葉に不整形結節を認めた。病変は左肺S10に存在する28mmの腺癌cT1cN0M0 stageIA3であり、背景肺はpossible UIP patternであった。

【手術所見】

第6, 8肋間に12mmポート挿入、第5肋間前方腋窩切開線上に3cmの皮膚切開でlap protector miniを挿入し、鏡視下に胸腔内操作開始。左肺は葉間、舌区領域に僅かな分葉を認めるのみであり、PAに対する葉間からのアプローチは困難であった。下葉肺門周囲を腹側および背側から可能な限り末梢まで剥離し、下肺静脈、下葉気管支、A6, A8-10の順に処理を行った。舌区領域の僅かな分葉箇所をメルクマルとし自動縫合器を用いて上下葉間と想定されるラインを切離した。リンパ節廓清2a-1を施行した。手術時間2時間59分、出血量5mlであった。術後経過は良好で、術翌日にドレーン抜去し、術後3日目に退院。病理組織診ではpT1cN0M0 stageIA3、背景肺はUIP patternであった。術後90日現在、間質性肺炎の急性増悪は認めていない。

【結語】

高度分葉不全を呈した間質性肺炎合併肺癌に対し、安全な肺葉切除が完全鏡視下に施行でき、合併症なく良好な術後経過を辿った一例を経験した。

IV. 4 Sleeve Lobectomy for Lung Adenocarcinoma Treated with Neoadjuvant Afatinib

Sakanoue I

Department of Thoracic Surgery,

Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan.

Abstract

Afatinib, the second-generation epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitor (EGFR-TKI), has been postulated to be associated with improved inhibition of EGFR-dependent tumor growth compared with first-generation EGFR-TKIs for advanced non-small cell lung cancer. We present a case of lung adenocarcinoma (cT3N0M0) treated with neoadjuvant afatinib and sleeve lobectomy. Because of the location of the tumor, reduced FEV1 value, and the presence of EGFR mutation, the patient was planned to be prescribed afatinib (30 mg daily) for 3 weeks as neoadjuvant therapy and underwent sleeve lobectomy to avoid pneumonectomy as much as possible. Although the patient presented with grade 3 diarrhea and dose reduction of afatinib to 20 mg daily was needed, several image findings showed a partial response of the tumor on Day 20. Oral administration of afatinib was discontinued on Day 22. A right upper sleeve lobectomy combined with partial resection of lower lobe was performed after oral administration of afatinib on Day 24. The patient's postoperative course was uneventful and she has been free of recurrence for 26 months. This strategy could reduce the risk of pneumonectomy with acceptable side effects. The treatment, clinical course and pathological findings of the patient are discussed.

IV. 5 婦人科悪性腫瘍、特に早期子宮頸癌と外陰癌に対する腹腔鏡下手術の導入とその施行症例の検討

中央市民病院 産婦人科 吉岡 信也

これまで、外科領域や泌尿器科領域に比較して、本邦における婦人科悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術は、その導入が非常に遅れていた。2014年4月に初期子宮体癌に対する腹腔鏡下手術がようやく保険適応になって以来急速に広がりつつあるが、その他の癌種にはまだ広がっていない状況である。今回、外陰癌手術の際に腹腔鏡下骨盤内リンパ節廓清の経験と当院での子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術の導入を学

会で発表した。本研究によって、子宮体癌以外の婦人科癌の手術においても、腹腔鏡下手術の導入が進めることが可能となり、また先進医療である「初期子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術」の認定施設を取得しえた。

第 56 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会での発表

外陰癌の治療は、切除可能であれば外陰部病巣切除および鼠径リンパ節郭清を基本術式とした手術療法が第一選択とされる。しかしながら、術前に骨盤リンパ節腫大を認める症例の取り扱いが意見が分かれている。また骨盤リンパ節郭清を行う場合は、これまで主に腹膜外アプローチで行われてきた。今回我々は術前に鼠径および骨盤リンパ節転移が疑われた外陰癌に、腹腔鏡下骨盤リンパ節郭清を含む外陰癌根治手術を施行した症例を経験した。症例は 56 歳、2 経妊 2 経産婦で、外陰部 11 時方向に最大径約 4 cm の隆起性腫瘍を認め、同部位の生検の病理検査で扁平上皮癌であった。画像検査で鼠径および骨盤の多発リンパ節転移が疑われ、広汎外陰切除 (triple incision)、鼠径リンパ節郭清および腹腔鏡下骨盤リンパ節郭清を施行した。摘出標本の病理検査結果は、扁平上皮癌、腫瘍最大径 4.5cm、間質浸潤 > 1 mm、左浅鼠径リンパ節に被膜浸潤のないリンパ節転移を 1 個認めた腫大したリンパ節の多くは、皮膚病性リンパ節症であった。最終診断は pT1bN1aM0、FIGO IIIA (ii) となった。術後補助化学療法として TC 療法 4 クール施行し、現在のところ再発徴候を認めていない。本症例では、通常の外陰癌根治術に腹腔鏡下骨盤リンパ節郭清を追加することで正確な診断が可能となり、術後放射線照射を回避できた。腹腔鏡下子宮体癌根治術の症例数の増加によって日常的に施行するようになり手技的になれた腹腔鏡下骨盤リンパ節郭清は、外陰癌治療時に腹膜外アプローチに代わりうる選択肢と思われた。

第 69 回日本産科婦人科学会学術講演会での発表

子宮頸癌に対する腹腔鏡下手術は 2014 年 12 月に先進医療となったものの、未だ保険適応にはなっていない。当院では 2015 年 5 月に早期子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術 (LRH) が院内倫理審査で承認され、これまで 4 例の LRH を施行した。そこで本術式の安全性を開腹広汎子宮全摘術 (ARH) と比較検討した。方法は、2015 年 6 月から 2016 年 9 月までに、初回治療として手術療法を施行した子宮頸癌 1 B 1 期 10 症例 (LRH 4 例、ARH 6 例) を、患者背景、手術

時間、出血量、摘出リンパ節個数、自尿確立までの日数、入院日数、術中術後合併症、短期予後に関して後方視的に検討した。成績：LRH 群は、年齢 35.0 才 (32-46)、組織型は扁平上皮癌 2 例、内頸部型腺癌 2 例で、ARH 群は、年齢 47.4 才 (31-68)、組織型は扁平上皮癌 4 例、内頸部型腺癌 2 例、腺扁平上皮癌 1 例であった。LRH 群と ARH 群では、それぞれ手術時間 409.8 (307-498) 分 vs. 356.7 (326-402) 分、出血量 186.3 (10-640) ml vs. 443.4 (360-607) ml、摘出リンパ節個数 20.3 (15-32) 個 vs. 33.3 (20-35) 個、自尿確立までの日数 5.3 (5-6) 日 vs. 16.1 (5-53) 日、入院日数 8.3 (8-9) 日 vs. 10.7 (7-16) 日であった。術中術後合併症は両群共に認めず、術後 4-22 ヶ月の短期間ではあるが、両群共に再発症例は認めていない。結論：LRH は ARH に比較して、手術時間は長く、摘出リンパ節個数はやや少ない傾向であったが、出血量・自尿確立までの日数・入院日数といった手術成績は良好であった。予後については今後の検討が必要ではあるが、適正に症例を選択すれば LRH は ARH に変わりうるものと考えられた。

IV. 6 ひとたび寛解したものの 9 年後に肺転移巣で死の転帰をたどった甲状腺未分化癌症例

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 林 一樹

甲状腺未分化癌は悪性腫瘍の中でもっとも予後が不良であり、診断から 1 年以内に 80% 以上が死亡するとされている。

9 年前に甲状腺未分化癌の切除術を施行し、一旦寛解したが、残存していた分化癌が再未分化転化し、その後、急速に増大し死の転機をたどった症例を経験したので、甲状腺外科学会にて報告した。

症例は 66 歳女性。8 年前に甲状腺癌に対して全摘術、頸部郭清を受け、そのときの病理検査で、乳頭癌、一部扁平上皮分化、未分化転化の診断を得た。術後、頸部に I-131 集積を認めたためヨード治療を行い、化学療法と放射線照射を追加した。術後 6 年の時点では I-131 は集積しないが、FDG は集積する多発肺転移を認めていた。術後 8 年の時点でも多発肺転移巣は軽度増大を認めるのみであった。術後 9 年経過後、背部痛、発熱を主訴に緊急入院となり、CT にて左上肺野転移巣の著明な増大と多発骨転移を認めた。肺生検により未分化な癌細胞を検出。腫瘍の増大を認める左肺尖部は、もともと分化癌と思われる甲状腺癌のあった場所であり、肺に残存した分化癌の未分化転化であると考

えた。レンバチニブメシル酸塩による治療を開始し、腫瘍の増大を一時的に抑制することができたが、投与開始1か月後に腫瘍からの出血と胸水のコントロール不良のため、死亡された。この度の腫瘍の再燃は、もともと肺転移巣があった部位での腫瘍の急速な増大であり、初回の未分化癌の再発ではなく、残存した分化癌の再未分化転化であると考えた。

未分化癌においては、一部の症例で数年の生存が確認されているが、その詳しい予後については不明であり、残存した分化癌が再未分化転化する症例は渉猟した範囲では、認められていない。

腫瘍の増大を認めた部位は、もともと分化癌と思われる甲状腺癌の転移があった部位であることから、初回の切除術を行った未分化癌の再発ではなく、肺に再発した分化癌の未分化転化であると考えられた。

一旦寛解した未分化癌の肺転移巣と考えられる分化癌の再未分化転化した症例は、我々が渉猟する限りでは認められておらず、貴重な報告ができたと考えている。論文を作成することを検討中である。

IV. 7 当院における原発不明癌頸部リンパ節転移症例の検討

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 林 一樹

当院における原発不明癌頸部リンパ節転移症例の病期、治療方法と全生存率、疾患特異的生存率の関係について検討し、今後の治療戦略について検討する目的で今回の研究を行った。

対象と方法としては、2000年から2015年にかけて、神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科を受診した原発不明癌頭頸部症例24症例を対象として検討した。

原発不明癌の定義は、治療開始までに原発が判明しなかったものとした。年齢分布は、44-77歳（中央値65.5）で、男女比は男性21名、女性3名であった。24例の病理組織の内訳は扁平上皮癌20名、腺癌2名、未分化癌1名、小細胞癌1名。臨床的N病期は、N1:N2a:N2b:N2c:N3 = 5:3:6:1:7、臨床的M病期はM0:M1 = 19:5であった。

M0症例の生命予後について解析した。観察期間は74～4830日（中央値1309日）であった。

結論としては、有意差は認めなかったものの、N分類でN2c以上のほうが生命予後が悪く、N分類でN2b以下のほうが生命予後が良いとの傾向がみられた。

化学療法や頸部郭清を行ったかどうかという治療方針

によっては生命予後に有意差は出なかったが、複数のリンパ節転移のある患者は、単数のリンパ節転移の患者より予後不良であり、疾患特異的死亡は主に遠隔転移により引き起こされ、CUPの生存率を上昇させるには遠隔転移のコントロールが必要であることがわかった。

今後、症例を蓄積することで、原発不明癌頸部リンパ節転移の転移様式と予後の相関関係が明確化する可能性も考えられ、継続的な症例の蓄積が必要であると考えられる。

この度の研究をさらに継続することで、未だに治療法の定まっていない原発不明癌頸部リンパ節転移に対する最適な治療が徐々に判明するのではないかと考えられる。

IV. 8 甲状腺乳頭癌に伴う腫瘍随伴関節炎にリウマチ性多発筋痛症を合併した症例

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 山本 亮介

はじめに

悪性腫瘍は、腫瘍随伴症候群という形で関節や筋肉の症状を来すことがある。また、悪性腫瘍にはある腫のリウマチ性疾患が合併しやすいとされる。先行する多関節炎症状の後に顕在化した甲状腺乳頭癌に対し手術加療を施行し、多関節炎症状が消失したため腫瘍随伴関節炎と診断したが、その後に別個の筋骨格症状が出現し、リウマチ性多発筋痛症の合併と診断した症例を経験したのでここに報告する。

【症例】

症例：80歳女性

主訴：頸部腫瘍

既往歴：高血圧

現病歴：手術日4ヶ月前に右手指の関節痛・腫脹が出現した。徐々に増悪し、手術2ヶ月前には左手指関節痛や左肩関節痛も出現し、洗髪動作や書字もままならない状態となった。また、両側膝関節の痛みも出現し、起立動作が困難となってきた。手術2か月前に頸部の腫瘍を指摘、近医でFNA施行し甲状腺乳頭癌と診断された。食道や気管への浸潤を疑う高度進展例であるため手術目的で当科に紹介となった。術前に総合内科にて多関節炎症状に対する評価を施行したところ、両側手関節・両側肘関節・左肩関節・右手中関節に圧痛などの関節炎症状を認め、朝に数時間程度の手のこわばりを認めた。腫瘍随伴関節炎・リウマチ性多発筋痛症・RS 3PE症候群・関節リウマチを鑑別に挙げた。術前に施行した血液検査はAlb:3.9g/dL、GOT:24U/L、GPT:15U/L、LDH:287U/L、ALP:266U/L、BUN:

19.4mg/dL、Cre:0.73mg/dL、Na:136mEq/L、K:4.8mEq/L、Cl:105mEq/L、Ca9.8mg/dL、P:3.2mg/dL、Glu:129mg/dL、HbA 1 c:6.5%、CRP:0.70mg/dL、WBC:7600/mL、Hb:13.2g/dL、Plt:25.8 万 /mL、freeT 4:1.15ng/dL、TSH:3.33 μ IU/mL、サイログロブリン:347.8ng/dL、抗サイログロブリン抗体陰性、RF:陰性、抗 CCP 抗体:陰性であった。CRP はやや高値であったものの、RF 陰性・抗 CCP 抗体陰性と関節リウマチは血清学的に否定的であった。腫瘍随伴関節炎による症状の可能性もあったため術後に再評価する方針となった。当科での画像検査から cT4aN1bM0 (気管・食道への高度進展例) と診断し咽喉頭食道摘出術、両側頸部郭清術、遊離空腸再建術を施行した。術後経過は良好であり、特に合併症も起こることなく経過した。術後徐々に上肢の関節症状は改善し、左肩関節以外の症状は消失し、左肩関節の症状が少し残存するものの可動域も改善した。術後速やかに症状改善したことから甲状腺乳頭癌に伴う腫瘍随伴症候群であったと考えた。術後1ヶ月での放射性ヨードシンチグラムで取り込みはなく、術後3ヶ月のPET/CTでも再発を疑う所見はなかったが、術後3ヶ月を過ぎた頃より頸部から両側上腕までの筋肉痛と両肩の関節痛が出現し、血液検査では赤沈も上昇した。術前の関節炎とは部位が違うため腫瘍随伴関節炎とは別個の自己免疫疾患を疑った。Birdの診断基準やEULAR/ACR2012診断基準案を参考に、リウマチ性多発筋痛症と診断して、プレドニゾロン15mgで治療を開始したところ、速やかに症状消失した。その後は徐々にプレドニゾロンの量を漸減しながら維持療法を行った。術後1年経過時点ではPET/CT、血清サイログロブリン値とも再発を示唆する所見はないが、遅発的に再発が発覚する可能性もあるので、現在嚴重に経過観察している。

【考察】

本症例は甲状腺乳頭癌の発見に先行する形で多関節炎が急性発症し、術後に急速な経過で症状が消退したことから腫瘍随伴関節炎と診断した。

腫瘍随伴関節炎は腫瘍随伴症候群として出現する関節炎であり、ホルモンや免疫グロブリンの生成などの様々な原因が考えられているが、未だはっきりとはしない。¹⁾²⁾³⁾⁴⁾ 原因腫瘍としては血液腫瘍が最も多いが、固形癌でも報告があり、肺がんや乳がんに伴うことが多い。³⁾⁴⁾ 甲状腺乳頭癌に伴う自己免疫疾患としては英文報告では混合性結合組織病や成人still病などの報告があるが、腫瘍随伴関節炎の報告は少ない。65例の腫瘍随伴関節炎の報告⁴⁾では、甲状

腺乳頭癌は1例のみであった。

腫瘍随伴関節炎の発症は急性発症であることが多いとされる。³⁾⁴⁾26人の患者を対象とした報告²⁾では関節炎の部位は両側の手や手首が多く、膝の腫脹も認めることが多かった。特徴的な血液検査所見や画像所見はなかったが、RFや抗核抗体は陰性であることが多かった。²⁾³⁾本症例では急性発症であるものの、その後徐々に進行する経過を辿り、関節炎の部位は手指関節・手関節であった点でMorel J等の報告²⁾の特徴を満たしており、術前より腫瘍随伴関節炎も鑑別に挙げていた。

しかし、実際には早期の関節リウマチと腫瘍随伴関節炎の鑑別は困難とされており⁵⁾、関節炎は腫瘍の発見に先行することが多く、早期のリウマチ性疾患と誤診される報告もある。⁶⁾ 今症例でも術前での診断は困難であった。関節リウマチと腫瘍随伴関節炎を比較した報告⁴⁾では、関節リウマチでは左右対称な関節炎を来すことが多く(45/50例)、RF陽性率・抗CCP抗体陽性率が高いとされる(それぞれ24/50例、29/50例)。一方で、固形癌の腫瘍随伴関節炎では左右対称例は少なく(4/39例)、RF陽性率・抗CCP抗体陽性率も低い(11/39例、6/39例)。抗CCP抗体陽性の腫瘍随伴関節炎も報告されているため⁷⁾血液検査だけで腫瘍随伴関節炎を否定することはできない。また、関節リウマチは疾患修飾性抗リウマチ薬(DMARDs)への反応が良好であったのに対し、腫瘍随伴関節炎はDMARDsに対する反応が不良であった。⁴⁾ 確定診断を得るためには腫瘍を手術・化学療法・放射線治療などで完全に治療した後に、速やかに関節炎症状が消失したことで診断される。³⁾

一度治癒した腫瘍随伴関節炎は癌の再発に伴って再発することは少ないとされる²⁾¹⁰⁾が、悪性腫瘍の再発に伴って発症した初発の腫瘍随伴関節炎の報告⁸⁾もある。

術後に再発した両側の頸部から上腕にかけての筋痛や両肩関節炎に関しては、リウマチ性多発筋痛症(PMR)に特徴的であり、赤沈の上昇・朝の45分以上のこわばり・RF/抗CCP抗体陰性・他の関節に症状がない等の所見も併せてPMRと診断した(European League Against Rheumatism/American College of Rheumatology/American college of rheumatology2012診断基準案⁹⁾)。術後一度治癒してから発症したと、関節炎の部位が別のもとなった経過から腫瘍随伴関節炎の再発は疑いにくいと考えた。腫瘍随伴関節炎に他のリウマチ性疾患を伴うことは稀とされており、⁴⁾腫瘍随伴関節炎にPMRを合併した症例報告はPubmedでは見つけることが出来なかつ

たため、今症例は腫瘍随伴関節炎治癒後にPMRを合併した世界初の症例となる。PMR患者の悪性腫瘍罹患率に関しては様々な報告があり一定しない¹¹⁾¹²⁾¹³⁾¹⁴⁾。今症例は腫瘍の治療後にPMRが発症したことから悪性腫瘍との関連性は低いと考えられる。

【結語】

甲状腺乳頭癌に腫瘍随伴関節炎を合併し、腫瘍の治療で腫瘍随伴関節炎が治癒した後にリウマチ性多発筋痛症を合併した症例を経験した。今後腫瘍随伴関節炎を考える状況においては他のリウマチ性疾患を合併する可能性を考慮する必要がある。

IV. 9 p16陽性/p53陰性中咽頭癌の特徴、予後、化学療法の効果、二次癌発生率について

中央市民病院 頭頸部外科 篠原 尚吾

業績の報告学会・論文

米国春季耳鼻咽喉科学会・2017年5月26日～30日・サンディエゴ、米国

第41回日本頭頸部癌学会・2017年6月8日、9日・京都

業績の論文

頭頸部癌 42巻4号（採択・未発表）

著者・演者

篠原 尚吾、竹林 慎治、菊地 正弘、原田 博之、道田 哲彦、林 一樹、山本 亮介、

神戸市立医療センター中央市民病院

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

今井 幸弘、上原慶一郎

神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科

【諸言】

HPV関連中咽頭癌は予後良好であることが知られているが、HPV関連癌の中にも予後不良な一群があることが判っている。特に喫煙など発癌物質の暴露は、HPV関連癌の予後の良さを打ち消すことが知られている。著者らは、HPVの感染性を見るためにp16免疫染色、喫煙など発癌物質の影響を見るためにp53免疫染色をバイオマーカーとして利用し、中咽頭癌をp16陽性/p53陰性群（A群）とそれ以外の群（B群）に2郡化し、その各々の特徴、予後について検討した知見を報告する。また、これらA群の中咽頭癌に対し、導入化学療法を用いた低侵襲医療の可能性について模索する。

【対象】

2004年から2016年6月までに当科を受診した中咽頭癌患者100例のうち、免疫染色未施行例、明らかな

上皮内癌例6例を除く94例。

【結果】

A群は45例、B群は49例であった。A群は有意に若い（年齢中央値61：67）、ステージは進行している（I-III：IV = 15：30 v.s. 23：26）結果となった。主な治療は手術中心と放射線中心の割合がA群で21：24、B群では23：23であった（3例の未治療例を除く）。導入化学療法（NAC）の奏率は、RECISTを用いた場合、A群でCR+PR：SD+PD = 15：4に対し、B群でCR+PR：SD+PD = 12：7（N.S.）であった。またNACによる組織学的反応はA群でG0-G1：G2-G3 = 2：8に対し、B群ではG0-G1：G2-G3 = 8：3（p=0.02）であった。また、NAC前後のPET-CTのSUVを用いた治療効果判定によると、A群でresponder：non-responder = 13：3に対し、B群ではresponder：non-responder = 8：9（p=0.04）であった。生存期間中央値3.5年で、5年総生存率はA群：B群 = 87.0%：60.3% p=0.02、疾患特異的生存率はA群：B群 = 91.6%：70.8% p=0.03、無再発生存率はA群：B群 = 87.9%：41.5% p<0.01であり、A群の予後の良さ、再発の少なさが明らかになった。

【考察】

今回の検討で、A群の中咽頭癌はNACの効果が高いこと、予後が良いことが示された。低侵襲医療を実践するとすれば、晩期毒性の強い化学放射線治療の施行を避けNAC後に縮小手術を行うことが、将来にわたり患者のQOLを保持できると考えた。

【追記】

京都大学主催の頭頸部癌学会でHPV関連中咽頭癌に対するシンポジウムのシンポジストとして指名を受けたので、本演題を同学会で報告した。シンポジウムという形式上、学会前に打ち合わせ会を行った。さらには京都大学の専門領域別ワークショップで本報告の論文化、および多施設研究について関連病院と話し合った。日本気管食道科学会で、HPVによる腫瘍化のワクチンを用いた予防の演題があったので、論文化の参考になると考えて公聴した。

本発表の内容は、頭頸部癌学会誌に推薦論文として論文化して提出し採択された。

IV. 10 頭頸部腺様嚢胞癌の検討

中央市民病院 頭頸部外科 竹林 慎治

【発表】

学会発表：

第 118 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

2017 年 5 月 18-20 日, 広島 口演

演題名：「当院における頭頸部腺様嚢胞癌の検討」

論文発表：

耳鼻臨床 110 : 6 ; 423-429, 2017

題 名：「頭頸部腺様嚢胞癌 23 例の検討」

【概要】

目的：腺様嚢胞癌は、頭頸部領域の悪性腫瘍では約 1% 程度に認められ、比較的稀な疾患である。特徴として、診断に難渋することがしばしばあり、緩徐に進行することが比較的多いが、局所再発、遠隔転移を高頻度に認め、長期予後は必ずしも良好ではない。治療に難渋する症例もしばしば認められ、その原因の一つとして、症例数が少なく、治療効果の検証が困難なため、エビデンスのある治療法の確立が困難なことにある。治療方法の改善には、少しずつでも症例を積み重ねて、検討をする必要がある。そこで、今回我々は、当院で 20 年間に経験した頭頸部腺様嚢胞癌の症例について検討した。

対象と方法：1996 年～ 2015 年の期間に当院耳鼻咽喉科・頭頸部外科で一次治療を施行した 23 例を後方視的に検討した。検討した項目は、年齢、病期期間、原発部位、穿刺吸引細胞診、TNM および Stage 分類、原発部位治療内容、手術治療例の切除断端、術後放射線治療の有無である。

結果：

1. 全症例の検討

男性 10 例、女性 13 例、年齢は 34～94 歳、中央値は 59 歳であった。病期期間は、1 か月以内から 15 年(平均 27 か月、中央値 6 か月)とばらつきが大きかった。原発部位は、耳下腺 10 例、顎下腺 6 例、舌下腺 2 例、中咽頭 2 例、鼻腔 2 例、口腔 1 例であった。穿刺吸引細胞診検査を 9 例に施行し、良性または良性疑い 4 例、良悪性鑑別困難 3 例、悪性または悪性疑いが 2 例であった。原発部位の一次治療の内訳は、手術治療 17 例、放射線治療 3 例(重粒子線 2 例、サイバーナイフ 1 例)、緩和治療 3 例であった。観察期間は 44～7214 日(中央値 1539 日)であった。死亡例を 9 例に認め、原病死が 6 例、他病死が 3 例であった。10 年以上経過観察が可能であった症例は 4 例であった。術前に腺様嚢

胞癌等診断することが困難な症例が数例あった。5 年粗生存率は、82%、10 年粗生存率は 47%であった。疾患特異的生存率は、5 年 82%、10 年 65%であった。リンパ節転移と遠隔転移が予後不良因子であった。緩和治療群は極めて予後不良であった。

2. 一次治療で手術治療を選択した症例の検討

局所再発を 3 例に認め、遠隔転移を 4 例に認め、両方認めた症例は 1 例であった。断端陽性症例は 8 例で、生存率に有意差を認めなかった。術後放射線治療を施行した症例は 13 例で、術後放射線治療群の方が予後不良であった。

考察：リンパ節転移と遠隔転移が予後不良因子であった。遠隔転移を念頭においた診療が必要になると思われた。手術治療で断端陽性症例と陰性症例で予後に相違を認めなかった理由として、断端陽性症例には全例術後放射線治療を施行しており、その効果が考えられる。断端陽性症例には、術後放射線治療が推奨される。一方で、術後放射線治療症例の予後が不良であった理由として、術後放射線治療を施行しなかった症例は、全例早期癌で、切除断端陰性であった症例であったためと思われる。早期に完全摘出可能であれば必ずしも術後放射線治療が必要でない症例もあると思われた。腺様嚢胞癌はさまざまな臨床経過をたどり、適切な治療法を確立するためにはさらなる症例の蓄積が必要である。

IV. 11 日本人進行再発乳癌患者におけるエベロリムス薬物動態と副作用の関連

中央市民病院 薬剤部 平昌 正樹

【目的】エベロリムスは進行再発乳癌治療におけるキードラッグのうちの一つである。しかし、乳がん患者におけるエベロリムスの副作用は、臓器移植に使われる場合に比べて発現頻度が高く、特に日本人患者において問題となっている。

エベロリムスが臓器移植で使用される場合、その投与量は推奨される血中トラフ濃度をもとに調節される。例えば、カルシニューリン阻害剤 (CNI)、グルココルチコイドと併用の場合は 3-8ng/mL、CNI を含まない場合は 6-8ng/mL が目標トラフ濃度とされている。

しかし乳がん患者におけるエベロリムスの薬物動態 (PK) に関する情報は限られている。そこで今回、進行再発乳がん患者におけるエベロリムスの PK と副作用の関係について調べることにした。

【方法】 神戸市立医療センター中央市民病院で2015年11月から2016年11月にエベロリムスが投与され同意が得られた12名を対象とした。エベロリムス服用前と、服用1, 4, 8時間後の全血2 mLを採取した。エベロリムスは1日1回10mgの服用とし、エベロリムスに関連すると思われる副作用の場合に減量可能とした。初回の減量は1日1回5 mgとし、2回目の減量は5 mgの隔日服用とした。

エベロリムス血中濃度は validated latex-enhanced turbidimetric immunoassay により測定した。PKパラメーターの推定は、ベイジアン法を用いた MW/Pharm

(Mediware) を用いて行った。

エベロリムスの副作用の評価は最初の1か月間は毎週、その後は-4週ごとに、Common Terminology Criteria for Adverse Events Ver. 4.0.に基づき行った。

【結果】 患者の背景を表1に示す。エベロリムスの開始用量は10mgが7名、5mgが5名であった。10mg開始の患者7名のうち4名に、また5mg開始の5名のうち3名に減量が必要であった。

推定したPKパラメーターを表1に示す。クリアランスやトラフ濃度の最小値と最大値は3倍以上の差が見られた。

表1. 推定PKパラメーター

Bayesian estimated PK parameters		Bayesian estimated parameters at PK study			Bayesian estimated parameters at steady state for initial dose	
CL (L/h)	V1 (L)	Ctrough (ng/mL)	AUC0-24 (ng · h/mL)	AUC0-48 (ng · h/mL)	Ctrough (ng/mL)	AUC0-24 (ng · h/mL)
9.3	81.3	11.2	563	740	18.0	781
(4.4-16.2)	(39.0-125.5)	(6.6-23.1)	(363-1046)	(622-1132)	(11.3-35.7)	(559-1295)

減量が必要であった患者 (DLT (+)) と、減量が必要なかったもしくは減量後の患者 (DLT (-)) の推定トラフ濃度を図1に示す。減量が必要であった患者は、減量が必要なかった患者に比べ有意に推定トラフ濃度が高かった (p=0.013)。

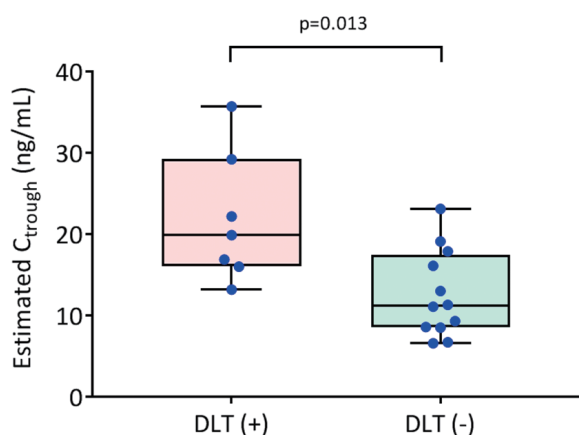


図1. 推定トラフ濃度と治療忍容性

副作用発現状況を表2に示す。主な副作用は、口内炎 (10/12)、皮疹 (9/12)、倦怠感 (6/12) であった。

表2. 副作用発現状況

Adverse events	All patients (n=12), %			Initial dose; 10mg/day (n=7), %			Initial dose; 5mg/day (n=5), %		
	Grade			Grade			Grade		
	All	1	2	All	1	2	All	1	2
Mucositis oral	83	58	33	71	29	43	100	80	20
Rash	75	58	17	71	57	14	80	60	20
Hypertriglyceridemia	75	50	25	86	57	29	60	40	20
Platelet decrease	67	67	0	86	86	0	40	40	0
Cholesterol high	67	58	8	57	43	14	80	80	0
Malase	50	50	0	71	71	0	20	20	0
Epistaxis	33	33	0	43	43	0	20	20	0
Hyperglycemia	33	8	25	29	0	29	40	20	20
Diarrhea	33	0	33	43	0	43	20	0	20
Dysgeusia	33	25	8	43	29	14	20	20	0

図2に症例を提示する。65歳、左乳がん患者。手術後約3年で多発肝転移再発。4thラインとしてエベロリムス+エキセメスタンが開始となった。エベロリムスは10mg/日で開始されたが、Day8に口内炎G1、Day15に口内炎G2と判定され、一旦エベロリムスが休薬になった。その時の推定トラフ濃度は19.9ng/mLであった。Day23に口内炎G1に軽減したため、5mg/日に減量してエベロリムスが再開となった。再開後G2の口内炎の発現なく継続服用できた。再開後の定常状態におけるトラフ濃度は8.5ng/mLであった。その後244日間のPFSを保つことが出来た。

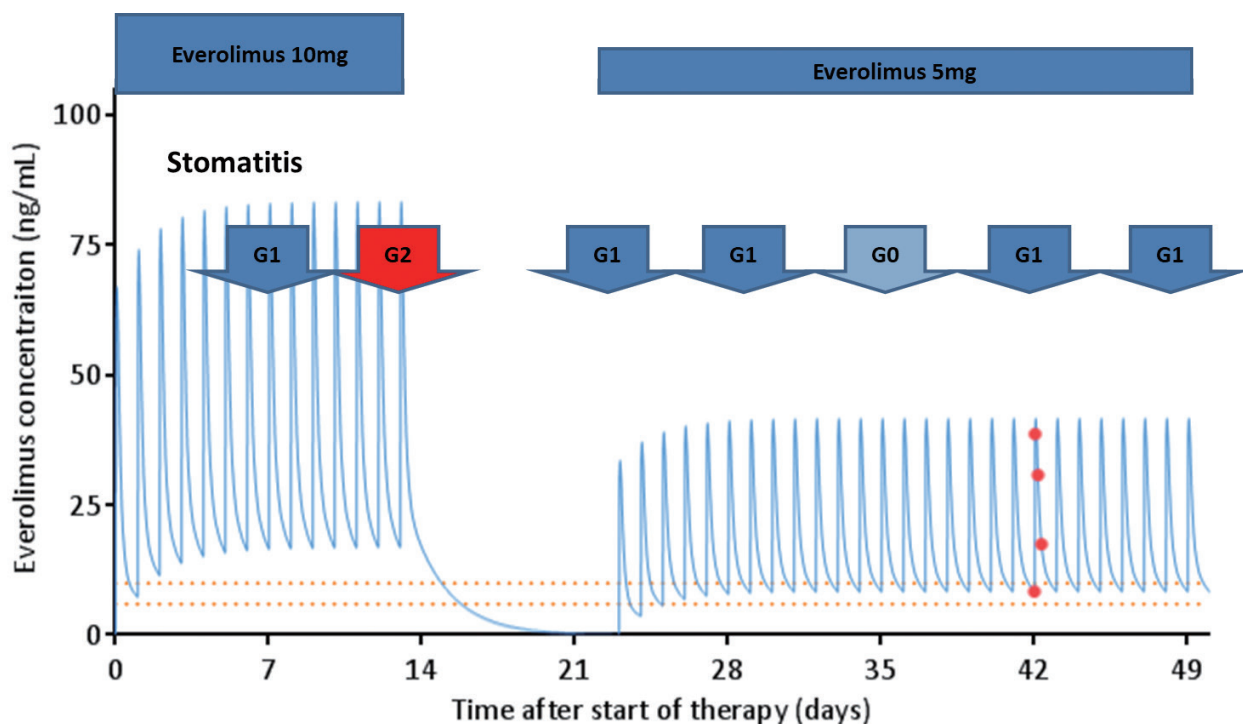


図2. 推定 PK プロファイルと副作用発現状況

【考察】 今回の研究により、日本人乳がん患者におけるエベロリムス PK に大きな個体差があることが明らかになった。また、エベロリムスの高曝露が忍容性の低下につながる事が示唆された。

今後さらに研究を重ね、エベロリムスの PK と PD の関係を明らかにし、進行再発乳がん患者におけるエベロリムスの目標トラフ濃度の同定につながるようにしたい。

国際 TDM 学会 2017 (京都) にて発表

IV. 12 SPECT/CT 画像による去勢抵抗性前立腺がんにおける骨転移の治療効果判定

中央市民病院 放射線技術部 清水 敬二

近年、前立腺癌の治療シークエンスにおいて、アビラテロン、エンザルタミドなどの去勢抵抗性前立腺癌 (Castration resistant prostate cancer; CRPC) に対する新規アンドロゲン (Androgen Receptor; AR) 標的薬、カバジタキセル、骨転移のある CRPC に対する塩化ラジウム (Ra-223) 注射液 (商品名: Xofigo) などが使用可能となった。最近承認された Xofigo は海外第Ⅲ相臨床試験 (ALSYMPCA Study) で骨転移のある CRPC 例において、全生存期間を延長することが報告されている。国内における Ra-223 の臨床効果は、55 kBq/kg を 4 週間隔で 6 回投与することで得られている。

このことから、骨転移の確認後、可能な限り早期か

ら 6 回投与の機会を喪失することなく投与することが望まれているが、その為には骨シンチグラフィにおける確かな骨転移のモニタリングが必須である。また長期にわたる前立腺癌の治療では、その中止時期も課題の一つである。進行性前立腺癌国際コンセンサス会議で発表された泌尿器科医師を対象としたアンケートでは、CRPC 例における治療の中止時期について、1) PSA の上昇、2) 画像検査上での進展、3) 症状の進展、4) 1~3 のうち 2 項目に該当した時、5) 1~3 の全項目に該当した時、のうち 8 割以上の医師が 4) の 2 項目に該当したときと回答しており、中止時期についても画像検査による評価が参考にされている。また、近年では SPECT 装置に CT 装置が付随した、SPECT/CT 装置が開発され、当院でも導入されている。この装置では、CT 画像による吸収補正画像が取得でき、SPECT 画像の集積度合いを定量的に評価することが可能となった。

現在、この Xofigo を 6 回投与している患者数は 11 症例、治療中の患者が 1 症例であり、目標の 16 症例まで、あと 5 人となっている。骨シンチ検査も治療効果判定で行っており、腫瘍マーカーの Prostate Specific Antigen (PSA) と ALKaline Phosphatase (ALP) のデータも順調にデータの蓄積ができていく。とりあえず、11 症例で 10 月の日本核医学会もしくは、Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine に抄録を提出し、学会の発表を予定。

IV. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(2) 松本アレルギー疾患研究事業

IV. 13 小児における環境アレルゲン / 経口免疫療法
中央市民病院 小児科 田中 裕也

【研究成果】

論文

日本小児アレルギー学会雑誌

「急速皮下免疫療法の現状と今後の展望 (ダニ)」

学会発表

第 66 回日本アレルギー学会 (2017/ 6、東京 発表済)

「小児への標準化ダニ抗原を用いた急速皮下免疫療法の安全性」

第 272 回兵庫県小児科学会地方会

「重症食物アレルギー児への経口免疫療法の経験」

第 54 回日本小児アレルギー学会

(2017/11 栃木 発表済)

「急速皮下免疫療法の現状と今後の展望 (ダニ)」

「皮下免疫療法を導入後 3 年以上経過するとどうなったか？」

【研究活動の要旨】

環境アレルゲン免疫療法はアレルギー疾患における唯一の原因特異的治療である。海外においてはアレルギー診療の中心的役割を果たしており、本邦でも舌下免疫療法の登場により脚光を浴びつつあるがまだまだ普及していない。環境アレルゲン免疫療法はアレルギー疾患を予防するポテンシャルのある治療で小児こそ行うべきであると我々は考えており、積極的に実施している。

また重症食物アレルギー患者は少なからず存在し、厳格な除去を余儀なくされ、また誤食によるアナフィラキシーのリスクもあった。従来までは除去しか選択肢がなかったが、近年経口免疫療法がおこなわれるようになり、脚光を浴びている。当科でも 2017 年倫理委員会承認を経て本治療の研究を開始している。

2017 年 4 月現在で合計 180 名の小児に対して急速皮下免疫療法を導入を完了しており、この数は小児では国内有数である。また経口免疫療法も 2017 年は 10 名に導入を完了した。今後もアレルギーに悩む小児に対して積極的に行うだけでなく引き続き学会発表、論文投稿、各種セミナー / 研究会への発表などを通じて、当院の活動を発信していきたいと考えている。

IV. 14 ケロイド・肥厚性瘢痕組織における神経局在
中央市民病院 形成外科 池田 実香

【目的】

ケロイドは外傷や手術痕だけでなく、にきびや虫さされ等の微細な傷から発生し、元の傷を超えて進行性に増大する特徴を有し、極めて難治性な疾患である。その醜形のみならず、制御困難な強いかゆみ・知覚過敏・痛みをもたらすことが特徴である。

現在の治療法としては、外科的切除のほか、ステロイド外用や局注、抗アレルギー剤であるトラニラスト内服、外科的に病変を切除した場合は、術後放射線療法を併用するが、しばしば再発もみられ、治療に難渋する疾患である。保存的治療にともない、赤みや膨隆などの肉眼的所見が改善しても、異常知覚が残存し、そのことが大きな問題となる。

ケロイドは細胞外マトリックスの異常蓄積や TGF- β やインターロイキンなどの炎症性の分子の増加、肥満細胞や免疫系細胞の異常も指摘されているが、病因や病態は多くが不明であり、そのため根本的なアプローチが出来ず、苦痛に耐える患者はおおく、病態解明が急がれるところである。

今回、ケロイドや肥厚性瘢痕に見られる制御困難な掻痒や知覚異常に着目した。末梢神経のシュワン細胞やメラノサイト、樹状細胞に陽性を示す S-100 タンパクと、神経細胞の細胞質や軸索、新たな神経伸長で見られる PGP9.5 の免疫染色をおこなうことで、皮膚での有髄神経および神経の伸長を各組織で検討する。また、皮膚の感覚神経は触覚・圧覚・温冷覚・痛覚はそれぞれ受容する器官が異なるが、痛覚をつかさどる Cfiber の自由終末より分泌される神経ペプチドである substance P と CGRP (カルシトニン遺伝子関連ペプチド) の免疫染色を行い、ケロイド・肥厚性瘢痕でのこれら Cfiber の局在と神経線維を比較することを目的とした。重ねて、肥厚性瘢痕は痛みや痒みの症状がある症例とない症例があることより、その症状と神経との相関も検討する。

これらの検討により、ケロイドの病態と神経の関連を解明し、治療に結びつけることを目的とした。

【方法】

1. 当科でのケロイド・肥厚性瘢痕切除手術を施行した患者より同意を得て、切除病変をホルマリン固定し、パラフィン包埋作成。(正常皮膚は他の形成外科手術施行時に切除病変に附属した余剰皮膚を提供いただいた)

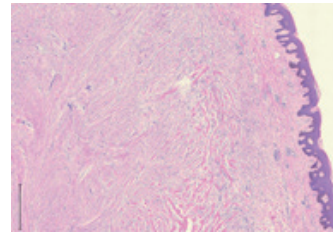
2. それぞれの疾患において、痒みや自発痛等の局所の症状の有無を確認。
3. パラフィンブロック組織を薄切し、HE染色およびS-100、SP、CGRP、PGP9.5の免疫組織学的検索を施行
4. コンフォーカル顕微鏡で表皮下組織の神経線維の解析施行

【結果】

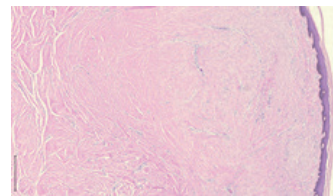
代表症例写真

HE染色

ケロイド

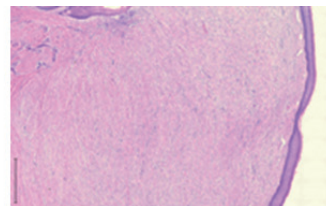


有症状肥厚性瘢痕

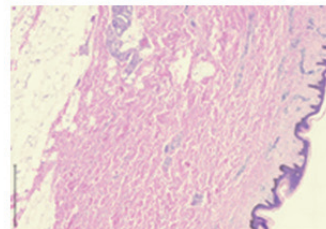


Scale bar: 500 μm

無症状肥厚性瘢痕



正常皮膚



Scale bar: 500 μm

免疫組織学的染色

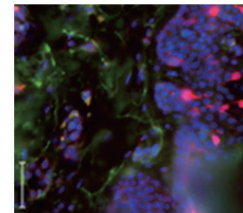
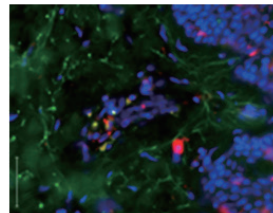
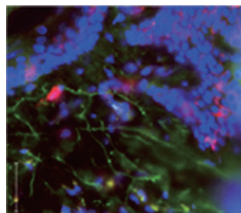
すべて抗S-100β抗体(赤)

抗PGP抗体(緑)

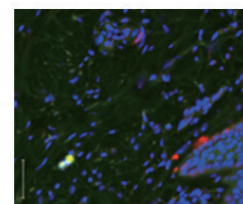
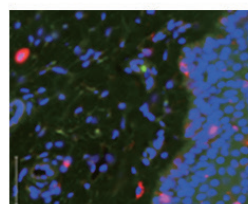
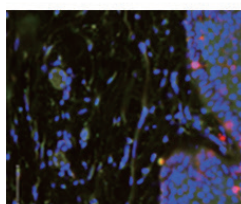
抗SP抗体(緑)

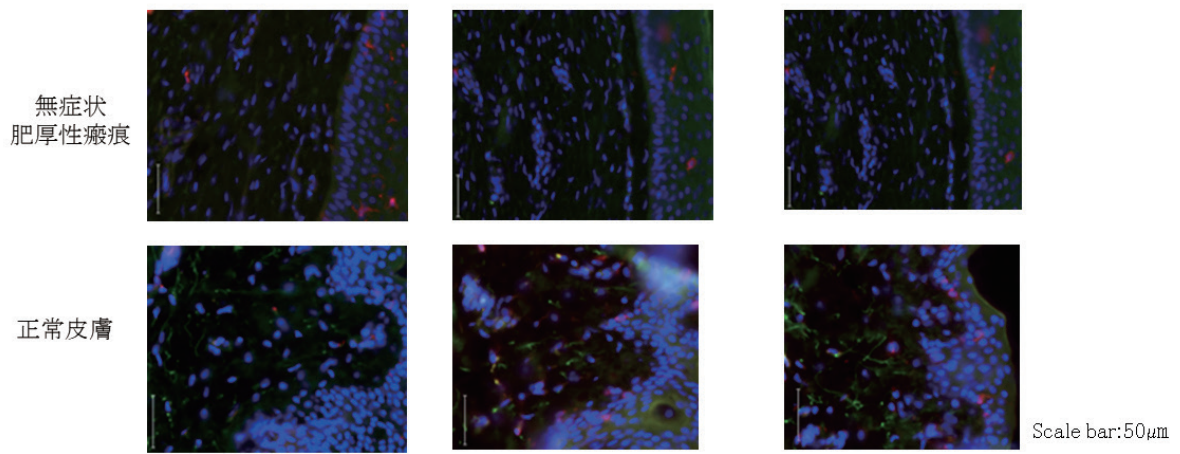
抗CGRP抗体(緑)

ケロイド

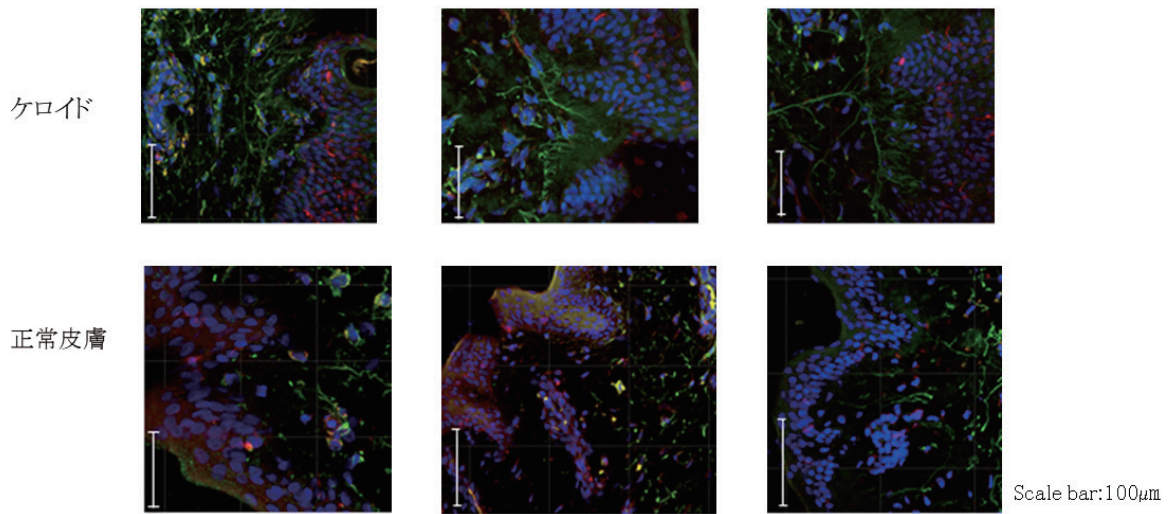


有症状肥厚性瘢痕





共焦点レーザー顕微鏡



蛍光免疫染色において、ケロイド組織の真皮浅層から表皮層にかけて、神経ペプチド陽性線維が多く見られた。

また、肥厚性瘢痕においては、症状のあるものの方が、無いものに比較して多く見られた。

疾患統計

	年齢	性別	部位	症状	S-100	PGP9.6	SubstanceP	CGRP
ケロイド	47	M	前胸部	(+)	(+)	(++)	(++)	(++)
	38	F	肩甲部	(+)	(+)	(++)	(++)	(++)
	33	M	耳垂	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)
	30	F	上腕	(+)	(+)	(++)	(++)	(++)
	33	M	前胸部	(+)	(+)	(++)	(++)	(++)
肥厚性瘢痕	11	F	臀部	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
	22	F	上口唇	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)
正常皮膚	33	M	腹部	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)
	47	M	腹部	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)
	38	F	肩甲	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)
	33	M	前胸部	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)

神経マーカーのうちS-100に関しては、疾患に関わらず、ケロイド・肥厚性瘢痕において陽性線維が見られた。

肥厚性瘢痕において症状の無いものは正常皮膚と同様にPGP9.5・SubstanceP・CGRP陽性線維は少なく、

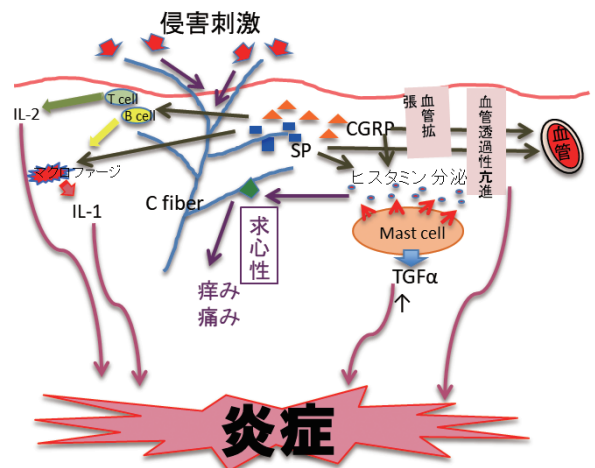
ケロイドおよび症状のある肥厚性瘢痕においては、PGP9.5・SubstanceP・CGRP陽性線維がより多く見られた。

【考察】

- ・ケロイドにおいて、S-100が正常皮膚に比較して細く長い線維が見られる (*British J Derm. 2008*) 報告や、正常皮膚と比較して有意差がない (*Acta Derm Venereol.2012*) といった報告があるが、詳細に検討されたものはない。
- ・肥厚性瘢痕組織において、神経ペプチドの発現は正常皮膚に比較して、表皮基底層に多く蓄積し (*Lancet.1992*) ,また痛み等の症状のあるものに特に多く見られる (*British J Derm. 1994*) ことが報告されており、SubstancePの阻害酵素であるneural endpeptidaseが組織内に減少していること (*PRS. 2003, Wound Rep Reg.2007*) も報告されている。また、動物モデルでの熱傷後潰瘍の神経ペプチドの経時的变化においては、創傷形成当初には全く見られない神経ペプチドが数日後に増加し、瘢痕が上皮化すると減少する (*PRS.1974*) ことも報告されている。これらのことから、神経ペプチドが創傷治癒になんらかの役割を果たしていることが示唆される。
- ・今回の報告では、正常皮膚と比較して、ケロイドや症状のある肥厚性瘢痕において、神経の増生と神経ペプチドの増加が見られた。症例数がまだ少なく、断定的な結論とは言えないが、症状の有無と神経の増生、および神経ペプチドの増加に相関がある可能性は示唆された。
- ・皮膚の代表的なアレルギー性疾患であるアトピー性皮膚炎では、血清中のCGRP濃度が正常人に比べて高く、組織では、正常では真皮内に存在するPGP9.5陽性線維が表皮と真皮の境界部分を超えて表皮に伸張することが報告され (*Cell Ti Res,2000, JD,2014*)、掻痒との関連が指摘されている。またPUVA療法の前後で掻痒の改善とPGP9.5陽性線維の減少がみられ、その関連が言われている。また、乾癬などの皮膚炎症疾患においても、神経ペプチドの増加が報告されている。反対に、糖尿病性の末梢神経障害のある足

趾の皮膚ではPGP9.5陽性線維が正常皮膚に比較し優位に少ない (*Neurology.2012*) ことが報告されている。

- ・侵害刺激は皮膚浅層のCfiberの自由終末で受容され求心性に中枢へと刺激が伝達される。この時、自由終末から神経ペプチドが放出される。放出されたSubstancP・CGRPなどの神経ペプチドは、肥満細胞に働きヒスタミンの放出を促し、痒みを惹起すると言われている。また、単球・リンパ球系に働くことで炎症性サイトカインの生成を促進し、血管には血管拡張を促し、炎症を惹起する。また、上皮細胞や線維芽細胞、血管内皮細胞の増殖を促すことが報告されており、正常な創傷治癒においても、重要な役割を果たしていると考えられる。
- ・気管支喘息や偏頭痛においては、神経原性炎症が大きくその病態に寄与していることがいわれているが、上記の報告と今回の研究から、私が見た仮説であるが、ケロイドの発生はにきびや外傷や手術等の外的な侵害刺激である。これらの侵害刺激からの神経原性炎症のカズケードが、制御不能となり、ケロイドは炎症を伴う終わりのない増殖が継続し、病変が拡大し続けてしまうのではないだろうか。
- ・今後、さらに症例を増やし、検討分子を追加し、研究・検証をしていきたい。



以上の研究は、第26回形成外科学会基礎学術集会(2017.10.20)、第12回瘢痕・ケロイド治療研究会(2017.11.28)にて発表した。

IV. 15 Trauma panscan における造影剤の必要性と有害事象についての検討

中央市民病院 救急科 大久保祐希

【背景】 Trauma panscan に関して肯定的な論文が多く出ている。造影剤使用が原則であるが、副作用の懸念もあり造影剤を使用するか悩むことがある。

【目的】 Trauma panscan の造影剤の必要性及び有害事象発生率について検討する。

【方法】 2015年4月1日～2015年10月31日の7ヶ月でTrauma panscanを撮影した症例を検査オーダーのデータより抽出した。カルテレビューを行い、受傷機転、ISS、Primary Survey（以下PS）の結果、造影CTの必要性、造影剤による有害事象について後方視的に調査・検討した。造影CTの必要な症例の定義は血管損傷、腹腔内臓器損傷、後腹膜血腫のある症例とした。

【結果】 該当症例は192例あり、そのうち造影CTは184例に撮影された。造影CTの必要があった症例は37例（20%）、造影剤による有害事象を認めた症例は4例（2%）存在した。PSで異常を認めない症例が143例あり、その中で造影CTの必要な症例が17例（12%）存在した。

【考察】 今回の検討では約2割の症例で造影CTが必要であり、PSに異常を認めずとも造影CTが必要な症例も認めた。造影剤による有害事象発生率も低く、可能な限りTrauma panscanでは造影剤使用が望ましいと考える。

本研究は2017年6月1日、第31回日本外傷学会総会・学術集会ポスターセッションで発表。当院の体制やinclusion criteriaなどについての質問があり回答。今後、前向きで造影CT撮影群と非撮影群に分けての研究も検討している。

IV. 16 マムシ咬傷 14 例の検討

—アドレナリン予防投与の提案—

中央市民病院 救急科 桑原 佑典

つくば市で行われた第39回日本中毒学会総会・学術集会において「マムシ咬傷14例の検討—アドレナリン予防投与の提案—」という演題で口演する機会をえた。マムシ咬傷において抗毒素血清の投与が推奨されているが、アレルギー反応がしばしば生じるため抗毒素血清投与を躊躇うことがある。そのアレルギー反

応を減らす目的でアドレナリン事前皮下投与の有効性が複数の研究で示されている。しかし、日本の治療指針には現在取り込まれていないため、当院の症例を元にその有効性について議論した。聴衆からの質問では、ステロイドやヒスタミンブロッカーなど他の抗アレルギー薬の有効性や、アドレナリンが安全に使用できるかなど活発な議論をいただいた。

当院での症例数には限りがあり、当院のデータのみでは日本におけるアドレナリンの予防投与の有効性を確認するものではない。しかし、今後他施設でマムシ咬傷に関する疫学研究に当院救急部も参画することとなり、今回の研究内容であるアドレナリン予防投与の実施率・有効性など検証できるようになると見込まれる。

IV. 17 急速破壊型股関節症様の関節破壊を呈した生物学的製剤使用中の関節リウマチ症例

中央市民病院 総合内科 志水 隼人

【発表学会】

第61回日本リウマチ学会総会・学術集会

2016年4月20日～22日：福岡

【はじめに】 関節リウマチにおける股関節病変は緩徐発症であり、月単位で破壊が進行する例は稀である。その中でも生物学的製剤使用中に発症した報告はない。我々は生物学的製剤使用中に急速に股関節の破壊を呈した関節リウマチの症例を経験した。

【症例】 74歳女性。約1年半前に発症した血清反応陰性関節リウマチに対してメトトレキサート14mg/週、アバタセプト125mg/週で治療していたが、DAS28-ESRは5.75とコントロール不良で、CRP11.5mg/dLと高値だった。来院3日前の起床時から左股関節痛を自覚し立位困難となり受診した。股関節MRIで左寛骨と大腿骨頭に骨髄浮腫を認めた。左股関節穿刺を施行し、関節液の一般細菌と抗酸菌培養は陰性で結晶も認めなかった。疼痛の改善がなく整形外科に何度か手術を依頼したが、CRP高値であり感染の可能性を考慮され保留となっていた。しかし第68病日の股関節X線で左股関節の著明な破壊像を認め、急速破壊型股関節症が疑われ、第113病日に左股関節人工骨頭置換術を施行した。術中所見では左股関節液貯留はあるが膿性ではなく関節液培養は陰性だった。術後は独歩可能となり、CRPも著明に低下した。

【考察】 急速破壊型股関節症は6～12か月以内に大腿骨頭・股関節の高度な破壊を呈する疾患とされているが、病態については不明な点が多い。急速破壊型股関節症様の関節破壊を来した関節リウマチの報告は稀であり、その中でも生物学的製剤使用中に発症した報告はない。生物学的製剤は従来治療と比較して有意な骨破壊抑制作用が示されており、加えて骨修復を認める症例もある。本症例は、このような骨破壊抑制作用を有する生物学的製剤使用中に急速破壊型股関節症様の関節破壊を生じた稀な症例であり、生物学的製剤による骨破壊抑制に関する今後の研究に寄与するものとする。また急速破壊型股関節症は発症すれば手術以外の治療はなく、関節リウマチ患者に急速に増悪する股関節痛を認めた場合は急速破壊型股関節症様の病態を考え慎重にフォローし、手術のタイミングを逃さないことが重要である。

IV. 18 プラジカンテルによる急性汎発性発疹性膿疱症の検討

中央市民病院 総合内科 進藤 達哉

急性汎発性発疹性膿疱症 (Acute generalized exanthematous pustulosis : AGEP) は、1980年に概念が確立された比較的新しい疾患で、ステロイド・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症、薬剤性過敏症症候群と並ぶ重症薬疹の一つである。特徴として、原因薬剤の摂取後、急速に38℃を超える発熱とともに全身性の小膿疱が紅斑上に多発することが挙げられる。被疑薬が抗原提示されることで薬剤特異的T細胞が結合し、活性化されたT細胞やケラチノサイトが真皮・表皮内でCXCL 8 (IL-8) を産生することで表皮内に好中球が遊走され、これにより無菌性小膿疱を形成するという機序が考えられている。βラクタム系やマクロライド系などの抗菌薬が原因薬剤の代表であるが、抗てんかん薬や降圧薬など多くの薬剤でAGEPが発症することが報告されている。

プラジカンテルは住血吸虫の集団駆虫目的に発展途上国を中心に大量に使用されており、重大な副作用が殆どない安全な内服薬として広く認知されている。本邦でも横川吸虫症や日本海裂頭条虫症の駆虫の第一選択薬として使用されており、その安全性の高さから外来での治療も行われている。

今回我々はプラジカンテルによりAGEPを発症した1例を経験した。本患者は海外クルージングを主とする客船のシェフとして働いており、検診で日本海列

頭条虫の虫卵が便から検出されたため駆虫目的に当科紹介となった。特記すべき既往歴やアレルギー歴はなく、内服薬もなかった。無症状だったが、再乗船のために駆虫が必須だったため、再度虫卵検査を提出の上プラジカンテル 600 mg (10mg/kg) を処方した。内服約12時間後、38℃を超えるの発熱と、全身に紅斑を生じたため当院入院となった。入院時WBC 10,800 / μ L、好中球 9,180 / μ L と好中球増多を認めた。粘膜疹はなかった。入院4日目に鼠径部や肛門周囲を中心に毛包に一致しない2 mm 大の小膿疱が出現した。同部位の病理組織検査で角質内・角質下に微小膿瘍を認め、真皮の毛細血管周囲に好中球・好酸球・リンパ球の集簇を認めた。血液培養ならびに膿疱培養は陰性だった。厚生労働省作成のAGEP診断基準を満たし、プラジカンテルによるAGEPと診断した。入院7日目までは38℃を超える発熱が持続したが、無治療経過観察で入院10日目には解熱し、膿疱も落屑化を認め、紅斑も消退したため自宅退院となった。なお、便虫卵検査は4回施行したがいずれも陰性で、小腸カプセル内視鏡検査でも虫体は認めず、プラジカンテル内服後も虫体の排泄はなかったことから、最初の検診結果が偽陽性だった可能性が考えられた。

本症例はプラジカンテルによりAGEPを発症した世界初の症例である。小児も含め世界中で幅広く使用されている薬による重症薬疹の1例であり、学会や論文で発表することを通じ、新たなAGEPの被疑薬として同薬を広く認知させる必要があると考える。

上記研究結果を2018年3月2日から3月5日まで米国フロリダ州オーランドで開催された米国アレルギー・喘息・免疫学会/世界アレルギー学会合同学会2018 (AAAAI/WAO 2018) にてポスター発表を行った。

世界各国からアレルギーの専門家が集まった1万人規模の学会であり、ポスター発表の際も多数の質疑応答が見受けられた。とは言え、やはり多くは所謂先進国からの発表であり、プラジカンテルという抗寄生虫薬は聞き慣れない医師が多く、薬物事態の基礎的な質問も複数あった。発表を通じてさらに研究課題が明らかとなったため、現在論文を作成中である (2018年中に投稿予定)。

IV. 19 喘息および COPD 治療の充実と地域連携
 ー薬剤師に対する吸入指導研修と吸入評価表
 の活用ー

中央市民病院 薬剤部 藤井 尚子

当院では、兵庫県喘息死ゼロ作戦を基盤にした保険薬局との「吸入指導依頼箋」および「吸入評価表」を活用し、良質な喘息診療の継続を目指している。吸入薬のデバイスも多様化しており、治療成績の向上には薬業連携のさらなる充実が望まれる。そこで、保険薬局薬剤師を対象とした吸入療法に関する連携研修会を実施し、当院薬剤師による吸入指導の実技講習を含め、一連の情報提供と啓発を行った。

1. 連携研修会の実施

開催日：2017年6月5日

会場：神戸市立医療センター中央市民病院

研修棟2階 研修室1・2

対象：保険調剤薬局薬剤師、病院薬剤師

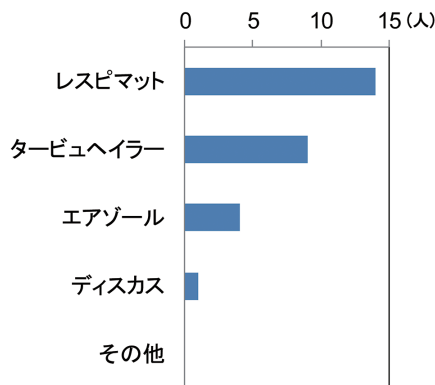
参加者：薬剤師42人(うち保険調剤薬局29人、院内13人)

医師12人

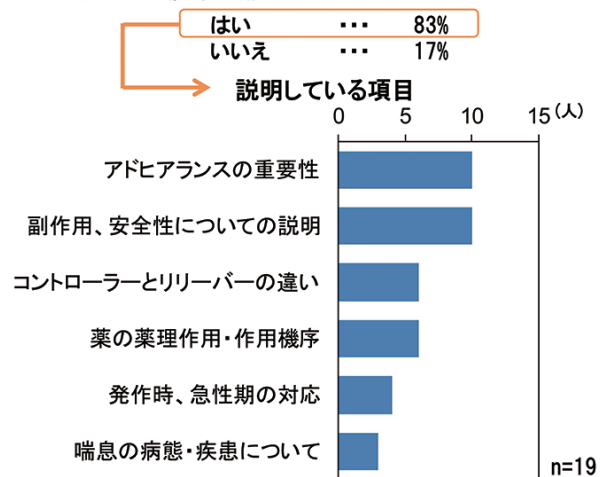
研修会では当院及び近隣クリニックの医師による講演の他、当院薬剤師による吸入指導の実技講習を行った。また、研修会終了後にアンケート調査を実施し、参加した保険調剤薬局薬剤師29人のうち23人から回答を得た(回答率79%)。

2. アンケート集計結果

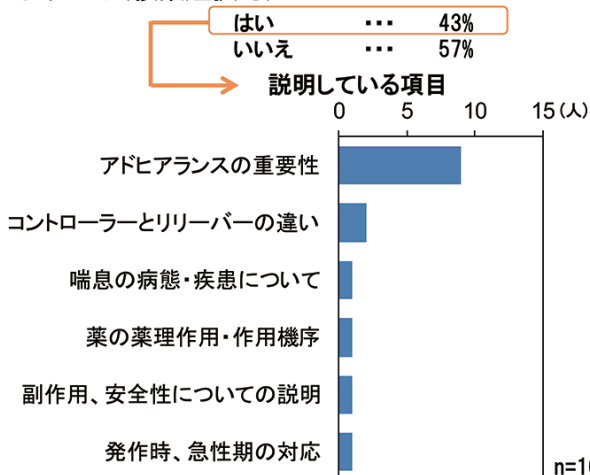
Q. 指導が難しいと感じるデバイスは？(複数選択可)



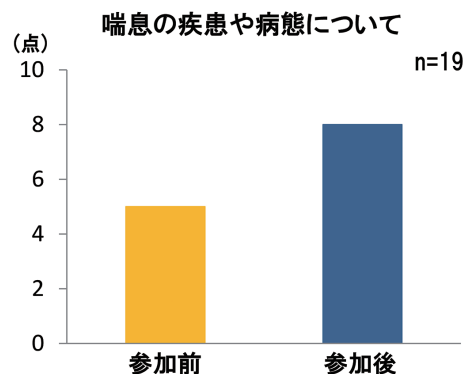
Q. 吸入指導時、吸入手技以外の説明を行っていますか？(複数選択可)

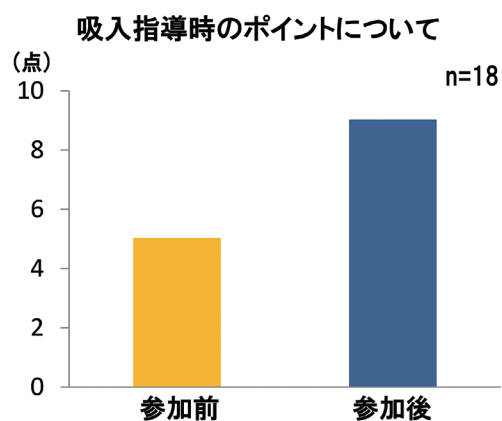
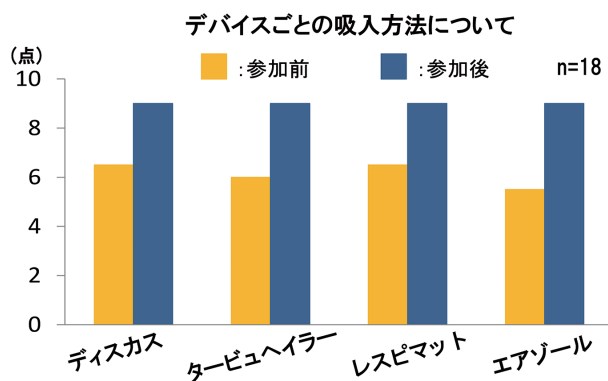


Q. 2回目以降も吸入手技以外の説明を行いますか？(複数選択可)



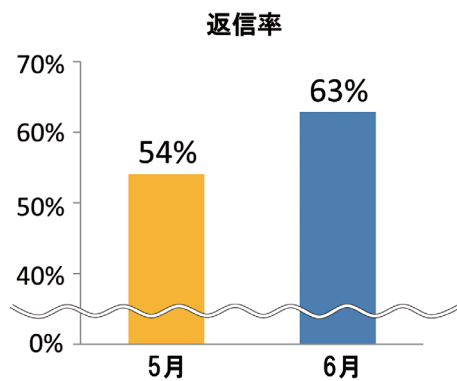
Q. 研修会を通して理解度の変化は？(10点満点)





3. 吸入評価表の返信率

研修会開催前月と比較して、翌月の吸入評価表の返信率は約10%上昇した(54%→63%)。



※6月については連携研修会実施日(6月5日)以降のデータを集計した

4. その後に神戸市で開催された研修会

当院での連携研修会を契機として、神戸市内の以下の施設で同様の吸入指導に関する研修会が実施された。

8月8日	神戸市立医療センター西市民病院
12月7日	JCHO 神戸中央病院
12月14日	神鋼記念病院・六甲病院
2018年1月	実施予定 神戸市立西神戸医療センター

5. 考察と今後の方針

本研修会を通して、参加者の吸入指導に関する理解度は向上し、指導の均質化と指導内容の向上が期待された。また、研修会実施後、保険調剤薬局からの吸入評価表の返信率は向上した。良好な返信率を保つためには今後も継続的な連携活動が重要であると考えられる。本研修会実施後にはさらなる連携強化を目指し、上記の様に各施設で研修会が実施されたことから、本研究は意義深いものであったと考えられた。

第27回医療薬学会年会 2017年11月4日(土)
幕張メッセにて発表

V. 病 院 別 診 療 科 別
論文発表及び学会報告数

V. 病院別診療科別論文発表及び学会報告数

(2017.4.1～2018.3.31)

	中央市民病院	論文発表	学会報告
1	循環器内科	30	139
2	糖尿病・内分泌内科	6	52
3	腎臓内科	3	23
4	脳神経内科	13	34
5	消化器内科	5	101
6	呼吸器内科	33	50
7	血液内科	12	50
8	腫瘍内科	21	39
9	緩和ケア内科	0	0
10	感染症科	20	30
11	精神・神経科	3	15
12	小児科・新生児科	3	30
13	皮膚科	7	14
14	外科・移植外科	0	59
15	乳腺外科	1	5
16	心臓血管外科	1	16
17	呼吸器外科	8	13
18	脳神経外科	28	141
19	整形外科	8	43
20	形成外科	2	6
21	産婦人科	7	42
22	泌尿器科	10	38
23	耳鼻咽喉科	17	39
24	頭頸部外科	14	41
25	麻酔科	9	45
26	歯科・歯科口腔外科	7	44
27	病理診断科	35	15
28	放射線診断科	3	14
29	放射線治療科	6	18
30	救急科	45	53
31	総合内科	21	48
32	看護部	2	43
33	薬剤部	58	80
34	臨床検査技術部	11	2
35	放射線技術部	5	35
36	リハビリテーション技術部	4	34
37	臨床工学技術部	0	12
38	栄養管理部	1	9
	合計数	459	1,472

	西市民病院	論文発表	学会報告
	循環器内科	0	0
	糖尿病・内分泌内科	1	21
	腎臓内科	0	0
	脳神経内科	0	2
	消化器内科	7	8
	呼吸器内科	17	51
	リウマチ・膠原病内科	0	1
	臨床腫瘍科	-	-
	精神・神経科	-	-
	小児科	0	12
	皮膚科	0	2
	外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科	2	17
	整形外科	4	6
	リハビリテーション科	-	-
	産婦人科	0	2
	泌尿器科	0	10
	眼科	-	-
	耳鼻咽喉科	-	-
	麻酔科	-	-
	歯科口腔外科	0	9
	病理診断科	0	1
	放射線科	-	-
	救急総合診療部	-	-
	総合内科	-	-
	看護部	5	7
	薬剤部	1	21
	臨床検査技術部	0	7
	放射線技術部	-	-
	リハビリテーション技術部	6	3
	臨床工学室	0	6
	栄養管理室	1	4
	診療情報管理室	0	1
	合計数	44	191

※神戸市立病院紀要第57巻(平成30年)に掲載した論文発表及び学会報告から集計した数。

	西神戸医療センター	論文発表	学会報告
1	循環器内科	0	1
2	内分泌・糖尿内科	0	12
3	腎臓内科	1	6
4	脳神経内科	0	4
5	消化器内科	1	17
6	呼吸器内科	0	1
7	免疫血液内科	4	5
8	緩和ケア内科	0	3
9	精神・神経科	3	6
10	小児科	12	21
11	皮膚科	5	11
12	外科・消化器外科	1	19
13	乳腺外科	1	12
14	呼吸器外科	7	7
15	脳神経外科	11	19
16	整形外科	2	6
17	形成外科	2	9
18	産婦人科	2	9
19	泌尿器科	4	24
20	眼科	1	6
21	耳鼻いんこう科	2	13
22	リハビリテーション科	0	0
23	麻酔科	0	5
24	歯科口腔外科	1	6
25	病理診断科	5	7
26	放射線科	0	5
27	看護部	0	10
28	薬剤部	2	7
29	臨床検査技術部	3	10
30	放射線技術部	0	6
31	リハビリテーション技術部	2	14
32	臨床工学室	2	22
33	栄養管理室	0	2
	合計数	74	305

神戸アイセンター病院	論文発表	学会報告
診療部	27	67
看護部	0	0
薬剤部	0	0
視能訓練士室	0	0
栄養管理科	0	0
事務局	0	0
	合計数	27
		67

※神戸アイセンター病院について診療部以外は業績期間を
2017.12.1～2018.3.31とする。

※神戸市立病院紀要第57巻(平成30年)に掲載した論文発表及び学会報告から集計した数。

VI. 論 文 発 表

VI. 論文発表

VI. 1 中央市民病院

VI. 1. 1 循環器内科

1. 太田光彦：【常識を疑え！あえて心エコーの指標を見直そう】左室拡大の指標は今でも左室径でよいのか？心エコー 8：402-410, 2017
2. 須賀将文, 井上 彰, 高場章宏, 有吉孝一, 瀬尾龍太郎, 吉澤尚志, 加地修一郎, 古川 裕, 佐々木康博, 北井 豪：冠動脈形成術を要した造影剤による Kounis 症候群 II 型の 1 例. 日本集中治療医学会雑誌 24：341-344, 2017
3. 加地修一郎：【大動脈疾患を見直す】治す, 大動脈疾患の治療の組み立て方. Heart View 21：734-739, 2017
4. 太田光彦：【症例から学ぶ心不全診療のための心エコー Update2017】心不全を分類して理解する, HFrEF はなぜ重要?心エコー 18：630-639, 2017
5. 北井 豪：【AS と AR を見直す】低圧較差低駆出率重症 AS を見直す. 心エコー 18：846-853, 2017
6. 加地修一郎：【心筋性状・機能診断を考えるー病理と画像が意味するものー】診るー診断に辿り着くまでの方法ー, 心臓 CT：心機能と心筋性状がここまでわかる. Heart View 21：898-905, 2017
7. 古川 裕：【慢性心不全の患者モニタリング】慢性心不全の病因・病態とその動向. 調剤と情報 23：1747-1751, 2017
8. 古川 裕：【自信をもって対応するー虚血性心疾患】虚血性心疾患を見逃さないための診断法, 急性冠症候群の臨床症状. Medicina 54：1772-1774, 2017
9. 安積佑太, 加地修一郎：【すぐそこにある心血管エマージェンシー】急性心血管疾患, 知識が救命につながる「急性 B 型大動脈解離に対する早期診断と初療」. 内科 120：1285-1290, 2017
10. 堀田 怜, 加地修一郎：【ベッドサイド心エコーの重要性ー重症心血管疾患を見逃さない (疾患編)】大動脈解離. 心エコー 18：1174-1181, 2017
11. 加地修一郎：急性・慢性 B 型大動脈解離の治療戦略 (内科治療、外科手術、血管内治療) B 型大動脈解離の治療戦略ー内科治療の役割ー. 循環器専門医 26：79-85, 2018
12. Murai R, Funakoshi S, Kaji S, Kitai T, Kim K, Koyama T, Furukawa Y：Outcomes of early surgery for infective endocarditis with moderate cerebral complications. J Thorac Cardiovasc Surg 153：831-840, 2017
13. Taniguchi T, Shiomi H, Morimoto T, Watanabe H, Ono K, Shizuta S, Kato T, Saito N, Kaji S, Ando K, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Horie M, Kimura T：Incidence and Prognostic Impact of Heart Failure Hospitalization During Follow-Up After Primary Percutaneous Coronary Intervention in ST-Segment Elevation Myocardial Infarction. Am J Cardiol 119：1729-1739, 2017
14. Shiomi H, Kosuge M, Morimoto T, Watanabe H, Taniguchi T, Nakatsuma K, Toyota T, Yamamoto E, Shizuta S, Tada T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Kimura K, Kimura T：CREDO-Kyoto AMI Investigators：QRS Score at Presentation Electrocardiogram Is Correlated With Infarct Size and Mortality in ST-Segment Elevation Myocardial Infarction Patients Undergoing Primary Percutaneous Coronary Intervention. Circ J 81：1129-1136, 2017
15. Toyofuku M, Taniguchi T, Morimoto T, Yamaji K, Furukawa Y, Takahashi K, Tamura T, Shiomi H, Ando K, Kanamori N, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Izumi C, Miyake M, Mitsuoka H, Kato M, Hirano Y, Matsuda S, Inada T, Murakami T, Takeuchi Y, Yamane K, Ishii M, Minamino-Muta E, Kato T, Inoko M, Ikeda T, Komasa A, Ishii K, Hotta K, Higashitani N, Kato Y, Inuzuka Y, Maeda C, Jinnai T, Morikami Y, Saito N, Minatoya K, Kimura T：CURRENT AS Registry Investigators：Sex Differences in Severe Aortic Stenosis-Clinical Presentation and Mortality. Circ J 81：1213-1221, 2017
16. Xanthopoulos A, Giamouzis G, Alexopoulos N, Kitai T, Triposkiadis F, Skoularigis J：Lipomatous Hypertrophy of the Interatrial Septum：A Case Report and Review of the Literature. CASE (Phila) 1：182-189, 2017
17. Furukawa Y：Angiotensin-converting enzyme inhibitors versus receptor blockers: is one better than the other for cardiovascular prevention? Heart 103：1310-1312, 2017

18. Morisawa T, Ueno K, Fukuda Y, Kanazawa N, Kawaguchi H, Zaiki R, Fuzisaki H, Yoshioka H, Sasaki M, Iwata K, Koyama T, Kitai T, Furukawa Y, Takahashi T : Significance of sequential cardiac rehabilitation program through inter-hospital cooperation between acute care and rehabilitation hospitals in elderly patients after cardiac surgery in Japan. *Heart Vessels* 32 : 1220-1226, 2017
19. Nomoto N, Tani T, Konda T, Kim K, Kitai T, Ota M, Kaji S, Imai Y, Okada Y, Furukawa Y : Primary and metastatic cardiac tumors : echocardiographic diagnosis, treatment and prognosis in a 15-years single center study. *J Cardiothorac Surg* 12 : 103, 2017
20. Minamino-Muta E, Kato T, Morimoto T, Taniguchi T, Shiomi H, Nakatsuma K, Shirai S, Ando K, Kanamori N, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Miyake M, Izumi C, Mitsuoka H, Kato M, Hirano Y, Matsuda S, Nagao K, Inada T, Murakami T, Takeuchi Y, Yamane K, Toyofuku M, Ishii M, Inoko M, Ikeda T, Komasa A, Tada E, Ishii K, Hotta K, Higashitani N, Jinnai T, Kato Y, Inuzuka Y, Maeda C, Morikami Y, Saito N, Sakata R, Minatoya K, Kimura T : Causes of Death in Patients with Severe Aortic Stenosis: An Observational study. *Sci Rep* 7 : 14723, 2017
21. Kim K, Kaji S, Kasamoto M, Murai R, Sasaki Y, Kitai T, Yamane T, Ehara N, Kobori A, Kinoshita M, Furukawa Y : Renin-angiotensin system inhibitors in patients with or without ischaemic mitral regurgitation after acute myocardial infarction. *Open Heart* 4 : e000637, 2017
22. Abe M, Morimoto T, Nakagawa Y, Furukawa Y, Ono K, Kato T, Kadota K, Ando K, Ishii M, Masunaga N, Akao M, Kimura T : Impact of Transient or Persistent Contrast-induced Nephropathy on Long-term Mortality After Elective Percutaneous Coronary Intervention. *Am J Cardiol* 120 : 2146-2153, 2017
23. Nagai T, Honda Y, Nakano H, Honda S, Iwakami N, Mizuno A, Komiyama N, Yamane T, Furukawa Y, Miyagi T, Nishihara S, Tanaka N, Adachi T, Hamasaki T, Asaumi Y, Tahara Y, Aiba T, Sugano Y, Kanzaki H, Noguchi T, Kusano K, Yasuda S, Ogawa H, Anzai T : Rationale and Design of Low-dose Administration of Carperitide for Acute Heart Failure (LASCAR-AHF). *Cardiovasc Drugs Ther* 31 : 551-557, 2017
24. Konda T, Tani T, Suganuma N, Nakamura H, Sumida T, Fujii Y, Kawai J, Kitai T, Kim K, Kaji S, Furukawa Y : The analysis of mitral annular disjunction detected by echocardiography and comparison with previously reported pathological data. *J Echocardiogr* 15 : 176-185, 2017
25. Yamashita Y, Shiomi H, Morimoto T, Yaku H, Kaji S, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Abe M, Akao M, Nagao K, Shizuta S, Ono K, Kimura T ; CREDO-Kyoto AMI registry investigators : Transradial versus transfemoral approach in patients undergoing primary percutaneous coronary intervention for ST-elevation acute myocardial infarction : insight from the CREDO-Kyoto AMI registry. *Heart Vessels* 32 : 1448-1457, 2017
26. Taniguchi T, Morimoto T, Shiomi H, Ando K, Kanamori N, Murata K, Kitai T, Kadota K, Izumi C, Nakatsuma K, Sasa T, Watanabe H, Kuwabara Y, Makiyama T, Ono K, Shizuta S, Kato T, Saito N, Minatoya K, Kimura T ; CURRENT AS Registry Investigators : Prognostic Impact of Left Ventricular Ejection Fraction in Patients With Severe Aortic Stenosis. *JACC Cardiovasc Interv* 11 : 145-157, 2018
27. Natsuaki M, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Ando K, Shiomi H, Toyota T, Watanabe H, Ono K, Shizuta S, Tamura T, Inoko M, Inada T, Shirotani M, Matsuda M, Aoyama T, Onodera T, Suwa S, Takeda T, Inoue K, Kimura T ; CREDO-Kyoto PCI/CABG registry cohort-2 investigators : Short versus prolonged dual antiplatelet therapy duration after bare-metal stent implantation : 2-month landmark analysis from the CREDO-Kyoto registry cohort-2. *Cardiovasc Interv Ther* 33 : 23-34, 2018
28. Kitai T, Tang WHW : Gut microbiota in cardiovascular disease and heart failure. *Clin Sci (Lond)* 132 : 85-91, 2018
29. Nagao K, Taniguchi T, Morimoto T, Shiomi H, Ando K, Kanamori N, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Izumi C, Miyake M, Mitsuoka H, Kato M, Hirano Y, Matsuda S, Inada T, Murakami T, Takeuchi Y, Yamane K, Toyofuku M, Ishii M, Minamino-Muta E, Kato T, Inoko M, Ikeda T, Komasa A, Ishii K, Hotta K, Higashitani N, Kato Y, Inuzuka Y, Maeda C, Jinnai T, Morikami Y, Saito N, Minatoya K, Kimura T ; CURRENT AS Registry Investigators : Acute Heart Failure in Patients With Severe Aortic Stenosis- Insights From the CURRENT AS Registry. *Circ J* 82 : 874-885, 2018
30. Nomura N, Tani T, Konda T, Kim K, Kitai T, Nomoto N, Suganuma N, Nakamura H, Sumida T, Fujii Y, Kawai J, Kaji S, Furukawa Y : Significance of isolated papillary muscle hypertrophy : A comparison of left ventricular hypertrophy diagnosed using electrocardiography vs echocardiography. *Echocardiography* 35 : 292-300, 2018

VI. 1. 2 糖尿病・内分泌内科

1. Noto R, Kamiura N, Ono Y, Tabata S, Hara S, Yokoi H, Yoshimoto A, Yanagita M : Successful treatment with bortezomib and dexamethasone for proliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG deposits in multiple myeloma : a case report. *BMC Nephrol* 18 : 127, 2017
2. Hamamoto Y, Honjo S, Fujimoto K, Tokumoto S, Ikeda H, Wada Y, Koshiyama H : Basal and Bolus Insulin Dose Changes after Switching Basal Insulin to Insulin Degludec in Patients with Type 1 Diabetes Mellitus : A Pilot Study. *Clinical Drug Investigation* 37 : 845-852, 2017
3. 難波光義, 岩倉敏夫, 西村理明, 赤澤宏平, 松久宗英, 渥美義仁, 佐藤 譲, 山内敏正 : 糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査委員会報告. *糖尿病* 60 : 826-842, 2017
4. 岩倉敏夫 : インスリン分泌促進系 SU 薬. 高齢者における糖尿病治療薬の使い方—新たなカテゴリー別目標値の適切な対応のために—, 稲垣暢也 編集, フジメディカル出版, 大阪, 2017
5. 岩倉敏夫 : わが国における重症低血糖の実態—自施設と学会調査報告をまじえて. 低血糖を回避する糖尿病治療, 難波光義 編集, フジメディカル, 大阪, 158-163, 2017
6. 伯田琢郎, 岩倉敏夫 : 低血糖への対応と対策. *調剤と情報*, 23, じほう出版, 大阪, 2017

VI. 1. 3 腎臓内科

1. Noto R, Kamiura N, Ono Y, Tabata S, Hara S, Yokoi H, Yoshimoto A, Yanagita M : Successful treatment with bortezomib and dexamethasone for proliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG deposits in multiple myeloma : a case report. *BMC Nephrol* 18 : 127, 2017
2. 中村和史, 木下啓太, 嶋田博樹, 佐々木翔, 吉本明弘 : 血性 PD 排液を契機に腎嚢胞破裂と診断し、選択的腎動脈塞栓術 (TAE) を施行した 1 例. *腎と透析*, 別冊 腹膜透析 2017 83 : 163-164, 2017
3. 嶋田博樹, 木下啓太, 中村和史, 佐々木翔, 吉本明弘 : 腹膜透析カテーテル抜去後 *Mycobacterium abscessus* による出口部感染症を起こした 1 例. *腎と透析*, 別冊 腹膜透析 2017 83 : 196-197, 2017

VI. 1. 4 脳神経内科

1. Ueda J, Yoshimura H, Shimizu K, Hino M, Kohara N : Combined visual and semi-quantitative assessment of 123I-FP-CIT SPECT for the diagnosis of dopaminergic neurodegenerative diseases. *Neurological sciences* 38 : 1187-1191, 2017
2. 吉村 元 : 成人の難治性てんかん. *神経内科* 86 : 561-567, 2017
3. Carandang MAE, Takamatsu N, Nodera H, Mori A, Mimura N, Okada N, Kinoshita H, Kuzuya A, Urushitani M, Takahashi R, Izumi Y, Kaji R : Velocity of intraneural blood flow is increased in inflammatory neuropathies : sonographic observation. *Journal of Neurology, Neurosurgery & Psychiatry* 88 : 455-457, 2017
4. 合田敏章, 渡辺光太郎, 小林潤也, 永井康晴, 尾原信行, 高橋大介 : ウレアーゼ産生菌による閉塞性尿路感染症から高アンモニア血症を呈した 1 例. *臨床神経学* 57 : 130-133, 2017
5. Goda T, Sugiyama Y, Ohara N, Ikegami T, Watanabe K, Takahashi D : P-wave terminal force in lead V1 predicts paroxysmal atrial fibrillation in acute ischemic stroke. *Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases* 26 : 1912-1915, 2017
6. Ito M, Fujiwara S, Fujimoto D, Mori R, Yoshimura H, Hata A, Kohara N, Tomii K : Rituximab for nivolumab plus ipilimumab-induced encephalitis in a small-cell lung cancer patient. *Ann Oncol* 28 : 2318-2319, 2017
7. Ueda N, Kawamoto M, Hikiami R, Ishii J, Yoshimura H, Matsumoto R, Kohara N : Serial EEG findings in anti-NMDA receptor encephalitis : correlation between clinical course and EEG. *Epileptic Disorders* 19 : 465-470, 2017
8. Ueda J, Yoshimura H, Shimizu K, Hino M, Kohara N : Response to the letter to the editor of Nicolas Nicastro et al. *Neurological Sciences* 39 : 189-190, 2018
9. Todo K, Ishii J, Kono T, Hoshi T, Kohara N : Delayed elevation of plasma brain natriuretic peptide as a cue to diagnosis of atrial fibrillation in cryptogenic stroke : A case report. *Journal of the Neurological Sciences* 381 : 16-18, 2017
10. Kishimoto I, Shinohara S, Ueda T, Tani S, Yoshimura Y, Imai Y : Orbital apex syndrome secondary to a fungal nasal septal abscess caused by *Scedosporium apiospermum* in a patient with uncontrolled diabetes : a case report. *BMC Infectious Diseases* 17 : 649, 2017

11. 藤原 悟, 吉村 元, 西矢健太, 大嶋圭一, 川本未知, 幸原伸夫: 開心術中の経食道心臓超音波検査により発症した Tapia 症候群の 1 例. 臨床神経学 57: 785-787, 2017
12. Togo M, Kono T, Hoshi T, Imamura H, Todo K, Adachi H, Kawamoto M, Imai Y, Sakai N, Kohara N: Successful endovascular therapy for multiple intracranial arterial stenosis associated with medically intractable giant cell arteritis. Journal of the Neurological Sciences 384: 104-106, 2018
13. Togo M, Hoshi T, Matsuoka R, Imai Y, Kohara N: Multiple small hemorrhagic infarcts in cerebral air embolism: a case report. BMC Res Notes 10: 599, 2017

VI. 1. 5 消化器内科

1. Hatamori H, Wada M, Taniguchi Y, Inokuma T: Pancreatic pseudocyst localized in the gastric wall after EUS-guided FNA of type 1 autoimmune pancreatitis. Gastrointestinal Endoscopy 86: 919-921, 2017
2. Ogawa S, Imai Y, Inokuma T: Mimicking Gastric Natural Killer/T-Cell Lymphoma. Gastroenterology 153: e22-e23, 2017
3. Toyonaga H, Fukushima M, Inokuma T, Imai Y: Mantle cell lymphoma involving the esophagus evaluated by magnifying endoscopy with narrow-band imaging. Gastrointestinal Endoscopy 87: 305-306, 2018
4. Toyonaga H, Taniguchi Y, Inokuma T: Traumatic bile duct neuroma diagnosed by boring biopsy with cholangioscopy. Gastrointestinal Endoscopy 87: 1361-1362, published online 2017
5. Toyonaga H, Morita S, Inokuma T, Ezoe Y: Cricoid pressure to prevent gastric deflation during esophagogastroduodenoscopy. VIDEOGIE 3: 102-105, 2018

VI. 1. 6 呼吸器内科

1. 市原英基, 井上義一, 小倉高志, 木浦勝行, 岸 一馬, 高橋和久, 瀧川奈義夫, 富井啓介, 本間 栄: 間質性肺炎合併肺癌に関するステートメント. 間質性肺炎合併肺癌に関するステートメント, 南江堂, 東京, 2017
2. 宮本顕二, 千住秀明, 一和多俊男, 植木 純, 小川浩正, 桂 秀樹, 木村 弘, 神津 玲, 近藤康博, 塩谷隆信, 竹川幸恵, 富井啓介, 福家 聡, 茂木 孝: 酸素療法マニュアル. 酸素療法マニュアル, メディカルレビュー社, 大阪, 2017
3. Tachikawa R, Chin K: Thyroid hormones and obstructive sleep apnea. Thyroid Hormones and Their Related Diseases, Japan Thyroid Association, TOKYO, 201-210, 2017
4. 立川 良: 【“患者に優しいケア”を目指す 続けられる NPPV のコツ】(Theme 4) 続けられる NPPV のための薬物療法. 呼吸器ケア 16: 139-147, 2018
5. 立川 良, 陳 和夫: 甲状腺疾患と睡眠時無呼吸. 日本甲状腺学会設立 60 周年記念書籍 甲状腺ホルモンと関連疾患, 184-192, 日本甲状腺学会, 2017
6. 富井啓介: 実地医家が知っておくべき治療のポイント 抗線維化薬ビルフェニドン (ピレスパ). Medical Practice 34: 639-643, 2017
7. 永田一真, 富井啓介: 呼吸管理 若手医師のための呼吸器診療スキルアップー苦手意識を克服しよう. 呼吸器ジャーナル 65: 284-290, 2017
8. Oga T, Taniguchi H, Kita H, Tsuboi T, Tomii K, Ando M, Kojima E, Tomioka H, Taguchi Y, Kaji Y, Maekura R, Hiraga T, Sakai N, Kimura T, Mishima M, Wolfram Windisch W, Kazuo Chin K: Validation of the Japanese Severe Respiratory Insufficiency Questionnaire in hypercapnic patients with noninvasive ventilation. Respiratory Investigation 55: 166-172, 2017
9. Sato Y, Kaji S, Ueda H, Tomii K: Thoracic aortitis and aortic dissection following pegfilgrastim administration. Eur J Cardiothorac Surg 52: 993-994, 2017
10. Sato Y, Fujimoto D, Morimoto T, Uehara K, Nagata K, Sakanoue I, Hamakawa H, Takahashi Y, Imai Y, Tomii K: Natural history and clinical characteristics of multiple pulmonary nodules with ground glass opacity. Respiriology 22: 1615-1621, 2017
11. Ito J, Fujimoto D, Nakamura A, Nagano T, Uehara K, Imai Y, Tomii K: Aprepitant for refractory nivolumab-induced pruritus. Lung Cancer 109: 58-61, 2017

12. Mori R, Fujimoto D, Ito M, Tomii K : Bevacizumab for ramucirumab refractory malignant pleural effusion in non-small cell lung cancer : a case report and review of the literature. *Oncotarget* 8 : 48521-48524, 2017
13. 富井啓介 : 喫煙と間質性肺炎. *ホスピタリスト* 5 : 270-274, 2017
14. 富井啓介 : FAQ ハイフローセラピーの正しい理解と適応. *医学界新聞* 3-3, 2017
15. Fujimoto D, Morimoto T, Ito J, Sato Y, Ito M, Teraoka S, Otsuka K, Nagata K, Nakagawa A, Tomii K : A pilot trial of nivolumab treatment for advanced non-small cell lung cancer patients with mild idiopathic interstitial pneumonia. *Lung Cancer* 111 : 1-5, 2017
16. Sakanoue I, Hamakawa H, Fujimoto D, Imai Y, Minami K, Tomii K, Takahashi Y : KRAS mutation-positive mucinous adenocarcinoma originating in the thymus. *J Thoracic Disease* 9 : 694-697, 2017
17. Kogo M, Nagata K, Morimoto T, Ito J, Sato Y, Teraoka S, Fujimoto D, Nakagawa A, Otsuka K, Tomii K : Enteral Nutrition During Noninvasive Ventilation : We Should Go Deeper in the Investigation?Reply. *Respiratory Care* 62 : 1119-1120, 2017
18. Kogo M, Nagata K, Morimoto T, Ito J, Fujimoto D, Nakagawa A, Otsuka K, Tomii K : What is the impact of mildly altered consciousness on acute hypoxaemic respiratory failure with noninvasive ventilation? *Internal Medicine* 15 : 1689-1695, 2018
19. Fujimoto D, Uehara K, Sato Y, Sakanoue I, Ito M, Teraoka S, Nagata K, Nakagawa A, Kosaka Y, Otsuka K, Imai Y, Hamakawa H, Takahashi Y, Kokubo M, Tomii K : Alteration of PD-L1 expression and its prognostic impact after neoadjuvant concurrent chemoradiation therapy in patients with non-small cell lung cancer. *Sci Rep* 12 : 11373, 2017
20. Yabushita T, Yoshioka S, Koba Y, Ono Y, Hiramoto N, Tabata S, Ito M, Shimizu N, Tomii K, Ishikawa T : Successful Treatment of Herpes Simplex Virus (HSV)-1-associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis (HLH) with Acyclovir : A Case Report and Literature Review. *Intern Med* 56 : 2919-2923, 2017
21. Teraoka S, Fujimoto D, Morimoto T, Kawachi H, Ito M, Sato Y, Nagata K, Nakagawa A, Otsuka K, Uehara K, Imai Y, Ishida K, Fukuoka J, Tomii K : Early immune-related adverse events and association with outcome in advanced non-small cell lung cancer patients treated with nivolumab : a prospective cohort study. *J Thorac Oncol* 12 : 1798-1805, 2017
22. Ito M, Fujiwara S, Fujimoto D, Mori R, Yoshimura H, Hata A, Kohara N, Tomii K : Rituximab for nivolumab plus ipilimumab-induced encephalitis in a small-cell lung cancer patient. *Ann Oncol* 28 : 2318-2319, 2017
23. Fujimoto D, Sato Y, Uehara K, Ishida K, Fukuoka J, Morimoto T, Kawachi H, Mori R, Ito M, Teraoka S, Nagata K, Nakagawa A, Otsuka K, Imai Y, Tomii K : Predictive performance of four programmed cell death ligand 1 assay systems on nivolumab response in previously treated patients with non-small cell lung cancer. *J Thorac Oncol* 13 : 377-386, 2018
24. Tachikawa R, Minami T, Matsumoto T, Murase K, Tanizawa K, Inouchi M, Oga T, Chin K : Changes in habitual sleep duration after continuous positive airway pressure for obstructive sleep apnea. *Ann Am Thorac Soc* 14 : 986-993, 2017
25. Oga T, Taniguchi H, Kita H, Tsuboi T, Tomii K, Ando M, Kojima E, Tomioka H, Taguchi Y, Kaji Y, Maekura R, Hiraga T, Sakai N, Kimura T, Mishima M, Windisch W, Chin K : Comparison of Different Disease-Specific Health-Related Quality of Life Measurements in Patients with Long-Term Noninvasive Ventilation. *Can Respir J* : 8295079, 2017
26. Oga T, Taniguchi H, Kita H, Tsuboi T, Tomii K, Ando N, Kojima E, Tomioka H, Taguchi Y, Kaji Y, Maekura R, Hiraga T, Sakai N, Kimura T, Mishima M, Chin K : Analysis of the relationship between health status and mortality in hypercapnic patients with noninvasive ventilation. *Clin Respir J* 11 : 772-780, 2017
27. Kogo M, Nagata K, Morimoto T, Ito J, Sato Y, Teraoka S, Fujimoto D, Nakagawa A, Otsuka K, Tomii K : Enteral Nutrition Is a Risk Factor for Airway Complications in Subjects Undergoing Noninvasive Ventilation for Acute Respiratory Failure. *Respir Care* 62 : 459-467, 2017
28. Kondoh Y, Taniguchi H, Kataoka K, Furukawa T, Shintani A, Fujisawa T, Suda T, Arita M, Baba T, Ichikado K, Inoue Y, Kishi K, Kishaba T, Nishiyama O, Ogura T, Tomii K, Homma S : Clinical spectrum and prognostic factors of possible UIP pattern on high-resolution CT in patients who underwent surgical lung biopsy. *PLoS ONE* 13 : e0193608, 2018

29. Kataoka Y, Hirano K, Narabayashi T, Hara S, Fujimoto D, Tanaka T, Ebi N, Tomii K, Yoshioka H : Concordance between the response evaluation criteria in solid tumors version 1.1 and the immune-related response criteria in patients with non-small cell lung cancer treated with nivolumab : a multicenter retrospective cohort study. *Cancer Chemother Pharmacol* 81 : 333-337, 2018
30. Sato Y, Fujimoto D, Uehara K, Kawachi H, Nagata K, Nakagawa A, Otsuka K, Sakanoue I, Hamakawa H, Takahashi Y, Imai Y, Tomii K : Reduced Tumour Proportion Scores for Programmed Cell Death Ligand 1 in Stored Paraffin Tissue Sections. *Anticancer Res* 38 : 1401-1405, 2018
31. Atagi S, Mizusawa J, Ishikura S, Takahashi T, Okamoto H, Tanaka H, Goto K, Nakagawa K, Harada M, Takeda Y, Nogami N, Fujita Y, Kasai T, Kishi K, Sawa T, Takeda K, Tomii K, Satouchi Y, Ohe Y : Chemoradiotherapy in Elderly Patients With Non-Small-Cell Lung Cancer : Long-Term Follow-Up of a Randomized Trial. *Clinical Lung Cancer*, Epub 2018
32. Ogawa K, Ito J, Fujimoto D, Morita M, Yoshizumi Y, Ariyoshi K, Tomii K, Katakami N : Exacerbation of autoimmune hemolytic anemia induced by the first dose of programmed death-1 inhibitor pembrolizumab : a case report. *Invest New Drugs*, doi: 10.1007/s10637-018-0561-5. Epub 2018 Jan 16.
33. Azuma M, Murase K, Tachikawa R, Hamada S, Matsumoto T, Minami T, Inouchi M, Tanizawa K, Handa T, Oga T, Mishima M, Chin K : Relationship between obstructive sleep apnea and endogenous carbon monoxide. *J Appl Physiol* 122 : 104-111, 2017

VI. 1. 7 血液内科

1. Shimomura Y, Maruoka H, Ishikawa T : Marked response to imatinib mesylate in a patient with platelet-derived growth factor receptor beta-associated acute myeloid leukemia. *Int J Hematol* 105 : 697-701, 2017
2. Shimomura Y, Imai Y, Ishikawa T : Small Cell Carcinoma Mimicking Acute Leukemia. *Intern Med* 56 : 2375-2376, 2017
3. Katoh D, Ochi Y, Yabushita T, Ono Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Hashimoto H, Kaji S, Imai Y, Ishikawa T : Peripheral Blood Lymphocyte-to-Monocyte Ratio at Relapse Predicts Outcome for Patients With Relapsed or Refractory Diffuse Large B-cell Lymphoma in the Rituximab Era. *Cin Lymphoma Myeloma Leuk* 17 : e91-e97, 2017
4. 小野祐一郎, 平本展大, 吉岡 聡, 藪下知宏, 木場悠介, 田端淑恵, 今井幸弘, 石川隆之 : Brentuximab vedotin 長期投与により長期寛解を維持できた同種骨髄造血幹細胞移植後再発 Hodgkin リンパ腫. *臨床血液* 58 : 2397-2401, 2017
5. Yabushita T, Yoshioka S, Koba Y, Ono Y, Hiramoto N, Tabata S, Itou M, Shimizu N, Tomii K, Ishikawa T : Successful Treatment of Herpes Simplex Virus (HSV)-1-associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis (HLH) with Acyclovir : A Case Report and Literature Review. *Intern Med* 56 : 2919-2923, 2017
6. Maruyama D, Nagai H, Maeda Y, Nakane T, Shimoyama T, Nakazato T, Sakai R, Ishikawa T, Izutsu K, Ueda R, Tobinai K : Phase I/II study of pralatrexate in Japanese patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma. *Cancer Sci* 108 : 2061-2068, 2017
7. Ono Y, Kazuma Y, Ochi Y, Matsuoka R, Imai Y, Ishikawa T : Two Cases of Neurolymphomatosis with Fatal Bilateral Vocal Cord Paralysis that were Diagnosed with (18)F-fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography (FDGPET)/CT. *Intern Med* 56 : 1193-1198, 2017
8. Kawabata H, Tohyama K, Matsuda A, Araseki K, Hata T, Suzuki T, Kayano H, Shimbo K, Zaike Y, Usuki K, Chiba S, Ishikawa T, Arima N, Nogawa M, Ohta A, Miyazaki Y, Mitani K, Ozawa K, Arai S, Kurokawa M, Takaori-Kondo A : Japanese National Research Group on Idiopathic Bone Marrow Failure Syndromes. Validation of the revised International Prognostic Scoring System in patients with myelodysplastic syndrome in Japan: results from a prospective multicenter registry. *Int J Hematol* 106 : 375-384, 2017
9. Iwasa M, Miura Y, Fujishiro A, Fujii S, Sugino N, Yoshioka S, Yokota A, Hishita T, Hirai H, Andoh A, Ichinohe T, Maekawa T : Bortezomib interferes with adhesion of B cell precursor acute lymphoblastic leukemia cells through SPARC up-regulation in human bone marrow mesenchymal stromal/stem cells. *Int J Hematol* 105 : 587-597, 2017

10. Shimomura Y, Hara M, Hashimoto H, Ishikawa T : Elevated bone marrow eosinophil count is associated with high incidence of severe acute GvHD after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Bone Marrow Transplant* 52 : 1311-1316, 2017
11. Hiramoto N, Takeda J, Yoshida K, Ono Y, Yoshioka S, Yamauchi N, Fujimoto A, Maruoka H, Shiraishi Y, Tanaka H, Chiba K, Imai Y, Miyano S, Ogawa S, Ishikawa T : Donor cell-derived transient abnormal myelopoiesis as a specific complication of umbilical cord blood transplantation. *Bone Marrow Transplant* 53 : 225-227, 2018
12. 石川隆之 : 白血病・リンパ腫・骨髄腫. 新時代の造血器腫瘍診療 骨髄異形成症候群に対するこれからの治療戦略 *Medical Practice* 34 : 1683-1688, 2017

VI. 1. 8 腫瘍内科

1. 佐竹悠良 : 大腸癌化学療法に特徴的な副作用とその対応ー減量対応と支持療法. *消化器の臨床* 20 : 134-139, 2017
2. 佐竹悠良 : 特集 : 切除不能進行再発大腸がん薬物治療ーそのレジメン選択は正解か?ー 3. 症例ごとの「標準治療」をどう掴みとるかー治療の選択肢とその実践 3)FOLFOXIRI レジメン. *臨床腫瘍プラクティス* 13 : 209-215, 2017
3. 緒方貴次, 松本光史 : 各臓器がんに対する免疫チェックポイント阻害薬の現状について婦人科がん. *がん分子標的治療* 15 : 31-34, 2017
4. 緒方貴次, 松本光史 : 婦人科がん 1) 子宮頸がんに対する分子標的治療薬. *腫瘍内科* 21 : 32-37, 2017
5. Satake H, Kondo M, Mizumoto M, Kotake T, Okita T, Ogata T, Hatachi Y, Yasui H, Miki A, Imai Y, Ichikawa C, Murotani K, Kotaka M, Kato T, Kaihara S, Tsuji A : Phase I Study of Neoadjuvant Chemotherapy with Capecitabine and Oxaliplatin for Locally Advanced Gastric Cancer. *ANTICANCER RESEARCH* 37 : 3703-3710, 2017
6. Satake H, Yasui H, Kotake T, Okita Y, Hatachi Y, Kotaka M, Kato T, Tsuji A : First-line chemotherapy with capecitabine/oxaliplatin for advanced gastric cancer : A phase I study. *MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY* 7 : 347-350, 2017
7. Moriwaki T, Fukuoka S, Taniguchi H, Takashima A, Kumekawa Y, Kajiwara T, Yamazaki K, Esaki T, Makiyama C, Denda T, Satake H, Suto T, Sugimoto N, Enomoto M, Ishikawa T, Kashiwada T, Sugiyama M, Komatsu Y, Okuyama H, Baba E, Sakai D, Watanabe T, Tamura T, Yamashita K, Goshio M, Shimada Y : Propensity Score Analysis of Regorafenib Versus Trifluridine/Tipiracil in Patients with Metastatic Colorectal Cancer Refractory to Standard Chemotherapy(REGOTAS) : A Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum Multicenter Observational Study. *The Oncologist* 22 : 1-9, 2017
8. Ogata M, Satake H, Ogata T, Imai Y, Hatachi Y, Yasui H : No Correlation between KRAS Status and Advanced Pancreatic Adenocarcinoma Survival. *Cancer and Clinical Oncology* 6 : 45-50, 2017
9. Ogata T, Satake H, Ogata M, Hatachi Y, Yasui H : Oxaliplatin-Induced Hyperammonemic Encephalopathy in a Patient with Metastatic Pancreatic Cancer : A Case Report. *Case Rep Oncol* 10 : 885-889, 2017
10. Yabushita T, Satake H, Maruoka H, Morita M, Katoh D, Shimomura Y, Yoshioka S, Morimoto T, Ishikawa T : Expression of multiple leukemic stem cell markers is associated with poor prognosis in de novo acute myeloid leukemia. *Leukemia & Lymphoma*, 2017 ISSN:1042-8194(Print)1029-2403(Online)
11. Ando K, Emi Y, Suenaga T, Hamanoue M, Maekawa S, Sakamoto Y, Kai S, Satake H, Shimose T, Shimokawa M, Saeki H, Oki E, Sakai K, Akagi Y, Baba H, Maehara Y : A prospective study of XELIRI plus bevacizumab as a first-line therapy in Japanese patients with unresectable or recurrent colorectal cancer (KSCC1101). *Int J Clin Oncol* 22 : 913-920, 2017
12. Hashida H, Satake H, Kaihara S : A Complete Response Case in a Patient with Multiple Lung Metastases of Rectal Cancer Treated with Bevacizumab plus XELIRI Therapy. *Case Rep Oncol* 10 : 81-85, 2017
13. Yanagimoto H, Toyokawa H, Sakai D, Wada H, Satoi S, Yamamoto T, Nagano H, Toyoda M, Ajiki T, Satake H, Tsuji A, Miyamoto A, Tsujie M, Takemura S, Yanagihara K, Ioka T : A phase I study for adjuvant chemotherapy of gemcitabine plus S-1 in patients with biliary tract cancer undergoing curative resection without major hepatectomy (KHBO1202). *Cancer Chemotherapy and Pharmacology* 81 : 461-468

14. 安井久晃 : Hazardous Drugs (HD) の職業性曝露による健康への影響 [Health Impacts Due to Occupational Exposure of Hazardous Drugs(HD)]. *Gan To Kagaku Ryoho* 44 : 550-553, 2017
15. Nishikawa K, Yamada Y, Ishido K, Gotoh M, Bando H, Sugimoto N, Nishina T, Amagai K, Chin K, Niwa Y, Tsuji A, Imamura H, Tsuda M, Yasui H, Fujii H, Yamaguchi K, Yasui H, Hironaka S, Shimada K, Miwa H, Hamada C, Hyodo I : Impact of progression type on overall survival in patients with advanced gastric cancer based on randomized phase III study of S-1 plus oxaliplatin versus S-1 plus cisplatin. *Gastric Cancer* 20 : 640-645, 2017
16. Kawabata Y, Aoki T, Yamamoto T, Yasui H, Sawai S, Fukuda S, Kawarazaki S, Tsukahara T : Pazopanib-mediated Long-term Disease Stabilization after Local Recurrence and Distant Metastasis of Primary Intracranial Leiomyosarcoma : A Case Report on the Efficacy of Pazopanib as a Salvage Therapy. *NMC Case Rep J* 5 : 1-7, 2017
17. Kanda K, Hirai K, Iino K, Nomura H, Yasui H, Kano T, Ichikawa C, Hiura S, Morita T, Mitsuma A, Komatsu H : Salient Features and Outline of the Joint Japanese Guidelines for Safe Handling of Cancer Chemotherapy Drugs. *Asia Pac J Oncol Nurs* 4 : 304-312, 2017
18. Satake H, Tsuji A, Nakamura M, Ogawa M, Kotake T, Hatachi Y, Yasui H, Takagane A, Okita Y, Nakamura K, Onikubo T, Takeuchi M, Fujii M : Phase I study of primary treatment with 5-FU, oxaliplatin, irinotecan, levofolinate, and panitumumab combination chemotherapy in patients with advanced/recurrent colorectal cancer involving the wild-type RAS gene: the JACCRO CC-14 study. *International Journal of Clinical Oncology* Published online : 20 February 2018
19. Ogata T, Satake H, Ogata M, Hatachi Y, Yasui H : Hyperprogressive Disease in the Irradiation Field after a Single Dose of Nivolumab for Gastric Cancer : A Case Report. *Case Rep Oncol* 11 : 143-150, 2018
20. Funakoshi T, Horimatsu T, Nakamura M, Shiroshita K, Suyama K, Mukoyama M, Mizukami T, Sakurada T, Baba E, Tsuruya K, Nozaki A, Yahata K, Ozaki Y, Ubara Y, Yasui H, Yoshimoto A, Fukuma S, Kondo N, Matsubara T, Matsubara K, Fukuhara S, Yanagita N, Muto M : Chemotherapy in cancer patients undergoing haemodialysis : a nationwide study in Japan. *ESMO Open* 3 : e000301, 2018
21. Akiyoshi K, Hamaguchi T, Yoshimura K, Takahashi N, Honma Y, Iwasa S, Takashima A, Kato K, Yamada Y, Onodera H, Takeshita S, Yasui H, Sakai G, Akatsuka S, Ogawa K, Horita Y, Nagai Y, Shimada Y : A Prospective, Multicenter Phase II Study of the Efficacy and Feasibility of 15-minute Panitumumab Infusion Plus Irinotecan for Oxaliplatin- and Irinotecan-refractory, KRAS Wild-type Metastatic Colorectal Cancer (Short Infusion of Panitumumab Trial). *Clin Colorectal Cancer* 17 : e83-e89, 2018

VI. 1. 9 感染症科

1. Mizuno Y, Imoto H, Takahashi N, Ichikawa C, Nishioka H : Pleuritis and Pericarditis Following Silicone Breast Implants as Part of Autoimmune Syndrome Induced by Adjuvants. *Journal of Clinical Rheumatology* 2018 Feb 27 doi: 10.1097/RHU.0000000000000708.
2. Shimizu H, Nishioka H : 18F-FDG PET-CT in a patient with methotrexate-associated lymphoproliferative disorder. *Journal of General and Family Medicine* 19 : 34-35, 2018
3. Moriyama Y, Nishioka H : Multifocal pyomyositis after intra-articular injections. *Journal of General and Family Medicine* 18 : 189-194, 2017
4. Nishioka H, Takegawa H, Kamei H : Disseminated cryptococcosis in a patient taking tocilizumab for Castleman's disease. *Journal of Infection and Chemotherapy* 24 : 138-141, 2018
5. Nishioka H, Doi A, Takegawa H : Pyelonephritis in Japan caused by *Salmonella enterica* subspecies *arizonae*. *Journal of Infection and Chemotherapy* 23 : 841-843, 2017
6. Iwata K, Doi A : Can Hybrid Educational Activities of Team and Problem Based Learning Program be Effective for Japanese Medical Students? *Kobe Journal of Medical Sciences* 63 : E51-E57, 2017
7. Doi A, Morimoto T, Iwata K : A Shorter Duration of Antibiotic Treatment for Acute Bacteraemic Cholangitis with Successful Biliary Drainage : A Retrospective Cohort Study. *Clinical Microbiology and Infection* 2018 Feb 2. pii: S1198-743X(18)30139-3. doi: 10.1016/j.cmi.2018.01.021.
8. Iwata K, Doi A : Can hybrid educational activities of team and problem based learning program be effective for Japanese medical students? *International Journal of Medical Education* 8 : 176-178, 2017

9. Shimizu H, Nishioka H : Successful treatment with tocilizumab for refractory scleritis associated with relapsing polychondritis. *Scandinavian Journal of Rheumatology* 46 : 418-419, 2017
10. Kanzawa Y, Imai Y, Mizuno Y, Nishioka H : Testicular lymphocytic vasculitis treated with prednisolone and azathioprine. *Modern Rheumatology* 27 : 705-707, 2017
11. 西岡弘晶, 東別府直紀 : 高齢緊急入院患者の入院時血清ナトリウム値と入院中死亡率との関係. *日本静脈経腸栄養学会雑誌* 32 : 1503-1505, 2017
12. 楠田かおり, 西岡弘晶, 池村 舞, 西岡和子, 東別府直紀, 橋田 亨 : ペクチン含有濃厚流動食の下痢改善効果に対する胃酸分泌抑制薬の影響. *日本静脈経腸栄養学会雑誌* 32 : 988-991, 2017
13. 進藤達哉, 西岡弘晶 : メトロニダゾール点滴静注による治療が奏功した破傷風の1例. *感染症学雑誌* 91 : 576-579, 2017
14. 鷺見真由子, 小谷晋平, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 西岡弘晶 : 糖尿病患者の下肢に広範な皮下膿瘍を形成した深在性皮膚カンジダ症の1例. *皮膚科の臨床* 59 : 1107-1110, 2017
15. 長野 徹, 鷺見真由子, 小谷晋平, 小坂博志, 小川真希子, 西岡弘晶 : 救命し得た105歳女性の壊死性筋膜炎の1例. *皮膚科の臨床* 59 : 1499-1502, 2017
16. 蓮池俊和, 是永 章, 瀬尾龍太郎 : 水汚染を伴った開放骨折. *Intensivist* 9 : 220-225, 2017
17. 中森裕毅, 土井朝子, 瀬尾龍太郎 : 心臓外科術後 SSI 予防目的の抗菌薬. *Intensivist* 9 : 470-475, 2017
18. 須賀将文, 蓮池俊和, 瀬尾龍太郎 : 感受性検査のピットフォールとマネジメント. *Intensivist* 9 : 769-777, 2017
19. 桑原佑典, 志水隼人, 土井朝子, 瀬尾龍太郎 : Clostridium difficile infection の管理. *Intensivist* 9 : 1029-1034, 2017
20. 土井朝子 : インフルエンザやノロウイルスの流行時期、自宅でも消毒をしたほうがよいでしょうか? *臨床雑誌内科* 120 : 637-638, 2017

VI. 1. 10 精神・神経科

1. 大谷恭平, 川添文子, 蒲池あずさ, 河村麻美子, 上月 遙, 石川慎一, 高宮静男 : せん妄の薬物療法に対する治療者の意識調査. *臨床精神薬理* 20 : 821-831, 2017
2. Miki T, Shimada H, Kim JS, Yamamoto Y, Sugino M, Kowa H, Heurling K, Zanette M, Sherwin PF, Senda M : Brain uptake and safety of Flutemetamol F 18 injection in Japanese subjects with probable Alzheimer's disease, subjects with amnesic mild cognitive impairment and healthy volunteers. *Ann Nucl Med* 31 : 260-272, 2017
3. 赤松 剛, 大西章仁, 相田一樹, 井狩彌彦, 山本泰司, 千田道雄 : 認知症を対象としたアミロイド PET における撮像技術と画像解析. *日本放射線技術学会雑誌* 73 : 298-308, 2017

VI. 1. 11 小児科・新生児科

1. Miyakoshi C, Yamamoto Y, Mishina H, Shirai C, Morioka I, Fukuhara S : Childcare Environment and Japanese Children Who Are Overweight in Early Childhood. *Child Obes* 14 : 197-206, 2017
2. 宮越千智, 青田千恵, 根津麻里, 伊藤 環, 田中裕也, 鶴田 悟, 山川 勝 : 急性期に二方向性心室性不整脈を認めた川崎病の1例. *PROGRESS IN MEDICINE* 37 : 835-838, 2017
3. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟 : 急速皮下免疫療法の現状と今後の展望. *日本小児アレルギー学会誌* 32 : 47-54, 2018

VI. 1. 12 皮膚科

1. Nagano T, Kotani S, Omori M, Kosaka H, Ogawa M : Pigmented extramammary Paget's disease : Pitfalls of diagnosis. *J Dermatol* 44 : 1323-1325, 2017
2. 長野 徹 : 総合感冒薬服用後のショックの原因物質の特定方法は? プリックテスト、スクラッチテストを行う. *日本医事新報* 4839 : 61, 2017
3. 長野 徹, 鷺見真由子, 小谷晋平, 小坂博志, 小川真希子, 西岡弘晶 : 救命し得た105歳女性の壊死性筋膜炎の1例. *皮膚科の臨床* 59 : 1499-1502, 2017
4. 中村文香, 増田泰之, 鷺見真由子, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 上原慶一郎, 今井幸弘 : 著明な石灰化を伴う基底細胞癌の1例. *皮膚科の臨床* 59 : 1407-1410, 2017

5. 鷺見真由子, 小谷晋平, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 進藤達哉, 亀井博紀: Antiretroviral Therapy (ART) が著効した AIDS 関連 Kaposi 肉腫の 1 例. *皮膚の科学* 16 : 195-200, 2017
6. 鷺見真由子, 小谷晋平, 小坂博志, 小川真希子, 村田洋三, 長野 徹: 顔面に生じた desmoplastic malignant melanoma. *皮膚病診療* 39 : 977-980, 2017
7. 鷺見真由子, 小谷晋平, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 西岡弘晶: 糖尿病患者の下肢に広範な皮下膿瘍を形成した深在性皮膚カンジダ症の 1 例. *皮膚科の臨床* 59 : 1107-1110, 2017

VI. 1. 13 乳腺外科

1. Kikawa Y, Kosaka Y, Hashimoto K, Hohokabe E, Takebe S, Narukami R, Hattori T, Ueki K, Ogura K, Imagumbai T, Kato H, Kokubo M : Prevalence of hypothyroidism among patients with breast cancer treated with radiation to the supraclavicular field : a single-centre survey. *ESMO Open* 2 : e000161, 2017

VI. 1. 14 心臓血管外科

1. 吉田一史, 福永直人, 小山忠明: 急速な動脈瘤形成から左総腸骨動脈解離性瘤破裂に至った血管型 Ehlers-Danlos 症候群の一手術例. *日本心臓血管外科雑誌* 47 : 78-81, 2018

VI. 1. 15 呼吸器外科

1. Sakanoue I, Hamakawa H, Onishi E, Imai Y, Takahashi Y : Giant cell tumor the rib with direct invasion into the thoracic spine. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 65 : 293-296, 2017
2. Sato Y, Fujimoto D, Morimoto T, Uehara K, Nagata K, Sakanoue I, Hamakawa H, Takahashi Y, Imai Y, Tomii K : Natural history and clinical characteristics of multiple pulmonary nodules with ground glass opacity. *Respirology* 22 : 1615-1621, 2017
3. 林 一樹, 篠原尚吾, 末廣 篤, 岸本逸平, 原田博之, 佐藤悠城, 上原慶一郎: 肺腫瘍血栓性微小血管症 (PTTM) による呼吸不全のため急激に死の転機をたどった舌下腺腺様嚢胞癌症例. *頭頸部外科* 27 : 117-121, 2017
4. Sakanoue I, Hamakawa H, Fujimoto D, Imai Y, Minami K, Tomii K, Takahashi Y : KRAS mutation-positive mucinous adenocarcinoma originating in the thymus. *J Thoracic Disease* 9 : 694-697, 2017
5. Fujimoto D, Uehara K, Sato Y, Sakanoue I, Ito M, Teraoka S, Nagata K, Nakagawa A, Kosaka Y, Otsuka K, Imai Y, Hamakawa H, Takahashi Y, Kokubo M, Tomii K : Alteration of PD-L1 expression and its prognostic impact after neoadjuvant concurrent chemoradiation therapy in patients with non-small cell lung cancer. *Sci Rep* 12 : 11373, 2017
6. Sakanoue I, Hamakawa H, Imai Y, Takahashi Y : Thoracoscopic Surgery for a Congenital Bronchoesophageal Fistula With Pulmonary Sequestration in an Adult Woman. *Semin Thoracic Surg* 29 : 433-435, 2017
7. Sakanoue I, Hamakawa H, Kaji R, Katakami N, Takahashi Y : Sleeve Lobectomy for Lung Adenocarcinoma Treated with Neoadjuvant Afatinib. *J Thoracic Disease* 10 : 170-174, 2018
8. Sato Y, Fujimoto D, Uehara K, Kawachi H, Nagata K, Nakagawa A, Otsuka K, Sakanoue I, Hamakawa H, Takahashi Y, Imai Y, Tomii K : Reduced Tumour Proportion Scores for Programmed Cell Death Ligand 1 in Stored Paraffin Tissue Sections. *Anticancer Res* 38 : 1401-1405, 2018

VI. 1. 16 脳神経外科

1. Easton JD, Aunes M, Albers GW, Amarenco P, Bokelund-Singh S, Denison H, Evans SR, Held P, Jahreskog M, Jonasson J, Minematsu K, Molina CA, Wang Y, Wong KSL, Johnston SC ; SOCRATES Steering Committee and Investigators : Risk for Major Bleeding in Patients Receiving Ticagrelor Compared With Aspirin After Transient Ischemic Attack or Acute Ischemic Stroke in the SOCRATES Study (Acute Stroke or Transient Ischemic Attack Treated With Aspirin or Ticagrelor and Patient Outcomes). *Circulation* 136 : 907-916, 2017
2. Kawabata S, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Sakai N : Risk factors for and outcomes of intraprocedural rupture during endovascular treatment of unruptured intracranial aneurysms. *Journal of Neurointerventional Surgery*, doi: 10.1136/neurintsurg-2017-013156. Epub 2017 Jul 14.
3. Ikeda H, Imamura H, Agawa Y, Imai Y, Tani S, Adachi H, Ishikawa T, Mineharu Y, Sakai N : Onyx extravasation during embolization of a brain arteriovenous malformation. *Interv Neuroradiol* 23 : 200-205, 2017

4. Kishimoto I, Shinohara S, Ueda T, Tani S, Yoshimura H, Imai Y : Orbital apex syndrome secondary to a fungal nasal septal abscess caused by *Scedosporium apiospermum* in a patient with uncontrolled diabetes : a case report. *BMC Infectious Diseases* 17 : 649, 2017
5. Kawabata S, Imamura H, Suzuki K, Tani S, Adachi H, Sakai N : Delayed ischemic stroke due to stent marker band occlusion after stent-assisted coiling. *BMJ case Rep* 2017 Nov 3
6. Kuriyama T, Sakai N, Beppu M, Sakai C, Imamura H, Kojima I, Masago K, Katakami N : Optimal dilution of contrast medium for quantitating parenchymal blood volume using a flat-panel detector. *J Int Med Res* 2017 Jan 1
7. Morris DR, Ayabe K, Inoue T, Sakai N, Bulbulia R, Halliday A, Goto S : Evidence-Based Carotid Interventions for Stroke Prevention : State-of-the-art Review. *J Atheroscler Throm* 24 : 373-387, 2017
8. Sato M, Matsumaru Y, Sakai N, Imamura H, Hirohata M, Takeuchi Y, Matsumoto Y, Suzuki I : Usefulness of an access-site hemostasis device in neuroendovascular treatment. *Acta Neurochir (Wien)* 159 : 2331-2335, 2017
9. Shimizu K, Imamura H, Mineharu Y, Adachi H, Sakai C, Tani S, Arimura K, Beppu M, Sakai N : Endovascular parent-artery occlusion of large or giant unruptured internal carotid artery aneurysms. A long-term single-center experience. *J Clin Neurosci* 37 : 73-78, 2017
10. Sugiura Y, Yamagami H, Sakai N, Yoshimura S : Committee of Recovery by Endovascular Salvage for Cerebral Ultra-acute Embolism (RESCUE) -Japan Study Group : Predictors of Symptomatic Intracranial Hemorrhage after Endovascular Therapy in Acute Ischemic Stroke with Large Vessel Occlusion. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 26 : 766-771, 2017
11. Taschner CA, Vedantham S, de Vries J, Biondi A, Boogaarts J, Sakai N, Lylyk P, Szikora I, Meckel S, Urbach H, Kan P, Siekmann R, Bernardy J, Gounis MJ, Wakhloo AK : Surpass Flow Diverter for Treatment of Posterior Circulation Aneurysms. *AJNR Am J Neuroradiol* 38 : 582-589, 2017
12. Todo K, Sakai N, Kono T, Hoshi T, Imamura H, Adachi H, Yamagami H, Kohara N : Alberta Stroke Program Early CT Score-Time Score Predicts Outcome after Endovascular Therapy in Patients with Acute Ischemic Stroke : A Retrospective Single-Center Study. *J stroke Cerebrovasc Dis*. doi : 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2017.11.007. Epub 2017 Dec 6.
13. 足立拓優, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸 : 当院における Pipeline の使用経験. *The Mt. Fuji Workshop on CVD* 35 : 35-40, 2017
14. 今村博敏, 坂井信幸 : 頭蓋内動脈ステントの可視化. 頭蓋内動脈ステントのすべて, 坂井信幸 編集, メディカ出版, 大阪, 20-31, 2017
15. 今村博敏 : コイル塞栓術. *BRAIN NURSING* 33 : 41-45, 2017
16. 今村博敏, 坂井信幸 : Door to Reperfusion. 脳血管内治療の進歩 2017, 坂井信幸, 江面正幸, 松丸祐司, 宮地 茂, 吉村紳一 編集, 初版, 診断と治療社, 東京, 178-182, 2017
17. 今村博敏, 坂井信幸 : Solitaire FR. 脳血管内治療の進歩 2017, 坂井信幸, 江面正幸, 松丸祐司, 宮地 茂, 吉村紳一 編集, 初版, 診断と治療社, 東京, 206-210, 2017
18. 今村博敏, 坂井信幸 : ステントアシストテクニックを用いた脳動脈瘤塞栓術 : レーザーカットステント. 脳動脈瘤に対する血管内治療 知行合一, 大石英則 編集, メディカルブックサービス, 名古屋, 113-126, 2017
19. 今村博敏, 坂井信幸 : 頭蓋内動脈の狭窄. プライム脳神経外科 2 脳虚血, 木内博之, 斉藤延人 監修, 斉藤延人 編集, 三輪書店, 東京, 208-215, 2017
20. 坂井信幸, 今村博敏, 坂井千秋, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史 : 脳血管内治療の近未来 - 機器の開発改良. *Jpn J Neurosurg (Tokyo)* 26 : 21-28, 2017
21. 坂井信幸, 今村博敏 : 生涯教育シリーズ 92, 脳血管障害診療のエッセンス, その他の脳血管障害の診断と治療, 硬膜動静脈瘻. *日本医師会雑誌* 146 : S204-206, 2017
22. 坂井信幸, 今村博敏 : 脳神経外科医が考える脳血管領域の治療と技術開発の将来展望. *Innervision (The Evoution of DR System 2017, IV 動画対応 DR システムの将来展望)* 32 : 70-72, 2017
23. 坂井千秋, 坂井信幸, 山本晴子, 永井洋士, 吉村紳一, 今村博敏 : 脳血管内治療関連機器の治験と多施設共同研究の経験. 日本臨床試験学会第 8 回学術集会「シンポジウム Pragmatic Clinical Trial への誘い」. *薬理と治療* 45 : s68-s72, 2017

24. 佐藤慎祐, 足立秀光, 今村博敏, 坂井信幸, 谷 正一, 鳴海 治, 坂井千秋, 有村公一, 森本貴昭, 柴田帝式, 阿河祐二, 清水寛平, 菊池晴彦: 初回治療で右椎骨動静脈瘻を来たし、左椎骨動脈経路でステント併用コイル塞栓術を行った破裂脳底動脈-前下小脳動脈瘤の1例. 脳神経外科 45: 997-1002, 2017
25. 鈴木啓太, 有村公一, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 船津堯之, 別府幹也, 柴田帝式, 武部軌良, 奥田智裕, 松井雄一, 吉田泰規, 川端修平, 坂井信幸: 塞栓術直後に対側の塞栓を要した cavernous sinus dural AVF の1例. 脳血管内治療 2: 24-30, 2017
26. 谷 正一, 今村博敏, 浅井克則, 清水寛平, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 奥田智裕, 川端修平, 松井雄一, 吉田泰規, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: X-ray angiography perfusion (XAP) analysis によりバイパス術の選択を決定した blister-like 破裂内頸動脈瘤の2症例. 脳神経外科 45: 599-606, 2017
27. 船津堯之, 坂井信幸: 硬膜動静脈瘻に対する血管内治療の最前線- Onyx を用いた経動脈塞栓術. 医学のあゆみ 261: 256-257, 2017
28. 坂井信幸, 江面正幸, 松丸祐司, 宮地 茂, 吉村紳一 (編集): 脳血管内治療の進歩 2017 -アクセスの全て. ~脳血管内治療ブラッシュアップセミナー 2017~, 診断と治療社, 東京, 2018

VI. 1. 17 整形外科

1. Yasuda T, Ota S, Fujita S, Onishi E, Iwaki K, Yamamoto H: Association between medial meniscus extrusion and spontaneous osteonecrosis of the knee. International Journal of Rheumatic Diseases, 2017 Apr 5. doi:10.1111/1756-185X.13074
2. 榎田崇一郎, 藤原弘之, 西口 滋, 竹内久貴, 安田 義: 開放性および閉鎖性小児橈骨骨折に対する治療成績. 骨折 39: 536-539, 2017
3. 安田 義, 吉矢晋一, 市橋則明, 伊藤浩充: 女性アスリートにおける股関節回旋と膝前十字靭帯損傷との関連性に関する研究. 体力科学 66: 72, 2017
4. Ota S, Yasuda T: Secondary osteoporosis leading to femoral neck fracture in a young premenopausal woman with subclinical hyperthyroidism: A case report. Modern Rheumatology Case Reports 1: 152-157, 2017
5. 宮崎由佳, 山本博史, 岩城公一, 安田 義: 体幹に進展したが救命しえた壊死性筋膜炎の1例. 中部整災誌 60: 905-906, 2017
6. 森田悠吾, 山本博史, 櫻木淳史, 宮崎由佳, 安田 義: 頸椎 CT-discography が診断の決め手となった1例. 中部整災誌 60: 643-644, 2017
7. 林 信実, 宮崎由佳, 山脇佑介, 太田悟司, 岩城公一, 安田 義: ビスフォスフォネート投与に伴う非定型大腿骨骨折の2例. 中部整災誌 60: 271-272, 2017
8. 安田 義: 変形性関節症. ハリソン内科学, 福井次矢, 黒川 清 日本語版監修, 第5版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 第2巻, 2278-2282, 2017

VI. 1. 18 形成外科

1. 井上真一, 石井浩子, 奥村慶之, 貝田 亘, 片岡和哉: セラチア感染による静脈内膿瘍を認めた足部壊死の1例. 創傷 8: 121-126, 2017
2. 高橋夏子, 池田実香, 松添晴加, 南 遼平, 七 也, 片岡和哉: 胸水・心嚢水が乳房インプラント抜去により改善し、ヒトアジュバント病が疑われた1例. 日本形成外科学会誌 37: 433-439, 2017

VI. 1. 19 産婦人科

1. 山添紗恵子, 柳川真澄, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 今村裕子, 吉岡信也, 山川 勝: 胎児期に消化管アレルギーを発症した妊娠の1例. 日本周産期・新生児医学会雑誌 53: 206-210, 2017
2. 林 信孝: 傍大動脈リンパ節廓清術後に発症した腎仮性動脈瘤の1例. 神戸市立病院紀要 55: 88, 2017
3. 山添紗恵子, 増田望穂, 前田裕斗, 柳川真澄, 崎山明日香, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 池田裕美枝, 上松和彦, 青木卓哉, 今村裕子, 吉岡信也: 当院におけるリンパ浮腫外来についての検討. 産婦人科の進歩 69: 308-309, 2017
4. Maeda Y, Yamamoto K, Tanimoto T, Kami M, Yoshioka S: Tranexamic acid for post-partum haemorrhage in the WOMAN trial. Lancet 30: 1583-1584, 2017

5. Hoshino T, Yanagawa M, Usuki Matsubayashi A, Yoshioka S : Useful technique for submucous myomectomy under direct transcervical resectoscope observation. *Gynecology and Minimally Invasive Therapy* 6 : 120-122, 2017
6. Hoshino T, Yanagawa M, Hino M, Uematsu K, Yoshioka S : Useful technique for endometrial polypectomy under direct hysteroscope observation. *Gynecology and Minimally Invasive Therapy* 6 : 143-145, 2017
7. Masuda M, Abiko K, Minamiguchi S, Murakami R, Baba T, Konishi I : Case of rapidly progressing condylomatous squamous cell carcinoma of the uterine cervix associated with low-risk human papillomavirus type 6. *J. Obstet. Gynaecol. Res* 44 : 583-587, 2018

VI. 1. 20 泌尿器科

1. 福永有伸, 西原大策, 河野有香, 松本敬優, 松岡崇志, 杉野善雄, 岡田卓也, 川喜田睦司 : Urosepsis による死亡関連因子の検討. *泌尿器科紀要* 63 : 195-199, 2017
2. 川喜田睦司 : 特集 まるごと 泌尿器科の術式別術前・術後管理 : 後腹膜リンパ節郭清術の術前・術後管理. *泌尿器 Care&Care Uro-Lo* 22 : 83-85, 2017
3. 川喜田睦司 : 特集 泌尿器腹腔鏡技術認定取得に向けて : 各術式のポイントと手術手技 エネルギーデバイスの原理と腹腔鏡手術における使用法. *泌尿器外科* 30 : 1091-1097, 2017
4. 川喜田睦司 : 腹腔鏡下およびロボット支援無阻血腎部分切除術. *日ミニ泌鏡外会誌* 9 : 3-7, 2017
5. 松岡崇志, 鈴木一生, 鈴木良輔, 福永有伸, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司 : HoLEP における抗血栓薬使用に関する検討. *泌尿器科紀要* 63 : 307-311, 2017
6. 川喜田睦司, 大森 健, 文 敏景, 梅村康太 : 各科 vesolock clip 使用経験～なぜ、私は vesolock を使うのか～. *vesolock clip Recommend Report* 2017
7. 川喜田睦司, 伊藤将彰, 山崎俊成, 清川岳彦, 大西裕之, 湯浅 健, 小川 修 : 腎癌診療ガイドライン改訂と RCC 診療今後の展望. *ノバルティス座談会記録集* 2017
8. Nishioka T, Yoshimura N, Ushigome H, Watarai Y, Nishimura K, Akioka K, Nakamura N, Kawakita M, Yuzawa K, Nakatani T : High-dose mizoribine combined with calcineurin inhibitor (cyclosporine or tacrolimus), basiliximab and corticosteroids for renal transplantation : A Japanese multicenter study. *Int J Urol* 25 : 141-145, 2018
9. 池末裕明, 平島正樹, 川喜田睦司 : 前立腺がん 病態を理解して組み立てる. 薬剤師のための疾患別薬物療法 I 悪性腫瘍, 日本医療薬学会 編集, 南江堂, 東京, 46-59, 2018
10. 土肥洋一郎, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 福永有伸, 久保田聖史, 松岡崇志, 杉野善雄, 井上幸治, 上原慶一良, 今井幸弘, 川喜田睦司 : 腎癌を契機に診断された Birt-Hogg-Dube 症候群の 1 例. *泌尿器科紀要* 64 : 107-110, 2018

VI. 1. 21 耳鼻咽喉科

1. 内藤 泰 : 人工内耳医療の歴史と現在の機器の基本構成. *小児耳鼻咽喉科*, 日本耳鼻咽喉科学会 編, 第 2 版, 金原出版, 東京, 397-404, 2017
2. 内藤 泰 : 40 歳からの、健康学. 第 79 回突発性難聴. *CO-OP ステーション* 343 : 88-89, 2017
3. 藤原敬三, 内藤 泰 : 中耳腫瘍性病変. *MB ENT* 31 : 31-37, 2017
4. 道田哲彦, 山本典生, 平海晴一, 岡野高之, 伊藤壽一 : 経下顎窩アプローチで摘出できた迷路下型錐体部真珠腫例. *Otol Jpn* 27 : 179-184, 2017
5. 諸頭三郎, 内藤 泰 : 聴覚リハビリテーション. *耳鼻頭頸* 89 : 672-681, 2017
6. 内藤 泰 : 内耳奇形. *JOHNS* 33 : 1365-1373, 2017
7. 諸頭三郎, 内藤 泰 : 小児の人工内耳手術と療育に関するトピックスは? *JOHNS* 33 : 1403-1408, 2017
8. 藤井直子, 諸頭三郎, 大西晶子, 内藤 泰 : 残存聴力活用型人工内耳の小児例における有用性 : 5 症例の検討. *小児耳鼻咽喉科* 38 : 116-125, 2017
9. 白井裕美子, 土師知行, 末廣 篤, 前川圭子, 雲井一夫 : 強直性脊椎炎を基礎疾患とする竹節状声帯例. *音声言語医学* 58 : 346-349, 2017
10. 内藤 泰 : 人工内耳と中枢聴覚情報処理. *JOHNS* 34 : 313-322, 2018

11. Umesawa M, Kobashi G, Kitoh R, Nishio SY, Ogawa K, Hato N, Sone M, Fukuda S, Hara A, Ikezono T, Ishikawa K, Iwasaki S, Kaga K, Kakehata S, Matsubara A, Matsunaga T, Murata T, Naito Y, Nakagawa T, Nishizaki K, Noguchi Y, Sano H, Sato H, Suzuki M, Shojaku H, Takahashi H, Takeda H, Tono T, Yamashita H, Yamasoba T, Usami SI : Relationships among drinking and smoking habits, history of diseases, body mass index and idiopathic sudden sensorineural hearing loss in Japanese patients. *Acta Otolaryngol* 137 : S17-S23, 2017
12. Yoshida T, Sone M, Kitoh R, Nishio SY, Ogawa K, Kanzaki S, Hato N, Fukuda S, Hara A, Ikezono T, Ishikawa K, Iwasaki S, Kaga K, Kakehata S, Matsubara A, Matsunaga T, Murata T, Naito Y, Nakagawa T, Nishizaki K, Noguchi Y, Sano H, Sato H, Suzuki M, Shojaku H, Takahashi H, Takeda H, Tono T, Yamashita H, Yamasoba T, Usami SI : Idiopathic sudden sensorineural hearing loss and acute low-tone sensorineural hearing loss : a comparison of the results of a nationwide epidemiological survey in Japan. *Acta Otolaryngol* 137 : S38-S43, 2017
13. Sato H, Kuwashima S, Nishio SY, Kitoh R, Fukuda S, Hara A, Hato N, Ikezono T, Ishikawa K, Iwasaki S, Kaga K, Matsubara A, Matsunaga T, Murata T, Naito Y, Nakagawa T, Nishizaki K, Noguchi Y, Ogawa K, Sano H, Sone M, Shojaku H, Takahashi H, Tono T, Yamashita H, Yamasoba T, Usami SI : Epidemiological survey of acute low-tone sensorineural hearing loss. *Acta Otolaryngol* 137 : S34-S37, 2017
14. Wada T, Sano H, Nishio SY, Kitoh R, Ikezono T, Iwasaki S, Kaga K, Matsubara A, Matsunaga T, Murata T, Naito Y, Suzuki M, Takahashi H, Tono T, Yamashita H, Hara A, Usami SI : Differences between acoustic trauma and other types of acute noise-induced hearing loss in terms of treatment and hearing prognosis. *Acta Otolaryngol* 137 : S48-S52, 2017
15. Kitoh R, Nishio SY, Ogawa K, Kanzaki S, Hato N, Sone M, Fukuda S, Hara A, Ikezono T, Ishikawa K, Iwasaki S, Kaga K, Kakehata S, Matsubara A, Matsunaga T, Murata T, Naito Y, Nakagawa T, Nishizaki K, Noguchi Y, Sano H, Sato H, Suzuki M, Shojaku H, Takahashi H, Takeda H, Tono T, Yamashita H, Yamasoba T, Usami SI : Nationwide epidemiological survey of idiopathic sudden sensorineural hearing loss in Japan. *Acta Otolaryngol* 137 : S8-S16, 2017
16. Yamamoto R, Naito Y, Tona R, Tamaya R, Moroto S, Fujiwara K, Shinohara S, Takebayashi S, Kikuchi M, Michida T : Audio-visual speech perception in prelingually deafened Japanese children following sequential bilateral cochlear implantation. *International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology* 102 : 160-168, 2017
17. Omae K, Kanemaru S, Nakatani E, Kaneda H, Nishimura T, Tona R, Naito Y, Kawamoto A, Fukushima M : Regenerative treatment for tympanic membrane perforation using gelatin sponge with basic fibroblast growth factor. *Auris Nasus Larynx* 44 : 664-671, 2017

VI. 1. 22 頭頸部外科

1. 竹林慎治, 篠原尚吾, 齊田浩二, 林 一樹, 山本亮介, 道田哲彦, 原田博之, 藤原敬三, 内藤 泰 : 頭頸部腺様嚢胞癌 23 例の検討. *耳鼻臨床* 110 : 423-429, 2017
2. 林 一樹, 篠原尚吾, 末廣 篤, 岸本逸平, 原田博之, 佐藤悠城, 上原慶一郎 : 肺腫瘍血栓性微小血管症 (PTTM) による呼吸不全のため急激に死の転機をたどった舌下腺腺様嚢胞癌症例. *頭頸部外科* 27 : 117-121, 2017
3. 菊地正弘 : 腫瘍微小環境における放射線誘導性 PD-L1 アップレギュレーションの PET/CT による可視化と頭頸部がんへの応用. *頭頸部癌* 43 : 333-338, 2017
4. 藪内 咲, 竹林慎治, 中平真衣, 谷上由城, 林 泰之, 康本明吉, 暁久美子, 樋渡 直, 大野 覚, 池田浩己, 池上 總, 三浦 誠 : セタキセルとトラスツズマブを長期間投与した顎下腺原発唾液腺導管癌例. *耳鼻咽喉科臨床* 110 : 693-699, 2017
5. 篠原尚吾, 竹林慎治, 菊地正弘, 道田哲彦, 林 一樹, 山本亮介, 今井幸弘, 上原慶一郎, 宇佐美悠 : HPV 陽性中咽頭癌に対する低侵襲治療の展望 - p16 陽性 / p53 陰性をバイオマーカーとした導入化学療法 -. *頭頸部癌* 43 : 403-408, 2017
6. 篠原尚吾 : 甲状腺手術 - 副甲状腺機能確保のための対応. *イラスト手術手技のコツ, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 咽喉頭編*, 村上 泰, 久 育夫 監修, 小川 郁, 河田 了, 岸本誠司, 春名眞一 編, 第 2 版, 東京医学社, 東京, 489-491, 2017
7. Yamamoto R, Shinohara S, Mizuno K, Saida K, Hayashi K, Michida T, Takebayashi S, Fujiwara K, Naito Y : Subcutaneous and mediastinal Emphysema after dental procedures: two case reports. *Clinics of Otorhinolaryngology* 1 : 1 010, 2017

8. Okoshi K, Minami T, Kikuchi M, Tomizawa Y : Musical instrument-associated health issues and their management. *Tohoku J Exp Med* 243 : 49-56, 2017
9. Takebayashi S, Shinohara S, Tamaki H, Tateya I, Kitamura M, Mizuta M, Tanaka S, Kojima T, Asato R, Maetani T, Ushiro K, Kitani Y, Ichimaru K, Honda K, Yamada K, Omori K : Adenoid cystic carcinoma of the head and neck : a retrospective multicenter study. *Acta Otolaryngol* 137 : 1651-2251, 2017
10. Kishimoto I, Shinohara S, Ueda T, Tani S, Yoshimura H, Imai Y : Orbital apex syndrome secondary to a fungal nasal septal abscess caused by *Scedosporium apiospermum* in a patient with uncontrolled diabetes : a case report. *BMC Infectious Diseases* 17 : 649, 2017
11. Honda K, Tanaka S, Shinohara S, Asato R, Tamaki H, Maetani T, Tateya I, Kitamura M, Mizuta M, Takebayashi S, Ichimaru K, Kitani Y, Kumabe Y, Kojima T, Ushiro K, Mizuta M, Yamada K, Omori K : Survival in patients with parotid gland carcinoma -Results of a multi-center study. *American Journal of Otolaryngology* *American Journal of Otolaryngology* 39 : 65-70, 2018
12. Harada H, Shinohara S, Takebayashi S, Kikuchi M, Fujiwara K, Michida T, Yamamoto R, Hayashi K, Saida K, Naito Y : Facial flushing after alcohol intake as a predictor for a high risk of synchronous or metachronous cancer of the upper gastrointestinal tract. *Jpn J Clin Oncol* 47 : 1123-1128, 2017
13. Mizuta M, Kitamura M, Tateya I, Tamaki H, Tanaka S, Asato R, Shinohara S, Takebayashi S, Kitani Y, Maetani T, Kumabe Y, Kojima T, Ushiro K, Ichimaru K, Honda K, Yamada K, Omori K : Unknown primary squamous cell carcinoma of the head and neck : retrospective analysis of 80 cases. *Acta Otolaryngol* doi: 10.1080/00016489.2017.1422141. Epub 2018 Jan 8.
14. Yamada K, Honda K, Tamaki H, Tanaka S, Shinohara S, Takebayashi S, Tateya I, Kitamura M, Mizuta M, Maetani T, Kojima T, Kitani Y, Asato R, Ichimaru K, Kumabe Y, Ushiro K, Omori K : Survival in patients with submandibular gland carcinoma-Results of a multi-institutional retrospective study. *Auris Nasus Larynx* 45 : 1066-1072, 2018

VI. 1. 23 麻酔科

1. 甲斐沼篤, 福永直人, 西矢健太, 宮脇郁子, 小山忠明, 山崎和夫 : 97歳の急性A型大動脈解離破裂の周術期管理. *麻酔* 66 : 316-319, 2017
2. 岡澤佑樹, 山村 愛, 植田浩司, 山崎和夫 : 麻酔導入時の薬剤投与を契機に指摘し得た末梢挿入型中心静脈カテーテルの血管穿孔. *日本臨床麻酔学会誌* 37 : 172-175, 2017
3. 大嶋圭一, 東別府直紀, 長間智利, 清水綾子, 山崎和夫 : 術中低体温を呈したパーキンソン病患者の1例. *臨床麻酔* 41 : 1154-1156, 2017
4. 岡澤佑樹, 宮脇郁子, 山崎和夫 : 心臓手術後の縦隔炎に対する洗浄術中に大量出血から心停止を来した1例. *Cardiovascular Anesthesia* 21 : 147-150, 2017
5. 池田真悠実, 伊原正幸, 吉田一貴, 宮脇郁子, 美馬裕之, 山崎和夫 : プロテインS欠乏症患者に対する大動脈弁置換術の麻酔経験. *麻酔* 66 : 1099-1102, 2017
6. Kainuma A, Oshima K, Ota C, Okubo Y, Fukunaga N, Suh SH : Brachiocephalic Vein Perforation During Cannulation of Internal Jugular Vein : A Case Report. *A&A Case Reports* 9 : 258-261, 2017
7. Yunoki K, Wada T, Miyawaki I, Yamazaki K, Mima H : Anesthetic management of one-stage scheduled surgery for adrenal cortical carcinoma complicated by massive pulmonary tumor embolism. *JA Clin Rep* 3 : 48, 2017
8. 柚木一馬, 岡澤佑樹, 宮脇郁子, 山崎和夫 : 下大静脈腫瘍塞栓摘出を伴う泌尿器科手術における経食道心エコー検査の役割. *麻酔* 67 : 198-202, 2018
9. Yunoki K, Sakai T : The role of simulation training in anesthesiology resident education. *J Anesth* 32 : 425-433, 2018

VI. 1. 24 歯科・歯科口腔外科

1. 大岩伊知郎, 奥本隆行, 喜久田利弘, 楠本健司, 近藤壽郎, 下郷和雄, 菅原康志, 高野正行, 竹信俊彦, 外木守雄, 中村誠二, 宮脇剛司 訳 : 1.4.3. インプラントの機能と形態, 7. 顔面の標準的骨切り術の固定法 (顎矯正手術) 7. 1 定義, 診断, 治療計画. 「AO 法骨折治療 頭蓋顎顔面骨の内固定 - 外傷と顎矯正手術」 : 下郷和雄 監訳, 初版, 医学書院, 東京, 2017

2. 竹信俊彦：骨治癒：癒合と癒合不全の分かれ目．日本口腔感染症学会 News Letter 28：1，2017
3. 山本信祐，竹信俊彦，前田圭吾，高地いづみ，平井雄三，谷池直樹：耳下腺内視鏡手術においてマイクロバーが有用であった慢性閉塞性唾液腺炎の1例．日本口腔外科学会雑誌 63：364-368，2017
4. 平井雄三，竹信俊彦，高地いづみ，山本信祐，谷池直樹，宇佐美悠：上顎骨に発生した血友病性偽腫瘍の1例．日本口腔外科学会雑誌 64：92-97，2018
5. Yamamoto S, Maeda K, Kouchi I, Hirai Y, Taniike N, Imai Y, Takenobu T : Surgical ciliated cyst following maxillary sinus floor augmentation : A case report. J Oral Implantol 43 : 360-364, 2017
6. Yamamoto S, Takenobu T, Kouchi I, Hirai Y, Taniike N : Application of Le Fort I osteotomy for post-traumatic malocclusion secondary to condylar fractures in an elderly patient : a case report. J Clin Diagn Res 12 : ZD04-ZD06, 2018
7. 上原京憲，竹信俊彦，谷池直樹，宇佐美悠，平井雄三，山本信祐：小児の下顎枝部に生じた放線菌性下顎骨骨髓炎の1例．日本口腔外科学会雑誌 64：159-164，2018

VI. 1. 25 病理診断科

1. Sakanoue I, Hamakawa H, Kaji R, Imai Y, Katakami N, Takahashi Y : Sleeve lobectomy for lung adenocarcinoma treated with neoadjuvant afatinib. J Thorac Dis 10 : E170-E174, 2018
2. Sato Y, Fujimoto D, Uehara K, Kawachi H, Nagata K, Nakagawa A, Otsuka K, Sakanoue I, Hamakawa H, Takahashi Y, Imai Y, Tomii K : Reduced Tumour Proportion Scores for Programmed Cell Death Ligand 1 in Stored Paraffin Tissue Sections. Anticancer Res 38 : 1401-1405, 2018
3. Hata A, Katakami N, Nanjo S, Okuda C, Kaji R, Masago K, Fujita S, Yoshida H, Zama K, Imai Y, Hirata Y : Programmed death-ligand 1 expression according to epidermal growth factor receptor mutation status in pretreated non-small cell lung cancer. Oncotarget 8 : 113807-113816, 2017
4. Togo M, Kono T, Hoshi T, Imamura H, Todo K, Adachi H, Kawamoto M, Imai Y, Sakai N, Kohara N : Successful endovascular therapy for multiple intracranial arterial stenosis associated with medically intractable giant cell arteritis. J Neurol Sci 384 : 104-106, 2018
5. Fujimoto D, Sato Y, Uehara K, Ishida K, Fukuoka J, Morimoto T, Kawachi H, Mori R, Ito M, Teraoka S, Nagata K, Nakagawa A, Otsuka K, Imai Y, Tomii K : Predictive Performance of Four Programmed Cell Death Ligand 1 Assay Systems on Nivolumab Response in Previously Treated Patients with Non-Small Cell Lung Cancer. J Thorac Oncol 13 : 377-386, 2018
6. Sakanoue I, Hamakawa H, Imai Y, Takahashi Y : Thoracoscopic Surgery for a Congenital Bronchoesophageal Fistula With Pulmonary Sequestration in an Adult Woman. Semin Thorac Cardiovasc Surg 29 : 433-435, 2017
7. Nomoto N, Tani T, Konda T, Kim K, Kitai T, Ota M, Kaji S, Imai Y, Okada Y, Furukawa Y : Primary and metastatic cardiac tumors : echocardiographic diagnosis, treatment and prognosis in a 15-years single center study. J Cardiothorac Surg 12 : 103, 2017
8. Togo M, Hoshi T, Matsuoka R, Imai Y, Kohara N : Multiple small hemorrhagic infarcts in cerebral air embolism : a case report. BMC Res Notes 10 : 599, 2017
9. Toyonaga H, Taniguchi Y, Inokuma T, Imai Y : Traumatic bile duct neuroma diagnosed by boring biopsy with cholangioscopy. Gastrointest Endosc 87 : 1361-1362, 2018
10. Hiramoto N, Takeda J, Yoshida K, Ono Y, Yoshioka S, Yamauchi N, Fujimoto A, Maruoka H, Shiraiishi Y, Tanaka H, Chiba K, Imai Y, Miyano S, Ogawa S, Ishikawa T : Donor cell-derived transient abnormal myelopoiesis as a specific complication of umbilical cord blood transplantation. Bone Marrow Transplant 53 : 225-227, 2018
11. Kishimoto I, Shinohara S, Ueda T, Tani S, Yoshimura H, Imai Y : Orbital apex syndrome secondary to a fungal nasal septal abscess caused by *Scedosporium apiospermum* in a patient with uncontrolled diabetes : a case report. BMC Infect Dis 17 : 649, 2017
12. Teraoka S, Fujimoto D, Morimoto T, Kawachi H, Ito M, Sato Y, Nagata K, Nakagawa A, Otsuka K, Uehara K, Imai Y, Ishida K, Fukuoka J, Tomii K : Early Immune-Related Adverse Events and Association with Outcome in Advanced Non-Small Cell Lung Cancer Patients Treated with Nivolumab : A Prospective Cohort Study. J Thorac Oncol 12 : 1798-1805, 2017

13. Sakanoue I, Hamakawa H, Fujimoto D, Imai Y, Minami K, Tomii K, Takahashi Y : KRAS mutation-positive mucinous adenocarcinoma originating in the thymus. *J Thorac Dis* 9 : E694-E697, 2017
14. Katoh D, Ochi Y, Yabushita T, Ono Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Hashimoto H, Kaji S, Imai Y, Ishikawa T : Peripheral Blood Lymphocyte-to-Monocyte Ratio at Relapse Predicts Outcome for Patients With Relapsed or Refractory Diffuse Large B-cell Lymphoma in the Rituximab Era. *Clin Lymphoma Myeloma Leuk* 17 : e91-e97, 2017
15. Fujimoto D, Uehara K, Sato Y, Sakanoue I, Ito M, Teraoka S, Nagata K, Nakagawa A, Kosaka Y, Otsuka K, Imai Y, Hamakawa H, Takahashi Y, Kokubo M, Tomii K : Alteration of PD-L1 expression and its prognostic impact after concurrent chemoradiation therapy in non-small cell lung cancer patients. *Sci Rep* 7 : 11373, 2017
16. Yamamoto S, Maeda K, Kouchi I, Hirai Y, Taniike N, Imai Y, Takenobu T : Surgical Ciliated Cyst Following Maxillary Sinus Floor Augmentation : A Case Report. *J Oral Implantol* 43 : 360-364, 2017
17. Hata A, Katakami N, Nanjo S, Okuda C, Kaji R, Masago K, Fujita S, Yoshida H, Zama K, Imai Y, Hirata Y : Programmed death-ligand 1 expression and T790M status in EGFR-mutant non-small cell lung cancer. *Lung Cancer* 111 : 182-189, 2017
18. Shimomura Y, Imai Y, Ishikawa T : Small Cell Carcinoma Mimicking Acute Leukemia. *Intern Med* 56 : 2375-2376, 2017
19. Toyonaga H, Fukushima M, Inokuma T, Imai Y : Mantle cell lymphoma involving the esophagus evaluated by magnifying endoscopy with narrow-band imaging. *Gastrointest Endosc* 87 : 305-306, 2018
20. Fukunaga N, Koizumi S, Imai Y, Koyama T : A hair shaft causing infective endocarditis. *J Card Surg* 32 : 485-486, 2017
21. Satake H, Kondo M, Mizumoto M, Kotake T, Okita Y, Ogata T, Hatachi Y, Yasui H, Miki A, Imai Y, Ichikawa C, Murotani K, Kotaka M, Kato T, Kaihara S, Tsuji A : Phase I Study of Neoadjuvant Chemotherapy with Capecitabine and Oxaliplatin for Locally Advanced Gastric Cancer. *Anticancer Res* 37 : 3703-3710, 2017
22. Sato Y, Fujimoto D, Morimoto T, Uehara K, Nagata K, Sakanoue I, Hamakawa H, Takahashi Y, Imai Y, Tomii K : Natural history and clinical characteristics of multiple pulmonary nodules with ground glass opacity. *Respirology* 22 : 1615-1621, 2017
23. Ogawa S, Imai Y, Inokuma T : Mimicking Gastric Natural Killer/T-Cell Lymphoma. *Gastroenterology* 153 : e22-e23, 2017
24. Ito J, Fujimoto D, Nakamura A, Nagano T, Uehara K, Imai Y, Tomii K : Aprepitant for refractory nivolumab-induced pruritus. *Lung Cancer* 109 : 58-61, 2017
25. Ono Y, Kazuma Y, Ochi Y, Matsuoka R, Imai Y, Ishikawa T : Two Cases of Neurolymphomatosis with Fatal Bilateral Vocal Cord Paralysis that were Diagnosed with (18)F-fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography (FDG PET)/CT. *Intern Med* 56 : 1193-1198, 2017
26. Hata A, Katakami N, Nanjo S, Okuda C, Kaji R, Imai Y : Rebiopsy of Histological Samples in Pretreated Non-small Cell Lung Cancer : Comparison Among Rebiopsy Procedures. *In Vivo* 31 : 475-479, 2017
27. Ikeda H, Imamura H, Agawa Y, Imai Y, Tani S, Adachi H, Ishikawa T, Mineharu Y, Sakai N : Onyx extravasation during embolization of a brain arteriovenous malformation. *Interv Neuroradiol* 23 : 200-205, 2017
28. Shinohara S, Suehiro A, Kikuchi M, Harada H, Kishimoto I, Imai Y : A case of desmoid tumor co-existing with recurrent squamous cell carcinoma in the larynx. *Auris Nasus Larynx* 44 : 365-369, 2017
29. Sakanoue I, Hamakawa H, Onishi E, Imai Y, Takahashi Y : Giant cell tumor of the rib with direct invasion into the thoracic spine. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 65 : 293-296, 2017
30. Kanzawa Y, Imai Y, Mizuno Y, Nishioka H : Testicular lymphocytic vasculitis treated with prednisolone and azathioprine. *Mod Rheumatol* 27 : 705-707, 2017
31. 土肥洋一郎, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 福永有伸, 久保田聖史, 松岡崇志, 杉野善雄, 井上幸治, 上原慶一郎, 今井幸弘, 川喜田睦司 : 腎癌を契機に診断された Birt-Hogg-Dube 症候群の 1 例. *泌尿器科紀要* 64 : 107-110, 2018
32. 小野祐一郎, 平本展大, 吉岡 聡, 藪下知宏, 木場悠介, 田端淑恵, 今井幸弘, 石川隆之 : Brentuximab vedotin 長期投与により長期寛解を維持できた同種骨髄造血幹細胞移植後再発 Hodgkin リンパ腫. *臨床血液* 58 : 2397-2401, 2017

33. 篠原尚吾, 竹林慎治, 菊地正弘, 道田哲彦, 林 一樹, 山本亮介, 今井幸弘, 上原慶一郎, 宇佐美悠: HPV陽性中咽頭癌に対する低侵襲治療の展望 p16陽性/p53陰性をバイオマーカーとした導入化学療法. 頭頸部癌 43: 403-408, 2017
34. 中村文香, 増田泰之, 鷺見真由子, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 上原慶一郎, 今井幸弘: 著明な石灰化を伴う基底細胞癌の1例. 皮膚科の臨床 59: 1407-1410, 2017
35. 小谷晋平, 大森麻美子, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 今井幸弘: シクロスポリンが著効した毛孔性紅色秕糠疹の1例. 臨床皮膚科 71: 216-220, 2017

VI. 1. 26 放射線診断科

1. Ueda J, Yoshimura H, Shimizu K, Hino M, Kohara N: Combined visual and semi-quantitative assessment of 123I-FP-CIT SPECT for the diagnosis of dopaminergic neurodegenerative diseases. Neurological sciences 38: 1187-1191, 2017
2. 上田浩之: 腹膜炎. 腹部救急疾患の画像診断とインターベンション, メジカルビュー社, 東京, 112-116, 2018
3. 上田浩之: 産婦人科救急疾患. 腹部救急疾患の画像診断とインターベンション, メジカルビュー社, 東京, 249-270, 2018

VI. 1. 27 放射線治療科

1. Ogura K, Kosaka Y, Imagumbai T, Ueki K, Narukami R, Hattori T, Kokubo M: Modifying planning target volume in optimization of dose distribution in dynamic conformal arc therapy for large metastatic brain tumors. Jap J Radiol 35: 335-340, 2017
2. Kimura T, Nagata Y, Harada H, Hayashi S, Matsuo Y, Takanaka T, Kokubo M, Takayama K, Onishi H, Hirakawa K, Shioyama Y, Ehara T: Phase I study of stereotactic body radiation therapy for centrally located stage IA non-small cell lung cancer (JROSG10-1). IJCO 22: 849-856, 2017
3. Fujimoto D, Uehara K, Sato Y, Sakanoue I, Ito M, Teraoka S, Nagata K, Nakagawa A, Kosaka Y, Otsuka K, Imai Y, Hamakawa H, Takahashi Y, Kokubo M, Tomii K: Alteration of PD-L1 expression and its prognostic impact after neoadjuvant concurrent chemoradiation therapy in patients with non-small cell lung cancer. Sci Rep 12: 11373, 2017
4. Nakai T, Sawada A, Tanabe H, Sueoka M, Taniuchi S, Takayama K, Shiinoki T, Ishihara Y, Kokubo M: Investigation of Well-Balanced kV X-Ray Imaging Conditions between Skin Dose and Image Noise for Dynamic Tumor Tracking Irradiation. International Journal of Medical Physics, Clinical Engineering and Radiation Oncology 6: 410-420, 2017
5. Kokubo M, Yamada M, Sawada A, Mukumoto N, Miyabe Y, Mizowaki T, Hiraoka M: Detection of Spherical Gold Fiducials in kV X-ray Images Using Intensity-estimation-based Method. International Journal of Medical Physics, Clinical Engineering and Radiation Oncology 7: 115-130, 2018
6. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 篠原尚吾, 竹林慎治, 原田博之: 放射線治療後に外耳道真珠腫が生じた3症例. 頭頸部癌 44: 62-65, 2018

VI. 1. 28 救急科

1. 水 大介: 第11回産科救急を読み解く, 超カンタン!! ERとICUを読み解く. Emergency Care 30: 497-501, 2017
2. 高場章宏, 蛭名正智, 桜谷正明, 瀬尾龍太郎, 須賀将文, 吉田研一, 有吉孝一: 挿管を望まない患者に対するNPPVの限界. 日本救急医学会雑誌 28: 64-70, 2017
3. 水 大介: 第12回ICUでの発熱を読み解く, 超カンタン!! ERとICUを読み解く. Emergency Care 30: 590-593, 2017
4. 井上 彰: 救命救急センター内の精神科身体合併症病棟. 救急医学 41: 512-517, 2017
5. 水 大介: 第13回救急外来での混雑を読み解く, 超カンタン!! ERとICUを読み解く. Emergency Care 30: 686-688, 2017
6. 有吉孝一: 熱中症への対応. 教育と医学 65: 602-608, 2017

7. 有吉孝一：監修「第1回脳卒中ガイドライン，神谷侑画 執筆，おしゃべりガイドLINE」。Emergency Care 30：777-786，2017
8. 水 大介：第14回アルコール患者を読み解く，超カンタン!! ERとICUを読み解く。Emergency Care 30：796-799，2017
9. 小森大輝，蛭名正智，有吉孝一：アニサキスによる遅発性アナフィラキシーの1例。日本救急医学会雑誌 28：253-257，2017
10. 有吉孝一：監修「第2回rt-PA（アルテプラザーゼ）静注療法適正治療指針，神谷侑画 執筆 おしゃべりガイドLINE」。Emergency Care 30：897-904，2017
11. 水 大介：第15回高齢者と薬剤～Polypharmacy～を読み解く，超カンタン!! ERとICUを読み解く。Emergency Care 30：910-912，2017
12. 有吉孝一：監修「第3回日本版敗血症ガイドライン2016，柳井真知 執筆，おしゃべりガイドLINE」。Emergency Care 30：1011-1017，2017
13. 小倉朋子，水 大介：第3回日本版敗血症ガイドライン2016，超カンタン!! ERとICUを読み解く。Emergency Care 30：1024-1027，2017
14. Kuriyama A, Takada T, Irie H, Sakuraya M, Katayama K, Kawakami D, Iwasaki H, Fowler KE, Tokuda Y, Saint S: Prevalence and Appropriateness of Urinary Catheters in Japanese Intensive Care Units: Results From a Multicenter Point Prevalence Study. Clinical Infectious Diseases 64：S127-S130，2017
15. 有吉孝一：監修「第4回JRC蘇生ガイドライン2015：一次救命処置，野田英一郎 執筆，おしゃべりガイドLINE」。Emergency Care 30：1121-1129，2017
16. 竹中真理子，水 大介：第17回ICU患者の栄養療法を読み解く～Refeeding syndrome～，超カンタン!! ERとICUを読み解く。Emergency Care 30：1130-1132，2017
17. 柳井真知：本の処方箋ときどき映画。Emergency Care 30：1099，2017
18. 有吉孝一：04 咽頭痛、頸部痛。jmed52 兆候から見抜け！小児救急疾患，市川光太郎 編著，日本医事新報社，東京，28-34，2017
19. 有吉孝一：05 耳痛、頬部痛。jmed52 兆候から見抜け！小児救急疾患，市川光太郎 編著，日本医事新報社，東京，35-39，2017
20. 有吉孝一：監修「第5回JRC蘇生ガイドライン2015：成人の二次救命処置，野田英一郎 執筆，おしゃべりガイドLINE」。Emergency Care 30：1225-1233，2017
21. 畑 菜摘，水 大介：第18回小児の虐待を読み解く，超カンタン!! ERとICUを読み解く。Emergency Care 30：1234-1236，2017
22. 柳井真知：本の処方箋ときどき映画。Emergency Care 30：1241，2017
23. 桑原佑典，朱 祐珍，是永 章，上村恵理，瀬尾龍太郎，有吉孝一：グロリオサの球根を自殺目的に摂取し死亡したコルヒチン中毒の1例。日本救急医学学会雑誌 128：812-817，2017
24. 杉村朋子，長崎 靖，有吉孝一，久保真一：法医剖検例における心肺蘇生時の胸骨圧迫による心損傷の検討。法医学の実際と研究 60：237-241，2017
25. 有吉孝一：監修「熱傷診療ガイドライン（改訂第二版），朱 祐珍 執筆，おしゃべりガイドLINE」。Emergency Care 31：63-69，2018
26. 水 大介：第19回Difficult patientを読み解く，超カンタン!! ERとICUを読み解く。Emergency Care 31：58-52，2018
27. 柳井真知：本の処方箋ときどき映画。Emergency Care 31：53，2018
28. 安藤基純，有吉孝一，白井聖尊，斎藤 剛，藤田友嗣，堀 寧，三瀬雅史，山口浩明，芳澤朋大：カフェインの分析。中毒研究 30：401-406，2017
29. 有吉孝一：監修「人工呼吸器離脱に関する3学会合同プロトコル，瀬尾龍太郎 執筆 おしゃべりガイドLINE」。Emergency Care 31：155-163，2018
30. 水 大介：第20回せん妄を読み解く，超カンタン!! ERとICUを読み解く」。Emergency Care 31：164-166，2018
31. 柳井真知：本の処方箋ときどき映画。Emergency Care 31：154，2018

32. Komori A, Mizu D, Ariyoshi K : Posterior Reversible Encephalopathy Syndrome: A Rare Childhood Case with Unconsciousness. The journal of Emergency Medicine Available online 12 January 2018, <http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0736467917311824>
33. Ogawa K, Ito J, Fujimoto D, Morita M, Yoshimizu Y, Ariyoshi K, Tomii K, Katakami N : A case report : Exacerbation of autoimmune hemolytic anemia induced by first course of pembrolizumab therapy. *Investigational New Drugs* 36 : 509-512, 2018
34. 小川顕太, 瀬尾龍太郎 : 咽頭・喉頭・頭頸部領域 突然酸素飽和度が低下した. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 90 : 79-81, 2018
35. 松岡由典 : 頭部外傷. 増刊レジデントノート, 小児救急の基本「子どもは苦手」を克服しよう! 19 : 3103-3109, 2018
36. 柳井真知 : 本の処方箋ときどき映画. 第12回「死すべき定め」, *Emergency Care* 31 : 254, 218
37. 有吉孝一 : 監修「集中治療領域における終末期患者家族のこころのケア指針, 美馬裕之 執筆, おしゃべりガイドLINE」. *Emergency Care* 31 : 255-260, 2018
38. 水 大介 : 第21回早期リハビリテーションを読み解く, 超カンタン!! ERとICUを読み解く」. *Emergency Care* 31 : 261-265, 2018
39. 桑原佑典, 志水隼人, 土井朝子, 瀬尾龍太郎 : 港島ICU×ICTカンファレンス, 第5回 Clostridium difficile infection の管理. *INTENSIVIST* 9, 2017
40. 小森大輝, 大倉敬之, 瀬尾龍太郎 : 港島ICU×ICTカンファレンス, 第6回肺炎治療の controversy. *INTENSIVIST* 10, 2018
41. 有吉孝一 : 監修「外傷初期看護ガイドライン改訂第3版 (JNTEC™), 増山純二 執筆, おしゃべりガイドLINE」. *Emergency Care* 31 : 355-361, 2018
42. 水 大介 : 第22回脳死移植を読み解く, 超カンタン!! ERとICUを読み解く. *Emergency Care* 31 : 352-354, 2018
43. 柳井真知, 江原 淳, 藤谷茂樹, 津久田順平, 高松由佳, 森澤健一郎, 平 泰彦 : 誤嚥性肺炎の治療方針決定におけるプロカルシトニンの有用性 (Procalcitonin utility for diagnosis and treatment of aspiration pneumonia). *日本救急医学会雑誌* 129 : 81-89, 2018
44. Ebina M, Inoue A, Takaba A, Ariyoshi K : Management of spontaneous pneumomediastinum: Are hospitalization and prophylactic antibiotics needed? *Am J Emerg Med* 35 : 1150-1153, 2018
45. 野浪 豪 : 5肺. 救急・プライマリケアで必要なポイントオブケア超音波, 瀬良 誠 編著, 日本医事新報社, 東京, 56-68, 2018

VI. 1. 29 総合内科

1. Mizuno Y, Imoto H, Takahashi N, Ichikawa C, Nishioka H : Pleuritis and Pericarditis Following Silicone Breast Implants as Part of Autoimmune Syndrome Induced by Adjuvants. *Journal of Clinical Rheumatology* 2018 Feb 27 doi: 10.1097/RHU.0000000000000708.
2. Kanamori M, Dhaliwal G, Matsumura M, Monash B : Thinking Outside the Checkbox. *Journal of Hospital Medicine* 13 : 100-104, 2018
3. Shimizu H, Nishioka H : 18F-FDG PET-CT in a patient with methotrexate-associated lymphoproliferative disorder. *Journal of General and Family Medicine* 19 : 34-35, 2018
4. Moriyama Y, Nishioka H : Multifocal pyomyositis after intra-articular injections. *Journal of General and Family Medicine* 18 : 189-194, 2017
5. Nishioka H, Takegawa H, Kamei H : Disseminated cryptococcosis in a patient taking tocilizumab for Castleman's disease. *Journal of Infection and Chemotherapy* 24 : 138-141, 2018
6. Nishioka H, Doi A, Takegawa H : Pyelonephritis in Japan caused by Salmonella enterica subspecies arizonae. *Journal of Infection and Chemotherapy* 23 : 841-843, 2017
7. Iwata K, Doi A : Can Hybrid Educational Activities of Team and Problem Based Learning Program be Effective for Japanese Medical Students? *Kobe Journal of Medical Sciences* 63 : E51-E57, 2017

8. Doi A, Morimoto T, Iwata K : A Shorter Duration of Antibiotic Treatment for Acute Bacteraemic Cholangitis with Successful Biliary Drainage : A Retrospective Cohort Study *Clinical Microbiology and Infection* 2018 Feb 2. pii: S1198-743X (18)30139-3. doi: 10.1016/j.cmi.2018.01.021.
9. Iwata K, Doi A : Can hybrid educational activities of team and problem based learning program be effective for Japanese medical students? *International Journal of Medical Education* 8 : 176-178, 2017
10. Shimizu H, Nishioka H : Successful treatment with tocilizumab for refractory scleritis associated with relapsing polychondritis. *Scandinavian Journal of Rheumatology* 46 : 418-419, 2017
11. Kanzawa Y, Imai Y, Mizuno Y, Nishioka H : Testicular lymphocytic vasculitis treated with prednisolone and azathioprine. *Modern Rheumatology* 27 : 705-707, 2017
12. 西岡弘晶, 東別府直紀 : 高齢緊急入院患者の入院時血清ナトリウム値と入院中死亡率との関係. *日本静脈経腸栄養学会雑誌* 32 : 1503-1505, 2017
13. 楠田かおり, 西岡弘晶, 池村 舞, 西岡和子, 東別府直紀, 橋田 亨 : ペクチン含有濃厚流動食の下痢改善効果に対する胃酸分泌抑制薬の影響. *日本静脈経腸栄養学会雑誌* 32 : 988-991, 2017
14. 進藤達哉, 西岡弘晶 : メトロニダゾール点滴静注による治療が奏功した破傷風の1例. *感染症学雑誌* 91 : 576-579, 2017
15. 鷺見真由子, 小谷晋平, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹, 西岡弘晶 : 糖尿病患者の下肢に広範な皮下膿瘍を形成した深在性皮膚カンジダ症の1例. *皮膚科の臨床* 59 : 1107-1110, 2017
16. 長野 徹, 鷺見真由子, 小谷晋平, 小坂博志, 小川真希子, 西岡弘晶 : 救命し得た105歳女性の壊死性筋膜炎の1例. *皮膚科の臨床* 59 : 1499-1502, 2017
17. 蓮池俊和, 是永 章, 瀬尾龍太郎 : 水汚染を伴った開放骨折. *Intensivist* 9 : 220-225, 2017
18. 中森裕毅, 土井朝子, 瀬尾龍太郎 : 心臓外科術後 SSI 予防目的の抗菌薬. *Intensivist* 9 : 470-475, 2017
19. 須賀将文, 蓮池俊和, 瀬尾龍太郎 : 感受性検査のピットフォールとマネジメント. *Intensivist* 9 : 769-777, 2017
20. 桑原佑典, 志水隼人, 土井朝子, 瀬尾龍太郎 : Clostridium difficile infection の管理. *Intensivist* 9 : 1029-1034, 2017
21. 土井朝子 : インフルエンザやノロウイルスの流行時期、自宅でも消毒をしたほうがよいでしょうか? *臨床雑誌内科* 120 : 637-638, 2017

VI. 1. 30 看護部

1. 新田和子, 仲村直子, 林 有里 : グループで行ったリフレクションが CNS の自己課題の明確化に与えた影響. *高知女子大学看護学会誌* 42 : 79-86, 2017
2. 古賀雄二, 植村 桜, 伊藤聡子, 井上和代, 大西純子, 小幡祐司, 杉江英理子, 杉野由起子, 藤野智子, 古厩智美, 茂呂悦子 : 急性・重症患者看護専門看護師のせん妄ケアは包括的患者生活管理である. *日本クリティカルケア看護学会誌* 13 : 33-48, 2017

VI. 1. 31 薬剤部

1. Ikemura M, Hashida T : Effect of Hyperglycemia on Antitumor Activity and Survival in Tumor-bearing Mice Receiving Oxaliplatin and Fluorouracil. *Anticancer Res* 37 : 5463-5468, 2017
2. Nanjo S, Hata A, Okuda C, Kaji R, Okada H, Tamura D, Irie K, Okada H, Fukushima S, Katakami N : Standard-dose osimertinib for refractory leptomeningeal metastases in T790M-positive EGFR-mutant non-small cell lung cancer. *Br J Cancer* 118 : 32-37, 2018
3. Uchida M, Nakamura T, Makihara Y, Suetsugu K, Ikesue H, Mori Y, Kato K, Shiratsuchi M, Hosohata K, Miyamoto T, Akashi K : Comparison of antiemetic effects of granisetron and palonosetron in patients receiving bendamustine-based chemotherapy. *Pharmazie* 73 : 304-308, 2018
4. 楠田かおり, 西岡和子, 池村 舞, 東別府直紀, 西岡弘晶, 橋田 亨 : ペクチン含有濃厚流動食の下痢改善効果に対する胃酸分泌抑制薬の影響. *日本静脈経腸栄養学会雑誌* 32 : 988-991, 2017
5. 池村 舞, 安藤基純, 橋田 亨 : 薬剤師が取り組む臨床研究への支援方法の提案. *薬学教育* 1, 2017

6. 畑中由香子, 三浦理恵子, 永田一真, 奥貞 智, 池末裕明, 藤本大智, 岩本善嵩, 中川 淳, 上野聖子, 三石哲也, 奥新浩晃, 富井啓介, 橋田 亨: フェブキソスタットとアザチオプリンの相互作用による汎血球減少症の1症例. 日本病院薬剤師会雑誌 54: 53-56, 2018
7. 高柳信子, 奥野昌宏, 久保嘉靖, 橋本朗子, 田中康博, 高蓋寿朗, 新里偉咲, 池末裕明, 中田 学: 医師の診察に同席した薬剤師からの処方提案がレナリドミド治療に与える影響. 日本病院薬剤師会雑誌 54: 167-174, 2018
8. 奥貞 智: 患者さんのお薬に対する疑問に答えますお薬Q & A ①インスリン注射. 月刊糖尿病ライフさかえ 58: 23, 2018
9. 森本茂文: 喝! 今期のケモリーグを大予想. がん化学療法おくすり選手名鑑. プロフェッショナルがんナーシング 7: 14-15, 2017
10. 森本茂文: 監督ルーム: 臓器監督が語る、がん種別チーム戦略! がん化学療法おくすり選手名鑑. プロフェッショナルがんナーシング 7: 45-47, 2017
11. 池末裕明: 特殊な臨床背景でのがん薬物療法: PS 不良例. ハイリスク患者のがん薬物療法ハンドブック, 南 博信 監修, 安藤雄一, 寺田智祐 編集, 羊土社, 東京, 296-301, 2017
12. 池末裕明: 浮腫. がん薬物療法副作用管理マニュアル, 吉村知哲, 田村和夫 監修, 医学書院, 東京, 103-109, 2018
13. 池末裕明, 平島正樹: 前立腺がん. 病態を理解して組み立てる. 薬剤師のための疾患別薬物療法 I, 悪性腫瘍, 日本医療薬学会, 医学書院, 東京, 46-59, 2018
14. 池末裕明: 抗悪性腫瘍薬. 薬局増刊号. 病気とくすり 2018, 69: 1438-1452, 2018
15. 鎌田理沙: 調剤. 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 1-7, 2018
16. 油屋 恵: 注射. 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 8-16, 2018
17. 池末裕明: 医薬品情報. 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 17-20, 2018
18. 土肥麻貴子: 薬物療法を理解するための基礎知識. 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 21-26, 2018
19. 安藤基純: スペシャルポピュレーションに対する薬物療法の注意点. 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 27-39, 2018
20. 宗村雅男: 高齢者に対する薬物療法の注意点. 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 40-46, 2018
21. 田村 亮: 病態を理解するための主な検査. 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 47-56, 2018
22. 高瀬友貴: 薬剤管理指導/病棟薬剤業務. 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 70-77, 2018
23. 登佳寿子: HIV. 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 88-93, 2018
24. 楠田かおり: 喘息・慢性閉塞性肺疾患(COPD). 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 98-106, 2018
25. 楠田かおり: 肺結核. 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 106-110, 2018
26. 楠田かおり: 間質性肺炎. 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 110-113, 2018
27. 高瀬友貴: 循環器疾患. 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 114-137, 2018
28. 三浦理恵子: 消化性潰瘍. 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 138-142, 2018
29. 三浦理恵子: クロウン病. 薬剤師レジデントマニュアル第2版, 橋田 亨, 西岡弘晶 編, 医学書院, 東京, 142-148, 2018

30. 三浦理恵子：潰瘍性大腸炎．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，148-154，2018
31. 山本晴菜：肝炎．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，154-160，2018
32. 山本晴菜：肝硬変．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，160-164，2018
33. 山本晴菜：脾炎．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，164-169，2018
34. 大音三枝子：前立腺肥大．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，170-173，2018
35. 土肥麻貴子：慢性腎臓病（CKD）．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，174-178，2018
36. 土肥麻貴子：透析．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，178-186，2018
37. 辰巳智美：糖尿病．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，196-203，2018
38. 大音三枝子：痛風．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，203-208，2018
39. 土肥麻貴子：骨粗鬆症．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，223-227，2018
40. 倉本恵理子：パーキンソン病薬．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，233-238，2018
41. 倉本恵理子：脳血管障害．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，238-246，2018
42. 平野達也：認知症．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，246-250，2018
43. 鎌田理沙：うつ病．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，251-255，2018
44. 鎌田理沙：統合失調症．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，256-260，2018
45. 平野達也：せん妄．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，261-264，2018
46. 宮坂萌菜：白内障．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，278-279，2018
47. 宮坂萌菜：緑内障．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，280-286，2018
48. 中西真也：乳がん．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，294-299，2018
49. 山本晴菜：肝がん．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，309-313，2018
50. 平野達也：悪性リンパ腫（非ホジキンリンパ腫、ホジキンリンパ腫）．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，319-327，2018
51. 平野達也：白血病．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，327-337，2018
52. 平島正樹：免疫チェックポイント阻害薬．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，337-342，2018
53. 薩摩由香里：オピオイド．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，343-353，2018

54. 柴谷直樹：緊急安全性情報，安全性速報．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，354-355，2018
55. 柴谷直樹：重篤副作用疾患別対応マニュアル・疾患リスト．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，356-357，2018
56. 柴谷直樹：腎機能低下時に特に注意が必要な薬剤とその投与量．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，358-381，2018
57. 柴谷直樹：妊婦・授乳婦への薬物投与．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，382-386，2018
58. 橋田 亨：薬剤師レジデント制度の新たな展開に向けて．薬剤師レジデントマニュアル第2版，橋田 亨，西岡弘晶 編，医学書院，東京，387-389，2018

VI. 1. 32 臨床検査技術部

1. 佐々木一朗：術中モニタリング（Intraoperative neurophysiological monitoring：IOM）の先にあるもの～整形外科領域の手術を中心に．臨床神経生理学 45：34-37，2017
2. Nomoto N, Tani T, Konda T, Kim K, Kitani T, Ota M, Kaji S, Imai Y, Okada Y, Furukawa Y：Primary and metastatic cardiac tumors echocardiographic diagnosis, treatment and prognosis in a 15-years single center study. Journal of Cardiothoracic Surgery 103, 2017
3. 山本 剛：微生物検査危機一髪 尿検査で危機一髪．J-IDEO 1：216-220，2017
4. 山本 剛：微生物検査危機一髪 感受性検査危機一髪．J-IDEO 1：530-535，2017
5. 山本 剛：微生物検査危機一髪 結核菌検査危機一髪．J-IDEO 1：678-684，2017
6. 山本 剛：微生物検査危機一髪 その同定結果どこまで信じるのか？ J-IDEO 2：84-89，2018
7. 山本 剛：微生物検査危機一髪 Rejection Criteria その1. J-IDEO 2：180-186，2018
8. 山本 剛：*Staphylococcus aureus* 他，感染症クイックリファレンス．検査と技術 増刊号 46，2017
9. 山本 剛：検査室 Q & A 微生物（感染症）唾液様の喀痰が提出され，Gram 染色をしたところ，中球は見られず扁平上皮が多数認められました．培養検査までするのでしょうか？ 臨床検査 61：476-477，2017
10. 山本 剛：検査室 Q & A 微生物（感染症）Gram 染色法の Hucker 変法と Batholomew & Mittwer 変法は，どこが違うのでしょうか？ 臨床検査 61：478-479，2017
11. 山本 剛：耐性菌サーベイランスの方法と活用のコツ．AMR 対策につながる抗菌薬の使い方実践ガイド，月刊薬事 60，2018

VI. 1. 33 放射線技術部

1. Yamashita M, Takahashi R, Kokubo M, Takayama K, Tanabe H, Sueoka M, Ishii M, Tachibana H：A feasibility study of independent verification of dose calculation for Vero4DRT using a Clarkson-based algorithm. Medical Dosimetry. pii: S0958-3947(17)30142-5. doi: 10.1016/j.meddos.2017.12.007, 2018 Jan 25.
2. 山崎健史，板野正信，石橋 悟，樋口義洋，山下幹子，小浴 恵，小林望美，橘 英伸：セカンダリチェックにおける独立計算検証システムの違いの影響．Jpn. J. Med. Phys 36：197-206，2016
3. 清水裕之，板野正信，山崎健史，高橋 良，上間達也，山下幹子，馬場大海，石橋 悟，樋口義洋，山本鋭二郎，菅原康晴，佐藤 礼，西山史朗，宮岡 聡，河合大輔，橘 英伸：ウェッジ利用時の軸外線量比の独立計算の精度．Jpn. J. Med. Phys 36：188-196，2016
4. Nakai T, Sawada A, Tanabe H, Sueoka M, Taniuchi S, Takayama K, Shiinoki T, Ishihara Y, Kokubo M：Investigation of Well-Balanced kV X-Ray Imaging Conditions between Skin Dose and Image Noise for Dynamic Tumor Tracking Irradiation. International Journal of Medical Physics, Clinical Engineering and Radiation Oncology 6：410-420，2017
5. Kamima T, Baba H, Takahashi R, Yamashita M, Sugawara Y, Kawai D, Yamamoto T, Sato A, Tachibana H：Multi-institutional comparison of computer-based independent dose calculation for intensity modulated radiation therapy and volumetric modulated arc therapy. Physica Medica 45：72-81，2018

VI. 1. 34 リハビリテーション技術部

1. Sasaki K, Kataoka T : Letter to the editor : A simple sarcopenia screening test predicts future adverse events in patients with heart failure. *Int J Cardiol* 256 : 27, 2018
2. Otsuka R, Sasaki R, Tsuiki S, Kojima S, Onishi H : Post-exercise cortical depression following repetitive passive finger movement. *Neuroscience Letters* 656 : 89-83, 2017
3. 浅井康紀, 大庭潤平, 岩田健太郎 : 集中治療室における作業療法士の役割ーギラン・バレー症候群事例を通してー. *神戸学院大学紀要* 13 : 33-39, 2018
4. Morisawa T, Ueno K, Fukuda Y, Kanazawa N, Kawaguchi H, Zaiki R, Fuzisaki H, Yoshioka H, Sasaki M, Iwata K, Koyama T, Kitai T, Furukawa Y, Takahashi T : Significance of sequential cardiac rehabilitation program through inter-hospital cooperation between acute care and rehabilitation hospitals in elderly patients after cardiac surgery in Japan. *Heart vessels* 32 : 1220-1226, 2017

VI. 1. 35 栄養管理部

1. 竹中麻理子, 水 大介 : ICU 患者の栄養療法を読み解く～ Refeeding syndrome ～. *Emergency Care* 30 : 98-100, 2017

VI. 2 西市民病院

VI. 2. 1 糖尿病・内分泌内科

1. Nishihara U, Tanabe N, Nakamura T, Okada Y, Nishida T, Akihara S : A periodontal disease care program for patients with type2 diabetes : A randomized controlled trial. J Gen Fam Med 18 : 249-257, 2017

VI. 2. 2 消化器内科

1. Yokode M, Itai R, Yamashita Y, Zen Y : A case report of mixed acinar-endocrine carcinoma of the pancreas treated with S-1 chemotherapy : Does it work or induce endocrine differentiation? Medicine (Baltimore) 96 : e8534, 2017
2. 三上 栄, 池田英司, 山下幸政 : 【腸管感染症—最新の話題を含めて】鞭虫症. 胃と腸 53 : 485-488, 2018
3. 三上 栄, 山下幸政 : 【内視鏡所見から全身を診る】感染症 赤痢アメーバ感染を疑う大腸病変. 消化器内視鏡 29 : 690-693, 2017
4. 横出正隆, 森永友紀子, 全 陽 : 【膵・胆道癌の早期診断を目指せ!】主膵管発生の上皮内癌 膵上皮内癌の病理と遺伝子異常. 肝・胆・膵 75 : 583-588, 2017
5. 三上 栄, 清水誠治 : 【図説「胃と腸」所見用語集 2017】画像所見 [腸] 大腸憩室 (diverticulosis of the large intestine). 胃と腸 52 : 671, 2017
6. 三上 栄, 清水誠治 : 【図説「胃と腸」所見用語集 2017】画像所見 [腸] 回盲弁開大 (ileoceleal valve incompetence) : 胃と腸 52 : 657, 2017
7. 三上 栄, 清水誠治 : 【図説「胃と腸」所見用語集 2017】画像所見 [腸] 偽膜 (pseudomembrane) : 胃と腸 52 : 637, 2017

VI. 2. 3 呼吸器内科

1. Tomioka H, Yamashita S, Mamesaya N, Kaneko M : Percutaneous endoscopic gastrostomy for aspiration pneumonia : A 10-year single-center experience. Respir Investig 55 : 203-211, 2017
2. 豆鞆伸昭, 富岡洋海, 俣木陽子, 山下修司, 金子正博 : 市中肺炎, 医療・介護関連肺炎における入院時鼻腔 MRSA 培養検査の意義. 日呼会誌 6 : 136-143, 2017
3. 富岡洋海 : 呼吸器疾患 2 慢性に経過する間質性肺炎. Hospitalist 5 : 243-258, 2017
4. 金子正博 : 誤嚥性肺炎の病態と経腸栄養の意義 : 誤嚥性肺炎発症の背景を踏まえた栄養管理. 栄養経営エキスパート 8 : 26-35, 2017
5. 関谷怜奈, 西尾智尋, 富岡洋海, 山下修司 : 急性呼吸不全を呈した抗 OJ 抗体陽性間質性肺炎の 1 例. 日呼会誌 6 : 235-239, 2017
6. Fujimoto Y, Oki Y, Kaneko M, et al : Usefulness of the desaturation-distance-ratio from the six-minute walk test for patients with COPD. International Journal of COPD 12 : 2669-2675, 2017
7. 富岡洋海 : 誤嚥性肺炎をめぐる. 日本口腔感染症学会雑誌 JOID 24 : 3-8, 2017
8. 富岡洋海, 金田俊彦, 金子正博, 勝山栄治, 江石義信 : 特発性肺線維症に合併したと考えられたサルコイドーシスの 1 例. 日サ会誌 37 : 39-45, 2017
9. 富岡洋海 : “ベルクロ” ラ音. Medical Practice 34 : 2075, 2017
10. 富岡洋海 : 結核治療薬. Pocket Drugs 2018, 福井次夫 監修, 小松康宏, 渡邊裕司 編集, 医学書院, 東京, 703-709, 2018
11. 富岡洋海 : 急性・亜急性経過の間質性肺炎に対する MDD 診断 : 臨床医の立場から. 臨床画像 34 : 165-175, 2018
12. 金子正博 : 呼吸器救急診療ブラッシュアップ, II. 呼吸器徴候から見た呼吸器診療, 3. 咳嗽. 呼吸器ジャーナル 66 : 21-32, 2018
13. Tomioka H : Unclassifiable idiopathic interstitial pneumonias: a never-ending story? Respir Investig 56 : 1-2, 2018
14. Yamazoe M, Tomioka H, Yamashita S, Furuta K, Kaneko M : Significance of blood cultures in nursing home-acquired pneumonia. J Infect Chemother 24 : 272-277, 2018
15. 吉積悠子, 金子正博, 富岡洋海 : 靴工場における防水加工剤吸入による肺障害の 1 例. 気管支学 40 : 11-15, 2018

16. 富岡洋海, 坂東政司, 吾妻安良太, 小池和彦:座談会「早期発見・治療をめざす間質性肺炎・肺線維症診療」, Medical Practice 34:524-540, 2017
17. 富岡洋海:ガイドラインレビュー. 日本呼吸器学会 腫瘍学術部会・びまん性肺疾患学術部会 編集, 間質性肺炎合併肺癌に関するステートメント, 南江堂, 東京, 2017

VI. 2. 4 外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科

1. Yao S, Tanaka E, Ikeda A, Murakami T, Okumoto T, Harada T: Outcomes of laparoscopic management of acute small bowel obstruction:a 7-year experience of 110 consecutive cases with various etiologies. Sug Today 47:432-439, 2017
2. 三瀬昌宏, 仁尾万里華, 東出俊一, 米永吉邦, 矢田義弘, 堀田健太, 原田武尚, 阪本 仁, 若宮 誠, 黒澤 学: 抗HER2抗体薬耐性に対するHER2-ECDの意義を考えさせられた転移・再発乳癌の1例. 日本外科系連合学会誌 42:912-922, 2017

VI. 2. 5 整形外科

1. 西口 滋, 榊田崇一郎, 山根逸郎, 藤原弘之, 布施謙三: 病理学的に診断された大腿骨頭軟骨下骨脆弱性骨折の1例. 中部整災誌 60:203-204, 2017
2. 藤原弘之: 足関節周囲脱臼骨折術後感染の治療経験. 日本骨・関節感染症学会雑誌 30:13-16, 2017
3. 榊田崇一郎, 山根逸郎, 西口 滋: 当院における経皮的椎弓根スクリューの刺入精度に関する検討. 中部整災誌 60:483-484, 2017
4. 山根逸郎, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 榊田崇一郎: 整復不能な腰椎骨折の転位が生じたDISHの1例. 中部整災誌 60:411-412, 2017

VI. 2. 6 看護部

1. 嶋澤恭子, 内 正子, 高山良子, 新田和子, 山本和代, 竹橋美由紀, 二宮啓子: JICA グナン研修プロジェクトにおけるベトナム看護職への教育支援の経験: Cultural Competency に着目して. 神戸市看護大学紀要 21:79-86, 2017
2. 新田和子: 循環器疾患患者さんのメンタルケア 循環器ナースのリエゾンチーム活用法. 循環器ナーシング 7:33-40, 2017
3. 中村武寛, 川口麻衣, 赤沢尚美, 前田重一郎: The 連携: Kobe DM net 簡便な共用様式の作成とともに重視することは、多職種の“患者さんの生活”への視点. 地域包括新時代 1:10-13, 2017
4. 大路貴子: 苦手克服! がん化学療法 急性症状に対する予防と対処. エンド・オブ・ライフケア 1:76-81, 2017
5. 吉谷京子: 突撃! リスクマネージャー! テクノス通信 100, 2017

VI. 2. 7 薬剤部

1. 濱 宏仁, 成橋和正, 杉浦伸一, 中西弘和, 橋田 亨: 抗がん薬により意図的に表面汚染させたバイアルの水, 次亜塩素酸ナトリウム及びオゾン水による簡易洗浄法を用いた除染効果の検証. 医療薬学 43:663-670, 2017

VI. 2. 8 リハビリテーション技術部

1. Inoue T, Misu S, Tanaka T, Kakehi T, Ono R: Acute phase nutritional screening tool associated with functional outcomes of hip fracture patients: A longitudinal study to compare MNA-SF, MUST, NRS-2002 and GNRI. Clin Nutr 18:30050-30055, 2018
2. Murata S, Doi T, Sawa R, Saito T, Nakamura R, Isa T, Ebina A, Kondo Y, Tsuboi Y, Misu S, Ono R: Association between joint stiffness and health-related quality of life in community-dwelling older adults. Arch Gerontol Geriatr 73:234-239, 2017
3. Murata S, Sawa R, Nakatsu N, Saito T, Sugimoto T, Nakamura R, Misu S, Ueda Y, Ono R: Association between chronic musculoskeletal pain and executive function in community-dwelling older adults. Eur J Pain 21:1717-1722, 2017

4. Fujimoto Y, Oki Y, Kaneko M, Sakai H, Misu S, Yamaguchi T, Mitani Y, Yasuda H, Ishikawa A : Usefulness of the desaturation-distance ratio from the six-minute walk test for patients with COPD. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 12 : 2669-2675, 2017
5. Misu S, Asai T, Ono R, Sawa R, Tsutsumimoto K, Ando H, Doi T : Development and validity of methods for the estimation of temporal gait parameters from heel-attached inertial sensors in younger and older adults. *Gait Posture* 57 : 295-298, 2017
6. Sawa R, Doi T, Misu S, Saito T, Sugimoto T, Murata S, Asai T, Yamada M, Ono R : The severity and number of musculoskeletal pain associated with gait in community-dwelling elderly individuals. *Gait Posture* 54 : 242-247, 2017

VI. 2. 9 栄養管理室

1. 赤沢尚美, 中村武寛, 川口麻衣 : The 連携 神戸市における糖尿病地域連携. *地域包括新時代* 1 : 10-13, 2017

VI. 3 西神戸医療センター

VI. 3. 1 腎臓内科

1. 鳥越和雄, 武曾恵理: IgA 腎症 update 【腎予後に関連する臨床的指標】 C3, IgA/C3. 腎と透析 82 : 509-514, 2017

VI. 3. 2 消化器内科

1. Inoue T, Itani T, Inomata N, Hara K, Takimoto I, Iseki S, Hamada K, Adachi K, Okuyama S, Shimada Y, Hayashi M, Mimura J : Listeria Monocytogenes Septicemia and Meningitis Caused by Listeria Enteritis Complicating Ulcerative Colitis. Intern Med 56 : 2655-2659, 2017

VI. 3. 3 免疫血液内科

1. 橋本朗子, 高蓋寿朗, 木戸みき, 沖川佳子, 伊藤琢生: ステロイド漸減中に出血を繰り返し tocilizumab 投与後に改善を認めた後天性血友病 A 合併関節リウマチ. 臨床血液 58 : 738-742, 2017
2. Tanaka Y, Tanaka A, Hashimoto A, Hayashi K, Shinzato I : Acute Myeloid Leukemia with Basophilic Differentiation Transformed from Myelodysplastic Syndrome. Case Rep Hematol 2017 : 4695491, 2017
3. Tanaka Y, Tanaka A, Hashimoto A, Shinzato I : Isolated Pituitary Stalk Relapse of Primary Penile Lymphoma. Intern Med 56 : 835-839, 2017
4. 小河孝輔, 清水洋祐, 土橋一成, 木田和貴, 金丸聰淳, 伊藤哲之, 田中康博, 石原美佐, 橋本公夫: 潰瘍性大腸炎の長期治療中に S 状結腸膀胱瘻を契機に発見された S 状結腸原発悪性リンパ腫の一例. 泌尿紀要 63 : 319-322, 2017

VI. 3. 4 精神・神経科

1. 高宮静男: 小児科から心療内科への移行ー精神科指定発言者の立場からー. 心身医学 57 : 1118-1122, 2017
2. 高宮静男, 西園マーハ文, 中里道子: エキスパートコンセンサスによる摂食障害に関する学校と医療のよりよい連携のための対応指針. 摂食障害に関する学校と医療のより良い連携のための対応指針作成委員会 編集, 2017
3. 唐木美喜子, 渡邊久美, 岡田あゆみ, 大波由美恵, 加地啓子, 川添文子, 高宮静男: 養護教諭向け摂食障害パンフレットの評価とセミナーの効果. 子どもの心とからだ 26 : 286-292, 2017

VI. 3. 5 小児科

1. Tasaka K, Matsubara K, Takamiya S, Ishikawa S, Iwata A, Nigami Y : Long-term follow-up for hospitalized children with anorexia nervosa restricting type. Pediatr Int 59 : 482-489, 2017
2. Washio K, Fujii S, Kawasaki Y, Nagai S, Hori M, Matsubara K, Hashimoto K, Masaki T : Langerhans cell histiocytosis with molluscum contagiosum : a correlation? J Dermatol 44 : e136-e137, 2017
3. Matsubara K, Hoshina K, Kondo M, Miyairi I, Yukitake Y, Ito Y, Minami K, Genkawa R : Group B streptococcal disease in infants in the first year of life ; a nationwide surveillance study in Japan, 2011-2015. Infection 45 : 449-458, 2017
4. 川崎 悠, 松原康策, 永井貞之, 仁紙宏之, 山本 剛, 新井まゆ子, 高橋英之, 大西 真, 舟田俊平, 伊地知昭浩, 中村 豊: キノロン耐性、血清型 C 群、遺伝子型 ST-4821 髄膜炎菌による侵襲性感染症 (2017 年 2 月)ー国内初遺伝子型原因菌ー病原微生物検出情報 (IASR) 48 : 83-84, 2017
5. 松原康策: B 群レンサ球菌. 日常診療に役立つ小児感染症マニュアル 2017, 小児感染症学会 編, 東京医学社, 東京, 8-13, 2017
6. 松原康策: 早発型・遅発型 B 群レンサ球菌感染症に必要な細菌検査. 小児臨床検査のポイント, 小児内科増刊号, 東京医学社, 東京, 519-522, 2017
7. 松原康策: 各論 II こんなときどうする 5. 出血症状を鑑別したい. 石黒 精, 加藤元博, 松本公一 編集, はじめて学ぶ小児血液・腫瘍疾患ー To Do & Not To Do で理解するー, 診断と治療社, 東京, 44-53, 2017

8. 内藤昭嘉, 平海良美, 西田吉伸, 大竹 明, 村山 圭, 松原康策: 胎児期に肥大型心筋症、脳室拡大、小脳低形成を指摘され、早期新生児期に死亡したミトコンドリア呼吸鎖異常症の一例. 日本周産期・新生児学会雑誌 53 : 1153-1159, 2017
9. Kato K, Mizumoto H, Matsubara K, Hata A, Wachino J, Arakawa Y, Hata D : Recurrence of Escherichia coli meningitis in a preterm infant and co-infection of echovirus 18. IDCases 10 : 135-137, 2017
10. Iwama K, Iwata A, Shiina M, Mitsuhashi S, Miyatake S, Takata A, Miyake N, Ogata K, Ito S, Mizuguchi T, Matsumoto N : A novel mutation in SLC1A3 causes episodic ataxia. J Hum Genet 63 : 207-211, 2018
11. Sakamoto K, Imamura T, Kihira K, Suzuki K, Ishida H, Morita H, Kanno M, Mori T, Hiramatsu H, Matsubara K, Terui K, Takahashi Y, Suenobu S, Hasegawa D, Kosaka Y, Kato K, Moriya-Saito A, Sato A, Kawasaki H, Yumura-Yagi K, Hara J, Hori H, Horibe K : Low incidence of osteonecrosis in childhood acute lymphoblastic leukemia treated with ALL-97 and ALL-02 study of Japan Association of Childhood Leukemia Study Group. J Clin Oncol 36 : 900-907, 2018
12. 中村 豊, 川崎 悠, 松原康策: 嘔吐・発熱で発症し、急速に意識障害が進行した女児例. 外来小児科 21 : 81-83, 2018

VI. 3. 6 皮膚科

1. Washio K, Ijuin K, Fukunaga A, Nagai H, Nishigori C : Contact anaphylaxis due to basic blue 99 in hair dye. Contact Dermatitis 77 : 122-123, 2017
2. Washio K, Sumi M, Nakata K, Fukunaga A, Yamana K, Koda T, Morioka I, Nishigori C, Yamanishi K : Case of harlequin ichthyosis with a favorable outcome: Early treatment and novel, differentially expressed, alternatively spliced transcripts of the ATP-binding cassette subfamily A member 12 gene. J Dermatol 44 : 950-953, 2017
3. Washio K, Masaki T, Fujii S, Hatakeyama M, Oda Y, Fukunaga A, Natsuaki M : Anaphylaxis caused by a centipede bite: A "true" type-I allergic reaction. Allergol Int, 2018 Mar 5. [Epub ahead of print]
4. 鷺尾 健, 藤井翔太郎, 一角直行, 堀川達弥, 正木太朗: 口唇・口囲の皮膚病 (炎症性) (臨床例) - 4) 造影剤による汎発性水疱性固定薬疹. 皮膚病診療 39 : 1057-1060, 2017
5. 正木太朗: 新・皮膚科セミナーウム 目指せ! 光線過敏症マイスター 病院における光線過敏症患者への対応. 日本皮膚科学会雑誌 127 : 2785-2789, 2017

VI. 3. 7 外科・消化器外科

1. 松浦正徒, 伊丹 淳, 牧野健太, 堀江和正, 姜 貴嗣, 京極高久: Pseudo-Meigs 症候群をきたした S 状結腸癌同時性卵巣転移の一例. 日本臨床外科学会雑誌 78 : 1859-1865, 2017

VI. 3. 8 乳腺外科

1. Tane K, Egawa C, Takao S, Yamagami K, Miyashita M, Baba M, Ichii S, Konishi M, Kikawa Y, Minohata J, Okuno T, Miyauchi K, Wakita K, Suwa H, Hashimoto T, Nishino M, Matsumoto T, Hidaka T, Konishi Y, Sakoda Y, Miya A, Kishimoto M, Nishikawa H, Kono S, Kokufu I, Sakita I, Kitatsuji K, Oh K, Akazawa K, Miyoshi Y : Body mass index and menopausal disorders during menopause affect vasomotor symptoms of postmenopausal Japanese breast cancer patients treated with anastrozole : a prospective multicenter cohort study of patient-reported outcomes. Breast Cancer 24 : 528-534, 2017

VI. 3. 9 呼吸器外科

1. Fujimoto R, Omasa M, Ishikawa H, Aoki M : Surgery of a nocardia lung abscess presenting as a tension pyopneumothorax. Asian Cardiovasc Thorac Ann 25 : 315-317, 2017
2. Yokoyama Y, Sato M, Omasa M, Date H : Three-dimensional imaging for thoracoscopic resection of complex lung anomalies. Surg Case Rep 25 : 106, 2017
3. Yokoi K, Kondo K, Fujimoto K, Hara M, Kadota Y, Kawaguchi K, Kunitoh H, Matsuno Y, Nakajima J, Nishio M, Ogawa K, Omasa M : JLCS medical practice guidelines for thymic tumors : summary of recommendations. Jpn J Clin Oncol 47 : 1119-1122, 2017

4. Takahagi A, Omasa M, Chen-Yoshikawa TF, Hamaji M, Yoshizawa A, Sozu T, Sonobe M, Date H : Anterior mediastinal tissue volume is correlated with antiacetylcholine receptor antibody level in myasthenia gravis. *J Thorac Cardiovasc Surg* 155 : 2738-2744, 2017
5. Hamaji M, Sozu T, Machida R, Omasa M, Menju T, Aoyama A, Sato T, Chen-Yoshikawa TF, Sonobe M, Date H : Second malignancy versus recurrence after complete resection of thymoma. *Asian Cardiovasc Thorac Ann* 26 : 290-295, 2018
6. Nakanishi T, Menju T, Nishikawa S, Takahashi K, Miyata R, Shikuma K, Sowa T, Imamura N, Hamaji M, Motoyama H, Hijiya K, Aoyama A, Sato T, Chen-Yoshikawa TF, Sonobe M, Date H : The synergistic role of ATP-dependent drug efflux pump and focal adhesion signaling pathways in vinorelbine resistance in lung cancer. *Cancer Med* 7 : 408-419, 2018
7. 藤本 遼, 大政 貢, 長田駿一, 中西崇雄 : 有茎筋弁縫着術が有効であった間質性肺炎合併難治性気胸の一例. *日本呼吸器外科学会誌* 31 : 864-867, 2017

VI. 3. 10 脳神経外科

1. Takeda N, Nishihara M, Harada T, Kidoguchi K, Hashimoto K : Supratentorial extraventricular WHO grade III (anaplastic) ependymoma 17 years after total removal of WHO grade II ependymoma of the fourth ventricle. *Br J Neurosurg* 31 : 270-272, 2017
2. Imahori T, Hosoda K, Nakai T, Yamamoto Y, Irino Y, Shinohara M, Sato N, Sasayama T, Tanaka K, Nagashima H, Kohta M, Kohmura E : Combined metabolic and transcriptional profiling identifies pentose phosphate pathway activation by HSP27 phosphorylation during cerebral ischemia. *Neuroscience* 349 : 1-16, 2017
3. Yamamoto D, Hosoda K, Uchihashi Y, Fujita A, Sasayama T, Fujii M, Sugimura K, Kohta M, Kohmura E : Perioperative Changes in Cerebral Perfusion Territories Assessed by Arterial Spin Labeling Magnetic Resonance Imaging Are Associated with Postoperative Increases in Cerebral Blood Flow in Patients with Carotid Stenosis. *World Neurosurg* 102 : 477-486, 2017
4. Nagashima H, Fujita A, Tanaka J, Kohta M, Sasayama T, Tanaka K, Hosoda K, Kohmura E : Magnetic Resonance Spectroscopy Findings in Patients with Dural Arteriovenous Fistulas : Three Case Reports. *World Neurosurg* 104 : 1050.e7-1050.e11, 2017
5. Takeda N, Nishihara M, Yamanishi S, Kidoguchi K, Hashimoto K : Strategy for patients with co-existence of meningioma and intracerebral aneurysm, especially unruptured aneurysm (-seven cases and review of the literature-). *J Clin Neurosci* 45 : 236-242, 2017 doi: 10.1016/j.jocn.2017.07.032.
6. Imahori T, Tanaka K, Arai A, Shiomi R, Fujiwara D, Mori T, Yokote A, Matsushima K, Matsui D, Kobayashi M, Fujita A, Hosoda K, Kohmura E : Mechanical Thrombectomy for Acute Ischemic Stroke Patients Aged 80 Years or Older. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 26 : 2793-2799, 2017
7. Nagashima H, Sasayama T, Tanaka K, Kyotani K, Sato N, Maeyama M, Kohta M, Sakata J, Yamamoto Y, Hosoda K, Itoh T, Sasaki R, Kohmura E : Myo-inositol concentration in MR spectroscopy for differentiating high grade glioma from primary central nervous system lymphoma. *J Neurooncol* 136 : 317-326, 2018
8. Yamamoto H, Fujita A, Imahori T, Sasayama T, Hosoda K, Nibu KI, Kohmura E : Focal hyperintensity in the dorsal brain stem of patients with cerebellopontine angle tumor : A high-resolution 3T MRI study. *Sci Rep* 8 : 881, 2017 doi: 10.1038/s41598-018-19232-1.
9. Kohta M, Fujita A, Tanaka J, Sasayama T, Hosoda K, Kohmura E : Novel Segmentation of Placed Coils in the Treatment of Cavernous Sinus Dural Arteriovenous Fistulas Provides a Reliable Predictor of the Long-Term Outcome in Abducens Nerve Palsy. *World Neurosurg* 8 : 881, 2018 doi: 10.1038/s41598-018-19232-1.
10. 細田弘吉 : くも膜下出血の診断に必要な検査と治療. *臨床検査* 62 : 138-143, 2018
11. 西原賢在, 武田直也 : 脳腫瘍の病態と治療. *理学療法 MOOK21 がんの理学療法*, 三輪書店, 東京, 16-27, 2017

VI. 3. 11 整形外科

1. Shibata KR, Matsuda S, Safran MR : Arthroscopic Hip Surgery in the Elite Athlete comparison of Female and male Elite Athletes. *Am J Sports Med* 45 : 1730-1739, 2017

- 柴田弘太郎 ロバーツ, 大原英嗣: Pincer 病変に対する鏡視下手術. 関節外科 36: 96-103, 2017

VI. 3. 12 形成外科

- 岡本貴子, 小熊 孝: インスリンボールの摘出例. 日形会誌 37: 644-647, 2017
- 村井信幸, 小熊 孝, 西尾祐美, 新保慶輔, 野々村秀明: レーザー治療を行った色素失調症の母娘例. 臨床皮膚 71: 745-750, 2017

VI. 3. 13 産婦人科

- 山下暢子, 近田恵里, 竹内康人, 橋本公夫, 登村信之, 奥杉ひとみ, 川北かおり, 佐原裕美子: 播種性骨髄癌腫を呈した子宮体癌の一例. 産婦人科の進歩 69: 13-20, 2017
- 勝部美咲, 佐原裕美子, 橋本公夫, 村上暢子, 登村信之, 近田恵里, 川北かおり, 竹内康人: 子宮筋腫術後に転移再発を繰り返す平滑筋腫瘍の一例. 産婦人科の進歩 69: 378-385, 2017

VI. 3. 14 泌尿器科

- 小河孝輔, 清水洋祐, 土橋一成, 木田和貴, 金丸聰淳, 田中康博, 石原美佐, 橋本公夫, 伊藤哲之: 潰瘍性大腸炎の長期治療中に S 状結腸膀胱瘻を契機に発見された S 状結腸原発悪性リンパ腫の一例. 泌尿器科紀要 63: 319-322, 2017
- 土橋一成, 牧野雄樹, 江村正博, 木田和貴, 清水洋祐, 金丸聰淳, 井口 亮, 野口哲哉, 佐々木美晴, 伊藤哲之: 高齢女性における膀胱炎による膀胱タンポナーデの増加とその背景因子に関する検討. 泌尿器科紀要 63: 363-369, 2017
- 伊藤哲之: 腎尿管全摘術 (リンパ節廓清術を含む). Urologic Surgery Next1 腹腔鏡手術, 荒井陽一, 高橋 悟, 山本新吾, 土谷順彦 編集, メジカルビュー社, 東京, 90-98, 2018
- 小河孝輔, 清水洋祐, 土橋一成, 木田和貴, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 女性の神経因性膀胱患者における尿道カテーテルの尿管内迷入の一例. 泌尿器科紀要 64: 123-126, 2018

VI. 3. 15 眼科

- 黒田佳陽, 吉田章子, 三河章子: トラバクレクトミー既往眼にトラバクトームを施行した 2 例. 臨床眼科 71: 939-946, 2017

VI. 3. 16 耳鼻いんこう科

- 白井裕美子, 土師知行, 末廣 篤, 前川圭子, 雲井一夫: 強直性脊椎炎を基礎疾患とする竹節状声帯例. 音声言語医学 58: 346-349, 2017
- 甲藤麻衣, 雲井一夫: 舌生検で診断し得たヒストプラズマ症. 日本耳鼻咽喉科学会会報 121: 44-49, 2018

VI. 3. 17 歯科口腔外科

- 長野紀也: 内科での投薬と歯科治療 3. ステロイド薬. 高齢者歯科治療—歯科医療につながる医学知識—, 小谷順一郎, 砂田勝久 編, 第 2 版, 永末書店, 京都, 172-173, 2017

VI. 3. 18 病理診断科

- 小河孝輔, 清水洋祐, 土橋一成, 木田和貴, 金丸聰淳, 田中康博, 石原美佐, 橋本公夫, 伊藤哲之: 潰瘍性大腸炎の長期治療中に S 状結腸膀胱瘻を契機に発見された S 状結腸原発悪性リンパ腫の一例. 泌尿器科紀要 63: 319-322, 2017
- 勝部美咲, 佐原裕美子, 橋本公夫, 村上暢子, 登村信之, 近田恵里, 川北かおり, 竹内康人: 子宮筋腫術後に転移再発を繰り返す平滑筋腫瘍の一例. 産婦人科の進歩 69: 378-385, 2017
- Takeda N, Nishihara M, Yamanishi S, Kidoguchi K, Hashimoto K: Strategy for patients with co-existence of meningioma and intracerebral aneurysm, especially unruptured aneurysm (-seven cases and review of the literature-). J Clin Neurosci 45: 236-242, 2017

4. Wada Y, Nishimura Y, Ishihara M, Hashimoto K, Takenouchi N, Yamamoto T : Acute myelitis resembling human T-lymphotropic virus type 1-associated myelopathy presenting as high-signal-intensity long cord lesions on T2-weighted magnetic resonance images combined with lymphoma-type adult T-cell leukemia/lymphoma. J Neurol Sci 15 : 450-452, 2017
5. 奥野敏隆, 吉田真也, 石原美佐, 橋本公夫, 京極高久 : 嚢胞内腫瘍を呈した乳腺葉状腫瘍の一例. 神戸市立病院紀要 55 : 15-19, 2017

VI. 3. 19 薬剤部

1. 高柳信子, 奥野昌宏, 久保嘉靖, 橋本朗子, 田中康博, 高蓋寿朗, 新里偉咲, 池末裕明, 中田 学 : 医師の診察に同席した薬剤師からの処方提案がレナリドミド治療に与える影響. 日本病院薬剤師会雑誌 54 : 167-174, 2018
2. 久保嘉靖 : 周術期の抗凝固薬等の中止基準の作成について. 兵庫県病院薬剤師会会報 (医薬品情報活動), 153, 2018

VI. 3. 20 臨床検査技術部

1. 池町真実, 山本 剛 : 肺炎球菌尿中抗原・レジオネラ尿中抗原. ICTのためのまるっと感染症レクチャー, INFECTION CONTROL, 矢野晴美 編集, メディカ出版, 大阪, 154-156, 2018
2. 川井順一 : 弁膜疾患. 循環器超音波検査士への最短コース, 中谷 敏 監修, 仲宗根出 編集, 文光堂, 東京, 1-46, 2017
3. 川井順一 : 心筋症計測のために測るべき指標と注意点. 心エコー 19 : 354-368, 2018

VI. 3. 21 リハビリテーション技術部

1. Inoue T, Misu S, Tanaka T, Kakehi T, Ono R : Acute phase nutritional screening tool associated with functional outcomes of hip fracture patients : A longitudinal study to compare MNA-SF, MUST, NRS-2002 and GNRI. Clinical Nutrition.in press, 2018
2. 白井裕美子, 土師知行, 末廣 篤, 前川圭子, 雲井一夫 : 強直性脊椎炎を基礎疾患とする竹節状声帯例. 音声言語医学 58 : 346-349, 2017

VI. 3. 22 臨床工学室

1. 藤井清孝 : 医療機器の安全使用に必要な情報の収集. Clinical Engineering 28 : 482-487, 2017
2. 岸本和昌 : 当院の手術室における CHE の役割. 病院設備 59 : 70, 2017

VI. 4 神戸アイセンター病院

VI. 4. 1 診療部

1. Miyamoto N, Ishida K, Kurimoto Y : Restoration of photoreceptor outer segments up to 24 months after pars plana vitrectomy in patients with diabetic macular edema. *Ophthalmology Retina* 124 : 1432-1436, 2017
2. Mori Y, Murakami T, Suzuma K, Ishihara K, Yoshitake S, Fujimoto M, Dodo Y, Yoshitake T, Miwa Y, Tsujikawa A : Relation between macular morphology and treatment frequency during twelve months with ranibizumab for diabetic macular edema. *PLoS One* 12 : e0175809, 2017
3. Miyamoto N, Mandai M, Kojima H, Kameda T, Shimozono M, Nishida A, Kurimoto Y : Response of eyes with age-related macular degeneration to anti-VEGF drugs and implications for therapy planning. *Clin Ophthalmol* 11 : 809-816, 2017
4. Takagi S, Mandai M, Miyamoto N, Nishida A, Hiram Y, Uyama H, Yamamoto M, Takahashi M, Tomita G, Kurimoto Y : Incidence of outer retinal tubulation in eyes with choroidal neovascularization under intravitreal anti-vascular endothelial growth factor therapy in a Japanese population. *Clin Ophthalmol* 11 : 1219-1225, 2017
5. Dodo Y, Suzuma K, Ishihara K, Yoshitake S, Fujimoto M, Yoshitake T, Miwa Y, Murakami T : Clinical relevance of reduced decorrelation signals in the diabetic inner choroid on optical coherence tomography angiography. *Scientific Reports* 7 : 5227, 2017
6. Mandai M, Kurimoto Y, Takahashi M : Autologous induced stem-cell-derived retinal cells for macular degeneration. *N Engl J Med* 376 : 1038-1046, 2017
7. Kawashima-Kumagai K, Yamashiro K, Yoshikawa M, Miyake M, Ming GCC, Fan Q, Koh JY, Saito M, Sugahara-Kuroda M, Oishi M, Akagi-Kurashige Y, Nakata I, Nakanishi H, Gotoh N, Oishi A, Tamura H, Ooto S, Tsujikawa A, Kurimoto Y, Sekiryu T, Matsuda F, Khor CC, Cheng CY, Wong TY, Yoshimura N : A genome-wide association study identified a novel genetic loci STON1-GTF2A1L/LHCGR/FSHR for bilaterality of neovascular age-related macular degeneration. *Scientific Reports* 7 : 7173, 2017
8. Motozawa N, Nakamura T, Takagi S, Fujihara M, Hiram Y, Ishida K, Sotozono C, Kurimoto Y : Unique circumferential peripheral keratitis in relapsing polychondritis : A case report. *Medicine (Baltimore)* 96 : e7951, 2017
9. Mandai M, Fujii M, Hashiguchi T, Sunagawa GA, Ito SI, Sun J, Kaneko J, Sho J, Yamada C, Takahashi M : iPSC-Derived Retina Transplants Improve Vision in rd1 End-Stage Retinal-Degeneration Mice. *Stem Cell Reports* 8 : 1112-1113, 2017
10. Ito SI, Onishi A, Takahashi M : Chemically-induced photoreceptor degeneration and protection in mouse iPSC-derived three-dimensional retinal organoids. *Stem Cell Reports* 24 : 94-101, 2017
11. Dodo Y, Murakami T, Suzuma K, Yoshitake S, Yoshitake T, Ishihara K, Fujimoto M, Miwa Y, Tsujikawa A : Diabetic Neuroglial Changes in the Superficial and Deep Nonperfused Areas on Optical Coherence Tomography Angiography. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 58 : 5870-5879, 2017
12. Ueda K, Onishi A, Ito SI, Nakamura M, Takahashi M : Generation of three-dimensional retinal organoids expressing rhodopsin and S- and M-cone opsins from mouse stem cells. *Biochem Biophys Res Commun* 495 : 2595-2601, 2018
13. Takagi S, Hiram Y, Takahashi M, Yamamoto S, Goto S, Yamamoto M, Fujihara M, Tomita G, Kurimoto Y : Use of wide-field fundus camera, fundus autofluorescence, and OCT in cases of pigmented paravenous retinochoroidal atrophy. *Ophthalmology Retina* 2 : 79-81, 2018
14. Uji A, Murakami T, Suzuma K, Yoshitake S, Arichika S, Ghashut R, Fujimoto M, Yoshimura N : Influence of vitrectomy surgery on the integrity of outer retinal layers in diabetic macular edema. *Retina* 38 : 163-172, 2018
15. Matsuzaki M, Hiram Y, Uyama H, Kurimoto Y : Optical coherence tomography angiography changes in radial peripapillary capillaries in Leber hereditary optic neuropathy. *Am J of Ophthalmol Case Reports* 9 : 51-55, 2018
16. Takagi S, Hiram Y, Takahashi M, Fujihara M, Mandai M, Miyakoshi C, Tomita G, Kurimoto Y : Optical coherence tomography angiography in patients with retinitis pigmentosa who have normal visual acuity. *Acta Ophthalmol* 96 : e59-e67, 2018

17. Nakanishi H, Suda K, Yoshikawa M, Akagi T, Kameda T, Ikeda HO, Yokota S, Kurimoto Y, Tsujikawa A : Association of Bruch's membrane opening and optic disc morphology to axial length and visual field defects in eyes with primary open-angle glaucoma. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 256 : 599-610, 2018
18. Kitahata S, Hirami Y, Takagi S, Kime C, Fujihara M, Kurimoto Y, Takahashi M : Efficacy of additional topical betamethasone in persistent cystoid macular oedema after carbonic anhydrase inhibitor treatments in retinitis pigmentosa. *BMJ Open Opth* 3 : e000107, 2018
19. 栗本康夫：再生医療と視能訓練. 視能学エキスパート 視能訓練学, 公益社団法人日本視能訓練士協会 監修, 若山暁美, 長谷部佳世子, 松本富美子, 保沢こずえ, 梅田千賀子 編, 第1版, 医学書院, 東京, 405-409, 2018
20. 栗本康夫：眼科領域における再生医療の現況と将来展望. *公衆衛生* 81 : 397-402, 2017
21. 平見恭彦：網膜の再生医療－最近の動向. *臨床眼科* 71 : 1303-1308, 2017
22. 高木誠二, 万代道子, 宮本紀子, 西田明弘, 宇山紘史, 平見恭彦, 山本 翠, 高橋政代, 富田剛司, 栗本康夫：抗 VEGF 治療中の加齢黄斑変性において矯正視力が不良となる症例の特徴と背景. *眼科臨床紀要* 10 : 749-754, 2017
23. 栗本康夫：加齢黄斑変性に対する iPS 細胞治療の臨床研究. *週刊医学のあゆみ ポドサイト障害－腎障害における新たな視点* 263 : 187-188, 2017
24. 広瀬文隆：閉塞隅角のメカニズム. *眼科* 60 : 205-211, 2018
25. 栗本康夫：Clear lens extraction の有用性と安全性. *眼科* 60 : 219-224, 2018
26. 高木誠二：網膜色素変性症 注意点は, *朝日新聞 生活 (どうしました)*, 33, 2018
27. 栗本康夫：iPS 細胞が切り拓く網膜の再生医療. *蒲田医師会雑誌星音* 96 : 63-64, 2018

※中央市民病院発表分を含む

VII. 学 会 報 告

Ⅶ. 学 会 報 告

Ⅶ. 1 中央市民病院

Ⅶ. 1. 1 循環器内科

1. 安積佑太：第一印象と異なる臨床経過を辿った心不全の1例. 第18回BACCHUS, 大阪, 2017.4.8
2. 谷 知子, 石橋健太, 紺田利子, 藤井洋子, 川井順一, 角田敏明, 菅沼直生子, 野本奈津美, 野村菜美子, 大畑淳子, 堀 香菜, 太田光彦, 金 基泰, 加地修一郎, 古川 裕：肥大型心筋症例における予後因子としての発作性心房細動と左房機能について. 日本心エコー図学会第28回学術集会, 名古屋, 2017.4.21-23
3. 太田光彦：3次元心エコー法による大動脈基部・弁輪評価. 日本心エコー図学会第28回学術集会, シンポジウム2・新技術を日常の心機能評価に活かす, 名古屋, 2017.4.21-23
4. 谷 知子, 三羽えり子, 岡田行功, 古川 裕：A rare cardiac tumor: Bronchogenic cyst of interatrial septum. 日本心エコー図学会第28回学術集会, 名古屋, 2017.4.21-23
5. 石津賢一, 太田光彦, 松本 讓, 石橋健太, 中嶋正貴, 堀 香菜, 大畑淳子, 野村菜美子, 野本奈津美, 菅沼直生子, 紺田利子, 角田敏明, 小堀敦志, 谷 知子, 古川 裕：一心周期内における大動脈基部の形態的变化の検討～3次元経食道心エコー図を用いて～. 日本心エコー図学会第28回学術集会, 名古屋, 2017.4.21-23
6. 加地修一郎, 古川 裕：感染性心内膜炎の診断における Multi-detector computed tomography 検査の役割. 日本心エコー図学会第28回学術集会, シンポジウム10 感染性心内膜炎の診断を総合的に考える, 名古屋, 2017.4.21-23
7. 堀 香菜, 太田光彦, 野村菜美子, 大畑淳子, 野本奈津美, 菅沼直生子, 紺田利子, 藤井洋子, 角田敏明, 谷 知子, 古川 裕, 小山忠明：大動脈弁置換術前後における左室流出路の形態変化：3次元経食道心エコー図を用いた検討. 日本心エコー図学会第28回学術集会, 名古屋, 2017.4.21-23
8. 江原夏彦：経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI）の現状と今後の展望. TCIF2017, 大阪, 2017.4.21-22
9. 佐々木康博, 松本 讓, 安積佑太, 堀田 怜, 古川 裕：PTAV 後、Proglide® により穿刺部位の動脈閉塞をきたした1例. 第34回小倉ライブ, 北九州, 2017.5.12-13
10. 石津賢一, 江原夏彦, 加地修一郎, 木下 慎, 小堀敦志, 山根崇史, 金 基泰, 太田光彦, 佐々木康博, 松本 讓, 安積佑太, 堀田 怜, 古川 裕：NSTEMI に対する PCI 時にステント脱落をきたし、その後の回収に難渋した1例. 第34回小倉ライブ, 北九州, 2017.5.12-13
11. 大塚脩斗, 坂本裕規, 佐々木康介, 下雅意崇亨, 山根崇史, 古川 裕, 小山忠明, 岩田健太郎：心臓弁膜症に対する待機的手術患者における術前のサルコペニア有症率. 第52回日本理学療法学会大会, 東京, 2017.5.12-14
12. 山根崇史：心臓穿刺後に発症したショックの鑑別. 第6回大阪右心の会, 大阪, 2017.5.12
13. 江原夏彦：TAVI Up Date. 神戸循環器疾患治療セミナー, 神戸, 2017.5.20
14. 佐々木康博：アブレーションと抗凝固療法. Meet The Expert in Kobe, 神戸, 2017.5.20
15. 江原夏彦：脂質低下療法の Up To Date ～ PCSK9 阻害剤の可能性～. K-PCI カンファレンス, 大阪, 2017.5.25
16. 金 基泰：潜在性脳梗塞における植込み型心電図記録計の有用性について. 血栓症 Up-to-date Meeting, 神戸, 2017.5.25
17. 太田光彦, 堀 香菜, 角田敏明, 紺田利子, 金 基泰, 北井 豪, 加地修一郎, 谷 知子, 古川 裕：大動脈弁置換術前後における左室流出路形態変化－3次元経食道心エコー図を用いた検討. 日本超音波医学会第90回学術集会, 宇都宮, 2017.5.26-28
18. 石津賢一, 太田光彦, 野本奈津美, 野村菜美子, 紺田利子, 小堀敦志, 北井 豪, 加地修一郎, 谷 知子, 古川 裕：心周期内における大動脈基部構造の形態変化3次元経食道心エコー法による検討. 日本超音波医学会第90回学術集会, 宇都宮, 2017.5.26-28
19. 谷 知子, 大畑淳子, 紺田利子, 藤井洋子, 角田敏明, 菅沼直生子, 太田光彦, 金 基泰, 加地修一郎, 古川 裕：重症大動脈弁狭窄症患者における予後と左房機能について－経胸壁心エコー図による. 日本超音波医学会第90回学術集会, 宇都宮, 2017.5.26-28

20. 菅沼直生子, 太田光彦, 紺田利子, 藤井洋子, 野本奈津美, 野村菜美子, 大畑淳子, 堀 香, 山本 駿, 城本千裕, 長野真弥, 角田敏明, 西矢健太, 長澤 淳, 谷 知子, 小山忠明, 古川 裕: 開心術後に急速拡大した心尖部 echo free space を偶発的に捉え診断に至った 1 例. 第 85 回神戸臨床心エコーズ研究会, 神戸, 2017.6.10
21. 山根崇史: 急性期病院における心不全診療の現状と課題. 心不全診療と連携を考える会, 神戸, 2017.6.15
22. Sasaki Y, Kobori A: Learning curve of balloon catheterbased pulmonary vein isolation for atrial fibrillation in the early experience period, HOT vs CRYO. EHRA EUROPACE - CARDIOSTIM 2017, Vienna, Austria, 2017.6.18-21
23. Sasaki Y, Kobori A: Pulmonary vein isolation using the Hotballoon for atrial fibrillation treatment: single center early experience. EHRA EUROPACE - CARDIOSTIM 2017, Vienna, Austria, 2017.6.18-21
24. Matsumoto Y, Kobori A, Sasaki Y, Murai R, Ota M, Kim K, Yamane Y, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Impact of the properties of ablation catheters on ATPguided pulmonary vein isolation. EHRA EUROPACE - CARDIOSTIM 2017, Vienna, Austria, 2017.6.18-21
25. 安積佑太: PCSK9 阻害薬により LDL アフェレーシスを離脱できた家族性高脂血症の 1 例. KOBE Total Vascular Management Conference, 神戸, 2017.6.21
26. 堀田 怜: 経カテーテル的大動脈弁留置術 (TAVI) 施行 1 年半後に労作時呼吸苦にて発症した血栓弁の 1 例. 第 123 回日本循環器学会近畿地方会, 大阪, 2017.6.24
27. 城田祥吾: 生前診断し得た卵巣癌による pulmonary tumor thrombotic microangiopathy の 1 例. 第 123 回日本循環器学会近畿地方会, 大阪, 2017.6.24
28. 堀田 怜, 山根崇史: 左冠動脈主幹部の急性心筋梗塞に対して ECPR を施行し、経過中に脳梗塞を発症するも良好な経過を辿った 1 例. 循環器脳卒中合同オープンカンファレンス, 神戸, 2017.7.5
29. 佐々木康博, 小堀敦志, 松本 讓, 古川 裕: ホットバルーンでの肺静脈隔離におけるリアルタイムの電位モニタリングの重要性についての検討. カテーテルアブレーション関連大会 2017, 札幌, 2017.7.6-8
30. 松本 讓, 小堀敦志, 佐々木康博, 安積佑太, 堀田 怜, 石津賢一, 太田光彦, 金 基泰, 山根崇史, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕: 発作性・持続性心房細動に対するクライオバルーンアブレーションの治療効果. カテーテルアブレーション関連大会 2017, 札幌, 2017.7.6-8
31. 小堀敦志: 高齢化社会における心房細動治療. DOAC MEETING, 静岡, 2017.7.13
32. 島田和典, 代田浩之, 福間長知, 朔啓二郎, 長山雅俊, 横山美帆, 安達 仁, 及川恵子, 上月正博, 坂田泰彦, 下川宏明, 折口秀樹, 井澤英夫, 池亀俊美, 甲斐久史, 古川 裕, 西崎真里, 藤本幹雄, 東條美奈子, 湊口信也, 百村伸一, 後藤葉一: 循環器疾患におけるレジストリー研究の展開と心リハ学会レジストリー登録中間報告. 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16
33. 下雅意崇亨, 岩田健太郎, 西原浩真, 南本陽菜, 山根崇史, 古川 裕: 難渋症例に対する理学療法介入とチームアプローチ. 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16
34. 吉岡晴香, 上野勝弘, 金澤直人, 川口広志, 藤崎宏明, 材木力斗, 福田優子, 佐々木真希, 小澤修一, 古出隆士, 岩田健太郎, 北井 豪, 森沢知之, 高橋哲也: 急性期病院と回復期リハビリテーション病院の医療連携による効果検証. 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16
35. 水谷和郎, 民田浩一, 高橋恭子, 山根光量, 大石醒悟, 辻井由紀, 熊尾良子, 山根崇史, 松石邦隆, 仲村直子, 竹原 歩, 庵地雄太, 安斉俊久, 安井博規, 伊藤弘人: 循環器領域におけるメンタルケアをどう展開するかー兵庫サイコカーディオロジー研究会地域連携会議の模索ー. 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16
36. 大竹康平, 下雅意崇亨, 南本陽菜, 吉田晃久, 岩田健太郎, 仲村直子, 藤本和美, 高橋真弓子, 山根崇史, 古川 裕: ファロー四徴症のために生じた長年の活動制限に伴う身体機能の低下が外来心リハを契機に改善を認めた 1 症例. 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16
37. 藤本和美, 高橋真弓子, 仲村直子, 村井亮介, 山根崇史, 古川 裕: 外来心リハにおける活動量計を用いた患者教育の効果 看護師が行う生活活動の調整とは. 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16
38. 南本陽菜, 下雅意崇亨, 大竹康平, 吉田晃久, 岩田健太郎, 仲村直子, 藤本和美, 高橋真弓子, 山根崇史, 古川 裕: 長期外来心リハにより活動量の改善に繋がった超高齢 TAVI 施行患者の 1 例. 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16

39. 吉田晃久, 岩田健太郎, 下雅意崇亨, 南本陽菜, 大竹康平, 仲村直子, 高橋真弓子, 藤本和美, 山根崇史, 古川 裕: 冠動脈バイパス/左室形成術後患者の抑うつ症状に対し多職種による包括的ケアを行い職業復帰に至った症例. 第23回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16
40. 原田惇平, 岩田健太郎, 下雅意崇亨, 佐々木康介, 南本陽菜, 村井亮介, 山根崇史, 古川 裕: 心不全入院患者における骨格筋量と握力低下の頻度: 左室駆出率の低下の有無による比較. 第23回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16
41. 太田光彦: 狭小大動脈弁基部と腹部大動脈狭窄を合併した高度大動脈弁狭窄症に対して経大腿動脈アプローチで23mm自己拡張型人工弁を留置した1例. 第8回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会・JTVT2017, 東京, 2017.7.16
42. 古川 裕: 超高齢社会における心房細動・心不全診療. 時習会, 赤穂, 2017.7.19
43. 小堀敦志: 心房細動アブレーション周術期の抗凝固療法. 第2回Expert Meeting for Safe Catheter Ablation, 東京, 2017.7.22
44. 佐々木康博: 左側副伝導路アブレーション中に心タンポナーデとなり開胸修復術を要した1例. 第2回Expert Meeting for Safe Catheter Ablation, 東京, 2017.7.22
45. 古川 裕: 高齢者心不全・心房細動診療の問題点. Caerdiology Conference ~高齢者の循環器疾患を考える~, 神戸, 2017.7.26
46. 江原夏彦: 高齢者に対する TAVI の有用性. Caerdiology Conference ~高齢者の循環器疾患を考える~, 神戸, 2017.7.26
47. 安積佑太, 山根崇史, 加地修一郎, 河野裕之, 辻坂勇太, 堀田 怜, 松本 譲, 石津賢一, 佐々木康博, 太田光彦, 金 基泰, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕: 複数回のカテーテル治療を試みるも短期間でステント内狭窄を繰り返した1例. 第44回バリエリアハートカンファレンス, 大阪, 2017.7.29
48. 小堀敦志: Touch up device としての意義. 第1回ホットバルーン研究会学術集会, 東京, 2017.9.2
49. Kobori A: Chemical Ablation for Atrial Fibrillation: Japanese Experience. 第64回日本不整脈心電学会学術大会/APHRS2017, 横浜, 2017.9.14-17
50. Tanaka N, Inoue K, Shizuta S, Kobori A, Kaitani K, Kurotobi T, Morishima I, Satomi K, Yamaji H, Nakazawa Y, Kusano K, Tanaka K, Hirao Y, Oka T, Okada M, Inoue H, Nakamaru R: Gender Differences in the Arrhythmia Recurrence Rates during and after the Blanking Period following Atrial Fibrillation Ablation: Insights from the Kansai Plus Atrial Fibrillation Registry. 第64回日本不整脈心電学会学術大会/APHRS2017, 横浜, 2017.9.14-17
51. Nagayama T, Noda T, Miyamoto K, Kamakura T, Wada M, Ishibashi K, Nagase S, Aiba T, Shizuta S, Kobori A, Inoue K, Kaitani K, Kurotobi T, Morishima I, Satomi K, Yamaji H, Kimura T, Kusano K: Underweight is a Risk Factor for Recurrence after Ablation for Paroxysmal Atrial Fibrillation in Japan: From the Kansai Plus Atrial Fibrillation (KPAF) Registry. 第64回日本不整脈心電学会学術大会/APHRS2017, 横浜, 2017.9.14-17
52. Kaitani K, Kobori A, Inoue K, Kurotobi T, Morishima I, Satomi K, Yamaji H, Nakazawa Y, K F.Kusano, Shizuta S: The Efficacy of Anti-Arrhythmic Drugs Following Catheter Ablation for Non-Paroxysmal Atrial Fibrillation; Sub-Analysis of East-AF Trial. 第64回日本不整脈心電学会学術大会/APHRS2017, 横浜, 2017.9.14-17
53. Matsumoto Y, Kobori A, Sasaki Y, Azumi Y, Horita R, Ishizu K, Ota M, Kim K, Yamane T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Effectiveness of Cryoballoon versus Contact Force Sensing Catheter Ablation for Persistent Atrial Fibrillation: Propensity Score Matched Analysis. 第64回日本不整脈心電学会学術大会/APHRS2017, 横浜, 2017.9.14-17
54. Morishima I, Morita Y, Kanzaki Y, Ikai Y, Kaitani K, Kobori A, Inoue K, Kurotobi T, Satomi K, Yamaji H, Nakazawa Y, K F.Kusano, Kimura T, Tsuboi H, Takagi K, Yoshida R, Shizuta S: Comparison of Radiofrequency Catheter Ablation for Paroxysmal Atrial Fibrillation between Patients with and without Sick Sinus Syndrome: Insights from Kansai Plus Atrial Fibrillation (KPAF) Registry. 第64回日本不整脈心電学会学術大会/APHRS2017, 横浜, 2017.9.14-17
55. Fujii E, Fujita S, Kagawa Y, Ito M, Kobori A, Inoue K, Kaitani K, Kurotobi T, Morishima I, Satomi K, Yamaji H, Nakazawa Y, K F.Kusano, Kimura T, Shizuta S: Left Atrial Reverse-Remodeling is a Predictor of Catheter Ablation Success in Persistent Atrial Fibrillation: Subanalysis of the KPAF Registry. 第64回日本不整脈心電学会学術大会/APHRS2017, 横浜, 2017.9.14-17

56. Sasaki Y, Kobori A, Matsumoto Y, Furukawa Y : Usefulness of Real-Time Electrophysiological Monitoring for the Novel Pulmonary Vein Isolation Device : Hot-Balloon. 第 64 回日本不整脈心電学会学術大会 / APHRS2017, 横浜, 2017.9.14-17
57. Kobori A, Sasaki Y, Horita R, Azumi Y, Matsumoto Y, Ishizu K, Murai R, Ota M, Kim K, Yamane T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y : Contact Force Measurement of Hotballoon. 第 64 回日本不整脈心電学会学術大会 / APHRS2017, 横浜, 2017.9.14-17
58. Sasaki Y, Kobori A, Matsumoto Y, Furukawa Y : Knowledge from Electrical Potential Guide Pulmonary Vein Isolation Using the Hot-Balloon for Atrial Fibrillation Treatment : Single Center Early Experience. 第 64 回日本不整脈心電学会学術大会 / APHRS2017, 横浜, 2017.9.14-17
59. Hyogo K, Fukuzawa K, Kiuchi K, Hirata K, Kobori A, Yoshida A, Shimizu H, Takeuchi M, Odake M, Okada T : The Report of Initial Analysis of HYOGO ATRIAL FIBRILLATION NETWORK (HAF-NET). 第 64 回日本不整脈心電学会学術大会 / APHRS2017, 横浜, 2017.9.14-17
60. 田中雄己, 小堀敦志, 佐々木康博, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 中村悟士, 相原雅士, 森本純平, 坂地一朗, 古川 裕 : 焼灼 gap 同定困難例に対し Auto mapping を用いた gap mapping が有効であった 1 例. 第 64 回日本不整脈心電学会学術集会 / APHRS2017, 横浜, 2017.9.14-17
61. 中村悟士, 小堀敦志, 佐々木康博, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 相原雅士, 森本純平, 坂地一朗, 古川 裕 : ホットバルーンアブレーションにおける電気ノイズ対策. 第 64 回日本不整脈心電学会学術大会 / APHRS2017, 横浜, 2017.9.14-17
62. 中農陽介, 小堀敦志, 佐々木康博, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中村悟士, 相原雅士, 森本純平, 坂地一朗, 古川 裕 : CARTO 3 システムにおける自動マッピング機能の有用性について. 第 64 回日本不整脈心電学会学術大会 / APHRS2017, 横浜, 2017.9.14-17
63. 江原夏彦 : 高齢者大動脈弁狭窄症の最新の治療. 淡路一神戸循環器カンファレンス, 淡路, 2017.9.14
64. 古川 裕 : 超高齢社会における心不全・心房細動診療. 慢性心不全を考える会, 京都, 2017.9.16
65. 古川 裕 : 超高齢社会における心房細動の抗血栓治療. 第 2 回心・血管病セミナー, 豊中, 2017.9.21
66. 金 基泰, 江原夏彦, 辻坂勇太, 河野裕之, 安積佑太, 堀田 怜, 石津賢一, 松本 讓, 佐々木康博, 太田光彦, 北井 豪, 山根崇史, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕 : 冠静脈洞へのガイディングカテーテル挿入が困難で左室リード留置に難渋した症例. 第 26 回心不全とペーシング研究会, 神戸, 2017.9.22
67. 堀田 怜, 太田光彦, 金 基泰, 北井 豪, 加地修一郎, 谷 知子, 小山忠明, 古川 裕, 紺田利子, 角田敏明 : 右室内毛髪と巨大疣腫を伴った三尖弁位感染性心内膜炎の 1 例. 日本超音波医学会第 44 回関西地方会学術集会, 大阪, 2017.9.23
68. 松本 讓, 太田光彦, 金 基泰, 北井 豪, 加地修一郎, 吉田一史, 堀 香菜, 谷 知子, 小山忠明, 古川裕 : 経食道心エコー図にて成因を診断し得た外傷性大動脈弁閉鎖不全症の 1 例. 日本超音波医学会第 44 回関西地方会学術集会, 大阪, 2017.9.23
69. 松本 讓, 太田光彦, 金 基泰, 北井 豪, 加地修一郎, 堀 香菜, 谷 知子, 小山忠明, 古川 裕 : 左房内ポケットを認めた高度僧帽弁逆流の 1 例. 日本超音波医学会第 44 回関西地方会学術集会, 大阪, 2017.9.23
70. 辻坂勇太, 太田光彦, 角田敏明, 松本 讓, 金 基泰, 北井 豪, 谷 知子, 加地修一郎, 小山忠明, 古川裕 : 経食道心エコー図を用いて fenestration の破裂に伴う急性大動脈弁逆流と診断し大動脈弁形成術を施行した 1 例. 日本超音波医学会第 44 回関西地方会学術集会, 大阪, 2017.9.23
71. 山本 駿, 太田光彦, 紺田利子, 角田敏明, 野本奈津美, 野村菜美子, 谷 知子, 加地修一郎, 小山忠明, 古川 裕 : 外巻き生体弁を使用した大動脈弁置換術後に早期の構造的弁劣化をきたした 2 例. 日本超音波医学会第 44 回関西地方会学術集会, 大阪, 2017.9.23
72. 大畑淳子 (臨床検査技術部), 太田光彦, 紺田利子, 角田敏明, 金 基泰, 北井 豪, 加地修一郎, 谷 知子, 小山忠明, 古川 裕 : 大動脈弁置換術後 14 年目に急性の人工弁機能不全を認めた 1 例. 日本超音波医学会第 44 回関西地方会学術集会, 大阪, 2017.9.23
73. 佐々木康博 : 非専門医のための心房細動治療～紹介のタイミングからフォローの仕方まで～. 心房細動患者を地域でまもる 2017～わがまちの医療連携～, 神戸, 2017.9.28
74. 加地修一郎, 村井亮介, 古川 裕 : 脳合併症を有する活動期感染性心内膜炎患者において早期心臓手術が予後を改善するか? 第 65 回日本心臓病学会学術集会・シンポジウム, 大阪, 2017.9.29-10.1

75. 堀田 怜, 太田光彦, 安積佑太, 石津賢一, 松本 讓, 佐々木康博, 金 基泰, 山根崇史, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 小山忠明, 古川 裕: 経カテーテル的大動脈弁留置術 (TAVI) 施行1年半後に労作時呼吸苦にて発症した血栓弁の1例. 第65回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017.9.29-10.1
76. 松本 讓, 金 基泰, 小堀敦志, 河野裕之, 辻坂勇太, 安積佑太, 堀田 怜, 石津賢一, 佐々木康博, 太田光彦, 山根崇史, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕: 左室病変を伴った不整脈源性右室心筋症の1例. 第65回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017.9.29-10.1
77. 安積佑太, 堀田 怜, 石津賢一, 松本 讓, 太田光彦, 金 基泰, 加地修一郎, 古川 裕: 二尖弁の高度大動脈弁狭窄症による重症心原性ショックに対し緊急PCPS作動下に経大腿動脈アプローチ TAVI を施行し救命し得た1例. 第65回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017.9.29-10.1
78. 石津賢一, 太田光彦, 金 基泰, 加地修一郎, 古川 裕: 当院における体外循環式心肺蘇生法に対する取り組み. 第65回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017.9.29-10.1
79. 神田貴史, 増田正晴, 静田 聡, 小堀敦志, 井上耕一, 貝谷和昭, 黒飛俊哉, 森島逸郎, 中澤優子, 須永晃弘, 松田祥宏, 大橋拓也, 飯田 修, 藤田雅史, 真野敏昭: 持続性心房細動に対するカテーテルアブレーションによるQOL改善効果~KPAF研究から~. 第65回日本心臓病学会学術集会・シンポジウム, 大阪, 2017.9.29-10.1
80. 安積佑太, 江原夏彦, 山根崇史, 河野裕之, 辻坂勇太, 堀田 怜, 松本 讓, 石津賢一, 佐々木康博, 太田光彦, 金 基泰, 小堀敦志, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕: 複数回のカテーテル治療を試みるも短期間でステント内狭窄を繰り返すステントアブレーションを要した1例. 第29回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 京都, 2017.10.14
81. 古川 裕: 超高齢社会における心房細動の抗血栓治療. 第12回地域連携で診る循環器疾患勉強会, 大阪, 2017.10.14
82. 石津賢一, 加地修一郎, 佐々木康博, 太田光彦, 金 基泰, 山根崇史, 北井 豪, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕: Stanford B型急性大動脈解離に合併した脊髄虚血の臨床的特徴. 第58回日本脈管学会総会, 名古屋, 2017.10.19-21
83. 小堀敦志: バルーンアブレーションが拓く心房細動治療最前線. 心房細動を考えるシリーズ第3回日本人に最適な抗凝固療法を考える, 京都, 2017.10.21
84. 山根崇史: 実臨床における心不全患者の治療の課題~腎機能障害と貧血について~. 第5回神戸心・腎・糖尿病談話会, 神戸, 2017.10.28
85. 太田光彦: 経皮的動脈弁置換術に関する正しい手技を広める. 神戸弁膜症セミナー~TAVI検討のための心エコースクリーニング~, 神戸, 2017.11.2
86. 石津賢一, 太田光彦, 古川 裕: access と device の選択に難渋した TAVI の1例. ストラクチャークラブ・ジャパン・ライブデモンストレーション2017, 福岡, 2017.11.4-5
87. 江原夏彦: 周術期の抗血栓療法~中止可能?~第74回兵庫県泌尿器科医会・教育講演, 神戸, 2017.11.11
88. 佐々木康博: 心房細動と高血圧. 第19回中央区薬剤師会学術講演会, 神戸, 2017.11.11
89. 小堀敦志: バルーンアブレーション時代におけるATPテストの意義. Kagawa Catheter Ablation Seminar 2017, 高松, 2017.11.24
90. 辻坂勇太: 妊娠中に大動脈解離を合併した Marfan 症候群の1例. 天神京循環器セミナー2017, 大阪, 2017.11.25
91. 加地修一郎: TEVAR 時代の B 型大動脈解離の治療戦略~診療における内科医の役割とは何か? ~天神京循環器セミナー2017, 大阪, 2017.11.25
92. 北井 豪: DOAC を用いた VTE 治療の実際. Expert Meeting on Onco-Cardiology, 神戸, 2017.11.29
93. 加地修一郎: TEVAR 時代の B 型大動脈解離の治療戦略~どのような場合に治療介入するべきか~. 第123階日本循環器学会九州地方会, 久留米, 2017.12.2
94. 堀田 怜: TAVI 弁置換後に左冠動脈主幹部狭窄を生じた1例. 第137回コロナリーの会, 神戸, 2017.12.4
95. Ishizu K, Ota M, Furukawa Y: Pulsatile geometric changes of the aortic root assessed by real-time 3-dimensional transesophageal echocardiography. EuroEcho-Imaging 2017, Lisbon Ccl, Portugal, 2017.12.6-9
96. 山根崇史: 癌合併 VTE 治療~循環器内科の立場から~. Cardio-Oncology 学術講演会, 神戸, 2017.12.6
97. 江原夏彦: 周術期の抗血栓療法について~TAVI 症例などを含めて~. KOBE Heart Conference, 神戸, 2017.12.7

98. 安積佑太：多量の心嚢水貯留を伴った急性大動脈解離の1例。第31回阪神心臓セミナー，大阪，2017.12.9
99. 北井 豪：米国における臨床研究の取り組み。第39回臨床研究セミナー，神戸，2017.12.14
100. 松本 讓，江原夏彦，金 基泰，太田光彦，石津賢一，佐々木康博，山根崇史，小堀敦志，木下 慎，加地修一郎，西矢健太，石上雅之助，長澤 淳，小山忠明，古川 裕：心原性ショックを発症した左主幹部病変合併三枝疾患を有する高度大動脈弁狭窄症の1例。第31回日本冠疾患学会学術集会，大阪，2017.12.15-16
101. 松田靖弘，江原夏彦，吉田一史，金 基泰，古川 裕，小山忠明：経皮的冠動脈形成術後の心拍動下冠動脈バイパス術と直接大動脈アプローチ経カテーテル大動脈弁置換術。第31回日本冠疾患学会学術集会，大阪，2017.12.15-16
102. 太田光彦：TAVIにおける心エコー図の役割。第18回島根臨床心エコーズ研究会，出雲，2017.12.16
103. 石津賢一：Pulsatile Geometric Changes of the Aortic Root Assessed by Real-Time 3-Dimensional Transesophageal Echocardiography. 第9回KCGH Forum, 神戸，2017.12.16
104. 松本 讓，江原夏彦，金 基泰，河野裕之，辻坂勇太，安積佑太，堀田 怜，石津賢一，佐々木康博，太田光彦，北井 豪，山根崇史，小堀敦志，木下 慎，加地修一郎，小山忠明，古川 裕：心原性ショックを発症した左主幹部病変合併三枝疾患を有する高度大動脈弁狭窄症の1例。第16回京都心血管疾患フォーラム，京都，2018.1.8
105. 太田光彦：経食道心エコーを日常診療に役立てる。第4回新潟県U40循環器フォーラム，新潟，2018.1.19
106. 北井 豪：静脈うっ血における腎機能変化、および、腎うっ血に対する陰圧利尿効果の検討。第4回B2B conference, 東京，2018.1.27
107. 金 基泰：当院におけるランジオロールの使用経験。神戸循環管理セミナー，神戸，2018.1.29
108. 堀田 怜，太田光彦，長野真弥，中原千裕，山本 駿，堀 香菜，大畑淳子，野村菜美子，野本奈津美，紺田利子，藤井洋子，角田敏明，石津賢一，金 基泰，北井 豪，江原夏彦，加地修一郎，古川 裕：経カテーテル的大動脈弁置換術後に人工弁機能不全を発症した二症例。第86回神戸臨床心エコー図研究会，神戸，2018.2.3
109. 北井 豪：脂質低下療法の現状と今後～PCSK9阻害剤に期待すること～。第10回神戸循環器ミニレクチャー，神戸，2018.2.9
110. 堀田 怜，江原夏彦，安積佑太，太田光彦，金 基泰，山根崇史，北井 豪，木下 慎，加地修一郎，小山忠明，古川 裕：TAVI弁留置後に左主幹部に高度狭窄を来した1例。第30回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会，豊中，2018.2.10
111. 金 基泰，安積佑太，佐々木康博，江原夏彦，小堀敦志，古川 裕：右房拡大と高度三尖弁逆流を伴う心室細動に対する植込み型除細動器移植術において、左室リード用ガイドカテーテルを使用しショックリードを留置した症例。第10回日本不整脈心電学会植込みデバイス関連冬季大会，横浜，2018.2.10-12
112. 古川 裕：腎機能低下を機に診断されたファブリー病の1例。ファブリー病フォーラム in 関西 2018，大阪，2018.2.17
113. 加地修一郎：TEVAR時代のB型大動脈解離の治療戦略。Cardiovascular Expert Web Seminar from Kobe, 神戸，2018.2.21
114. 山根崇史：簡単にはいかない！脂質異常症のクスリ～2018年のスタチン一次予防の考え方～。14th CADET SEMINAR, 東京，2018.2.24
115. 太田光彦：シンプルに考える心エコースクリーニング。兵庫心臓超音波祭り～心臓の鉄人が教える～心臓塾！神戸，2018.3.3
116. Ishizu K, Kaji S, Sasaki Y, Ota M, Kim K, Kitai T, Yamane T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y: Very Long-Term Prognosis of Patients With Type B Aortic Intramural Hematoma. ACC.18 67th Annual Scientific Session & Expo, Orlando, FL, 2018.3.10-12
117. Ishizu K, Kaji S, Sasaki Y, Ota M, Kim K, Kitai T, Yamane T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y: Impact of Large Focal Intimal Disruption on Disease Progression in Patients With Type B Aortic Intramural Hematoma. ACC.18 67th Annual Scientific Session & Expo, Orlando, FL, 2018.3.10-12
118. 佐々木康博：心房細動にどう立ち向かうか？～治療・管理の仕方をわかりやすく解説～。兵庫県保健医協会薬科部研究会，神戸，2018.3.10
119. 太田光彦：TAVI後の血栓弁について。第10回ストラクチャークラブ・ジャパン近畿・中四国支部会，神戸，2018.3.17

120. 金 基泰：ゼロコントラスト TAVI の 1 例. 第 10 回ストラクチャークラブ・ジャパン近畿・中四国支部会, 神戸, 2018.3.17
121. Sasaki Y, Kobori A : Mid-Term Results of Radiofrequency Hot Balloon Ablation in Patients With Paroxysmal Atrial Fibrillation : a single center experience. EHRA2018, Barcelona, Spain, 2018.3.18-20
122. 豊田俊彬, 森本 剛, 塩見紘樹, 山地杏平, 安藤献児, 尾野 亘, 静田 聡, 齋藤成達, 加藤貴雄, 加地修一郎, 古川 裕, 中川義久, 門田一繁, 堀江 稔, 木村 剛 : Single-session versus Staged Procedures for Elective Multi-vessel Percutaneous Coronary Intervention : Observational Study. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
123. Kawamoto A, Fujita Y, Kinoshita M, Furukawa Y, Nakao M, Yamaguchi J, Yokoi H : GCSF-Mobilized CD34+ Cells as a Regenerative Medical Product for Rescue from Critical Limb Ischemia. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
124. 山下侑吾, 森本 剛, 天野秀生, 高瀬 徹, 平森 誠, 金 基泰, 赤尾昌治, 小林洋平, 大井磨紀, 多田朋弥, 陳 博敏, 村田耕一郎, 露木義章, 佐賀俊介, 笹 智樹, 坂本二郎, 山田千夏, 塩見紘樹, 牧山 武, 尾野 亘, 木村 剛 : Anticoagulation Therapy for Venous Thromboembolism in the Real World : From COMMAND VTE Registry. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
125. 鍵山暢之, 神谷健太郎, 齋藤 洋, 齋藤和也, 小笠原由紀, 前川恵美, 小西正紹, 北井 豪, 岩田健太郎, 重城健太郎, 和田 浩, 葛西隆敏, 長松裕史, 小澤哲也, 井澤克也, 山本周平, 相澤直輝, 米澤隆介, 岡和博, 百村伸一, 末永祐哉 : Prevalence and Prognostic Value of Physical and Social Frailty in Geriatric Patients Hospitalized for Heart Failure (FRAGILE-HF). 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
126. Kagiya N, Nagano N, Kitai T, Yamaguchi T, Okumura T, Kida K, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Matsumoto K, Hayashida A, Matsue Y : Percent BNP Reduction Achieved during Hospitalization Predicts Prognosis in Patients with Acute Heart Failure: Insights from REALITY-AHF. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
127. Ishizu K, Kaji S, Sasaki Y, Ota M, Kim K, Kitai T, Yamane T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y : Clinical Features of Type B Acute Aortic Syndrome Complicated by Spinal Cord Ischemia. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
128. Kuroda S, Mizukami A, Okumura T, Kida K, Ohishi S, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Kitai T, Matsumura A, Matsue Y : Prognostic Values of Short-term Diuretic Response and Its Repetitive Evaluation in Patients with Acute Heart Failure : Insights from REALITY-AHF. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
129. Matsue Y, Kagiya N, Yamaguchi T, Okumura T, Kida K, Ohishi S, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Kitai T : Prognostic Values of Liver Dysfunction Scores in Acute Heart Failure : Insights from REALITY-AHF. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
130. Taniguchi T, Morimoto T, Shiomi H, Ando K, Kanamori N, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Izumi C, Minatoya K, Kimura T : Sudden Cardiac Death in Patients with Severe Aortic Stenosis : Results from the CURRENT as Registry. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
131. 澁谷裕樹, 松井由美恵, 大石洋平, 末吉裕幸, 向井 悠, 秋田雄三, 唐川正洋, 静田 聡, 小堀敦志, 貝谷和昭, 黒飛俊哉, 森島逸郎, 中澤優子 : The Efficacy of Catheter Ablation for Atrial Fibrillation as a Secondary Stroke Prevention : From KPAF Trial Substudy. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
132. 神田貴史, 増田正晴, 静田 聡, 小堀敦志, 井上耕一, 貝谷和昭, 黒飛俊哉, 森島逸郎, 中澤優子, 飯田 修, 浅井光俊, 真野敏昭 : Factors Associated with Quality-of-life Improvement after Catheter Ablation of Paroxysmal Atrial Fibrillation: Insights from the Kansai Plus Atrial Fibrillation Registry. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
133. 藤井英太郎, 香川芳彦, 藤田 聡, 伊藤正明, 小堀敦志, 井上耕一, 貝谷和昭, 黒飛俊哉, 森島逸郎, 里見和浩, 山地博介, 中澤優子, 草野研吾, 木村 剛, 静田 聡 : Predictive Value of Reverse-remodeling for Maintenance of Sinus Rhythm after Ablation of Persistent Atrial Fibrillation : Subanalysis of the KPAF Registry. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
134. Ishizu K, Kaji S, Sasaki Y, Ota M, Kim K, Kitai T, Yamane T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y : Impact of Large Focal Intimal Disruption on Disease Progression in Patients with Type B Aortic Intramural Hematoma. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25

135. Sasaki Y, Kobori A, Furukawa Y : Mid-Term Results of Radiofrequency Hot Balloon Ablation in Patients with Paroxysmal Atrial Fibrillation : A Single Center Experience. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
136. Yamaguchi T, Matsue Y, Kitai T, Iwai T, Hijikata S, Yamaguchi J, Watanabe K, Sagawa Y, Masuda R, Miyazaki R, Miwa N, Sekigawa M, Hara N, Nagata Y, Nozato T, Kagiya N : Prognostic Impact of Optimizing Guidelinedirected Medical Therapy before Discharge in Patients Hospitalized with Acute Heart Failure with Reduced Ejection Fraction. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
137. 杉澤朋弥, 小堀敦志, 佐々木康博, 田中雄己, 山城悠葵, 中農陽介, 中村悟士, 坂地一朗, 古川 裕 : クライオバルーンと高周波アブレーションによる左房ルーフライン性状の比較. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
138. 中村悟士, 小堀敦志, 佐々木康博, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 坂地一朗, 古川 裕 : 心房細動アブレーション時の呼気二酸化炭素分圧モニタリングの検討. 第 82 回日本循環器学会総会学術集会, 大阪, 2018.3.23-25
139. Ota M : What is the potential risks for a case with multiple valvular disease. PCR Tokyo Valves 2018, 東京, 2018.3.30-4.1

VII. 1.2 糖尿病・内分泌内科

1. 岩倉敏夫 : インスリン治療における配合溶解インスリンアナログ製剤の果たす役割についての検証. Diabetes Update Meeting, 大阪, 2017.4.8
2. 伯田琢郎, 籀谷雄二, 新村里美, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 篠原尚吾, 松岡直樹 : 甲状腺腺頭癌の腺外浸潤に対する術前超音波検査の有用性の検討. 第 90 回日本内分泌学会学術総会, 京都, 2017.4.20
3. 新村里美, 籀谷雄二, 伯田琢郎, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 辰巳智美, 藤本大智, 松岡直樹 : 当院でニボルマブを投与した肺癌患者の甲状腺関連 adverse event の検討. 第 90 回日本内分泌学会学術総会, 京都, 2017.4.22
4. 油屋 恵, 藤本寛太, 奥貞 智, 松岡直樹, 橋田 亨, 岩倉敏夫 : 混合型インスリン 2 回からデグルデク / アスパルト配合インスリン 2 回へ変更時の血糖変動と QOL 変化の検討. 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017.5.18
5. 西村治男, 加藤純子, 大歳健太郎, 松岡直樹, 岸谷 譲, 長山浩士, 仲 元司, 山藤知宏, 奥田譲治, 馬屋原豊, 馬場泰人, 武呂誠司, 澤木秀明, 新谷光世, グループ HARUKAStudy : SGLT2 阻害薬で HbA1c・体重が減少しやすい患者像は? ~イブラグリフロジンを用いた多施設前向臨床試験 (HARUKAStudy) ~. 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017.5.20
6. 能登理央, 中村和史, 佐々木翔, 塩田文彦, 松岡直樹, 吉本明弘 : 3 年間でデノスマブを投与した 201 症例の使用経験 : CKD 例での重症低 Ca 血症の注意喚起. 第 60 回日本腎臓学会学術総会, 仙台, 2017.5.27
7. 伯田琢郎, 藤本寛太, 新村里美, 能登理央, 籀谷雄二, 岩倉敏夫, 石原 隆, 堀内一史, 今村博敏, 松岡直樹 : 術後に著明な電解質異常をきたした先端巨大症の 1 例. 第 216 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2017.7.1
8. 松岡直樹 : 最近の糖尿病治療薬のトレンドについて. 神戸市医師会学術講演会, 神戸, 2017.7.8
9. 岩倉敏夫 : 重症低血糖を回避する個別化した糖尿病治療 ~高齢者および腎機能低下症例での適正使用~. Diabetes Seminar 2017 In 大隅, 鹿屋, 2017.7.11
10. 岩倉敏夫 : 複雑化した 2 型糖尿病治療? 10 年前とは違う糖尿病治療戦略? 第 8 回西神戸内分泌・糖尿病・オープンカンファレンス, 神戸, 2017.7.12
11. 伯田琢郎, 藤本寛太, 新村里美, 能登理央, 籀谷雄二, 岩倉敏夫, 石原 隆, 堀内一史, 今村博敏, 松岡直樹 : 術後に著明な電解質異常をきたした先端巨大症の 1 例. 第 51 回兵庫内分泌研究会, 神戸, 2017.7.15
12. 岩倉敏夫 : 糖尿病通院治療中断のかかえる問題 ~地域医療連携により通院中断率を減少させられるか~. 神戸糖尿病・内分泌連携セミナー, 神戸, 2017.7.20
13. 能登理央 : 腎臓専門医への患者紹介のタイミング ~腎症合併症の進展予防とスムーズな腎代替療法への移行~. 神戸糖尿病・内分泌連携セミナー, 神戸, 2017.7.20
14. 岩倉敏夫 : 変貌しつつある 2 型糖尿病治療 ~ 10 年前とは違う治療戦略. 兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会連携 1 周年記念大会, 神戸, 2017.8.27

15. 岩倉敏夫：複雑化する糖尿病薬物療法～薬物療法のコツと落とし穴～. 第8回循環器クラブ, 芦屋, 2017.9.6
16. 伯田琢郎, 籀谷雄二, 大久保万理江, 能登理央, 新村里美, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 山本亮介, 篠原尚吾, 今井幸弘, 松岡直樹：術前超音波検査で原発巣が特定できなかった甲状腺オカルト癌の1例. 第108回神戸甲状腺研究会, 神戸, 2017.9.9
17. Iwakura T, Takenaka M, Iwamoto M, Hamamoto Y : Soft Lean Mass Reduction and Influence of Carbohydrate Intake to the Effect of Tofogliflozin in Japanese Patients with Type 2 Diabetes. 53rd EASD Annual Meeting in Lisbon, Portugal, Lisbon, Portugal, 2017.9.13
18. 大久保万理江, 藤本寛太, 籀谷雄二, 伯田琢郎, 新村里美, 能登理央, 岩倉敏夫, 篠原尚吾, 今井幸弘, 松岡直樹：診断に苦慮した甲状腺オカルト癌の1例. 第217回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2017.9.16
19. 岩倉敏夫：リスク・ベネフィットを考慮した糖尿病. 明日からの糖尿病治療を考える懇話会, 神戸, 2017.9.24
20. 岩倉敏夫：重症低血糖のリスクを考慮した適切な糖尿病治療プラン. Changing Diabetes ～低血糖なき明日を目指して～, 横浜, 2017.9.28
21. 藤本寛太, 籀谷雄二, 大久保万理江, 伯田琢郎, 新村里美, 日野 恵, 山本亮介, 篠原尚吾, 前田紘奈, 今井幸弘：オカルト癌で発見された微小乳頭癌の2症例. 第60回日本甲状腺学会学術集会, 別府, 2017.10.6
22. 新村里美, 籀谷雄二, 大久保万理江, 伯田琢郎, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹：ベキサロテン投与後に甲状腺機能低下を認めた皮膚T細胞性リンパ腫の1例. 第60回日本甲状腺学会学術集会, 別府, 2017.10.7
23. 能登理央：腎不全患者における血糖コントロール、低血糖の危険性. 第4回神戸心・腎・糖尿病談話会, 神戸, 2017.10.8
24. 岩倉敏夫：糖尿病通院治療中断患者の現状と対策. 第7回神戸糖尿病 Expert Meeting, 神戸, 2017.10.12
25. 伯田琢郎, 藤本寛太, 大久保万理江, 新村里美, 能登理央, 籀谷雄二, 岩倉敏夫, 石原 隆, 堀内一史, 今村博敏, 松岡直樹：術後に一過性の電解質異常をきたした先端巨大症の1例. 第93回京都内分泌同好会, 京都, 2017.10.14
26. 能登理央, 中村和史, 木下啓太, 佐々木翔, 南 和宏, 斎藤伴樹, 森崎裕子, 吉本明弘：COL3A1 遺伝子変異を同定し得た、解離性腎動脈瘤破裂を発症した若年男性の1例. 第46回日本腎臓学会西部学術大会, 宮崎, 2016.10.15
27. 岩倉敏夫：重症低血糖を防ぐためにすべきこと～実臨床における現状とその対策～. グリニドルネッサンス in Tokyo, 東京, 2017.10.19
28. 松岡直樹：アドヒアランスの向上をめざして 阻害薬配合剤を中心に. 兵庫県病院薬剤師会東西神戸支部合同学術講演会, 神戸, 2017.10.19
29. 伯田琢郎, 岩倉敏夫, 大久保万理江, 新村里美, 能登理央, 藤本寛太, 籀谷雄二, 松岡直樹：薬剤性低血糖発作により自動車事故を起こした2型糖尿病の1例. 第3回阪神糖尿病臨床講演会, 神戸, 2017.10.26
30. 岩倉敏夫：重症低血糖を回避する～実臨床における現状とその対策～. 糖尿病リスクマネジメントセミナー～薬剤性低血糖症の現状と対策～, 札幌, 2017.10.27
31. 新村里美, 籀谷雄二, 大久保万理江, 伯田琢郎, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹：ホスカルネットによる腎性尿崩症が疑われた HHV-6 脳炎の1例. 第18回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 大阪, 2017.11.4
32. 齊藤二葉, 岩本昌子, 竹中麻理子, 岩倉敏夫：適切な食事療法とインスリン導入により筋肉量減少を抑制した2型糖尿病の1例. 第54回日本糖尿病学会近畿地方会, 大阪, 2017.11.11
33. 伯田琢郎, 岩倉敏夫, 大久保万理江, 新村里美, 能登理央, 藤本寛太, 籀谷雄二, 松岡直樹：薬剤性低血糖発作により自動車事故を起こした2型糖尿病の1例. 第54回日本糖尿病学会近畿地方会, 大阪, 2017.11.11
34. 岩倉敏夫：重症低血糖の現状と対策. 第54回日本糖尿病学会近畿地方会, 大阪, 2017.11.11
35. 藤本寛太：当院での診療紹介. Kobe City Hospital Organization Meeting, 神戸, 2017.11.14
36. 岩倉敏夫：糖尿病通院治療中断のかかえる問題～チーム医療でいかに対応できるか～. 第2回これからの糖尿病チーム医療学習会・テーマ『就労者の療養支援』, 京田辺, 2017.11.18
37. 岩倉敏夫：糖尿病治療薬の光と影～重症低血糖リスク回避の必要性～. 低血糖を考える～無自覚性低血糖から考える治療戦略～, 相模原, 2017.11.24

38. 能登理央, 籀谷雄二, 大久保万理江, 伯田琢郎, 新村里美, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 吉本明宏, 松岡直樹: 201 症例のデノスマブ使用経験: CKD 例での重症低カルシウム決勝の注意喚起. 第 27 回臨床内分泌代謝 Update, 神戸, 2017.11.24
39. 新村里美, 籀谷雄二, 大久保万理江, 伯田琢郎, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹: ホスカルネットによる腎性尿崩症が疑われた HHV-6 脳炎の 1 例. 第 27 回臨床内分泌代謝 Update, 神戸, 2017.11.24
40. 伯田琢郎, 藤本寛太, 大久保万理江, 新村里美, 能登理央, 籀谷雄二, 岩倉敏夫, 石原 隆, 堀内一史, 今村博敏, 松岡直樹: 術後に一過性の電解質異常をきたした先端巨大症の 1 例. 第 27 回臨床内分泌代謝 Update, 神戸, 2017.11.25
41. 岩倉敏夫: 糖尿病治療薬の光と影～重症低血糖の問題をふまえて考える～. 神戸糖尿病治療薬フォーラム 2017～本音を語る～, 神戸, 2017.11.30
42. 川崎 翠, 籀谷雄二, 伯田琢郎, 新村里美, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 山下大祐, 今井幸弘: パセドウ病の既往があり急激な甲状腺機能低下の進行を認めた IgG4 甲状腺炎の 1 例. 第 218 回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2017.12.2
43. 岩倉敏夫: 重症低血糖に関するコメント. Glinide Expert Meeting, 東京, 2017.12.9
44. 川崎 翠, 籀谷雄二, 大久保万理江, 伯田琢郎, 新村里美, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 山下大祐, 今井幸弘: パセドウ病の既往がある IgG4 甲状腺炎の 1 例. 第 40 回京都甲状腺研究会, 京都, 2018.2.3
45. 乾 涼磨, 齊藤二葉, 大久保万理江, 伯田琢郎, 能登理央, 藤本寛太, 籀谷雄二, 松岡直樹, 竹中麻理子, 岩本昌子, 岩倉敏夫: 適切な食事療法とインスリン導入により筋肉量減少を抑制した 2 型糖尿病の 1 例. 第 12 回糖尿病臨床フォーラム, 大阪, 2018.2.10
46. 伯田琢郎, 籀谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 新村里美, 能登理央, 岩倉敏夫, 石原 隆, 竹林慎治, 篠原尚吾, 今井幸弘, 松岡直樹: I-131 の集積を認め甲状腺癌縦隔リンパ節転移と鑑別を要した胸腺嚢胞の 1 例. 第 109 回神戸甲状腺研究会, 神戸, 2018.2.10
47. 籀谷雄二, 大久保万理江, 伯田琢郎, 新村里美, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 篠原尚吾, 日野 恵, 松岡直樹: 分化型甲状腺癌術後 RAI 治療の適応についての検討. 第 109 回神戸甲状腺研究会, 神戸, 2018.2.10
48. 岩倉敏夫: 大きく変貌した 2 型糖尿病治療～10 年前とは違う治療戦略～. Cardiovascular Web Seminar from Kobe, 神戸, 2018.2.21
49. 籀谷雄二: 当科における内分泌診療. 第 3 回地域連携セミナー, 神戸, 2018.3.15
50. 岩倉敏夫: 重症低血糖を回避する～実臨床における現状とその対策～. 低血糖フォーラム in 広島, 広島, 2018.3.20
51. 岩倉敏夫: 糖尿病患者の重症低血糖を回避する～薬剤師が知っておきたい糖尿病薬の取り扱い方～. 第 7 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2018.3.21
52. 伯田琢郎, 籀谷雄二, 大久保万理江, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹: 低コルチゾール血症で検査を行った症例の検討. 第 94 回京都市内分泌同好会, 京都, 2018.3.24

VII. 1.3 腎臓内科

1. 中村和史, 澤 直彦, 佐々木翔, 塩田文彦, 吉本明弘: 無症候性の MPO-ANCA 高値としてフォローされ, 尿所見異常を契機に腎生検を施行した症例. 第 10 回神戸膠原病腎臓カンファレンス, 神戸, 2017.5.18
2. 中村和史, 能登理央, 佐々木翔, 塩田文彦, 田路佳範, 吉本明弘: ANCA 関連糸球体腎炎における PE, DVT 発症例の検討. 第 60 回日本腎臓学会学術集総会, 仙台, 2017.5.26-28
3. 能登理央, 中村和史, 佐々木翔, 塩田文彦, 田路佳範, 松岡直樹, 吉本明弘, 柳田素子: 3 年間でデノスマブを投与した 201 症例の使用経験 CKD 例での重症低 Ca 血症の注意喚起. 第 60 回日本腎臓学会学術集総会, 仙台, 2017.5.26-28
4. 吉本明弘: 当院で経験した左房内血栓の 1 例. 第 62 回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2017.6.16-18
5. 塩田文彦, 澤村直彦, 中村和史, 能登理央, 佐々木翔, 吉本明弘: 高度に大型化した糸球体を認めたネフローゼ症候群の 1 例. 第 3 回 Kobe Nephrology Forum, 神戸, 2017.6.20
6. 吉本明弘: 慢性腎臓病 (CKD) における尿酸管理の意義. 西脇市医師会学術講演会, 西脇, 2017.6.22

7. 吉本明弘：急性腎障害の早期診断バイオマーカー尿中 NGAL –現場での使い方と有用性–. AKI セミナー, 神戸, 2017.7.14
8. 吉本明弘：慢性腎臓病 (CKD) と病診連携. 灘区医師会学術講演会, 神戸, 2017.7.18
9. 吉本明弘：CKD 診療における病診連携. 西神戸 CKD 地域連携セミナー, 神戸, 2017.9.9
10. 吉本明弘：慢性腎臓病 (CKD) における尿酸管理の重要性. 高尿酸血症と合併症治療セミナー, 神戸, 2017.9.14
11. 吉本明弘：慢性腎臓病における薬物治療～薬剤性腎症に注目して～. 兵庫県病院薬剤師会東西神戸支部合同学術講演会, 神戸, 2017.9.21
12. 塩田文彦, 澤村直彦, 中村和史, 能登理央, 木下啓太, 佐々木翔, 吉本明弘: Lymphoplasmatic Lymphoma によるネフローゼ症候群により高度大型化し糸球体を認めた 1 例. 第 17 回京阪神 Nephrology Conference, 大阪, 2017.10.5
13. 吉本明弘：CAPD の理論と合併症. 腹膜透析講演会, 神戸, 2017.10.10
14. 塩田文彦, 澤村直彦, 中村和史, 能登理央, 木下啓太, 佐々木翔, 吉本明弘：Lymphoplasmatic Lymphoma によるネフローゼ症候群により高度大型化した糸球体を認めた 1 例. 第 47 回日本腎臓学会西部学術集会, 岡山, 2017.10.13-14
15. 中村和史, 佐々木翔, 澤村直彦, 能登理央, 塩田文彦, 原 重雄, 吉本明弘：RPGN をきたさず、尿所見異常のみを示した ANCA 関連腎炎の 1 例. 第 47 回日本腎臓学会西部学術集会, 岡山, 2017.10.13-14
16. 澤村直彦, 中村和史, 佐々木翔, 塩田文彦, 吉本明弘：腎機能の緩徐な増悪後に Fabry 病と診断した 1 例. 第 11 回神戸膠原病腎臓カンファレンス, 神戸, 2017.11.9
17. 塩田文彦, 澤村直彦, 中村和史, 佐々木翔, 吉本明弘：C 型肝炎ウイルス治療後に発症したネフローゼ症候群にて糸球体に異常沈着物を認めた 1 例. 第 11 回神戸膠原病腎臓カンファレンス, 神戸, 2017.11.9
18. 吉本明弘, 澤村直彦, 中村和史, 佐々木翔, 塩田文彦：CKD 治療における血管保護の重要性. 第 11 回神戸膠原病腎臓カンファレンス, 神戸, 2017.11.9
19. 吉本明弘：多発性嚢胞腎の治療と病診連携. 北区医師会学術講演会, 神戸, 2018.1.20
20. 吉本明弘：慢性腎臓病 (CKD) における尿酸管理の意義. 明石・西神戸地区、CKD と合併症を考える会, 明石, 2018.2.10
21. 吉本明弘：高齢者 CKD の診療ポイント. 第 5 回 Geriatric Diseases Seminar, 神戸, 2018.2.28
22. 澤村直彦, 中村和史, 能登理央, 佐々木翔, 塩田文彦, 田路佳範, 古川 裕, 原 重雄, 吉本明弘：腎機能の緩徐な増悪後に Fabry 病と診断した 1 例. 第 63 回兵庫県腎臓研究会, 2018.3.24
23. 吉本明弘：透析治療における全身管理の重要性. 西区腎友会講演会, 神戸, 2018.3.25

VII. 1.4 脳神経内科

1. 大平純一郎, 川本未知, 田村亮太, 瀬川翔太, 三村直哉, 上田 潤, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 河野智之, 吉村 元, 藤倉航平, 幸原伸夫：顔面神経麻痺で発症し、脳幹・脊髄膿瘍を呈したリステリア症の一部検例. 第 53 回亀山正邦記念神経懇話会 (KSK), 大阪, 2017.5.20
2. 三村直哉, 河野智之, 加藤大典, 瀬川翔太, 田村亮太, 大平純一郎, 上田 潤, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 吉村 元, 川本未知, 幸原伸夫：乳がん腫瘍細胞によると考えられた多発脳塞栓症の 1 例. 日本神経学会第 108 回近畿地方会, 豊中, 2017.7.15
3. 大平純一郎, 川本未知, 武部沙也佳, 加藤大典, 田村亮太, 瀬川翔太, 三村直哉, 上田 潤, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 河野智之, 吉村 元, 幸原伸夫：シャルコー・マリー・トゥース病を背景に化学療法施行後、免疫介在性ニューロパチーを来した 1 例. 日本神経学会第 108 回近畿地方会, 豊中, 2017.7.15
4. 田村亮太, 川本未知, 瀬川翔太, 大平純一郎, 三村直哉, 上田 潤, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 河野智之, 吉村 元, 幸原伸夫：転倒を契機に右上下肢麻痺が出現した症例. 第 74 回兵庫神経内科研究会, 神戸, 2017.9.1
5. 藤原 悟, 尾原信行, 河野智之, 乾 涼磨, 柳川真澄, 川本未知, 今村敏博, 坂井信幸, 幸原伸夫：妊娠初期に発症した可逆性脳血管攣縮症候群 (RCVS) に対して血管内治療を行った 1 例. 第 4 回日本脳神経血管内治療学会近畿地方会, 豊中, 2017.9.2
6. 藤原 悟, 尾原信行, 河野智之, 乾 涼磨, 田村亮太, 大平純一郎, 三村直哉, 上田 潤, 村上泰隆, 石井淳子, 吉村 元, 川本未知, 幸原伸夫：妊娠初期に発症した可逆性脳血管攣縮症候群 (RCVS) に対して血管内治療を行った 1 例. 日本脳神経血管内治療学会第 4 回近畿地方会, 大阪, 2017.9.4

7. 尾原信行 : Clinical Application of CD34-positive Cells, Interventional Neurologist Perspective. 7th World Centenarian Initiative, CD34 陽性細胞が変える再生医療の世界, 東京, 2017.9.9
8. Ohira J, Yoshimura H, Mimura N, Ueda J, Fujiwara S, Ishii J, Kono T, Ohara N, Kawamoto M, Ariyoshi K, Kohara N : Predictive Factors of the Postictal Duration after Generalized Tonic? Clonic Seizure. XXIII World Congress of Neurology, 京都, 2017.9.18
9. Ishii J, Kawamoto M, Fujiwara S, Imai Y, Shishido-Hara Y, Nakamichi K, Saijo M, Takahashi K, Nukuzuma S, Kohara N : Punctate lesions demonstrated as an early sign of progressive multifocal leukoencephalopathy in a patient with systemic lupus erythematosus: a clinico-pathological study. XXIII World Congress of Neurology, 京都, 2017.9.18
10. Fujiwara S, Yoshimura H, N. Mimura N, Ohira J, Ueda J, Ishii J, Kono T, Kawamoto M, Tomii K, Kohara N : Cerebrospinal Fluid Characteristics Of Encephalitis Associated With Immune Checkpoint Inhibitors. XXIII World Congress of Neurology, 京都, 2017.9.18
11. Ueda J, Yoshimura H, Shimizu K, Hino M, Kohara N : Combined visual and semi-quantitative assessment of 123I-FP-CIT SPECT for the diagnosis of dopaminergic neurodegenerative diseases. XXIII World Congress of Neurology, 京都, 2017.9.19
12. Yoshimura H, Matsumoto R, Ueda H, Ariyoshi K, Ohira J, Mimura N, Ueda J, Fujiwara S, Ishii J, Kono T, Ohara N, Kawamoto M, Kohara N : Clinical Characteristics of status epilepticus in the elderly : A comparative study with younger adult patients. XXIII World Congress of Neurology, 京都, 2017.9.19
13. Kawamoto M, Ishii J, Yoshimura H, Fujiwara S, Kohara N : Clinical and electrophysiological aspects of Guillain-Barre syndrome following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. XXIII World Congress of Neurology, 京都, 2017.9.19
14. 村上泰隆, 尾原信行, 齋藤伴樹, 川端修平, 上田 潤, 藤原 悟, 坂之上朗, 徳永 聡, 吉村 元, 河野智之, 今村敏博, 足立秀光, 浜川博司, 幸原伸夫, 坂井信幸, 高橋 豊 : 左上葉切除後に発症した脳梗塞の検討. 第 20 回日本栓子検出と治療学会 (エンボラス学会), 東京, 2017.10.1
15. 石井淳子, 藤原 悟, 尾原信行, 吉村 元, 川本未知, 幸原伸夫 : 当院における Bickerstaff 脳幹脳炎 11 例の臨床的検討. 第 29 回日本神経免疫学会, 札幌, 2017.10.6
16. 藤原 悟, 川本未知, 石井淳子, 吉村 元, 松下章子, 石川隆之, 幸原伸夫 : 無症候性骨髄腫の 2 年間の経過観察中に末梢神経障害を発症し、POEMS 症候群の最終診断に至った 1 例. 第 29 回日本神経免疫学会, 札幌, 2017.10.6
17. 吉村 元, 松本理器, 池田昭夫, 幸原伸夫 : 高齢者のてんかん重積状態. 第 51 回日本てんかん学会学術集会, 京都, 2017.11.3
18. 松崎光博, 仲泊 聡, 上田 潤, 許沢尚弘, 宇山紘史, 平見恭彦, 広瀬文隆, 下園正剛, 川本未知, 幸原伸夫, 栗本康夫 : 動脈炎性虚血性視神経症様の臨床像を呈し悪性新生物が併存した視神経脊髄炎関連疾患の 1 例. 第 55 回日本神経眼科学会, 横浜, 2017.11.10
19. 尾原信行, 今村博敏, 藤堂謙一, 藤原 悟, 村上泰隆, 河野智之, 川端修平, 松井雄一, 佐々木夏一, 足立拓優, 鈴木啓太, 船津堯之, 徳永 聡, 足立秀光, 谷 正一, 幸原伸夫, 坂井信幸 : 当院における急性期再開通療法の変遷と臨床転帰. 第 33 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 東京, 2017.11.23
20. 河野智之, 坂井信幸, 藤原 悟, 村上泰隆, 十河正弥, 尾原信行, 星 拓, 今村博敏, 藤堂謙一, 足立秀光, 川本未知, 今井幸弘, 幸原伸夫 : 内科治療抵抗性の巨細胞性動脈炎に対して経皮的血管形成術が奏功した 2 例. 第 33 回日本脳神経血管内治療学会, 東京, 2017.11.24
21. Ohara N : Endovascular Treatment for AIS in Japan, Role of Interventional Neurologist. The Japanese Interventional Neurologists Meeting with Prof, Nogueira, 東京, 2017.11.25
22. 石井淳子, 上田哲大, 吉村 元, 川本未知, 幸原伸夫 : 著明な四肢体幹失調を認めたフグ中毒における神経伝導検査. 第 47 回日本臨床神経生理学学会, 横浜, 2017.11.29
23. 川本未知, 幸原伸夫, 山本博史 : 橈骨神経麻痺症例の超音波・MRfusion 画像と術中所見の対比. 第 47 回日本臨床神経生理学学会, 横浜, 2017.11.29
24. 乾 涼磨, 藤原 悟, 川本未知, 田村亮太, 瀬川翔太, 大平純一郎, 三村直哉, 上田 潤, 村上泰隆, 石井淳子, 尾原信行, 河野智之, 吉村 元, 幸原伸夫 : 短期間の食思不振を契機に重症ケトアシドーシスを発症した脊髄性筋萎縮症の 1 例. 日本神経学会第 109 回近畿地方会, 大阪, 2017.12.2

25. 三村直哉, 吉村 元, 瀬川翔太, 田村亮太, 大平純一郎, 上田 潤, 村上泰隆, 藤原 悟, 尾原信行, 河野智之, 川本未知, 西野一三, 幸原伸夫: 横紋筋融解症で発症した抗ミトコンドリア M2 抗体陽性免疫介在性壊死性ミオパチーの 1 例. 日本神経学会第 109 回近畿地方会, 大阪, 2017.12.2
26. 田村亮太, 川本未知, 瀬川翔太, 大平純一郎, 三村直哉, 上田 潤, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 河野智之, 吉村 元, 幸原伸夫: 転倒、発熱を契機に症状の出現・増悪を認めた成人発症アレキサンダー病の 1 例. 第 54 回亀山正邦記念神経懇話会 (KSK), 京都, 2017.12.16
27. Ohara N, Imamura H, Todo K, Murakami Y, Kono T, Funatsu T, Tokunaga S, Adachi H, Kohara N, Sakai N: Temporal Trends In Endovascular Therapy and Clinical Outcomes For Acute Ischemic Stroke At a Single Comprehensive Stroke Center In Japan. ISC2018 国際脳卒中学会, ロサンゼルス, 2018.1.22
28. 川本未知: 最適な在宅医療の為に～専門医療機関の役割と地域連携～. 平成 29 年度淡路圏域難病地域対策連絡会, 洲本, 2018.1.28
29. 大平純一郎, 吉村 元, 吉岡三恵子, 森貞直哉, 田村亮太, 瀬川翔太, 三村直哉, 上田 潤, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 河野智之, 川本未知, 幸原伸夫: 幼少期より下肢筋力低下と足関節拘縮を有し、次男にも類似症状を認めた 29 歳男性. 第 75 回兵庫神経内科研究会, 神戸, 2018.2.9
30. 田村亮太, 川本未知, 瀬川翔太, 大平純一郎, 三村直哉, 上田 潤, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 河野智之, 吉村 元, 幸原伸夫: 転倒、発熱を契機に症状の出現・増悪を認めた成人発症アレキサンダー病の 1 例. 日本神経学会第 110 回近畿地方会, 京都, 2018.3.11
31. 藤原 悟, 尾原信行, 河野智之, 村上泰隆, 川端修平, 松井雄一, 佐々木夏一, 足立拓優, 鈴木啓太, 船津堯之, 徳永 聡, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 川本未知, 坂井信幸, 幸原伸夫: 急性主幹動脈閉塞例における動脈相 CTA を用いた側副循環評価. STROKE2018, 福岡, 2018.3.15
32. 河野智之, 坂井信幸, 藤原 悟, 村上泰隆, 鈴木啓太, 船津堯之, 徳永 聡, 今村博敏, 足立秀光, 幸原伸夫: 機械的血栓回収術前の t-PA 投与が転帰に与える影響. STROKE2018, 福岡, 2018.3.15
33. 尾原信行, 今村博敏, 河野智之, 瀬川翔太, 田村亮太, 秋山 亮, 堀内一史, 大平純一郎, 三村直哉, 上田 潤, 川端修平, 佐々木夏一, 松井雄一, 村上泰隆, 藤原 悟, 足立拓優, 鈴木啓太, 石井淳子, 船津堯之, 徳永聡, 吉村 元, 谷 正一, 足立秀光, 川本未知, 幸原伸夫, 坂井信幸: 脳卒中搬送患者がプレホスピタルに要する時間の検討. 29STROKE2018, 福岡, 2018.3.16
34. 村上泰隆, 尾原信行, 齋藤伴樹, 川端修平, 上田 潤, 藤原 悟, 坂之上朗, 徳永 聡, 吉村 元, 河野智之, 今村博敏, 足立秀光, 浜川博司, 幸原伸夫, 坂井信幸, 高橋 豊: 肺切除後の塞栓性脳梗塞は左上葉切除後に多いのか. STROKE2018, 福岡, 2018.3.18

VII. 1.5 消化器内科

1. 谷口洋平: 臍腫瘍性病変に対するコイル型シースを有する EZ Shot 3 plus の使用経験について. 第 103 回日本消化器病学会, 東京, 2017.4.22
2. Taniguchi Y: CROSS-WIRED METALLIC STENTS IN ENDOSCOPIC BILATERAL STENT-IN-STENT PLACEMENT FOR MALIGNANT HILAR BILIARY OBSTRUCTION. DDW2017, Chicago, 2017.5.9
3. 森田周子: 胃-ESD 後出血. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪, 2017.5.11
4. Taniguchi Y, Wada M, Inokuma T: Cross-wired metallic stents for bilateral endoscopic stent placement for malignant hilar biliary obstruction (非切除悪性肝門部胆管狭窄に対する stent in stent での Metallic stent 留置について). 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪, 2017.5.11
5. 福島政司, 井上聡子, 猪熊哲朗: 【追加発言】再出血を来した原因不明消化管出血、小腸出血症例の検討. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪, 2017.5.11
6. 占野尚人: 80 歳以上の高齢者の胃癌に対する ESD. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪, 2017.5.11
7. 青山直樹, 占野尚人, 大久保佑樹, 文原大貴, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院における上部消化管内視鏡的異物除去症例の検討. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪, 2017.5.11
8. 豊永啓翔, 谷口洋平, 青山直樹, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 福島政司, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 和田将弥, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 消化管穿孔、瘻孔に対する OTSC system の治療成績と安全性の検討. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪, 2017.5.11

9. 和田将弥, 谷口洋平, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 福島政司, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 今井幸弘, 猪熊哲朗: 当院における転移性膵腫瘍に対する EUS-FNA の成績. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪, 2017.5.11
10. 畑森裕之, 福島政司, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 緊急ダブルバルーン内視鏡下 ERCP の有用性、安全性についての検討. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪, 2017.5.12
11. 森田周子, 占野尚人, 猪熊哲朗: 80 歳以上の早期胃癌内視鏡的粘膜下層剥離術施行症例における予後の検討. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪, 2017.5.12
12. 猪熊哲朗: 慢性便秘症の診断と治療. 慢性便秘治療フォーラム in KOBE OCEANS II, 神戸, 2017.5.18
13. 猪熊哲朗: 逆流性食道炎の病態と治療の新展開. タケキャブ錠 発売 2 周年記念講演会, 神戸, 2017.5.25
14. 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 猪熊哲朗: 当院におけるジェノタイプ 1 型 C 型肝炎変症例に対する DAAs 治療効果について. 第 53 回日本肝臓学会総会, 広島, 2017.6.8-9
15. 鄭 浩柄: C 型肝炎変症例に対する DAAs 治療効果について. 第 5 回神戸肝炎シンポジウムー肝炎治療の最新見聞, 神戸, 2017.6.16
16. 福島政司: Young Endoscopist Session 6 小腸. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
17. 谷口洋平: Fresh Endoscopist Session 4 胆膵. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
18. 猪熊哲朗: ランチョンセミナー 3. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
19. 占野尚人, 福島政司, 森田周子, 猪熊哲朗, 今井幸弘: 当院における咽頭腫瘍の内視鏡切除. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
20. 和田将弥, 谷口洋平, 猪熊哲朗: 当院における膵疾患に対する診断的 EUS-FNA の現状. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
21. 畑森裕之, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 猪熊哲朗: 術後再建腸管の総胆管結石症例に対するダブルバルーン内視鏡 EPLBD の有用性、安全性についての検討. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
22. 豊永啓翔, 占野尚人, 青山直樹, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 上原慶一郎: メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の 1 例. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
23. 青山直樹, 福島政司, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 和田将弥, 森田周子, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 上原慶一郎: オルメサルタン内服が原因と考えられるスプルー様腸疾患の 1 例. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
24. 奥村 圭, 井上聡子, 青山直樹, 豊永啓翔, 畑森裕之, 伊藤卓彦, 松本一寛, 北本博規, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 占野尚人, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 診断に難渋し急速に病状が進行した小腸 T cell lymphoma の 1 例. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
25. 大久保佑樹, 占野尚人, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘: EMR にて切除しえた十二指腸 Brunner 腺癌の 2 例. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
26. 井上貴裕, 谷口洋平, 松本一寛, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 井上聡子, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 経乳頭のドレナージ術が有用であった門脈内穿破を来した膵仮性嚢胞の 1 例. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
27. 文原大貴, 森田周子, 大久保佑樹, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 貝原 聡: 胆嚢十二指腸瘻の 2 例. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
28. 片山宜郎, 和田将弥, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 十二指腸 NET の 4 例ー当院での治療経験の検討ー. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
29. 文原大貴, 森田周子, 大久保佑樹, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 胆嚢十二指腸瘻の 2 例. 第 40 回京大消化器内科関連病院症例検討会, 大阪, 2017.6.24

30. 井上貴裕：当院におけるエルバスビル+グラブプレビル併用療法について．第 32 回東神戸消化器疾患セミナー，神戸，2017.6.29
31. 井上聡子，大久保佑樹，文原大貴，青山直樹，豊永啓翔，奥村 圭，畑森裕之，井上貴裕，谷口洋平，福島政司，和田将弥，占野尚人，森田周子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗：当院におけるクローン病に対する内視鏡的バルーン拡張術の検討．第 51 回兵庫県内視鏡談話会，神戸，2017.7.5
32. 森田周子：当院における急性上部消化管出血の現状、鎮痛薬や抗血栓薬と出血の関連．東灘区内科医会学術講演会，神戸，2017.7.8
33. 鄭 浩柄：肝疾患診療における当院の院内連携について．兵庫県薬剤師肝炎治療薬抗ウイルス療法セミナー，神戸，2017.7.12
34. 鄭 浩柄：肝細胞癌に対する TACE の現状と展望．第 2 回 IVR セミナー，神戸，2017.7.28
35. 福島政司，大久保佑樹，文原大貴，青山直樹，豊永啓翔，奥村 圭，畑森裕之，井上貴裕，谷口洋平，福島政司，和田将弥，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗：Enteropathy-associated T Cell lymphoma の 1 例．第 28 回稀な腸疾患の内視鏡像を勉強する会，大阪，2017.8.5
36. 森田周子：内視鏡的胃全層切除の現状と可能性．ENDOSCOPY FORUM JAPAN 2017，小樽，2017.8.5-6
37. 井上聡子：潰瘍性大腸炎・クローン病ってどんな病気？ 第 1 回みなとじま IBD 薬剤師セミナー，神戸，2017.8.9
38. 占野尚人：胃癌を見つけて治す～胃カメラの役割～．第 14 回がん市民フォーラム，神戸，2017.8.19
39. 杉之下与志樹：ガイドラインによる肝発がんリスクと治療適応．C 型肝炎学術講演会，神戸，2017.9.2
40. 鄭 浩柄：Young Investigator Session 4 肝 3．日本消化器病学会近畿支部第 107 回例会，大阪，2017.9.23
41. 井上聡子：Freshman Session 2 大腸 2．日本消化器病学会近畿支部第 107 回例会，大阪，2017.9.23
42. 福島政司，井上聡子，猪熊哲朗，今井幸弘：当院における小腸悪性リンパ腫診断のストラテジー．日本消化器病学会近畿支部第 107 回例会，大阪，2017.9.23
43. 杉之下与志樹，鄭 浩柄，和田将弥，猪熊哲朗：ジェノタイプ 1b 型 C 型肝炎に対する DAAs 治療効果と治療後肝細胞癌発症例の検討．日本消化器病学会近畿支部第 107 回例会，大阪，2017.9.23
44. 和田将弥，谷口洋平，猪熊哲朗，今葎倍敏行：局所進行切除不能膵癌に対する動体追尾 IMRT のための EUS 下金マーカー留置術．日本消化器病学会近畿支部第 107 回例会，大阪，2017.9.23
45. 奥村 圭，杉之下与志樹，大久保佑樹，文原大貴，青山直樹，豊永啓翔，畑森裕之，井上貴裕，谷口洋平，福島政司，和田将弥，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，猪熊哲朗：当院における難治性腹水に対するトルバプタンの有効性の検討．日本消化器病学会近畿支部第 107 回例会，大阪，2017.9.23
46. 文原大貴，谷口洋平，大久保佑樹，青山直樹，豊永啓翔，奥村 圭，畑森裕之，井上貴裕，福島政司，和田将弥，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗：術後難治性胆汁瘻に対して fully covered self expandable metallic stent 留置が有用であった 1 例．日本消化器病学会近畿支部第 107 回例会，大阪，2017.9.23
47. 青山直樹，福島政司，大久保佑樹，文原大貴，豊永啓翔，奥村 圭，畑森裕之，井上貴裕，谷口洋平，和田将弥，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗，今井幸弘：当院における小腸濾胞性リンパ腫についての検討．日本消化器病学会近畿支部第 107 回例会，大阪，2017.9.23
48. 大久保佑樹，福島政司，文原大貴，青山直樹，豊永啓翔，奥村 圭，畑森裕之，井上貴裕，谷口洋平，和田将弥，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗：メッケル憩室診断におけるバルーン内視鏡の有用性．日本消化器病学会近畿支部第 107 回例会，大阪，2017.9.23
49. 城田祥吾，井上聡子，大久保佑樹，文原大貴，青山直樹，豊永啓翔，奥村 圭，畑森裕之，井上貴裕，谷口洋平，福島政司，和田将弥，占野尚人，森田周子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗：大量出血を繰り返し、小腸内視鏡が有用であった若年発症の空腸動脈瘤．日本消化器病学会近畿支部第 107 回例会，大阪，2017.9.23
50. Hatamori H, Fukushima M, Inokuma T : Efficacy and safety of urgent double balloon enteroscopy-assisted endoscopic retrograde cholangiopancreatography. APDW2017, Hong Kong, 2017.9.23-26
51. Inoue T, Taniguchi Y, Inokuma T : Endoscopic papillary large balloon dilation for large or multiple common bile duct stones: efficacy, safety, and stone recurrence. APDW2017, Hong Kong, 2017.9.23-26
52. Taniguchi Y, Inokuma T : Diagnosis of pancreatic lesions using a new EUS 22-Gauge aspiration needle. APDW2017. Hong Kong, 2017.9.25
53. Toyonaga H, Taniguchi Y, Inokuma T : Treatment results and safety of over-the-scope-clip system for gastrointestinal tract perforations and fistulas. APDW2017, Hong Kong, 2017.9.25

54. 福島政司, 井上聡子, 猪熊哲朗: オルサルメタン関連スプルー様腸疾患の臨床像. JDDW2017, 福岡, 2017.10.13
55. 谷口洋平, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院における膵癌診療の現状について. JDDW2017, 福岡, 2017.10.14
56. 森田周子: 拡大内視鏡画像の検討および病理対比について. 第2回新潟神戸拡大内視鏡研究会, 神戸, 2017.10.21
57. 森田周子: 当院でのPPI処方症例の検討. 第2回新潟神戸拡大内視鏡研究会, 神戸, 2017.10.21
58. 井上貴裕, 森田周子, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘: 拡大内視鏡画像の検討および病理対比について その3(胃). 第2回新潟神戸拡大内視鏡研究会, 神戸, 2017.10.21
59. Toyonaga H, Taniguchi Y, Wada M, Inokuma T: Unilateral versus bilateral stent-in-stent placement of metal stents for malignant hilar biliary obstruction. UEG2017, Barcelona, 2017.10.28-11.1
60. 猪熊哲朗: 機能性ディスぺプシア (FD) 診療の治療戦略. 第52回兵庫県内視鏡治療談話会, 神戸, 2017.11.8
61. 福島政司, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院における消化管出血に対する緊急バルーン内視鏡の現状. 第52回兵庫県内視鏡治療談話会, 神戸, 2017.11.8
62. 杉之下与志樹: B型肝炎ガイドラインにおけるベムリディ錠の位置づけ. Hepatitis Forum 2017 in 兵庫, 神戸, 2017.11.15
63. 森田周子: パネルディスカッション1 早期がん非治癒切除症例の長期予後. 第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18
64. 谷口洋平: 肝・膵臓. 第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18
65. 谷口洋平, 和田将弥, 猪熊哲朗: 当院におけるTS1膵癌の臨床的および画像的特徴の検討. 第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18
66. 井上貴裕, 森田周子, 占野尚人, 猪熊哲朗, 前田紘奈: 当院において局所切除術を施行した中・下咽頭表在癌の長期予後. 第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18
67. 豊永啓翔, 福島政司, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: Upside-down stomach を呈した横隔膜傍裂孔ヘルニアの1例. 第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18
68. 大久保佑樹, 谷口洋平, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 通過障害を来し内視鏡的に診断し得た乳癌転移の2例. 第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18
69. 奥村 圭, 占野尚人, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 治療に伴う経過を追えた胃・大腸Kaposi肉腫の1例. 第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18
70. 青山直樹, 和田将弥, 大久保佑樹, 文原大貴, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘: EUS-FNAで術前診断しえた胃Glomus腫瘍の1例. 第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18
71. 井上聡子, 福島政司, 猪熊哲朗: クロウン病に対する内視鏡的バルーン拡張術の有効性と限界. 第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18
72. 畑森裕之, 谷口洋平, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 井上貴裕, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 難治性胆管空腸吻合部狭窄に対してfully covered self-expandable metal stent留置が奏功した1例. 第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18
73. 文原大貴, 井上聡子, 大久保佑樹, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 初回内視鏡で診断に至らなかった大腸動静脈奇形の2例. 第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18

74. 上田智也, 占野尚人, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 腹部超音波検査 (US) が診断に有用であった小腸アニサキス症の1例. 第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18
75. 鄭 浩柄: 進歩したウイルス性肝炎治療の現状と課題. 垂水肝疾患フォーラム, 神戸, 2017.12.9
76. 豊永啓翔: Gastroenterology. 救急オープンセミナー, 神戸, 2017.12.27
77. 大久保佑樹: メッケル憩室診断におけるバルーン内視鏡の有用性. 第2回京都大学消化器内科学術交流会・同門会, 京都, 2018.1.20
78. 豊永啓翔, 井上聡子, 占野尚人, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 奥村 圭, 畑森裕之, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘: 症例提示 胃. 第356回兵庫県消化管研究会, 神戸, 2018.1.25
79. 猪熊哲朗: 慢性肝疾患と痒みフォーラム in 神戸, 神戸, 2018.1.26
80. 猪熊哲朗: 神戸消化器地域連携セミナー, 神戸, 2018.2.8
81. 谷口洋平: 膵癌早期診断へのとりくみー地域連携を活用した早期診断についてー. 神戸消化器地域連携セミナー, 神戸, 2018.2.8
82. 和田将弥: 胆道疾患の最近の診断と治療. 神戸消化器地域連携セミナー, 神戸, 2018.2.8
83. 猪熊哲朗: 新たなステージに入ったC型肝炎治療～同一レジメンの最短8週、パンジェノタイプ療法～. 神戸芝蘭消化器セミナー, 神戸, 2018.2.10
84. 杉之下与志樹: B型肝炎治療 今後の展望と課題. Hepatitis Forum 2018 in 兵庫, 神戸, 2018.2.15
85. 森田周子: 新潟京都拡大内視鏡研究会, 京都, 2018.2.17
86. 杉之下与志樹: ここまで診て欲しい! 膵臓の描出. 第23回阪神エコーレベルアップミーティング, 西宮, 2018.3.3
87. 猪熊哲朗: 慢性便秘治療ー腸管上皮機能からもたらされる福音ー. 慢性便秘治療フォーラム in KOBE OCEANS III, 神戸, 2018.3.8
88. 森田周子: 新潟岡山拡大内視鏡研究会, 岡山, 2018.3.10
89. 猪熊哲朗: 肝性脳症治療におけるリフキシマの治療効果. リフキシマ錠 200mg 発売1周年記念講演会, 神戸, 2018.3.10
90. 井上聡子: 症例ディスカッション あなたならどうする? 6th IBD Biologics Clinical Young Seminar, 神戸, 2018.3.16
91. 豊永啓翔, 井上聡子, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 繰り返し穿孔をきたした骨髄異形成症候群合併腸管ペーチェット病の1例. 6th IBD Biologics Clinical Young Seminar, 神戸, 2018.3.16
92. 占野尚人, 福島政司, 森田周子, 猪熊哲朗: 当院における胃癌 ESD 非治療切除例の検討. 日本消化器病学会近畿支部第108回例会, 京都, 2018.3.17
93. 福島政司, 井上聡子, 猪熊哲朗, 今井幸弘: 当院における小腸悪性腫瘍の診断と臨床像. 日本消化器病学会近畿支部第108回例会, 京都, 2018.3.17
94. 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院におけるC型肝炎に対するDAA治療成績とSVR後発癌. 日本消化器病学会近畿支部第108回例会, 京都, 2018.3.17
95. 大久保佑樹, 谷口洋平, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 悪性胆道狭窄に金属ステント留置後胆道出血をきたした1例. 日本消化器病学会近畿支部第108回例会, 京都, 2018.3.17
96. 豊永啓翔, 福島政司, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 出血制御のため緊急手術を要した小腸GISTの1例. 日本消化器病学会近畿支部第108回例会, 京都, 2018.3.17
97. 文原大貴, 杉之下与志樹, 大久保佑樹, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 慢性C型肝炎に対する直接作用型抗ウイルス薬(DAA)治療後に自己免疫肝炎を発症した1例. 日本消化器病学会近畿支部第108回例会, 京都, 2018.3.17

98. 青山直樹, 谷口洋平, 大久保佑樹, 文原大貴, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘: 通常型膵管癌との鑑別に EUS-FNA が有用であった NEC (neuroendocrine carcinoma) の 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 108 回例会, 京都, 2018.3.17
99. 唐渡修一郎, 井上聡子, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 限局性上部消化管アミロイドーシスの 2 例. 日本消化器病学会近畿支部第 108 回例会, 京都, 2018.3.17
100. 長尾宗一郎, 井上聡子, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: イレウスで発症した回腸子宮内膜症の 2 例. 日本消化器病学会近畿支部第 108 回例会, 京都, 2018.3.17
101. 森田周子: 食道がんの診断と治療について. 関西医薬学研究会, 神戸, 2018.3.18

VII. 1.6 呼吸器内科

1. 中川 淳: NHCAP と qSOFA スコア. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.21
2. 藤本大智, 佐藤悠城, 森本 剛, 上原慶一郎, 河内勇人, 森 令法, 平林亮介, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 浜川博司, 今井幸弘, 高橋 豊, 富井啓介: 間質性肺炎合併非小細胞癌における PD-L1 免疫染色の症例対照研究. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.21
3. 富井啓介: HFNC (高流量鼻カニューラ) と NPPV シンポジウム呼吸管理の新しい考え方. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.21
4. 立川 良: 閉塞性睡眠時無呼吸 (OSA) の新たな病態生理の解明と治療・管理の新展開. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.21
5. 森 令法, 古郷摩利子, 永田一真, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 伊藤宗洋, 藤本大智, 立川 良, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介: ピルフェニドン開始後早期 KL-6 の 1 年後 FVC 変化量の予測における有効性の検討. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.21
6. 河内勇人, 藤本大智, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 富井啓介: 進行期非小細胞肺癌における臨床試験適格患者と非適格患者の乖離. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.21
7. 新村里美, 簗谷雄二, 伯田琢郎, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 辰巳智美, 藤本大智, 松岡直樹: 当院でニボルマブを投与した肺癌患者の甲状腺関連 adverse event の検討. 第 90 回日本内分泌学会学術総会, 京都, 2017.4.22
8. 大塚浩二郎, 古郷摩利子, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 簗智幸政, 富井啓介: COPD 患者の増悪 / 肺炎時の急性期 CT における PA/A 比の検討. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.23
9. Tomii K: Acute exacerbation of IPF triggered by lung cancer treatment, Tokyo COsensus Statement for Lung Cancer with Interstitial lung disease. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.23
10. 古郷摩利子, 大塚浩二郎, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 富井啓介: IP 急性増悪における P/A の意義についての検討. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.23
11. 伊藤宗洋, 藤本大智, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 富井啓介: 進行期非小細胞肺癌患者の抗重力筋量の変化と予後の検討. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.23
12. 立川 良, 南 卓馬, 松本 健, 村瀬公彦, 谷澤公伸, 井内盛遠, 小賀 徹, 陳 和夫: CPAP 治療による閉塞性睡眠時無呼吸患者の習慣的睡眠時間の変化. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.23
13. 大塚浩二郎, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 簗智幸政, 富井啓介: ASK-12 によるアドヒアランスの評価とその後の増悪の関連. 第 66 回日本アレルギー学会学術講演会, 東京, 2017.6.16
14. 森 令法, 藤本大智, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 永田一真, 立川 良, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 富井啓介: ラムシルマブ不応性の悪性胸水にベバシズマブが有効であった肺腺癌の 1 例. 第 106 回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2017.6.24

15. 細谷和貴, 伊藤次郎, 森田真梨, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 石川隆之, 富井啓介: 肺腺癌に対するペムブロリズマブ投与後に急激な溶血発作を来した1例. 日本肺癌学会・関西支部学術集会, 大阪, 2017.6.24
16. 伊藤宗洋, 藤本大智, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 小坂恭弘, 小久保雅樹, 富井啓介: 当院におけるIII期非小細胞肺癌に対するシスプラチン・ペメトレキセド化学放射線同時併用療法の検討. 第106回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2017.6.24
17. 立川 良, 陳 和夫: CPAP遠隔医療の有効性を考えるー海外臨床試験の結果と実臨床ー. 日本睡眠学会, 横浜, 2017.6.29
18. 平林亮介, 中川 淳, 古郷摩利子, 細谷和貴, 河内勇人, 森 令法, 伊藤宗洋, 藤本大智, 永田一真, 立川良, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 瀬尾龍太郎, 藤倉航平, 今井幸弘, 富井啓介: インフルエンザB型に続発するMSSA肺炎、気管気管支炎、肺化膿症の1例. 第89回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2017.7.8
19. 細谷和貴, 河内勇人, 永田一真, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 藤本大智, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 富井啓介: 間質性肺炎急性増悪に対して、ヘルメットNPPVを用いて良好な忍容性が得られた1例. 日本呼吸器学会 近畿地方会, 大阪, 2017.7.8
20. 河内勇人, 伊藤次郎, 増田望穂, 中嶋正貴, 細谷和貴, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 吉岡信也, 古川 裕, 今井幸弘, 富井啓介: 右心カテーテル検査が診断の一助となった生存中に診断しえた卵巣癌によるPTTMの1例. 第119回日本結核病学会近畿地方会・第89回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2017.7.8
21. 森 令法, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 藤本大智, 永田一真, 立川 良, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 今井幸弘, 山鳥一郎, 富井啓介: 喫煙により多発結節影の出現と消退を繰り返した肺ランゲルハンス細胞組織球症の1例. 第89回日本呼吸器学会近畿地方会・第119回日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2017.7.8
22. 伊藤宗洋, 中川 淳, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 古郷摩利子, 藤本大智, 永田一真, 立川良, 大塚浩二郎, 簀智幸政, 富井啓介: 家族内で同時発症した肺吸虫症の1例. 第119回日本結核病学会近畿地方会・第89回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2017.7.8
23. 永田一真: 市中病院での呼吸管理の実態 (病棟使用を中心に). 第39回日本呼吸療法医学会学術集会, 東京, 2017.7.16
24. 永田一真: 在宅酸素療法の現状と課題. 第39回日本呼吸療法医学会学術集会, 東京, 2017.7.16
25. 永田一真: 終末期の苦痛緩和における呼吸療法の役割とは? (鎮静含め). 第39回日本呼吸療法医学会学術集会, 東京, 2017.7.16
26. 藤本大智, 森本 剛, 森 令法, 河内勇人, 平林亮介, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 富井啓介: 軽度特発性間質性肺炎合併非小細胞肺癌に対するニボルマブ治療の前向きパイロット試験. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017.7.27
27. 佐藤悠城: 4種類のPD-L1免疫染色法(28-8, 22C3, SP142, SP263)による染色性の相違と既治療費小細胞癌患者のNivolumabの治療効果との検討. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017.7.28
28. Kawachi H, Fujimoto D, Morimoto T, Ito M, Teraoka S, Sato Y, Nagata K, Nakagawa A, Otsuka K, Tomii K: Characteristics and Prognostic Impact of Patients with Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer Who Were Ineligible for Clinical Trials. ESMO 2017, Madrid, Spain, 2017.9.9
29. Kogo M, Otsuka K, Kawachi H, Hirabayashi R, Mori R, Ito M, Ito J, Sato Y, Teraoka S, Fujimoto D, Nagata K, Nakagawa A, Tomii K: Clinical role of CT scan-measured pulmonary artery to aorta ratio of acute exacerbation of interstitial lung disease. European Respiratory Society International Congress 2017, Milano, Italy, 2017.9.12
30. Nagata K, Kikuchi T, Horie T, Shiraki A, Kitajima T, Kadowaki T, Tokioka F, Chohnabayashi N, Watanabe A, Sato S, Tomii K: Domiciliary high-flow nasal cannula oxygen therapy for stable hypercapnic chronic obstructive pulmonary disease: a prospective, multicentre, randomised crossover trial. European Respiratory Society International Congress 2017, Milano, Italy, 2017.9.12
31. Fujiwara S, Yoshimura H, Mimura N, Ohira J, Ueda J, Ishii J, Kono T, Kawamoto M, Tomii K, Kohara N: Cerebrospinal Fluid Characteristics Of Encephalitis Associated With Immune Checkpoint Inhibitors. XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, 2017.9.18

32. 坂之上一朗, 浜川博司, 齋藤伴樹, 伊達直希, 富井啓介, 今井幸弘, 高橋 豊: 高度分葉不全を呈した間質性肺炎合併肺癌症例に対する完全鏡視下左肺下葉切除術. 第 58 回日本肺癌学会, 横浜, 2017.10.14
33. 伊藤宗洋, 藤本大智, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤次郎, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 今井幸弘, 富井啓介: 当院における進行期非小細胞肺癌に対する Nivolumab と Hyperprogression の検討. 第 58 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 2017.10.15
34. 河内勇人, 藤本大智, 細谷和貴, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 立川良, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 今井幸弘, 富井啓介: PD-L1 判定は市中病院病理部で可能か. 第 58 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 2017.10.15
35. Fujimoto D, Yoshioka H, Kataoka Y, Morimoto T, Hak Kim H Y, Tomii K, Ishida T, Hirabayashi M, Hara S, Ishitoko M, Fukuda Y, Hwang H M, Sakai N, Fukui M, Nakaji H, Morita M, Mio T, Yasuda T, Sugita T, Hirai T: Real-world data of nivolumab for previously treated non-small cell. World conference of lung cancer, Yokohama, 2017.10.17
36. 細谷和貴, 立川 良, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 富井啓介, 田中 淳, 石川隆之: 骨髄・関節病変を伴った, シェーグレン症候群合併難治性サルコイドーシスの 1 例. 第 37 回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会, 名古屋, 2017.11.3
37. 富井啓介: 間質性肺炎の終末期ケア. 第 27 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 仙台, 2017.11.17
38. Fujimoto D, Yokoyama T, Yoshioka H, Demura Y, Hirano K, Kawai T, Kagami R, Ishida T, Tomii K, Akai M, Hirabayashi M, Nishimura T, Nakahara Y, Kim H Y, Yoshimura K, Hirai T: A phase II study of low-dose afatinib as first-line treatment in patients with EGFR mutation-positive non-small-cell lung cancer (KTORG1402). ESMO ASIS, Singapore, 2017.11.18
39. 永田一真: 急性期の呼吸管理の実際～Ⅱ型呼吸不全～. 第 27 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 仙台, 2017.11.18
40. Nakagawa A: Pulmonary Tuberculosis Associated with Interstitial Lung Disease. APSR 2017, Sydney, Australia, 2017.11.24
41. Otsuka K, Kogo M, Nakagawa A, Hosoya K, Kawachi H, Mori R, Hirabayashi R, Ito M, Fujimoto D, Nagata K, Tachikawa R, Hatachi Y, Tomii K: Pulmonary Arterial Enlargement During Exacerbation or Pneumonia and Its Association with Clinical Indices of Acute and Stable Stage in Copd. APSR, Sydney, Australia, 2017.11.24
42. Kogo M: The effect of introducing home NPPV use in patients following acute hypercapnic respiratory failure due to chronic respiratory disorder. APSR, Sydney, Australia, 2017.11.24
43. 森 令法, 立川 良, 伊藤宗洋, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 古郷摩利子, 藤本大智, 永田一真, 中川淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 西久保雅司, 井本寛東, 西岡弘晶, 増田泰之, 長野 徹, 今井幸弘, 富井啓介: 血管炎様の全身症状を呈したバゼドキシフェン (SERM) による薬剤性肺炎の 1 例. 第 90 回日本呼吸器学会近畿地方会・第 120 回日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2017.12.16
44. 河内勇人, 中川 淳, 齋藤伴樹, 細谷和貴, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 藤本大智, 永田一真, 立川 良, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 今井幸弘, 高橋 豊, 富井啓介: 乳癌と同時に偶発的に指摘され転移性肺腫瘍との鑑別に苦慮した diffuse pulmonary meningotheliomatosis (DPM) の 1 例. 第 90 回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2017.12.16
45. 平林亮介, 立川 良, 細谷和貴, 河内勇人, 森 令法, 伊藤宗洋, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 富井啓介: 間質性肺炎に合併した Nocardia farcinica 肺炎の 1 例. 第 90 回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2017.12.16
46. 細谷和貴, 立川 良, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 藤本大智, 永田一真, 中川淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 富井啓介: 骨髄・関節病変を伴った, シェーグレン症候群合併難治性サルコイドーシスの 1 例. 第 90 回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2017.12.16
47. 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 今井幸弘, 富井啓介: 結核性胸膜炎と鑑別を要した IgG4 関連胸膜炎の 1 例. 第 90 回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2017.12.16
48. 細谷和貴, 森 令法, 立川 良, 河内勇人, 平林亮介, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 富井啓介: 肺腺癌に伴う Trousseau 症候群をきたし, 多発肺塞栓により死亡した 1 例. 第 107 回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2018.2.17

49. 河内勇人, 立川 良, 細谷和貴, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 今井幸弘, 富井啓介: Nivolumab 投与後に日和見感染症の急激な悪化を来たした ACTH 産生非小細胞肺癌の 1 例. 日本肺癌学会近畿地方会, 大阪, 2018.2.17
50. 河内勇人, 立川 良, 細谷和貴, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 今井幸弘, 富井啓介: Nivolumab 投与後に日和見感染症の急激な悪化を来たした ACTH 産生非小細胞肺癌の 1 例. 日本肺癌学会近畿地方会, 大阪, 2018.2.17

VII. 1.7 血液内科

1. 下村良充, 丸岡隼人, 石川隆之: PRKG2-PDGFRb(+) の AML の 1 例. 第 11 回神戸血液セミナー, 神戸, 2017.4.8
2. 石川隆之: MDS: 治療の最適化に向けて. MDS フォーラム in 福井, 福井, 2017.5.23
3. 小野祐一郎: 当院でエロツズマブを使用した再発難治性多発性骨髄腫の 3 例. 神戸血液疾患症例検討会, 神戸, 2017.6.9
4. 松下章子: 当院での PV におけるルキソリチニブの使用経験. 骨髄増殖性腫瘍を考える会 in 播磨, 姫路, 2017.6.16
5. 森田真梨, 藪下知宏, 松下章子, 石川隆之: 初回寛解導入不能 AML に対する MEC 療法での治療成績. 第 107 回近畿血液学地方会, 大阪, 2017.6.17
6. 中村桃子, 吉岡 聡, 藪下知宏, 石川隆之: 進行性の汎血球減少と末期腎不全を合併した慢性リンパ性白血病に対しイブルチニブが奏功した 1 例. 第 107 回近畿血液学地方会, 大阪, 2017.6.17
7. 藪下知宏, 中村桃子, 吉岡 聡, 石川隆之: CMML 経過観察中に DLBCL を発症した 1 例. 第 107 回近畿血液学地方会, 大阪, 2017.6.17
8. Yabushita T, Shimomura Y, Kato D, Nakamura M, Morita M, Fujimoto A, Ono Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Hashimoto H, Ishikawa T: Multiple leukemic stem cell marker expression is associated with poor prognosis in de novo acute myeloid leukemia. The 22nd European Hematology Association Congress, Madrid, 2017.6.22.
9. 藪下知宏, 吉岡 聡, 中村桃子, 石川隆之: Diffuse large B-cell lymphoma with t(8;14)(q24;q32) and a whole-arm translocation der(1;8)(q10;q10). 第 57 回リンパ網内系学会, 東京, 2017.7.1
10. 藪下知宏, 吉岡 聡, 森 拓人, 加藤まどか, 中村桃子, 森田真梨, 田中 淳, 藤本亜弓, 下村良充, 小野祐一郎, 平本展大, 米谷 昇, 松下章子, 石川隆之: 臓器不全を伴う flare 発症後に臍帯血移植にて救命できた慢性活動性 EBV 感染症. 第 12 回 Meet the Hematologist, 京都, 2017.7.1
11. 石川隆之: 貧血あれこれ 血が薄くなった時のために. 土曜健康科学セミナー, 神戸, 2017.7.8
12. 石川隆之: MDS: 治療の最適化に向けて. 山陰 MDS フォーラム, 出雲, 2017.7.13
13. 森田真梨, 吉岡 聡, 小野祐一郎, 松下章子, 石川隆之: 当院における TP53 変異陽性 MDS に対する azacitidine 使用の検討. 第 78 回兵庫県白血病懇話会, 神戸, 2017.7.22
14. 藪下知宏, 真砂勝泰, 平本展大, 石川隆之: Inflammatory myofibroblastic tumor of retroperitoneum with multiple ALK fusions: a case report. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017.7.28
15. Yabushita T, Ono Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Hashimoto H, Ishikawa T: Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for patients with advanced-stage extranodal NK/T-cell lymphoma in our institution. The International Congress of BMT 2017, Soul, 2017.8.24
16. 吉岡 聡: 新時代の多発性骨髄腫治療. 兵庫県病院薬剤師会東西神戸支部合同学術講演会, 神戸, 2017.8.24
17. 藪下知宏, 小野祐一郎, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 石川隆之: 当院におけるステロイド抵抗性急性 GVHD に対するテムセルの使用経験. 第 53 回日本移植学会総会, 旭川, 2017.9.9
18. 田中 淳: 当院のカルフェルゾミブ使用経験. multiple myeloma in 兵庫, 神戸, 2017.9.22
19. 石川隆之: 骨髄異形成症候群の病態と最新治療. 再生つばさの会名古屋医療講演会, 名古屋, 2017.9.23
20. 藪下知宏, 吉岡 聡, 加藤まどか, 田中 淳, 平本展大, 米谷 昇, 山下大祐, 今井幸弘, 石川隆之: IgG4 関連唾液腺炎に対して無治療経過観察中に発症したびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の 1 例. 第 45 回日本臨床免疫学会, 東京, 2017.9.29
21. 中村桃子, 吉岡 聡, 藤本亜弓, 下村良光, 石川隆之: 当院の初発多発性骨髄腫における RVd 療法の検討. Hyogo Myeloma & Lymphoma Forum, 神戸, 2017.9.29

22. 森 拓人, 小野祐一郎, 楠本寿子, 石川隆之: 著名な赤血球自己凝集を伴う温式自己免疫性貧血を合併した骨髓異形成症候群. 第 59 回神戸血液病研究会, 神戸, 2017.10.7
23. 武内 傑, 直川匡晴, 北野俊行, 中谷英仁, 錦織桃子, 菱澤方勝, 米澤昭仁, 大野仁嗣, 石川隆之, 伊藤 満, 森口寿徳, 高折晃史: 再発・難治低悪性度リンパ腫患者に対するベンダムスチンとリツキシマブ併用療法の有効性. 第 79 回日本血液学会総会, 東京, 2017.10.21
24. 藪下知宏, 平本展大, 丸岡隼人, 中村桃子, 森田真梨, 藤本亜弓, 加藤大祐, 下村良充, 小野祐一郎, 吉岡聡, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之: De novo DLBCL における BIOMED2 法の VHFR3/JH 反応が予後に与える影響について. 第 79 回日本血液学会総会, 東京, 2017.10.21
25. 田中 淳, 藪下知宏, 吉岡 聡, 石川隆之: ベンダムスチン投与歴のある濾胞性リンパ腫の再発に対し、ベンダムスチンの再投与を行った 10 例の検討. 第 79 回日本血液学会総会, 東京, 2017.10.22
26. 森田真梨, 加藤大祐, 田中 淳, 下村良充, 中村桃子, 藪下知宏, 藤本亜弓, 小野祐一郎, 平本展大, 吉岡 聡, 橋本朗子, 田中康博, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 新里偉咲, 石川隆之: 再発難治性 PTCL-NOS において血清可溶性インターロイキン受容体値は独立した予後因子である. 第 79 回日本血液学会総会, 東京, 2017.10.22
27. 頼 晋也, 中前博久, 内田俊樹, 豊嶋崇徳, 中世古知昭, 伊豆津宏二, 畠 清彦, 北野俊行, 赤司浩一, 鶴見 寿, 金倉 譲, 中島秀明, 上田恭典, 長藤宏司, 大嶺 謙, 飛内賢正, 鈴宮淳司, 石田陽治, 張 高明, 田村秀人, 石川隆之, 上田英典, 力石 洋, 辰巳陽一: 日本人 DLBCL 患者におけるオビヌツズマブの有効性及び安全性: GOYA 試験部分集団解析. 第 79 回日本血液学会総会, 東京, 2017.10.22
28. 木下朝博, 安藤 潔, 熊谷匡也, 畠 清彦, 石川隆之, 豊嶋崇徳, 加藤光次, 伊豆津宏二, 上田英典, 中井清彦, 力石 洋, 飛内賢正: オビヌツズマブ投与時間短縮投与の日本人 NHL 患者に対する安全性及び忍容性. 第 79 回日本血液学会総会, 東京, 2017.10.22
29. 飛内賢正, 木下朝博, 石川隆之, 畠 清彦, 市川 聡, 大嶺 謙, 上辻由里, 崔 日承, 張 高明, 塚崎邦弘, 熊谷匡也, 谷脇雅史, 内田俊樹, 菊川佳敬, 久保恒明, 三原圭一郎, 塚本憲史, 伊豆津宏二, 吉田 功, 石田文宏, 薄井紀子, 飯田真介, 村山 徹, 上田英典, 力石 洋, 安藤 潔: 日本人 FL 患者におけるオビヌツズマブの有効性及び安全性: GALLIUM 試験部分集団解析. 第 79 回日本血液学会総会, 東京, 2017.10.22
30. 徳永隆之, 飛内賢正, 永井宏和, 前田嘉信, 中根孝彦, 下山 達, 中里朝周, 酒井リカ, 石川隆之, 伊豆津宏二, 上田龍三: 日本人再発・難治性末梢性 T 細胞リンパ腫患者を対象としたプララトレキセートの第 I/II 相臨床試験. 第 79 回日本血液学会総会, 東京, 2017.10.22
31. 中村桃子, 吉岡 聡, 森田真梨, 藪下知宏, 加藤大祐, 藤本亜弓, 下村良充, 小野祐一郎, 平本展大, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之: アザシチジンの投与量と治療効果に関する検討. 第 79 回日本血液学会総会, 東京, 2017.10.22
32. 石川隆之: MDS: 治療の最適化に向けて. 第 8 回神奈川 MDS 研究会, 横浜, 2017.11.17
33. 加藤まどか, 田中 淳, 藪下知宏, 平本展大, 米谷 昇, 石川隆之: Monoclonal gammopathy of renal significance (MGRS) を疑ったが、腎障害の原因が形質細胞浸潤であった 1 例. 第 108 回近畿血液学地方会, 大阪, 2017.11.18
34. 森 拓人, 小野祐一郎, 楠本寿子, 石川隆之, 亀崎豊美: 著名な赤血球自己凝集を伴う温式自己免疫性貧血を合併した骨髓異形成症候群. 第 108 回近畿血液学地方会, 大阪, 2017.11.18
35. 平本展大: CML 加療中に Lymphoid Crisis をきたした 1 例. CML case study conference, 神戸, 2017.11.30
36. Shimomura Y, Maruoka H, Yabushita T, Hashimoto H, Ishikawa T: Minimal Residual Disease after Allogeneic Stem Cell Transplantation Was Associated with Poor Outcomes in Patients with Acute Myeloid Leukemia. 59th American Society of Hematology annual meeting and exposition, Atlanta, 2017.12.9
37. Yabushita T, Maruoka H, Shimomura Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Hashimoto H, Ishikawa T: The Prognostic Significance of the Complete IgH Rearrangement Pattern Using the BIOMED-2 Protocol in Diffuse Large B-Cell Lymphoma. 59th American Society of Hematology annual meeting and exposition, Atlanta, 2017.12.10
38. Shimomura Y, Morita M, Hashimoto H, Ishikawa T: Fluid Overload Early after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation Was Associated with Poor Survival. 59th American Society of Hematology annual meeting and exposition, Atlanta, 2017.12.10
39. Morita M, Shimomura Y, Hashimoto H, Ishikawa T: Low Peripheral Blood Eosinophil Counts in Patients with Acute Graft-Versus-Host-Disease Prior to Systemic Corticosteroid Therapy Is Associated with Poor Prognosis. 59th American Society of Hematology annual meeting and exposition, Atlanta, 2017.12.11

40. 石川隆之：MDS の診断と治療－移植医療を中心に． Future Hematology Forum, 広島, 2017.12.16
41. 加藤まどか：同種移植を行った Sezary 症候群の 1 例． 第 79 回兵庫県白血病懇話会, 神戸, 2018.1.13
42. 田中 淳, 薮下知宏, 吉岡 聡, 石川隆之：非ホジキンリンパ腫に対する自家末梢血幹細胞移植における移植時 sIL2R 値と予後の関係． 第 40 回日本造血細胞移植学会総会, 札幌, 2018.2.2
43. 下村良充, 上田浩之, 藤倉浩平, 今井幸弘, 石川隆之：Encapsulating peritoneal sclerosis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. 第 40 回日本造血細胞移植学会総会, 札幌, 2018.2.2
44. 加藤まどか, 薮下知宏, 吉岡 聡, 森 拓人, 中村桃子, 森田真梨, 田中 淳, 藤本亜弓, 下村良充, 小野祐一郎, 平本展大, 米谷 昇, 松下章子, 石川隆之：臓器不全を伴う flare 発症後に臍帯血移植で救命できた慢性活動性 EBV 感染症． 第 40 回日本造血細胞移植学会総会, 札幌, 2018.2.2
45. 森田真梨, 下村良充, 橋本尚子, 石川隆之：Low peripheral blood eosinophil counts is an unfavorable factor for acute graft-versus-host-disease. 第 40 回日本造血細胞移植学会総会, 札幌, 2018.2.3
46. 下村良充, 丸岡隼人, 薮下知宏, 石川隆之：Minimal Residual Disease after Allogeneic Stem Cell Transplantation Was Associated with Poor Outcomes. 第 40 回日本造血細胞移植学会総会, 札幌, 2018.2.3
47. 森 拓人, 小野祐一郎, 加藤まどか, 田中 淳, 森田真梨, 中村桃子, 薮下知宏, 藤本亜弓, 下村良充, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 川本未知, 幸原伸夫, 石川隆之：POEMS 症候群に対する自家末梢血造血幹細胞移植と非移植療法の成績の比較． 第 40 回日本造血細胞移植学会総会, 札幌, 2018.2.3
48. 田中 淳：再発濾胞性リンパ腫に対する RB 療法再投与の当院の経験． Hematology Conference in Kobe, 神戸, 2018.2.9
49. 田中 淳, 薮下知宏, 平本展大, 石川隆之：T 細胞と B 細胞の composite lymphoma の 1 例． 第 60 回神戸血液病研究会, 神戸, 2018.2.10
50. 中村桃子, 吉岡 聡, 藤本亜弓, 下村良充, 石川隆之：エロツズマブを維持療法に用いた多発性骨髄腫の 1 例． 第 4 回椿の会, 神戸, 2018.3.9

VII. 1.8 腫瘍内科

1. 安井久晃：医療者と患者さんの家族の健康を守る！抗がん剤曝露対策． 医療安全研修会, 神戸, 2017.5.30
2. Shinozaki K, Yuki S, Kashiwada T, Kusumoto T, Iwatsuki M, Satake H, Kobayashi K, Esaki T, Nakashima Y, Kubo N, Tokunaga S, Shimose T, Makiyama A, Saeki H, Oki E, Baba H, Maehara Y: A phase II study (KSCC/HGCSG/CCOG/PerSeUS1501B) of trastuzumab plus S-1 and oxaliplatin for HER2-positive advanced gastric cancer. 2017 ASCO annual meeting, Chicago, 2017.6.2-6
3. Hashida H, Satake H, Tanioka H, Miyake Y, Yoshioka S, Watanabe T, Matsuura M, Kyogoku T, Inukai M, Kotake T, Okita Y, Hatachi Y, Yasui H, Kotaka M, Kato T, Kaihara S, Tsuji A: Hepatectomy followed by adjuvant chemotherapy with capecitabine plus oxaliplatin for three months for colorectal cancer liver metastases: A multicenter phase 2 study. 2017 ASCO annual meeting, Chicago, 2017.6.2-6
4. Satake H, Miki A, Murotani K, Yasui H, Tsuji A: The quality of life (QoL) assessment of oxaliplatin-based preoperative chemotherapy for locally advanced gastric cancer: An integration analysis of two prospective phase I study. 2017 ASCO annual meeting, Chicago, 2017.6.2-6
5. 安井久晃：みんなで取り組もう！抗がん剤曝露対策． 尼崎総合医療センター第 6 回がん診療連携拠点病院医療者研修会, 尼崎, 2017.6.15
6. Kotaka M, Satake H, Yasui H, Hatachi Y, Ogata T, Okita Y, Kato T, Tsuji A: Triplet plus monoclonal-targeted drug for chemotherapy-naïve metastatic colorectal cancer. 19th WCGC, Barcelona, 2017.6.29-7.1
7. Satake H, Kito Y, Taniguchi H, Horie Y, Yamada T, Esaki T, Denda T, Mori K, Yamazaki K: Dose finding phase Ib study of FOLFOXIRI plus ramucirumab as first-line therapy for patients with metastatic colorectal cancer: the initial safety analysis. 19th WCGC, Barcelona, 2017.6.29-7.1
8. 緒方貴次：乳がんによるびまん性浸潤型肝転移により急性肝不全、肝腎症候群を呈した 1 例． 第 25 回日本乳癌学会学術総会, 福岡, 2017.7.13-15
9. 安井久晃：曝露対策ガイドラインについて． 第 25 回日本乳癌学会ランチョンセミナー, 福岡, 2017.7.15
10. Satake H, Kato T, Kagawa Y, Komatsu Y, Oki E, Yoshino T, Yamazaki K, Yasui H, Shibuya K, Oba K, Yamaguchi K: A phase I/II study for Panitumumab combined with TAS-102 in patients with RAS wild-type mCRC: Phase I results. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017.7.27-29

11. Hatachi Y, Koteke T, Satake H, Ogata T, Ogata M, Okita Y, Yasui H, Tsuji A : Feasibility study of FOLFIRINOX as first-line chemotherapy for metastatic pancreatic cancer (KOBE FOLFIRINOX study). 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017.7.27-29
12. 砂川 優, 佐竹悠良, 宮本裕士, 中村将人, 中山裕史, 樋口晃生, 竹内正弘, 藤井雅志, 関川高志, 市川度 : RAS 変異型大腸がんに対する modified-FOLFOXIRI plus bevacizumab 療法の第II相試験の中間安全性解析 (JACCRO CC-11). 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017.7.27-29
13. 緒方貴次, 佐竹悠良, 簗智幸政, 辻 晃仁, 安井久晃 : 胆嚢癌/胆管癌に対する術後補助化学療法の再発危険因子と有効性の検討 : 後方視的研究. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017.7.27-29
14. 木川雄一郎, 簗智幸政, Gerhard Rumpold, 緒方貴次, 佐竹悠良, 加藤大典, 辻 晃仁, 安井久晃, Bernhard Holzner : 転移乳癌患者における Computer-based Health Evaluation System (CHES) を用いた HRQoL 評価の有効性を検討するパイロット研究. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017.7.27-29
15. 戸原綾子, 濱田麻美子, 小林亜由美, 岩田奈美, 平昌正樹, 近藤祐未, 簗智幸政, 佐竹悠良, 安井久晃, 辻 晃仁 : 新型化学療法専用携帯型ポンプ開発と導入についての検討. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017.7.27-29
16. 緒方貴次 : 抗 PD-1 抗体薬による腸炎のマネジメント. 関西若手腫瘍内科の会, 神戸, 2017.8.25
17. 佐竹悠良, 簗智幸政, 猪熊哲郎, 安井久晃 : 当院における進行再発大腸がん化学療法の実際. 日本消化器病学会近畿支部第107例会, 大阪, 2017.9.23
18. 安井久晃 : 免疫療法～最新の話と治療経験～エビデンスと有害事象. 第16回兵庫胃がん治療研究会, 神戸, 2017.9.29
19. 安井久晃 : 大腸癌化学療法をどう個別化するか. Colorectal Cancer Forum in Kobe 2017, 神戸, 2017.10.5
20. 安井久晃 : 大腸癌の OS 延長を目指した最適な治療戦略とは? FOLFOXIRI 症例提示. Chugai Colorectal Cancer Symposium in HYOGO, 神戸, 2017.10.6
21. 安井久晃 : 抗がん薬曝露対策におけるガイドラインの役割. 第3回宮城がんチーム医療セミナー, 仙台, 2017.10.7
22. 緒方貴次, 尾上琢磨, 境 秀樹, 西村明子, 緒方美里, 佐竹悠良, 簗智幸政, 安井久晃, 松本光史 : 抗 PD-1 抗体薬による腸炎のマネジメント. 中央区医師会, 神戸, 2017.10.14
23. 緒方貴次, 新城拓也, 緒方美里, 平野達也, 薩摩由香里, 大音美枝子, 梅田節子, 大谷恭平, 松石邦隆, 佐竹悠良, 簗智幸政, 安井久晃, 李 美於 : 急性期病院における緩和医療の実態の後方視的調査. 第55回日本癌治療学術集会, 横浜, 2017.10.20-22
24. 安井久晃 : 患者の立場に立って理解する. がんの治療と暮らしのサポーター研修, 東京, 2017.11.12
25. 安井久晃 : がん化学療法総論. がん専門薬剤師研修講義, 神戸, 2017.11.13
26. Ogata T, Shimomura Y, Ogata M, Nakamura M, Fujimoto A, Yoshioka S, Satake H, Hatachi Y, Yasui H, Imai Y, Ishikawa T : A dramatic improvement in T-cell/histiocyte rich B-cell lymphoma associated immune thrombocytopenia treated with chemotherapy : a case report. ESMO Asia 2017, Singapore, 2017.11.17-19
27. Ogata M, Satake H, Ogata T, Hatachi Y, Yasui H : The effectiveness of crizotinib for inflammatory myofibroblastic tumor. ESMO Asia 2017, Singapore, 2017.11.17-19
28. 安井久晃 : 最新の分子標的薬. ひょうご県民がんフォーラム, 神戸, 2017.11.18
29. 安井久晃 : 膵癌化学療法の現況. 神戸市医師会学術講演会, 神戸, 2017.12.9
30. Sunagawa Y, Satake H, Usher L J, Jaimes S Y, Miyamoto Y, Nakamura N, Nakayama H, Sugano N, Takagane A, Gotoh M, Watanabe T, Ishigure K, Tanaka C, Takeuchi M, Fujii M, Danenberg K, Lenz J H, Seikawa T, Ichikawa W : Initial therapy with FOLFOXIRI plus bevacizumab (bev) for RAS mutant metastatic colorectal cancer (mCRC) and gene mutations in circulating DNA (ctDNA) as a predictive marker for the efficacy : JACCRO CC-11. ASCO-GI, San Francisco, 2018.1.18-20
31. Sagawa T, Satake H, Fujikawa K, Hatachi Y, Yasui H, Kotaka M, Kato T, Tsuji A : Phase I b study of Ramcirumab and Irinotecan for metastatic gastric cancer previously treated with Fluoropyrimidine with/without Platina and Taxane. ASCO-GI, San Francisco, 2018.1.18-20

32. Nakamura M, Munemoto Y, Takahashi M, Kotaka M, Kuroda H, Kato T, Minagawa M, Noura S, Fukunaga M, Kuramochi H, Touyama T, Takahashi T, Akagi Y, Satake H, Kurosawa S, Miura T, Mishima H, Sakamoto J, Oba K, Nagata N : SAPPHERE : A randomized phase II study of mFOLFOX6 + panitumumab versus 5-FU/LV + panitumumab after 6 cycles of frontline mFOLFOX6 + panitumumab in patients with colorectal cancer. ASCO-GI, San Francisco, 2018.1.18-20
33. Satake H, Hashida H, Tanioka H, Miyake Y, Yoshioka S, Watanabe T, Matsuura M, Kyogoku T, Inukai M, Kotake T, Okita Y, Hatachi Y, Yasui H, Kotaka M, Kato T, Kaihara S, Tsuji A : Survival results of hepatectomy followed by adjuvant chemotherapy with three months of capecitabine plus oxaliplatin for colorectal cancer liver metastases : A multicenter phase II study. ASCO-GI, San Francisco, 2018.1.18-20
34. 安井久晃 : 進行再発大腸癌における Triplet レジメンの使い方. 第 8 回宝塚大腸癌 Meet The Expert, 宝塚, 2018.2.1
35. 安井久晃 : 進行再発大腸癌に対する化学療法の考えかた. Meet The Expert on Colorectal Cancer in Amagasaki, 尼崎, 2018.2.16
36. 安井久晃 : 大腸癌化学療法 Up to date. 第 22 回関西がんチーム医療研究会, 大阪, 2018.3.3
37. 佐竹悠良, 佐川 保, 藤川幸司, 簗智幸政, 安井久晃, 辻 晃仁 : 進行再発胃癌に対するイリノテカン + ラムシルマブ併用化学療法の第 Ib 相試験. 第 90 回日本胃癌学会総会, 横浜, 2018.3.7-9
38. 緒方貴次, 佐竹悠良, 緒方美里, 簗智幸政, 安井久晃 : 放射線治療を行った胃癌患者に対するニボルマブ単回投与後の照射野内 Hyperprogression ; 症例報告. 日本消化器病学会近畿支部・第 108 回例会, 京都, 2018.3.17
39. 安井久晃 : 大腸癌治療のパラダイムシフト : Opening Remarks. 大腸癌治療のパラダイムシフト in 兵庫, 神戸, 2018.3.27

VII. 1.9 感染症科

1. 上月友寛, 土井朝子, 蓮池俊和, 西岡弘晶 : 腎膿瘍を合併した *Abiotrophia defectiva* による感染性心内膜炎の 1 例. 第 91 回日本感染症学会総会, 東京, 2017.4.6
2. 蓮池俊和, 土井朝子, 吉崎亜衣沙, 西岡弘晶 : 菌血症を合併した thoracic actinomycosis の 1 例. 第 91 回日本感染症学会総会, 東京, 2017.4.6
3. 西岡弘晶 : 耳鼻科領域でも役立つ, グラム染色を用いた感染症診療. 第 208 回兵庫県耳鼻咽喉科会臨床懇話会, 神戸, 2017.4.9
4. 志水隼人, 水野泰志, 西岡弘晶 : 生物学製剤使用中に急速破壊型股関節症に類似した経過を辿った関節リウマチの 1 例. 第 60 回日本リウマチ学会総会学術集会, 博多, 2017.4.20
5. 土井朝子 : How to manage CMV infections ? 第 13 回 FLEEKIC, 神戸, 2017.5.28
6. 東別府直紀, 讃井将満, 祖父江和哉, 西岡弘晶, Daren KH : 国際栄養調査に参加後, 栄養療法は改善する. 第 9 回日本静脈経腸栄養学会近畿支部学術集会, 京都, 2017.6.24
7. 吉崎亜衣沙, 水野泰志, 西岡弘晶 : 骨髄線維症治療中に発症した大血管炎の 1 例. 第 216 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2017.7.1
8. 土井朝子 : 発熱 : 感染症内科の立場から. 第 1 回神戸内科塾, 神戸, 2017.7.8
9. 西岡弘晶 : 古くて新しい感染症診療のコツ. 神戸市兵庫区医師会学術講演会, 神戸, 2017.8.18
10. 土井朝子 : 意外に減らせる ! DU 製剤. 第 50 回 IDATEN インタラクティブケースカンファレンス, 東京, 2017.9.2
11. 進藤達哉, 西岡弘晶, 増田泰之, 今井幸弘 : プラジカンテルによる急性汎発性発疹性膿疱症の 1 例. 第 217 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2017.9.16
12. 杉田 直, 西田明弘, 許沢尚弘, 實野阿佑美, 高橋政代, 栗本康夫, 進藤達哉, 土井朝子, 西岡弘晶 : AIDS 患者に見られた眼内アデノウイルス陽性の壊死性網膜炎を伴う汎ぶどう膜炎の 1 例. 第 71 回日本臨床眼科学会, 東京, 2017.10.12
13. 土井朝子 : 感受性結果の読み方. 第 5 回神戸感染症セミナー, 神戸, 2017.10.14
14. 蓮池俊和 : HIV 患者さんの見方. 第 5 回神戸感染症セミナー, 神戸, 2017.10.14
15. 進藤達哉, 水野泰志, 西岡弘晶 : 抗菌薬事前投与を受けていない化膿性関節炎の診断における関節液グラム染色の有用性. 第 60 回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 長崎, 2017.10.27

16. 土井朝子：2017年度感染管理講習会，神戸（甲南病院），2017.10.30
17. 西久保雅司，井本寛東，志水隼人，金森真紀，西岡弘晶：青いのに、青くないもの。京都 GIM カンファレンス，京都，2017.12.1
18. 進藤達哉，金森真紀，西岡弘晶：基礎疾患のない壮年期男性に生じた、菌血症を伴う A 群溶血性連鎖球菌性肺炎の 1 例。第 218 回日本内科学会近畿地方会，神戸，2017.12.2
19. 西久保雅司，井本寛東，志水隼人，西岡弘晶：咽頭炎を契機に発症したと考えられた *Streptococcus pyogenes* による成人人工弁感染性心内膜炎の 1 例。第 218 回日本内科学会近畿地方会，神戸，2017.12.2
20. 楠田かおり，西岡弘晶，池村 舞，西岡和子，東別府直紀，橋田 亨：胃酸分泌抑制薬がペクチン含有濃厚流動食の下痢改善効果に及ぼす影響。第 15 回大学－医療連携講演会，神戸，2017.12.4
21. 高津絵梨香，藤原 悟，竹中麻理子，岩本昌子，杉岡ふみ子，出口千尋，西岡弘晶：脊髄性筋萎縮症 2 型患者に実測安静時エネルギー消費量を用いて栄養介入した 1 例。第 21 回日本病態栄養学会学術集会，京都，2018.1.14
22. 西岡弘晶：診断スキルを磨く～もう一度病歴とバイタルサインから考えてみよう～。FFG カンファレンス，奈良，2018.1.25
23. 志水隼人，水野泰志，西岡弘晶：TAFRO 症候群や POEMS 症候群かどうかの判断に苦慮している多中心性キャスルマン病の 1 例。第 48 回神戸免疫・膠原病懇話会，神戸，2018.1.27
24. 磯村 望，茨木まどか，岩本昌子，竹中麻理子，杉岡ふみ子，東別府直紀，西岡弘晶：空腸瘻から半固形化栄養剤を間歇的に投与できた 1 例。第 33 回日本静脈経腸栄養学会学術集会，横浜，2018.2.22
25. 常峰かな，東別府直紀，末廣 篤，竹林慎治，西岡弘晶：理学所見に基づく摂食嚥下障害臨床的重症度分類と嚥下内視鏡検査での評価の違いについて。第 33 回日本静脈経腸栄養学会学術集会，横浜，2018.2.22
26. 西岡弘晶，東別府直紀：経腸栄養剤を摂取しながらの腹部エコー検査が胃流出路閉塞の原因確定に有用であった 1 例。第 33 回日本静脈経腸栄養学会学術集会，横浜，2018.2.23
27. 若田恭介，亀井こずえ，竹中麻理子，伊藤次郎，東別府直紀，西岡弘晶：間質性肺炎患者におけるステロイド使用の有無と身体組成、筋力、呼吸機能の関係。第 33 回日本静脈経腸栄養学会学術集会，横浜，2018.2.23
28. Shindo T, Nishioka H : Pustulosis Caused by Praziquantel. The AAAAI/WAO Joint Congress, Orland, USA, 2018.3.2
29. 西岡弘晶：医師臨床研修制度から学べることはあるか？ 第 7 回薬剤師レジデントフォーラム，神戸，2018.3.2
30. 井本寛東，志水隼人，西岡弘晶：*Listeria monocytogenes* による脳幹脳炎と脊髄膿瘍の 1 例。第 219 回日本内科学会近畿地方会，大阪，2018.3.3

VII. 1. 10 精神・神経科

1. Akamatsu G, Ohnishi A, Ikari Y, Yamamoto Y, Senda M : Voxel based statistical analysis of amyloid PET imaging in Alzheimer's diseases. The 73rd Annual Meeting of the Japanese Society of Radiological Technology, Yokohama, Japan, 2017.4.13-16
2. Matsuyama K, Yamamoto Y, Sakai K : A clinical research of the effect of ferulic acid and angelica archangelica extraction amyloid-beta deposition in mild cognitive impairment patients. 32nd Alzheimer' s disease International Conference 2017, Kyoto, Japan, 2017.4.29
3. Akamatsu G, Ikari Y, Ohnishi A, Matsumoto K, Yamamoto Y, Senda M : Voxel based statistical analysis of amyloid PET scans in the J-ADNI multi-center study. 64th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, Denver, USA, 2017.6.10-14
4. 山本泰司：「認知症診療の先端的治療およびケアに向けた取り組み」、分子イメージング研究の紹介；先端医療センターにおけるアミロイドイメージングを中心に。第 32 回日本老年精神医学会，名古屋，2017.6.15
5. 河内 崇，清水敬二，松石邦隆，高橋年道，桑田美子，俵 崇記，大谷恭平，日野 恵，伊藤 亨，北村 登：アルツハイマー病の脳血流と神経心理検査の相関解析－ MMSE に再遅延再生課題を加えた試み－。第 113 回日本精神神経学会，名古屋，2017.6.23
6. 組谷彰太郎，俵 崇記，大谷恭平，福島春子，松石邦隆：意識障害を伴う幻覚妄想状態治療中に悪性症候群を来した症例。近畿精神医学会，滋賀，2017.8.5

7. 前田八重子, 山本泰司, 阪井一雄, 松山賢一, 戸田達史: 若年性認知症の方の就労支援、2 事例から学ぶこと. 第 7 回日本認知症予防学会学術集会, 岡山, 2017.9.22-24
8. 赤松 剛, 井狩彌彦, 大西章仁, 山本泰司, 千田道雄: J-ADNI 研究データを用いたアミロイド PET equivocal 症例に対する統計画像解析の有用性. 第 57 回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.5-7
9. 福島春子, 組谷彰太郎, 大谷恭平, 俵 崇記, 松石邦隆: 離脱せん妄治療中に悪性症候群を発症したアルコール精神病の 1 例. 精神科診断学会, 大阪, 2017.10.20-21
10. 緒方貴次, 大音三枝子, 薩摩由香里, 梅田節子, 大谷恭平, 松石邦隆, 李 美於, 佐竹悠良, 簗智幸政, 安井久晃: 急性期病院における緩和医療の実態の後方視的調査. 第 55 回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017.10.20
11. 大谷恭平, 俵 崇記, 福島春子, 松石邦隆: 緩和医療におけるせん妄への抗精神病薬の適応とリスク・ベネフィット. 第 27 回日本臨床精神神経薬理学会, 松江, 2017.11.3
12. 大谷恭平, 組谷彰太郎, 鶴谷 茂, 俵 崇記, 福島春子, 松石邦隆: 神戸市立医療センター中央市民病院における睡眠薬の処方状況 Prescription of hypnotics at Kobe City Medical Center General Hospital. 第 27 回日本臨床精神神経薬理学会, 松江, 2017.11.3
13. 松石邦隆, 福島春子, 俵 崇記, 大谷恭平, 池上和孝, 北村 登: 神戸市立医療センター中央市民病院の精神科身体合併症病棟の現況. 第 30 回日本総合病院精神医学会, 富山, 2017.11.16-17
14. 山本泰司, 毛利健太郎, 馬場久光: 神戸大学におけるストレスチェックの実施および初年度の結果報告. 第 55 回全国保健管理研究集会, 沖縄, 2017.11.29-30
15. 林 敦子, 阪井一雄, 松山賢一, 山本泰司: 復唱・呼称障害と語義理解障害を認めた進行性失語の 1 症例. 第 41 回日本高次脳機能障害学会学術総会, さいたま, 2017.12.15-16

Ⅶ. 1. 11 小児科・新生児科

1. 田中裕也, 加藤宏樹, 元生和宏, 山下裕加, 岡田麻里, 伊藤 環, 青田千恵, 小林由典, 山川 勝, 鶴田 悟: 当院におけるヒトパレコウイルス 3 型感染症 6 例の検討. 第 120 回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017.4.14
2. 宮越千智, 山川 勝, 青田千恵, 伊藤 環, 加藤宏樹, 田中裕也, 菅原勝美, 上村克徳, 島田誠一, 鶴田 悟: 当科における precision medicine の経験. 第 120 回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017.4.15
3. 生田寿彦, 玉置祥子, 武岡恵美子, 大久保沙紀, 秋田大輔, 三村仁美, 芳本誠司, 中尾秀人, 菅原勝美, 山川 勝: 陽圧換気終了後に間質性肺気腫が急速に増悪した早産児例. 第 120 回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017.4.16
4. 田中裕也: 小児への環境アレルゲン免疫療法. 第 66 回兵庫小児アレルギー・呼吸器懇話会, 神戸, 2017.5.11
5. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 3 年以上継続した環境アレルゲン皮下免疫療法の効果と安全性. 第 48 回兵庫県臨床アレルギー研究会, 神戸, 2017.5.13
6. 山下裕加, 菅原勝美, 元生和宏, 根津麻里, 潮見祐樹, 山本啓央, 伊藤 環, 加藤宏樹, 青田千恵, 田中裕也, 宮越千智, 小林由典, 岡藤郁夫, 上村克徳, 川崎浩三, 島田誠一, 山川 勝, 鶴田 悟: 上眼瞼血管腫により開眼困難を来した極低出生体重児の 1 例. 第 271 回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2017.5.20
7. 根津麻里, 宮越千智, 山川 勝, 山下裕加, 元生和宏, 潮見祐樹, 山本啓央, 加藤宏樹, 青田千恵, 田中裕也, 小林由典, 岡藤郁夫, 上村克徳, 川崎浩三, 鶴田 悟: 生後 1 ヶ月で発症した川崎病の 1 例. 第 271 回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2017.5.20
8. 小林由典, 鶴田 悟: インフルエンザ A による可逆性脳梁膨大部病変を有する軽症脳炎・脳症 (MERS) に小脳炎を合併した 1 例. 第 59 回日本小児神経学会集会, 大阪, 2017.6.15
9. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 小児急速皮下免疫療法における標準化ダニ抗原とハウスダスト抽出液の違い. 第 66 回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2017.6.18
10. 青田千恵, 山川 勝, 宮越千智: 致死性不整脈合併母体の妊娠出産. 第 53 回日本小児循環器学会総会, 浜松, 2017.7.7
11. 田中裕也: 除去から免疫寛容へー食物アレルギー診療ガイドライン 2016 改訂を受けてー. 平成 29 年度神戸市小児科医会総会学術講演会, 神戸, 2017.7.8

12. 山下裕加, 菅原勝美, 田中裕也, 鶴田 悟, 山川 勝, 長野 徹: エトレチナート早期投与により良好な中長期予後が得られた道化師様魚鱗癬の1例. 第41回日本小児皮膚科学会学術大会, 福井, 2017.7.8
13. Aota C, Yamakawa M, Miyakoshi C: Four neurologically intact surviving patients after collapse due to hypertrophic cardiomyopathy: outcomes of management based on heart screening school children. 7th World Congress of Pediatric Cardiology & Cardiosurgery, Barcelona, Spain, 2017.7.16
14. 小林由典: 遷延する呼吸性喘鳴を契機に診断した左主気管支狭窄の乳児の1例. 第53回大阪小児呼吸器談話会, 大阪, 2017.9.9
15. 田中裕也: アトピー性皮膚炎って? ~湿疹三角から肝が栄養~. 近畿アレルギーケア講習会, 大阪, 2017.9.16
16. 岸奈津美, 田中裕也, 根津麻里, 岡藤郁夫, 竹田洋樹, 鶴田 悟: 新生児期より母乳を介した即時型食物アレルギーを呈した1例. 第272回日本小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2017.9.30
17. 根津麻里, 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 重症食物アレルギー児への経口免疫療法の経験. 第272回日本小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2017.9.30
18. 久呉真章, 安部治郎, 泉 裕, 上谷良行, 河田知子, 熊谷直樹, 小阪嘉之, 宅見 徹, 鶴田 悟, 富永弘久, 貫名貞之, 服部益治, 藤田 位, 港 敏則, 森岡一朗, 横山直樹, 米谷昌彦: 兵庫県小児科勤務医アンケート調査結果. 第272回日本小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2017.9.30
19. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 当院でのエビ負荷試験のまとめ. 第49回兵庫県臨床アレルギー研究会, 神戸, 2017.11.4
20. 青田千恵, 山川 勝, 宮越千智, 鶴田 悟: 学校検診心電図の異常Q波が診断の契機となった川崎病冠動脈瘤, 陳旧性心筋梗塞疑いの10歳男児例. 第22回日本小児心電学会学術総会, 徳島, 2017.11.15
21. 田中裕也, 岡藤郁夫: ブリックテスト・舌下免疫療法ハンズオンセミナー. 第54回日本小児アレルギー学会, 宇都宮, 2017.11.18
22. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 皮下免疫療法を導入後3年以上経過するとどうなったか? 第54回日本小児アレルギー学会, 宇都宮, 2017.11.18
23. 田中裕也: 医師に対するパス評価率向上への取り組み. 第18回日本クリニカルパス学会学術集会, 大阪, 2017.12.2
24. 田中裕也: 子どもの湿疹への積極的な対応. 尼崎小児科医会, 尼崎, 2018.1.17
25. 田中裕也: 小児こそ環境アレルゲン免疫療法を~2012年からの経験を通じて~. 第60回アレルギーQ & A研究会, 大阪, 2018.1.20
26. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 当院でのエビ負荷試験のまとめ. 第18回食物アレルギー研究会, 横浜, 2018.2.18
27. 青田千恵, 山川 勝, 宮越千智: 川崎病の病歴を欠く冠動脈瘤・陳旧性心筋梗塞の1例. 第42回近畿川崎病研究会, 大阪, 2018.3.3
28. Tanaka Y, Okafuji I, Tsuruta S: The effect of standardized house-dust mite extract in subcutaneous immunotherapy. American Academy of Allergy, Asthma and Immunology Annual Meeting, Orlando, 2018.3.5
29. 二宮 涼, 岸奈津美, 山下裕加, 根津麻里, 青田千恵, 田中裕也, 小林由典, 高橋利幸, 金子仁彦, 鶴田 悟: 急性散在性脳脊髄炎(ADEM)後ステロイド漸減中に視神経炎を発症した抗MOG抗体陽性脱髄疾患の1例. 第31回近畿小児科学会, 大阪, 2018.3.11
30. 青田千恵, 山川 勝, 岸奈津美, 二宮 涼, 久米英太郎, 根津麻里, 田中裕也, 宮越千智, 小林由典, 岡藤郁夫, 竹田洋樹, 鶴田 悟: アブレーション治療が奏功した発作性心房粗細動の10歳男児例. 第31回近畿小児科学会, 大阪, 2018.3.11

VII. 1. 12 皮膚科

1. 長野 徹: どうする? 尋常性乾癬とアトピー性皮膚炎 現在の治療も含めて. Hyogo Psoriasis Approach Symposium, 神戸, 2017.4.12
2. 増田泰之, 中村文香, 鷺見真由子, 小谷晋平, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹: 皮膚原発腺様嚢胞がんの2例. 第461回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2017.5.27

3. 増田泰之, 中村文香, 鷺見真由子, 小谷晋平, 大森麻美子, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹: 神戸市立中央市民病院で経験したコレステロール塞栓症-自験 36 例の検討から-. 第 116 回日本皮膚科学会総会, 仙台, 2017.6.2-4
4. 長野 徹, 鷺見真由子, 小坂博志, 小川真希子, 山本博史: 放射線照射の関与が推察され皮膚平滑筋肉腫の 1 例. 第 33 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 秋田, 2017.6.30-7.1
5. 中村文香, 増田泰之, 鷺見真由子, 小坂博志, 村田洋三, 長野 徹: 生検後急速に消褪した顔面の結節性筋膜炎の 1 例. 第 110 回近畿皮膚科集談会, 大阪, 2017.7.9
6. 長野 徹, 増田泰之, 中村文香, 鷺見真由子, 小坂博志: 小児強皮症の 1 例. 第 1 回神戸皮膚炎症疾患研究会, 神戸, 2017.7.13
7. 長野 徹, 増田泰之, 中村文香, 鷺見真由子, 小坂博志, 鈴木一生, 川喜田睦司, 大川亜弥, 山田佳枝, 澤井智恵, 松井美由紀, 若田恭介, 足立絵里奈, 茨木まどか: 坐骨部褥瘡から波及したフルニエ壊疽の 1 例. 第 19 回日本褥瘡学会総会, 盛岡, 2017.9.14-15
8. 中村文香, 増田泰之, 鷺見真由子, 小坂博志, 長野 徹: 若年女性の後頭部に生じた神経腫の 1 例. 第 463 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2017.9.30
9. 増田泰之, 中村文香, 鷺見真由子, 小坂博志, 長野 徹: 急性リンパ性白血病患者に生じた Eosinophilic dermatosis of hematological malignancy の 1 例. 第 68 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 京都, 2017.10.7-8
10. 鷺見真由子, 増田泰之, 中村文香, 小坂博志, 村田洋三, 長野 徹: 乳頭腺腫: Adenoma of the nipple の 1 例. 第 68 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 京都, 2017.10.7-8
11. 長野 徹: 当科で最近経験した真菌症. 平成 29 年度湾岸勉強会, 神戸, 2017.10.14
12. 小坂博志, 増田泰之, 中村文香, 鷺見真由子, 村田洋三, 長野 徹: シェーグレン症候群を合併した萎縮性結節性皮膚アミロイドーシスの 1 例. 第 464 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2017.12.2
13. 中村文香, 増田泰之, 鷺見真由子, 小坂博志, 長野 徹: 頭蓋骨に多発した骨腫の 1 例. 第 465 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2018.2.3
14. 長野 徹, 増田泰之, 中村文香, 鷺見真由子, 小坂博志, 前田紘奈, 今井幸弘: 診断に苦慮した小児の皮下脂肪織炎型 T 細胞リンパ腫の 1 例. 第 466 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2018.3.10-11

VII. 1. 13 外科・移植外科

1. Kaihara S, Iwamura S, Matsubara T, Kumata Y, Kitano S, Kita R, Masui H, Mizumoto M, Uryuhara K: Preoperative assessment of remnant liver function in major hepatectomy after portal vein embolization using 99mTc-GSA scintigraphy / 3D-CT fused imaging. AHPBA (米国肝胆膵), Miami, 2017.3.29-4.2
2. 近藤正人, 水本素子, 岩村宣亜, 喜多亮介, 増井秀行, 北野翔一, 熊田有希子, 松原孝明, 貝原 聡, 細谷亮: グルカゴン静注胃管延長による食道癌術後縫合不全対策. 第 117 回外科学会, 横浜, 2017.4.27-29
3. 松原孝明, 大森彩加, 熊田有希子, 北野翔一, 増井秀行, 喜多亮介, 岩村宣亜, 水本素子, 近藤正人, 小林裕之, 細谷 亮, 貝原 聡: 市中病院における腹腔鏡下大腸手術の教育の取り組み. 第 117 回外科学会, 横浜, 2017.4.27-29
4. 貝原 聡, 塩川桂一, 松原孝明, 熊田有希子, 北野翔一, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 細谷 亮: 門脈浸潤を伴う膵頭部通常型膵癌切除における門脈合併切除成績. 第 117 回外科学会, 横浜, 2017.4.27-29
5. 占野尚人, 松原孝明, 熊田有希子, 北野翔一, 増井秀行, 喜多亮介, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における腹腔鏡内視鏡合同手術. 第 117 回外科学会, 横浜, 2017.4.27-29
6. 貝原 聡, 塩川桂一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 細谷 亮: 膵頭十二指腸切除術における術前状態の術中 / 術後に与える影響の検討. 第 117 回外科学会, 横浜, 2017.4.27-29
7. 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: 大腸癌肝転移切除後の治療戦略~術後補助化学療法~. 第 117 回外科学会, 横浜, 2017.4.27-29
8. 近藤正人, 塩川桂一, 松原孝明, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 術前 SOX 療法を施行した局所進行胃癌手術症例についての検討. 第 117 回外科学会, 横浜, 2017.4.27-29

9. 橋田裕毅, 塩川桂一, 松原孝明, 北野翔一, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 大腸内分泌腫瘍に対する当院の外科治療成績. 第 117 回外科学会, 横浜, 2017.4.27-29
10. 近藤正人, 塩川桂一, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における膿瘍形成性虫垂炎に対する Interval appendectomy の取り組み. 第 117 回外科学会, 横浜, 2017.4.27-29
11. 松原孝明, 熊田有希子, 北野翔一, 増井秀行, 喜多亮介, 岩村宣亜, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: 卵巣と膵臓に同時に腫瘍が見つかり原発巣特定に苦慮し診断的切除手術まで行った 1 例. 第 117 回外科学会, 横浜, 2017.4.27-29
12. Uryuhara K, Kitamura K, Iwamura S, Kita R, Masui H, Hashida H, Hosotani R: Hepatectomy for Large HCC – strategies and technical tips for secure operation –. 第 29 回肝胆膵外科学会, 横浜, 2017.6.7-10
13. Kaihara S, Kita R, Masui H, Uryuhara K, Hashida H, Hosotani R: Reliable and safe procedure of anatomical resection of segment VIII for HCC. 第 29 回肝胆膵外科学会, 横浜, 2017.6.7-10
14. Kaihara S, Masui H, Kitamura K, Hosotani R: Evaluation of treatment outcome to incidental gallbladder cancer. 第 29 回肝胆膵外科学会, 横浜, 2017.6.7-10
15. Kaihara S: Pancreatic neuroendocrine tumors: A single institution's experience with surgically treated patients. 第 29 回肝胆膵外科学会, 横浜, 2017.6.7-10
16. 瓜生原健嗣, 塩川桂一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 鼠径部ヘルニア嵌頓症例に対する治療戦略. 第 15 回日本ヘルニア学会, 東京, 2017.6.2-3
17. Satake H, Tanioka H, Miyake Y, Yoshioka S, Watanabe T, Matsuura M, Kyogoku T, Inukai M, Kotake T, Okita Y, Hatachi Y, Yasui H, Kotaka M, Kato T, Kaihara S, Tsuji A: Hepatectomy followed by adjuvant chemotherapy with capecitabine plus oxaliplatin for three months for colorectal cancer liver metastases: A multi center phase 2 study. 2017 ASCO Annual Meeting, Chicago, 2017.6.2-6
18. Kaihara S, Kondo M: Therapeutic strategy for acute appendicitis with an appendicular abscess or mass. EAES 2017, Frankfurt, 2017.6.14-17
19. Kita R, Masui H: Liver Parenchyma Dissection with Pre-coagulation Dissection Technique for Laparoscopic Hepatectomy. EAES 2017, Frankfurt, 2017.6.14-17
20. Kaihara S: A safe technique for laparoscopic distal pancreatectomy with spleen preservation. EAES 2017, Frankfurt, 2017.6.14-17
21. 水本素子, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 塩川圭一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 北村好史, 貝原 聡, 細谷 亮: 食道間膜腸間膜化と Intra-operative Nerve Monitoring による胸腔鏡下食道切除の定型化. 第 71 回日本食道学会, 軽井沢, 2017.6.15-16
22. 増井秀行, 喜多亮介, 近藤正人, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 手術治療を行った食道穿孔及び特発性食道破裂症例の検討. 第 71 回日本食道学会, 軽井沢, 2017.6.15-16
23. 小林裕之, 水本素子, 貝原 聡, 細谷 亮: 術前栄養免疫状態と術後合併症の関連についての検討. 第 71 回日本食道学会, 軽井沢, 2017.6.15-16
24. 貝原 聡, 塩川桂一, 松原孝明, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 細谷 亮: 腫瘍破裂による腹痛を契機に発見された SPN の 1 例. 第 48 回日本膵臓学会, 京都, 2017.7.14-15
25. 水本素子, 岩村宣亜, 喜多亮介, 増井秀行, 北野翔一, 熊田有希子, 大森彩加, 松原孝明, 貝原 聡: Intra-operative Nerve Monitoring による食道癌術後反回神経麻痺の予防効果. 第 72 回消化器外科学会, 金沢, 2017.7.20-22
26. 貝原 聡, 大森彩加, 松原孝明, 熊田有希子, 北野翔一, 喜多亮介, 増井秀行, 岩村宣亜, 細谷 亮: 右葉系肝切除における 99mTc-GSA シンチグラフィと VINCENT 融合画像による肝予備能評価. 第 72 回消化器外科学会, 金沢, 2017.7.20-22
27. 瓜生原健嗣, 北村好史, 松原孝明, 熊田有希子, 北野翔一, 喜多亮介, 増井秀行, 岩村宣亜, 細谷 亮: Treatment Strategies for Colorectal Liver Metastasis: The Analysis of Risk Factor and the Management. 第 72 回消化器外科学会, 金沢, 2017.7.20-22

28. 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 岩村宣亜, 貝原 聡, 細谷 亮: 救急と外科医が協力する急性汎発性腹膜炎手術患者の術後管理. 第 72 回消化器外科学会, 金沢, 2017.7.20-22
29. 貝原 聡, 塩川桂一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 細谷 亮: 切除可能膵癌に対する術前治療戦略. 第 72 回消化器外科学会, 金沢, 2017.7.20-22
30. 橋田裕毅, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: A clinical study of surgical resection for patients over 80 years of age with colorectal cancer. 第 72 回消化器外科学会, 金沢, 2017.7.20-22
31. 貝原 聡, 塩川桂一, 松原孝明, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 細谷 亮: The strategies for the reduction of the bile leakage after the hepatectomy in our hospital. 第 72 回消化器外科学会, 金沢, 2017.7.20-22
32. 小林裕之, 大森彩加, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 細谷 亮, 貝原 聡: 当院における大腸癌イレウス患者治療戦略の検討. 第 72 回消化器外科学会, 金沢, 2017.7.20-22
33. 塩川桂一, 松原孝明, 熊田有希子, 北野翔一, 増井秀行, 喜多亮介, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: 汚染手術における創部 SSI 撲滅に向けて. 第 72 回消化器外科学会, 金沢, 2017.7.20-22
34. 貝原 聡: 当院における生体肝移植ドナーの術後長期フォローの実績. 第 53 回日本移植学会, 旭川, 2017.9.7-9
35. 占野尚人, 猪熊哲朗, 貝原 聡: 当院における Delle を伴う内腔発育型胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術. 第 107 回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2017.9.23
36. 松原孝明, 熊田有希子, 北野翔一, 増井秀行, 喜多亮介, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 細谷 亮, 貝原 聡: 大腸神経内分泌腫瘍に対する外科治療の限界と展望. 第 15 回日本消化器外科学会大会, 福岡, 2017.10.12-15
37. 橋田裕毅, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における左側大腸癌イレウスに対する治療戦略. 第 15 回日本消化器外科学会大会, 福岡, 2017.10.12-15
38. 水本素子, 大森彩加, 松原孝明, 北野翔一, 喜多亮介, 増井秀行, 岩村宣亜, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における消化管 GIST の再発因子の検討. 第 15 回日本消化器外科学会大会, 福岡, 2017.10.12-15
39. Kondo M, Mizumoto M, Kita R, Masui H, Kitano S, Kumata Y, Matsubara T, Shiokawa K, Kaihara S, Hosotani R: Prevention of Recurrent Laryngeal Nerve Paralysis after Esophagectomy by Intra-operative Nerve Monitoring. ACS, San Diego, 2017.10.22-26
40. 塩川桂一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 増井秀行, 喜多亮介, 貝原 聡, 細谷 亮: 腹腔鏡手術における電気メスの安全な使用法. 胃癌術後障害研究会, 東京, 2017.11.3-4
41. 近藤正人, 塩川桂一, 松原孝明, 北野翔一, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 胃術後患者における Oral nutrition supplementation の取り組み. 胃癌術後障害研究会, 東京, 2017.11.3-4
42. 喜多亮介, 塩川桂一, 小林裕之, 細谷 亮, 貝原 聡: 直腸肛門部悪性黒色腫に対して腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術 (TAMIS-APR) を行った 1 例. 第 72 回大腸肛門病学会, 福岡, 2017.11.10-11
43. Shiokawa K, Matsubara T, Kumata Y, Kitano S, Kita R, Masui H, Mizumoto M, Kondo M, Kobayashi H, Hosotani R, Kaihara S: Laparoscopic Posterior Rectopexy for Complete Rectal Prolapse. ACRES2017, Taipei, 2017.11.24-26
44. Kaihara S: Complete intrathoracic reconstruction for lower esophageal cancer under the prone position. ACRES2017, Taipei, 2017.11.24-26
45. Shimeno N, Shiokawa K, Matsubara T, Kumata Y, Kitano S, Masui H, Kita R, Kondo M, Hashida H, Kaihara S: Laparoscopic endoscopic cooperative surgery for gastric submucosal tumor. ACRES2017, Taipei, 2017.11.24-26
46. 塩川桂一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 細谷 亮: 当院における腹腔鏡下系統的肝切除導入と成績. 第 30 回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.7-9

47. 近藤正人, 水本素子, 喜多亮介, 増井秀行, 北野翔一, 熊田有希子, 松原孝明, 塩川圭一, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 北村好史, 貝原 聡, 細谷 亮: 反回神経麻痺のない食道癌上縦隔郭清手技の工夫. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.7-9
48. 塩川圭一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 細谷 亮, 貝原 聡: 傍ストーマヘルニアに対する腹腔鏡下修復術. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.7-9
49. 喜多亮介, 増井秀行, 北野翔一, 熊田有希子, 水本素子, 北村好史, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 進行横行結腸癌に対する完全内側アプローチを基本とした挟みうちD3郭清. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.7-9
50. 貝原 聡, 塩川圭一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 細谷 亮: 当院での腹腔鏡下系統的肝切除における画像支援活用法. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.7-9
51. 塩川圭一, 松原孝明, 熊田有希子, 北野翔一, 増井秀行, 喜多亮介, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術の工夫. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.7-9
52. 北村好史, 塩川圭一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 増井秀行, 水本素子, 近藤正人, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 大腸癌肝転移同時切除症例の短期成績に関する検討. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.7-9
53. 貝原 聡, 塩川圭一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 細谷 亮: 腹腔鏡下肝切除術における Difficulty scoring system の有用性についての検討. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.7-9
54. 橋田裕毅, 塩川圭一, 松原孝明, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 妊娠中の急性虫垂炎に対して腹腔鏡下虫垂切除術を施行した9例. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.7-9
55. 橋田裕毅, 塩川圭一, 松原孝明, 北野翔一, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院の腹腔鏡下直腸後方固定の手術成績. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.7-9
56. 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 近藤正人, 北村好史, 水本素子, 喜多亮介, 増井秀行, 北野翔一, 熊田有希子, 塩川圭一, 細谷 亮, 貝原 聡: 鼠径部および閉鎖孔ヘルニア嵌頓緊急手術症例の術式選択の検討. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.7-9
57. 瓜生原健嗣, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における急性胆嚢炎に対する術式および治療法選択の検討. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.7-9
58. 水本素子: 当院における腹腔鏡下幽門側胃切除術の再建法による術後障害の比較. 第90回日本胃癌学会, 横浜, 2018.3.7-9
59. 近藤正人: Neoadjuvant chemotherapy using G-SOX for locally advanced gastric cancer. 第90回日本胃癌学会, 横浜, 2018.3.7-9

VII. 1. 14 乳腺外科

1. 武部沙也香, 加藤大典, 波々伯部絵理, 橋本一樹, 木川雄一郎, 簗智幸政, 市川千宙, 上原慶一郎, 安井久晃, 今井幸弘: 各種画像検査で明らかになる1年前より Circulating Tumor Cells (CTCs) と腫瘍マーカーの上昇を認めていた乳癌骨転移の1例. 第25回日本乳癌学会学術総会, 福岡, 2017.7.14
2. 加藤大典, 武部沙也香, 波々伯部絵理, 橋本一樹, 木川雄一郎, 上原慶一郎, 市川千宙, 簗智幸政, 正井良和, 今井幸弘: 術前ホルモン治療による Luminal A/B 乳癌の生物学的特性の変化の解析 (特に Luminal A/B 乳癌から Luminal HER2 乳癌への変化について). 第25回日本乳癌学会学術総会, 福岡, 2017.7.15
3. 武部沙也香, 加藤大典, 常盤麻里子, 木川雄一郎, 前田紘奈, 高橋祐一, 今井幸弘: 術後化学療法決定に苦慮した、triple negative 乳癌の1例. 第73回京滋乳癌研究会, 京都, 2017.9.16

4. 加藤大典, 平島正樹, 三浦恵理子, 中西真也, 森本茂文, 常盤麻里子, 武部沙也香, 木川雄一郎, 橋田 亨: 再発乳癌患者におけるエベロリムス薬物動態に基づく投与量調節の試み. 神戸市中央区医師会学術集談会, 神戸, 2017.10.14
5. 武部沙也香, 木川雄一郎, 常盤麻里子, 加藤大典, 高橋祐一, 山下大祐, 今井幸弘, 福原稔之, 廣瀬隆則: 針生検にて乳房内結節性筋膜炎が疑われたが, 摘出生検にて乳腺間質肉腫と診断された1例. 第15回日本乳癌学会近畿地方会, 京都, 2017.12.16

VII. 1. 15 心臓血管外科

1. 吉田一史, 小泉滋樹, 西矢健太, 松田靖弘, 福永直人, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 総頸動脈急性閉塞を合併したA型急性大動脈解離において、頸動脈ステント留置後に上行部分弓部大動脈置換術を実施し救命した1例. 第45回日本血管外科学会学術総会, 広島, 2017.4.19
2. 小泉滋樹, 吉田一史, 西矢健太, 松田靖弘, 福永直人, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: Kommerell 憩室を有するStanfordB型慢性大動脈解離に対してOpen stent graftを用いた全弓部大動脈置換術を施行した1例. 第45回日本血管外科学会学術総会, 広島, 2017.4.20
3. 小泉滋樹, 吉田一史, 西矢健太, 松田靖弘, 福永直人, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 弓部大動脈真性瘤に対するオープンステントグラフトを用いた全弓部置換術の初期成績. 第45回日本血管外科学会学術総会, 広島, 2017.4.20
4. 吉田一史, 小泉滋樹, 西矢健太, 松田靖弘, 福永直人, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 感染性大動脈瘤の治療成績. 第25回日本大動脈外科研究会, 横浜, 2017.4.28
5. 吉田一史, 高崎 直, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 左主幹部に近接した冠動脈瘤に対する一手術例. 第69回兵庫県心臓外科懇話会, 神戸, 2017.6.16
6. 吉田一史, 福永直人, 小泉滋樹, 西矢健太, 松田靖弘, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 症候性右冠動脈左室瘻の一手術症例. 第60回関西胸部外科学会学術集会, 大阪, 2017.6.22
7. 小泉滋樹, 吉田一史, 西矢健太, 松田靖弘, 福永直人, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 右冠状動脈起始異常を伴うVSD修復術後の大動脈基部仮性動脈瘤に対してBentall手術を施行した1例. 第60回関西胸部外科学会学術集会, 大阪, 2017.6.22
8. 松田靖弘, 吉田一史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 急性A型大動脈解離の上行部分弓部大動脈置換術における最低直腸温30°Cでの循環停止の安全性. 第70回日本胸部外科学会定期学術集会, 札幌, 2017.9.27
9. 小泉滋樹, 高崎 直, 吉田一史, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 手術適応を遠位弓部に厳選した直腸温30°C循環停止でのFrozen Elephant Trunk法を用いた弓部大動脈全置換術の妥当性. 第70回日本胸部外科学会定期学術集会, 札幌, 2017.9.28
10. 長澤 淳, 石上雅之助, 中村 健, 松田靖弘, 小泉滋樹, 吉田一史, 高崎 直, 坂田隆造, 小山忠明: 脳梗塞発症予防のための左心耳閉鎖術は薬物的抗凝固療法に代替療法となりうるか. 第70回日本胸部外科学会定期学術集会, 札幌, 2017.9.28
11. 松田靖弘, 高崎 直, 吉田一史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 術後33年に再手術を要したParkes Weber病に伴う下肢静脈瘤. 第32回日本血管外科学会近畿地方会, 大阪, 2018.2.3
12. 吉田一史, 高崎 直, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 高度機能性三尖弁閉鎖不全症に対するTailor Flexible Bandでの弁輪縫縮術の遠隔成績. 第48回日本心臓血管外科学会学術総会, 三重, 2018.2.20
13. 石上雅之助, 高崎 直, 吉田一史, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 僧帽弁形成術後の心機能評価 使用リング別の検討. 第48回日本心臓血管外科学会学術総会, 三重, 2018.2.21
14. 松田靖弘, 高崎 直, 吉田一史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 開心術後の体液管理におけるトルバプタン少量早期投与の有効性. 第48回日本心臓血管外科学会学術総会, 三重, 2018.2.21
15. 松田靖弘, 高崎 直, 吉田一史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 気道確保目的で一時的に導入する体外式膜型人工肺の大腿静脈アクセスは妥当か. 第45回日本集中治療医学会学術集会, 幕張, 2018.2.23

16. 松田靖弘, 高崎 直, 吉田一史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: Diagnosis and Prognosis in Painless Acute Type A Aortic Dissection. 第 82 回日本循環器病学会, 大阪, 2018.3.23

VII. 1. 16 呼吸器外科

1. 坂之上一郎, 浜川博司, 伊達直希, 齋藤伴樹, 南 和宏, 高橋 豊: 外傷性肋骨骨折における吸収性体内固定用プレート (スーパーフィクソープ MX40) の使用経験. 第 34 回日本呼吸器外科学会総会, 福岡, 2017.5.18
2. 齋藤伴樹, 浜川博司, 坂之上一郎, 南 和宏, 伊達直希, 高橋 豊, 今井幸弘: 奇形腫の切迫破裂が疑われた特発性胸腺腫の 1 切除例. 第 34 回日本呼吸器外科学会総会, 福岡, 2017.5.18
3. 伊達直希, 浜川博司, 坂之上一郎, 南 和宏, 齋藤伴樹, 高橋 豊: 3 回の手術を行い救命し得た降下性壊死性縦隔炎の 1 例. 第 34 回日本呼吸器外科学会総会, 福岡, 2017.5.18
4. 浜川博司, 坂之上一郎, 伊達直希, 齋藤伴樹, 南 和宏, 高橋 豊: 低侵襲のための完全鏡視下肺区域切除の取り組み. 第 34 回日本呼吸器外科学会総会, 福岡, 2017.5.19
5. 齋藤伴樹, 浜川博司, 坂之上一郎, 南 和宏, 伊達直希, 高橋 豊, 今井幸弘: 特発性胸腺嚢胞出血の 2 手術例. 第 60 回関西胸部外科学会, 大阪, 2017.6.22
6. 伊達直希, 浜川博司, 坂之上一郎, 南 和宏, 齋藤伴樹, 高橋 豊: 胸膜外血腫の 4 症例. 第 60 回関西胸部外科学会, 大阪, 2017.6.23
7. 高橋 豊: 胸部外傷概論. 第 70 回日本胸部外科学会, 札幌, 2017.9.26
8. 村上泰隆, 尾原信行, 齋藤伴樹, 川端修平, 上田 潤, 藤原 悟, 坂之上一郎, 徳永 聡, 吉村 元, 河野智之, 今村敏博, 足立秀光, 浜川博司, 幸原伸夫, 坂井信幸, 高橋 豊: 左上葉切除後に発症した脳梗塞の検討. 第 20 回日本栓子検出と治療学会 (エンボラス学会), 東京, 2017.10.1
9. 坂之上一郎, 浜川博司, 齋藤伴樹, 伊達直希, 富井啓介, 今井幸弘, 高橋 豊: 高度分葉不全を呈した間質性肺炎合併肺癌症例に対する完全鏡視下左肺下葉切除術. 第 58 回日本肺癌学会, 横浜, 2017.10.14
10. 浜川博司: 気管支形成術の基本手技と工夫. 第 30 回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.8
11. 伊達直希, 浜川博司, 坂之上一郎, 齋藤伴樹, 高橋 豊: 左肺下葉切除後の気管支断端に対して広背筋弁充填と胸郭成形術を施行した 1 例. 第 46 回京大呼吸器外科教室同冬期研究会, 京都, 2018.2.10
12. 伊達直希, 浜川博司, 坂之上一郎, 齋藤伴樹, 高橋 豊: 気管分岐部管状切除を伴う右肺全摘術を施行した右中葉気管支腺様嚢胞癌の 1 例. 第 107 回日本肺癌学会関西支部, 大阪, 2018.2.17
13. 村上泰隆, 尾原信行, 齋藤伴樹, 川端修平, 上田 潤, 藤原 悟, 坂之上一郎, 徳永 聡, 吉村 元, 河野智之, 今村敏博, 足立秀光, 浜川博司, 幸原伸夫, 坂井信幸, 高橋 豊: 肺切除後の塞栓性脳梗塞は左上葉切除後に多いのか. STROKE2018, 福岡, 2018.3.18

VII. 1. 17 脳神経外科

1. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire の有効性・安全性の検討. Solitaire de Night in Sendai, 仙台, 2017.4.6
2. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire の有効性・安全性の検討. Solitaire de Night in Nagoya, 名古屋, 2017.4.7
3. 松井雄一, 今村博敏, 別府幹也, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: Covered Stent 留置後の endoleak に対して母血管閉塞術を追加した医原性仮性総頸動脈瘤の 1 例. Neurosurgery Kinki 2017 Spring Meeting, 大阪, 2017.4.8
4. 堀内一史, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 坂井信幸: 複数箇所の開頭手術を要した硬膜下膿瘍の 1 例. Neurosurgery Kinki 2017 Spring Meeting, 大阪, 2017.4.8
5. 今村博敏: AVM. Neurosurgery Kinki 2017 Spring Meeting, 大阪, 2017.4.8
6. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire の有効性・安全性の検討. Solitaire de Night in Osaka, 大阪, 2017.4.13
7. 今村博敏: 脳卒中 Update. CSL ベーリング株式会社 関西エリア 社内勉強会, 神戸, 2017.4.14
8. 坂井信幸: 脳血管内治療: 最新のデバイスと技 - Flow Diverter. 第 26 回脳神経外科手術と機器学会 (シンポジウム「脳血管内治療: 最新のデバイスと技」), 甲府, 2017.4.14
9. 坂井信幸: 脳神経外科医からみた診療放射線技師による“読影の補助”. 第 73 回日本放射線技術学会, 横浜, 2017.4.15
10. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire の有効性・安全性の検討. Solitaire de Night in Osaka, 大阪, 2017.4.20

11. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire の有効性・安全性の検討. Solitaire de Night in Okayama, 岡山, 2017.4.21
12. 今村博敏, 坂井信幸: 脳卒中治療の最新の動向. 大阪市北部脳卒中超急性期医療連携の会, 大阪, 2017.4.27
13. 坂井信幸: 脳血管内治療の勧めー GDC 発売から 20 年の変遷と今後ー. 日本脳神経外科コンgres, 横浜, 2017.5.12
14. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: エビデンス時代の急性期血栓回収療法. 第 37 回日本脳神経外科コンgres総会, 横浜, 2017.5.13
15. 川端修平, 足立秀光, 谷 正一, 今村博敏, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 今井幸弘, 坂井信幸: 良好な経過を辿る頭蓋内原発の分類不能肉腫の 1 例. 脳腫瘍病理学会, 栃木, 2017.5.19
16. 徳永 聡: 僕のこだわり〜ステントリトリーバー〜. 九州脳血管内治療勉強会, 九州, 2017.5.20
17. 坂井信幸: Neuroform Atlas と Target Coil を用いた脳動脈瘤塞栓術. Stryker Target Coil Product Update, 神戸, 2017.5.25
18. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire の有効性・安全性の検討. Solitaire de Night in Fukuoka, 福岡, 2017.6.2
19. 徳永 聡, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 星 拓, 尾原信行, 河野智之, 齊藤智成, 船津堯之, 別部幹也, 鈴木啓太, 坂井信幸: Tandem occlusion 症例に対する急性期再開通療法の治療成績. 第 4 回日本心臓血管脳卒中学会学術集会, 福岡, 2017.6.2
20. 今村博敏: 血管内治療 時短. 第 4 回日本心臓血管脳卒中学会学術集会, 福岡, 2017.6.3
21. 今村博敏, 坂井信幸: 脳卒中治療への熱い思い. 第 8 回 Endovascular & Bypass Case Conference, 名古屋, 2017.6.9
22. 坂井信幸: 脳動脈瘤の最新治療と今後の展望ーフローダイバーターの功罪とその先にあるもの. 第 1 回北九州血管内治療カンファレンス (KKNET), 小倉, 2017.6.16
23. 坂井信幸: 脳卒中と循環器病対策 5 年計画について. これからの高血圧治療を考える会, 神戸, 2017.6.22
24. 谷 正一: WHO2016 脳腫瘍分類と手術加療の実績. がん診療オープンカンファレンス, 神戸, 2017.6.22
25. 坂井信幸, 足立秀光, 谷 正一, 今村博敏, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 佐々木夏一, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井千秋, 幸原伸夫, 川本未知, 尾原信行, 河野智之, 吉村 元, 石井淳子, 村上泰隆, 藤原 悟, 上田 潤, 大平純一郎, 三村直哉, 瀬川翔太, 田村亮太, 十河正弥, 坂口 学, 藤堂謙一: 神経超音波の血管内治療への貢献. 第 36 回日本脳神経超音波学会総会, 高松, 2017.6.23
26. 川端修平, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 佐々木夏一, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 良好な経過を辿る滑膜肉腫様の頭蓋内原発分類不能型肉腫の 1 例. 京都脳腫瘍セミナー, 京都, 2017.6.24
27. 今村博敏: AIS (2). 第 54 回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ, 白浜, 2017.7.7
28. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 藤原 悟, 村上泰隆, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 最良の結果を得るためにどう取り組むか? Door to Reperfusion. 脳血管内治療ブラッシュアップセミナー 2017, 神戸, 2017.7.8
29. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 藤原 悟, 村上泰隆, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 機器をどう使いこなすか? Solitaire. 脳血管内治療ブラッシュアップセミナー 2017, 神戸, 2017.7.8
30. 今村博敏, 坂井信幸: 脳血管内治療最前線〜再開通療法に必要なこと〜. 脳卒中治療と消化器合併症を考える会, 神戸, 2017.7.21
31. 今村博敏, 坂井信幸: ステントの選択の考え方. Neurosurgical Forum, 高知, 2017.7.22
32. 佐々木夏一, 徳永 聡, 船津堯之, 秋山 亮, 堀内一史, 松井雄一, 川端修平, 足立拓優, 鈴木啓太, 足立秀光, 谷 正一, 坂井信幸: 意識障害を呈したアテローム血栓性脳底動脈瘤閉塞症に対して急性血行再建術が著効した 1 例. 第 47 回兵庫県脳神経外科医懇話会, 神戸, 2017.7.22
33. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 藤原 悟, 村上泰隆, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: CAS ファースト施設における治療方針と成績の変遷. 第 23 回日本血管内治療学会総会, 奈良, 2017.7.29
34. 秋山 亮, 船津堯之, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 徳永 聡, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 松井雄一, 堀内一史, 坂井信幸: 破裂遠位後下小脳動脈瘤に対して母血管閉塞にて治療した 1 例. 第 23 回日本血管内治療学会総会, 奈良, 2017.7.29

35. 坂井信幸：脳動脈瘤の血管内治療最前線. 第9回 Neurovascular Conference in Hakodate, 函館, 2017.8.24
36. 佐々木夏一, 今村博敏, 船津堯之, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸：小児脳動静脈奇形の塞栓術に Onyx を使用した3例. 第36回 The Mt.Fuji Workshop on CVD, 大阪, 2017.8.26
37. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 佐々木夏一, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 尾原信行, 河野智之：急性期再開通療法の現状と課題. 第8回 TAMA-FAST, 東京, 2017.9.1
38. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 別府幹也, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸：Significant benefits of Hydrogel coil Family ～治療効果と New Device ～. Neurosurgery Kinki 2017 Autumn Meeting, 大阪, 2017.9.2
39. 今村博敏：特別企画“神戸宣言－その後－”. Neurosurgery Kinki 2017 Autumn Meeting, 大阪, 2017.9.2
40. 足立秀光：AVM、AVF、海面状血管腫. 第74回 Neurosurgery Kinki 2017 Autumn Meeting, 大阪, 2017.9.2
41. 川端修平, 徳永 聡, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 佐々木夏一, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸：左上葉切除後の肺静脈断端部血栓により生じた脳塞栓症の1例. 第4回日本脳神経血管内治療学会近畿地方会, 大阪, 2017.9.2
42. 松井雄一, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸：眼窩内腫瘍が疑われた眼窩髄膜瘤の1例. Neurosurgery Kinki 2017 Autumn Meeting, 大阪, 2017.9.2
43. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Sakai C, Ohara N, Kono T, Tani S, Cuuret Clinical Trial of ICAD, Japan PMS. ICAD SUMMIT 2017, Hong Kong, 2017.9.13
44. 今村博敏, 坂井信幸：神戸市立医療センターでの AneurysmFlow の使用経験. Philips Neuro Suite Users Summit 2017, 大阪, 2017.9.16
45. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 佐々木夏一, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 尾原信行, 河野智之, 他：神戸市立医療センター中央市民病院での AIS 治療のワークフロー. PHILIPS NEURO SUITE USERS SUMMIT 2017, 大阪, 2017.9.16
46. 坂井信幸, 今村博敏：AVM に対する治療トレンド. 東京脳卒中のための血管内治療セミナー, 東京, 2017.9.23
47. 坂井信幸（協力：今村博敏, 高木俊範, 吉村紳一）：脳血管内治療に携わる内科医に求めること 2017. NET-I, 東京, 2017.9.23
48. 今村博敏, 坂井信幸：Solitaire FR 血栓除去デバイス 製造販売後使用成績調査. Solitaire de Night in Shinagawa, 品川, 2017.9.29
49. 川端修平, 徳永 聡, 今村博敏, 尾原信行, 河野智之, 谷 正一, 足立秀光, 船津堯之, 村上泰隆, 坂井信幸：左上葉切除後に肺静脈断端部血栓により生じた脳塞栓症の1例. 第20回日本栓子検出と治療学会, 東京, 2017.10.1
50. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 佐々木夏一, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 尾原信行, 河野智之, 他：脳梗塞急性期の欠講再開療法の現状と課題. 第20回日本栓子検出と治療学会, 東京, 2017.10.1
51. 今村博敏, 坂井信幸：Solitaire FR 血栓除去デバイス 製造販売後使用成績調査. Solitaire de Night in Nagoya, 名古屋, 2017.10.6
52. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 松井雄一, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸：未破裂脳動脈瘤に対するコイル塞栓術の破裂予防効果. 第76回日本脳神経外科学会学術総会, 名古屋, 2017.10.12
53. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 松井雄一, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸：ステントリトリバーを第一選択とした治療の実際. 第76回日本脳神経外科学会学術総会, 名古屋, 2017.10.12
54. 今村博敏：IVR 1. 第76回日本脳神経外科学会学術総会, 名古屋, 2017.10.12
55. 徳永 聡, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 佐々木夏一, 松井雄一, 川端修平, 堀内一史, 秋山 亮, 坂井信幸：Tandem occlusion 症例に対する急性期再開通療法の治療成績. 第76回日本脳神経外科学会学術総会, 名古屋, 2017.10.12

56. 船津堯之, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 徳永 聡, 鈴木啓太, 足立拓優, 佐々木夏一, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: Pipeline Embolization Device 留置状態の変化と動脈瘤閉塞状態の関係. 第76回日本脳神経外科学会学術総会, 名古屋, 2017.10.12
57. 川端修平, 徳永 聡, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 佐々木夏一, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 当院における重症くも膜下出血の治療成績と予後因子の検討. 第76回日本脳神経外科学会学術総会, 名古屋, 2017.10.12
58. 秋山 亮, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 松井雄一, 堀内一史, 坂井信幸: Pipeline Flex によってカバーされた内頸動脈分枝血管の patency に関する検討. 第76回日本脳神経外科学会学術総会, 名古屋, 2017.10.13
59. 谷 正一, 有村公一, 別府幹也, 吉田泰規, 奥田智裕, 足立秀光, 今村博敏, 坂井千秋, 坂井信幸: X-ray angiography perfusion analysis を利用して内頸動脈バルーン閉塞試験時の脳血流、mean stump pressure、venous phase delay を同時に計測した17例の解析. 第76回日本脳神経外科学会学術総会, 名古屋, 2017.10.13
60. 鈴木啓太, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 足立拓優, 松井雄一, 佐々木夏一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 症候性主幹動脈狭窄・閉塞症に対する急性期頭蓋内ステント留置術の治療成績. 第76回日本脳神経外科学会学術総会, 名古屋, 2017.10.13
61. 堀内一史, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 佐々木夏一, 川端修平, 秋山 亮, 坂井信幸: Flow diverter stent 留置後のMRI DWI hyper の検討. 第76回日本脳神経外科学会学術総会, 名古屋, 2017.10.13
62. 松井雄一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 脳底部先端部動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術前後での母血管分岐角度の検討. 第76回日本脳神経外科学会学術総会, 名古屋, 2017.10.13
63. 佐々木夏一, 今村博敏, 船津堯之, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 小児脳動静脈奇形の塞栓術にOnyxを使用した3例. 第76回日本脳神経外科学会学術総会, 名古屋, 2017.10.14
64. 足立秀光, 坂井信幸, 谷 正一, 今村博敏, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 佐々木夏一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井千秋: 動脈硬化性頭蓋内動脈狭窄症に対するWingspanステント留置術の治療成績. 第76回日本脳神経外科学会学術総会, 名古屋, 2017.10.14
65. Kuwashiro T, Kamouchi M, Kumai Y, Maeda K, Uwatoko T, Wakugawa Y, Ago T, Yasaka M, Okada Y, Kitazono T: Endovascular treatment for common carotid artery occlusion associated with acute type A aortic dissection in the hyper-acute phase. WFITN 2017, Budapest, Hungary, 2017.10.16
66. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama T, Horiuchi K, Ohara N, Kono T, Yoshimura S, Takagi Y, Sakai C: Acute ischemic stroke care in Japan. 13th WFITN, Budapest, Hungary, 2017.10.17
67. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 松井雄一, 村上泰隆, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 血栓回収療法において必要なこと. 第45回日本救急医学会総会学術総会, 大阪, 2017.10.24
68. Suzuki K, Imamura H, Tani S, Adachi H, Tokunaga S, Funatsu T, Adachi H, Matsui Y, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K, Sakai N: Clinical results of intracranial stenting for acute ischemic stroke. EACoN 2017, Shanghai, 2017.10.26
69. Sakai N, Hyodo A, Ito Y, Kuwayama N, Matsumaru Y, Miyachi S, Taki W, Sakai C, Imamura H: Safety and efficacy of Enterprise VRD: Post Market Surveillance in Japan. OCIN2017, Shanghai, China, 2017.10.27
70. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama T, Horiuchi K: Current status and trend of aneurysm treatment in Japan: post-ISAT era. OCIN2017, Shanghai, China, 2017.10.27
71. 今村博敏, 坂井信幸: 脳血管内治療最前線～再開通療法において必要なこと～. 第1回道南脳卒中地域連携協議会, 函館, 2017.10.30
72. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama T, Horiuchi K, Ohara N, Kono T: Endovascular treatment for AIS in Japan. Collaterals2017, Osaka to UCLA, 2017.11.3

73. 坂井信幸：血管内再開通療法の歩みと今後．埼玉県南西部脳卒中連携フォーラム，新座，2017.11.9
74. 今村博敏，坂井信幸：エビデンス時代の血栓回収療法～最良の結果を得るために～．第1回南大阪FAST，大阪，2017.11.13
75. 今村博敏，坂井信幸：Solitaire de Night in Osaka. Solitaire de Night in Osaka，大阪，2017.11.17
76. Imamura H, Tani S, Adachi H, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Kawabata S, Sasaki N, Matsui Y, Mikami K, Akiyama R, Horiuchi K, Sakai N : Subarachnoid hemorrhage of unruptured cerebral aneurysm after endovascular embolization. 第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.23
77. 徳永 聡，今村博敏，坂井信幸：血管内治療の実際1 院内体制、ワークフロー、時間短縮を中心に，ARIA 2018，福岡，2017.11.23
78. 秋山 亮，今村博敏，谷 正一，足立秀光，徳永 聡，船津堯之，鈴木啓太，足立拓優，川端修平，佐々木夏一，松井雄一，堀内一史，坂井信幸：高齢者破裂脳動脈瘤に対する動脈瘤コイル塞栓術の治療成績．第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.23
79. 堀内一史，今村博敏，谷 正一，足立秀光，徳永 聡，船津堯之，鈴木啓太，足立拓優，松井雄一，佐々木夏一，川端修平，秋山 亮，坂井信幸：血栓回収療法を施行した ASPECTS 6点以下の治療成績．第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.23
80. 松井雄一，谷 正一，足立秀光，今村博敏，徳永 聡，船津堯之，鈴木啓太，足立拓優，川端修平，秋山 亮，堀内一史，坂井信幸：脳底動脈先端部動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術前後での母血管分岐角度の検討．第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.23
81. 坂井信幸：日本脳神経血管内治療学会および日本の脳血管内治療医の世界への貢献．第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.24
82. 坂井信幸：CAS Update、承認から10年を総括する．第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.24
83. 坂井信幸，兵頭明夫，伊藤 靖，桑山直也，松丸祐司，宮地 茂，滝 和郎，坂井千秋，今村博敏：Enterprise VRD 製造販売後調査最終報告．第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.24
84. Imamura H, Tani S, Adachi H, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Kawabata S, Sasaki N, Matsui Y, Mikami K, Akiyama R, Horiuchi K, Sakai N : Clinical evidence of endovascular treatment Using Pipeline Embolization Device. 第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.24
85. 足立秀光：再開通（急性期）5（デバイス）．第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.24
86. 今村博敏，谷 正一，足立秀光，徳永 聡，船津堯之，鈴木啓太，足立拓優，川端修平，佐々木夏一，松井雄一，三神和幸，秋山 亮，堀内一史，坂井信幸：Codman Enterprise PMS 最終結果を題材としたEBM. 第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.24
87. 今村博敏，坂井信幸：脳梗塞（急性期）．第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.24
88. 徳永 聡，今村博敏，谷 正一，足立秀光，尾原信行，河野智之，船津堯之，鈴木啓太，足立拓優，佐々木夏一，松井雄一，川端修平，堀内一史，秋山 亮，坂井信幸：Tandem occlusion 症例に対する急性期再開通療法の治療成績．第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.24
89. 佐々木夏一，今村博敏，船津堯之，谷 正一，足立秀光，徳永 聡，鈴木啓太，足立拓優，松井雄一，川端修平，秋山 亮，堀内一史，坂井信幸：小児脳動静脈奇形の塞栓術にOnyxを使用した3例．第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.24
90. 足立秀光，坂井信幸，谷 正一，今村博敏，徳永 聡，船津堯之，鈴木啓太，足立拓優，松井雄一，佐々木夏一，川端修平，秋山 亮，堀内一史，三神和幸，村上泰隆，河野智之，尾原信行，坂井千秋：動脈硬化性頭蓋内動脈狭窄症に対するWingspan ステント留置術の長期成績．第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.24
91. 今村博敏：フローダイバーター2（治療成績）．第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.25
92. 今村博敏，谷 正一，足立秀光，徳永 聡，船津堯之，鈴木啓太，足立拓優，川端修平，佐々木夏一，松井雄一，三神和幸，秋山 亮，堀内一史，坂井信幸：Trial 結果から見たGelの効果と更なる期待．第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.25
93. Tokunaga S, Imamura H, Tani S, Adachi H, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Matsui Y, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K, Sakai N : Usefulness of the trans-arterial Onyx embolization via the double-lumen balloon catheter for dural arteriovenous fistulas. 第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会，東京，2017.11.25

94. 鈴木啓太, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 足立拓優, 松井雄一, 佐々木夏一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 症候性主幹動脈狭窄・閉塞症に対する急性期頭蓋内ステント留置術の治療成績. 第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 東京, 2017.11.25
95. 堀内一史, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 佐々木夏一, 川端修平, 秋山 亮, 坂井信幸: Flow diverter stent 留置後のMRI DWI hyper intensity の検討. 第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 東京, 2017.11.25
96. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire de Night in Kagoshima, 鹿児島, 2017.12.1
97. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama T, Horiuchi K, Ohara N, Kono T: Current status of CAS in Japan 2017, Japanese cohort. 3rd COACT, Seoul, Korea, 2017.12.2
98. 鈴木啓太: 内頸動脈高度狭窄を伴った中大脳動脈閉塞の1例. 第8回京都大学脳神経外科 NeuroIVR 研修セミナー IVR 道場, 京都, 2017.12.9
99. 今村博敏, 尾原信行, 坂井信幸: ~急性期脳梗塞血管内治療の進歩~時間短縮と連携強化の重要性. ヘリを活用した救急搬送の有効性を考える会, 神戸, 2017.12.13
100. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire de Night in Omiya, 埼玉, 2017.12.22
101. 今村博敏: 座長. 第55回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ, 大阪, 2018.1.6
102. 足立拓優, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 佐々木夏一, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 心原性脳塞栓症の亜急性期再発. 第55回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ, 大阪, 2018.1.6
103. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire de Night in Osaka, 大阪, 2018.1.12
104. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama T, Horiuchi K, Sakai C: How can manage failed flow diverter cases. NeuroIMC, Madris, Spain, 2018.1.12
105. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama T, Horiuchi K, Ohara N, Kono T: New stent retriever for AIS. NeuroIMC, Madris, Spain, 2018.1.13
106. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama T, Horiuchi K, Ohara N, Kono T: New stent retriever TRON-FX approving study in Japan (TRON1-JAPAN). ABC/WIN, Val d'Isere, France, 2018.1.16
107. Sakai N, Imamura H, Tateshima S, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama T, Horiuchi K, Ohara N, Kono T: First-in-man experience of Versi system for AIS in Kobe, Japan. ABC/WIN, Val d'Isere, France, 2018.1.16,
108. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire de Night in Okinawa, 沖縄, 2018.1.19
109. 今村博敏, 坂井信幸: 脳血管内治療最前線~再開通療法に必要なこと~. 脳血管内治療と消化器合併症を考える会, 神戸, 2018.1.23
110. 足立拓優: 脳底動脈先端部閉塞の血栓回収術後に解離性動脈瘤破裂を伴った1例. 第16回神戸中央脳神経外科研究会, 神戸, 2018.1.30
111. 今村博敏, 坂井信幸: 脳神経外科医から診たてんかん治療の現状について. ユーシービージャパン社内講演会, 神戸, 2018.2.2
112. 坂井信幸: ここまで治る一脳血管内治療の進歩. 近畿地域診療放射線技師会学術大会 市民公開講座, 神戸, 2018.2.11
113. 足立拓優, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 川端修平, 佐々木夏一, 松井雄一, 三神和幸, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 外傷性血気胸と腕神経損傷に合併した気脳症および気脊柱症の1例. 第41回日本脳神経外傷学会, 東京, 2018.2.23
114. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire de Night In Aomori, 青森, 2018.2.23
115. 坂井信幸, 今村博敏, 高木俊範, 吉村紳一: JET2018 Fight for Stroke, JSNET/RESCUE の取り組み. JET2018, 大阪, 2018.2.24
116. Sakai N, Imamura H, Tateshima S, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama T, Horiuchi K, Ohara N, Kono T: First-in-man experience of Versi system. Neurovascular Sminar at ISC2018, Los Angeles, USA, 2018.2.24

117. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire de Night In Osaka, 大阪, 2018.3.9
118. 坂井信幸, 今村博敏: 脳動脈瘤に対するステント治療. 老年病研究会, 脳卒中・予防と治療の最前線, 前橋, 2018.3.9
119. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 松井雄一, 佐々木夏一, 足立拓優, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井千秋, 尾原信行, 河野智之, 藤原 悟: State-of-the art of double layer stent for Carotid Arterioplasty and Stenting. STROKE2018, 福岡, 2018.3.15
120. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 松井雄一, 佐々木夏一, 足立拓優, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井千秋: 登録事業のありかたー日本脳神経血管内治療学会. STROKE2018, 福岡, 2018.3.15
121. 徳永 聡, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 佐々木夏一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 硬膜動静脈瘻に対する非治療血管 flow control 下 Onyx TAE の有用性. 第 47 回日本脳卒中の外科学会学術総会, 福岡, 2018.3.15
122. 川端修平, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 佐々木夏一, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 重症くも膜下出血の血管内治療における術中破裂と予後の検討. 第 47 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 福岡, 2018.3.15
123. 今村博敏, 佐藤 徹, 飯原弘二, 坂井信幸, JR-NET investigators: JR-NET3 の結果からみた SAH 後脳血管攣縮に対する血管内治療の治療成績. 第 34 回スパズム・シンポジウム, 博多, 2018.3.15
124. 今村博敏, 尾原信行, 河野智之, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 藤原 悟, 松井雄一, 村上泰隆, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 坂井信幸: デバイス選択で何が変わるのか? 時間・転帰… 第 43 回日本脳卒中学会学術集会, 博多, 2018.3.15
125. 足立拓優, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 佐々木夏一, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 心原性脳塞栓症の亜急性期再発. 第 42 回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018.3.16
126. 今村博敏, 尾原信行, 河野智之, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 藤原 悟, 松井雄一, 村上泰隆, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 坂井信幸: ReVive SE の中間成績と自験例報告. 第 43 回日本脳卒中学会学術集会, 博多, 2018.3.16
127. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 坂井信幸: 安全にフローダイバーターを使用するために. 第 47 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 博多, 2018.3.16
128. 佐々木夏一, 今村博敏, 工藤興亮, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 発症から 6 時間以上経過した主幹動脈閉塞症例へ PWI/DWI mismatch を元に急性血行再建術を行った症例の検討. 第 43 回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018.3.16
129. 鈴木啓太, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: AneurysmFlow を用いた未破裂脳動脈瘤に対するステント留置前後の血流動態評価. 第 43 回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018.3.16
130. 堀内一史, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 坂井信幸: 脳動脈瘤血管内治療の手技別における周術期脳塞栓症の検討. 第 43 回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018.3.16
131. 今村博敏, 尾原信行, 河野智之, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 藤原 悟, 松井雄一, 村上泰隆, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 坂井信幸: 急性期脳梗塞治療リアルワールドデータから見る Trevo の実力. 第 43 回日本脳卒中学会学術集会, 博多, 2018.3.17
132. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 松井雄一, 佐々木夏一, 足立拓優, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井千秋: 高齢化時代を迎えてくも膜下出血の治療はどう変化したか? STROKE2018, 福岡, 2018.3.17
133. 船津堯之, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 尾原信行, 河野智之, 徳永 聡, 鈴木啓太, 足立拓優, 佐々木夏一, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 頭蓋内動脈硬化性急性閉塞病変に対する血管内治療. 第 47 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 福岡, 2018.3.17
134. 佐々木夏一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 静脈洞血栓症に対する血管内治療 7 例の検討. 第 43 回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018.3.17

135. 谷 正一, 今村博敏, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 佐々木夏一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: X-ray angiography perfusion analysis を利用して内頸動脈バルーン閉塞試験時の脳血流、mean stump pressure、venous phase delay を同時に計測した 17 例の解析. 第 47 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 福岡, 2018.3.17
136. 秋山 亮, 船津堯之, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 徳永 聡, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 松井雄一, 堀内一史, 坂井信幸: 高齢者破裂脳動脈瘤に対する動脈瘤コイル塞栓術の治療成績. 第 43 回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018.3.17
137. 足立秀光, 坂井信幸, 船津堯之, 谷 正一, 今村博敏, 徳永 聡, 鈴木啓太, 足立拓優, 松井雄一, 佐々木夏一, 川端修平, 秋山 亮, 堀内一史, 三神和幸, 村上泰隆, 河野智之, 尾原信行, 坂井千秋: 動脈硬化性頭蓋内動脈狭窄症に対するステント留置術の成績 - coronary stent と Wingspan stent -. 第 47 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 博多, 2018.3.17
138. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 坂井信幸: Trial 結果から見た Gel の効果と更なる期待. 筑後 Neuro Intervention Seminar, 福岡, 2018.3.18
139. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K, Ohara N, Kono T: Current management of acute ischemic stroke in comprehensive stroke center in Japan. XXI SNR /XII AOCNR, Taipei, 2018.3.20
140. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K: Safety and efficacy of Enterprise VRD: Post market surveillance in Japan. XXI SNR /XII AOCNR, Taipei, 2018.3.20
141. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K: Flow diverter treatment for recurrence after stent assisted coil embolization of intracranial aneurysms. XXI SNR /XII AOCNR, Taipei, 2018.3.20

VII. 1. 18 整形外科

1. 小西宏樹, 藤田俊史, 大西英次郎, 岩城公一, 山本博史, 安田 義: 橈尺骨骨幹部骨折におけるプレート抜釘後再骨折症例の検討. 第 128 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 神戸, 2017.4.7
2. 宮崎由佳, 岩城公一, 山本博史, 森田悠吾, 安田 義: 体幹に進展したが救命しえた壊死性筋膜炎の 1 例. 第 128 回中部日本整形外科災害外科学会学術 2 集会, 神戸, 2017.4.8
3. 大西英二郎, 安田 義, 山本博史, 岩城公一, 太田悟司, 藤田俊史, 末吉達也: 胸椎同一レベルに生じた後縦靭帯骨化症、黄色靭帯骨化症症例の術後成績に関する検討. 第 46 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 札幌, 2017.4.13
4. 安田 義: 術前後の膝関節深部温度変化は人工膝関節置換術後可動域と相関する. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 福岡, 2017.4.20
5. Yasuda T, Iwaki K, Sueyoshi T, Ota S, Fujita S, Onishi E, Yamamoto H: Association between subcutaneous deep temperature around knee joint and knee motion recovery after total knee arthroplasty. APKASS Summit 2017 (Asia-Pacific Knee, Arthroscopy and Sports Medicine Society), Seoul, South Korea, 2017.4.29
6. 小豆澤勝幸, 伊藤 宣, 松田秀一, 濱本洋輔, 中谷敏昭, 坪山直生, 松田 誠, 安田 義: 運動療法が関節軟骨代謝に与える効果におけるバイオマーカーを用いた検討. 第 90 回日本整形外科学会学術総会, 仙台, 2017.5.20
7. Yasuda T, Azukizawa M, Ito H, Hamamoto Y, Nakatani T, Tsuboyama T, Matsuda M, Matsuda S: Effects of Well-Rounded Exercise Training on Cartilage Metabolism in Females without Radiologically Knee Osteoarthritis. 2017 American College of Sports Medicine, Seoul, South Korea, 2017.6.1
8. 安田 義: 難治症例に対する TKA. 神戸 TKA セミナー, 神戸, 2017.6.10
9. 安田 義, 岩城公一, 末吉達也: 術前後の膝関節深部温度変化は人工膝関節置換術後可動域と相関する. 第 9 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 札幌, 2017.6.22
10. 岩城公一, 末吉達也, 安田 義: トラネキサム酸投与による人工膝関節置換術後の出血量の軽減. 第 9 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 札幌, 2017.6.23

11. Yasuda T, Azukizawa M, Ito H, Hamamoto Y, Nakatani T, Tsuboyama T, Matsuda M, Matsuda S : Effects of Well-Rounded Exercise Training on Cartilage Metabolism in Females without Radiologically Knee Osteoarthritis. 22nd annual congress of the Europaeen College of Sports Science, Essen, Germany, 2017.7.6
12. 長野博志, 石井桂輔, 安武秀俊, 星野啓介, 土井 武, 前原 孝, 前 隆男, 宮本和彦, 田邊登崇, 池口良輔 : 多施設研究で見た大腿骨骨幹部骨折治療の問題点. 第 43 回日本骨折治療学会, 郡山, 2017.7.7
13. 末吉達也, 太田悟司, 安田 義 : 膝蓋上および膝蓋下アプローチによる脛骨髄内釘の早期治療成績. 第 43 回日本骨折治療学会, 郡山, 2017.7.7
14. 小西宏樹, 太田悟司, 安田 義 : 非定型大腿骨ステム周囲骨折と思われた 1 例. 第 43 回日本骨折治療学会, 郡山, 2017.7.7
15. 前原 孝, 上甲良二, 佐藤直人, 長野博志, 土井 武, 太田悟司, 前 隆男, 宮本和彦, 星野啓介, 安武秀俊, 石井桂輔, 田邊登崇 : 日本人青壮年男性と高齢女性の大腿骨形態比較—骨幹部の湾曲とその方向—. 第 43 回日本骨折治療学会, 郡山, 2017.7.8
16. 太田悟司, 藤原正利, 安田 義, 山本博史 : 当科における骨盤輪骨折の手術治療成績. 第 43 回日本骨折治療学会, 郡山, 2017.7.8
17. 安田 義, 吉矢晋一, 神谷宣広, 吉田竹志, 福島久徳, 岡林 良 : 膝前十字靭帯損傷者における股関節回旋の男女差. 第 30 回日本臨床整形外科学会学術集会, 東京, 2017.7.16
18. 橋村卓実, 小西宏樹, 森田悠吾, 宮崎由佳, 榊田崇一郎, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 岩城公一, 山本博史, 安田 義 : Monteggia 骨折の 1 例. 第 1 回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2017.7.22
19. 大西英二郎 : 腰椎疾患の診断と治療. 神戸市整形外科医会第 9 回総会学術講演会, 2017.7.29
20. 安田 義, 吉矢晋一, 神谷宣広, 吉田竹志, 福島久徳, 岡林 良 : 膝前十字靭帯損傷者における股関節回旋の男女差の検討. 第 43 回日本整形外科学スポーツ医学会学術総会, 宮崎, 2017.9.8
21. Yasuda T, Iwaki K, Sueyoshi T, Ota S, Fujita S, Onishi E, Yamamoto H : Association between subcutaneous deep temperature around knee joint and knee motion recovery in the early phase after total knee arthroplasty. 24th Annual Meeting of EORS, Munich, Germany, 2017.9.14-15
22. 小西宏樹, 森田悠吾, 宮崎由佳, 榊田崇一郎, 橋村卓実, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 岩城公一, 山本博史, 安田 義 : Charcot 関節に対して人工膝関節置換術を施行した 1 例. 第 54 回兵庫県膝関節研究会, 神戸, 2017.9.30
23. Fujita S, Yasuda T, Yamamoto H, Iwaki K, Onishi E, Ota S, Sueyoshi T : Allograft augmentation for anterior dislocation fracture with concomitant fracture of the glenoid rim, acromion and coracoid process, a case study. 第 44 回日本肩関節学会, 東京, 2017.10.6-8
24. 榊田崇一郎, 大西英二郎, 森田悠吾, 安田 義 : 骨粗鬆症性椎体骨折に対して同種骨を用いた椎体形成を併用した後方固定術の治療成績. 第 129 回中部日本整形外科学災害外科学会学術集会, 富山, 2017.10.6
25. 末吉達也, 大西英次郎, 岩城公一, 山本博史, 安田 義 : 人工関節全置換術後の脚長差と術後成績の検討. 第 129 回中部日本整形外科学災害外科学会学術集会, 富山, 2017.10.6
26. 榊田崇一郎, 藤田俊史, 安田 義 : 小児上腕骨内上顆骨折に非観血的整復不能な橈骨頭前方脱臼を合併した 1 例. 第 129 回中部日本整形外科学災害外科学会学術集会, 富山, 2017.10.7
27. 森田悠吾, 安田 義, 太田悟司, 林 信実 : 多発性骨髄腫による寛骨臼病的骨折に対して modified Harrington 法による支持機能再建を行った 1 例. 第 129 回中部日本整形外科学災害外科学会学術集会, 富山, 2017.10.7
28. 森田悠吾, 榊田崇一郎, 大西英次郎 : 頸椎脱臼を伴う脊髄損傷の治療成績. 第 26 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 金沢, 2017.10.13
29. 榊田崇一郎, 森田悠吾, 大西英次郎 : 骨粗鬆症性椎体骨折に対して同種骨による椎体形成術を併用した後方固定術の治療成績. 第 26 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 金沢, 2017.10.13
30. 榊田崇一郎, 森田悠吾, 大西英次郎 : 胸腰椎破裂骨折に対して同種骨を用いた椎体形成術を併用した後方固定術の治療成績. 第 26 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 金沢, 2017.10.14
31. 太田悟司, 山本博史, 安田 義 : 肘関節開放脱臼骨折の 1 例. 第 27 回兵庫県骨折治療研究会, 神戸, 2017.10.14
32. 安田 義 : 膝関節疾患と鎮痛剤. 持田製薬社内講演会, 神戸, 2017.11.8

33. 小西宏樹, 高岡佑輔, 森田悠吾, 宮崎由佳, 榊田崇一郎, 橋村卓実, 末吉達也. 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 岩城公一, 山本博史, 安田 義: 人工股関節置換術後に感染をきたした1例. 第2回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2017.12.9
34. 藤田俊史, 小西宏樹, 高岡佑輔, 森田悠吾, 宮崎由佳, 榊田崇一郎, 橋村卓実, 末吉達也, 太田悟司, 大西英次郎, 岩城公一, 山本博史, 安田 義: Complete (complex) MP dislocation の1例. 第2回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2017.12.9
35. 太田悟司, 小西宏樹, 高岡祐輔, 森田悠吾, 宮崎由佳, 榊田崇一郎, 橋村卓実, 末吉達也, 藤田俊史, 大西英次郎, 岩城公一, 安田 義: DCO の考慮を要した1例. 第6回京大外傷研究会, 大阪, 2018.2.3
36. 山本博史, 藤田俊史, 安田 義: 骨接合が困難な Mason Type 3 の橈骨頭骨折は人工橈骨頭に置換すべきか. 第30回日本肘関節学会学術集会, 東京, 2018.2.16
37. 藤田俊史, 安田 義: 観血的手術を行なうべき小児上腕骨顆上骨折の検討. 第30回日本肘関節学会学術集会, 東京, 2018.2.16
38. 池口良輔, 太田壮一, 織田宏基, 洵江宏文, 竹内久貴, 光澤定己, 松田秀一, 安田 義: 上腕骨遠位端関節内骨折 (AO/OTA type C) に対する double plate 固定法による骨接合術の治療成績. 第30回日本肘関節学会学術集会, 東京, 2018.2.17
39. 末吉達也, 安田 義: 人工股関節術後の脚長差と術後成績の検討. 第48回日本人工関節学会, 東京, 2018.2.23
40. 森田悠吾, 小西宏樹, 高岡祐輔, 宮崎由佳, 榊田崇一郎, 橋村卓実, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 岩城公一, 安田 義: Modified Harrington 法による骨盤再建で良好な固定性を得た多発性骨髄腫の病的骨折の1例. 第22回兵庫股関節研究会, 神戸, 2018.3.3
41. Azukizawa M, Ito H, Hamamoto Y, Fujii T, Morita Y, Okahata A, Tomizawa T, Furu M, Nishitani K, Kuriyama S, Nakamura S, Yoshitomi H, Nakatani T, Tsuboyama T, Matsuda S, Yasuda T: The Effects of Well-Rounded Exercise Program on Systematic Biomarkers Related for Cartilage Metabolism. The ORS 2018 Annual Meeting, New Orleans, Louisiana, USA, 2018.3.10-13
42. 安田 義: リウマチ性疾患に対する人工肘関節置換術. 第15回兵庫整形リウマチの会, 神戸, 2018.3.17
43. 森田悠吾, 小西宏樹, 高岡祐輔, 宮崎由佳, 榊田崇一郎, 橋村卓実, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 岩城公一, 安田 義: AO33C2 広範囲骨欠損を伴う大腿骨開放骨折の1例. 第28回兵庫県骨折治療研究会, 神戸, 2018.3.24

VII. 1. 19 形成外科

1. 高橋夏子, 池田実香, 松添晴加, 南 遼平, 七 也, 片岡和哉: 我々の睫毛下切開法に対する考え方. 第60回日本形成外科学会総会, 大阪, 2017.4.12-14
2. 七 也, 片岡和哉, 池田実香, 松添晴加: ECC 症候群の1例. 第116回関西形成外科学会, 大阪, 2017.7.9
3. 池田実香, 松添晴加, 内藤素子, 片岡和哉, 七 也: ケロイド移植モデルの構築 (第一報). 第26回日本形成外科学会基礎学術集会, 大阪, 2017.10.19-20
4. 松添晴加, 池田実香, 内藤素子, 片岡和哉, 七 也: ケロイド・肥厚性瘢痕組織における神経の局在. 第26回日本形成外科学会基礎学術集会, 大阪, 2017.10.19-20
5. 池田実香, 松添晴加, 内藤素子, 片岡和哉, 七 也: ケロイド・肥厚性瘢痕に置ける神経線維の局在. 第47回日本創傷治癒学会・第12回瘢痕・ケロイド治療研究会, 京都, 2017.11.27-28
6. 内藤素子, 山脇聖子, 片山泰博, 綾 梨乃, 石河利弘, 池田実香, 江野尻竜樹, 片岡和哉, 鈴木茂彦: コンドロイチナーゼに着目した新規ケロイド治療薬の開発. 第47回日本創傷治癒学会・第12回瘢痕・ケロイド治療研究会, 京都, 2017.11.27-28

VII. 1. 20 産婦人科

1. 中北 麦, 前田裕斗, 増田望穂, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 今井幸弘, 吉岡信也: 悪性黒色腫の合併を強く疑った卵巣成熟嚢胞奇形腫の1例. 第69回日本産科婦人科学術講演会, 広島, 2017.4.13-16

2. 山添紗恵子, 吉岡信也, 今村裕子, 青木卓哉, 上松和彦, 池田裕美枝, 富田裕之, 大竹紀子, 小山瑠梨子, 小林史昌, 林 信孝, 松林 彩: 妊娠後期に緊急帝王切開を要した子宮静脈瘤破裂の1例. 第69回日本産科婦人科学会学術講演会, 広島, 2017.4.13-16
3. Maeda Y, Matsubayashi A, Nakakita B, Sakiyama A, Hayashi N, Kobayashi F, Oyama R, Ootake N, Aoki T, Yoshioka S: Management of Premature Preterm Rupture of the Membranes (PPROM) between 28 and 34 weeks and perinatal outcomes. 第69回日本産科婦人科学会学術講演会, 広島, 2017.4.13-16
4. 吉岡信也, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小林昌史, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 北 正人: 当院における早期子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術の導入とその施行症例の検討. 第69回日本産科婦人科学会学術講演, 広島, 2017.4.13-16
5. 星野達二, 岸 淳二, 江見信之, 小野吉行, 吉岡信也: 病理検査と抗体検査によって診断された immunocompetent hosts のトキソプラズマ後天性感染例. 第69回日本産科婦人科学会学術講演会, 広島, 2017.4.13-16
6. 増田望穂, 大竹紀子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 子宮広間膜に発生した類内膜癌の1例. 第69回日本産科婦人科学会学術講演会, 広島, 2017.4.13-16
7. 柳川真澄, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院における再生不良性貧血合併妊娠の7症例の臨床的検討. 第69回日本産科婦人科学会学術集会, 広島, 2017.4.13-16
8. 富田裕之, 岡本葉留子, 門元辰樹, 増田望穂, 柳川真澄, 前田裕斗, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 中北 麦, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 高度肥満の子宮体癌患者に対して腹腔鏡下手術を施行した3症例の検討. 第16回兵庫産婦人科内視鏡手術懇話会, 神戸, 2017.5.13
9. 吉岡信也: 最近の子宮内膜症や子宮筋腫の治療. 子宮内膜症・腺筋症フェーマシーセミナー, 神戸, 2017.6.9
10. 柳川真澄, 岡本葉留子, 門本辰樹, 前田裕斗, 増田望穂, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 産後 PRES に対し開頭減圧術を要した1例. 第136回近畿産婦人科学会学術集会, 大阪, 2017.6.17
11. 中北 麦, 岡本葉留子, 門元辰樹, 前田裕斗, 増田望穂, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 癌性腹膜炎症例に対する試験的腹腔鏡手術の有用性の検討. 第91回兵庫産婦人科学会, 神戸, 2017.7.2
12. 松林 彩, 柳川真澄, 増田望穂, 前田裕斗, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 流産後に筋腫分娩後来た2症例の検討. 第91回兵庫県産科婦人科学会, 神戸, 2017.7.2
13. 柳川真澄, 前田裕斗, 増田望穂, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 吉岡信也: 当院における子宮頸管妊娠の治療成績の検討. 第53回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 2017.7.16
14. 前田裕斗, 増田望穂, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 吉岡信也: 異所性妊娠の診断におけるMRIの有用性について. 第53回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 2017.7.16-18
15. 増田望穂, 前田裕斗, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院で分娩管理を行った不妊治療後妊娠と胎盤異常に関する検討. 第53回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 2017.7.18
16. 大竹紀子, 増田望穂, 前田裕斗, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 上松和彦, 吉岡信也: 横浜産科危機的出血に対しフィブリノゲン製剤を使用し救命した3例. 第53回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 2017.7.18
17. 中北 麦, 今井幸弘, 前田裕斗, 増田望穂, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 卵巣原発悪性黒色腫との鑑別に苦慮したメラノサイト増生を伴う成熟嚢胞奇形腫の1例. 第59回日本婦人科腫瘍学会, 熊本, 2017.7.28
18. 大竹紀子, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 富田裕之, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院で加療した卵巣粘液性癌の検討. 第59回日本婦人科腫瘍学会, 熊本, 2017.7.28

19. 崎山明香, 吉岡信也, 山添紗恵子, 中北 麦, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 青木卓哉, 今村裕子, 今井幸弘, 市川千宙:術後に子宮頸部最小偏倚腺癌の合併が判明した卵巣粘液性癌の1例. 第59回日本婦人科腫瘍学会, 熊本, 2017.7.28
20. 林 信孝, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 青木卓哉, 今村裕子, 吉岡信也:当院における早期子宮体癌に対する開腹手術と腹腔鏡下手術の比較検討. 第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 熊本, 2017.7.29
21. 増田望穂:当院で分娩管理を行った不妊治療後妊娠と胎盤異常に関する検討. 研修医、修練医のための産婦人科サマーセミナー2017, 京都, 2017.8.12
22. 小林史昌, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也:腹腔鏡下ドレナージ術が有効であった *Mycoplasma hominis* による帝王切開術後膿瘍の1例. 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 岡山, 2017.9.7
23. 中北 麦, 岡本葉留子, 門元辰樹, 前田裕斗, 増田望穂, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也:癌性腹膜炎症例に対する試験的腹腔鏡手術の有用性の検討. 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 岡山, 2017.9.7-9
24. 林 信孝, 岡本葉留子, 門元辰樹, 前田裕斗, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 青木卓哉, 上松和彦, 吉岡信也:当院における子宮体癌IA期症例に対する開腹手術および腹腔鏡下手術の比較検討. 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 岡山, 2017.9.7
25. 松林 彩, 門元辰樹, 岡本葉留子, 柳川真澄, 増田望穂, 前田裕斗, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也:当院で妊娠中に施行した付属器腫瘍手術の検討. 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 岡山, 2017.9.7
26. 富田裕之, 岡本葉留子, 門元辰樹, 増田望穂, 柳川真澄, 前田裕斗, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 中北 麦, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也:高度肥満の子宮体癌患者に対して腹腔鏡下手術を施行した3症例の検討. 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 岡山, 2017.9.7
27. 青木卓哉, 岡本葉留子, 門元辰樹, 前田裕斗, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 吉岡信也:当院にて経験した全腹腔鏡下子宮全摘術後の腔断端離開. 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演, 岡山, 2017.9.8
28. 大竹紀子, 岡本葉留子, 門元辰樹, 前田裕斗, 増田望穂, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 林 信孝, 小林史昌, 小山瑠梨子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也:腹腔鏡下手術を行った卵巣境界悪性腫瘍の予後. Oncological outcomes of laparoscopic surgery for borderline ovarian tumor. 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演, 岡山, 2017.9.8
29. Hayashi N, Kobayashi F, Oyama R, Otake N, Tomita H, Uematsu K, Aoki T, Yoshioka S: Comparison of laparoscopic surgery with laparotomy for stage 1A endometrial cancer. 18th APAGE Annual Congress 2017 Okayama, Okayama, 2017.9.9
30. Hoshino T, Kishi J, Emi N, Ono Y, Yoshioka S: Ultrasound (US) and magnetic resonance imaging (MRI) findings of fetal heart beat (FHB) -positive cesarean scar pregnancy (CSP) in a developed country. ISUOG's 27th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, Vienna, Austria, 2017.9.16-19
31. Hoshino T, Kishi J, Emi N, Ono Y, Yoshioka S: Treatment strategies of fetal heart beat (FHB) -positive cesarean scar pregnancy (CSP) in a developed country. ISUOG's 27th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, Vienna, Austria, 2017.9.16-19
32. Hoshino T, Kishi J, Emi N, Ono Y, Yoshioka S: Characteristics of fetal heart beat-positive cesarean scar pregnancy and adverse effects of transarterial embolization therapy in a developed country. ISUOG's 27th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, Vienna, Austria, 2017.9.16-19
33. 門元辰樹, 中北 麦, 岡本葉留子, 柳川真澄, 前田裕斗, 増田望穂, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小林史昌, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也:当院で経験された妊娠高血圧症候群合併子癰発作4症例の後方視的検討. 第137回近畿産婦人科学会学術集会, 和歌山, 2017.10.29

34. 岡本葉留子, 小林史昌, 門元辰樹, 増田望穂, 柳川真澄, 前田裕斗, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 中北 麦, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院における子宮頸部腺癌および AGC 症例の検討. 第 137 回近畿産婦人科学会学術集会, 和歌山, 2017.10.29
35. 池田裕美枝: 女性外来の挑戦. 神戸市立医療センター中央市民病院地域連携懇話会, 神戸, 2017.11.9
36. 中北 麦, 岡本葉留子, 門元辰樹, 前田裕斗, 増田望穂, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 二絨毛膜二羊膜双胎の一児に Breu's mole を伴う胎児発育不全を認めた 1 例. 第 25 回日本胎盤学会, 長崎, 2017.11.25
37. 松林 彩, 増田望穂, 林 信孝, 小山瑠梨子, 吉岡信也: 妊娠中の腹腔鏡下付属器腫瘍手術の工夫. 第 40 回日本産婦人科手術学会, 大阪, 2017.11.25
38. 林 信孝, 松林 彩, 小山瑠梨子, 吉岡信也: 当院における緊急腹腔鏡下手術の後方視的検討. 第 40 回日本産婦人科手術学会, 大阪, 2017.11.25
39. 中北 麦, 岡本葉留子, 門元辰樹, 前田裕斗, 増田望穂, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院における再発婦人科がんに対する腹腔鏡手術. 2017 年度兵庫県産婦人科臨床懇話会, 神戸, 2018.1.13
40. 小林史昌, 岡本葉留子, 門元辰樹, 前田裕斗, 柳川真澄, 増田望穂, 山添紗恵子, 中北 麦, 松林 彩, 崎山明香, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: Mycoplasma hominis が起炎菌と疑われた帝王切開術後感染症の 2 例. 第 18 回産婦人科手術療法・周術期研究会, 京都, 2018.2.10
41. 増田望穂, 吉岡信也, 山添紗恵子, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉: 当院で分娩管理を行った不妊治療後妊娠と胎盤異常に関する検討. 第 5 回神戸市立医療センター中央市民病院総合周産期医療センター・オープンカンファレンス, 神戸, 2018.2.24
42. 上松和彦, 岡本葉留子, 門元辰樹, 前田裕斗, 柳川 澄, 増田望穂, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 青木卓哉, 吉岡信也: 神戸市立医療センター中央市民病院産科 年次報告. 第 5 回神戸市立医療センター中央市民病院総合周産期医療センター・オープンカンファレンス, 神戸, 2018.2.24

VII. 1. 21 泌尿器科

1. 福永有伸, 鈴木一生, 赤羽瑞穂, 鈴木良輔, 西原大策, 土肥洋一郎, 河野有香, 松本敬優, 松岡崇志, 矢野敏史, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 上部尿路上皮癌に対する治療成績: リンパ節郭清の意義についての検討. 第 105 回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017.4.21
2. 井上幸治, 鈴木一生, 鈴木良輔, 赤羽瑞穂, 福永有伸, 土肥洋一郎, 西原大策, 松岡崇志, 矢野敏史, 宇都宮紀明, 常森寛行, 杉野善雄, 川喜田睦司: 自然整復あるいは用手整復した精巣捻転症の検討. 第 105 回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017.4.21
3. 川喜田睦司, 福永有伸, 西原大策, 河野有香, 松本敬優, 松岡崇志, 矢野敏史, 常森寛行, 宇都宮紀明, 岡田卓也, 六車光英: 腹腔鏡下無阻血腎実質無縫合腎部分切除術. 第 105 回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017.4.22
4. 鈴木良輔, 鈴木一生, 赤羽瑞穂, 福永有伸, 河野有香, 松本敬優, 土肥洋一郎, 松岡崇志, 増田憲彦, 白石裕介, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 高リスク前立腺癌に対する恥骨後式 vs 腹腔鏡根治的前立腺全摘除術後の生化学的再発の比較. 第 105 回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017.4.23
5. 松岡崇志, 鈴木一生, 鈴木良輔, 福永有伸, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 抗凝固薬使用患者における周術期ヘパリン置換の有無による泌尿器科腹腔鏡手術の安全性の検討. 第 105 回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017.4.23
6. 鈴木一生, 鈴木良輔, 福永有伸, 西原大策, 土肥洋一郎, 河野有香, 松岡崇志, 矢野敏史, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 前立腺癌に対するネオアジュバントホルモン療法における骨代謝マーカー (NT x) とテストステロンの変化についての検討. 第 105 回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017.4.23
7. 杉野善雄, 鈴木一生, 赤羽瑞穂, 鈴木良輔, 福永有伸, 河野有香, 土肥洋一郎, 松岡崇志, 矢野敏史, 井上幸治, 岡田卓也, 川喜田睦司: ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術後の尿禁制に関連する因子の検討. 第 105 回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017.4.23

8. 土肥洋一郎, 鈴木一生, 赤羽瑞穂, 鈴木良輔, 福永有伸, 松岡崇志, 矢野敏史, 杉野善雄, 井上幸治, 岡田卓也, 川喜田睦司: ロボット支援 vs 腹腔鏡下腎部分切除術: 周術期治療成績についての比較検討. 第 105 回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017.4.23
9. 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 小児腎外傷の 1 例. HOWN-RCC 講演会, 神戸, 2017.6.3
10. 鈴木良輔, 牧田哲幸, 鈴木一生, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 尿管癌の 1 例. HOWN-RCC 講演会, 神戸, 2017.6.3
11. 鈴木一生, 牧田哲幸, 鈴木良輔, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 前立腺癌ホルモン療法による骨関連事象. 新時代の Bone Health 治療 in 神戸, 神戸, 2017.6.8
12. 鈴木一生, 牧田哲幸, 鈴木良輔, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 当院におけるジェブタナの治療経験. 第 9 回 HOPS, 神戸, 2017.6.10
13. 川喜田睦司: 前立腺癌治療戦略～性機能温存術の工夫から再発制御まで～. 第 27 回日本性機能学会中部総会, 西宮, 2017.6.17
14. 石川英二: 神戸市立医療センター中央市民病院泌尿器科男性外来における診療推移. 第 5 回 Kobe Men's Health 研究会, 神戸, 2017.7.13
15. 川喜田睦司: RARP における TAR (Total Anatomical Reconstruction). 第 8 回 Urology Network Operation Seminar 泌尿器科手術手技塾, 大阪, 2017.9.15
16. 川喜田睦司, 湯浅 健, 山崎俊成, 伊藤将彰, 大西裕之, 清川岳彦: 腎細胞癌座談会, 京都, 2017.9.16
17. 川喜田睦司: 技術認定取得のための工夫と留意点「泌尿器科」. 第 30 回近畿内視鏡外科研究会, 大阪, 2017.9.30
18. 鈴木一生, 牧田哲幸, 鈴木良輔, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 陰嚢部痛を初期症状とし診断に難渋した結節性多発動脈円の 1 例. 第 236 回日本泌尿器科学会関西地方会, 神戸, 2017.10.7
19. 鈴木一生, 簗智幸政, 牧田哲幸, 鈴木良輔, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 松岡崇志, 杉野善雄, 井上幸治, 辻 晃仁, 川喜田睦司: 当院におけるカバジタキセル投与例の検討. 泌尿器腫瘍学会第 3 回学術集会, 東京, 2017.10.22
20. 川喜田睦司: ロボット手術センターを新設しました. 平成 29 年神戸市立医療センター中央市民病院地域連携懇話会 (第 8 回), 神戸, 2017.11.9
21. 鈴木良輔, 牧田哲幸, 鈴木一生, 赤羽瑞穂, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 不完全重複尿管に発生した尿管癌に対する腹腔鏡下尿管部分切除術. 第 31 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 徳島, 2017.11.16
22. 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: ロボット支援前立腺全摘術におけるドレーン留置の必要性に関する検討. 第 31 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 徳島, 2017.11.16
23. 川喜田睦司: 出血は怖くない: 対処法教えます. 第 31 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 徳島, 2017.11.17
24. 久保田聖史, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 福永有伸, 土肥洋一郎, 松岡崇志, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 当院の膀胱癌患者における腹腔鏡下膀胱全摘術後の再発様式に関する検討. 第 31 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 徳島, 2017.11.17
25. 鈴木良輔, 牧田哲幸, 鈴木一生, 赤羽瑞穂, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術における断端陽性のリスク因子についての検討. 第 31 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 徳島, 2017.11.17
26. 今尾哲也, 松本侑樹, 岸蔭貴裕, 天野俊康, 川喜田睦司: 当科におけるロボット支援腎部分切除術の初期経験. 第 31 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 徳島, 2017.11.17
27. 土肥洋一郎, 牧田哲幸, 鈴木一生, 赤羽瑞穂, 鈴木良輔, 福永有伸, 久保田聖史, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: ロボット支援腎部分切除術後 3 ヶ月目の腎機能と健側腎の代償性肥大についての検討. 第 31 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 徳島, 2017.11.18
28. 川喜田睦司: 泌尿器腹腔鏡手術の基本手技と合併症予防. 第 67 回日本泌尿器科学会中部総会, 大阪, 2017.11.24

29. 井上幸治, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 松岡崇志, 矢野敏史, 杉野善雄, 岡田卓也, 川喜田睦司: ロボット支援前立腺全摘除術 (RARP) における術後鼠径ヘルニア予防法の検討. 第 67 回日本泌尿器科学会中部総会, 大阪, 2017.11.25
30. 杉野善雄, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 松岡崇志, 井上幸治, 岡田卓也, 川喜田睦司: 腹腔鏡下前立腺全摘術後の排尿症状アンケート (IPSS) の検討. 第 67 回日本泌尿器科学会中部総会, 大阪, 2017.11.26
31. 鈴木一生, 牧田哲幸, 鈴木良輔, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 松岡崇志, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 前立腺癌ホルモン療法における骨関連事象について. 第 67 回日本泌尿器科学会中部総会, 大阪, 2017.11.26
32. 川喜田睦司: 難治性精巣癌の治療戦略 難治性精巣癌の手術療法. 第 67 回日本泌尿器科学会中部総会, 大阪, 2017.11.26
33. 川喜田睦司: 膀胱全摘での尿路変更 腹腔鏡下およびロボット支援膀胱全摘除における完全体腔内尿路変向術. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017.12.7
34. 土肥洋一郎, 川喜田睦司: ロボット支援腎部分切除術後の造影 CT による仮性動脈瘤の出現頻度に関する検討. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017.12.8
35. 井上幸治, 川喜田睦司: 開胸、開腹で施行した右腎癌・下大静脈腫瘍血栓 (レベル IV) の手術. 第 36 回泌尿器科手術研究会, 宮崎, 2018.1.27
36. 土肥洋一郎, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 福永有伸, 久保田聖史, 松岡崇志, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: “無阻血”、“無縫合” ロボット支援腎部分切除術の初期経験. 第 10 回日本ロボット外科学会学術集会, 東京, 2018.2.10
37. 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 総腸骨動脈瘤人工血管置換術後に排尿時痛・下腹部痛を来した 1 例. 兵庫・岡山 RCC 講演会, 神戸, 2018.2.17
38. 鈴木良輔, 牧田哲幸, 鈴木一生, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 当院における TUL の実際. 第 31 回 Clinical Urology 研究会, 神戸, 2018.3.3

VII. 1. 22 耳鼻咽喉科

1. 山本亮介: 小児両側人工内耳使用者の視聴覚統合機能に関する McGurk 効果を用いた検討. 第 30 回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都, 2017.4.1
2. Yamazaki T, Moroto S, Naito Y: Potential indication for EAS in a soprano singer with high frequency hearing loss. MED-EL Product Training, Innsbruck Austria, 2017.5.11-13
3. 山本亮介, 内藤 泰, 篠原尚吾, 藤原敬三, 竹林慎治, 原田博之, 道田哲彦, 林 一樹, 齊田浩二: 小児両側人工内耳使用者の視聴覚統合機能に関する McGurk 効果を用いた検討. 第 118 回日本耳鼻咽喉科学会, 広島, 2017.5.17-20
4. 諸頭三郎: 人工内耳生徒の教科学習の課題と対応 (講演). 兵庫県新温泉町小・中学校職員研修会, 兵庫県新温泉町, 2017.6.6
5. 内藤 泰: めまいの手術・人工中耳の手術 (特別講演). 第 86 回北北海道耳鼻咽喉科懇話会, 旭川, 2017.6.10
6. 諸頭三郎: 人工内耳学童の聴覚補償について (講演). 洲本市立広石小学校職員研修会, 洲本, 2017.6.14
7. Naito Y, Kawase T, Hara A: Standard audiogram description of tinnitus: a proposal from Japan Audiological Society. IFOS ENT world congress Paris 2017, Paris in France, 2017.6.24-28
8. Yamamoto R, Naito Y: Audio-visual speech perception in prelingually deafened Japanese children with bilateral cochlear implantation. IFOS ENT world congress Paris 2017, Paris in France, 2017.6.24-28
9. 諸頭三郎: 人工内耳医療—最近のトピックス— (講演). 兵庫県立こばと聴覚特別支援学校研修会, 西宮, 2017.6.30
10. 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 竹林慎治, 原田博之, 道田哲彦, 山本亮介, 林 一樹, 齊田浩二: 術前診断が困難であった鼓室内赤色腫瘍症例. 第 79 回耳鼻咽喉科臨床学会, 下関, 2017.7.6-7
11. 齊田浩二, 藤原敬三, 竹林慎治, 原田博之, 道田哲彦, 林 一樹, 山本亮介, 篠原尚吾, 内藤 泰: 神経内分泌分化を伴った中耳腺腫の 1 例. 第 79 回耳鼻咽喉科臨床学会, 下関, 2017.7.6-7

12. 内藤 泰：めまいの画像診断と救急カンファレンス（講演）．第34回日本めまい平衡医学会医師講習会，神戸，2017.7.13
13. 山本亮介，水野敬介，齊田浩二，林 一樹，道田哲彦，菊地正弘，竹林慎治，藤原敬三，篠原尚吾，内藤 泰：CHARGE 症候群に対する人工内耳の成績．第186回日耳鼻兵庫県地方部会，神戸，2017.7.22
14. 齊田浩二，藤原敬三，竹林慎治，原田博之，道田哲彦，林 一樹，山本亮介，水野敬介，篠原尚吾，内藤 泰：鼓室階骨化のため前庭階に人工内耳電極を挿入した1例．第186回日耳鼻兵庫県地方部会，神戸，2017.7.22
15. 山本亮介，藤原敬三，内藤 泰：当院での鼓膜穿孔への対応．東北耳科研究会，盛岡，2017.9.11
16. 諸頭三郎：人工内耳医療の基礎知識（講演）．姫路聴覚特別支援学校及び近隣市町村小・中学校難聴学級合同研修会，姫路，2017.9.29
17. 諸頭三郎：人工聴覚器についての最近のトピックス（講演）．兵庫県立こばと聴覚特別支援学校研修会，西宮，2017.10.11
18. 山本亮介，内藤 泰，道田哲彦，藤原敬三：CHARGE 症候群に対する人工内耳の成績．第62回日本聴覚医学会，福岡，2017.10.18-20
19. 山崎朋子，諸頭三郎，玉谷輪子，大西晶子，藤井直子，内藤 泰：両側人工内耳装用児における同時手術と逐次手術の装用効果の比較．第62回日本聴覚医学会，福岡，2017.10.18-20
20. 道田哲彦，内藤 泰，篠原尚吾，藤原敬三，竹林慎治，菊地正弘，林 一樹，山本亮介，齊田浩二，水野敬介：中頭蓋窩法による耳科手術の経験．第187回日耳鼻兵庫県地方部会，西宮，2017.10.29
21. 白井裕美子，前川圭子，末廣 篤，雲井一夫，土師知行：当科における小児声帯結節に対する音声治療．第6回日本小児診療多職種研究会，宜野湾，2017.11.4
22. 山本亮介，藤原敬三，道田哲彦，竹林慎治，内藤 泰：後天性外耳道閉鎖症と扁平苔癬の関連の検討．第27回日本耳科学会，横浜，2017.11.22-24
23. 藤原敬三，竹林慎治，道田哲彦，山本亮介，内藤 泰：高齢者に対する鼓室形成術．第27回日本耳科学会，横浜，2017.11.22-24
24. 道田哲彦，内藤 泰，藤原敬三，竹林慎治，山本亮介：中頭蓋窩法による耳科手術11例の検討．第27回日本耳科学会，横浜，2017.11.22-24
25. 内藤 泰：神戸市民病院症例における適応拡大の有用性．第27回日本耳科学会，横浜，2017.11.22-24
26. 前川圭子：構音障害の治療－特異的機能性構音障害と粘膜下口蓋裂について－（講演）．神戸市通級指導教室担当教員研修会，神戸，2017.11.29
27. 北原 紘，牛尾宗貴，城倉 健，関根和教，中村 正，伏木宏彰，宇佐美真一，内藤 泰，室伏利久：めまい平衡リハビリテーションの実態に関するアンケート調査．第76回日本めまい平衡医学会，軽井沢，2017.11.30-12.1
28. 内藤 泰：テーマセッション5「めまいの画像診断：内リンパ水腫関連疾患から中枢性疾患まで」Keynote lecture：中枢性めまいの画像診断．第76回日本めまい平衡医学会，軽井沢，2017.11.30-12.1
29. Naito Y：Round table -Bilateral CI- sequential or simultaneous? Sequential and simultaneous CI in children（講演）．The 9th Siebold Memorial Symposium on Hearing Implants, Yokohama, 2017.12.3
30. 内藤 泰：神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・平成29年の現況．第14回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科地域合同オープンカンファレンス，神戸，2017.12.7
31. 篠原尚吾，藤原敬三，竹林慎治，道田哲彦，山本亮介，林 一樹，齊田浩二，水野敬介，前川圭子，藤井直子：ご紹介頂いた症例呈示、治療方針、経過報告、診療の話題．第14回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科地域合同オープンカンファレンス，神戸，2017.12.7
32. 内藤 泰：専門領域強化プロジェクト活動報告－めまい平衡領域（講演）．第31回京都耳鼻咽喉科研究会，京都，2017.12.9
33. 内藤 泰：側頭骨の画像診断と手術（講演）．第27回側頭骨解剖実習，京都，2017.12.12
34. 諸頭三郎：人工内耳医療の素朴な質問・教育と進路（講演）．第19回人工内耳と難聴に関する勉強会（人工内耳カンファレンス），神戸，2017.12.19
35. 玉谷輪子：人工内耳医療の素朴な質問・リスク マッピングと機器の不具合（講演）．第19回人工内耳と難聴に関する勉強会（人工内耳カンファレンス），神戸，2017.12.19
36. 諸頭三郎：人工内耳学童児へのコミュニケーション補償（講演）．淡路市立学習小学校職員研修会，淡路，2018.1.30

37. 末廣 篤, 前川圭子, 竹上つかさ, 大森孝一: Type II codectomy 施行後の音声的良好であった声帯 carcinosarcoma 症例. 第 30 回日本喉頭科学会, 高知, 2018.3.1-2
38. 竹上つかさ, 前川圭子, 末廣 篤: 過緊張性発声障害を呈した変声障害例. 第 30 回日本喉頭科学会, 高知, 2018.3.1-2
39. 前川圭子, 末廣 篤, 竹上つかさ: 失声で発症した機能性発声障害例の検討. 第 30 回日本喉頭科学会, 高知, 2018.3.1-2

VII. 1. 23 頭頸部外科

1. 竹林慎治: 気管切開術後閉鎖の検討. 第 27 回日本気管食道科学会認定気管食道科専門医大会, 仙台, 2017.4.8-9
2. 篠谷雄二, 新村里美, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 松岡直樹, 篠原尚吾: 甲状腺乳頭癌の被膜外浸潤に対する術前超音波検査の有用性の検討. 第 90 回日本内分泌学会総会, 京都, 2017.4.20-22
3. Shinohara S, Takebayashi S, Kikuchi M, Harada H, Imai Y, Uehara K, Usami Y: The characteristics of p16 positive/ p53 negative oropharyngeal squamous cell carcinomas - Excellent survival, higher response rate to neoadjuvant chemotherapy and lower multiple malignancy incidence -. American Head and Neck Society Annual meeting 2017 in Combined Otolaryngology Spring Meeting (COSM), San Diego, USA, 2017.4.26-27
4. 竹林慎治, 篠原尚吾, 齊田浩二, 林 一樹, 山本亮介, 道田哲彦, 原田博之, 藤原敬三, 内藤 泰: 当院における頭頸部腺様嚢胞癌の検討. 第 118 回日本耳鼻咽喉科学会, 広島, 2017.5.17-20
5. 菊地正弘: Radiation-induced PD-L1 upregulation in head and neck cancer and melanoma; its role in the tumor microenvironment and assessment by preclinical immunoPET/CT. 第 11 回頭頸部癌基礎研究会, 大阪, 2017.6.7
6. 林 一樹, 篠原尚吾, 竹林慎治, 原田博之, 道田哲彦: 当院における原発不明癌頭部リンパ節転移症例の検討. 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9
7. 原田博之, 篠原尚吾, 竹林慎治, 菊地正弘, 道田哲彦, 林 一樹: 口腔・咽頭癌患者に対してフラッシング反応についての問診をしておくことは意義があるか? 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9
8. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 篠原尚吾, 原田博之: 放射線治療後に外耳道真珠腫が生じた 3 症例. 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9
9. 山本亮介, 篠原尚吾, 齊田浩二, 林 一樹, 道田哲彦, 原田博之, 竹林慎治, 藤原敬三, 内藤 泰: 腫瘍随伴症候群と思われる多関節炎を合併した甲状腺乳頭癌症例. 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9
10. 篠原尚吾, 竹信俊彦, 片岡和哉, 原田博之: 内視鏡を用いて減量手術を施工した大きな顎関節偽痛風の症例. 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9
11. 道田哲彦, 篠原尚吾, 内藤 泰, 藤原敬三, 竹林慎治, 原田博之, 林 一樹, 山本亮介, 齊田浩二, 今井幸弘: 甲状腺低分化癌～診断基準の変遷と自験例の検討～. 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9
12. 竹林慎治, 篠原尚吾, 玉木久信, 楯谷一郎, 北村守正, 水田匡信, 田中信三, 児嶋 剛, 安里 亮, 前谷俊樹, 牛呂幸司, 木谷芳晴, 市丸和之, 本多啓吾, 山田光一郎, 大森孝一: 頭頸部腺様嚢胞癌の治療成績: 多施設共同による後方視的研究. 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9
13. 水田匡信, 北村守正, 楯谷一郎, 田中信三, 篠原尚吾, 竹林慎治, 玉木久信, 安里 亮, 前谷俊樹, 牛呂幸司, 隈部洋平, 本多啓吾, 山田光一郎, 児嶋 剛, 木谷芳晴, 市丸和之, 大森孝一: 原発不明癌の治療成績: 多施設共同による後方視的研究. 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9
14. 児嶋 剛, 篠原尚吾, 竹林慎治, 安里 亮, 楯谷一郎, 北村守正, 水田匡信, 牛呂幸司, 玉木久信, 田中信三, 大森孝一: 舌下腺癌の治療成績: 多施設共同による後方視的研究. 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9
15. 山田光一郎, 本多啓吾, 玉木久信, 田中信三, 篠原尚吾, 竹林慎治, 楯谷一郎, 北村守正, 水田匡信, 前谷俊樹, 児嶋 剛, 木谷芳晴, 安里 亮, 市丸和之, 隈部洋平, 牛呂幸司, 大森孝一: 顎下腺癌の治療成績: 多施設共同による後方視的研究. 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9
16. 船曳和雄, 篠原尚吾, 竹林慎治, 齊田浩二, 林 一樹, 山本亮介, 道田哲彦, 原田博之, 藤原敬三, 今井幸弘, 内藤 泰: 顕微内視鏡による頭頸部腫瘍の光学生検. 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9
17. 本多啓吾, 山田光一郎, 玉木久信, 篠原尚吾, 竹林慎治, 田中信三, 児嶋 剛, 前谷俊樹, 安里 亮, 楯谷一郎, 北村守正, 水田匡信, 牛呂幸司, 木谷芳晴, 隈部洋平, 市丸和之, 大森孝一: 耳下腺癌の治療成績: 多施設共同による後方視的研究. 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9

18. 隈部洋平, 楯谷一郎, 北村守正, 水田匡信, 玉木久信, 本多啓吾, 山田光一郎, 田中信三, 児嶋 剛, 牛呂幸司, 篠原尚吾, 竹林慎治, 前谷俊樹, 木谷芳晴, 大森孝一: 頭頸部癌粘膜原発悪性黒色腫の治療成績: 多施設共同による後方視的研究. 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9
19. 菊地正弘, Edwards W.B, Ferris RL: 腫瘍微小環境における放射線誘導性 PD-L1 upregulation の可視化と頭頸部癌への応用. 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9
20. 篠原尚吾, 竹林慎治, 菊地正弘, 原田博之, 道田哲彦, 林 一樹, 山本亮介, 今井幸弘, 上原慶一郎, 宇佐美悠: p16 陽性 /p53 陰性をバイオマーカーとした導入化学療法. 第 41 回日本頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8-9
21. 林 一樹, 篠原尚吾, 内藤 泰, 藤原敬三, 竹林慎治, 道田哲彦, 山本亮介, 齊田浩二, 水野敬介, 谷 正一, 鈴木啓太, 片岡和哉, 池田実香, 今井幸弘: 術前塞栓術と可動部舌亜全摘により全切除可能であった舌巨大動静脈奇形症例. 第 186 回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2017.7.22
22. 篠原尚吾: ルビエールリンパ節の内視鏡補助下切除の経験. 第 7 回関西頭頸部腫瘍懇話会, 大阪, 2017.9.30
23. 菊地正弘: 頭頸部癌診療における FDG PET/CT を用いた治療戦略~どの患者に、何を期待して、いつ検査をオーダーするか~ (特別講演). 第 5 回京滋 PET トワイライトカンファレンス~ 5 周年特別企画~, 京都, 2017.9.30
24. 白井裕美子, 前川圭子, 末廣 篤, 雲井一夫, 土師知行: 声帯結節症例の臨床的検討-小児例と成人例の比較-. 第 62 回日本音声言語医学会, 仙台, 2017.10.5-6
25. 前川圭子, 末廣 篤, 竹上つかさ: 音声振戦症例の音声所見-音声治療前後の比較-. 第 62 回日本音声言語医学会, 仙台, 2017.10.5-6
26. 竹林慎治, 林 一樹, 篠原尚吾, 菊地正弘: 甲状腺微小癌 N1b または M1 症例の検討. 第 50 回甲状腺外科学会, 福島, 2017.10.26-27
27. 菊地正弘, 篠原尚吾, 竹林慎治, 藤原敬三, 道田哲彦, 林 一樹, 山本亮介, 齊田浩二, 水野敬介, 内藤 泰: 腫瘍微小環境における放射線誘導性 PD-L1 アップレギュレーションの PET/CT による可視化と頭頸部がんへの応用. 第 187 回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮, 2017.10.29
28. 水野敬介, 菊地正弘, 山下大祐, 今井幸弘, 齊田浩二, 山本亮介, 林 一樹, 道田哲彦, 竹林慎治, 藤原敬三, 篠原尚吾, 内藤 泰: 上顎洞血腫腫の 1 例. 第 187 回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮, 2017.10.29
29. 篠原尚吾, 竹林慎治, 菊地正弘, 林 一樹, 齊田浩二: 甲状腺分化癌死亡例の検討-後方視的に見た TKI 使用を考慮するタイミングについて-. 第 69 回日本気管食道科学会, 大阪, 2017.11.8-9
30. 齊田浩二, 竹林慎治, 菊地正弘, 林 一樹, 篠原尚吾: 気管切開に際し体外式模型人工肺を併用もしくは準備を行った 5 例の検討. 第 69 回日本気管食道科学会, 大阪, 2017.11.8-9
31. 篠原尚吾: のど、ノド、咽、喉、咽喉のがん (講演). 第 15 回がん市民フォーラム in KOBE, 神戸, 2017.11.8-9
32. 林 一樹: FDG PET と MRI の融合像を用いた下顎歯肉癌術前治療計画. 第 14 回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2017.12.7
33. 篠原尚吾: 当科における高齢者への取り組み. 第 14 回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2017.12.7
34. 菊地正弘: 頭頸部癌診療における PET 検査. 第 14 回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2017.12.7
35. 林 一樹, 菊地正弘, 内藤 泰, 篠原尚吾, 藤原敬三, 竹林慎治, 道田哲彦, 山本亮介, 齊田浩二, 水野敬介, 今井幸弘, 山下大祐, 日野 恵, 清水敬二: FDG PET と MRI の融合像を用いた下顎歯肉癌術前治療計画. 京都大学研究会, 京都, 2017.12.8
36. 林 一樹, 菊地正弘, 篠原尚吾, 竹林慎治: FDG PET と MRI の融合像を用いた下顎歯肉癌術前治療計画. 第 28 回日本頭頸部外科学会, 宇都宮, 2018.1.25-26
37. 菊地正弘, 篠原尚吾, 竹林慎治, 林 一樹: 再発リスクの高い頭頸部癌術後症例に対する FDG PET/CT の撮像時期についての検討. 第 28 回日本頭頸部外科学会, 宇都宮, 2018.1.25-26
38. 篠原尚吾, 竹林慎治, 菊地正弘, 林 一樹: 85 歳以上の高齢者に対する手術-特に頭頸部外科手術について-. 第 28 回日本頭頸部外科学会, 宇都宮, 2018.1.25-26
39. 竹林慎治, 篠原尚吾, 水野敬介, 齊田浩二, 林 一樹, 山本亮介, 道田哲彦, 菊地正弘, 藤原敬三, 内藤 泰: 放射線治療後の喉頭全摘出術の検討. 第 28 回日本頭頸部外科学会, 宇都宮, 2018.1.25-26

40. 竹林慎治：喉頭気腫を伴う巨大声門上ポリープの1例．第32回近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会，大阪，2018.2.3
41. 常峰かな，東別府直紀，末廣 篤，竹林慎治，西岡弘晶：理学所見に基づく摂食嚥下障害臨床的重症度分類と嚥下内視鏡検査での評価の違いについて．第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会，横浜，2018.2.22-23

VII. 1. 24 麻酔科

1. 東別府直紀，讚井將満，祖父江和哉，下菌崇宏，美馬裕之，Heyland Daren K：国際栄養調査に参加後、栄養療法は改善する．日本麻酔科学会 第64回学術集会，神戸，2017.6.8-10
2. 山村 愛，東別府直紀，山崎和夫：I型糖尿病患者と術前インスリン投与に関する検討．日本麻酔科学会 第64回学術集会，神戸，神戸，2017.6.8-10
3. 中森裕毅，美馬裕之，下菌崇宏，山崎和夫：心臓手術術後の中枢温と末梢温の差の経時的な開大はAKI発症と関連する．日本麻酔科学会 第64回学術集会，神戸，2017.6.8-10
4. 山下 博，山崎和夫：全身麻酔からの覚醒・抜管の過程において、呼気終末CO₂濃度が気道反射に与える影響．日本麻酔科学会 第64回学術集会，神戸，2017.6.8
5. 柚木一馬，清水綾子，下菌崇宏，宮脇郁子，山崎和夫：迅速導入における予期せぬ挿管困難およびその予測因子の検討．日本麻酔科学会 第64回学術集会，神戸，2017.6.8-10
6. 伊藤次郎，植田浩司，川上大裕，須賀将文，下菌崇宏，美馬裕之：開心術後に遅発性心タンポナーデを来した1例．日本集中治療医学会 第1回関西支部学術集会，神戸，2017.7.8
7. 武田勇毅，植田浩司，森 美喜，須賀将文，下菌崇宏，美馬裕之：胸腹部大動脈瘤術前に実施した脊髄ドレナージ術による脊柱管内血腫の1例．日本集中治療医学会 第1回関西支部学術集会，神戸，2017.7.8
8. 須賀将文，川上大裕，是永 章，伊藤次郎，矢崎知子，中森裕毅，植田浩司，下菌崇宏，瀬尾龍太郎，美馬裕之：脳幹梗塞との鑑別に苦慮したりステリア脳幹脳炎の1例．日本集中治療医学会 第1回関西支部学術集会，神戸，2017.7.8
9. 三好健太郎，植田浩司，美馬裕之：人工股関節置換術後約12時間後に出血性ショックから心肺停止となった1例．日本集中治療医学会 第1回関西支部学術集会，神戸，2017.7.8
10. 南 遼平，宮脇郁子，美馬裕之：S状結腸穿孔に起因する腹部コンパートメント症候群を来した1例．日本麻酔科学会 第63回関西支部学術集会，大阪，2017.9.2
11. 河本 怜，東別府直紀，美馬裕之：Monitored anesthesia care (MAC) 下に人工妊娠中絶を施行した reversible cerebral vasoconstriction syndrome (RCVS) の1例．日本麻酔科学会 第63回関西支部学術集会，大阪，2017.9.2
12. 大森彩加，東別府直紀，美馬裕之：胃全摘術後に末梢性T_{ap}ia症候群を発症した1例．日本麻酔科学会 第63回関西支部学術集会，大阪，2017.9.2
13. 林 克磨，上野喬平，山崎和夫，美馬裕之：麻酔覚醒中に多型性心室頻拍を起こした1例．日本麻酔科学会 第63回関西支部学術集会，大阪，2017.9.2
14. 太田かおり，上野喬平，武田勇毅，美馬裕之：外傷による血気胸、気道出血で呼吸不全となり麻酔中の呼吸管理に難渋した症例．日本麻酔科学会 第63回関西支部学術集会，大阪，2017.9.2
15. 藤原浩平，片山英里，岡村章平，井上明彦，美馬裕之：子宮収縮不良で発症した羊水塞栓症の1例．日本麻酔科学会 第63回関西支部学術集会，大阪，2017.9.2
16. 喜多沙奈，東別府直紀，谷 大輔，田口聡久，美馬裕之：甲状腺腫瘍による気道狭窄に対してECMO補助下に挿管した1例．日本麻酔科学会 第63回関西支部学術集会，大阪，2017.9.2
17. 山田あゆ，下菌崇宏，東別府直紀，山下 博，山崎和夫，美馬裕之：人工股関節再置換術のセメント漏出に対し用手的除去を行いCPAとなった1例．日本麻酔科学会 第63回関西支部学術集会，大阪，2017.9.2
18. 清水綾子，泉 侑希，柚木一馬，宮脇郁子，山崎和夫，美馬裕之：肺動脈カテーテルにより左肺動脈を損傷した1例．第22回日本心臓血管麻酔学会，栃木，2017.9.16-18
19. 森 美喜，宮脇郁子，山崎和夫，美馬裕之：胸腹部大動脈瘤手術前における脳脊髄液ドレナージの検討．第22回日本心臓血管麻酔学会，栃木，2017.9.16-18
20. 吉藤正泰，宮脇郁子，森 美喜，田口聡久，美馬裕之：ペースメーカー留置術後の心室リードによる右室穿孔が左胸腔に穿破した1例．第22回日本心臓血管麻酔学会，栃木，2017.9.16-18

21. 三好健太郎, 宮脇郁子, 下菌崇宏, 田口聡久, 美馬裕之: 下行大動脈置換術中に両下肢塞栓症を来した下行大動脈原発血管肉腫の1例. 第22回日本心臓血管麻酔学会, 栃木, 2017.9.16-18
22. 岡村章平, 宮脇郁子, 美馬裕之, 柚木一馬, 山崎和夫: 肺動脈カテーテル挿入時に完全房室ブロックから心停止となった完全左脚ブロック患者の1例. 第22回日本心臓血管麻酔学会, 栃木, 2017.9.16-18
23. 山根 悠, 村橋 一, 古賀聡人, 下菌崇宏, 宮脇郁子, 美馬裕之: 心臓血管外科手術後における反回神経麻痺の発生率の検討. 第22回日本心臓血管麻酔学会, 栃木, 2017.9.16-18
24. 泉 侑希, 宮脇郁子, 山崎和夫: 人工骨頭置換術中に発生した心停止に経食道心エコーが有用であった1症例. 第22回日本心臓血管麻酔学会, 栃木, 2017.9.16-18
25. Ueta H, Kawakami D, Suga M, Nakamori Y, Ito J, Shimozono T, Mima H, Morimoto T: Can right atrial pacing suppress postoperative atrial fibrillation after arterial valve replacement, especially in patients with arterial valve stenosis? 30th ESICM Annual Congress, Vienna, Austria, 2017.9.23-27
26. Taguchi A: Successful anesthetic management of pheochromocytoma with extreme low cardiac function. ASA 2017 Annual Meeting, Boston, USA, 2017.10.21-25
27. Nakamori Y, Mima H, Shimozono T, Yamazaki K: The Increase of Core-Peripheral Temperature Gradient has Significant Association With AKI After Cardiac Surgery. ASA 2017 Annual Meeting, Boston, USA, 2017.10.21-25
28. Yunoki K, Miyawaki I, Yamazaki K, Mima H: Extracorporeal Membrane Oxygenation-Assisted Airway Management for Difficult Airways. ASA 2017 Annual Meeting Boston, USA, 2017.10.21-25
29. 武田勇毅, 東別府直紀, 美馬裕之: 膀胱癌に対するロボット支援下根治的膀胱摘除術は術中出血量や周術期合併症を減少させるか? 第37回日本臨床麻酔学会, 東京, 2017.11.3-5
30. 三好健太郎, 東別府直紀, 美馬裕之, 山崎和夫: 気管切開術における吸入酸素濃度と術中 SpO₂ 低下の検討. 第37回日本臨床麻酔学会, 東京, 2017.11.3-5
31. 美馬裕之: 予後が不確実な時点での方針決定. 第45回日本集中治療医学会学術集会, 千葉, 2018.2.21-23
32. 矢崎知子, 須賀将文, 浅香葉子, 瀬尾龍太郎, 美馬裕之: 当院における精神科身体合併症病棟 (MPU 病棟) の使用について. 第45回日本集中治療医学会学術集会, 千葉, 2018.2.21-23
33. 浅香葉子, 瀬尾龍太郎, 植田浩司, 美馬裕之: 鏡でせん妄予防はできるのか. 第45回日本集中治療医学会学術集会, 千葉, 2018.2.21-23
34. 三好健太郎, 植田浩司, 美馬裕之, 川上大裕: 胃全摘術後10年以上を経て開心術後に発症したダンピング症候群の1例. 第45回日本集中治療医学会学術集会, 千葉, 2018.2.21-23
35. 川上大裕, 植田浩司, 中森裕毅, 瀬尾龍太郎, 下菌崇宏, 美馬裕之: ICU患者の気管切開1年後の予後. 第45回日本集中治療医学会学術集会, 千葉, 2018.2.21-23
36. 植田浩司, 川上大裕, 須賀将文, 中森裕毅, 伊藤次郎, 下菌崇宏, 美馬裕之: 大動脈弁狭窄症弁置換術後に単心房ペースメーカーは術後心房細動を抑制しうるか. 第45回日本集中治療医学会学術集会, 千葉, 2018.2.21-23
37. 吉藤正泰, 植田浩司, 中森裕毅, 川上大裕, 下菌崇宏, 美馬裕之: 体位変換後に頭在化した, 術後急性期の植込み型ペースメーカー不全の1例. 第45回日本集中治療医学会学術集会, 千葉, 2018.2.21-23
38. 中森裕毅, 川上大裕, 植田浩司, 下菌崇宏, 美馬裕之, 須賀将文, 矢崎知子, 伊藤次郎, 田口聡久, 吉藤正泰: ラインサービス提供者としてのICU~PICC挿入後フォローアップラウンドの取り組み. 第45回日本集中治療医学会学術集会, 千葉, 2018.2.21-23
39. 須賀将文, 川上大裕, 矢崎知子, 伊藤次郎, 中森裕毅, 植田浩司, 下菌崇宏, 瀬尾龍太郎, 美馬裕之: 慢性維持透析は心臓手術後のVasoplegic syndromeのリスクファクターである. 第45回日本集中治療医学会学術集会, 千葉, 2018.2.21-23
40. 伊藤次郎, 須賀将文, 中森裕毅, 川上大裕, 植田浩司, 下菌崇宏, 小山忠明, 美馬裕之: 心臓血管外科術後のせん妄: High-flow nasal cannulaを含むリスク因子の検討. 第45回日本集中治療医学会学術集会, 千葉, 2018.2.21-23
41. Suga M, Kawakami D, Seo R, Mima H, Inoue A: Successful Extracorporeal Resuscitation for Cardiac Arrest after Kiwi-Induced Anaphylactic Shock. SCCM, San Antonio, USA, 2018.2.25-28
42. Ito J, Fujiwara S, Suga M, Kawakami D, Ueta H, Shimozono T, Kawamoto M, Mima H: Starvation-Induced Severe Ketoacidosis in a Patient with A Neuromuscular Disorder. SCCM, San Antonio, USA, 2018.2.25-28
43. Taguchi A: Management of Portal Hypertension Caused by Idiopathic Superior Mesenteric Arteriovenous Fistula. SCCM, San Antonio, USA, 2018.2.25-28

44. Kawakami D, Mima H, Shimozono T, Ueta H, Seo R, Nakamori Y, Suga M, Ito J : One-year Mortality Following Tracheostomy in Patients in The Intensive Care Unit. SCCM, San Antonio, USA, 2018.2.25-28
45. Nakamori Y, Mima H, Shimozono T, Ueta H, Kawakami D, Yamazaki K : CORE PERIPHERAL TEMPERATURE GRADIENT-GUIDED HEMODYNAMIC MANAGEMENT AFTER CARDIAC SURGERY. SCCM, San Antonio, USA, 2018.2.25-28

VII. 1. 25 歯科・歯科口腔外科

1. 竹信俊彦：顎口腔領域の外傷と顎変形症の手術。岡山大学歯学部特別講義，岡山，2017.4.11
2. Takenobu T : Zygomatic fractures (include. orbital-zygomatic fracture). AOCMF COURSE-Management of Facial Trauma, Xining (西寧), 中国, 2017.4.16
3. Takenobu T : Load-sharing mandibular fractures, angle, symphysis with mini plates, symphysis with lag screw technique. AOCMF COURSE – Management of Facial Trauma, Xining (西寧), 中国, 2017.4.16
4. Takenobu T : Small Group Discussion about Load-sharing case, Tooth in line of fracture, Condyle case. AOCMF COURSE-Management of Facial Trauma, Xining (西寧市), 中国, 2017.4.16
5. 山本信祐, 竹信俊彦, 前田圭吾, 高地いづみ, 平井雄三, 谷池直樹：上顎洞底挙上術後に生じた surgical ciliated cyst の 1 例. 第 71 回日本口腔科学会学術総会, 松山, 2017.4.27-28
6. 谷池直樹, 竹信俊彦, 前田圭吾, 高地いづみ, 平井雄三, 山本信祐：頬粘膜下の腫瘍自覚を契機に診断された巨細胞性動脈炎の 1 例. 第 71 回日本口腔科学会学術総会, 松山, 2017.4.27-28
7. 平井雄三, 竹信俊彦, 前田圭吾, 高地いづみ, 山本信祐, 谷池直樹：当科における唾液腺内視鏡を用いた耳下腺唾石摘出術の検討. 第 71 回日本口腔科学会学術総会, 松山, 2017.4.27-28
8. 竹信俊彦：新しい手術時の手指消毒法. JACID 日本口腔インプラント学会認定医 100 時間コース, 大阪, 2017.6.10
9. 竹信俊彦：外科の基本手技. JACID 日本口腔インプラント学会認定医 100 時間コース, 大阪, 2017.6.10
10. 竹信俊彦: ARONJ のポジッションペーパーについて. JACID 日本口腔インプラント学会認定医 100 時間コース, 大阪, 2017.6.10
11. 平井雄三, 竹信俊彦, 前田圭吾, 高地いづみ, 山本信祐, 谷池直樹：著しい下顎非対称症例に下顎枝逆 L 字型骨切り術を用いた 2 例. 第 27 回日本顎変形症学会総会・学術集会, 東京, 2017.6.10
12. 高地いづみ, 山本信祐, 前田圭吾, 平井雄三, 谷池直樹, 竹信俊彦：顎関節に生じた偽痛風の 1 例. 第 48 回日本口腔外科学会近畿支部学術集会, 大阪, 2017.7.1
13. 泉 彩夏, 山本信祐, 前田圭吾, 高地いづみ, 平井雄三, 谷池直樹, 竹信俊彦：下顎リンパ節の腫大が診断の契機となったサルコイドーシスの 1 例. 第 48 回日本口腔外科学会近畿支部学術集会, 大阪, 2017.7.1
14. 向仲佑美香, 平井雄三, 前田圭吾, 高地いづみ, 山本信祐, 谷池直樹, 竹信俊彦：唾液腺内視鏡を用いて耳下腺唾石摘出術を施行した 1 例. 第 48 回日本口腔外科学会近畿支部学術集会, 大阪, 2017.7.1
15. 竹信俊彦：下顎頭位と術後の咬合. 第 5 回宮崎大学顎変形症研究会, 宮崎, 2017.7.10
16. 竹信俊彦：Design and function of plates and screws (standard/locking system). AOCMF Course-Principles in Craniomaxillofacial Fracture Management, 横浜, 2017.7.21-23
17. 竹信俊彦：Current trend in the management of mandibular condyle fractures. AOCMF Course-Principles in Craniomaxillofacial Fracture Management, 横浜, 2017.7.21-23
18. 前田圭吾, 山本信祐, 高地いづみ, 平井雄三, 谷池直樹, 竹信俊彦：Wishbone effect による下顎幅径の拡大に対して再手術を要した 1 例. 第 19 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会, 札幌, 2017.7.29
19. 高地いづみ, 平井雄三, 谷池直樹, 前田圭吾, 山本信祐, 竹信俊彦：圍繞結紮が有用であった下顎前歯部粉砕骨折の 2 例. 第 19 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会, 札幌, 2017.7.29
20. 高地いづみ, 前田圭吾, 平井雄三, 山本信祐, 谷池直樹, 竹信俊彦：5 年間に当院を受診した歯科補綴物の誤飲・誤嚥 62 例の検討. 第 23 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 千葉, 2017.9.15-16
21. Takenobu T : Small Group Discussion about zygomatic, orbit, zygoma and orbit, and Le Fort. AOCMF Course-Management of Facial Trauma, Cairo, Egypt, 2017.10.18-19
22. Takenobu T : Small Group Discussion about NOE, nasal, frontal sinus. AOCMF Course-Management of Facial Trauma, Cairo, Egypt, 2017.10.18-19

23. Takenobu T : Small Group Discussion about Load-sharing, tooth in line of fracture/sequencing. AOCMF Course-Management of Facial Trauma, Cairo, Egypt, 2017.10.18-19
24. Takenobu T : Small Group Discussion about Load-bearing. AOCMF Course-Management of Facial Trauma, Cairo, Egypt, 2017.10.18-19
25. Takenobu T : Keynote Lecture, Endoscopic Assisted Surgery for Oral and Maxillofacial Regions. AOCMF Course-Management of Facial Traum, Cairo, Egypt, 2017.10.18-19
26. 高木豊昭, 竹信俊彦 : 骨性癒着歯に対して歯槽部皮質骨骨切り術を使用し矯正治療を行った2症例. 第76回日本矯正歯科学会, 札幌, 2017.10.18-20
27. Takenobu T : Role of DO in maxillary hypoplasia of CLP. AOCMF Seminar-Advances in Distraction Osteogenesis, Cairo, Egypt, 2017.10.20
28. Takenobu T : DO in oncologic mandibular osseous defects. AOCMF Seminar-Advances in Distraction Osteogenesis, Cairo, Egypt, 2017.10.20
29. Takenobu T : Recent advances & future of DO. AOCMF Seminar-Advances in Distraction Osteogenesis, Cairo, Egypt, 2017.10.20
30. 平井雄三, 竹信俊彦, 前田圭吾, 高地いづみ, 山本信祐, 谷池直樹 : 上下顎骨延長術を行った Treacher-Collins 症候群の1例. 第62回日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都, 2017.10.20-22
31. 山本信祐, 竹信俊彦, 前田圭吾, 高地いづみ, 平井雄三, 谷池直樹 : 下顎骨の骨延長が有用であった顔面多発骨折後変形治療 : 症例報告. 第62回日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都, 2017.10.20-22
32. 高地いづみ, 山本信祐, 前田圭吾, 平井雄三, 谷池直樹, 竹信俊彦 : ナビゲーションシステムが有用であった顔面多発骨折の1例. 第62回日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都, 2017.10.20-22
33. 谷池直樹, 竹信俊彦, 泉 彩夏, 向仲佑美香, 山村あかね, 渡邊聖子, 前田圭吾, 高地いづみ, 平井雄三, 山本信祐 : 観血的整復固定術を施行した無歯顎下顎骨骨折の3例. 第62回日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都, 2017.10.20-22
34. 前田圭吾, 山本信祐, 高地いづみ, 平井雄三, 谷池直樹, 竹信俊彦 : 翼突下顎隙に生じた周辺性の歯原性角化嚢胞の1例. 第62回日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都, 2017.10.20-22
35. 山村あかね, 竹信俊彦, 前田圭吾 : 周術期口腔機能管理における歯科医療機関への紹介システムの構築. 第26回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 豊橋, 2017.11.11-12
36. 前田圭吾, 山村あかね, 竹信俊彦 : 当院顎矯正手術における手術部位感染予防に対する抗菌薬投与法の検討. 第26回日本口腔感染症学会総会・学術大会, 豊橋, 2017.11.11-12
37. 前田圭吾, 山本信祐, 高地いづみ, 平井雄三, 谷池直樹, 竹信俊彦 : 抜歯後出血に対し抗血栓薬を休薬中に脳梗塞を生じた1例. 第29回日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2017.12.9
38. 渡邊聖子, 平井雄三, 前田圭吾, 高地いづみ, 山本信祐, 谷池直樹, 竹信俊彦 : 上顎洞病変摘出後に頬脂肪体有茎移植による再建の経験. 第29回日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2017.12.9
39. 山本信祐, 平井雄三, 谷池直樹, 竹信俊彦 : インプラント除去後に生じた骨吸収抑制薬関連顎骨壊死 ; 症例報告. 第21回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会, 富山, 2017.12.9-10
40. 竹信俊彦 : 顎口腔領域の外傷と顎変形症の手術. 宮崎大学医学部特別講義, 宮崎, 2017.12.13
41. 竹信俊彦 : 知っておきたい周術期口腔機能管理. 神戸市長田区歯科医師会推薦がん協力歯科医研究会, 神戸, 2018.1.25
42. 竹信俊彦 : 当科における内視鏡手術の変遷と現状. 第3回冬期口腔外科臨床研究会, 山形県蔵王, 2018.2.15-17
43. 竹信俊彦 : 顎矯正手術におけるトラブル症例を考える. 第6回関西顎変形症懇話会, 京都, 2018.2.17
44. Takenobu T : The application of endoscope in the field of oral and maxillofacial surgery ; our experience in Kobe. 30th The Conference of Taiwanese Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Kaohsiung, 2018.3.10-11

VII. 1. 26 病理診断科

1. 市川千宙, 藤倉航平, 前田紘奈, 上原慶一郎, 今井幸弘, 前田悠斗 : 絨毛性疾患合併妊娠の2例の検討. 第106回日本病理学会総会, 東京, 2017.4.27
2. 藤倉航平, 前田紘奈, 市川千宙, 山下大祐, 上原慶一郎, 石川隆之, 伊藤智雄, 今井幸弘 : 血管内T細胞リンパ腫の2例. 第106回日本病理学会総会, 東京, 2017.4.27

3. 前田紘奈, 原 美佐, 長井和之, 橋本公夫: 肝原発神経内分泌腫瘍 (Primary hepatic neuroendocrine tumor : PHNET) の1例. 第106回日本病理学会総会, 東京, 2017.4.27
4. 上原慶一郎, 藤倉航平, 前田紘奈, 市川千宙, 今井幸弘: 腎血管筋脂肪腫における E-cadherin 発現. 第106回日本病理学会総会, 東京, 2017.4.27
5. 齋藤伴樹, 浜川博司, 坂之上一朗, 南 和宏, 伊達直希, 高橋 豊, 今井幸弘: 奇形腫の切迫破裂が疑われた特発性胸腺内出血の1切除例. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 2017.5.18
6. 森田明子, 井本秀志, 尾松雅仁, 田代章人, 上原慶一郎, 今井幸弘: 胸水中に腫瘍細胞が出現した胎児型横紋筋肉腫の1例. 第58回日本臨床細胞学会総会, 大阪, 2017.5.26
7. 加藤大典, 武部沙也香, 波々伯部絵理, 橋本一樹, 木川雄一郎, 上原慶一郎, 市川千宙, 簗智幸政, 正井良和, 今井幸弘: 術前ホルモン治療による Luminal A/B 乳癌から Luminal HER2 乳癌への変化についての解析. 第25回日本乳癌学会総会, 福岡, 2017.7.13
8. 武部沙也香, 加藤大典, 波々伯部絵理, 橋本一樹, 木川雄一郎, 簗智幸政, 市川千宙, 上原慶一郎, 安井久晃, 今井幸弘: 各種画像検査で明らかになる1年前より血中循環腫瘍細胞と腫瘍マーカーの上昇を認めていた乳癌骨転移の1例. 第25回日本乳癌学会総会, 福岡, 2017.7.13
9. 崎山明香, 吉岡信也, 山添紗恵子, 中北 麦, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 青木卓哉, 今村裕子, 今井幸弘, 市川千宙: 術後に子宮頸部最小偏倚腺癌の合併が判明した卵巣粘液性癌の1例. 第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 熊本, 2017.7.27
10. 河内勇人, 佐藤悠城, 藤本大智, 森 令法, 平林亮介, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 寺岡俊輔, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 富井啓介, 吉水 聡, 上原慶一郎, 今井幸弘: Osimertinib が奏効した肺腺癌肺絡膜転移の1例. 第58回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 2017.10.14
11. 平林亮介, 伊藤次郎, 河内勇人, 森 令法, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 佐藤悠城, 古郷摩利子, 寺岡俊輔, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 富井啓介, 今井幸弘: Osimertinib 投与中に小細胞肺癌への形質転換を認めた T790M 変異陽性肺腺癌の1例. 第58回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 2017.10.14
12. 森 令法, 藤本大智, 河内勇人, 平林亮介, 伊藤宗洋, 中川嘉宏, 伊藤次郎, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 寺岡俊輔, 中川 淳, 簗智幸政, 富井啓介, 今井幸弘: 免疫チェックポイント阻害剤に関連する Grade 3 以上の有害事象の経験例. 第58回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 2017.10.14
13. 山下大祐, 中川 淳, 土井朝子, 今井幸弘: 当院3年間に経験した予期せぬ結核10症例の再評価. 第63回日本病理学会秋期特別総会, 東京, 2017.11.2
14. 中 彩乃, 井本秀志, 森田明子, 尾松雅仁, 田代章人, 菅原雅史, 山下大祐, 上原慶一郎, 今井幸弘: 悪性黒色腫に免疫染色を施行した1例. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会, 福岡, 2017.11.18
15. 田代章人, 井本秀志, 森田明子, 尾松雅仁, 中 彩乃, 山下大祐, 今井幸弘: 子宮ポリープ状異型腺筋腫 (Atypical polypoid adenomyoma APAM) の細胞像. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会, 福岡, 2017.11.18

VII. 1. 27 放射線診断科

1. 上田浩之: 救急疾患における画像診断. 第76回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2017.4.16
2. 稲垣真裕, 藤本順平, 小林久人: 腸骨静脈圧迫症候群に伴った左下肢近位型 DVT に対するステント留置の有用性. 第46回日本 IVR 学会総会, 岡山, 2017.5.18
3. 上田浩之, 清水大功, 伊藤 亨: Target XXL を用いて塞栓を行った動脈瘤型腎動静脈奇形の1例. 第46回日本 IVR 研究会総会, 岡山, 2017.5.19
4. 辻 優一, 上田浩之, 稲垣真裕, 岡野 拓, 吉原桂一, 山内盛敬, 坂本 亮, 清水大功, 伊藤 亨: 門脈内に仮性嚢胞が穿破し出血をきたした慢性膵炎の1例. 第316回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2017.6.3
5. 上田浩之, 清水大功, 稲垣真裕, 岡野 拓, 吉原桂一, 坂本 亮, 伊藤 亨: 小児の仮性動脈瘤に対して塞栓術を行った2例. 第63回関西 Interventional Radiology 研究会, 大阪, 2017.6.10
6. 稲垣真裕, 上田浩之, 岡野 拓, 坂本 亮, 日野 恵, 清水大功, 上原慶一郎, 今井幸弘, 伊藤 亨: 腎血管平滑筋脂肪腫 (AML) との鑑別が困難であった腎脂肪肉腫の1例. 第31回日本腹部放射線学会, 旭川, 2017.7.1
7. 辻 優一, 坂本 亮, 稲垣真裕, 岡野 拓, 吉原桂一, 山内盛敬, 上田浩之, 日野 恵, 伊藤 亨: 拡散強調画像が有用であった Lemierre 症候群の1例. 第50回兵庫県磁気共鳴医学研究会, 神戸, 2017.8.3

8. 稲垣真裕, 上田浩之, 伊藤 亨: Hemosuccus pancreaticus が疑われた 1 例. 第 27 回日本救急放射線研究会, 松山, 2017.9.10
9. Ueda J, Yoshimura H, Shimizu K, Hino M, Kohara N: Combined visual and semi-quantitative assessment of 123I-FP-CIT SPECT for the diagnosis of dopaminergic neurodegenerative diseases. XXIII World Congress of Neurology, 京都, 2017.9.19
10. Yoshimura H, Matsumoto R, Ueda H, Ariyoshi K, Ohira J, Mimura N, Ueda J, Fujiwara S, Ishii J, Kono T, Ohara N, Kawamoto M, Kohara N: Clinical Characteristics of status epilepticus in the elderly: A comparative study with younger adult patients. XXIII World Congress of Neurology, 京都, 2017.9.19
11. 辻 優一, 坂本 亮, 稲垣真裕, 岡野 拓, 吉原桂一, 山内盛敬, 上田浩之, 日野 恵, 伊藤 亨, 今井幸弘, 上原慶一郎: 肝アニサキス症の 1 例. 第 317 回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2017.11.11
12. 篠谷雄二, 大久保万理江, 伯田琢郎, 新村里美, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 篠原尚吾, 日野 恵, 松岡直樹: 分化型甲状腺癌術後 RAI 治療の適応についての検討. 第 109 回神戸甲状腺研究会, 神戸, 2018.2.10
13. 稲垣真裕, 上田浩之, 辻 優一, 岡野 拓, 坂本 亮, 伊藤 亨: 巨大上腸間膜動脈瘤の 1 例. 第 63 回中部・第 64 回関西 IVR 合同研究会, 長久手, 2018.2.17
14. 辻 優一, 坂本 亮, 稲垣真裕, 岡野 拓, 吉原桂一, 山内盛敬, 上田浩之, 日野 恵, 伊藤 亨: 尿管坐骨孔ヘルニアの 4 例. 第 318 回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2018.2.24

VII. 1. 28 放射線治療科

1. Akamatsu H, Nakamura K, Ebara T, Inaba K, Itasaka S, Jingu K, Kosaka Y, Murai T, Nagata K, Soejima T, Takahashi S, Toyoda T, Toyoshima S, Nemoto K, Akimoto T: Radiotherapy aimed at functional preservation in patients with small cell carcinoma of the bladder. 36th European Society for Radiation Oncology, Vienna, Austria, 2017.5.7
2. Iizuka Y, Matsuo Y, Takayama K, Ueki N, Mitsuyoshi T, Ueki K, Tanabe H, Nakamura M, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Clinical result of dynamic tumor-tracking stereotactic body radiotherapy with real-time monitoring for liver tumors using a gimbal mounted linac. 第 5 回日本台湾放射線腫瘍学シンポジウム, 神戸, 2017.5.20
3. Mitsuyoshi Y, Matsuo Y, Takayama K, Ueki N, Iizuka Y, Shintani T, Imagumbai T, Tanabe H, Nakamura M, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M: Clinical outcome of dynamic tumor-tracking stereotactic body radiotherapy for early stage lung cancer and oligometastatic lung tumors using a gimbal-mounted linear accelerator. 第 5 回日本台湾放射線腫瘍学シンポジウム, 神戸, 2017.5.20
4. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 篠原尚吾, 竹林慎治, 原田博之: 放射線治療後に外耳道真珠腫が生じた 3 症例. 第 41 回頭頸部癌学会, 京都, 2017.6.8
5. 伊藤宗洋, 藤本大智, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 簗幸政, 富井啓介, 小坂恭弘, 小久保雅樹: 当院における III 期非小細胞肺癌に対するシスプラチン・ペメトレキセド化学放射線同時併用療法の検討. 第 105 回日本肺癌学会関西支部会, 大阪, 2017.6.24
6. 武田篤也, 木村智樹, 石倉 聡, 小久保雅樹, 有吉恵介, 鶴貝雄一郎, 今輩倍敏行, 松尾幸憲, 清水伸一, 伊藤芳紀, 岩田宏満, 二瓶圭二: 初発孤立性肝癌に対する体幹部定位放射線治療の役割. 第 53 回日本肝癌研究会, 東京, 2017.7.6
7. 飯塚雄介, 松尾幸憲, 高山賢二, 植木奈美, 光吉隆真, 植木一仁, 田邊裕朗, 中村光宏, 溝脇尚志, 小久保雅樹, 平岡眞寛: 肝腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動体追尾定位放射線治療の臨床成績. 第 53 回日本肝癌研究会, 東京, 2017.7.6
8. 和田将弥, 谷口洋平, 猪熊哲朗, 今輩倍敏行: 局所進行切除不能膀胱癌に対する動体追尾 IMRT のための EUS 下金マーカー留置術. 日本消化器病学会近畿支部第 107 回例会, 大阪, 2017.9.23
9. Onishi H, Nagata Y, Hiraoka M, Wakabayashi M, Eba J, Ishikura S, Kokubo M, Karasawa K, Shioyama Y, Onimaru R, Kozuka T, Kunieda E, Saito T, Nakagawa K, Hareyama M, Takai Y, Hayakawa K, Mituhashi N: Radiation pneumonitis and change of pulmonary function after stereotactic body radiotherapy for T1N0M0 non-small cell lung cancer and their impact on survival in a supplementary analysis of Japan Clinical Oncology Group (JCOG) study 0403. 59th American Society for Radiation Oncology, San Diego, USA, 2017.9.25

10. 吉田一貴, 岡田雄基, 中井高宏, 山下幹子, 岡村佳明, 木元 唯, 奥内 昇, 小久保雅樹:放射線治療におけるリスク分析とインシデント対策. 第 45 回日本放射線技術学会, 広島, 2017.10.19
11. 石井政男, 山下幹子, 小久保雅樹:3D モデリングソフトを用いた 3 次元データ可視化の試み. 第 30 回日本放射線腫瘍学会, 大阪, 2017.11.17
12. 山下幹子, 岡村佳明, 木元唯, 吉田一貴, 岡田雄基, 奥内 昇, 小久保雅樹: Isocenter QA に関する総合的評価方法の検討. 第 30 回日本放射線腫瘍学会, 大阪, 2017.11.17
13. 鳴神 諒, 小坂恭弘, 今葦倍敏行, 小倉健吾, 服部貴之, 平岡伸也, 小久保雅樹: 転移性脳腫瘍に対して再度の定位放射線照射が行われた 4 例の検討. 第 30 回日本放射線腫瘍学会, 大阪, 2017.11.17
14. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 小倉健吾, 今葦倍敏行, 鳴神 諒, 服部貴之, 平岡伸也: 転移性去勢抵抗性前立腺癌に対する塩化ラジウム 223 の初期使用経験. 第 30 回日本放射線腫瘍学会, 大阪, 2017.11.17
15. 松尾幸憲, 永田 靖, 若林将史, 江場淳子, 石倉 聡, 大西 洋, 小久保雅樹, 唐澤克之, 塩山善之, 平岡眞寛: T1N0M0 非小細胞肺癌の体幹部定位放射線治療における炎症及びサルコペニアの影響. 第 30 回日本放射線腫瘍学会, 大阪, 2017.11.18
16. 平岡伸也, 小倉健吾, 小坂恭弘, 今葦倍敏行, 鳴神 諒, 服部貴之, 小久保雅樹: 呼吸困難を契機に肺癌と診断された気管挿管患者に対し, 緊急照射を施行した症例. 第 30 回日本放射線腫瘍学会, 大阪, 2017.11.18
17. 岡村佳明, 岡田雄基, 山下幹子, 末岡正輝, 田邊裕朗, 村上智裕, 木元 唯, 吉田一貴, 合田靖司, 奥内 昇, 小久保雅樹: 当院における IGRT の 6 軸補正精度の基礎的検証. 第 31 回高精度放射線外部照射部会, 大阪, 2018.2.10
18. 鳴神 諒, 小坂恭弘, 今葦倍敏行, 小倉健吾, 服部貴之, 平岡伸也, 小久保雅樹: 骨転移に関する検討. 第 45 回京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2018.3.3

Ⅶ. 1. 29 救急科

1. 井上 彰, 有吉孝一: JTDB 登録からみる ER 型救命救急センターにおける外傷患者の特徴. 第 20 回日本臨床救急医学会学術集会, 東京, 2017.5.27
2. 水 大介, 有吉孝一: MC 医師として救急医の役割. 第 20 回日本臨床救急医学会学術集会 ワークショップ メディカルコントロールは救急医の専門分野になり得るか? 東京, 2017.5.27
3. 上村恵理, 水 大介, 有吉孝一: 当院での小児鼻腔異物の検討. 第 20 回日本臨床救急医学会学術集会, 東京, 2017.5.27
4. 有吉孝一: 座長「小児・高齢者」. 第 20 回日本臨床救急医学会学術集会, 東京, 2017.5.27
5. 大久保祐希, 蛭名正智, 井上 彰, 有吉孝一: Trauma panscan における造影剤の必要性和有害事象についての検討. 第 31 回日本外傷学会学術集会, 横浜, 2017.6.1
6. 井上 彰, 蛭名正智, 有吉孝一: JTDB 登録からみる ER 型救命救急センターにおける外傷患者の実態. 第 31 回日本外傷学会学術集会, 横浜, 2017.6.2
7. 有吉孝一: 座長「病院前救急 2」. 第 31 回日本小児救急医学会, 東京, 2017.6.25
8. 井上 彰, 有吉孝一: 脳梗塞と誤認されたフグ毒中毒の 1 例—患者はフグ毒中毒と自覚しながらも意図的に接種歴を隠そうとする—. 第 39 回日本中毒学会学術集会, つくば, 2017.6.30
9. 桑原佑典, 有吉孝一: マムシ咬傷 14 例の検討—アドレナリン予防投与の提案. 第 39 回日本中毒学会学術集会, つくば, 2017.6.30
10. 田村 亮, 安藤基純, 中浴伸二, 仁木真理恵, 崎園賢治, 有吉孝一, 箕輪和士, 福島昭二, 橋田 亨: 中毒起因物質の院内測定および薬物動態解析体制の構築. 第 39 回日本中毒学会学術集会, つくば, 2017.6.30
11. 有吉孝一: 座長「家庭用品・その他」. 第 39 回日本中毒学会学術集会, つくば, 2017.7.1
12. 瀬尾龍太郎: 2015 年～ICU 現在, そして未来を語る 集中治療を育む— Knowing the past, and we will see the future —. 日本集中治療医学会第 1 回関西支部学術集会 (第 62 回日本集中治療医学会近畿地方会), 神戸, 2017.7.8
13. 須賀将文, 川上大裕, 是永 章, 伊藤次郎, 矢崎知子, 中森裕毅, 植田浩司, 下菌崇宏, 瀬尾龍太郎, 美馬裕之: 脳幹梗塞との鑑別に苦慮したリステリア脳幹脳炎の 1 例. 日本集中治療医学会, 第 1 回関西支部学術集会 (第 62 回日本集中治療医学会近畿地方会), 神戸, 2017.7.8
14. 有吉孝一: 講演「マムシ、ヤマカガシ、ムカデ、ヒアリ」などによる咬傷と対策. 有馬温泉病院職員研修会, 神戸, 2017.8.8

15. 有吉孝一：断らない救急医療～三次救急の立場から～. 救急安心センター開設記念 平成 29 年度救急医療フォーラム「救急医療の今と未来 (これから)」, 神戸, 2017.9.2
16. 下澤信彦, 高松由佳, 津久田純平, 内藤貴基, 田北無門, 藤井修一, 尾崎将之, 柳井真知, 森澤健一郎, 藤谷茂樹, 平 泰彦：施設の実情から立案した作戦の継続が Rapid Response System の成績を向上させる. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.24
17. 真弓俊彦, 神谷侑画：司会「私の工夫 2 私の発見、私の発明」. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.24
18. 川口剛史, 津久田純平, 高松由佳, 藤井修一, 森澤健一郎, 下澤信彦, 内藤貴基, 柳井真知, 藤谷茂樹, 平泰彦：近赤外分光法 (NIRS) を用いた脳表層組織の脈動血流成分の測定法. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.24
19. 野浪 豪, 水 大介, 有吉孝一：突然発症の後頸部痛、胸背部痛の落とし穴ー突発性脊髄硬膜外血腫 17 例の検討. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.24
20. 井上 彰, 有吉孝一：低体温症は高齢者の社会問題である. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.24
21. 大久保祐希, 松岡由典, 有吉孝一：救命救急センターにおけるオブザベーションユニットの意義. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.25
22. 神谷侑画, 水 大介, 有吉孝一：病院前で脳卒中を見極めるために. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.25
23. 上村恵理, 水 大介, 有吉孝一：急性薬物中毒患者における誤嚥性肺炎の危険因子. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.25
24. 小森大輝, 畑 菜摘, 松岡由典, 水 大介, 有吉孝一：高齢者の尿路感染症における尿グラム染色の意義. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.25
25. 西村与志郎, 西山 隆, 中山伸一, 有吉孝一, 森田晃司, 岡田直己, 安藤維洋, 前田祐仁, 大坪里織：神戸市消防局における救急救命士処置拡大の現況と課題～血糖測定とブドウ糖溶液投与の総括～. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.26
26. 畑 菜摘, 松岡由典, 水 大介, 有吉孝一：高齢者の骨盤骨折における大量出血予測因子についての検討. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.26
27. 岩崎 寛, 楠本寿子, 水 大介, 有吉孝一：当院における外傷輸血戦略の現状と今後の MTP 運用. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.26
28. 田北無門, 来栖美由紀, 津久田純平, 高松由佳, 藤井修一, 尾崎将之, 柳井真知, 森澤健一郎, 藤谷茂樹, 平 泰彦：当院における高齢者救急の現状. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.26
29. 井上哲也, 田北無門, 藤井修一, 津久田純平, 尾崎将之, 柳井真知, 森澤健一郎, 下澤信彦, 松本純一, 藤谷茂樹, 平 泰彦：外傷精査中に放射線科医により心筋虚血を指摘された外傷性 CPA (と思われた) の 1 例. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.26
30. 瀬尾龍太郎：…そりゃ筋弛緩薬、使うでしょ。だって RCT でもメタ解析でもガイドラインでも“いい”ってなっているんですから. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.26
31. 有吉孝一, 水 大介, 瀬尾龍太郎：Previously on ER. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.26
32. 有吉孝一：座長「パネルディスカッション 15 関連セッション ER 診療」. 第 45 回日本救急医学会学術集会, 大阪, 2017.10.26
33. 有吉孝一, 林 卓郎, 畑 菜摘：院内トリアージ. 第 8 回日本小児救急医学会肥後もっこセミナー, 熊本, 2017.11.25-26
34. 有吉孝一：講演「救急医療の現状と課題」, 北播磨救急連絡部会救急講演会, 小野, 2017.11.27
35. Tsujimoto T, Kai R, Ikemura M, Seo R, Ariyoshi K, Hashida T, Kume N : Beneficial effects of early initiation of enteral nutrition on clinical outcomes in critically ill patients ASPEN2018, Las Vegas, 2018.1.23
36. なら本悠嗣, 畑 菜摘, 松岡由典, 水 大介, 有吉孝一：緑の恐怖. 第 23 回日本集団災害医学会, 横浜, 2018.2.2
37. 小平 博, 佐藤慎一, 松田 聡, 杉町正光, 有吉孝一, 中山伸一：JMAT 兵庫研修会の変遷ー JMAT の在り方に関する考察ー. 第 23 回日本集団災害医学会, 横浜, 2018.2.2

38. 西尾勇次, 荻田正之, 井上 彰: 多数傷病者の受け入れ訓練の拡大と今後の展望. 第 23 回日本集団災害医学会, 横浜, 2018.2.3
39. 有吉孝一: 講演「救命救急センター内に身体合併症精神科病棟 (MPU) を開設する」. 第 5 回宮城救急・精神医療懇話会, 仙台, 2018.2.6
40. 瀬尾龍太郎: 成人領域の重症呼吸不全の病因診断経験. 第 45 回日本集中治療医学会, 千葉, 2018.2.21
41. 岩田健太郎, 門 浄彦, 下雅意崇亨, 西原浩真, 高橋祐介, 婦木亜紀子, 瀬尾龍太郎: 神戸市立医療センター中央市民病院の集中治療における早期リハビリテーション. 第 45 回日本集中治療医学会, 千葉, 2018.2.21
42. 須賀将文, 川上大裕, 矢崎知子, 伊藤次郎, 中森裕毅, 植田浩司, 下園崇宏, 瀬尾龍太郎, 美馬浩之: 慢性維持透析は心臓手術後の Vasoplegic syndrome のリスクである. 第 45 回日本集中治療医学会, 千葉, 2018.2.21
43. 栗林真悠, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: アシネトバクターによる重症市中肺炎の 1 例. 第 45 回日本集中治療医学会, 千葉, 2018.2.21
44. 矢崎知子, 須賀将文, 浅香葉子, 川上大裕, 瀬尾龍太郎, 美馬浩之: 当院における精神科身体合併症病棟 (MPU 病棟) の使用について. 第 45 回日本集中治療医学会, 千葉, 2018.2.21
45. 渥美生弘, 林恵美子, 土手 尚, 眞喜志剛, 大杉浩一, 田中 茂, 浅香葉子, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: 臓器提供への集中治療医のかかわり. 第 45 回日本集中治療医学会, 千葉, 2018.2.22
46. 浅香葉子, 瀬尾龍太郎, 植田浩司, 美馬浩之: 鏡でせん妄予防はできるのか. 第 45 回日本集中治療医学会, 千葉, 2018.2.22
47. 水大介, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: 重症外傷患者における造影剤腎症発症と危険因子. 第 45 回日本集中治療医学会, 千葉, 2018.2.22
48. 川上大裕, 植田浩司, 中森裕毅, 瀬尾龍太郎, 下園崇宏, 美馬浩之: ICU 患者の気管切開 1 年後の予後. 第 45 回日本集中治療医学会, 千葉, 2018.2.23
49. 井上 彰, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: 腹部外傷での入院を契機にドパミン過剰状態となったパーキンソン病患者の 1 例. 第 45 回日本集中治療医学会, 千葉, 2018.2.23
50. 小森大輝, 須賀将文, 浅香葉子, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: 水頭症を契機に診断したトキソプラズマ脳症で緊急帝王切開を行った HIV/AIDS の 1 例. 第 45 回日本集中治療医学会, 千葉, 2018.2.23
51. 有吉孝一: 座長「目で視る敗血症性 DIC の病態」. 第 116 回近畿救急医学研究会 (日本救急医学会 近畿地方会), 神戸, 2018.3.10
52. 瀬尾龍太郎: 座長「集中治療」. 第 116 回近畿救急医学研究会 (日本救急医学会 近畿地方会), 神戸, 2018.3.10
53. 畑 菜摘: 心室細動患者における ECPR の有用性について. 二次救急輪番制専門部会 循環器疾患の会, 神戸, 2018.3.17

VII. 1. 30 総合内科

1. 上月友寛, 土井朝子, 蓮池俊和, 西岡弘晶: 腎膿瘍を合併した *Abiotrophia defectiva* による感染性心内膜炎の 1 例. 第 91 回日本感染症学会総会, 東京, 2017.4.6
2. 蓮池俊和, 土井朝子, 吉崎亜衣沙, 西岡弘晶: 菌血症を合併した thoracic actinomycosis の 1 例. 第 91 回日本感染症学会総会, 東京, 2017.4.6
3. 西岡弘晶: 耳鼻科領域でも役立つ, グラム染色を用いた感染症診療. 第 208 回兵庫県耳鼻咽喉科会臨床懇話会, 神戸, 2017.4.9
4. 水野泰志: 関節リウマチ診療における生物学製剤の役割について. プリズトル・マイヤーズ・スクイブ社内研修会, 神戸, 2017.4.10
5. 志水隼人, 水野泰志, 西岡弘晶: 生物学製剤使用中に急速破壊型股関節症に類似した経過を辿った関節リウマチの 1 例. 第 60 回日本リウマチ学会総会学術集会, 博多, 2017.4.20
6. 土井朝子: How to manage CMV infections ? 第 13 回 FLEEKIC, 神戸, 2017.5.28
7. 進藤達哉: 紹介状の書き方. 救急オープンセミナー, 神戸, 2017.6.7
8. 水野泰志: 当院のリウマチ膠原病診療の現状. 神戸リウマチ膠原病セミナー, 神戸, 2017.6.8
9. 金森真紀: ワークショップ 女性の腹痛: 診断がなかなかつかないその腹痛, どう付き合う? ACP 日本支部年次総会 2017, 京都, 2017.6.10

10. 東別府直紀, 讚井將満, 祖父江和哉, 西岡弘晶, Daren KH: 国際栄養調査に参加後、栄養療法は改善する。第9回日本静脈経腸栄養学会近畿支部学術集会, 京都, 2017.6.24
11. 吉崎重衣沙, 水野泰志, 西岡弘晶: 骨髄線維症治療中に発症した大血管炎の1例。第216回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2017.7.1
12. 水野泰志: リウマチ疾患について。あゆみ製薬社内研修会, 神戸, 2017.7.6
13. 金森真紀: コンサルタントをその気にさせるプレゼン術。ERアップデート in 沖縄 201, 沖縄県読谷村, 2017.7.7
14. 金森真紀: 点から線で見えるER診療～ER受診後のフォロー外来からのメッセージ～。ERアップデート in 沖縄 2017, 沖縄県読谷村, 2017.7.8
15. 土井朝子: 発熱: 感染症内科の立場から。第1回神戸内科塾, 神戸, 2017.7.8
16. 進藤達哉: 抗菌薬の基本の「ホ」。救急オープンセミナー, 神戸, 2017.8.2
17. 西岡弘晶: 古くて新しい感染症診療のコツ。神戸市兵庫区医師会学術講演会, 神戸, 2017.8.18
18. 土井朝子: 意外に減らせる! DU製剤。第50回IDATENインタラクティブケースカンファレンス, 東京, 2017.9.2
19. 進藤達哉, 西岡弘晶, 増田泰之, 今井幸弘: プラジカンテルによる急性汎発性発疹性膿疱症の1例。第217回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2017.9.16
20. 西久保雅司: ERでのグラム染色。救急オープンセミナー, 神戸, 2017.9.20
21. 水野泰志: 寛解を目指した関節リウマチ診療。第1回地域連携セミナー, 神戸, 2017.9.21
22. 水野泰志: Biologics治療におけるGolimumabの位置づけ。田辺三菱製薬アドバイザー研修, 神戸, 2017.9.25
23. 進藤達哉: 抗菌薬の基本の「ン」。救急オープンセミナー, 神戸, 2017.10.4
24. 杉田直, 西田明弘, 許沢尚弘, 實野阿佑美, 高橋政代, 栗本康夫, 進藤達哉, 土井朝子, 西岡弘晶: AIDS患者に見られた眼内アデノウイルス陽性の壊死性網膜炎を伴う汎ぶどう膜炎の1例。第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017.10.12
25. 土井朝子: 感受性結果の読み方。第5回神戸感染症セミナー, 神戸, 2017.10.14
26. 蓮池俊和: HIV患者さんの見方。第5回神戸感染症セミナー, 神戸, 2017.10.14
27. Mizuno Y: The effect of biologic agents on nutritional status in patients with rheumatoid arthritis evaluated by serum proteins. 第19回APLAR, Dubai, United Arab Emirates, 2017.10.27
28. 進藤達哉, 水野泰志, 西岡弘晶: 抗菌薬事前投与を受けていない化膿性関節炎の診断における関節液グラム染色の有用性。第60回日本感染症学会中日本地方会学区術集会, 長崎, 2017.10.27
29. 土井朝子: 2017年度感染管理講習会, 神戸, 2017.10.30
30. 西久保雅司: 抗菌薬スペクトラム。救急オープンセミナー, 神戸, 2017.11.1
31. 西久保雅司, 井本寛東, 志水隼人, 金森真紀, 西岡弘晶: 青いのに、青くないもの。京都GIMカンファレンス, 京都, 2017.12.1
32. 進藤達哉, 金森真紀, 西岡弘晶: 基礎疾患のない壮年期男性に生じた、菌血症を伴うA群溶血性連鎖球菌性肺炎の1例。第218回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2017.12.2
33. 西久保雅司, 井本寛東, 志水隼人, 西岡弘晶: 咽頭炎を契機に発症したと考えられた *Streptococcus pyogenes* による成人人工弁感染性心内膜炎の1例。第218回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2017.12.2
34. 楠田かおり, 西岡弘晶, 池村舞, 西岡和子, 東別府直紀, 橋田亨: 胃酸分泌抑制薬がペクチン含有濃厚流動食の下痢改善効果に及ぼす影響。第15回大学-医療連携講演会, 神戸, 2017.12.4
35. 水野泰志: 関節リウマチの診断・治療。ヤンセンファーマ株式会社社内研修会, 神戸, 2017.12.5
36. 高津絵梨香, 藤原悟, 竹中麻理子, 岩本昌子, 杉岡ふみ子, 出口千尋, 西岡弘晶: 脊髄性筋萎縮症2型患者に実測安静時エネルギー消費量を用いて栄養介入した1例。第21回日本病態栄養学会学術集会, 京都, 2018.1.14
37. 西久保雅司: 抗菌薬スペクトラム ペニシリン。救急オープンセミナー, 神戸, 2018.1.24
38. 西岡弘晶: 診断スキルを磨く～もう一度病歴とバイタルサインから考えてみよう～。FFGカンファレンス, 奈良, 2018.1.25
39. 志水隼人, 水野泰志, 西岡弘晶: TAFRO症候群やPOEMS症候群かどうかの判断に苦慮している多中心性キャッスルマン病の1例。第48回神戸免疫・膠原病懇話会, 神戸, 2018.1.27

40. 進藤達哉：渡航者感染症. 救急オープンセミナー, 神戸, 2018.2.7
41. 磯村 望, 茨木まどか, 岩本昌子, 竹中麻理子, 杉岡ふみ子, 東別府直紀, 西岡弘晶：空腸瘻から半固形化栄養剤を間歇的に投与できた1例. 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2018.2.22
42. 常峰かな, 東別府直紀, 末廣 篤, 竹林慎治, 西岡弘晶：理学所見に基づく摂食嚥下障害臨床的重症度分類と嚥下内視鏡検査での評価の違いについて. 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2018.2.22
43. 西岡弘晶, 東別府直紀：経腸栄養剤を摂取しながらの腹部エコー検査が胃流出路閉塞の原因確定に有用であった1例. 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2018.2.23
44. 若田恭介, 亀井こずえ, 竹中麻理子, 伊藤次郎, 東別府直紀, 西岡弘晶：間質性肺炎患者におけるステロイド使用の有無と身体組成、筋力、呼吸機能の関係. 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2018.2.23
45. Shindo T, Nishioka H：Pustulosis Caused by Praziquantel. The AAAAI/WAO Joint Congress, Orland, USA, 2018.3.2
46. 井本寛東, 志水隼人, 西岡弘晶：*Listeria monocytogenes*による脳幹脳炎と脊髄膿瘍の1例. 第219回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2018.3.3
47. 西久保雅司：症例検討1. IDATENx 関フェデ x SHIKATEN 特別合同企画, 奈良, 2018.3.17
48. 西岡弘晶：医師臨床研修制度から学べることはあるか？ 第7回薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2018.3.21

VII. 1. 31 看護部

1. 山田佳枝, 杉野善雄, 山内有理, 大森幸子, 正城奈美：当院での排尿自立指導料算定までの取り組みを振り返って. 第30回日本老年泌尿器科学会, 東京, 2017.6.9-10
2. 松井綾乃, 市山綾乃, 川辺由美, 鈴木佳津子, 永石かずみ：穿刺前の確認チェックシートを作成して. 第62回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2017.6.16-18
3. 御守 萌, 鈴木佳津子, 新改法子, 永石かずみ, 前田淳子：5つのタイミングに焦点を当てた手指衛生遵守率向上への取り組み. 第62回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2017.6.16-18
4. 吉川恵理：職業人として確立した1899年の時代に生きた助産師の知識と技能. 第31回国際助産師連盟会議, カナダ, 2017.6.18-22
5. 仲村直子：CNSに求められる事例研究、実践報告をどのようにまとめ、発表するかについて. 第4回CNS看護学会, 東京, 2017.6.25
6. 藤村弓子, 南場佳子, 濱田麻美子：乳房一次再建術を受けた患者の術後の体験. 第25回日本乳癌学会学術総会, 福岡, 2017.7.13-15
7. 藤本和美, 高橋真弓子, 仲村直子, 小椋由美子, 松村佳苗, 山根崇史, 古川 裕：外来心リハにおける活動量計を用いた患者教育の効果～看護師が行う生活活動調整とは～. 第23回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16
8. 戸原綾子, 濱田麻美子, 小林亜由美, 岩田奈美, 平昌正樹, 近藤祐未, 簗智幸政, 佐竹悠良, 安井久晃, 辻晃仁：新型化学療法専用携帯型ポンプ開発と導入についての検討. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017.7.27-29
9. 濱田麻美子, 吉田哲也, 稲岡佳子, 田中年恵, 平昌正樹, 戸原綾子, 坂地一朗, 美馬裕之, 橋田 亨, 辻 晃仁：看護師の職業性曝露防止に対する新たな試み. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017.7.27-29
10. 松本涼子：緊急手術を受ける学童期以降の子どもと家族へのプレパレーションの評価. 日本小児看護学会第27回学術集会, 京都, 2017.8.19-20
11. 佐伯和美, 西條智美, 諏訪恵子, 高山優子, 西尾恵美：タブレット端末を用いたディストラクションの効果—他施設のHPS資格を持つ医療従事者による実践を通して—. 日本小児看護学会第27回学術集会, 京都, 2017.8.19-20
12. 丸山浩枝, 吉村由美香：小児看護専門看護師と考えるエビデンスに基づいた末梢静脈血管留置カテーテルの固定管理～乳児から思春期までの小児期～. 日本小児看護学会第27回学術集会, 京都, 2017.8.19-20
13. 鶴澤加奈：当院における呼吸器看護専門外来の導入と実際. 第29回兵庫県呼吸ケア・リハビリテーション懇談会, 神戸, 2017.9.9

14. 仲村直子：循環器疾患を持つ高齢者の生活を支える支援～加齢に伴う身体機能の低下と循環器疾患の進行を生きる高齢患者を知る～. 第14回日本循環器看護学会学術集会, 徳島, 2017.9.9-10
15. 高橋真弓子：社会復帰を望む低心機能患者の心不全管理に向けた支援—外来心臓リハビリテーションでの精神的支援をふまえて—. 第14回日本循環器看護学会学術集会, 徳島, 2017.9.9-10
16. 山口美恵, 利川亜弥, 谷尻淑子：ドクターカーナースのプレホスピタルにおける活動実態. 第19回日本救急看護学会学術集会, 金沢, 2017.10.6-7
17. 佐藤千賀, 仲村直子：重症心不全患者が最期まで生きぬく方法を選択するための支援. 第21回日本心不全学会学術集会, 秋田, 2017.10.12-14
18. 東 美優：手術室看護師を対象にしたラビング法導入への取り組み. 第56回全国自治体病院学会, 幕張, 2017.10.19-20
19. 山岡 肇：デイサージャーセンターを介した入院当日全身麻酔手術の推移. 第56回全国自治体病院学会, 幕張, 2017.10.19-20
20. 木下拓也：看護補助者が医療チームの一員としての自覚とやりがいがあるような取り組み～係活動を提案して～. 第56回全国自治体病院学会, 幕張, 2017.10.19-20
21. 佐伯和美, 奥田早苗, 西條智美, 諏訪恵子, 中村公美子, 西尾恵美：医療に関わる子どもへのタブレット端末の活用方法—HPSによる多施設の実践から—. 第6回日本小児診療多職種研究会, 沖縄, 2017.11.3-4
22. 藤原正和, 伊藤聡子, 松村佳苗, 飯塚瑞恵, 森田幸子, 大坪 麗, 土井和実：当院RSTコアナース会の取り組みについて. 第27回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 仙台, 2017.11.17-18
23. 丞々弥生, 堀川万由美, 荒尾真理那：在宅ハイフローセラピー導入後の在宅療養生活の実態調査. 第27回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 仙台, 2017.11.17-18
24. 伊藤明美：看護マスタを活用するための院内教育とその課題. 第37回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.20-23
25. 花房由美子, 飯田悦子, 藤原麻矢, 渡部幸代, 喜志彩香：急性期病院における転倒・転落の現状と看護師の危険予知・予防ケアの実態調査. 第12回医療の質・安全学会学術集会, 幕張, 2017.11.25-26
26. 花本昌子, 藤原正和, 徳田未有, 山下奈津子, 佐野亜紀子, 佐藤杏子, 永石かずみ：当院のダブルチェックの実態調査と標準化の取り組み. 第12回医療の質・安全学会学術集会, 幕張, 2017.11.25-26
27. 仲村直子：動脈硬化の進展を防ぐために必要な心臓リハビリテーション～看護師が行なう認知の転換に向けた支援～. 第31回日本冠疾患学会学術集会, 大阪, 2017.12.15-16
28. 若林侑起, 江川幸三：ICUに緊急入院した患者の回復意欲のプロセス. 第37回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 2017.12.16-17
29. 長尾幸恵：終末期患者と家族への卓越した看護—一般病棟における患者の意向に沿った支援—. 第37回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 2017.12.16-17
30. 西尾勇次, 荻田将之：多数傷病者受け入れ訓練の拡大と今後の展望. 日本集団災害医学会総会・学術集会, 横浜, 2018.2.1-3
31. 梅田節子, 岩田奈美, 平山知佳：急性期総合病院における苦痛のスクリーニング運用開始の現状とケアにつなげる取り組み. 第32回日本がん看護学会学術集会, 幕張, 2018.2.3-4
32. 沖浦麻矢, 鈴木志津枝：外来化学療法による有害事象があるがん患者を抱える家族内役割の変化. 第32回日本がん看護学会学術集会, 幕張, 2018.2.3-4
33. 橋本涼加, 堀江ゆうか, 坪井美菜子, 齊田菜穂子, 渡邊則子, 大野陽子：大学生のがんに対する意識調査. 第32回日本がん看護学会学術集会, 幕張, 2018.2.3-4
34. 高尾佳美：当院におけるチームSTEPPSの取り組み. 第33回神戸市医師会学術集談会, 神戸, 2018.2.17
35. 仲村直子, 下雅意崇享, 山根崇史, 北井 豪, 古川 裕：心臓リハビリテーション研修施設としての取り組み. 日本心臓リハビリテーション学会・第3回近畿地方会, 神戸, 2018.2.17
36. 村上朋子, 浅田江里, 齋藤光栄, 神澤美咲, 西林祥子, 野坂知未, 中西寛子：造血幹細胞移植後フォローアップ外来の現状と今後の課題. 日本医療マネジメント学会第12回兵庫支部学術集会, 西宮, 2018.2.18
37. 新改法子, 矢野久子, 土井朝子, 坂田隆造, 小山忠明, 森本 剛：心臓血管外科手術後の手術部位感染減少に向けた取り組みとSSIバンドル実施率調査. 第48回日本心臓血管外科学会学術総会, 三重, 2018.2.19-21
38. 中谷 愛：救命救急センター集中治療室における多職種を含めた感染予防対策. 第33回日本環境感染学会総会・学術集会, 東京, 2018.2.23-24

39. 大川亜弥, 山田佳枝, 澤井智恵, 甲斐田博子, 橋田裕毅: 当院のストーマ外来患者の実態調査—晩期合併症とその関連因子について—. 第 35 回ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 北海道, 2018.2.24
40. 弘中晶子: タッチケア教室を開催する助産師の体験. 第 32 回日本助産学会学術集会, 横浜, 2018.3.3-4
41. 高橋 凜: 意思疎通が困難な患者の看護～表情・体動・バイタルサインの変化の意味を考える～. 第 117 回近畿救急医学研究会, 神戸, 2018.3.10
42. 山田麻央, 七瀬瑠里子, 小西真千子, 新みどり, 末神純子: メンタルヘルスケアが必要な妊婦の支援～妊娠期からの継続的な関わりを通して～. 周産期医療事例検討会, 神戸, 2018.3.10
43. 三宅景子, 村尾佳津江, 西中理恵, 井上深雪, 佐藤恵美: 児への愛着を維持する指導と支援を考える—若年で障害児を出産した母と家族との関わり—. 周産期医療事例検討会, 神戸, 2018.3.10

VII. 1. 32 薬剤部

1. 橋田 亨: 特別講演・入院から外来、地域へと広がる薬物治療をつなぐ. 釧路病院薬剤師会学術講演会, 釧路, 2017.4.14
2. 池末裕明: 安全な化学療法の実践. 日本病院薬剤師会・日本医療薬学会 がん専門薬剤師集中教育講座, 東京, 2017.4.16
3. 橋田 亨: 特別講演・薬剤師外来の進化とシームレスな薬学ケア. 薬剤師フォーラム in Nagoya, 名古屋, 2017.4.29
4. 油屋 恵, 奥貞 智, 池末裕明, 橋田 亨: ポリファーマシー対策にむけて～当院における薬剤総合評価調整加算の現状～. 第 1 回日本老年薬学会学術大会, 東京, 2017.5.14
5. 油屋 恵, 藤本寛太, 奥貞 智, 松岡直樹, 橋田 亨, 岩倉敏夫: 混合型インスリン 2 回からデグルデク / アスパルト配合インスリン 2 回へ変更時の血糖変動と QOL 変化の検討. 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017.5.18
6. 橋田 亨: 特別講演・入院から外来、地域へと広がる薬物治療をつなぐ. 沖縄県病院薬剤師会学術講演会, 那覇, 2017.6.3
7. 橋田 亨: 特別講演・フラッグシップ病院に求められる薬剤部運営～経済性、先見性、人材養成～. 第 2 回 Pharmacist President Club, 東京, 2017.6.3
8. 橋田 亨: 特別講演・機能分化していく病院を支える薬剤業務と人材育成, Okayama Pharmacy Director Conference, 岡山, 2017.6.8
9. 池末裕明: 効果的で安全ながん治療を実践するための薬学的介入のポイント. 慶應義塾大学薬学部公開講座, 東京, 2017.6.11
10. 奥貞 智: 保険薬局との連携について～トレーシングレポート～. ポートアイランド糖尿病薬剤セミナー, 神戸, 2017.6.21
11. 高瀬友貴: 入院前から始まる周術期薬剤管理～循環器用薬を中心に～. Hyogo Pharmacy Director Conference, 神戸, 2017.6.28
12. 池末裕明: 新しい医療に向けたがん専門薬剤師へのニーズと課題. 第 3 回北海道ブロックがん専門薬剤師フォーラム, 札幌, 2017.7.8
13. 奥貞 智: 糖尿病患者さんをいかに支援するか!～薬物療法の指導の一助として～. 糖尿病ステップアップセミナー 2017, 神戸, 2017.7.9
14. 山本晴菜: 当院における C 型肝炎診療における薬剤師外来の実績. 兵庫県薬剤師肝炎治療薬抗ウイルス療法セミナー, 神戸, 2017.7.12
15. 橋田 亨: 特別講演・入院から外来、地域へとつなぐ、がん薬物療法. 第 3 回がん医療の質向上のための薬剤師連携ネットワーク, 相模原, 2017.7.15
16. 池末裕明: 薬剤師が支えるがん薬物療法と注意すべき検査値. がん化学療法地域連携セミナー, 大阪, 2017.7.21
17. 池末裕明: 免疫チェックポイント阻害薬によるがん治療における薬剤師の役割. ファーマストリーム e ラーニング講義, 東京, 2017.7.22
18. 六車龍介, 奥貞 智, 富田里佳, 西濱輝美, 窪岡由佑子, 布谷容子, 恒吉慶子, 根来絢子, 岡本貴子, 中筋幸司, 小浦範明, 永嶋道浩, 和田真明, 辻本 勉, 坂口一彦, 横野浩一: 糖尿病療養指導士兵庫県連合会活動報告. 第 5 回日本糖尿病療養指導学術集会, 京都, 2017.7.29

19. 楠田かおり, 柴谷直樹: 新薬レビュー「免疫チェックポイント阻害薬」. 新薬レビュー研修会, 神戸, 2017.8.19
20. 橋田 亨: 基調講演・薬剤師教育における卒後臨床研修ーレジデント制度の構築に向けて. 全国リハビリテーション学校協会第30回教育研究大会・教育研修会, 新潟, 2017.9.1
21. 橋田 亨: 医療現場で活躍する実力派薬剤師の養成は最初の一步が肝心. 第2回日本薬学教育学会大会, 名古屋, 2017.9.2
22. 橋田 亨: 特別講演・入院前から退院, 地域へとつながる薬剤業務. 第55回中国四国地区国立病院薬学研究会, 高松, 2017.9.3
23. 橋田 亨: 特別講演・新しい医療に向けたがん専門薬剤師へのニーズと課題. 4th. 東海北陸ブロックがん専門薬剤師フォーラム, 名古屋, 2017.9.9
24. 池末裕明: がん専門薬剤師の役割と貢献～これまでと、これから～. 熊本大学薬学部平成29年度薬剤師のための医療薬科学研修会, 熊本, 2017.9.10
25. 橋田 亨: 特別講演・入院から外来, 地域へと広がる薬物療法をつなぐ. 名城大学薬学部同窓会尾張西支部設立総会・講演会, 一宮, 2017.9.10
26. 鎌田里紗, 田村 亮, 池村 舞, 安藤基純, 鶴谷 茂, 橋田 亨: 精神科身体合併症病棟における薬剤師の役割. 第1回日本精神薬学会総会・学術集会, 東京, 2017.9.24
27. Ando M, Nakasako S, Niki M, Tamura R, Sakizono K, Inoue A, Minowa K, Ariyoshi K, Fukushima S, Hashida T: Qualitative/quantitative analysis and the pharmacokinetic characterization of drug-induced intoxication cases in clinical settings. 15th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology 2017, 京都, 2017.9.25
28. 橋田 亨: シンポジウム・がん患者に対してゲノム医療を手にした薬剤師ができることは何か? 大阪薬科大学がんプロ第13回公開シンポジウム, 大阪, 2017.10.8
29. 中西真也, 平島正樹, 西脇布貴, 近藤祐未, 池末裕明, 森本茂文, 橋田 亨: 従業者の安全と業務効率化に向けた抗がん薬自動調製ロボット導入. 第56回全国自治体病院学会, 幕張, 2017.10.19
30. Ikemura M, Aburaya M, Hirabatake M, Ikeshue H, Hashida T: Evaluation of efficacy and safety of FOLFOX cancer chemotherapy in diabetic model mice and patients. 第11回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム, 京都, 2017.10.21
31. 橋田 亨: 特別企画シンポジウム・次世代を担う臨床薬剤師の育成と組織作り. 第27回日本医療薬学会年会, 幕張, 2017.11.3
32. 小曳恵里子, 平島正樹, 三宅里美, 中浴伸二, 安藤基純, 池末裕明, 平井雄三, 土井朝子, 橋田 亨: 外来における経口第3世代セフェム系抗菌薬適正使用の取り組みとその効果. 第27回日本医療薬学会年会. 幕張, 2017.11.3
33. 藤井尚子, 池末裕明, 楠田かおり, 薩摩由香里, 森本茂文, 富井啓介, 橋田 亨: 喘息およびCOPD治療の充実を目指した地域連携ー保険薬局薬剤師に対する吸入指導研修と吸入評価表の活用ー. 第27回日本医療薬学会年会. 幕張, 2017.11.3
34. 鳥井栄貴, 上池沙弥華, 山本美和, 安田大将, 清水るみ子, 平岡義範, 橋田 亨, 久米典昭: 新規不眠症治療薬スボレキサントによる過鎮静と肥満との関連. 第27回日本医療薬学会年会. 幕張, 2017.11.3
35. 山本晴菜: アドヒアランスを保って治療成績の最大化! ～C型肝炎薬剤師外来～. 第27回日本医療薬学会年会, 幕張, 2017.11.4
36. 橋田 亨: 薬学的介入のtips (コツ) と training. 第27回日本医療薬学会年会, 幕張, 2017.11.5
37. 橋田 亨: 特別講演・入院から外来, 地域へと広がる薬剤業務～がん薬物療法をつなぐ～. 病院薬剤師セミナー in 札幌, 札幌, 2017.11.8
38. 平野達也: 薬薬連携～病院緩和ケアから在宅医療へ～. 第3回兵庫県地域医療・薬剤業務研究会, 神戸, 2017.11.8
39. 橋田 亨: 病院マネジメントに活用する薬剤師職能2018. 第53回全国病院経営管理学会, 東京, 2017.11.10
40. 田村 亮: 中毒・副作用から読み解く原因薬剤～薬剤師も生体情報に耳を傾けよう～. 第3回ファーマシューティカルフィジカルアセスメント研究会, 滋賀, 2017.11.11
41. 池末裕明: 薬剤業務の中からエビデンスを創出する～研究で得られるものと、進め方～. 新潟県病院薬剤師会第52回病院薬学研修会, 新潟, 2017.11.12

42. 橋田 亨：医薬品の安全管理を担う薬剤師. 近畿厚生局・平成 29 年度医療安全シンポジウム, 大阪, 2017.11.14
43. 橋田 亨：機能分化していく病院を支える薬剤業務と人材養成. 薬剤師講演会 FUTURE, 佐野, 2017.11.15
44. 池末裕明：がん薬物療法における薬剤師の取り組み. 北播磨消化器癌 Meeting 2017, 小野, 2017.11.16
45. 池末裕明：薬剤師がつなぐ、がん薬物療法—安全性とアドヒアランス工場を目指して—. 益田市薬剤師会学術研修会. 益田, 2017.11.17
46. Kondo Y, Hirabatake M, Satake H, Yasui H, Hashida T : Safety and effectiveness of oral rivaroxaban for the treatment of venous thromboembolism in cancer patients. ESMO Asia 2017, singapore, 2017.11.17-19
47. 橋田 亨：特別講演・がん薬物治療と AI、ロボット、薬剤師業務の未来. がん治療に関わる薬剤師セミナー, 静岡, 2017.11.19
48. 橋田 亨：特別講演・入院から外来、地域へとつながるがん薬剤業務. Myeloma Conference 三重, 伊勢, 2017.11.22
49. 橋田 亨：機能分化していく病院を支える薬剤業務と人材養成. 千葉県病院薬剤師会ファーマシーマネジメント講習会, 千葉, 2017.11.25
50. 楠田かおり, 西岡和子, 池村 舞, 東別府直紀, 西岡晶弘, 橋田 亨：胃酸分泌抑制薬がペクチン含有濃厚流動食の下痢改善効果に及ぼす影響. 神戸学院大学薬学部 第 15 回大学—医療連携講演会, 神戸, 2017.12.4
51. Takase T, Ikesue H, Mima H, Koyama T, Hashida T : Interaction between short-term administration of amiodarone and warfarin after cardiac surgery. 52nd ASHP Midyear Clinical Meeting and Exhibition, Orlando, USA, 2017.12.5
52. Ikesue H, Shimosato M, Tomita H, Takenobu T, Hashida T : Risk factors for denosumab or zoledronic acid-related osteonecrosis of the jaw in cancer patients with bone metastases. 52nd ASHP Midyear Clinical Meeting and Exhibition, Orlando, USA, 2017.12.5
53. 入江 慶, 平辻星佳, 山崎悠汰, 岸本修一, 岡田 裕, 福島昭二：質量分析計を用いたニボルマブの血中濃度測定法の構築. 第 38 回日本臨床薬理学会学術総会, 横浜, 2017.12.8
54. 橋田 亨：抗がん薬曝露対策は薬剤師の推進力で決まる～専門家に期待される役割～. 福岡県抗がん薬曝露対策を考える会, 福岡, 2017.12.09
55. 池末裕明：乳がん薬物療法の支持療法とその取り組み. 第 33 回兵庫県病院薬剤師のためのオンコロジーセミナー, 神戸, 2017.12.14
56. 中西真也：薬剤業務の展開に向けた抗がん薬調製ロボットの活用. 第 3 回近畿ブロックがん専門薬剤師フォーラム, 大阪, 2017.12.16
57. 橋田 亨：講演・ゲノムを理解してがんと向き合う. がん患者学会 2017, 大阪, 2017.12.16
58. 橋田 亨：特別講演・入院から外来、地域へとつながるがん薬剤業務. Myeloma Conference in 松坂, 松坂, 2018.1.16
59. 山本晴菜：C 型肝炎治療薬における薬剤師外来の取組み. 兵庫県病院薬剤師会 Hepatitis C Pharmacist Seminar 2018, 神戸, 2018.1.17
60. 中西真也, 平昌正樹, 西脇布貴, 近藤祐未, 池末裕明, 森本茂文, 橋田 亨：患者の点滴進捗状況を把握した抗がん薬自動調製ロボットの効率的な活用. 近畿薬剤師合同学術大会 2018, 京都, 2018.2.3-4
61. 栗谷和典, 中川大器, 大前敬子, 小松蘭子, 吉田孝茂, 橋本大輔, 樫野哲一, 村田真也, 金澤智美, 奥貞 智, 池末裕明, 森本茂文, 橋田 亨：トレーシングレポートを用いた薬薬連携の取り組みと課題. 近畿薬剤師合同学術大会 2018, 京都, 2018.2.3-4
62. 富田秀明, 池末裕明, 下里 萌, 池村 舞, 安藤基純, 平昌正樹, 森本茂文, 橋田 亨：骨転移を有するがん患者におけるゾレドロン酸関連腎障害のリスク因子解析. 近畿薬剤師合同学術大会 2018, 京都, 2018.2.3-4
63. 橋田 亨：入院から外来、地域へとつながるがん治療～薬剤師の専門性と連携を活かして～. 近畿薬剤師合同学術大会 2018, 京都, 2018.2.3-4
64. 奥貞 智：糖尿病診療における薬剤師の役割. 第 2 回 Hyogo Pharmacy Director Conference, 神戸, 2018.2.14
65. 橋田 亨：多様化する薬物治療と医薬品安全管理. 市立芦屋病院平成 29 年度第 2 回医療安全研修会, 芦屋, 2018.2.22

66. 田村 亮, 高瀬友貴, 池末裕明, 奥貞 智, 橋田 亨: 薬剤師レジデント教育の場としての集中治療室～教育側・研修側それぞれの課題～. 第 45 回日本集中治療医学会学術集会, 幕張, 2018.2.28
67. 倉本恵里子: 「MRSA 菌血症」へのアプローチ. 第 22 回北六甲抗菌化学療法実践セミナー, 神戸, 2018.3.3
68. 池末裕明: 薬剤師を対象とした吸入研修会の実績と今後の展開. 兵庫県喘息死ゼロ作戦学術講演会, 神戸, 2018.3.10
69. 山崎悠汰, 入江 慶, 南条成輝, 秦 明登, 岡田 裕, 片上信之, 福島昭二: LC-MS/MS を用いたオシメルチニブの脳脊髄中濃度の測定法の構築. 臨床腫瘍薬学会 2018, 横浜, 2018.3.17
70. 平嶋正樹: 治験、臨床試験における薬剤師のかかわり. 日本臨床腫瘍薬学会・学術大会 2018, 横浜, 2018.3.17
71. 入江 慶, 秦 明登, 古閑千幸, 加地玲子, 岡田 裕, 福島昭二, 片上信之: EGFR-TKI の dose intensity が T790M 発現に与える影響についての後ろ向き調査. 臨床腫瘍薬学会 2018, 横浜, 2018.3.17
72. 片岡美咲, 高瀬友貴, 池末裕明, 奥貞 智, 橋田 亨: 院外処方箋における疑義照会対応プロトコルの院内導入による効果. 第 7 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2018.3.21
73. 玉置春菜, 高瀬友貴, 池末裕明, 橋田 亨: ダビガトラン服用患者における減量因子数と出血性合併症に関する評価. 第 7 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2018.3.21
74. 富田秀明, 鳥井栄貴, 藤本一秀, 田中茉歩子, 小原智子, 安藤基純, 池末裕明, 奥貞 智, 久米典昭, 橋田 亨: 入院患者における薬剤投与と転倒リスクの関連. 第 7 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2018.3.21
75. 中田 賢, 土肥麻貴子, 安藤基純, 池末裕明, 橋田 亨: 持続腎代替療法患者における経口抗血小板薬および抗凝固薬の回路内凝固に対する評価. 第 7 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2018.3.21
76. 濱田祥之, 薩摩由香里, 楠田かおり, 池末裕明, 森 令法, 古郷摩利子, 富井啓介, 橋田 亨: 間質性肺炎治療薬に関する薬剤師外来の立ち上げと有用性の評価. 第 7 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2018.3.21
77. 藤田拓俊, 倉本恵里子, 平山晴奈, 平嶋正樹, 安藤基純, 奈須聖子, 竹川啓史, 土井朝子, 橋田 亨: Antimicrobial Stewardship Team ラウンドの有用性. 第 7 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2018.3.21
78. 溝口菜摘, 田村 亮, 山下花南恵, 池村 舞, 池末裕明, 橋田 亨: 集中治療室におけるデクスメトミジンの投与量がせん妄発生に及ぼす影響. 第 7 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2018.3.21
79. 池末裕明: 高度急性期病院における薬剤師レジデント制度. 第 7 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2018.3.21
80. 池末裕明: 抗がん薬レジメン管理の先に見える安全性と確実性の向上. 第 10 回奈良県がん医療研究会まほろば塾, 奈良, 2018.3.31

VII. 1. 33 臨床検査技術部

1. 山本 剛: AMR 対策の中でグラム染色を効果的に使う. 第 29 回日本臨床微生物学会総会学術集会, 岐阜, 2018.2.10.
2. 山本 剛: 論文の書き方セミナー・査読者はここを見えています. 第 29 回日本臨床微生物学会総会学術集会, 岐阜, 2018.2.11.

VII. 1. 34 放射線技術部

1. 小川敦久, 清水啓二, 日野 恵, 北口耕輔: SPECT/CT の定量解析における投与量の推定. 第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2017.4.14
2. 名定良祐, 中村翔太, 大黒美鈴, 加地修一郎: Experience of Cardiovascular Magnetic Resonance T1mapping Using a 3.0 T Scanner in Cardiomyopathy Patients. 第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2017.4.14
3. 名定良祐, 中村翔太, 大黒美鈴, 加地修一郎: 3.0T MRI 装置を用いた心筋 T1mapping に関する T1 値補正に関する検討. 第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2017.4.15
4. 三船祐輔: フル再構成及びハーフ再構成において逐次近似再構成法と逐次近似応用再構成法が画像特性に及ぼす影響について. 第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2017.4.15

5. Iizuka Y, Matsuo Y, Takayama K, Ueki N, Mitsuyoshi T, Ueki K, Tanabe H, Nakamura M, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Clinical result of dynamic tumor-tracking stereotactic body radiotherapy with real-time monitoring for liver tumors using a gimbal mounted linac. 第5回日本-台湾放射線腫瘍学シンポジウム, 神戸, 2017.5.20
6. Mitsuyoshi T, Matsuo Y, Takayama K, Ueki N, Iizuka Y, Shintani T, Imagunbai T, Tanabe H, Nakamura M, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M : Clinical outcome of dynamic tumor-tracking stereotactic body radiotherapy for early stage lung cancer and oligometastatic lung tumors using a gimbal-mounted linear accelerator. 第5回日本-台湾放射線腫瘍学シンポジウム, 神戸, 2017.5.20
7. 山下幹子: 独立計算検証ソフトの受け入れから実用まで. 兵庫放射線治療研究会, 大阪, 2017.6.23
8. 飯塚裕介, 松尾幸憲, 高山賢二, 植木奈美, 光吉隆真, 植木一仁, 田邊裕朗, 中村光宏, 小久保雅樹, 溝脇尚志, 平岡眞寛: 肝腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動体追尾定位放射線治療の臨床成績 Clinical result of dynamic tumor-tracking stereotactic body radiotherapy with real-time monitoring for liver tumors using a gimbal mounted linac. 第53回日本肝癌研究会, 東京, 2017.7.6-7
9. 宇草賢二: 紹介します! A-6 新IVR-CT装置. IVRセンターオープンカンファレンス第2回IVRセミナー, 神戸, 2017.7.28
10. 名定良祐, 中村翔太, 浜田 誠, 加地修一郎: 3.0TMRI 装置を用いた心筋 T1mapping に関する T1 値補正に関する検討. 第45回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017.9.15
11. 馬場健司, 清水敬二, 福井敏明, 奥内 昇: 線条体 SPECT 解析における自動位置合わせ機能の有用性の検討. 第33回日本診療放射線技師会学術大会, 函館, 2017.9.22-24
12. 富張 晋, 浜田 誠, 福井敏明, 奥内 昇: Intelligent grid における最適なグリッド比と撮影条件の基礎的検討. 第33回日本診療放射線技師会学術大会, 函館, 2017.9.22-24
13. 竹本幸志, 森 克人, 橋本強志, 山之内真也, 三浦雅夫, 奥内 昇: 新人教育プログラムの改訂-多数の新人受け入れを経験して-. 第33回日本診療放射線技師会学術大会, 函館, 2017.9.23
14. 吉田一貴, 岡田雄基, 中井高宏, 山下幹子, 岡村佳明, 木元 唯, 奥内 昇, 小久保雅樹: 放射線治療におけるリスク分析とインシデント対策. 第45回放射線技術学会秋季学術大会, 広島, 2017.10.19
15. 山下幹子, 石井政男, 岡村佳明, 岡田雄基, 吉田一貴, 木元 唯, 村上智裕, 奥内 昇, 小久保雅樹: Isocenter QA に関する総合的評価方法の検討. 日本放射線腫瘍学会第30回学術大会, 大阪, 2017.11.17-19
16. 石井政男, 山下幹子, 小久保雅樹: 3D モデリングソフトを用いた3次元データ可視化の試み. 日本放射線腫瘍学会第30回学術大会, 大阪, 2017.11.17-19
17. 内田幸宏, 宮川竜太, 山下幹子, 佐藤 礼, 木藤哲史, 丸山大樹, 野田茂利, 小島 徹, 白田亮介, 岡本裕之, 林 直樹, 橋 英伸: 非汎用型治療装置の独立計算検証の多施設試験. 日本放射線腫瘍学会第30回学術大会, 大阪, 2017.11.17-19
18. 宇草賢二, 増田祥子, 伊田雄貴, 今村博敏, 坂井信幸: CBCT 撮影時の外部 WS 使用における再構成画像の有用性について. 第33回日本脳神経血管内治療学会総会, 東京, 2017.11.23-25
19. 富張 晋: 散乱 X 線補正技術における撮影条件の検討. 第7回救急撮影オープンカンファレンス, 神戸, 2017.11.24
20. 名定良祐, 中村翔太, 二田水絵梨, 高須賀健, 竹本幸志: 3.0T MRI 装置を用いた心筋症患者における心筋 T1mapping の使用経験. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2017.11.25
21. 高須賀健, 二田水絵梨, 中村翔太, 名定良祐, 竹本幸志: 当院における顎関節 MRI の撮影パラメータの検討. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2017.11.25
22. 名和志洋, 宇草賢二, 宇都宮隆, 浅田泰弘, 浜田 誠, 福井敏明: Cone beam CT と 320 列 ADCT における吸収線量の比較検討. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2017.11.25
23. 上向井敏希, 三船祐輔, 茨木丈晴: CT の 4D データ解析ソフト PhyZiodynamics を用いたノイズ低減に関する検討. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2017.11.25
24. 稲垣 諒, 伊田雄貴, 山本滝人, 耕田隆志, 石井政男, 東 雅章: CT Colonography における CT-AEC の設定 SD 値の検討. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2017.11.25
25. 谷内翔: Excel Macro を用いた MTF 解析. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2017.11.25
26. 石井政男: 3D モデリングソフトを用いた3次元データ可視化の試み. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2017.11.25

27. 村上智裕, 岡村佳明, 木元 唯, 末岡正輝, 吉田一貴, 田邊裕朗, 山下幹子, 岡田雄基, 合田靖司: ExacTrac システムの初期使用経験について. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2017.11.25
28. 森永由起子, 國正大吾, 福井達也, 福井敏明, 奥内 昇: 当院での新人教育に対する新たな試み. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2017.11.25
29. 浦田萌江, 吉田拓也, 森方大智, 井上修一, 三浦雅夫: 頭部 CT 検査における介助者の被ばく線量評価. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2017.11.25
30. 富張 晋, 布垣和也, 浜田 誠, 煎本正博, 福井敏明, 奥内 昇: 全身外傷 CT 診断 FACT における技師読影補助の有用性. 第 61 回日本放射線技術学会近畿支部学術大会, 和歌山, 2018.1.20-21
31. 岡村佳明, 岡田雄基, 山下幹子, 末岡正輝, 田邊裕朗, 村上智裕, 木元 唯, 吉田一貴, 合田靖司: 当院における IGRT の 6 軸補正精度の基礎的検討. 第 31 回高精度放射線外部照射部会学術大会, 大阪, 2018.2.10
32. 中井高宏, 澤田 晃, 田邊裕朗, 末岡正輝, 谷内 翔, 椎木健裕, 石原佳知, 高山賢二, 小久保雅樹: Vero4DRT を用いた動体追尾照射における kV-X 線画像の最適撮影条件に関する検討. 第 1 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2018.2.24
33. 三船祐輔: フルスキャン及びハーフスキャンにおいて逐次近似再構成法と逐次近似応用再構成法が画像特性に及ぼす影響について. 第 1 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2018.2.24
34. 名定良祐, 中村翔太, 大黒美鈴, 加地修一郎, 竹本幸志, 奥内 昇: 3.0T MRI 装置を用いた心筋症患者における心筋 T1mapping の使用経験. 第 1 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2018.2.24
35. 吉田一貴, 岡田雄基, 中井高宏, 山下幹子, 岡村佳明, 木元 唯, 奥内 昇, 小久保雅樹: 放射線治療におけるリスク分析とインシデント対策 Risk Analysis and Incident Response in Radiation Therapy. 第 1 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2018.2.24

Ⅶ. 1. 35 リハビリテーション技術部

1. 若田恭介, 亀井こずえ, 竹中麻里子, 東別府直紀, 西岡弘晶: 間質性肺炎患者におけるステロイド使用の有無と身体組成、筋力、呼吸機能の関連. 第 33 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2017.5.12-14
2. 大塚脩斗, 坂本裕規, 佐々木康介, 下雅意崇亨, 山根崇史, 古川 裕, 小山忠明, 岩田健太郎: 心臓弁膜症に対する待機的手術患者における術前サルコペニア有症率. 第 52 回日本理学療法学術大会, 千葉, 2017.5.12-14
3. 大塚遼平, 佐々木亮樹, 立木翔太, 齋藤 慧, 犬飼康人, 大西秀明: 反復的他動運動後の皮質脊髄路興奮性の変化—関節運動範囲の影響—. 第 52 回日本理学療法学術大会, 千葉, 2017.5.12-14
4. 中田歩美香: 重症敗血症患者における ICU 関連筋力低下発症に対する早期集中リハビリテーションと通常治療との差異. 第 52 回日本理学療法学術大会, 千葉, 2017.5.12-14
5. 浅井康紀: 当院での情報共有の取り組みについて. 神戸広域脳卒中地域連携協議会, 兵庫, 2017.6.4
6. 浅井康紀: 急性期病院 ICU における作業療法士の役割. 全国労災病院リハビリテーション技師会・全国研修会, 川崎, 2017.6.10
7. 岩田健太郎: 急性期病院におけるリハビリテーションの役割と効果～神戸市立医療センター中央市民病院の取り組み～. 第 46 回全国労災病院リハビリテーション技師会 全国研修会, 2017.6.10
8. 原田惇平, 岩田健太郎, 下雅意崇亨, 佐々木康介, 南本陽菜, 村井亮介, 山根崇史, 古川 裕: 心不全患者における骨格筋量と握力低下の頻度—左室駆出率の低下の有無による比較—. 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16
9. 下雅意崇亨: 難渋症例に対する理学療法介入とチームアプローチ. 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16
10. 大竹康平, 下雅意崇亨, 南本陽菜, 吉田晃久, 岩田健太郎, 仲村直子, 藤本和美, 高橋真弓子, 山根崇史, 古川 裕: フェロー四徴症のために生じた長年の活動制限に伴う身体機能の低下が外来心リハを契機に改善を認めた 1 症例. 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16
11. 吉田晃久, 岩田健太郎, 下雅意崇亨, 南本陽菜, 大竹康平, 仲村直子, 藤本和美, 高橋真弓子, 山根崇史, 古川 裕: 冠動脈バイパス / 左室形成術後患者の抑うつ症状に対し多職種による包括的ケアを行い職業復帰に至った症例. 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16
12. 南本陽菜, 下雅意崇亨, 大竹康平, 吉田晃久, 岩田健太郎, 仲村直子, 藤本和美, 高橋真弓子, 山根崇史, 古川 裕: 長期外来心リハにより活動量の改善に繋がった超高齢 TAVI 施行患者の 1 例. 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15-16

13. 岩田健太郎：レジデント制度の構築－卒後教育の充実に向けて－. 第30回教育研修会シンポジウム, 2017.9.1
14. 岩田健太郎:理学療法の「分科」と「包括」について考える－臨床と教育の立場から－. 第31回中国ブロック理学療法士学会, 2017.9.2
15. 小松 寛, 松尾貴央, 東別府直紀：急性期病院における舌圧を用いた嚥下機能評価の検討, 第1報, 嚥下機能の変化値と舌圧の関連から. 第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 千葉, 2017.9.16-17
16. 小松 寛, 松尾貴央, 東別府直紀：急性期病院における舌圧を用いた嚥下機能評価の検討, 第2報, 嚥下機能の変化値と舌圧の関連から. 第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 千葉, 2017.9.16-17
17. 桐畑智大：認知症を持つ運動麻痺患者の食事動作改善に向けて～環境設定に着目して～. 第51回日本作業療法学会, 東京, 2017.9.22-24
18. Asai K, Seo R, Oba J: Roles of occupational therapists at ICU – Study through 2 cases –. The 1st Asia-Pacific Occupational Therapy Symposium, Chang Gung University, Taiwan, 2017.10.19-22
19. 若田恭介, 高橋祐介, 永田一真, 富井啓介：間質性肺炎患者における骨格筋量減少の有無と健康関連 QOL の関連. 第27回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 仙台, 2017.11.17-18
20. 下雅意崇亨：当院 ICU におけるリハビリテーションの現状とチームアプローチ. 日本集中治療医学会第2回中国・四国支部学術集会, 岡山, 2018.1.27
21. 滝本龍矢：大腿骨頸上骨折と胸椎病的骨折に伴う対麻痺を呈し、車椅子移乗動作獲得を目指した症例. H29年度兵庫県理学療法士会・神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2018.2.4
22. 横山公子：高エネルギー外傷による多発骨折に対する疼痛管理に難渋したびまん性軸索損傷の1症例. H29年度兵庫県理学療法士会・神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2018.2.4
23. 梶月幹太：重度頸髄損傷後 起立性低血圧を呈した症例に対し装具歩行練習で機能回復を認めた経験. H29年度兵庫県理学療法士会・神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2018.2.4
24. 後藤田瑞樹：脊髄空洞症に SS shunt 術施行後、症状が増悪した1症例～介助量軽減に着目して～. H29年度兵庫県理学療法士会・神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2018.2.4
25. 荒川皓輔：運動負荷に着目した、フィッシャー症候群とギランバレー症候群重複型の1症例. H29年度兵庫県理学療法士会・神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2018.2.4
26. 帆苅美咲：ICU diary を用いて不安、抑うつ軽減がみられた1症例. H29年度兵庫県理学療法士会・神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2018.2.4
27. 大塚遼平：橋腹側部 BAD 型脳梗塞を発症した症例～装具歩行を実施し歩行の改善に至った症例～. H29年度兵庫県理学療法士会・神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2018.2.4
28. 岡田一貴：活動性低下がみられた両側小脳梗塞患者の起居・トイレ動作向上を目指した1例. H29年度兵庫県理学療法士会・神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2018.2.4
29. 石川夏帆：入院後より症状悪化し、ADL が低下した症例について. H29年度兵庫県理学療法士会・神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2018.2.4
30. 赤松泉実：アレキサンダー病患者に対し趣味の書道に着目し介入した症例. H29年度兵庫県理学療法士会・神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2018.2.4
31. 桑田佳世子：寝返り動作の獲得により自発性の向上に繋がった症例. H29年度兵庫県理学療法士会・神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2018.2.4
32. 岩田健太郎：集中治療における早期リハビリテーションの普及・標準化にむけて－現状と今後の課題－. 第45回日本集中治療医学会学術集会, 2018.2.21
33. 若田恭介, 高橋祐介, 河内勇人, 永田一真, 富井啓介：HFNC 併用し積極的にリハビリを進行できた間質性肺炎急性増悪の1例. 第3回近畿呼吸ケア・リハビリテーション学会, 大阪, 2018.2.22-23
34. 高橋祐介, 西原浩真, 永田一真, 富井啓介：救急病棟専従理学療法士配置による誤嚥性肺炎患者への介入効果. 第3回近畿呼吸ケア・リハビリテーション学会, 大阪, 2018.2.22-23

VII. 1. 36 臨床工学技術部

1. 吉田一貴：当院における体外循環の抗凝固管理とその問題点. 近畿心血管治療ジョイントライブ, 京都, 2017.4.22

2. 花岡正志, 吉田哲也, 山田恭二, 新田 輝, 池田有加, 佐藤 純, 井上和久, 田中雄己, 吉田一貴, 坂地一朗: 医工連携による EAP センサを用いた実現可能性研究の取り組み. 第 27 回日本臨床工学会, 青森, 2017.5.21
3. 畑 秀治, 吉田一貴, 大畑達哉, 中根 亮, 中村将大, 濱本優樹, 坂地一朗: 当院における当直業務に対する手術部門の現状と課題. 第 9 回広島県臨床工学技士会学術大会・総会, 広島, 2017.5.28
4. 吉田哲也: 臨床工学技士による開発事例抗がん剤暴露対策輸液セット「アンテリーク」の開発. 第 13 回兵庫県臨床工学技士会, 西宮, 2017.6.11
5. 山城悠葵, 小堀敦志, 佐々木康博, 田中雄己, 杉澤朋弥, 中農陽介, 中村悟士, 相原雅士, 森本純平, 坂地一朗, 古川 裕: バルーンアブレーション後の肺静脈形態変化の検討: Hotballoon VS Cryoballoon. カテーテルアブレーション関連大会 2017, 札幌, 2017.7.7
6. 花岡正志, 吉田哲也, 新田 輝, 池田有加, 佐藤 純, 坂地一朗, 伊藤聡子, 門 浄彦, 樋口弘実, 永田一真, 富井啓介: Respiratory Therapy DATABASE の導入と活用. 第 39 回日本呼吸療法医学会学術集会, 東京, 2017.7.15
7. 中村悟士, 小堀敦志, 佐々木康博, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 相原雅士, 森本純平, 坂地一朗, 古川 裕: ホットバルーンアブレーションにおける電気ノイズ対策. 第 64 回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2017.9.16
8. 花岡正志, 吉田哲也, 山田恭二, 新田 輝, 渡部準也, 岸原瑠花, 坂地一朗, 岩田健太, 石井雅世, 稲岡佳子, 永田一真, 富井啓介: チーム医療推進による臨床工学技士の吸引研修について. 第 24 回日近畿臨床工学会, 和歌山, 2017.11.19
9. 花岡正志, 吉田哲也, 山田恭二, 渡部準也, 岸原瑠花, 坂地一朗, 岩田健太, 石井雅世, 稲岡佳子, 永田一真, 富井啓介: チーム医療推進プログラムによるコメディカルの吸引研修について. 第 12 回医療の質・安全学会学術集会, 千葉, 2017.11.25
10. 山田恭二, 吉田哲也, 新田 輝, 花岡正志, 渡部準也, 岸原瑠花, 坂地一朗, 金 基泰: 当院における遠隔モニタリングシステムを用いた心房性不整脈の管理と現状. 植込みデバイス関連冬季大会, 横浜, 2018.2.12
11. 中村悟士, 田中雄己, 中農陽介, 山城悠葵, 杉澤朋弥, 坂地一朗, 高岡循子, 小原幹也, 小堀敦志, 佐々木康, 古川 裕: 心房細動アブレーション時の呼気二酸化炭素分圧モニタリングの検討. 第 82 回日本循環器学会各術集会, 大阪, 2018.3.23
12. 杉澤朋弥, 山城悠葵, 田中雄己, 中農陽介, 中村悟士, 高岡循子, 小原幹也: クライオバルーンと高周波アブレーションによる左房ルーフライン性状の比較. 第 82 回日本循環器学会各術集会, 大阪, 2018.3.23

VII. 1. 37 栄養管理部

1. 高津絵梨香: 各施設の糖尿病教室の新たな取り組み・特別編はじめました. TSUNAGU for Diabetes, 神戸, 2017.7.8
2. Iwakura T, Takenaka M, Iwamoto M, Hamamoto Y: Soft Lean Mass Reduction and Influence of Carbohydrate Intake to the Effect of Tofogliflozin in Japanese Patients with Type 2 Diabetes. 53rd EASD Annual Meeting, Lisbon, Portugal, 2017.9.13
3. 出口千尋: 腎臓病の食事ー腎不全から透析まで. 第 39 回神戸腎疾患カンファレンス, 神戸, 2017.10.22
4. 茨木まどか, 熊田有紀子, 斉藤二葉, 竹中麻理子, 岩本昌子, 杉岡ふみ子, 近藤正人: 胃癌術後、経口栄養補助療法を併用した食事摂取の推移と PGSAS アプリを用いた QOL 評価の検討. 第 47 回胃外科・術後障害研究会, 横浜, 2017.11.4
5. 斉藤二葉, 岩本昌子, 竹中麻理子, 岩倉敏夫: 適切な食事療法とインスリン導入により筋肉量減少を抑制した 2 型糖尿病の 1 例. 第 54 回日本糖尿病学会近畿地方会, 大阪, 2017.11.11
6. 高津絵梨香, 藤原 悟, 竹中麻理子, 岩本昌子, 杉岡ふみ子, 西岡弘晶: 脊髄性筋萎縮症 2 型患者に実測安静時エネルギー消費量を用いて栄養介入した 1 例. 第 21 回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2018.1.14
7. 内田絢子, 小楨公大, 小川真人, 坪井康則, 脇田久美子, 山本育子, 高橋路子, 小川渉, 小林成美, 宇佐美真: 大動脈弁狭窄症患者における術式別栄養評価ー TAVI と AVR ー. 第 37 回兵庫臨床栄養研究会, 神戸, 2018.1.27
8. 岩本昌子, 下藪崇宏, 植田浩司, 川上大祐, 東別府直紀: 心臓手術後の体重増加は術後の食事摂取量を予測する. 第 45 回日本集中治療医学会学術集会, 千葉, 2018.2.21

9. 磯村 望, 茨木まどか, 岩本昌子, 竹中麻理子, 杉岡ふみ子, 東別府直紀, 西岡弘晶: 空腸瘻から半固形化栄養剤を間接的に投与できた1例. 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2018.2.22

Ⅶ. 2 西市民病院

Ⅶ. 2.1 糖尿病・内分泌内科

1. 中村武寛:地域連携推進こそが糖尿病診療の問題を解決する～Kobe DM netから見えてきたメディカルスタッフの重要性～. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017.5.19
2. 中村武寛:患者・診療所・病院のHappy三重奏を目指して. 第2回DM Network Seminar 病院看護師・診療所看護師交流会, 神戸, 2017.6.8
3. 中村武寛:糖尿病治療薬を処方する前に～みんなで考えればきっとうまくいく～. Seminar for Empowerment Team in Kobe, 神戸, 2017.7.4
4. 中村武寛:糖尿病の医療連携. 第19回日本医療マネジメント学会学術総会, 仙台, 2017.7.7
5. 中村武寛:Kobe DM netの現状報告 運営協議会事務局より. 第3回神戸市の糖尿病地域連携を考える会, 神戸, 2017.7.13
6. 北村 薫:実臨床から分かるSGLT2阻害剤の有用性とは? Diabetologist Meeting in Kobe, 神戸, 2017.7.14
7. 中村武寛:糖尿病治療薬のもつ力を最大限に引き出すには?～メディカルスタッフの重要性～. 糖尿病Round Table Meeting, 東京, 2017.7.22
8. 中村武寛:糖尿病治療薬の効果を最大限に引き出す方法～地域全体をチームに～. 兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会 連携1周年記念大会, 神戸, 2017.8.27
9. 中村武寛:神戸糖尿病「力」アップに向けた取り組み～多職種交流が「特効薬」となるか～. 第123回糖尿病教育学習研究会 第162回IIDS糖尿病研究会 第97回糖尿病療養指導士兵庫県連合会研究会, 神戸, 2017.10.21
10. 中村武寛:「糖尿病って、どんな病気?」～元気で機嫌よく長生きする方法～. 神戸市国保血糖値改善支援事業 糖尿病重症化予防セミナー, 神戸, 2017.10.25
11. 中村武寛:「糖尿病って、どんな病気?」～元気で機嫌よく長生きする方法～. 神戸市国保血糖値改善支援事業 糖尿病予防コース, 神戸, 2017.10.31
12. 中村武寛:より多くの幸せを守る多職種連携とは?～糖尿病を少し視野を広げて捉える～. Kobe DM Circle, 神戸, 2017.11.2
13. 中村武寛:神戸糖尿病地域連携の現状報告. 第54回日本糖尿病学会近畿地方会, 大阪, 2017.11.11
14. 中村武寛:地域で糖尿病を診るとは?～長田・兵庫・須磨区での連携. Kobe City Hospital Organization Meeting, 神戸, 2017.11.14
15. 中村武寛:糖尿病臨床検査で前向きになる方法～ただ検査するだけになっていませんか?～. 第3回明日から役立つ糖尿病勉強会, 神戸, 2017.11.15
16. 中村武寛:どうして継続して通院しないといけないんですか?～糖尿病とともに元気で機嫌よく長生きするには～. 神戸市国保・兵庫県協会けんぽ未受診者向け合同糖尿病セミナー, 神戸, 2017.11.19
17. 中村武寛:糖尿病とともに、元気で機嫌よく暮らすには?～「地域」の重要性～. 平成29年度長田区保健医療介護フォーラム, 神戸, 2017.12.7
18. 中村武寛:より多くの幸せを守る多職種連携とは～何かできることはないか、考える～. 第1回須磨区薬剤師 薬薬連携の会, 神戸, 2018.2.24
19. 中村武寛:神戸糖尿病「力」アップに向けた取り組み～より多くの幸せを守る多職種連携とは～. 女性が活躍する明日の糖尿病診療シンポジウム, 米子, 2018.3.7
20. 中村武寛:より多くの幸せを守る方法とは～Kobe DM net～. 第7回西神戸CKD-DM病診連携セミナー, 神戸, 2018.3.15
21. 中村武寛:薬剤師さん!一歩前へ!!～どうすれば潜在能力を発揮できるか～. 長田・兵庫・須磨区 糖尿病エンパワーメントセミナー, 神戸, 2018.3.22

Ⅶ. 2.2 脳神経内科

1. Sugo N, Matsui Y, Shiro Y: A family system of CADASIL having a family history of generalized pustular psoriasis. XX III World Congress of Neurology, Kyoto, 2017.9.16-21
2. 金谷真吾, 菅生教文, 城洋志彦:メトロニダゾール誘発性脳症を来した肝膿瘍の1例. 第219回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2018.3.3

VII. 2.3 消化器内科

1. 植村久尋, 平川旭人, 横出正隆, 星 充, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政: 大腸 MLP 型濾胞性リンパ腫の 1 例. 第 98 回日本消化器内視鏡病学会近畿地方会, 神戸, 2017.6.17
2. 横出正隆, 池田英司, 平佐貴弘, 平川旭人, 植村久尋, 星 充, 丸尾正幸, 板井良輔, 安村聡樹, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政, 岩村宣亜, 小林裕之, 貝原 聡, 今井幸弘: 上行結腸に壁外浸潤を来し内視鏡所見単独では診断に難渋した原発性虫垂癌の 1 例. 98 回日本消化器内視鏡病学会近畿地方会, 神戸, 2017.6.17
3. 星 充, 平川旭人, 横出正隆, 植村久尋, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政: 右側横行結腸に限局性狭窄を認めた潰瘍性大腸炎の 1 例. 第 98 回日本消化器内視鏡病学会近畿地方会, 神戸, 2017.6.17
4. 平川旭人, 平佐貴弘, 横出正隆, 植村久尋, 星 充, 丸尾正幸, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政: 肝機能障害から診断に至った肝サルコイドーシスの 1 例. 第 107 回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2017.9.27
5. 横出正隆, 板井良輔, 平佐貴弘, 平川旭人, 植村久尋, 星 充, 丸尾正幸, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政: 全陽: S-1 単剤療法で 12 ヶ月に渡り PR を維持し得た膵尾部 mixed acinar-endocrine carcinoma の 1 例. 第 107 回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2017.9.27
6. 平佐貴弘, 三上 栄, 平川旭人, 横出正隆, 植村久尋, 星 充, 丸尾正幸, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 住友靖彦, 山下幸政: 輪状潰瘍を伴う狭窄を認めた小腸濾胞性リンパ腫の 1 例. 第 99 回日本消化器内視鏡病学会近畿地方会, 京都, 2017.11.18
7. 三上 栄, 板井良輔, 安村聡樹, 山下幸政: 当院における小腸疾患診断の現状について. 第 108 回日本消化器病学会近畿支部例会, 京都, 2018.3.7
8. 平佐貴弘, 三上 栄, 平川旭人, 植村久尋, 星 充, 横出正隆, 丸尾正幸, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 住友靖彦, 山下幸政: 初診時の腹腔穿刺で診断し、種々の治療を要した膵性腹水の 1 例. 第 108 回日本消化器病学会近畿支部例会, 京都, 2018.3.7

VII. 2.4 呼吸器内科

1. 富岡洋海, 山添正敏, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博: 当院における IPF ニンテダニブ治療症例の検討: 健康関連 QOL も含めて. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.21
2. 鎌田貴裕, 金子正博, 山添正敏, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 富岡洋海: 喘息と COPD における呼気-吸気での呼吸リアクタンスの差の縦断的検討. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.21
3. 金子正博, 鎌田貴裕, 山添正敏, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 富岡洋海: 医療・介護関連肺炎における摂食嚥下機能. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.21
4. 山添正敏, 富岡洋海, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博: 当院における老人施設肺炎入院症例過去 11 年間の検討. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.23
5. 森田充紀, 山添正敏, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 吉積悠子, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 富岡洋海: 防水スプレーによる肺障害についての臨床的検討. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017.4.23
6. 富岡洋海: 間質性肺炎の多様性と診断. 若手医師のための臨床に役立つ呼吸器セミナー, 大阪, 2017.5.13
7. Takata H, Tomioka H, Nishio C: Diagnostic ability of specialists on the areas other than respiratory medicine in relation to pulmonary tuberculosis in the emergency department. American Thoracic Society International Conference, ワシントン D.C., 2017.5.19
8. Inoue Y, Akira M, Kasai T, Johkoh T, Lee KS, Chung MP, Rasmussen DM, Arai T, Sugimoto C, Kawabata Y, Takemura T, Hirose M, Matsumuro A, Tomii K, Tomioka H, Yamada Y, Hamada N, Noyama M, Akagawa S, Sato T, Kubo T, Egashira R, Okuma O, Sumikawa H, Kitani M, Hatanaka K, Kido T, Kitamura H, Kitaichi M: Should "Fibrosing Variant of Organizing Pneumonia" stay as in unclassifiable idiopathic interstitial pneumonias? (Workshop Summary Of A Japanese Multicenter Study). American Thoracic Society International Conference, ワシントン D.C., 2017.5.19

9. Okuda R, Ishii Y, Kondoh Y, Tomioka H, Suda T, Watanabe K, Hamada N, Chiba H, Jokoh T, Iwasawa T, Kobayashi K, Nukiwa T, Ogura T: Design and rationale of the Japanese Idiopathic Interstitial Pneumonias Registry (JIPS Registry). American Thoracic Society International Conference, ワシントン D.C, 2017.5.19
10. 富岡洋海: 特発性肺線維症 (IPF) の治療意義と治療目標. IPF Academy in Hiroshima, 広島, 2017.5.25
11. 山下遥介, 金子正博, 富岡洋海, 和田学政, 山添正敏, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 住友靖彦, 勝山栄治: 肝機能障害を契機に診断に至ったサルコイドーシスの 1 例. 第 14 回近畿サルコイドーシス / 肉芽腫性疾患研究会, 大阪, 2017.5.27
12. 富岡洋海: 間質性肺炎の多様性と診断. 若手医師のための呼吸器勉強会, 姫路, 2017.6.8
13. 富岡洋海: サルコイドーシスと自己免疫疾患. 第 185 回東京サルコイドーシス / 肉芽腫性疾患研究会 特別講演, 東京, 2017.6.24
14. 富岡洋海: サルコイドーシスの診断と治療について. サルコイドーシス友の会講演会, 大阪, 2017.6.25
15. 富岡洋海: 変わる IPF 治療—抗線維化薬に期待するもの—. IPF Web Academy, 2017.6.29
16. 高田寛仁, 富岡洋海, 和田学政, 山添正敏, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 勝山栄治, 河端美則: 家族性間質性肺炎の 1 例. 第 95 回間質性肺疾患研究会, 東京, 2017.6.30
17. 石井佳子, 北村 薫, 小原靖子, 篠田 恵, 武部礼子, 中村武寛, 富岡洋海, 山添正敏: 当院で禁煙治療を行った糖尿病患者における BMI, HbA1C についての検討. 日本内科学会第 216 回近畿地方会, 大阪, 2017.7.1
18. 古田健二郎, 和田学政, 山添正敏, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 木田陽子, 金子正博, 富岡洋海: 両側胸水貯留を来たした Meigs 症候群の 1 例. 第 89 回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2017.7.8
19. 山下修司: 皮膚掻痒症のためニボルマブ中止となった 1 例. 第 2 回神戸がん免疫病院連携研究会, 神戸, 2017.7.20
20. 富岡洋海: びまん性肺疾患の診断・治療の進め方 (応用編) (1) 慢性発症のびまん性肺疾患. 第 2 回初歩から学ぶびまん性肺疾患セミナー, 福岡, 2017.7.22
21. 山添正敏, 富岡洋海: Nursing home-acquired pneumonia における血液培養検査の意義. 西日本呼吸器内科医療推進機構平成 29 年度夏季学術集会, 天津, 2017.7.29
22. 富岡洋海: 特発性非特異の間質性肺炎 4 例. 第 10 回大阪呼吸器疾患シンポジウム, 大阪, 2017.8.25
23. Tomioka H, Wada T, Yamazoe M, Takata H, Yoshizumi Y, Morita M, Yamashita S, Furuta K, Kida Y, Kaneko M, Katsuyama E, Kawabata Y: A middle-aged woman with a steroid-treated history for interstitial pneumonia who underwent lung biopsy after 6-year follow up. 第 148 回びまん性肺疾患研究会, 大阪, 2017.8.26
24. 富岡洋海: 変わる IPF 治療—抗線維化薬に期待するもの—. 南大阪間質性肺炎セミナー, 堺, 2017.9.7
25. 富岡洋海: 誤嚥性肺炎. 第 12 回在宅・施設入所者の呼吸器ケア勉強会, 神戸, 2017.9.14
26. 金谷真吾, 和田学政, 山添正敏, 安部武生, 古田健二郎, 富岡洋海: 関節リウマチとして治療中に急性経過の呼吸困難をきたした 1 例. 第 18 回膠原病肺疾患研究会, 大阪, 2017.9.16
27. 富岡洋海: IPF の治療戦略: 過去、現在、そして未来へ. IPF Expert Seminar, 大阪, 2017.10.6
28. 富岡洋海: IPF の治療戦略: 過去、現在、そして未来へ. IPF Academy, 東京, 2017.10.7
29. 木田陽子, 竹尾正彦, 勝山栄治, 片上信之, 高橋 豊, 今井幸弘, 吉積悠子, 山下修司, 金子正博, 富岡洋海: 手術症例における混合型肺神経内分泌癌 Combined NEC の臨床像の検討. 第 58 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 2017.10.14
30. 富岡洋海: サルコイドーシスと膠原病. 第 13 回サルコイドーシス, 膠原病: 患者・医療関係者交流会 特別公演, 京都, 2017.10.21
31. 富岡洋海, 佐藤公昭, 長井苑子: サルコイドーシス患者会「サルコイドーシス友の会」に参加して. 第 37 回日本サルコイドーシス / 肉芽腫性疾患学会総会, 名古屋, 2017.11.3
32. 吉積悠子, 富岡洋海, 和田学政, 山添正敏, 高田寛仁, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 勝山栄治, 河端美則: 気胸を契機に診断されたサルコイドーシスの 1 例. 第 37 回日本サルコイドーシス / 肉芽腫性疾患学会総会, 名古屋, 2017.11.4
33. 富岡洋海: IPF 診療の Topics. 実臨床下における IPF 診断・治療の課題. IPF Scientific Exchange Meeting in 東海, 名古屋, 2017.11.5
34. 富岡洋海: IPF の治療戦略: 過去、現在、そして未来へ. Respiratory Specialist Forum in Wakayama, 和歌山, 2017.11.22

35. 富岡洋海：慢性発症のびまん性肺疾患：診断・治療の進め方。SEASIDE INTERSTITIAL LUNG DISEASE SEMINER, 神戸, 2017.11.24
36. 金子正博：喘息診療・治療のコツー咳嗽の診療を中心に, 喘息治療のコツを考える会, 神戸, 2017.11.30
37. 金子正博：COPD 診療における吸入指導。肺の生活習慣病について考える会, 神戸, 2017.12.14
38. 西尾智尋, 高橋 陸, 王 康治, 小西弘起, 富岡洋海: アクチノマイコーシスの 1 例。第 90 回日本呼吸器学会, 第 120 回日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2017.12.16
39. 山添正敏, 富岡洋海, 和田学政, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 金子正博：骨破壊と膿瘍形成をきたした粟粒結核の 1 例。第 90 回日本呼吸器学会, 第 120 回日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2017.12.16
40. 山下修司, 和田学政, 山添正敏, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 古田健二郎, 木田陽子, 金子正博, 富岡洋海, 勝山栄治, 竹尾正彦：Pro-GRP 高値を呈した孤立性肺結節で外科切除により非定型カルチノイドと診断した 1 例。第 90 回日本呼吸器学会, 第 120 回日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2017.12.16
41. 森田充紀, 和田学政, 山添正敏, 高田寛仁, 吉積悠子, 山下修司, 古田健二郎, 金子正博, 富岡洋海：肺胞出血による呼吸不全を認め、感染性心内膜炎と診断した 1 例。第 90 回日本呼吸器学会, 第 120 回日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2017.12.16
42. 川崎 創, 森田充紀, 和田学政, 山添正敏, 高田寛仁, 吉積悠子, 山下修司, 古田健二郎, 金子正博, 富岡洋海：non-typable H.influenzae による侵襲性インフルエンザ菌肺炎の 1 例。第 90 回日本呼吸器学会, 第 120 回日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2017.12.16
43. 和田学政, 富岡洋海, 山添正敏, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 金子正博：当院で経験した Streptococcus anginosus group による膿胸症例の検討。第 90 回日本呼吸器学会, 第 120 回日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2017.12.16
44. 金谷真吾, 和田学政, 山添正敏, 安部武生, 古田健二郎, 富岡洋海：ブシラミンによる薬剤性肺炎の 1 例。第 90 回日本呼吸器学会, 第 120 回日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2017.12.16
45. 金子正博, 藤原麻耶, 有岡靖隆, 赤澤尚美, 和田学政, 山添正敏, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田光紀, 山下修司, 古田健二郎, 富岡洋海：医療・介護関連肺炎における摂食嚥下機能：予後・転帰との関連。第 21 回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2018.1.12
46. 富岡洋海：IPF 診療における諸問題を考えるー急性増悪ー。IPF EXPERT SUMMIT IN HYOGO, 神戸, 2018.1.26
47. 富岡洋海：びまん性肺疾患の診断・治療の進め方 応用編(2)。第 3 回初歩から学ぶびまん性肺疾患セミナー, 福岡, 2018.1.27
48. 金子正博, 藤原麻耶, 有岡靖隆, 赤澤尚美, 辻恵理佳, 太田好美, 福島浩一, 田村昌三, 廣石絢子, 岡本知子：医療・介護関連肺炎の予後に関わる因子の検討：A-DROP, qSOFA, 嚥下機能・摂食状況・栄養状態の関与。第 33 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2018.2.22
49. 山下修司, 富岡洋海, 豆鞆伸昭, 金子正博：誤嚥性肺炎に対する経皮内視鏡的胃瘻造設：10 年間にわたる単施設での検討。第 1 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2018.2.24
50. 富岡洋海：関節リウマチに伴う肺病変ー間質性肺炎を中心にー。第 7 回リウマチ治療懇話会, 明石, 2018.3.1
51. 和田学政, 富岡洋海, 山添正敏, 吉積悠子, 高田寛仁, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 金子正博, 安部武生, 勝山栄治, 河端美則, 中嶋 蘭：急性経過で発症した抗 ARS 抗体、抗 CCP 抗体陽性の間質性肺炎の 1 例。第 19 回膠原病肺疾患研究会, 大阪, 2018.3.17

VII. 2.5 リウマチ・膠原病内科

1. 安部武生, 角田慎一郎, 萩原敬史, 西岡亜紀, 東 幸太, 壺井和幸, 荻田千愛, 横山雄一, 古川哲也, 田村誠朗, 吉川卓宏, 森本麻衣, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統：抗 PL-7 抗体陽性 ARS 抗体症候群の後方視的検討。第 62 回日本リウマチ学会, 福岡, 2017.4.21

VII. 2.6 小児科

1. 田中由起子, 松本和徳, 光田好寛, 竹中尚美, 安島英裕, 江口純治：「神戸市 3 区における食物アレルギー児童に対する地域連携での取り組み」2016 年度。第 271 回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2017.5.20

2. 江口純治, 松本和徳, 光田好寛, 安島英裕, 田中由起子:急性腭炎の1例. 第110回神戸小児臨床研究会, 神戸, 2017.6.8
3. 松本和徳, 田中由起子, 渡木綾子, 赤沢尚美:当院におけるアレルギーチームの取り組みと現状. 第34回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会, 大津, 2017.7.22
4. 田中由起子, 松本和徳, 渡木綾子, 赤沢尚美, 鷺見真由子:天ぷら摂食により同時にアナフィラキシーを起こしたパンケーキ症候群の2例. 第34回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会, 大津, 2017.7.23
5. 今竹ひかる, 田中由起子, 松本和徳, 光田好寛, 安島英裕, 江口純治:思春期早発症の1例. 第111回神戸小児臨床研究会, 神戸, 2017.9.6
6. 松本和徳, 光田好寛, 安島英裕, 田中由起子, 江口純治:環境抗原によるアナフィラキシーが疑われた1例. 第111回神戸小児臨床研究会, 神戸, 2017.9.6
7. 松本和徳, 田中由起子, 安島英裕, 光田好寛, 竹中尚美, 江口純治:当院で行った食物負荷試験の検討:60分間隔負荷の有効性. 第54回日本小児アレルギー学会, 宇都宮, 2017.11.17
8. 田中由起子, 松本和徳, 光田好寛, 竹中尚美, 安島英裕, 江口純治, 鷺見真由子:天ぷら摂食により同時にアナフィラキシーを起こしたパンケーキ症候群の2例. 第54回日本小児アレルギー学会, 宇都宮, 2017.11.18
9. 堀内沙也香, 田中由起子, 松本和徳, 光田好寛, 安島英裕, 江口純治:血便を呈した新生児消化器アレルギーについて. 第112回神戸小児臨床研究会, 神戸, 2017.12.13
10. 松本和徳, 田中由起子, 安島英裕, 竹中尚美, 光田好寛, 江口純治:ダニ誘発アナフィラキシーが疑われ、小学校でのダニ抗原検査を行った経験. 第273回日本小児科学会兵庫県地方会, 西宮, 2018.2.3
11. 田中由起子, 松本和徳, 光田好寛, 竹中尚美, 安島英裕, 江口純治, 小倉香奈子:神戸市3区の「食物アレルギー児に対する地域連携」2017年度. 第31回近畿小児科学会, 大阪, 2018.3.11
12. 松本和徳, 田中由起子, 光田好寛, 竹中尚美, 安島英裕, 江口純治:ダニのプリックテストでアナフィラキシーを認めた1例. 第31回近畿小児科学会, 大阪, 2018.3.11

Ⅶ. 2.7 皮膚科

1. 水内綾香, 木村恭子, 小倉香奈子:DPP-4阻害薬の関与が疑われた水疱性類天疱瘡の2例. 日本皮膚科学会第463回大阪地方会, 大阪, 2017.9.30
2. 木村恭子, 有吉綾香, 小倉香奈子:乳児疥癬の1例. 日本皮膚科学会第464回大阪地方会, 2017.12.2

Ⅶ. 2.8 外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科

1. 田中英治, 堀田健太, 山田真規, 村田飛鳥, 池田篤志, 村上哲平, 原田武尚:下部食道癌接合部がんに対する腹臥位胸腔鏡下食道胃管吻合～オーバーラップ法による胸腔内吻合～. 第117回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017.4.28
2. 堀田健太, 松井優悟, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 田中英治, 新田隆士, 原田武尚:緊急結腸亜全摘で救命し得た中毒性巨大結腸症を併発した劇症型偽膜性腸炎の1例. 第182回兵庫県外科医会学術集会, 神戸, 2017.5.13
3. 竹尾正彦, 平山 伸, 山本満雄:術中に使用したポリグリコール酸シートによりリンパ節転移と誤認された1例. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 福岡, 2017.5.19
4. 田中英治, 堀田健太, 山田真規, 村田飛鳥, 池田篤志, 村上哲平, 原田武尚:左反回神経周囲リンパ節郭清における郭清範囲の同定と設定反回神経吊り上げ法. 第71回日本食道学会学術集会, 軽井沢, 2017.6
5. 三瀬昌宏, 堀田健太, 原田武尚, 小縣正明, 池田哲也, 長嶋千尋, 弘田大智, 田村周二, 吉田澄子, 勝山栄治:集学的治療を行った局所進行腋窩副乳癌の1例. 第25回日本乳癌学会総会, 福岡, 2017.7.15
6. 田中英治, 堀田健太, 山田真規, 村田飛鳥, 池田篤志, 村上哲平, 原田武尚:左反回神経周囲リンパ節郭清における郭清範囲の同定と設定～臓器鞘の理解と反回神経吊り上げ法～. 第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017.7.22
7. 平山 伸, 田中英治:胸腔鏡下手術によって治療できた特発性食道破裂の1例. 第70回日本胸部外科学会定期学術集会, 札幌, 2017.9.29
8. 山田真規, 新田隆士, 松井優悟, 堀田健太, 三上隆一, 村上哲平, 田中英治, 原田武尚:腹腔鏡下脾合併脾体尾部切除術における脾動静脈一括脾切離. 第79回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017.11.23

9. 田中英治, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 新田隆士: 左反回神経周囲リンパ節郭清における郭清範囲の同定と設定～臓器鞘の理解と反回神経吊り上げ法～. 第 79 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017.11.24
10. 村上哲平, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 田中英治, 新田隆士, 原田武尚, 山本満雄: 腹直筋壊死・腹水貯留に至った大腿静脈穿刺中心静脈カテーテル迷入の 1 例. 第 79 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017.11.24
11. 三上隆一, 田中英治, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 村上哲平, 新田隆士, 竹尾正彦, 原田武尚, 小縣正明, 山本満雄: 高齢者胃癌患者に対する腹腔鏡下手術の有用性の検討. 第 79 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017.11.25
12. 竹尾正彦, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 村上哲平, 田中英治, 原田武尚, 山本満雄: 肺癌の術前 PET-CT 検査で偶然発見された消化器悪性腫瘍症例の検討. 第 79 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017.11.25
13. 村上哲平, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 田中英治, 新田隆士, 山本満雄: 術前に診断し得た超高齢者の Press-Through Package(PTP) による小腸穿孔に対して腹腔鏡下手術を施行した 1 例. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017.12.8
14. 山田真規, 新田隆士, 松井優悟, 堀田健太, 三上隆一, 村上哲平, 田中英治: 腹腔鏡下脾合併脾体尾部切除術ー簡便・安全を目指した脾動静脈一括脾体離ー. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017.12.8
15. 堀田健太, 松井優悟, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 田中英治, 新田隆士: 腸回転異常症合併胃癌に対する腹腔鏡下幽門側胃切除. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017.12.8
16. 田中英治, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 新田隆士: 下部食道癌 接合部がんに対する経裂孔的縦隔郭清と腹臥位胸腔鏡下食道胃管吻合. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017.12.9
17. Tanaka E: Our procedure of laparoscopic trans-hiatal lower mediastinal lymphadenectomy for cardiac cancer(Siewert type2). 第 90 回胃癌学会総会, 横浜, 2018.3.8

VII. 2.9 整形外科

1. 藤原弘之: 化膿性仙腸関節炎の 1 例. 第 40 回日本骨関節感染症学会, 東京, 2017.6.17
2. 藤原弘之, 西本 隆: 外傷性慢性疼痛に対して黄連解毒湯と抑肝散の合方が有用であった 1 症例. 日本東洋医学会関西支部平成 29 年度兵庫県部会, 神戸, 2017.10.1
3. 小林雅典: 大腿骨顆上骨折後に偽関節となった 1 例. 第 27 回兵庫県骨折治療研究会, 神戸, 2017.10.14
4. 斉藤聡彦, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 山根逸郎, 高岡祐輔, 笠井隆一: ステム周囲骨折に対して観血治療を行った 6 例の検討. 第 19 回日本骨粗鬆症学会, 大阪, 2017.10.20-22
5. 山根逸郎: 経皮的椎弓根スクリュー (PPS) システムの有用性と課題. 第 1 回鳥取脊椎研究会・手術手技研究会, 米子, 2017.10.28
6. 西口 滋: ひざ関節痛の話ー変形性ひざ関節症治療の最近の話題ー. 市民公開講座, 神戸, 2018.1.18

VII. 2.10 産婦人科

1. 市田耕太郎, 西本昌司, 森島秀司, 寺本憲司: 子宮腺筋症の術前診断で腹腔鏡下子宮全摘術を施行し、子宮体癌と判明した 1 例. 第 56 回日本産婦人科内視鏡学会, 岡山, 2017.9.7
2. 市田耕太郎, 新谷 潔, 森島秀司, 寺本憲司: 婦人科系のがん. 平成 29 年度市民公開講座, 神戸, 2018.2.15

VII. 2.11 泌尿器科

1. 大西篤史, 安野恭平, 江夏徳寿, 岡本雅之, 中村一郎: 当科における脂肪成分の乏しい腎血管筋脂肪腫 (AML) の臨床的検討. 第 105 回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017.4.23
2. 岡本雅之, 安野恭平, 大西篤史, 江夏徳寿, 中村一郎: 単腎に発生した solitary fibrous tumor の 1 例. 第 105 回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017.4.23
3. 江夏徳寿, 安野恭平, 大西篤史, 岡本雅之, 中村一郎: 精子解析装置 SMAS を用いた精子機能評価と体外受精における受精率の関係. 第 105 回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017.4.23
4. 安野恭平, 大西篤史, 江夏徳寿, 岡本雅之, 中村一郎: 陰茎・陰囊絞扼症の 1 例. 第 235 回日本泌尿器科学会関西地方会, 枚方, 2017.6.24

5. 中村一郎：「最期まで排泄を支える」ガイドラインに基づいたがん患者の下部尿路症状のアセスメントと治療～頻尿・尿失禁と尿路カテーテル管理を中心として～. 第 22 回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, 2017.6.24
6. 大西篤史, 安野恭平, 岡本雅之, 中村一郎：膀胱悪性リンパ腫の 1 例. 第 236 回日本泌尿器科学会関西地方会, 神戸, 2017.10.7
7. 安野恭平, 大西篤史, 江夏徳寿, 岡本雅之, 中村一郎：当科における結節性硬化症に伴う腎血管筋脂肪腫 (AML-TSC) の治療経験. 第 69 回西日本泌尿器科学会総会, 2017.11.10
8. 安野恭平, 大西篤史, 岡本雅之, 中村一郎：ホルミウムレーザー前立腺核出術後のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術. 第 31 回日本泌尿器内視鏡学会, 徳島, 2017.11.17
9. 岡本雅之, 安野恭平, 大西篤史, 江夏徳寿, 中村一郎：当院におけるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術の臨床的検討. 第 31 回日本泌尿器内視鏡学会, 徳島, 2017.11.17
10. 大西篤史, 安野恭平, 岡本雅之, 中村一郎：副腎原発神経節細胞腫の 1 例. 第 237 回日本泌尿器科学会関西地方会, 西宮, 2018.2.10

VII. 2. 12 歯科口腔外科

1. 河合峰雄：歯科医療における医療安全管理. 高槻市歯科医師会医療安全研修会, 高槻, 2017.5.27
2. 負角直樹, 河合峰雄, 西田哲也, 安東大器, 日野祥子：高度肥満のため入院・全身麻酔下に歯科治療を行った精神遅滞患者の 3 例. 第 52 回関西歯科麻酔研究会, 大阪, 2017.6.24
3. 日野祥子, 河合峰雄, 西田哲也, 安東大器, 負角直樹：入院下に歯科手術を行った後期高齢患者の麻酔管理に関する検討. 第 52 回関西歯科麻酔研究会, 大阪, 2017.6.24
4. 河合峰雄：病気を持った患者の歯科治療－循環器疾患－. 兵庫県口腔保険協会, 神戸, 2017.8.6
5. 負角直樹, 河合峰雄, 西田哲也, 安東大器, 日野祥子：高度肥満のため入院・全身麻酔下に歯科治療を行った精神遅滞患者の 3 例. 第 45 回日本歯科麻酔学会総会・学術大会, 松本, 2017.10.14
6. 日野祥子, 河合峰雄, 西田哲也, 安東大器, 負角直樹：入院下に歯科手術を行った後期高齢患者の麻酔管理に関する検討. 第 45 回日本歯科麻酔学会総会・学術大会, 松本, 2017.10.15
7. 河合峰雄：「安心してください」と言える障害者歯科医療：医療安全委員会企画シンポジウム. 第 34 回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 福岡, 2017.10.27
8. 河合峰雄：症例から学ぶ有病者歯科治療. 姫路市歯科医師会学術研修会, 姫路, 2018.2.17
9. 日野祥子, 河合峰雄, 西田哲也：デノスマブ投与と患者の薬剤関連顎骨壊死に対する臨床的検討. 第 27 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 東京, 2018.3.24

VII. 2. 13 病理診断科

1. 勝山栄治, 下田智晴, 宮川祥治, 吉田澄子, 山下展弘：本院における子宮腔部頸部病変の細胞診断と病理組織診断の比較－細胞診断は病理診断よりアンダーの傾向にある－. 兵庫県臨床細胞学会第 34 回総会, 神戸, 2018.3.3

VII. 2. 14 看護部

1. 川口麻衣：糖尿病を持つ患者への支援～チームにおける看護師の役割～. 第 19 回神戸糖尿病チーム医療研究会, 神戸, 2017.2.3
2. 山下美香, 中小路祐子, 上田 舞, 中島吉彦：穿刺時の目に見えない血液飛散に対する取り組み～穿刺針に着目して～. 第 62 回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2017.6.16
3. 上田 舞, 山下美香, 中小路祐子, 中島吉彦：透析中に使用するシーツの目に見えない血液汚染の実態. 第 62 回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2017.6.16
4. 荒木敬雄, 平野通子, 舟木 淳, 瀧澤紘輝, 崎山 愛, 板東由美, 平尾明美：二次救急病棟で勤務する看護師のキャプテンシー教育プログラムの検証. 第 19 回日本救急看護学会, 金沢, 2017.10.6-7
5. 田中圭子, 大納英美, 金谷妃佐子, 森田智子, 岡田由有子：病院看護師が考える退院時看護サマリーの必要項目. 第 56 回全国自治体病院学会, 金沢, 2017.10.19-20
6. 大納英美, 金谷妃佐子, 田中圭子, 森田智子, 岡田由有子：退院時看護サマリー記載内容の実態調査. 第 56 回全国自治体病院学会, 金沢, 2017.10.19-20

7. 春名寛香, 大路貴子, 平野通子, 山尾美希, 後藤由紀子, 江川幸二, 池田清子, 石原逸子: 継続看護強化に必要な教育プログラムの作成に向けて～看護師間連携を含む施設内連携の現状と課題～. 第 37 回日本看護科学学会学術集会, 宮城, 2017.12.16

VII. 2. 15 薬剤部

1. 濱 宏仁: 抗がん薬曝露におけるリスクマネジメント. 第 2 回 Preventing hazardous drugs exposure seminar, 静岡, 2017.4.6
2. 濱 宏仁: 病院における曝露対策～バイアルに起因する汚染と調製時の CSTD 使用の有用性～. JSOPP 9 2017 in Osaka, 枚方, 2017.5.14
3. 濱 宏仁: チームで取り組む抗がん剤曝露対策. 第 2 回オンコロジーセミナー, 東京, 2017.6.24
4. 濱 宏仁, 成橋和正, 杉浦伸一, 中西弘和, 橋田 亨: 抗がん薬により表面汚染したバイアルの水、次亜塩素酸ナトリウムおよびオゾン水による簡易洗浄方法を用いた除染効果の検証. 医療薬学フォーラム 2017 第 25 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 鹿児島, 2017.7.2
5. 巽 弥生: 肝硬変・肝細胞癌合併悪性リンパ腫に対して R-CHOP 療法施行後に 39℃の発熱を来した症例 (症例検討). 第 22 回東播抗菌化学療法セミナー, 明石, 2017.8.23
6. 濱 宏仁: エビデンスから考える抗がん薬の職業的曝露対策. 抗がん剤曝露対策セミナー in 熊本, 熊本, 2017.8.26
7. 濱 宏仁, 成橋和正, 杉浦伸一, 中西弘和, 橋田 亨: 抗がん薬調製用閉鎖系システム使用による曝露量減少効果の検証. 第 27 回日本医療薬学会年会, 千葉, 2017.11.3-5
8. 渡辺 瞭, 濱 宏仁, 田中詳二: 慢性便秘症治療薬ルビプロストンの適切な投与方法の検討. 第 27 回日本医療薬学会年会, 千葉, 2017.11.3-5
9. 藤原 歩, 赤瀬博文, 濱 宏仁, 西尾智尋, 田中詳二: 早期症状緩和を目指したオピオイド回診における薬剤師の関わり. 第 27 回日本医療薬学会年会, 千葉, 2017.11.3-5
10. 濱 宏仁: 抗がん薬の Drug Vial Optimization と抗がん薬閉鎖式薬物移送システム (CSTD) による医療費削減効果. 第 27 回日本医療薬学会年会, 千葉, 2017.11.3-5
11. 石本学司: 薬剤師が行う吸入指導. 喘息治療のコツを考える会, 神戸, 2017.11.30
12. 濱 宏仁: エビデンスから考える抗がん薬曝露対策と今後の CSTD の使い方. 豊中市病院連絡協議会 病院薬剤師講演会, 豊中, 2017.12.6
13. 濱 宏仁: 抗がん薬曝露対策における最新の話題. 関西注射剤実践懇話会 第 29 回学術集会, 大阪, 2017.12.9
14. 渡邊 瞭, 濱 宏仁, 石本学司, 田中詳二: 強オピオイド鎮痛薬の投与による便秘に対するルビプロストンの使用報告. 近畿薬剤師合同学術大会 2018, 京都, 2018.2.3-4
15. 平野美優, 公門法子, 濱 宏仁, 田中詳二: バンコマイシン「MEEK」TDM 解析ソフトにおける血清クレアチニン値補正による予測性の検討. 近畿薬剤師合同学術大会 2018, 京都, 2018.2.3-4
16. 加藤早希, 石本学司, 濱 宏仁, 田中詳二: ソホスブビル・レジパスビルによる薬物治療に対する胃酸分泌抑制剤が及ぼす影響の調査. 近畿薬剤師合同学術大会 2018, 京都, 2018.2.3-4
17. 藤原 歩, 赤瀬博文, 濱 宏仁, 西尾智尋, 田中詳二: 早期症状緩和を目指したオピオイド回診における薬剤師の関わり. 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2018.2.24
18. 加藤早希: ソホスブビル・レジパスビルによる薬物治療に対する胃酸分泌抑制剤が及ぼす影響の調査. 第 7 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2018.3.21
19. 平野美優: バンコマイシン「MEEK」TDM 解析ソフトにおける血清クレアチニン値補正による予測性の検討. 第 7 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2018.3.21
20. 渡邊 瞭: 強オピオイド鎮痛薬の投与による便秘に対するルビプロストンの使用報告. 第 7 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2018.3.21
21. 石本学司: 医師・病薬・調剤薬局をつなぐトレーシングレポートとは. 糖尿病エンパワーメントセミナー, 神戸, 2018.3.22

Ⅶ. 2. 16 臨床検査技術部

1. 宮川祥治, 弘田大智, 弘田梨沙, 恒川麻衣, 五島恵里, 松之舎教子, 田村周二, 勝山栄治, 三瀬昌宏: 局所進行腋窩副乳癌の1例. 日本超音波医学会 第44回関西地方会学術集会, 大阪, 2017.9.23
2. 北川宏樹, 安島英裕, 田中由起子, 松之舎教子, 宮川祥治, 五島恵里, 恒川麻衣, 田村周二, 江口純治, 中村一郎: アレルギー性紫斑病に合併した精巣上体炎の2例. 日本超音波医学会 第44回関西地方会学術集会, 大阪, 2017.9.23
3. 足立安奈, 木田陽子, 松之舎教子, 石平雅美, 五島恵里, 恒川麻衣, 北川宏樹, 弘田梨沙, 田村周二, 奥野晃章, 富岡洋海: 肺扁平上皮癌の心室中隔壁内に転移した稀な1例. 日本超音波医学会 第44回関西地方会学術集会, 大阪, 2017.9.23
4. 宮川祥治, 弘田大智, 田村周二: 乳腺悪性リンパ腫の超音波像と病理組織像. 神戸アーバン乳腺クリニックカンファレンス, 神戸, 2017.11.08
5. 中 彩乃, 井本秀志, 森田明子, 尾松雅仁, 田代章人, 菅原雅史, 山下大祐, 上原慶一郎, 今井幸弘: 悪性黒色腫に免疫染色を施行した1例. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会, 福岡, 2017.11.19
6. 恒川麻衣, 松之舎教子, 田村周二, 高橋明弘, 城洋志彦: Becker型筋ジストロフィーの心機能を長期追跡し得た1例. 第33回兵庫県心エコー検査カンファレンス, 神戸, 2017.12.1
7. 下田智晴, 吉田澄子, 弘田大智, 中村大輔, 岡田 翠, 山下展弘, 勝山栄治: 膀胱小細胞癌の1例. 第23回兵庫県医学検査学会, 神戸, 2017.12.10

Ⅶ. 2. 17 リハビリテーション技術部

1. 三栖翔吾, 浅井 剛, 土井剛彦, 澤 龍一, 村田峻輔, 斎藤 貴, 杉本大貴, 伊佐常紀, 坪井大和, 海老名葵, 近藤有希, 山田 実, 小野 玲: 地域在住高齢者における、体幹加速度由来の歩行指標と運動機能・心理状態との関連. 第52回日本理学療法学術大会, 千葉, 2017.5.12-14
2. 三栖翔吾, 酒井英樹, 沖侑一郎, 本田明広, 金子正博, 石川 朗, 小野 玲: COPD患者における労作時酸素飽和度低下と1年後の6分間歩行距離低下との関連性(大会長賞受賞). 第29回兵庫県理学療法学術大会, 神戸, 2017.7.9
3. 山口卓巳, 沖侑一郎, 藤本由香里, 山田莞爾, 澤田拓也, 長田敏子, 近藤敬介, 酒井英樹, 石川 朗: 兵庫県における呼吸ケア地域連携MAPの導入-第2報-. 第27回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 仙台, 2017.11.17-18

Ⅶ. 2. 18 臨床工学室

1. 林 博英, 沖中徳子, 豊岡大征, 梅津未来, 志賀智史, 平川絵李香, 石井利英: 透析用患者監視装置排液側に付着する物質に対するエーエヌテック社製人工透析機器用強力タンパク・油脂溶解洗浄剤プレミアムマックスの使用経験. 第62回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2017.6.17
2. 林 博英, 沖中徳子, 豊岡大征, 梅津未来, 志賀智史, 平川絵李香, 石井利英: タンクレスROシステムミクニキカイ社製MP-TLの使用経験. 第62回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2017.6.18
3. 志賀智史, 林 博英, 沖中徳子, 豊岡大征, 梅津未来, 平川絵李香, 石井利英: バスキュラーアクセス(VA)カルテ導入から運用、今後の課題. 第62回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2017.6.18
4. 沖中徳子, 石井利英, 林 博英, 志賀智史, 豊岡大征, 梅津未来, 平川絵李香, 富岡洋海: 加温加湿器MR850誤操作防止板の作成によって得られたHigh-flow nasal cannulaにおけるインシデント抑制効果の検討. 第56回全国自治体病院学会, 幕張, 2017.10.20
5. 平川絵李香, 石井利英, 沖中徳子, 豊岡大征, 梅津未来, 志賀智史, 栗田梨愛, 安部武生: 薬物治療が困難な関節リウマチ症例への白血急除去療法(LCAP). 第38回日本アフェレーシス学会学術大会, 浦安, 2017.10.21
6. 豊岡大征, 田中英治: ロボット支援腹腔鏡下胃切除術導入期におけるノンコンソールタイムの効率化に向けた取り組み. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.08

Ⅶ. 2. 19 栄養管理室

1. 赤沢尚美, 井島智美, 中村祥子, 西田京子: 料理の中身はなあに? 栄養バランスと代替食を一緒に考えよう! 第9回近畿小児アレルギーケア研究会, 大阪, 2017.2.18

2. 赤沢尚美：当院における糖尿病栄養指導の流れと工夫. Kowa Web Conference in Kobe, 神戸, 2017.5.31
3. 赤沢尚美：当院における糖尿病地域連携での管理栄養士の取り組み. 女性が活躍する明日の糖尿病診療シンポジウム, 米子, 2018.3.7
4. 赤沢尚美：フラッシュグルコースモニターをコミュニケーションツールとして用いた栄養相談. 第19回兵庫県糖尿病トータルケア研究会, 神戸, 2018.3.10

VII. 2. 20 診療情報管理室

1. 山口健司, 小野真敬, 根木美佐子, 溝口案季穂：紙診療録から電子診療録導入後に実施した管理体制・業務の見直し. 第43回日本診療情報管理学会学術大会, 札幌, 2017.9.22

Ⅶ. 3 西神戸医療センター

Ⅶ. 3.1 循環器内科

1. 三好悠太郎, 吉開友羽子, 山根啓一郎, 吉野直樹, 木下美菜子, 川戸充徳, 江尻純哉, 永澤浩志: 急速に進行した黄色ブドウ球菌性感染性心内膜炎の1例. 第217回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2017.9.16

Ⅶ. 3.2 内分泌・糖尿内科

1. 佐藤雄一: 週1回DPP-4阻害薬の患者実態調査. 第15回西神学術連携講演会～Sleep & Diabetes～, 神戸, 2017.6.15
2. 佐藤雄一: SGLT2阻害薬と心疾患. 第9回神戸内科疾患臨床懇話会, 神戸, 2017.6.24
3. 東野真志: パセドウ病による甲状腺クリーゼの1例. 第8回西神戸内分泌・糖尿病オープンカンファレンス, 神戸, 2017.7.12
4. 佐藤雄一: 当院でのCGMの活用について. 明日からの糖尿病地域連携を考える会, 神戸, 2017.9.7
5. 金甫妍, 佐藤雄一, 藤原秀哉, 辻和雄: 副腎不全による低血糖が疑われたMRSA性感染性心内膜炎の1例. 第3回阪神糖尿病臨床講演会, 神戸, 2017.10.26
6. 金甫妍, 佐藤雄一, 藤原秀哉, 辻和雄: 副腎不全による低血糖が疑われたMRSA性感染性心内膜炎の1例. 第54回糖尿病近畿地方会, 大阪, 2017.11.11
7. 秋山智幹, 佐藤雄一, 藤原秀哉, 辻和雄: 膵管内乳頭腫瘍の合併により腎症Ⅳ期の糖尿病において血糖が悪化したと考えられた1例. 第54回糖尿病近畿地方会, 大阪, 2017.11.11
8. 佐藤雄一: 当科の地域連携状況について. Kobe City hospital organization meeting, 神戸, 2017.11.14
9. 佐藤雄一: 当科における糖尿病地域連携の現況. 第2回神戸西部若手医師フロンティア, 神戸, 2017.11.18
10. 佐藤雄一, 藤原秀哉, 辻和雄: 肺炎と腹壁出血をきたしたサブクリニカルクッシング症候群の1例. 第27回臨床内分泌代謝 Update, 神戸, 2017.11.24
11. 西清人, 佐藤雄一, 大野美紀子, 平岡義範, 西城さやか, 坂本二郎, 陳博敏, 森田雄介, 松田真太郎, 北徹, 稲垣暢也, 木村剛, 西英一郎: ナルディライジンは膵β細胞機能・分化の維持を介して糖代謝を制御する. 第39回日本分子生物学会年会, 横浜, 2017.11.30-12.1
12. 秋山智幹, 佐藤雄一, 藤原秀哉, 辻和雄: 膵管内乳頭腫瘍の合併により腎症Ⅳ期の糖尿病において血糖が悪化したと考えられた1例. 第12回糖尿病臨床フォーラム, 大阪, 2018.2.10

Ⅶ. 3.3 腎臓内科

1. 鳥越和雄, 中井雅史, 大山敦嗣: 透析導入時に合併した粟粒結核の1例. 第62回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2017.6.16
2. 大山敦嗣, 鳥越和雄, 中井雅史: 尿毒症性心内膜炎による心タンポナーデを呈した1症例. 第62回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2017.6.16
3. 鳥越和雄, 中井雅史, 大山敦嗣: 伝染性単核球症発症を機に検尿異常悪化を認めたIgA腎症の1例. 第47回日本腎臓学会西部学術大会, 岡山, 2017.10.13
4. 中井雅史, 鳥越和雄, 大山敦嗣: 中耳炎で発症し急速進行性糸球体腎炎を合併した顕微鏡的多発血管炎の症例. 第47回日本腎臓学会西部学術大会, 岡山, 2017.10.13
5. 上野由香里, 鳥越和雄, 中井雅史, 大山敦嗣: 血液培養よりBrachyspira pilosicoliを認めた導入期透析患者の1例. 第218回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2017.12.2
6. Torikoshi K, Nakai M, Yamamura Y, Furuichi K, Wada T, Oyama A: A case of renal coloboma syndrome with atypical family history other than renal and eye abnormalities. ISN frontiers Meetings 2018, Tokyo, 2018.2.22-25

Ⅶ. 3.4 脳神経内科

1. Okuda S, Takano S, Imoto M, Ikkaku T, Ueno M, Tanaka M, Shirakawa M, Kanda F, Toda T: Executive function correlates with improvement of gait speed by rehabilitation in Parkinson's disease patients. 第58回日本神経学会学術大会, 京都, 2017.9.16-21
2. 高原佳央里, 柳原千枝, 三河章子, 立岡悠, 的場俊, 石尾ゆきこ, 高野真: 黄色ブドウ球菌による敗血症・細菌性髄膜炎に両側性細菌性眼内炎を合併した1例. 第109回日本神経学会近畿地方会, 大阪, 2017.12.2

3. 上野正夫, 井元万紀子, 一角朋子, 奥田志保, 高野 真, 荻田典生: 認知機能の低下を呈した 57 歳男性. 第 75 回兵庫神経内科研究会, 神戸, 2018.2.9
4. 立岡 悠, 高原佳央里, 的場 俊, 石尾ゆきこ, 柳原千枝, 高野 真: 分娩に伴う大量出血・大量輸血後に発症した小脳に限局する posterior reversible encephalopathy syndrome の 1 例. 第 110 回日本神経学会近畿地方会, 京都, 2018.3.11

VII. 3.5 消化器内科

1. 原 和也, 猪股典子, 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純, 石原美佐, 橋本公夫: 胃神経内分泌細胞癌の 4 例. 第 103 回日本消化器病学会総会, 東京, 2017.4.20-22
2. 島田友香里, 猪股典子, 原 和也, 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 当院で経験したアニサキス症の 5 例. 第 103 回日本消化器病学会総会, 東京, 2017.4.20-22
3. 猪股典子, 原 和也, 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純, 石原美佐, 橋本公夫: G-CSF 産生膵腺扁平上皮癌の一剖検例. 第 103 回日本消化器病学会総会, 東京, 2017.4.20-22
4. 島田友香里, 猪股典子, 原 和也, 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 林 幹人, 井谷智尚, 三村 純: 消化器悪性腫瘍による癌性イレウスに対する経皮経食道胃管挿入術 (PTEG) の経験. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪, 2017.5.11-13
5. 原 和也, 猪股典子, 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 石原美佐, 橋本公夫: 十二指腸第 4 部に発生した複合型腺神経内分泌癌 (MANEC) の 1 例. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
6. 猪股典子, 三村 純, 井谷智尚, 林 幹人, 島田友香里, 奥山俊介, 安達神奈, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 瀧本郁久, 原 和也, 橋本公夫, 石原美佐: 診断に難渋した胆管癌の 1 例. 第 98 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2017.6.17
7. 猪股典子, 井谷智尚, 林 幹人, 島田友香里, 奥山俊介, 安達神奈, 高田 裕, 瀧本郁久, 原 和也, 太田匠悟: 経皮的ラジオ波焼灼療法 (RFA) 後に生じた横隔膜欠損・ヘルニアの 2 例. 日本消化器病学会近畿支部第 107 回例会, 大阪, 2017.9.23
8. 原 和也, 太田匠悟, 猪股典子, 瀧本郁久, 高田 裕, 安達神奈, 奥山俊介, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 松浦正徒, 京極高久: 局部床義歯による食道穿孔の 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 107 回例会, 大阪, 2017.9.23
9. 太田匠悟, 井谷智尚, 林 幹人, 島田友香里, 奥山俊介, 安達神奈, 高田 裕, 瀧本郁久, 原 和也, 猪股典子: 妊娠中の潰瘍性大腸炎に対して白血球除去療法 (Leukocytapheresis: LCAP) が有効であった 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 107 回例会, 大阪, 2017.9.23
10. 井谷智尚: 座長『普及と啓発』. 第 16 回日本 PTEG 研究会学術集会, 札幌, 2017.9.24
11. 島田友香里, 猪股典子, 原 和也, 瀧本郁久, 井関隼也, 井上貴裕, 濱田健輔, 安達神奈, 奥山俊介, 林 幹人, 井谷智尚: 当院における Balloon assisted endoscopy-ERCP 導入の現況. 第 25 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2017 FUKUOKA), 福岡, 2017.10.12-15
12. 猪股典子, 太田匠悟, 原 和也, 瀧本郁久, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 当院で経験したアニサキス症の 6 例. 第 99 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18
13. 太田匠悟, 猪股典子, 原 和也, 瀧本郁久, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 石原美佐, 橋本公夫: 反復する急性膵炎を契機に発見された膵上皮内癌の 1 例. 第 99 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18
14. 原 和也, 太田匠悟, 猪股典子, 瀧本郁久, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 大腸ポリープに対する Cold snare polypectomy 後出血の 2 例. 第 99 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, 2017.11.18
15. 猪股典子, 太田匠悟, 原 和也, 瀧本郁久, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 胃原発絨毛癌 (PGS) と AFP 産生胃癌の 1 共存例. 日本消化器病学会近畿支部第 108 回例会, 京都, 2018.3.17

16. 原 和也, 猪股典子, 太田匠悟, 瀧本郁久, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 石原美佐, 橋本公夫: 腰椎骨折を契機に発見された直腸肛門部悪性黒色種の1例. 日本消化器病学会近畿支部第108回例会, 京都, 2018.3.17
17. 太田匠悟, 猪股典子, 原 和也, 瀧本郁久, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 嚢胞内感染が疑われた成人の腸間膜リンパ管種の1例. 日本消化器病学会近畿支部第108回例会, 京都, 2018.3.17

Ⅶ. 3.6 呼吸器内科

1. 佐藤宏紀, 乾 祐輔, 額瀨力也, 桜井稔泰, 多田公英, 池田顕彦: 経気管支肺生検にて確定診断が得られた血管内リンパ腫の1例. 第89回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2017.7.8

Ⅶ. 3.7 免疫血液内科

1. 田中 淳, 橋本朗子, 田中康博, 新里偉咲: DLBCL への形質転換およびアミロイド沈着を伴った MALT リンパ腫の1例. 第107回近畿血液学会, 京都, 2017.6.17
2. 上野由香里, 田中康博, 橋本朗子, 新里偉咲: 肝不全で発症したホジキンリンパ腫の1例. 第216回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2017.7.1
3. 田中 淳, 橋本朗子, 田中康博, 新里偉咲: 急性骨髄性白血病に合併した播種性ムコール症の臨床的検討. 第79回日本血液学会総会, 東京, 2017.10.20
4. 田中康博, 田中 淳, 橋本朗子, 新里偉咲: 橋病変を認めた脾臓原発リンパ腫の2例. 第79回日本血液学会総会, 東京, 2017.10.20
5. 橋本朗子, 田中 淳, 田中康博, 新里偉咲: 当院における AML に対する AZA 使用経験. 第79回日本血液学会総会, 東京, 2017.10.21

Ⅶ. 3.8 緩和ケア内科

1. 安藤俊弘: 大腸癌の腹壁転移による痛みに対し持続腹横筋膜面ブロックで対応した症例. 第4回日本区域麻酔学会, 名古屋, 2017.4.14-15
2. 安藤俊弘, 御園和美: 腹横筋膜面ブロックをすることによりがん患者の腹痛の原因が前皮神経絞扼症候群であることが判明した1症例. 第22回日本緩和医療学会, 横浜, 2017.6.23-24
3. 安藤俊弘: プレガバリン増量を契機に発症したと考えられたミオクロヌスの1症例. 第51回日本ペインクリニック学会, 岐阜, 2017.7.20-22

Ⅶ. 3.9 精神・神経科

1. 唐木美喜子, 高宮静男: 子ども版 EAT26 の評価. 第30回神戸心身医学会, 神戸, 2017.4.8
2. 川添文子, 福武将映, 橋本朗子, 山田顕子, 笈 哲也: 免疫血液疾患治療のために入院中の患者への心理社会的支援に関する研究. 第58回日本心身医学会総会ならびに学術講演会, 札幌, 2017.6.16-17
3. 高宮静男: 摂食障害治療における医療機関と学校の連携. 第113回日本精神神経学会シンポジウム, 名古屋, 2017.6.22
4. 川添文子, 松原康策, 高宮静男, 石川慎一, 田坂佳資, 岩田あや, 仁紙宏之: 小児期発症神経性やせ症制限型患者の10年超の長期予後に関する検討. 第21回日本摂食障害学会学術集会, 広島, 2017.10.21-22
5. 高宮静男: 学校との連携の実践. 第21回日本摂食障害学会シンポジウム, 広島, 2017.10.21
6. 川添文子, 山田顕子, 小林由香, 福武将映: 無床総合病院における精神科リエゾンチームの実践と課題. 第30回日本総合病院精神医学会総会, 富山, 2017.11.17-18

Ⅶ. 3.10 小児科

1. 松原康策, 保科 清, 近藤昌敏, 宮入 烈, 雪竹義也: 1歳未満の小児侵襲性 GBS 感染症—第6次全国調査 2011-2015—. 第120回小児科学会学術総会, 東京, 2017.4.13-15
2. 堀 雅之: 食物アレルギー診療ガイドライン 2016 を読み解く〜完全除去から必要最低限の除去へ〜. 神戸市小児科医会学術講演会, 神戸, 2017.5.13
3. 堀 雅之: スキンケアの重要性. 兵庫小児アレルギーケア講習会, 神戸, 2017.5.14

4. 川崎 悠, 松原康策, 田坂佳資, 永井貞之, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 仁紙宏之, 中村 豊, 舟田俊平: 国内初キノロン耐性、血清群 C 群、遺伝子型 ST-4821 髄膜炎菌侵襲性髄膜炎菌感染症幼児例. 第 271 回日本小児科学会兵庫地方会, 神戸, 2017.5.20
5. 川崎 悠, 松原康策, 永井貞之, 仁紙宏之, 山本 剛: 発熱、嘔吐、発疹を主訴に来院した 4 歳. 第 49 回日本感染症教育研究会 (IDATEN), 東京, 2017.6.3
6. 岩田あや, 仁紙宏之, 岩間一浩, 水口 剛, 松本直通: *SLC1A3* 遺伝子の新規変異が同定された Episodic ataxia type 6 の 1 女児例. 第 59 回日本小児神経学会学術集会, 大阪, 2017.6.15-17
7. 松原康策, 保科 清, 近藤昌敏, 雪竹義也, 源川隆一: 早発型・遅発型 GBS 感染症 - 2011-2015 年全国調査 -. 第 53 回日本周産期・新生児医学会総会, 横浜, 2017.7.16-18
8. 松原康策, 上月愛瑠, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 仁紙宏之, 登尾 薫, 佐藤信浩, 植村優, 田村彰広, 長谷川大一郎: 出生時から肥大型心筋症と著明な血小板減少を来した Noonan 症候群. 京都 NICU 懇話会, 京都, 2017.7.22
9. 内藤昭嘉, 堀 雅之, 竹本崇之, 川崎 悠, 磯目賢一, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策: 標準治療のみで低栄養が改善した重症アトピー性皮膚炎の乳児例. 第 272 回日本小児科学会兵庫地方会, 姫路, 2017.9.30
10. 川添文子, 松原康策, 高宮静男, 石川慎一, 田坂佳資, 岩田あや, 仁紙宏之: 小児期発症神経性やせ症制限型患者の 10 年超の長期予後に関する検討. 第 21 回日本摂食障害学会, 広島, 2017.10.21-22
11. 松原康策: 侵襲性髄膜炎菌感染症の幼児例の経験から - 診断・治療・予防について考える -. Meningococcal Symposium Osaka, 大阪, 2017.10.28
12. 松原康策, 堀 雅之, 川崎 悠, 岸本健治, 横井健人, 小阪嘉之, 鷲尾 健: LCH と EBV-HLH を合併した 2 歳女児例. 第 59 回日本小児血液・がん学会学術集会, 愛媛, 2017.11.9-11
13. 坂本謙一, 今村俊彦, 木平健太郎, 鈴木孝二, 石田悠志, 守田弘美, 簡野美弥子, 森 健, 平松英文, 松原康策, 照井君典, 末延聡一, 佐藤 篤, 河崎裕英, 八木啓子, 堀 浩樹, 堀部敬三: JACLS ALL-97,-02 研究における骨壊死発症頻度とリスク因子の解析. 第 59 回日本小児血液・がん学会学術集会, 愛媛, 2017.11.9-11
14. Sakamoto K, Imamura T, Kihira K, Suzuki K, Ishida H, Morita H, Kanno M, Mori T, Hiramatsu H, Matsubara K, Terui K, Takahashi Y, Suenobu S, Hasegawa D, Kosaka Y, Kato K, Moriya-Saito A, Sato A, Kawasaki H, Yumura-Yagi K, Hara J, Hori H, Horibe K: Low Incidence of osteonecrosis in childhood acute lymphoblastic leukemia treated with ALL-97 and ALL-02 study of Japan Association of Childhood Leukemia Study Group. 59Th ASH meeting, Atlanta GA, 2017.11.9-12
15. 磯目賢一, 竹本崇之, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 堀 雅之, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策: 1994-2017 年に経験した侵襲性黄色ぶどう球菌感染症. 第 273 回日本小児科学会兵庫地方会, 尼崎, 2018.2.3
16. 松原康策: 教育講演 GBS 感染症の疫学と臨床. 第 29 回日本臨床微生物学会総会, 岐阜, 2018.2.9-11
17. 登尾 薫, 川北かおり, 登尾里紀, 佐藤信浩, 三村裕美, 勝部美咲, 村上暢子, 登村信之, 森上聡子, 近田恵里, 佐原裕美子, 竹内康人, 松原康策, 石原温子: 当院における胎児心臓超音波検査法の妥当性について. 第 24 回日本胎児心臓病学会学術集会, 埼玉, 2018.2.16-17
18. 藤井翔太郎, 鷲尾 健, 真崎太朗, 堀 雅之, 松原康策: 家庭の天ぷら粉内で繁殖したダニの経口摂取によるアナフィラキシーの 1 例. 第 466 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2018.3.9-10
19. 岩田あや, 竹本崇之, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 仁紙宏之, 松原康策, 川嶋明香, 鏡 雅代: STX16 欠失が同定された常染色体優性遺伝偽性副甲状腺機能低下症 1b (AD-PHP1b) の親子例. 近畿小児科地方会, 大阪, 2018.3.11
20. 川崎 悠, 竹本崇之, 内藤昭嘉, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策: 侵襲性髄膜炎菌感染症. 第 7 回神戸市小児救急カンファレンス, 神戸, 2018.3.22
21. 秋山晴代, 西村光平, 中村亮介, 堀 雅之, 甲斐茂美, 松藤 寛, 根来孝治, 宮澤真紀, 松原康策: 経口免疫寛容誘導時における減感作状態の EXiLE 法を用いた評価. 日本薬学会第 138 年会, 金沢, 2018.3.25-28

VII. 3. 11 皮膚科

1. 藤井翔太郎, 鷲尾 健, 正木太朗: Fournier 壊疽の 1 例. 第 461 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2017.5.27
2. 鷲尾 健, 藤井翔太郎, 正木太朗: 西神戸医療センターで経験した小児食物アレルギー. 第 116 回兵庫県皮膚科医会, 神戸, 2017.6.2-4

3. 鷺尾 健, 藤井翔太郎, 堀川達弥, 正木太朗: 血管性浮腫の症例集積による検討. 第 116 回日本皮膚科学会総会, 仙台, 2017.6.2-4
4. 正木太朗, 藤井翔太郎, 鷺尾 健: 光線過敏症状を伴ったキク皮膚炎の 1 例. 第 1 回神戸皮膚炎症疾患研究会, 神戸, 2017.7
5. 鷺尾 健, 藤井翔太郎, 正木太朗, 山西清文: 西神戸医療センターで経験した長島型掌蹠角化症の 2 例. 第 32 回角化症研究会, 東京, 2017.8.5
6. 鷺尾 健, 織田好子, 正木太朗, 藤井翔太郎, 畠山真弓, 福永 淳: 高齢者の皮膚疾患における汗の関与の検討. 第 4 回汗と皮膚疾患の研究会, 東京, 2017.8.19
7. 鷺尾 健, 藤井翔太郎, 正木太朗, 橋本公夫, 橋本朗子, 田中康博, 新里偉咲: 手指壊疽を免れたクリオグロブリン血症の 1 例. 第 463 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2017.9.30
8. 藤井翔太郎, 鷺尾 健, 正木太朗: 光線過敏症状を伴ったキク皮膚炎の 1 例. 第 68 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 京都, 2017.10.7
9. 鷺尾 健, 藤井翔太郎, 正木太朗, 畠山真弓, 福永 淳, 夏秋 優: ムカデ咬症によるアナフィラキシーの 1 例. 第 47 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 鹿児島, 2017.12.8-10
10. 藤井翔太郎, 鷺尾 健, 正木太朗, 山本 剛, 奥野敏隆, 谷 昌寛, 中村敦子: *Corynebacterium kroppenstedtii* による肉芽腫性乳腺炎に合併した結節性紅斑の 1 例. 第 465 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2018.2.3
11. 藤井翔太郎, 鷺尾 健, 正木太朗, 堀 雅之, 松原康策: 家庭の天ぷら粉内で繁殖したダニの経口摂取によるアナフィラキシーの 1 例. 第 466 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2018.3.10

Ⅶ. 3. 12 外科・消化器外科

1. 伊丹 淳, 堀江和正, 牧野健太, 松浦正徒, 吉村弥緒, 長井和之, 姜 貴嗣, 京極高久: 外科医にとってのインシデントレポート提出の重要性. 第 117 回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017.4.27
2. 松浦正徒, 吉村弥緒, 牧野健太, 堀江和正, 塩田哲也, 岩崎純治, 長井和之, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: 巨大鼠径ヘルニアに対する治療戦略～当院で経験した腹腔鏡下手術 2 症例を踏まえて～. 第 15 回日本ヘルニア学会, 東京, 2017.6.3
3. 伊丹 淳, 牧野健太, 堀江和正, 松浦正徒, 吉村弥緒, 塩田哲也, 長井和之, 姜 貴嗣, 京極高久: 当科における胸部食道癌手術の手術術式と合併症について検討. 第 71 回日本食道学会, 軽井沢, 2017.6.16
4. 長井和之, 堀江和正, 牧野健太, 吉村弥緒, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: Hemosuccus pancreaticus を呈した膵体部癌. 第 48 回日本膵臓学会, 京都, 2017.7.14
5. 長井和之, 堀江和正, 牧野健太, 吉村弥緒, 松浦正徒, 塩田哲也, 姜 貴嗣, 伊丹 淳, 京極高久: 膵管空腸吻合部における内瘻ステントの術後動態と長期安全性の検討. 第 72 回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017.7.21
6. 原田樹幸, 長田圭司, 堀江和正, 牧野健太, 松浦正徒, 吉村弥緒, 塩田哲也, 岩崎純治, 長井和之, 伊丹 淳, 京極高久: Ramucirumab 使用中に小腸穿孔による汎発性腹膜炎を来した 1 例. 第 200 回近畿外科学会, 京都, 2017.9.2
7. 森 彩, 長田圭司, 堀江和正, 牧野健太, 松浦正徒, 吉村弥緒, 塩田哲也, 岩崎純治, 長井和之, 伊丹 淳, 京極高久: 腹腔鏡下直腸低位前方切除後に内ヘルニアを来した 1 例. 第 200 回近畿外科学会, 京都, 2017.9.2
8. 牧野健太: 専攻医 3 年目による腹腔鏡下幽門側胃切除術. 第 23 回京都臨床外科セミナー, 京都, 2017.10.7
9. 松浦正徒, 長田圭司, 堀江和正, 牧野健太, 吉村弥緒, 塩田哲也, 岩崎純治, 長井和之, 伊丹 淳, 京極高久: 当院における切除不能進行再発大腸癌に対する TAS-102 (ロンサーフ) 療法の使用経験. 第 55 回日本癌治療学会学術大会, 横浜, 2017.10.20
10. 牧野健太, 塩田哲也, 長田圭司, 堀江和正, 吉村弥緒, 松浦正徒, 岩崎純治, 長井和之, 伊丹 淳, 京極高久: 総腸間膜症に併発した盲腸軸捻転の 1 例. 第 79 回日本臨床外科学会, 東京, 2017.11.23
11. 寺本昇生, 伊丹 淳, 長田圭司, 堀江和正, 牧野健太, 吉村弥緒, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 長井和之, 京極高久: 人工肛門造設後の内ヘルニアによる絞扼性イレウスの検討. 第 79 回日本臨床外科学会, 東京, 2017.11.23

12. 伊丹 淳, 長田圭司, 堀江和正, 牧野健太, 吉村弥緒, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 長井和之, 京極高久: 胸腔鏡下食道切除術におけるエネルギーデバイスの使い分けに関する考察. 第79回日本臨床外科学会, 東京, 2017.11.24
13. 松浦正徒, 長田圭司, 牧野健太, 堀江和正, 吉村弥緒, 塩田哲也, 岩崎純治, 伊丹 淳, 京極高久: 胃原発の肝様腺癌と絨毛癌が共存した1例. 第79回日本臨床外科学会, 東京, 2017.11.24
14. 堀江和正, 長井和之, 長田圭司, 牧野健太, 吉村弥緒, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 伊丹 淳, 京極高久: 胆嚢癌との鑑別が問題となった黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例. 第79回日本臨床外科学会, 東京, 2017.11.24
15. 塩田哲也, 京極高久, 伊丹 淳, 長井和之, 岩崎純治, 松浦正徒, 牧野健太: 単径ヘルニア根治術 (TAPP 法), 術後早期再発症例の検討. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.7
16. 伊丹 淳, 牧野健太, 堀江和正, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 長井和之, 京極高久: 胸腔鏡下食道切除術における左反回神経周囲リンパ節郭清のための改善点の検討. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.7
17. 松浦正徒, 牧野健太, 堀江和正, 塩田哲也, 岩崎純治, 長井和之, 伊丹 淳, 京極高久: 骨盤内神経鞘腫に対して腹腔鏡下手術を施行した1例. 第30回日本内視鏡外科学会, 京都, 2017.12.9
18. 高橋有和: 診断治療に難渋した腹腔内腫瘍の1例. 第33回R175消化器外科集談会, 神戸, 2018.3.2
19. 松浦正徒, 長田圭司, 堀江和正, 牧野健太, 高橋有和, 吉村弥緒, 塩田哲也, 岩崎純治, 伊丹 淳, 京極高久: 胃癌術後再発に対してラムシルマブを使用中に胸部大動脈解離を併発した1例. 第90回日本胃癌学会総会, 横浜, 2018.3.8

VII. 3. 13 乳腺外科

1. 奥野敏隆, 廣瀬圭子, 真鍋美香, 内田浩也, 久下加奈栄, 登尾 薫: 乳腺浸潤癌におけるソナゾイド造影超音波所見の病理組織学的検討. 第38回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 宇都宮, 2017.5.27-28
2. 堀江和正, 奥野敏隆, 京極高久, 今中一文, 橋本公夫: 乳腺乳頭部腺腫に対して乳頭部分的遊離移植術を付加した摘出術を行った1例. 第25回日本乳癌学会学術集会, 福岡, 2017.7.13-15
3. 奥野敏隆, 堀江和正: 日常乳腺診療における comprehensive ultrasound diagnosis の検討. 第25回日本乳癌学会学術集会, 福岡, 2017.7.13-15
4. 久下加奈栄, 奥野敏隆, 廣瀬圭子, 真鍋美香, 登尾 薫, 佐藤信浩, 内田浩也, 橋本 公夫: 微小浸潤を伴う被包型乳頭癌の1例. 日本超音波医学会第44回関西地方会学術集会, 大阪, 2017.9.23
5. 奥野敏隆, 登尾 薫, 久下加奈栄, 廣瀬圭子, 勝瀨浩紀: 異型上皮過形成を伴った mucocele-like lesion の1切除例. 第39回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 大宮, 2017.9.23-24
6. 奥野敏隆: JABTS BC04の結果から得られた悪性腫瘍のカラー Doppler 診断のポイントー動画像を中心に解説ー. 第39回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 大宮, 2017.9.23-24
7. Okuno T, Kaoku S, Watanabe T, Yamaguchi T, Yaegashi H, Itoh T, Nakashima K, Watanabe R, Nakatani S, Obane N: Color Doppler findings of malignant breast masses – JABTS BC-04 study part 2 –. The 16th World Federation for Ultrasound in Medicine and Biology Congress, Taipei, 2017.10.13-17
8. 奥野敏隆: 超音波カラー Doppler 法の原理と乳房超音波検査における装置の設定. 第27回日本乳癌検診学会学術総会, 徳島, 2017.11.10-11
9. 長田圭司, 奥野敏隆, 堀江和正, 京極高久, 今中一文, 橋本公夫: 嚢胞内腫瘍の形態を呈した乳腺扁平上皮癌の2例. 第15回日本乳癌学会近畿地方会, 京都, 2017.12.16
10. 森 彩, 奥野敏隆, 京極高久, 今中一文, 堀江和正: 妊娠期温存乳房内再発の1例. 第15回日本乳癌学会近畿地方会, 京都, 2017.12.16
11. 久下加奈栄, 奥野敏隆, 登尾 薫, 廣瀬圭子, 内田浩也: Intraductal papillary lesions の超音波所見の検討. 第40回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 東京, 2018.3.24-25
12. 奥野敏隆: 乳腺混合性腫瘍の B モード+カラー Doppler 法ー JABTS BC-04 からの検討ー. 第40回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 東京, 2018.3.24-25

VII. 3. 14 呼吸器外科

1. 大政 貢: 呼吸器外科治療 UP-TO-DATE. 西宮市立中央病院, 2017.4.6

2. 石川浩之, 大政 貢, 藤本 遼, 青木 稔: 非小細胞肺癌手術例の末梢血好中球 / リンパ球比の継時的変化は再発を予測しうる. 第 117 回日本外科学会学術集会, 横浜, 2017.4.27-29
3. 長田駿一, 大政 貢, 石川浩之, 藤本 遼, 青木 稔: 80 歳以上高齢者に対する気胸手術症例の検討. 第 34 回呼吸器外科学会総会, 福岡, 2017.5.18
4. Ishikawa H, Omasa M, Fujimomto R, Aoki M: Transition of Neutrophil-Lymphocyte Ratio can Predict Lung Cancer Recurrence After Surgery. 25th European Society of Thoracic Surgery, Innsbruck, 2017.5.28
5. 長田駿一, 藤本 遼, 中西崇雄, 大政 貢: 当科で最近経験した術前化学放射線療法で完全奏功が得られた非小細胞肺癌 3 例. 第 127 回兵庫県肺癌懇話会, 神戸, 2017.6.21
6. Nakanishi T, Menju T, Fujii Y, Miyata R, Ishikawa H, Nishikawa S, Takahashi K, Hamaji M, Sonobe M, Nakajima N, Yoshizawa A, Yamada R, Date H: Copy Number Alteration and Gene Expression analysis of surgically resected Thymic Carcinoma. International Thymic Malignancy Interest Group, Torino, Italy, 2017.9.21-23
7. 藤本 遼, 大政 貢, 長田駿一, 中西崇雄: 特発性血気胸手術症例の臨床・病理学的特徴の検討. 第 70 回日本胸部外科学会総会, 札幌, 2017.9.26

VII. 3. 15 脳神経外科

1. 山西俊介, 西原賢在, 木戸口慶, 高原佳央里, 武田直也, 橋本公夫: 成人発症の脊椎癒合不全を伴わない脊髄脂肪腫の 1 例. 第 73 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 豊中, 2017.4.8
2. 庄瀬裕康, 魚住洋一, 藤田祐一, 田中 潤, 細田弘吉, 甲村英二: 頸動脈狭窄症に対する 術前 CTA 読影のピットフォール. 第 4 回日本心血管脳卒中学会学術集会, 福岡, 2017.6.2
3. 田中 潤, 細田弘吉, 山本祐輔, 京谷勉輔, 竹本洋太, 甲田将章, 藤田敦史, 中井友昭, 甲村英二: BeamSAT MRI による内頸動脈狭窄症手時の虚血耐性評価. 第 4 回日本心血管脳卒中学会学術集会, 福岡, 2017.6.3
4. 細田弘吉, 今堀太一郎, 山本祐輔, 田中 潤, 中井友昭, 入野康宏, 篠原正和, 松尾和哉, 甲村英二: オミクス解析を用いた虚血中脳組織代謝変化の探索と内因性抗酸化機構としての HSP27 リン酸化を介するペントースリン酸経路活性化の同定. 第 18 回日本分子脳神経外科学会, 甲府, 2017.8.25
5. 松尾和哉, 細田弘吉, 山本祐輔, 田中 潤, 今堀太一郎, 中井友昭, 入野康宏, 篠原正和, 甲村英二: 虚血後再灌流による脳皮質でのペントースリン酸経路の賦活化ーオミクス解析による分析と Heat shock protein27 の関与. 第 18 回日本分子脳神経外科学会, 甲府, 2017.8.25
6. 西原賢在, 武田直也, 蘆田典明, 東野真志, 篠山隆司, 甲村英二: 前大脳動脈および中大脳動脈と癒着がある神経膠腫の剥離摘出. 第 22 回日本脳腫瘍の外科学会, 鹿児島, 2017.9.8
7. 田中 潤, 細田弘吉, 山本祐輔, 京谷勉輔, 甲田将章, 藤田敦史, 中井友昭, 甲村英二: BeamSAT MRA による内頸動脈狭窄症 手術時の虚血耐性評価. 日本脳神経外科学会第 76 回学術総会, 名古屋, 2017.10.12
8. 山本祐輔, 細田弘吉, 松尾和哉, 田中 潤, 今堀太一郎, 中井友昭, 入野康宏, 篠原正和, 甲村英二: 虚血後再灌流の際に大脳皮質では Heat shock protein27 のリン酸化を介してペントースリン酸経路の活性化が起こり内因性抗酸化機構として働く. 日本脳神経外科学会第 76 回学術総会, 名古屋, 2017.10.12
9. 細田弘吉, 甲田将章, 木村英仁, 魚住洋一, 藤田敦史, 石井大嗣, 田中 潤, 中井友昭, 松尾和哉, 甲村英二: 頸動脈病変治療におけるトラブルシューティングとリスク回避. 日本脳神経外科学会第 76 回学術総会, 名古屋, 2017.10.13
10. 西原賢在, 武田直也, 蘆田典明, 東野真志, 篠山隆司, 甲村英二: ベバシズマブ投与後の再発悪性神経膠腫に対する手術所見. 日本脳神経外科学会第 76 回学術総会, 名古屋, 2017.10.14
11. 松尾和哉, 細田弘吉, 田中 潤, 山本祐輔, 今堀太一郎, 中井友昭, 入野康宏, 篠原正和, 甲村英二: 虚血再灌流による脳皮質でのペントースリン酸経路賦活化の意義ー Heat shock protein 27 リン酸化の役割ー. 第 60 回日本脳循環代謝学会学術集会, 大阪, 2017.11.3
12. 今堀太一郎, 岡村有祐, 坂田純一, 塩見亮司, 藤原大悟, 庄瀬裕康, 松島一士, 小林誠人, 藤田敦史, 細田弘吉, 甲村英二: 前方循環急性頭蓋内脳主幹動脈閉塞に対する Trevo ステンツ型血栓回収機器の治療成績と予後因子の検討 単一施設での連続 100 例の経験. 第 33 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 東京, 2017.11.23
13. 今堀太一郎, 岡村有祐, 坂田純一, 塩見亮司, 藤原大悟, 庄瀬裕康, 松島一士, 小林誠人, 藤田敦史, 細田弘吉, 甲村英二: 急性脳主幹動脈閉塞治療における血管内治療の導入効果. 第 33 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 東京, 2017.11.23

14. 庄瀬裕康, 今堀太一郎, 岡村有祐, 坂田純一, 塩見亮司, 藤原大悟, 田中一寛, 松島一士, 小林誠人, 藤田敦史, 細田弘吉, 甲村英二: 広域医療圏での急性脳主幹動脈閉塞治療におけるドクターヘリの有用性. 第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 東京, 2017.11.24
15. Hosoda K, Fujita A, Kohta M, Kimura H, Imahori T, Tanaka J, Kohmura E: Long-Term Survival of Carotid Endarterectomy and Carotid Artery Stenting in Japanese Population. International Stroke Conference 2018, Los Angeles, USA, 2018.1.24
16. Matsuo K, Hosoda K, Tanaka J, Yamamoto Y, Imahori T, Nakai T, Irino Y, Shinohara M, Kohmura E: Upregulation of Pentose Phosphate Pathway after Focal Cerebral Ischemia/Reperfusion Injury in Rat Cerebral Cortex: The Impact of Heat Shock Protein 27 Phosphorylation. International Stroke Conference 2018, Los Angeles, USA, 2018.1.24
17. 細田弘吉, 藤田敦史, 甲田将章, 田中 潤, 松尾和哉, 中井友昭, 石井大嗣, 木村英仁, 甲村英二: 頸動脈狭窄症治療 (CEA/CAS) は長期生存に有効か? 第47回日本脳卒中の外科学会学術集会, 福岡, 2018.3.15
18. 松尾和哉, 細田弘吉, 山本祐輔, 田中 潤, 佐藤直子, 今堀太一郎, 中井友昭, 入野康宏, 篠原正和, 甲村英二: 虚血再灌流による脳皮質でのペントースリン酸経路賦活の意義— Heat shock protein 27 リン酸化の役割—. 第43回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018.3.15
19. 田中 潤, 細田弘吉, 松尾和哉, 京谷勉輔, 竹本洋太, 甲田将章, 藤田敦史, 甲村英二: BeamSAT pulse を用いた single-slab ICA-selective MRA による, 内頸動脈狭窄症の脳循環動態評価. 第43回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018.3.15

VII. 3. 16 整形外科

1. 柴田弘太郎ロバーツ: 股関節疾患に対する鏡視下手術. 第1回オープンボーンカンファレンス特別講演会, 神戸, 2017.5.13
2. 安藤麻紀, 高矢憲一, 藤原正利, 吉田圭二, 柴田弘太郎ロバーツ, 朴 憲之: 上腕骨遠位端 coronal shear fracture の1例. オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2017.7.22
3. 柴田弘太郎ロバーツ: Sports Medicine of Stanford University. 第13回日本股関節鏡研究会, 大阪, 2017.9.2
4. 柴田弘太郎ロバーツ: 股関節 instability に対する鏡視下手術. 第13回日本股関節鏡研究会, 大阪, 2017.9.2
5. 柴田弘太郎ロバーツ: アスリートに対する股関節鏡手術とその疫学. メディカルスタッフのための股関節セミナー, 名古屋, 2018.2.10
6. 柴田弘太郎ロバーツ, 藤原正利, 吉田圭二, 朴 憲之, 安藤麻紀: 寛骨臼骨折後関節内骨片と股関節 instability を股関節鏡で治療した1例. 第22回兵庫県股関節研究会, 神戸, 2018.3.3

VII. 3. 17 形成外科

1. 岡本貴子, 小熊 孝: 手指癒痕拘縮形成術後は接着スプリントを使って未熟癒痕を仕上げる. 第60回日本形成外科学会学術集会, 大阪, 2017.4.12
2. 村井信幸, 小熊 孝: アダプト皮膚保護シールを用いた陥凹部癒痕の圧迫療法. 第60回日本形成外科学会学術集会, 大阪, 2017.4.12
3. 村井信幸, 西尾優志, 小熊 孝: 若年者に発症した良性対称性脂肪腫症の治療経験. 第60回日本形成外科学会学術集会, 大阪, 2017.4.12
4. 岡本貴子, 小熊 孝: Dancing Girl Flap による指間形成術. 第44回兵庫県形成外科医会研究会, 神戸, 2017.5.20
5. 石椋寛芳, 平山泰樹, 福島侑子, 野村 正, 櫻井 敦, 西尾優志, 小熊 孝: 過去5年間における隆起性皮膚線維肉腫の検討. 第33回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 秋田, 2017.6.30
6. 小熊 孝, 岡本貴子: 耳介後面から採取する軟骨を含まない複合組織の移植. 第9回日本創傷外科学会, 岐阜, 2017.7.7
7. 岡本貴子, 小熊 孝: 大臀筋内に生じた神経鞘腫の治療経験. 第116回関西形成外科学会学術集会, 大阪, 2017.7.9
8. 岡本貴子, 小熊 孝: 顔面への真皮脂肪移植. 第31回神戸形成外科集談会, 神戸, 2017.10.9
9. 岡本貴子, 小熊 孝, 松葉啓文: 慢性膿胸に対する陰圧閉鎖療法の効果. 第118回関西形成外科学会学術集会, 大阪, 2018.3.4

Ⅶ. 3. 18 産婦人科

1. 村上暢子, 川北かおり, 勝部美咲, 荻野美智, 登村信之, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 竹内康人: チーム医療にて安全な分娩に至った神経性やせ症合併妊娠の1例. 第69回日本産科婦人科学会総会, 広島, 2017.4.13-16
2. 登村信之, 佐原裕美子, 勝部美咲, 村上暢子, 荻野美智, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 川北かおり, 竹内康人: 卵管切除後に同側卵管間質部妊娠となった2例の検討. 第69回日本産科婦人科学会総会, 広島, 2017.4.13-16
3. 勝部美咲, 川北かおり, 村上暢子, 荻野美智, 登村信之, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子, 竹内康人: 当院におけるBMI 18.5未満のやせ妊婦における妊娠中の体重増加と周産期予後の検討. 第69回日本産科婦人科学会総会, 広島, 2017.4.13-16
4. 三村裕美, 近田恵里, 勝部美咲, 村上暢子, 登村信之, 佐原裕美子, 川北かおり, 竹内康人: 膣欠損症において診断に苦慮した充実性腫瘍. 第16回兵庫県産婦人科内視鏡手術懇話会, 神戸, 2017.5.13
5. 勝部美咲, 佐原裕美子, 石原美佐, 橋本公夫, 三村裕美, 村上暢子, 登村信之, 近田恵里, 川北かおり, 竹内康人: 再発を繰り返す smooth muscle tumor of uncertain malignant potential (STUMP) の1例. 第136回近畿産科婦人科学会総会, 大阪, 2017.6.16-17
6. 三村裕美, 川北かおり, 竹内康人, 勝部美咲, 村上暢子, 荻野美智, 登村信之, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 佐原裕美子: うっ血性心不全を来した産褥心筋症の1例. 第91回兵庫県産科婦人科学会総会, 神戸, 2017.7.2
7. 三村裕美, 川北かおり, 村上暢子, 登村信之, 奥杉ひとみ, 近田恵里, 竹内康人: 産後出血PPH 当院への搬送例の分析: 搬送元とのよりよい連携を目指して. 第53回日本周産期・新生児学会総会, 横浜, 2017.7.16-18
8. 勝部美咲, 佐原裕美子, 三村裕美, 村上暢子, 登村信之, 近田恵里, 川北かおり, 竹内康人: 悪性化した Smooth muscle tumor of uncertain malignant potential(STUMP) の1例. 第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017.10.20-22
9. 勝部美咲, 三村裕美, 村上暢子, 登村信之, 森上聡子, 近田恵里, 佐原裕美子, 川北かおり, 竹内康人: 当院で経験したPRES (posterior reversible leukoencephalopathy syndrome) の1例. 第28回腎と妊娠研究会, 神戸, 2018.3.3

Ⅶ. 3. 19 泌尿器科

1. 伊藤哲之, 小河孝輔, 土橋一成, 木田和貴, 清水洋祐, 金丸聰淳: 患者の腹側と背側両方からの操作を可能にするための腹腔鏡下右腎摘除術におけるポート位置の工夫. 第105回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017.4.21
2. 金丸聰淳, 小河孝輔, 木田和貴, 清水洋祐, 伊藤哲之: 後腹膜鏡下腸腰筋膿瘍ドレーナージの経験. 第105回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017.4.22
3. 木田和貴, 土橋一成, 清水洋祐, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 当施設における腹腔鏡下尿管膀胱新吻合術 (extravesical) の初期経験. 第105回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017.4.22
4. 小河孝輔: 後腹膜鏡下の生検にて診断された両側副腎原発悪性リンパ腫の1例. HOWN-RCC 講演会, 神戸, 2017.6.3
5. 金丸聰淳: 膀胱タンポナーデで発見された下大静脈腫瘍塞栓を伴う左腎癌の1例. 第19回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2017.6.15
6. 清水洋祐: 去勢抵抗性前立腺癌に対するゾーフィゴの初期治療経験. 第19回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2017.6.15
7. 伊藤哲之: 若手に伝えたい手術の上達法. Robot Assisted Surgery & Laparoscopic Surgery, 大阪, 2017.7.8
8. 清水洋祐: ダビンチ、ラパロ手術 for expert surgeon. 新手術手技研究会, 神戸, 2017.7.8
9. 金丸聰淳: 腹腔鏡下膀胱全摘における体外尿路変向術. 第12回泌尿器科京都東山セミナー, 京都, 2017.8.20
10. 伊藤哲之, 小河孝輔, 木田和貴, 清水洋祐, 金丸聰淳: 癒着防止吸収性バリア (セブラフィルム®) 腹腔鏡下挿入法の検討. 第30回近畿内視鏡外科, 大阪, 2017.9.30
11. 小河孝輔: 前立腺癌の放射線療法に併用するホルモン療法の適切な期間について. 第30回 Clinical Urology 研究会, 神戸, 2017.10.14

12. 伊藤哲之, 小河孝輔, 土橋一成, 木田和貴, 清水洋祐, 金丸聰淳: 湿軟化前処置法「あぶり法」と AIRSEAL アクセスポート-癒着防止吸収性バリア (セプラフィルム®) 腹腔鏡下挿入法のベストな組み合わせ. 第 31 回泌尿器内視鏡学会総会, 徳島, 2017.10.17
13. 金丸聰淳, 小河孝輔, 木田和貴, 清水洋祐, 伊藤哲之: 当院におけるロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術の初期経験. 第 31 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 徳島, 2017.11.17
14. 伊藤哲之: 「こんなときどうする!?: Pitfall とその対処 (大腸・骨盤)」泌尿器科手術における術中の出血や尿管損傷, その時の対処法. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017.12.9
15. 伊藤哲之: 尿のトラブル解決&対処法 相談してみよう! 尿漏れ, 頻尿など. 土曜健康科学セミナー, 神戸, 2018.1.13
16. 木田和貴, 清水洋祐, 小河孝輔, 金丸聰淳, 伊藤哲之: HoLEP 術後に発症し急速に進行した前立腺癌の 1 例. 第 89 回宮崎地方会, 宮崎, 2018.1.20
17. 金丸聰淳, 小河孝輔, 木田和貴, 清水洋祐, 伊藤哲之: 術前にアキシチニブを用いて下大静脈腫瘍塞栓の縮小をみとめた左腎細胞癌 cT3b の治療経験. 第 36 回泌尿器科手術研究会, 宮崎, 2018.1.27
18. 小河孝輔, 木田和貴, 清水洋祐, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 径 66mm の膀胱 inflammatory myofibroblastic tumor を腹腔鏡下膀胱部分切除術により膀胱を温存し得た 1 例. 第 237 回日本泌尿器科学会関西地方会, 西宮, 2018.2.10
19. 金丸聰淳: 腹腔鏡下膀胱全摘術後の回腸導管における傍ストマヘルニア 3 例の臨床的検討. 第 20 回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2018.2.15
20. 清水洋祐: 前立腺癌に対する強度変調放射線治療 (IMRT: Intensity Modulated Radiation Therapy). 第 20 回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2018.2.15
21. 木田和貴, 小河孝輔, 清水洋祐, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 遠隔転移を認めた筋層非浸潤性膀胱癌の 3 例. 兵庫・岡山 RCC 講演会, 神戸, 2018.2.18
22. 金丸聰淳, 櫻井三希子, 小西千枝, 佐藤琴美, 伊藤哲之: 腹腔鏡下膀胱全摘術後の回腸導管における傍ストマヘルニア 3 例の臨床的検討. 第 35 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 札幌, 2018.2.24
23. 清水洋祐: 前立腺がんに対するロボット支援手術 (ダ・ヴィンチ) について. 第 16 回がん市民フォーラム in KOBE, 神戸, 2018.2.24
24. 金丸聰淳: TAP トレーニングを経験して. 第 31 回 Clinical Urology 研究会, 神戸, 2018.3.3

VII. 3. 20 眼科

1. 黒田佳陽, 吉田章子, 西原賢在, 武田直也, 石原美佐, 橋本公夫, 三河章子: 網膜中心動脈閉塞症を契機に発見された巨細胞性動脈炎の ICGA 所見. 第 68 回京大眼科同窓会学会, 京都, 2017.10.22
2. 黒田佳陽, 吉田章子, 西原賢在, 武田直也, 石原美佐, 橋本公夫, 三河章子: 網膜中心動脈閉塞症を契機に発見された巨細胞性動脈炎の ICGA 所見. 第 56 回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2017.12.2
3. 黒田佳陽: 網膜中心動脈閉塞症を契機に発見された巨細胞性動脈炎の ICGA 所見. 第 20 回西神戸眼科合同カンファレンス, 神戸, 2018.2.15
4. 吉田章子: 緑内障チューブシャント手術を施行した IOL 縫着眼の 1 例. 第 20 回西神戸眼科合同カンファレンス, 神戸, 2018.2.15
5. 三河章子: 地域医療連携における当院眼科の役割. 第 20 回西神戸眼科合同カンファレンス, 神戸, 2018.2.15
6. 黒田佳陽, 吉田章子, 西原賢在, 武田直也, 石原美佐, 橋本公夫, 三河章子: 網膜中心動脈閉塞症を契機に発見された巨細胞性動脈炎の ICGA 所見. 第 37 回神戸市立医療センター中央市民病院・神戸アイセンター病院眼科オープンカンファレンス, 神戸, 2018.3.10

VII. 3. 21 耳鼻いんこう科

1. 甲藤麻衣, 山村悠汰, 小島康隆, 雲井一夫: 舌生検で診断し得たヒストプラズマ症の 1 例. 第 118 回日本耳鼻咽喉科学会学術集会, 広島, 2017.5.17-20
2. 山村悠大, 雲井一夫, 甲藤麻衣, 四宮 瞳, 小嶋康隆: スエヒロタケによるアレルギー性真菌性副鼻腔炎が強く疑われた 1 例. 第 186 回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2017.7.22
3. 横井 純, 森本浩一, 萩田 萌, 岩城 忍, 四宮弘隆, 大月直樹, 丹生健一: 加齢による嗄声に対する Phonation Resistance Training Exercise の有用性についての検討. 第 186 回日耳鼻兵庫県地方部会(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会), 神戸, 2017.7.22

4. 小嶋康隆：天蓋が低く後壁を削除せざるを得なかった小児真珠腫。神戸耳鼻手術手技研究会，神戸，2017.9.6
5. 小嶋康隆：当科における鼻科手術の実際（アレルギー性鼻炎治療を含む）。西神戸耳鼻咽喉科カンファレンス，神戸，2017.9.27
6. 山村悠大，雲井一夫：スエヒロタケによるアレルギー性真菌性副鼻腔炎の1例。第56回日本鼻科学会学術講演会，甲府，2017.9.28-30
7. 萩田 萌，涌井絵美，岩城 忍，横井 純，四宮弘隆，森本浩一，丹生健一：高齢者の音声障害に対するPhonation Resistance Training Exercisesの有効性。第62回日本音声言語医学会総会・学術講演会，仙台，2017.10.5-6
8. 横井 純，上原奈津美，柿木章伸，丹生健一：先天性真珠腫術後の再形成性真珠腫により外耳道後壁が広汎に破壊された1例。第27回日本耳科学会総会・学術講演会，横浜，2017.11.22-24
9. 堀地祐人，森本浩一，四宮弘隆，大月直樹，丹生健一：当科における挿管性声帯麻痺の臨床的検討。第30回日本喉頭科学会総会・学術講演会，高知，2018.3.1-2
10. 雲井一夫：難治性鼻出血症例について。第18回（平成29年度）西神戸耳鼻いんこう科合同カンファレンス，神戸，2018.3.15
11. 山村悠大：スエヒロタケによる真菌性アレルギー性鼻副鼻腔炎の1例。第18回（平成29年度）西神戸耳鼻いんこう科合同カンファレンス，神戸，2018.3.15
12. 四宮 瞳：咽喉頭サルコイドーシスの1例。第18回（平成29年度）西神戸耳鼻いんこう科合同カンファレンス，神戸，2018.3.15
13. 小嶋康隆：外傷性顔面神経麻痺・耳小骨骨折。第18回（平成29年度）西神戸耳鼻いんこう科合同カンファレンス，神戸，2018.3.15

VII. 3. 22 麻酔科

1. 濱場千夏，田中 修，堀川由夫，飯島克博，樋口恭子，川瀬太助，瀧口侑子，伊藤綾子，杉野太亮，伊地智和子：消化管手術後に発症した呼吸不全に対して経鼻高流量酸素療法を行った3症例。第1回日本集中治療学会関西支部学術集会，神戸，2017.7.8
2. 濱場千夏，田中 修，伊地智和子，堀川由夫，飯島克博，樋口恭子：短期間に繰り返す気胸に対し、肺部分切除を2度施行したリンパ脈管筋腫症の1例。第63回日本麻酔科学会関西支部学術集会，大阪，2017.9.2
3. 杉野太亮，田中 修，伊地智和子，飯島克博，樋口恭子，川瀬太助：DIC，意識障害をきたすも子宮全摘手術により救命できた子宮型羊水塞栓症の1例。第63回日本麻酔科学会関西支部学術集会，大阪，2017.9.2
4. 川瀬太助，伊地智和子，濱場千夏，伊藤綾子，樋口恭子，飯島克博，堀川由夫，田中 修：シスプラチン腹腔内投与後に意識障害をともなう著しい低ナトリウム血症を呈した1例。第45回日本集中治療医学会学術集会，千葉，2018.2.21-23
5. 濱場千夏，堀川由夫，田中 修，伊地智和子，飯島克博，樋口恭子，川瀬太助：全身麻酔中に重篤な血圧低下をきたし循環管理に難渋したGuillain-Barre症候群の1例。第45回日本集中治療医学会学術集会，千葉，2018.2.21-23

VII. 3. 23 歯科口腔外科

1. 犬伏正和，天野 均，岩城 太，大浦 清：当院における破骨細胞分化過程に及ぼすヘリオキサンチン誘導体の影響に関する研究。第37回骨形態計測学会，大阪，2017.6.23
2. 犬伏正和，天野 均，岩城 太，大浦 清：破骨細胞分化過程に及ぼすヘリオキサンチン誘導体の影響に関する研究。第131回日本薬理学会近畿部会，名古屋，2017.6.30
3. 岩城 太，片山麻梨子：腹部大動脈瘤による慢性播種性血管内凝固症候群（DIC）により止血に難渋した舌咬創の1例。第19回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会，札幌，2017.7.29
4. 片山麻梨子，岩城 太：高齢の認知症患者に生じた気道閉塞を伴う下顎骨粉碎骨折の1例。第19回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会，札幌，2017.7.29
5. 天野 均，岩城 太，大浦 清：ヘリオキサンチン誘導体による破骨細胞分化抑制。第59回歯科基礎医学会・学術大会，塩尻，2017.9.18

6. 片山麻梨子, 岩城 太, 長野紀也: 顕微鏡支援下の歯根端切除術により大臼歯を保存し得た歯根嚢胞の4例. 第62回日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都, 2017.10.20

VII. 3. 24 病理診断科

1. 前田紘奈, 石原美佐, 長井和之, 橋本公夫: 肝原発神経内分泌腫瘍 (Primary hepatic neuroendocrine tumor ; PNET) の1例. 第106回日本病理学会総会, 仙台, 2017.4.27
2. 石原美佐, 井関隼也, 橋本公夫: 結腸癌で診断し得た、消化管クリプトスポリジウムの1例. 第106回日本病理学会総会, 仙台, 2017.4.28
3. 船越真依, 西田 稔, 清水理絵, 毛利衣子, 井上友佳里, 石原美佐, 橋本公夫: 生検針の洗浄細胞診で認められた2型乳頭状腎細胞癌の1例. 第58回日本臨床細胞学会総会春季大会, 大阪, 2017.5.28
4. 勝部美咲, 佐原裕美子, 石原美佐, 橋本公夫, 三村裕美, 村上暢子, 登村信之, 近田恵里, 川北かおり, 竹内康人: 再発を繰り返す smooth muscle tumor of uncertain malignant potential (STUMP) の1例. 第136回近畿産科婦人科学会総会ならびに学術総会, 大阪, 2017.6.18
5. 奥野敏隆, 登尾 薫, 久下加奈栄, 廣瀬圭子, 勝嘉浩紀: 異型上皮過形成を伴った mucocoele-like lesion の1切除例. 第39回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, さいたま, 2017.9.24
6. 堀江和正, 奥野敏隆, 京極高久, 今中一文, 橋本公夫: 乳頭部腺腫に対して乳頭部分的遊離移植術を付加した摘出術を行った1例. 第25回日本乳癌学会総会, 福岡, 2017.10.14
7. 勝部美咲, 佐原裕美子, 石原美佐, 橋本公夫, 三村裕美, 村上暢子, 登村信之, 近田恵里, 川北かおり, 竹内康人: 悪性化した Smooth muscle tumor of uncertain malignant potential (STUMP) の1例. 第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017.10.21

VII. 3. 25 放射線科

1. 小路田泰之, 平林沙織, 吉川俊紀, 北村ゆり, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 今中一文: 直腸原発奇形腫の1例. 第37回播磨画像診断研究会, 明石, 2017.6.15
2. 今中一文, 田中幸江: 西神戸医療センターにおける放射線治療～当院でできること 今後の展望～. 第8回西神戸緩和ケア・地域連携の会, 神戸, 2017.7.11
3. 小路田泰之, 平林沙織, 吉川俊紀, 北村ゆり, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 今中一文, 伊藤哲之, 石原美佐, 橋本公夫, 矢部慎二: 上腕留置CVポートの皮下トンネル部に石灰化を来した2例. 第24回兵庫県IVR懇話会, 神戸, 2017.10.14
4. 平林沙織: PET (ペット) 検査ってどんな検査? ～PET (ペット) 検査ができること～. 身近な保健医療講座「知っておきたいがんの知識」第2回, 神戸, 2018.2.8
5. 小路田泰之, 平林沙織, 吉川俊紀, 北村ゆり, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 今中一文: 急性好酸球性肺炎の1例. 第38回播磨画像診断研究会, 明石, 2018.2.22

VII. 3. 26 看護部

1. 新井まゆ子, 仁紙宏之, 山本 剛, 多田公英: 定量的フィットテスターを用いたマスクの選定と動作時のN95マスク漏れ率の比較. 第6回日本感染管理ネットワーク学会学術集会, 函館, 2017.5.19-20
2. 松田智子: 認知症高齢者が了解してその場に居ることを支援する看護介入の探求. 日本老年看護学会第22回学術集会, 名古屋, 2017.6.14-16
3. 岡 洋美: チームで行う終末期がん患者と家族への看護実践～デスカンファレンス導入の取り組み～. 平成29年固定チームナーシング全国研究集会・分科会, 神戸, 2017.10.9
4. 中村真理, 吉川寛子: 退院調整看護師と病棟看護師で取り組む退院支援カンファレンスの効果. 第56回全国自治体病院学会, 幕張, 2017.10.19-20
5. 美濃幸代, 垣内優芳: 咯血に伴う気管支内血餅での呼吸不全に対し、IPVを行い血餅除去が容易になり人工呼吸器離脱に至った1例. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2017.11.17-18
6. 川添文子, 山田顕子, 小林由香, 福武将映: 無床総合病院における精神科リエゾンチームの実践と課題. 第30回日本総合病院精神医学会総会, 富山, 2017.11.17-18

7. 大田史江, 平山知佳, 田中幸江, 濱島健児, 山中真実, 池淵かおり, 橋口周子, 宮脇大輔, 佐々木良平: 多施設共同による頭頸部ハンドブックの作成—放射線治療後の有害事象へのサポーター. 日本放射線腫瘍学会・第30回学術大会, 大阪, 2017.11.17-19
8. 巻野未来, 小川愛子, 下出真実, 美濃幸代, 田村千枝: ウォーキングカンファレンス定着への取り組み. 兵庫県看護協会・看護実践研究会, 神戸, 2017.11.25
9. 吉見萌々, 石元菜南子, 城下優里恵, 葛目裕人, 下田真梨子, 森本妙子: 被災地避難所において看護学生に必要とされる看護援助技術. 第37回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 2017.12.16-17
10. 西野裕輔, 佐々木啓, 佐藤琴美, 小西千枝, 櫻井三希子, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 排尿ケアチームの関わりからみえた病棟の変化. 第35回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 札幌, 2018.2.23-24

Ⅶ. 3. 27 薬剤部

1. 西村 亮, 佐藤雄一, 山崎彬史, 原田卓弥, 吉野新太郎, 中田 学: 2型糖尿病患者の服薬状況の確認と週1回DPP-4阻害薬への期待. 第1回日本老年薬学会学術大会, 東京, 2017.5.14
2. 高柳信子, 奥野昌宏, 中田 学: メサペインを導入し在宅療養できた1症例～腎・肝機能障害と電解質補正に対する処方提案を通じて～. 第11回日本緩和医療薬学会年会, 札幌, 2017.6.2-4
3. 久保嘉靖, 高柳信子, 三浦恵理, 奥野昌宏, 中田 学: 薬剤師外来における医師への提案の現状～泌尿器科を中心に～. 第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017.10.20-22
4. 高柳信子, 奥野昌宏, 佐原裕美子, 安藤俊弘, 竹内康人, 中田 学: 産婦人科医と薬剤師・緩和ケア内科医との連携でメサペイン錠を導入し退院できた1症例. 第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017.10.20-22
5. 西村 亮, 佐藤雄一, 中田 学: 週1回DPP-4阻害薬への変更による服薬アドヒアランス、糖尿病治療満足度質問票の変化と治療成績への影響. 第27回日本医療薬学会年会, 千葉, 2017.11.3-5
6. 高柳信子, 久保嘉靖, 奥野昌宏, 新里偉咲, 中田 学: 慢性骨髄性白血病患者に対する薬剤師外来の役割～ニロチニブのアレルギー症状が出現した2症例を通して. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2018, 横浜, 2018.3.17-18
7. 奥野昌宏, 久保嘉靖, 高柳信子, 中田 学: 当院における薬剤師専用診察室での薬剤師外来2年間の運用とその評価. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2018, 横浜, 2018.3.17-18

Ⅶ. 3. 28 臨床検査技術部

1. 登尾 薫, 吉野直樹, 吉開友羽子, 村上暢子, 佐藤信浩, 川井順一, 山根啓一郎, 木下美菜子, 川戸充徳, 江尻純哉, 永澤浩志: 周産期心筋症の1例. 日本心エコー図学会・第28回学術集会, 名古屋, 2017.4.21
2. 船越真依, 西田 稔, 清水理絵, 毛利衣子, 井上友佳里, 内田 瞳, 石原美佐, 勝嶋浩紀, 橋本公夫: 生検針の洗浄細胞診で認めた2型乳頭状腎細胞癌の1例. 第58回日本臨床細胞学会総会春期大会, 大阪, 2017.5.28
3. 川井順一: 心臓超音波検査 基本断面の描出と基本計測を身につける. 兵庫県技師会主催生理検査研修会, 神戸, 2017.7.28
4. 川井順一: 腹部・心臓超音波検査の基本断面の描出と基本計測を身につける ハンズオンセミナー. 兵庫県技師会主催生理検査研修会, 神戸, 2017.8.26
5. 戸田進也, 川崎 悠, 登尾 薫, 内田浩也, 久下加奈栄, 真鍋美香, 廣瀬圭子, 佐藤信浩, 東 貞之, 井谷智尚: 腹部超音波検査で術前に診断し得た消化管重複症の1例. 日本超音波医学会・第44回関西西地方会学術集会, 大阪, 2017.9.23
6. 久下加奈栄, 奥野敏隆, 廣瀬圭子, 真鍋美香, 登尾 薫, 佐藤信浩, 内田浩也, 橋本公夫: 微小浸潤を伴う被包性乳頭癌の1例. 日本超音波医学会・第44回関西西地方会学術集会, 大阪, 2017.9.23
7. 池町真実, 坂口瑞季, 国寶香織, 山本 剛: スクリーニングチューブを用いたESBL産生菌の検出. 第29回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 岐阜, 2018.2.10
8. 登尾 薫, 川北かおり, 登尾里紀, 佐藤信浩, 三村裕美, 勝部美咲, 村上暢子, 登村信之, 森上聡子, 近田恵里, 佐原裕美子, 竹内康人, 松原康策, 石原温子: 当院における胎児心臓超音波検査法の妥当性について. 第24回日本胎児心臓病学会学術集会, さいたま, 2018.2.16
9. 川井順一, 他: 研修医向け心エコーハンズオンセッション. 第82回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2018.3.23

10. 久下加奈栄, 奥野敏隆, 内田浩也, 登尾 薫, 廣瀬圭子: Intraductal papillary lesions の超音波所見の検討. 第 40 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 東京, 2018.3.24

VII. 3. 29 放射線技術部

1. 森 克人, 吉田拓也, 大政 亘, 吉原宣幸, 三浦雅夫: 経皮的冠動脈インターベンションにおける被曝低減プログラムの検討. 日本放射線技師会 第 33 回日本診療放射線技師会学術大会, 北海道, 2017.9.22
2. 林 亮太, 遠矢瑠星, 横尾宏之, 橋本強志, 三浦雅夫: Quiet DWI の騒音と歪みについての検討. 日本放射線技師会・第 33 回日本診療放射線技師会学術大会, 北海道, 2017.9.23
3. 大政 亘, 森方大智, 井上修一, 三浦雅夫: 160 列 ADCT で対象物を XZ 面上斜めに設置した際の Volume scan による手関節等の骨撮影の検討. 日本放射線技術学会・第 45 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 広島, 2017.10.19
4. 浦田萌江, 吉田拓也, 森方大智, 井上修一, 三浦雅夫: 頭部 CT 検査における介助者の被ばく線量評価. 平成 28 年度神戸市放射線技師会研修会, 神戸, 2017.11.25
5. 竹村伊史, 中元勝利, 橋本強志, 大黒美鈴, 三浦雅夫: 乳房の術中標本撮影での至適条件予測グラフの作成. 平成 28 年度神戸市放射線技師会研修会, 神戸, 2017.11.25
6. 加藤早紀, 伊藤崇晃, 小形明子, 三浦雅夫: 2 タイプの全身用吸引式固定具における固定精度の比較. 平成 28 年度神戸市放射線技師会研修会, 神戸, 2017.11.25

VII. 3. 30 リハビリテーション技術部

1. 垣内優芳, 朴 憲之, 中尾菜摘, 笥 哲也, 井上達朗, 三坂 恵, 秋武浩太, 荒井悠子, 永石真希, 西原賢在, 雲井一夫, 川北かおり, 竹内康人: 転移性骨腫瘍に対する腫瘍用人工骨頭挿入術後、子宮摘出術、化学療法を継続して施行した症例の多職種連携と理学療法経験. 第 52 回日本理学療法学術大会, 千葉, 2017.5.12
2. 田中利明, 笥 哲也, 三坂 恵, 垣内優芳, 渡 彩夏, 井上達朗: 急性期病院大腿骨近位部骨折患者における食事摂取カロリーと関連する因子の検討. 第 52 回日本理学療法学術大会, 千葉, 2017.5.12
3. 井上達朗, 田中利明, 笥 哲也, 三坂 恵, 垣内優芳, 渡 彩夏: 大腿骨近位部骨折患者における急性期病院退院時の日常生活動作能力予測に適した栄養スクリーニングの検討. 第 52 回全国理学療法学術大会, 千葉, 2017.5.12
4. 垣内優芳, 井上達朗, 田中利明: 誤嚥性肺炎後にサルコペニアによる咳嗽力低下を認めた 1 例. 第 54 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 岡山, 2017.6.10
5. 秋武浩太, 西尾優也, 永石真希, 小柳淳子, 柳 友子, 中尾菜摘, 奥野敏隆: 乳がん治療におけるリハビリテーションチーム介入の試み. 第 48 回兵庫乳線疾患研究会, 兵庫, 2017.7.1
6. 吉田晃久: 冠動脈バイパス / 左室形成術後患者の抑うつ症状に対し、多職種による包括的ケアを行い職業復帰に至った症例. 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017.7.15
7. Inoue T, Kakiuchi M, Kakehi T, Tanaka T: The Appropriate Nutritional Assessment to Predict Functional Outcome with Hip Fracture Patients During Acute Phase - The Comparison of MNA-SF, must, NRS-2002 and GNRI. The 39th European Society for Parental and Enteral Nutrition congress, The Hague, Netherlands, 2017.9.11
8. 白井裕美子, 雲井一夫: 声帯結節症例の臨床的検討—小児例と成人例の比較—. 第 62 回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 宮城, 2017.10.5
9. 笥 哲也, 垣内優芳, 井上達朗, 田中利明, 竹内康人: 転移性肝癌術後の肝不全により長期臥床となった患者の理学療法経験. 第 55 回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017.10.20
10. 垣内優芳, 井上達朗, 田中利明, 荒井悠子, 木戸口慶司: 頭蓋頸椎移行部の硬膜動静脈瘻が原因のくも膜下出血患者における症例報告リレー. 第 1 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 大阪, 2017.10.29
11. 白井裕美子, 雲井一夫: 当科における小児声帯結節に対する音声治療. 第 6 回日本小児診療多職種研究会, 沖縄, 2017.11.3
12. 井上達朗: Modified Frailty Index は大腿骨近位部骨折患者の合併症、ADL を予測できるか. 第 33 回日本静脈経腸栄養学会, 横浜, 2018.2.24
13. 井上達朗: 大腿骨近位部骨折患者における機能予後を予測する栄養スクリーニングの検討—MNA-SF, MUST, NRS-2002, GNRI の比較—. 第 1 回神戸市民病院機構学術研究フォーラム, 神戸, 2018.2.27

14. 垣内優芳：横紋筋融解に伴う筋の過剰収縮が握力の課題評価をもたらした卵巣癌患者の1例．第7回日本が
んリハビリテーション研究会，神戸，2018.3.10

Ⅶ. 3. 31 臨床工学室

1. 加藤博史，中本皓太：終末期がん患者におけるNPPVとHFVの医療経済性の比較検討．日本医療マネジメント学会第11回兵庫支部学術集会，明石，2017.2.16
2. 加藤博史：医工連携分野における臨床工学技士の活躍「日本臨床工学技士会における取り組み」．第27回日本臨床工学会，青森，2017.5.17
3. 藤井清孝，山田憲嗣：医療機器のユーザビリティに関する実態調査．第27回日本臨床工学会，青森，2017.5.21
4. 加藤博史：医療機器開発に関する最近の流れ、臨床工学技士の役割．第2回山形県臨床工学会・臨工チーム勉強会，山形，2017.6.2
5. 岸本和昌：IoT社会の到来による医療機器データを統合する医療情報システムに関する研究．ジョイント研究会，兵庫，2017.6.6
6. 藤井清孝：カテ室業務、こんな取り組み頑張ってます！&こんなことみんなどうしてます？【西神戸医療センター編】，KIC Live Demonstration 2017，三田，2017.6.9
7. 加藤博史：「臨・学・産連携推進委員会の設立と活動」「点滴ポール用テーブルタップ/スマートカフの開発」．兵庫県臨床工学技士会2017年度通常総会，西宮，2017.6.11
8. 藤井清孝，井上宗紀，加藤博史：無線LANを利用した医療用テレメータにおけるトラブル報告．第92回日本医療機器学会大会，大阪，2017.6.30
9. 藤井清孝：リスクマネジメントの実際．平成29年度医療機器安全基礎講習会，大阪，2017.7.9
10. 藤井清孝：無線LANを利用した医療用テレメータにおけるトラブル事例．近畿地域の医療機関における電波利用推進協議会地域協議会，大阪，2017.9.12
11. 加藤博史：高流量酸素濃縮器．大阪商工会議所・第4回次世代医療システム産業化フォーラム2017，大阪，2017.10.4
12. 岸本和昌，上崎勝生，上妻憲尚，藤井清孝，加藤博史：関節鏡用電気メスにおけるアクティブ電極の経時的変化について．第39回日本手術医学会，東京，2017.10.6
13. 加藤博史：臨・学・産連携推進委員会と課題（ニーズ）、ビジネスモデル．京都府臨床工学技士会・第1回医工連携カンファレンス定例会，京都，2017.10.15
14. 藤井清孝：どうしてますか？医療機器管理業務の臨床実習教育．第16回日本臨床工学技士教育研究会，東京，2017.11.11
15. 加藤博史，中本皓太：終末期がん患者におけるNPPVとHFVの医療経済性の比較検討「第2報」．第24回近畿臨床工学会，和歌山，2017.11.18
16. 岸本和昌，押川千穂，桑川雅子，中井隆史，竹村匡正：医療機器ログデータを用いたプッシュ通知システムの構築．第37回医療情報学連合大会，大阪，2017.11.21
17. 加藤博史：医療現場のニーズの活用に向けて臨床ニーズの収集・提供事例．HOSPEX2017医工連携事業差促進事業特別セミナー，東京，2017.11.22
18. 藤井清孝，井上宗紀，加藤博史，大野ゆう子：徘徊感知機器による医用テレメータへの影響の可視化・実証調査．第46回日本医療福祉設備学会，東京，2017.11.22
19. 加藤博史：臨床工学技士による医療現場ニーズ発表会並びに製品開発事例の発表会．第4回メディカルメッセ，名古屋，2017.12.6
20. 加藤博史：臨床工学技士の立場から見た医工連携．東京都臨床工学技士会広域多摩イノベーションプラットフォーム，東京，2018.3.1
21. Kishimoto K, Nakai T, Hori K, Oshikawa C, Kumekawa N, Takemura T: Construction of Push Notification System Handling Medical Device Log Data. Biomedical and Health informatics (BHI) and the Body Sensor Networks (BSN) Conferences 2018, Las Vegas, 2018.3.5
22. 藤井清孝：医療機関において安心・安全に電波を利用するための手引き～カプセル内視鏡の電磁干渉事例をふまえて～．兵庫県臨床工学技士会主催第55回定期学習会，神戸，2018.3.11

VII. 3. 32 栄養管理室

1. 島村康弘, 尾鼻俊弥, 寺園沙矢香, 井谷智尚, 京極高久: 術後補助化学療法中胃癌患者への栄養指導効果の検討. 第21回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2018.1.14
2. 島村康弘, 尾鼻俊弥, 寺園沙矢香, 井谷智尚, 京極高久: 胃癌術後1年の体重減少に影響をおよぼす因子の検討. 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2018.2.22

Ⅶ. 4 神戸アイセンター病院

Ⅶ. 4.1 診療部

1. 吉武達哉, 村上智昭, 鈴間 潔, 百々蓉子, 石原健司, 吉武 信, 藤本雅大, 三輪裕子, 辻川明孝: OCT angiography を用いた糖尿病眼における脈絡膜内層の decorrelation signal の変化. 第 121 回日本眼科学会, 東京, 2017.4.6
2. 吉武 信, 村上智昭, 鈴間 潔, 吉武達哉, 石原健司, 藤本雅大, 百々蓉子, 三輪裕子, 辻川明孝: 糖尿病黄斑浮腫における抗 fumarase 抗体とラニビズマブ治療効果との関連. 第 121 回日本眼科学会, 東京, 2017.4.6
3. 吉水 聡, 広瀬文隆, 宇山紘史, 高木誠二, 藤原雅史, 栗本康夫: 原発閉塞隅角眼の暗室うつむき試験と中心前房深度の関係. 第 121 回日本眼科学会, 東京, 2017.4.7
4. 宮本紀子, 万代道子, 宇山紘史, 高木誠二, 西田明弘, 栗本康夫: 加齢黄斑変性におけるアフリバルセプト導入療法による新生血管面積の経時変化. 第 121 回日本眼科学会, 東京, 2017.4.7
5. 松崎光博, 宇山紘史, 平見恭彦, 栗本康夫: OCT angiography にて Leber 遺伝性視神経症の乳頭近傍毛細血管網を観察した 1 例. 第 121 回日本眼科学会, 東京, 2017.4.7
6. 栗本康夫, 平見恭彦, 高木誠二, 坂口裕和, 岡田 潔, 高須直子, 土肥浩美, 小出直史, 杉田 直, 万代道子, 西田幸二, 山中伸弥, 高橋政代: 加齢黄斑変性に対する他家人工多能性幹細胞由来網膜色素上皮細胞移植の臨床研究計画. 第 121 回日本眼科学会, 東京, 2017.4.8
7. 高木誠二, 平見恭彦, 万代道子, 高橋政代, 宮本紀子, 西田明弘, 宇山紘史, 富田剛司, 栗本康夫: 日本人の滲出性加齢黄斑変性におけるヒト白血球抗原のアリルとハプロタイプ頻度. 第 121 回日本眼科学会, 東京, 2017.4.8
8. 吉水 聡: 治療方針決定に苦慮した網膜剥離の一例. Kobe Ophthalmic Resident Salon 6, 神戸, 2017.4.15
9. Takagi S: Frequency of human leucocyte antigen -A, C, B, DRB1, DQB1, and DPB1 alleles and haplotypes in Japanese patients with neovascular age-related macular degeneration. The Association for Reserch in Vision and Ophthalmology (ARVO) Annual Meeting, Baltimore, USA, Baltimore in U.S.A, 2017.5.8
10. Kitahata S, Hirami Y, Takagi S, Fujihara M, Kurimoto Y, Takahashi M: Efficacy of additional topical betamethasone in persistent cystoid macular edema after carbonic anhydrase inhibitor treatments in retinitis pigmentosa. The Association for Reserch in Vision and Ophthalmology (ARVO) Annual Meeting, Baltimore, USA, Baltimore in U.S.A, 2017.5.9
11. Motozawa N, Takagi S, Fujihara M: Choroidal morphology and circulation in early retinitis pigmentosa in the young, based on evaluation of enhanced depth imaging optical coherence tomography and optical coherence tomography angiography. The Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO) Annual Meeting, Baltimore, USA, Baltimore in U.S.A, 2017.5.9
12. 宮本紀子: DME 治療のアプローチ. 第 2 回 H3DME 研究会, 神戸, 2017.5.19
13. 栗本康夫: 加齢黄斑変性に対する iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞移植. 第 5 回大田区眼科臨床懇話会, 東京, 2017.5.20
14. 平見恭彦: iPS 細胞を用いた網膜再生医療. JRPS 愛媛 平成 29 年度医療講演会, 松山, 2017.5.21
15. 高木誠二: スタッフィローマのエッジに発生する黄斑合併症. 神戸 AMD 研究会, 神戸, 2017.6.2
16. 藤原雅史: ROCK 阻害薬の使用経験. 兵庫緑内障座談会, 神戸, 2017.6.10
17. Ito SI, Onishi A, Takahashi M: Protective effects of ophthalmic supplements in three-dimensional retinal organoids differentiated from mouse iPS cells. ISSCR 2017 Annual Meeting, Boston, USA, 2017.6.14
18. 許沢尚弘, 宮本紀子: 治療に苦慮した糖尿病黄斑浮腫の治療. Hyogo young macula club, 神戸, 2017.6.16
19. 広瀬文隆: 前眼部画像から読み解くプラトー虹彩. Glaucoma & Retina Summit in Hyogo, 神戸, 2017.6.18
20. 栗本康夫, 広瀬文隆: 原発閉塞隅角症 / 緑内障に対する水晶体再建術. 第 32 回 JSCRS 学術総会, 福岡, 2017.6.24
21. 吉水 聡, 平見恭彦, 太田幸子, 栗本康夫: 回折型多焦点眼内レンズ挿入眼における遠用部と近用部のコントラスト感度. 第 32 回 JSCRS 学術総会, 福岡, 2017.6.24
22. 山本庄吾, 大田幸子, 平見恭彦, 栗本康夫: 各種回折型多焦点眼内レンズ挿入後患者の視覚に関する満足度の推移. 第 32 回 JSCRS 学術総会, 福岡, 2017.6.24
23. 藤原雅史: 当院における EX-PRESS の中長期成績. 第 19 回緑内障手術研究会, 大阪, 2017.7.7

24. 宮本紀子：加齢黄斑変性におけるアフリベルセプト導入による脈絡膜厚の変化．第23回兵庫県黄斑疾患研究会，神戸，2017.7.8
25. 栗本康夫：iPS細胞による感覚器再生医療．第34回日本めまい平衡医学会医師講習会，神戸，2017.7.14
26. 許沢尚弘，西田明弘，高木誠二，平見恭彦，宮本紀子，万代道子，栗本康夫：網膜中心静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫に対するアフリベルセプト硝子体内注射1年成績．第34回日本眼循環学会，大阪，2017.7.22
27. 広瀬文隆：今さら聞けない隅角検査．第17回近畿眼科オープンフォーラム，大阪，2017.8.26
28. 栗本康夫：iPS細胞が切り拓く網膜の再生医療．第33回日本視機能看護学会，宇都宮，2017.8.26
29. 石井香奈子，松崎光博，関文枝，橋本利野，浜谷佳寿，藤森瑞穂，許沢尚弘，西田明弘，栗本康夫，濱田麻美子：眼科造影検査における経皮的動脈血酸素飽和度の検討．第33回日本視機能看護学会，宇都宮，2017.8.26
30. 西田明弘：網膜循環外来報告 網膜静脈閉塞症に対する抗VEGF治療レジメン．第56回神戸市立医療センター中央市民病院眼科臨床懇話会，神戸，2017.9.7
31. 広瀬文隆：緑内障の病態と治療．第16回中央区薬剤師学術講演会，神戸，2017.9.9
32. Miyamoto N, Mandai M, Takagi S, Nishida A, Kurimoto Y : Effect of aflibercept induction therapy on choroidal neovascularization size using optical coherence tomography angiography. 17th EURETINA Congress, Barcelona, Spain, Barcelona, Spain, 2017.9.10
33. 広瀬文隆：閉塞隅角に対する負荷試験は有用か？第19回兵庫県眼科フォーラム，神戸，2017.9.16
34. 栗本康夫：PACS、PAC、PACG病期別の白内障手術の適応．第7回北信AMO白内障研究会，長野，2017.9.16
35. 広瀬文隆：隅角の101．第28回日本緑内障学会，広島，2017.9.29
36. 吉水 聡，広瀬文隆，高木誠二，藤原雅史，栗本康夫：The analysis of iris-trabecular contact index using anterior segment optical coherence tomography in eyes with primary angle closure. 前眼部光干渉断層計を用いた原発閉塞隅角眼の虹彩線維柱帯接触率の解析．第28回日本緑内障学会，広島，2017.9.29
37. 許沢尚弘，藤原雅史，松崎光博，吉水 聡，高木誠二，広瀬文隆，栗本康夫：Long-Term clinical outcomes of Baerveldt Glaucoma Implant Surgery via the Pars Plana after the vitrectomy or the glaucoma surgery. 内眼手術既往眼に対する経毛様体扁平部挿入型バルバルト緑内障インプラント手術の術後中長期成績．第28回日本緑内障学会，広島，2017.9.29
38. 松崎光博，西田明弘，許沢尚弘，石井香菜子，関文枝，浜谷佳寿，橋本利野，藤森瑞穂，濱田麻美子，栗本康夫：眼科造影検査における造影剤の経皮的動脈血酸素飽和度への影響．第71回日本臨床眼科学会，東京，2017.10.12
39. 前田亜希子，吉田晶子，河合加奈子，荒井優気，秋葉龍太郎，高木誠二，藤木亮次，平見恭彦，栗本康夫，小原 収，高橋政代：遺伝性網膜変性に対するパネル解析を用いた遺伝子診断の実施経験．第71回日本臨床眼科学会，東京，2017.10.12
40. 村上智昭，百々蓉子，鈴間 潔，中西秀雄，吉武 信，吉武達哉，藤本雅大，大石真秀，辻川明孝：糖尿病網膜症におけるOCT angiographyによる層別無灌流域とOCT所見との関連．第71回日本臨床眼科学会，東京，2017.10.12
41. 杉田 直，西田明弘，許沢尚弘，寶野阿佑美，高橋政代，栗本康夫，進藤達哉，土井朝子，西岡弘晶：AIDS患者に見られた眼内アデノウイルス陽性の壊死性網膜炎を伴う汎ぶどう膜炎の1例．第71回日本臨床眼科学会，東京，2017.10.13
42. 栗本康夫，酒井 寛，国松志保，山本哲也：原発閉塞隅角緑内障の治療戦略－用語の基本から困った症例の対応まで．第71回日本臨床眼科学会，東京，2017.10.14
43. 栗本康夫：閉塞隅角緑内障（日本眼科学会専門医制度第66回講習会 テーマ2.『最近の進歩シリーズ（40）』緑内障治療の進歩）．第71回日本臨床眼科学会，東京，2017.10.14
44. 吉水 聡，宮本紀子，栗本康夫：裂孔原性網膜剥離と鑑別を要した転移性脈絡膜腫瘍による滲出性網膜剥離の一例．第71回日本臨床眼科学会，東京，2017.10.14
45. 奥村直毅，大家義則，羽藤 晋，平見恭彦，許斐健二：再生医療、創薬の実例を通じて学ぼう！トランスレーショナルリサーチとは．第71回日本臨床眼科学会，東京，2017.10.14
46. 栗本康夫：閉塞隅角緑内障．日本眼科学会第66回講習会，東京，2017.10.14
47. 吉武 信，石田和寛，宮本紀子，山本庄吾，吉水 聡，松崎光博，許沢尚弘，栗本康夫：糖尿病黄斑浮腫における網膜厚とアフリベルセプト硝子体注射の投与回数．第68回京大眼科同窓会学会（平成29年度），京都，2017.10.22

48. 吉武 信, 石田和寛, 宮本紀子, 山本庄吾, 吉水 聡, 栗本康夫: 糖尿病黄斑浮腫における網膜厚とアフリベルセプト硝子体注射の投与回数との関係. 第23回日本糖尿病眼学会総会/第32回日本糖尿病合併症学会, 東京, 2017.10.27
49. 宮本紀子, 楠原仙太郎, 岩見久司, 山本庄吾, 吉水 聡, 吉武 信, 石田和寛, 廣田勇士, 本田 茂, 中村 誠, 池田誠宏, 五味 文, 栗本康夫: 糖尿病性黄斑浮腫に対するアフリベルセプト治療に影響する因子についての検討. 第23回日本糖尿病眼学会総会/第32回日本糖尿病合併症学会, 東京, 2017.10.28
50. 西田明弘: 神戸アイセンター病院との連携について. 神戸市立医療センター中央市民病院地域連携懇話会, 神戸, 2017.11.9
51. 栗本康夫: iPS細胞を用いた網膜の再生医療. 第55回日本神経眼科学会, 横浜, 2017.11.10
52. 松崎光博, 仲泊 聡, 上田 潤, 許沢尚弘, 宇山紘史, 平見恭彦, 広瀬文隆, 下園正剛, 川本未知, 幸原信夫, 栗本康夫: 動脈炎性虚血性視神経症様の臨床像を呈し悪性新生物が併存した視神経脊髄炎関連疾患の1例. 第55回日本神経眼科学会, 横浜, 2017.11.10
53. Miyamoto N, Mandai M, Oishi A, Nakai S, Honda S, Hirashima T, Oh H, Matsumoto Y, Kurimoto Y: Long-term results of photodynamic therapy or ranibizumab for polypoidal choroidal vasculopathy in LAPTOP study. American Academy of Ophthalmology(AAO), New Orleans, USA, New Orleans in USA, 2017.11.13
54. 吉田晶子, 前田亜希子, 河合加奈子, 荒井優気, 稲葉 慧, 秋葉龍太郎, 高木誠二, 藤木亮次, 平見恭彦, 栗本康夫, 小原 収, 高橋政代: Clinical Genetic Analyses of Inherited Retinal Degenerative Diseases. 日本人類遺伝学会 第62回大会, 神戸, 2017.11.16
55. 宮本紀子, 万代道子, 高木誠二, 平見恭彦, 西田明弘, 栗本康夫: 加齢黄斑変性におけるアフリベルセプト導入療法に対する脈絡膜厚の影響. 第56回日本網膜硝子体学会, 東京, 2017.12.2
56. 栗本康夫: iPS細胞を用いた網膜色素上皮移植. 第56回日本網膜硝子体学会, 東京, 2017.12.2
57. 秋葉隆太郎, 前田亜希子, 吉田晶子, 河合加奈子, 高木誠二, 平見恭彦, 栗本康夫, 山本修一, 高橋政代: 異なる表現度を呈したクリスタリン網膜症の姉妹例. 第56回日本網膜硝子体学会, 東京, 2017.12.3
58. 栗本康夫: 再生医療における法令と規制. 第41回日本眼科手術学会, 京都, 2018.1.28
59. Kurimoto Y: Transplantation of induced pluripotent stem cell-derived retinal pigment epithelium cells for age related macular degeneration. Retinal transplantation and artificial vision meeting, Kiroro, Hokkaido, 2018.2.5
60. Kurimoto Y: Transplantation of induced pluripotent stem cell-derived retinal pigment epithelium cells for age-related macular degeneration. The 33rd Asia-Pacific Academy of Ophthalmology (APAO) Congress / The 29th Hong Kong Ophthalmological Symposium, Hong Kong, 2018.2.8
61. Yamamoto S, Hirose F, Fujihara M, Kurimoto Y: Ten-year outcomes of cataract surgery for primary angle closure. The 33rd Asia-Pacific Academy of Ophthalmology (APAO) Congress / The 29th Hong Kong Ophthalmological Symposium, Hong Kong, 2018.2.8
62. Sakai D, Fujihara M, Hiramami Y, Kurimoto Y, Takagi S: Correlation between distortion of outer nuclear layer and metamorphopsia before and after epiretinal membrane surgery. The 33rd Asia-Pacific Academy of Ophthalmology (APAO) Congress / The 29th Hong Kong Ophthalmological Symposium, Hong Kong, 2018.2.8
63. Kurimoto Y: Organizer's Opening remark, "Regenerative Medicine in Ophthalmology Using Stem Cells". The 33rd Asia-Pacific Academy of Ophthalmology (APAO) Congress / The 29th Hong Kong Ophthalmological Symposium, Hong Kong, 2018.2.9
64. Kurimoto Y: Surgical treatment for primary angle-closure disease. The 33rd Asia-Pacific Academy of Ophthalmology (APAO) Congress / The 29th Hong Kong Ophthalmological Symposium, Hong Kong, 2018.2.10
65. 伊藤晋一郎, 中村隆宏, 平見恭彦, 藤原雅史, 高木誠二, 外園千恵, 栗本康夫: 虹彩欠損を伴う水疱性角膜症. 角膜カンファレンス2018, 広島, 2018.2.15
66. 西田明弘: 網膜静脈閉塞症の悩ましい黄斑浮腫. 第24回兵庫県黄斑疾患研究会, 神戸, 2018.2.17
67. 高木誠二, 万代道子, 平見恭彦, 山本 翠, 後藤 聡, 藤原雅史, 杉田 直, 富田剛司, 高橋政代, 栗本康夫: 滲出型加齢黄斑変性に対する自家iPS細胞由来網膜色素上皮シート移植後における脈絡膜厚の変化. 第37回神戸市立医療センター中央市民病院・神戸アイセンター病院眼科オープンカンファレンス, 神戸, 2018.3.10

※中央市民病院発表分を含む

編集後記

平成30年は大阪北部を震源とする地震と、2つの台風により、神戸地区でもかなりの被害がでた災い多き年でした。そのような中でも、神戸市民病院機構に所属する4病院、すなわち神戸市立医療センター中央市民病院、神戸市立医療センター西市民病院、神戸市立西神戸医療センター、神戸市立神戸アイセンター病院では、神戸市民の命と健康を守るため地道な努力とともに、医療水準の着実な向上を目指した多くの取り組みが行われました。本誌には、神戸市民病院機構に所属する数多くの医療スタッフの努力と取り組みが、学会報告や論文発表としてまとめられています。また、主に若手医師による数多くの臨床研究の経過報告も含まれており、今後の学会発表や論文作成に期待がもたれます。

しかしながら、今回の紀要の白眉は、神戸市立神戸アイセンターの栗本康夫病院長による「網膜の再生医療」と名付けられた総説であることは異論がないところです。世界初のiPS細胞を用いた網膜色素上皮細胞の再生医療が、神戸市民病院機構において行われたこと、その結果が2017年3月にNew England Journal of Medicineにおいて報告され、世界的に注目を浴びたことは記憶に新しいことです。本総説においては、その患者さんの現在までの経過とともに、iPS細胞を用いた網膜細胞の再生医療に向けた道筋も示されており、市民病院機構のすべての医療スタッフにぜひとも通読をお勧めする

ものとなっております。またこのような高い水準の総説が病院紀要のために書き下ろされたことは私どもの誇りであります。そのほかに原著論文として、神戸市立西市民病院小児科の江口純治先生より「受診後早期に診断に至った発作性運動誘発性ジスキネジアの1例」という症例報告をいただきました。ゲノム医療、免疫治療が花盛りの現在においても、患者さんの命と健康を守るうえで、幅広い知識を持つことと、注意深い観察眼を養うことの重要性を改めて思い知らせる貴重な報告です。

今回の紀要も医療スタッフの努力とともに、神戸市民病院機構法人本部の多くの事務担当の方々のご尽力によって完成しました、心より感謝申し上げます。最後に、本紀要は神戸市民病院機構のアクティビティーそのものです。病院外部の方々からの評価にも用いられるばかりでなく、機構内で働く医療者の道しるべとして有効に活用されることを心から願います。

神戸市立医療センター中央市民病院 血液内科

石川 隆之

神戸市立病院紀要投稿規程

1. 神戸市立病院紀要は、地方独立行政法人神戸市民病院機構及び先端医療センターに勤務する医療従事者の研究論文を掲載し、学会報告、その他の学術活動（前年度における業績）を広く記録し、年1回の発刊とする。
2. 投稿者は、地方独立行政法人神戸市民病院機構、及び先端医療センターに勤務する医療従事者に限る（共著はさしつかえない）。編集委員会で依頼した原稿は、この限りでない。
3. 投稿論文の内容は、他誌に未発表であり、現在投稿中ではないこと。
4. 原稿の採否は、編集委員会が決定する。また、原稿の体裁、長さ、文体などについて著者に変更を求めることがある。
なお、掲載済みの原稿は返却しない。
5. 原稿の種類および原稿枚数
 - (1) 論文（総説）…………… 字数制限なし
（原著）…………… 16000字以内
（症例報告）…………… 8000字以内
（医療研究報告）…………… 16000字以内
 - (2) 医学振興事業等研究費補助による業績報告…………… 16000字以内
 - (3) 学会報告・論文発表（業績リスト）…………… 診療科ごとに提出
 - (4) CPC報告…………… 1症例2600字以内
（所定の様式を使用）
6. 執筆要領は、次による。
 - A. 論文（総説、原著、症例報告、医療研究報告）
 - (1) 執筆様式は次の通りとする。
※総説・原著・症例報告は下記①から⑥の順での執筆とする。
医療研究報告は①②⑤⑥の順（③の英文表題、④の英文Abstractは不要）での執筆とする。

①	論文表題（和文） 執筆者所属・氏名（和文）
②	要 旨（400字以内）（和文） キーワード（5コ以内）
③	論文表題（英文）文頭のみ大文字の表記とする。 執筆者所属・氏名（英文） ※英文氏名は、名を先、姓を後（フルネーム）とする。
④	Abstract（200語以内）（英文） Key words（5コ以内）（小文字）（英文）
⑤	本 論 はじめに（見出し番号は付けない） …………… 大見出し番号ⅠⅡⅢ～を用いる。 …………… 中 “ 1 2 3～ ” …………… 小 “ (1)(2)(3)～ ” おわりに（必ずしも必要ない。見出し番号は付けない）
⑥	文 献

- (2) 原稿は、A4判用紙に34字×25行で、上下左右に約3cmの余白をとり、12ポイント以上で印字すること。数字は半角文字を用いること。
英文原稿も用紙はA4判を用い、上下左右に約3cmの余白をとること。字の大きさは12ポイントを原則として、ふさわしいピッチで、行間はダブルスペースとすること。
また、本文についてはプリントアウトしたものと同一原稿のデータを提出すること。データの形式は、本文はWordとする。
原稿中所定の用紙のほか、タイプ用紙、方眼紙、図表は、すべてA4判を使用し、写真は、手札型のものをA4判用紙に添付する。
- (3) 英文抄録は、表題、著者名、所属及び本文で構成する。本文の行間はダブルスペースとする。
- (4) 表現法については、下記の点に留意する。
 - 1) 本文の中で文献を引用する際には、引用番号は本文の引用順とし、「三輪ら¹⁻³⁾」のように右肩に番号をふる。
 - 2) 略語はできるだけ使わない。止むを得ず使う時は、初出時に正式名を記した後に（ ）内に記入する。
- (5) 図、表については、下記の点に留意する。
 - 1) 図は説明文を別紙に書くこととする。
 - 2) 図、表は説明も含め、英語とするのが望ましい。ただし、図、表が日本語の場合は説明も日本語とする。

- 3) 挿入箇所を本文の欄外に指定する。
- 4) 写真は白黒を原則とする。カラー写真は、編集委員会の承認したものに限る。提出方法は、Excel、Word等のデータも提出すること。
- 5) 電子顕微鏡写真にはスケールを入れる。
- (6) 専門用語以外は、当用漢字、新かなづかいを用い、横書とする。
- (7) 文献の記載方法は次の書式による。（Index Medicus、医学中央雑誌に従う）
 - 1) 雑誌の場合
著者名：表題. 雑誌名 巻: 初頁-終頁, 発行年
 - 2) 単行本の場合
著者名：書名, 版数, 発行社名, 発行地名, 発行年
 - 3) 分担執筆による単行本の中の分担部分の引用の場合
著者名: 分担執筆部分の表題. 書名, 編集者名, 版数, 発行社名, 発行地名, 初頁-終頁, 発行年
 - 4) 雑誌名は、その雑誌指定の略名がある場合はそれを用い、ない場合はIndex Medicusあるいは「日本医学図書館協会編、日本医学雑誌名表」にあるものを用いること。
 - 5) 発行年は西暦を用いること。
 - 6) ページは通巻ページを用いること。
 - 7) 著者名は、3名までは全員を記載する。4名以上の場合は最初の3名を記載し、「他」あるいは外国語文献の場合は「et al」を付する。
 - 8) 実例
 - 1) Beltramin AU, Hertzig ME : Sleep and bed-time behavior in preschool-aged children. Pediatrics 71 : 153-158, 1983
 - 2) 鈴木義之：細胞生物学からみた遺伝性酵素欠損症の病態. 日児誌 88 : 405-408, 1984
 - 3) Cohen MM : The child with multiple birth defects. Raven press, New York, 1982
 - 4) 松永 英：日本における遺伝性疾患の頻度. 遺伝相談, 日暮 眞 編, 小児科 Mook32, 金原出版, 東京, 1-11, 1984
 - 5) Dorken B, Moller P, Pezzuto A, et al : CDw75. Lymphocyte typing IV:white cell differentiation antigens.In: Knapp W, Dorken B, Gilks WR, et al.eds, Oxford University Press, New York, 109-110, 1989
- (8) 執筆者は、原稿を各施設の庶務（総務）係へ提出すること。
- B. 医学振興事業等研究費補助による業績報告
 - (1) 執筆要領は、論文（6. A参照）の執筆要領に準ずる。
 - (2) 別冊は作成しない。
- C. 学会報告・論文発表（業績リスト）
 - (1) 以下の必要記入事項があれば提出様式は自由であるが、Word形式で提出すること。診療科ごとに提出する。
＜論文発表＞
 - ①雑誌の場合
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：表題. 雑誌名巻：初頁-終頁, 発行年
 - ②単行本（分担執筆）の場合
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：分担執筆部分の表題. 書名, 編集者名, 版数, 発行社名, 発行地名, 初頁-終頁, 発行年
 - ③単行本（単独での執筆）の場合
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：書名, 版数, 発行社名, 発行地名, 発行年
 - ＜学会報告＞
発表者全員（筆頭演者から順番に記載）：表題. 学会名, 開催場所, 発表年月日（※西暦で日にちまで記載）
 - (2) 学会報告等で発表した学会での研究発表、症例報告、講演などは漏れなく投稿する。
- D. CPC報告
 - (1) 必ず所定の様式を使用する。
（所定の様式は各施設の総務係へ請求する）
 - (2) 図表を含めて2600字以内、原本とデータを提出する。
- E. その他
 - (1) 初校は、著者校正とする。
 - (2) 別冊は、20部まで無料とする。これを超える場合とカラー図版の実費は原則として著者が負担するものとする。

神戸市立病院紀要編集委員

中央市民病院 副 院 長 内 藤 泰 (委員長)

院 長 補 佐 石 川 隆 之

第 2 診 療 部 長 川喜田 睦 司

循 環 器 内 科 部 長 古 川 裕

西市民病院 院 長 代 行 中 村 一 郎

院 長 補 佐 富 岡 洋 海

西神戸医療センター 小 児 科 部 長 松 原 康 策

呼 吸 器 外 科 部 長 大 政 貢

神戸アイセンター病院 診 療 部 医 長 宮 本 紀 子

神戸医療産業都市推進機構 細胞療法研究開発センター
副 セ ン タ ー 長 橋 本 尚 子

(平成 30 年 12 月現在)

神戸市立病院紀要 第57巻

平成31年3月20日発行

編 集 神戸市立病院紀要編集委員会

発 行 神戸市中央区港島南町2丁目2番地
中央市民病院南館3階

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

印 刷 地方独立行政法人 神戸市民病院機構

印刷所 イワサキ出版印刷有限公司

